前橋市 0107 遺跡

（一）南新井前橋線２期工区道路改築事業（地方道・連携）に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2021

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市 0107 遺跡

（一）南新井前橋線２期工区道路改築事業（地方道・連携）に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2021

群　馬　県　前　橋　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市0107遺跡２区と榛名山（東から）

前橋市0107遺跡１区中央（北西から）

序

一般県道南新井前橋線は、北群馬郡榛東村大字新井の陸上自衛隊相馬原駐屯地前から利根川を上毛大橋で渡り、前橋市川端町の上武道路との交差点に至る道路です。この道路建設に伴う発掘調査が群馬県前橋市池端町の前橋市0107遺跡において、平成28年度と平成30年度に行われました。本書はその調査報告となります。

発掘調査では、古墳時代後期から平安時代中頃までの竪穴建物51棟の他に、土坑、井戸、溝などが発見されました。竪穴建物は、東西の調査区で時期の異なる分布が見られました。溝は水路としての機能が確認できるものや、区画溝としての性格が推定できるものを検出しました。これらの調査結果は、この地域で営まれていた人々の生活を考える上で貴重な資料となりました。

今回の報告書刊行に至るまでには群馬県前橋土木事務所、群馬県教育委員会、群馬県地域創生部、前橋市教育委員会をはじめ、関係する機関や地元関係者の皆様には、多大なご指導とご協力を賜りました。本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げると共に、本書が地域における歴史の解明に広く役立てられますことを願いまして、序といたします。

令和３年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　向　田　忠　正

例　　言

1．本書は、(一)南新井前橋線２期工区道路改築事業(地方道・連携)に伴う前橋市0107遺跡の発掘調査報告書である。

2．所在地　群馬県前橋市池端町234－１、234－２、237－１、238－１、239－１、239－２、239－３、241－１、241－３、411－１、412、415－１、416－１、416－３、515－１

3．事業主体　群馬県前橋土木事務所

4．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．調査期間及び調査体制

（１）平成28年度

履行期間　平成29年１月１日～平成29年３月31日

調査期間　平成29年１月１日～平成29年３月31日

調査担当　宮下　寛(主任調査研究員)　小林茂夫(主任調査研究員)

笹澤泰史(主任調査研究員)　武井　学(調査研究員)

遺跡掘削請負工事　株式会社　飯塚組

委　　託　遺構測量・デジタル編集業務　技研コンサル株式会社

空中写真撮影　技研コンサル株式会社

（２）平成30年度

履行期間　平成30年11月１日～平成31年２月28日

調査期間　平成30年12月１日～平成30年12月31日

調査担当　黒田　晃(主任調査研究員)　麻生敏隆(専門調査役)

遺跡掘削請負工事　株式会社　シン技術コンサル

委　　託　遺構測量・デジタル編集業務　技研コンサル株式会社

6．整理事業の期間及び体制は以下のとおりである。

履行期間　令和２年３月31日～令和３年３月31日

整理期間　令和２年４月１日～令和３年３月31日

整理担当　山中　豊(主任調査研究員)

編集・遺物写真撮影　山中　豊(主任調査研究員)　矢口裕之(資料１課長(総括))

松村和男(上席調査研究員)　板垣泰之(専門員)

デジタル編集　斎田智彦(主任調査研究員・資料統括)

遺物実測・観察表　縄文土器：関口博幸(主任調査研究員)　橋本　淳(主任調査研究員・資料統括)

土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)　陶磁器：矢口裕之(資料１課長(総括))

石器・石製品：松村和男(上席調査研究員)　金属製品：板垣泰之(専門員)

保存処理　板垣泰之(専門員)　関　邦一(専門調査役)

7．記録資料及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

8．専門的な自然科学分析や考察については、専門機関に依頼・委託した。

赤色顔料分析　志賀智史(九州国立博物館)　人骨の人類学的調査　奈良貴史・佐伯史子(新潟医療福祉大学)

獣骨の形態学的調査　澤田純明・佐伯史子(新潟医療福祉大学)

凡　　例

1．本書で使用した座標値は、国家座標(世界測地系2000平面直角座標Ⅸ系)を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標軸Ｘ・Ｙ値の下３桁のみを用いて表記した。

2．遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北であり、真北方向は、+０°29′26.16″（東偏)である。

3．遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示し、遺物実測図と遺物写真は原則として同縮率とした。

4．遺構平面図や遺構断面図に表示した数値は標高であり、単位はメートルである。

5．遺構の主軸方向や走行は、竈のある竪穴建物の場合は、竈のある方向として北から東西180°以内を、それ以外の遺構の場合は、長軸方向で北から東西90°以内とした。表記は北を基準とし、東に傾く場合はN―○°―Ｅ、西に傾く場合はN―○°―Wとした。

6．遺構の面積は下端を計測し、計測はプラニメーターで３回行い、その平均値を採用した。

7．遺構の計測値は、縮尺１/10又は１/20の図面を用いて計測し、単位はそれぞれに付記した。全容が計測できない場合は残存値(　)で表記した。

8．本書で使用したスクリーントーン及びマークは以下のとおりである。

遺構図　焼土　灰　硬化面　撹乱

遺物図　灰釉　緑釉　黒色　ベンガラ　煤

粘土　厚く付着した粘土　炭化物　強い磨り面

土器 ●　石器 ▲　鉄器 ■

9．遺構土層注記及び土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に準拠している。

10. テフラについては以下の略称を用いた。

As-B：浅間Ｂテフラ　　天仁元年(1108年)浅間山噴火起源

As-C：浅間Ｃ軽石　　３世紀末～４世紀初頭浅間山噴火起源

As-YP：浅間板鼻黄色軽石　　１万５千年前浅間山噴火起源

11. 本書で使用した地図は以下のものを使用した。

第１図　国土地理院　５万分の１地形図「前橋」(平成10年３月１日)、「榛名山」(平成10年３月１日)を元に編集

第３図　国土地理院　２万５千分の１電子地形図「渋川」(平成30年８月７日)、「前橋」(平成30年８月７日)、「伊香保」(平成30年８月７日)、「下室田」(平成30年８月７日)を元に編集

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図・表・図版・写真図版目次

第１章　調査の経過と事業の経過 ・・・・・・・・・・・ 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・ 1
　第２節　調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・ 2
　第３節　整理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２章　遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第３節　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第３章　調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　第１節　成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　第２節　１区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・ 14
　　１．竪穴建物・竪穴状遺構 ・・・・・・・・・・・ 14
　　２．土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
　　３．ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
　　４．墓壙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
　　５．井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
　　６．溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
　　７．遺構外の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
　第３節　２区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・ 75
　　１．竪穴建物・竪穴状遺構 ・・・・・・・・・・・ 75
　　２．掘立柱建物・柵 ・・・・・・・・・・・・・・・174
　　３．土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
　　４．ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
　　５．井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
　　６．溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
　　７．畠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
　　８．集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
　　９．遺物集中 ・・・・・・・・・・・・・・・・・216
　　10．遺構外の遺物・・・・・・・・・・・・・・・・219
　第４節　旧石器時代の確認調査 ・・・・・・・・・・・222
第４章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・223
　第１節　分析の目的と成果・・・・・・・・・・・・・223
　第２節　赤色顔料分析 ・・・・・・・・・・・・・・・225
　第３節　人骨の人類学的調査 ・・・・・・・・・・・229
　第４節　獣骨の形態学的調査 ・・・・・・・・・・・232
第５章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・235
　第１節　竪穴建物の概要 ・・・・・・・・・・・・・235
　第２節　集落の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・235

遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・239

抄録

写真図版

付図

挿図目次

第１図　遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　調査区位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第４図　調査区の基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第５図　１区基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第６図　２区西・２区東基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第７図　２区基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第８図　１号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第９図　３号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第10図　３号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第11図　３号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第12図　４号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第13図　４号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第14図　５号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第15図　６号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第16図　６号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第17図　６号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第18図　８号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第19図　23号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第20図　24号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第21図　30号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第22図　31号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第23図　32号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第24図　32号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第25図　32号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第26図　33号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第27図　38号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第28図　40号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第29図　40号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第30図　45号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第31図　58号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第32図　１～３号竪穴状遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第33図　１・３～11号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第34図　12～15・17～19・25・35号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第35図　32・33・36号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第36図　37・39・45・50～52・55～57号土坑・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第37図　65・66号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第38図　58・76・77・89号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第39図　１区ピット群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第40図　１号墓壙（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第41図　１号墓壙（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第42図　２～４号墓壙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第43図　１号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第44図　２～４号井戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第45図　２・16・19・27・51号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第46図　２号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第47図　16・27号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第48図　19号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第49図　51号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第50図　１・４号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第51図　３・８・９・20・23～26号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第52図　21・22・28号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第53図　21・22号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第54図　53号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第55図　１区遺構外出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第56図　１区遺構外出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第57図　７号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第58図　９号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第59図　９号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第60図　９号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第61図　９号竪穴建物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第62図　９号竪穴建物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第63図　10号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第64図　10号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第65図　10号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第66図　11号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第67図　11号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第68図　12号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第69図　12号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第70図　12号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第71図　13号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
第72図　13号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
第73図　14号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第74図　14号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第75図　15号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第76図　15号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
第77図　16号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
第78図　16号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
第79図　16号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
第80図　17号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
第81図　17号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
第82図　17号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
第83図　18号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第84図　18号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第85図　18号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第86図　20号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第87図　20号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第88図　21号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第89図　21号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第90図　21号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第91図　22号竪穴建物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
第92図　26号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
第93図　26号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第94図　26号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
第95図　27号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第96図　27号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第97図　28号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第98図　28号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
第99図　34号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
第100図　34号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第101図　35号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第102図　35号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第103図　35号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
第104図　35号竪穴建物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
第105図　36号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
第106図　36号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
第107図　44号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
第108図　44号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
第109図　37号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
第110図　37号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
第111図　37号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
第112図　46号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
第113図　46号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
第114図　46号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
第115図　47号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第116図　47号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
第117図　47号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
第118図　48号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第119図　48号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
第120図　48号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
第121図　48号竪穴建物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第122図　48号竪穴建物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
第123図　49号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
第124図　49号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
第125図　49号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
第126図　50号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150

第127図　50号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
第128図　50号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
第129図　51号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
第130図　51号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・154
第131図　51号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
第132図　51号竪穴建物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
第133図　51号竪穴建物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
第134図　51号竪穴建物（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
第135図　52号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第136図　52号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
第137図　53号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
第138図　53号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
第139図　53号竪穴建物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
第140図　53号竪穴建物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
第141図　54号竪穴建物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・165
第142図　55号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
第143図　55号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167
第144図　56号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
第145図　56号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・169
第146図　57号竪穴建物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
第147図　59号竪穴建物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171
第148図　59号竪穴建物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172
第149図　４号竪穴状遺構　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第150図　１号掘立柱建物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
第151図　１・２号柵・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・176
第152図　16・20～24・26号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・178
第153図　27～31号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
第154図　34・38・40～44号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・181
第155図　46～48・53・54・59・63・64・67・68号土坑　・・・・・・・183
第156図　62号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・184
第157図　69～75・78・79号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・186
第158図　80～88・90・92号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188
第159図　91・93～95・97～100号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・190
第160図　102号土坑　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191
第161図　103～107・110号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
第162図　２区ピット群（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第163図　２区ピット群（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第164図　５号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
第165図　６・７号井戸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
第166図　８・９号井戸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
第167図　10・11号井戸　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
第168図　５～７号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
第169図　10・11・18号溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204
第170図　10・11号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205
第171図　12・17・32～38号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・207
第172図　13・14号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第173図　15・29～31・40号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
第174図　42・47～50・52・54号溝　・・・・・・・・・・・・・・・・・・213
第175図　１号畠　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第176図　１号集石　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
第177図　２号集石　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
第178図　遺物集中（１）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第179図　遺物集中（２）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・218
第180図　遺物集中（３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・219
第181図　２区遺構外出土遺物（１）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
第182図　２区遺構外出土遺物（２）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
第183図　２区遺構外出土遺物（３）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
第184図　旧石器時代遺構・遺物確認トレンチ設定図　・・・・・・・・・222
第185図　27号溝出土獣骨（ウマ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
第186図　蛍光Ｘ線スペクトル図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
第187図　Ｘ線回析図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
第188図　資料１の断面が細長い無色透明粒子のＳＥＭ－ＥＤＳ（左）と
　　マランスペクトル図（右）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
第189図　時期別竪穴建物分布図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
第190図　時期別竪穴建物分布図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・237
第191図　時期別竪穴建物分布図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・238

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第２表　１区ピット一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第３表　２区ピット一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第４表　前橋市0107遺跡出土の赤色顔料分析結果一覧・・・・・・・・・228
第５表　歯冠計測値（㎜）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第６表　前橋市0107遺跡出土ウマの歯冠計測値（㎜）・・・・・・・・・233
第７表　日本在来馬の歯冠計測値（㎜）　・・・・・・・・・・・・・・・・233
第８表　遺物観察表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・239

図版目次

図版１　赤色顔料の顕微鏡写真　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
図版２　１：１号人骨頭骨、２：１号人骨大腿骨片、３：３号人骨頭骨、
　　４：３号人骨右大腿骨骨幹部　・・・・・・・・・・・・・・・・・231
図版３　27号溝出土獣骨（ウマ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234

写真図版目次

ＰＬ．１　１　１区調査区東側全景（上が北）
　　２　１区調査区西側全景（上が北）
ＰＬ．２　１　１号竪穴建物調査状況（西から）
　　２　３号竪穴建物全景（西から）
　　３　３号竪穴建物遺物出土状況（西から）
　　４　３号竪穴建物竈（西から）
　　５　４号竪穴建物全景（西から）
　　６　４号竪穴建物掘方全景（西から）
　　７　４号竪穴建物竈（西から）
　　８　５号竪穴建物全景（西から）
ＰＬ．３　１　５号竪穴建物竈土層断面（北西から）
　　２　６号竪穴建物全景（西から）
　　３　６号竪穴建物遺物出土状況（北西から）
　　４　８号竪穴建物全景（北西から）
　　５　８号竪穴建物竈（北西から）
　　６　23号竪穴建物遺物出土状況（西から）
　　７　23号竪穴建物土層断面（西から）
　　８　24号竪穴建物土層断面（東から）

ＰＬ．４　１　30号竪穴建物土層断面(南から)
２　30号竪穴建物竈掘方土層断面(南から)
３　31号竪穴建物掘方全景(西から)
４　32号竪穴建物全景(西から)
５　32号竪穴建物掘方全景(北西から)
６　32号竪穴建物竈(北西から)
７　32号竪穴建物Ｐ２土層断面(北から)
８　33号竪穴建物全景(西から)
ＰＬ．５　１　38号竪穴建物全景(西から)
２　38号竪穴建物掘方全景(西から)
３　40号竪穴建物検出状況(西から)
４　45号竪穴建物床面検出状況(西から)
５　45号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)
６　58号竪穴建物掘方全景(西から)
７　２号竪穴状遺構土層断面(西から)
８　３号竪穴状遺構土層断面(西から)
ＰＬ．６　１　１号土坑(東から)
２　３号土坑土層断面(北から)
３　４号土坑(東から)
４　５号土坑(北から)
５　６号土坑(北から)
６　７号土坑(北から)
７　７号土坑土層断面(北から)
８　８号土坑(北から)
９　８号土坑土層断面(北から)
10　９号土坑(西から)
11　９号土坑土層断面(北から)
12　10号土坑(西から)
13　10号土坑土層断面(北から)
14　11号土坑(南から)
15　12号土坑(南東から)
ＰＬ．７　１　13号土坑(北から)
２　13号土坑土層断面(北から)
３　14号土坑(北西から)
４　15号土坑(北から)
５　15号土坑土層断面(北から)
６　17号土坑(北から)
７　18号土坑(北から)
８　18号土坑土層断面(北から)
９　19号土坑出土遺物(南から)
10　25号土坑(北から)
11　32号土坑(北から)
12　33号土坑土層断面(北から)
13　33号土坑(北西から)
14　36号土坑土層断面(北から)
15　37号土坑土層断面(北から)
ＰＬ．８　１　39号土坑土層断面(南から)
２　50号土坑(東から)
３　51号土坑土層断面(北から)
４　52号土坑土層断面(北から)
５　55・56号土坑土層断面(東から)
６　57号土坑(西から)
７　57号土坑土層断面(東から)
８　58号土坑(南から)
９　58号土坑土層断面(東から)
10　65号土坑土層断面(東から)
11　66号土坑、29号ピット(南東から)
12　66号土坑土層断面(東から)
13　77号土坑(北東から)
14　77号土坑土層断面(北から)
15　89号土坑(西から)
ＰＬ．９　１　１号墓壙人骨出土状況(南から)
２　２号墓壙人骨出土状況(南から)
３　３号墓壙人骨出土状況(南から)
４　４号墓壙人骨出土状況(南から)
５　１号井戸(北から)
６　２号井戸(北から)
７　３号井戸土層断面(北から)
８　４号井戸(北東から)
ＰＬ．10　１　１号溝(南から)
２　２号溝(東から)
３　２号溝遺物出土状況(南から)
４　２・16号溝(西から)
５　３・８号溝(南から)
６　４号溝土層断面(東から)
７　８号溝遺物出土状況(南から)
ＰＬ．11　１　９号溝土層断面(南から)
２　16号溝(東から)
３　16号溝(西から)
４　16号溝土層断面(東から)
５　19号溝(東から)
６　19・53号溝(西から)
７　20号溝土層断面(北から)
ＰＬ．12　１　21号溝(南から)
２　22号溝(南から)
３　22号溝土層断面(南から)
４　23号溝土層断面(南から)
５　24号溝土層断面(南から)
６　25号溝土層断面(北から)
７　26号溝土層断面(東から)
８　27号溝土層断面(東から)
ＰＬ．13　１　27号溝(西から)
２　27号溝馬骨右顎出土状況(東から)
３　27号溝馬骨左顎出土状況(東から)
４　28・26号溝(西から)
５　51号溝土層断面(東から)
６　53号溝土層断面(南から)
７　53号溝土層断面(西から)
ＰＬ．14　１　２区調査区全景(上が北)
２　２区西調査区全景(東から)
３　２区東調査区東側全景(西から)
４　２区東調査区西側表土下確認状況(南から)
５　２区東調査区西側遺構検出状況(西から)
ＰＬ．15　１　７号竪穴建物全景(東から)
２　７号竪穴建物掘方全景(東から)
３　７号竪穴建物竈(東から)
４　７号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)
５　９号竪穴建物全景(西から)
６　９号竪穴建物２面全景(南西から)
７　９号竪穴建物焼土確認状況(西から)
８　９号竪穴建物竈(南西から)
ＰＬ．16　１　９号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)
２　９号竪穴建物南壁付近土層断面(南西から)
３　10号竪穴建物全景(西から)
４　10号竪穴建物掘方土層断面(北西から)
５　10号竪穴建物竈(西から)
６　10号竪穴建物竈掘方土層断面(南から)
７　10号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(西から)
８　11号竪穴建物全景(西から)
ＰＬ．17　１　11号竪穴建物掘方全景(西から)
２　11号竪穴建物竈(西から)
３　12号竪穴建物全景(西から)
４　12号竪穴建物掘方全景(西から)
５　12号竪穴建物竈(西から)
６　12号竪穴建物貯蔵穴(西から)
７　13号竪穴建物全景(西から)
８　13号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．18　１　13号竪穴建物竈(西から)
２　13号竪穴建物貯蔵穴(西から)
３　14号竪穴建物全景(西から)
４　14号竪穴建物掘方全景(西から)
５　14号竪穴建物遺物出土状況(西から)

6　14号竪穴建物竈(西から)
7　15号竪穴建物全景(西から)
8　15号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．19　1　15号竪穴建物遺物出土状況(西から)
2　15号竪穴建物竈全景(西から)
3　16号竪穴建物全景(西から)
4　16号竪穴建物掘方全景(西から)
5　16号竪穴建物竈(西から)
6　16号竪穴建物貯蔵穴(北から)
7　17号竪穴建物全景(西から)
8　17号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．20　1　17号竪穴建物遺物出土状況(西から)
2　17号竪穴建物遺物出土状況(東から)
3　17号竪穴建物竈(西から)
4　18号竪穴建物全景(西から)
5　18号竪穴建物掘方全景(西から)
6　18号竪穴建物遺物出土状況(西から)
7　18号竪穴建物竈(西から)
8　18号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)
ＰＬ．21　1　20号竪穴建物全景(西から)
2　20号竪穴建物掘方全景(西から)
3　20号竪穴建物遺物出土状況(西から)
4　20号竪穴建物遺物出土状況(西から)
5　20号竪穴建物竈(西から)
6　20号竪穴建物貯蔵穴土層断面(西から)
7　21号竪穴建物全景(西から)
8　21号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．22　1　21号竪穴建物土層断面(北から)
2　21号竪穴建物竈(西から)
3　22号竪穴建物全景(西から)
4　22号竪穴建物土層断面(北から)
5　22号竪穴建物杯内赤色顔料出土状況(北西から)
6　22号竪穴建物出土杯内赤色顔料(北西から)
7　26号竪穴建物全景(西から)
8　26号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．23　1　26号竪穴建物竈(西から)
2　27号竪穴建物全景(南西から)
3　27号竪穴建物掘方全景(南西から)
4　27号竪穴建物礫出土状況(南西から)
5　27号竪穴建物竈(南西から)
6　28号竪穴建物全景(西から)
7　28号竪穴建物竈(西から)
8　34号竪穴建物全景(西から)
ＰＬ．24　1　34号竪穴建物掘方全景(西から)
2　34号竪穴建物遺物出土状況(西から)
3　34号竪穴建物出土遺物(西から)
4　34号竪穴建物竈(西から)
5　35号竪穴建物全景(南西から)
6　35号竪穴建物掘方全景(南西から)
7　35号竪穴建物竈(南西から)
8　35号竪穴建物貯蔵穴(南西から)
ＰＬ．25　1　35号竪穴建物Ｐ２・６・10（北東から）
2　36号竪穴建物全景(南西から)
3　36号竪穴建物ピット検出状況(南西から)
4　36号竪穴建物遺物出土状況(西から)
5　36号竪穴建物竈(南西から)
6　37号竪穴建物全景(西から)
7　37号竪穴建物掘方全景(西から)
8　37号竪穴建物遺物出土状況(西から)
ＰＬ．26　1　37号竪穴建物竈(西から)
2　37号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)
3　44号竪穴建物全景(西から)
4　44号竪穴建物掘方全景(西から)
5　44号竪穴建物竈(西から)
6　46号竪穴建物全景(南西から)
7　46号竪穴建物掘方全景(南西から)
8　46号竪穴建物竈(南西から)
ＰＬ．27　1　46号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
2　46号竪穴建物土層断面(南西から)
3　46号竪穴建物遺物出土状況(西から)
4　47号竪穴建物掘方全景(南西から)
5　47号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
6　47号竪穴建物竈周辺遺物出土状況(西から)
7　48号竪穴建物全景(西から)
8　48号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．28　1　48号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
2　48号竪穴建物竈(西から)
3　48号竪穴建物竈石組み状況(西から)
4　48号竪穴建物竈石組み状況(南から)
5　49号竪穴建物全景(西から)
6　49号竪穴建物掘方全景(西から)
7　49号竪穴建物竈(西から)
8　50号竪穴建物全景(北西から)
ＰＬ．29　1　50号竪穴建物掘方全景(西から)
2　50号竪穴建物遺物出土状況(西から)
3　50号竪穴建物竈(西から)
4　51号竪穴建物全景(西から)
5　51号竪穴建物掘方全景(西から)
6　51号竪穴建物遺物出土状況(西から)
7　51号竪穴建物出土状況(北から)
8　51号竪穴建物竈(西から)
ＰＬ．30　1　51号竪穴建物旧竈(南から)
2　52号竪穴建物全景(南西から)
3　52号竪穴建物掘方全景(南西から)
4　52号竪穴建物土層断面(南から)
5　52号竪穴建物竈址検出状況(南から)
6　53号竪穴建物全景(西から)
7　53号竪穴建物掘方全景(西から)
8　53号竪穴建物遺物出土状況(西から)
ＰＬ．31　1　53号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
2　53号竪穴建物竈(西から)
3　53号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)
4　54号竪穴建物全景(南西から)
5　54号竪穴建物掘方全景(南東から)
6　54号竪穴建物土層断面(南から)
7　55号竪穴建物全景(西から)
8　55号竪穴建物掘方全景(西から)
ＰＬ．32　1　55号竪穴建物竈掘方(西から)
2　56号竪穴建物全景(西から)
3　56号竪穴建物掘方全景(西から)
4　56号竪穴建物土層断面(北から)
5　56号竪穴建物竈(西から)
6　57号竪穴建物全景(南西から)
7　57号竪穴建物掘方全景(南から)
8　57号竪穴建物土層断面(南から)
ＰＬ．33　1　57号竪穴建物Ｐ１土層断面(南から)
2　59号竪穴建物全景(西から)
3　59号竪穴建物掘方全景(西から)
4　59号竪穴建物竈(西から)
5　59号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)
6　４号竪穴状遺構(西から)
7　４号竪穴状遺構土層断面(西から)
8　１号掘立柱建物(西から)
ＰＬ．34　1　16号土坑土層断面(南東から)
2　20号土坑(南から)
3　21号土坑(南西から)
4　22号土坑(南東から)
5　23号土坑土層断面(南から)
6　24号土坑(南から)
7　26号土坑(南西から)
8　26号土坑土層断面(南西から)
9　27号土坑(南から)

10　27号土坑土層断面(南から)
11　28号土坑(南東から)
12　29号土坑(北から)
13　29号土坑礫出土状況(北から)
14　30号土坑(北東から)
ＰＬ．35　1　31号土坑(南から)
2　34号土坑土層断面(北から)
3　40号土坑(南から)
4　41号土坑(南から)
5　41号土坑土層断面(南から)
6　42号土坑(南から)
7　42号土坑土層断面(南から)
8　43号土坑(東から)
9　44号土坑土層断面(北東から)
10　46号土坑(南から)
11　46号土坑土層断面(南から)
12　47号土坑土層断面(北から)
13　48号土坑(南から)
14　53号土坑土層断面(南から)
15　54号土坑土層断面(南から)
ＰＬ．36　1　59号土坑(西から)
2　62号土坑(北から)
3　62号土坑遺物出土状況(南から)
4　63号土坑(南から)
5　64号土坑(南から)
6　67号土坑(南東から)
7　68号土坑(南から)
8　69号土坑(北から)
9　70号土坑(西から)
10　71号土坑(西から)
11　72号土坑土層断面(西から)
12　73号土坑(西から)
13　73号土坑土層断面(北から)
14　74号土坑土層断面(北から)
15　75号土坑(北から)
ＰＬ．37　1　78号土坑(北から)
2　79号土坑(北西から)
3　80号土坑(北から)
4　81号土坑(北から)
5　82号土坑(東から)
6　83号土坑(東から)
7　84号土坑(東から)
8　85号土坑(東から)
9　86号土坑(東から)
10　87号土坑(東から)
11　88号土坑(南から)
12　90号土坑(南西から)
13　91号土坑(北から)
14　92号土坑(南から)
15　93号土坑土層断面(南から)
ＰＬ．38　1　94号土坑(北から)
2　95号土坑(北から)
3　97号土坑(南西から)
4　98号土坑(南から)
5　99号土坑(南から)
6　100号土坑(南から)
7　101号土坑(南から)
8　102号土坑(西から)
9　103号土坑(北から)
10　104号土坑(南から)
11　105号土坑(南から)
12　106号土坑(北から)
13　106号土坑土層断面(北から)
14　107号土坑(西から)
15　110号土坑(西から)
ＰＬ．39　1　５号井戸(西から)
2　５号井戸断割り(北から)
3　５号井戸遺物出土状況(北から)
4　６号井戸土層断面(東から)
5　６号井戸断割り(東から)
6　７号井戸(北から)
7　８号井戸(南から)
8　９号井戸(南から)
ＰＬ．40　1　10号井戸(南から)
2　11号井戸土層断面(南から)
3　１号集石検出状況(東から)
4　１号集石下土坑完掘状況(東から)
5　２号集石検出状況(東から)
6　２号集石遺物出土状況(東から)
7　２号集石下土坑完掘状況(東から)
8　５～７・10・11号溝(北西から)
ＰＬ．41　1　５号溝(南から)
2　６号溝(南から)
3　７号溝(西から)
4　10号溝(西から)
ＰＬ．42　1　11号溝(南東から)
2　11・18号溝(南東から)
3　12・17号溝(南東から)
4　13号溝(南西から)
5　14・15号溝(北西から)
6　18号溝(北から)
7　29号溝土層断面(北から)
ＰＬ．43　1　30号溝(北から)
2　31号溝(東から)
3　32～35号溝(南西から)
ＰＬ．44　1　37号溝土層断面(南西から)
2　38号溝土層断面(南西から)
3　40号溝土層断面(北から)
4　42号溝(南西から)
5　47号溝土層断面(北から)
6　48号溝土層断面(北西から)
7　49号溝(東から)
8　52号溝土層断面(北から)
ＰＬ．45　1　50号溝(南から)
2　54号溝土層断面(西から)
3　１号畠(西から)
4　１号畠土層断面(西から)
5　１号遺物集中(北から)
6　２号遺物集中(北から)
7　２号遺物集中遺物出土状況(北から)
ＰＬ．46　３・４・６・８号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．47　23・32・33・38・45号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．48　１・19・33・50号土坑、１・３・４号墓壙出土遺物
ＰＬ．49　１・２・８・19・21号溝、遺構外出土遺物
ＰＬ．50　遺構外、９号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．51　10～12・14号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．52　15～17号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．53　17・18号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．54　20・21・26号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．55　27・28・34・35・37号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．56　37・46～48号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．57　48号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．58　48～51号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．59　51～53号竪穴建物出土遺物
ＰＬ．60　55・59号竪穴建物、62号土坑、40・208号ピット、５・７・８号井戸出土遺物
ＰＬ．61　11号溝、２号集石、遺物集中出土遺物
ＰＬ．62　遺構外出土遺物

第１章　調査の経過と事業の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

本書は、(一)南新井前橋線２期工区道路改築事業(地方道・連携)に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。南新井前橋線は、起点である北群馬郡榛東村大字新井の陸上自衛隊相馬原駐屯地前から途中前橋市高井町１丁目の高井町１丁目交差点で群馬県道15号主要地方道前橋伊香保線(吉岡バイパス)と接続し、同線と重用して北群馬郡吉岡町大久保の大松交差点で吉岡バイパスから再び分岐して利根川を上毛大橋で渡り、終点である国道17号上武道路との前橋市川端町の交差点に至る道路である。本調査はその前橋市池端町地内の発掘調査である。

以下経緯を記載する。

平成27年５月６日、群馬県県土整備部監理課(以下、県土整備部)より群馬県教育委員会事務局文化財保護課(以下、文化財保護課)に平成27年度公共開発関連計画一覧表が提出される。

平成27年６月26日、文化財保護課は県土整備部に対し、事業地が埋蔵文化財包蔵地内にあるため、書類提出及び試掘・確認調査の実施が必要であることを回答する。

平成27年11月30日、前橋土木事務所から文化財保護課に試掘依頼書が提出される。

平成28年１月21日・22日・25日、文化財保護課による試掘・確認調査が行われる。

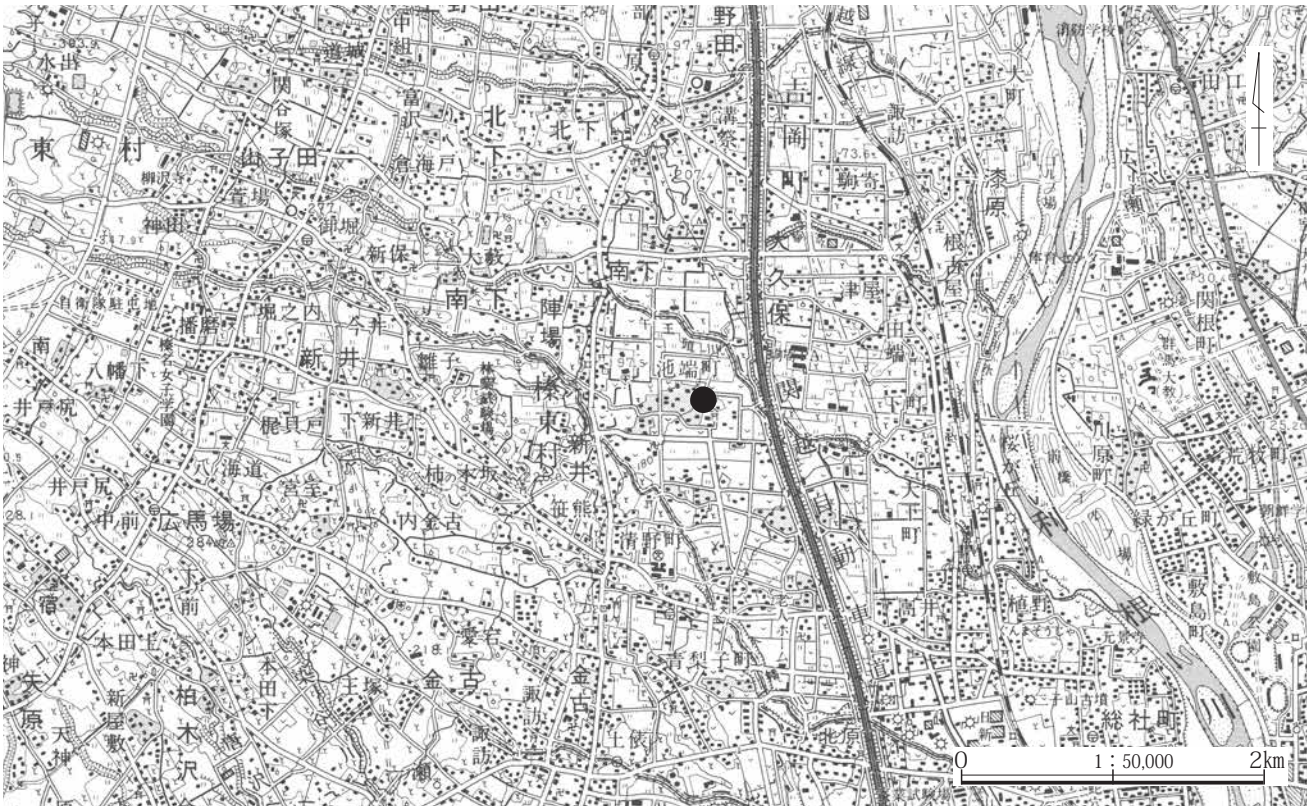
平成28年２月12日、文化財保護課は試掘・確認調査の結果、発掘調査が必要であることを前橋土木事務所・前橋市教育委員会に通知する。

平成28年11月24日、前橋土木事務所から文化財保護課に試掘依頼書が提出される。

平成28年12月９日、文化財保護課による試掘・確認調査が行われる。

平成28年12月16日、文化財保護課は試掘・確認調査の結果、発掘調査が必要であることを前橋土木事務所・前橋市教育委員会に通知する。

平成28年12月16日、前橋土木事務所は前橋市教育委員



第１図　遺跡位置図

会に94条通知を提出し、同日、前橋市教育委員会は文化財保護課に進達する。

これらの経緯を経て、前橋土木事務所からの委託により公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)が平成29年１月１日より平成29年３月31日まで発掘調査を実施した。

更に、平成30年８月９日、前橋土木事務所は前橋市教育委員会に94条通知を提出し、同日、前橋市教育委員会は文化財保護課に進達する。

これを受け、前橋土木事務所からの委託により事業団が平成30年12月１日より平成30年12月31日まで発掘調査を実施した。

第２節　調査の方法と経過

以下年度ごとの概要を示す。

平成28年度調査

遺跡は、前橋台地と榛名山東麓斜面の移行部にあたり、牛王頭川と八幡川にはさまれた台地上に位置している。標高は約175～190mで、西高東低の緩やかな傾斜地である。調査対象地域は東西に約800mと長く、間に調査対象外の区域を挟む。そのため、西の調査対象地を１区、東の調査対象地を２区として調査対象地を分割し、各区に調査班１班(担当者２名)を配置し、平成29年１月から両区同時に調査を開始することとした。

調査方法は、まず重機を用いて地表面からAs-Cと考えられる軽石を含む黒褐色土上面まで掘削を行い、その後遺構確認作業から人為的な掘り込み箇所の掘り下げ等を発掘作業員が行った。各遺構の埋没土の観察や写真撮影等は、担当者が行った。各遺構の土層堆積図(セクション図)や遺構平面図、出土遺物図などの図化は測量委託を行った。同年３月に全発掘調査工程が完了し、埋戻しも終了した。

１区では、古墳時代後期以降の竪穴建物を16棟確認し、多くが平安時代の建物であった。また、大規模なものを含む多数の溝の他、古墳時代～中・近世の土坑・墓壙・井戸が検出された。

２区では、古墳時代後期以降の竪穴建物を35棟確認した。１区とは時期が異なり、時期の不明なものを除く全てが古墳時代後期～奈良時代の建物であった。比較的小規模な建物が多かったが、一辺が６ｍを超える建物もあった。その他、古墳時代～中･近世の土坑、井戸、溝、畠、集石が検出された。

平成30年度調査

調査対象地は東西２か所に分かれている。いずれも平成28年度の調査時に２区として区分した範囲にあるため、東側の調査区を２区東、西側の調査区を２区西とし、平成30年12月１日より両調査区の調査を行った。

調査方法は、平成28年度調査同様、まず重機を用いて地表面からAs-Cと考えられる軽石を含む黒褐色土上面まで掘削を行い、その後遺構確認作業から人為的な掘り込み箇所の掘り下げ等を発掘作業員が行った。各遺構の埋没土の観察や写真撮影等は、担当者が行った。各遺構の土層堆積図(セクション図)や遺構平面図、出土遺物図などの図化は測量委託を行った。

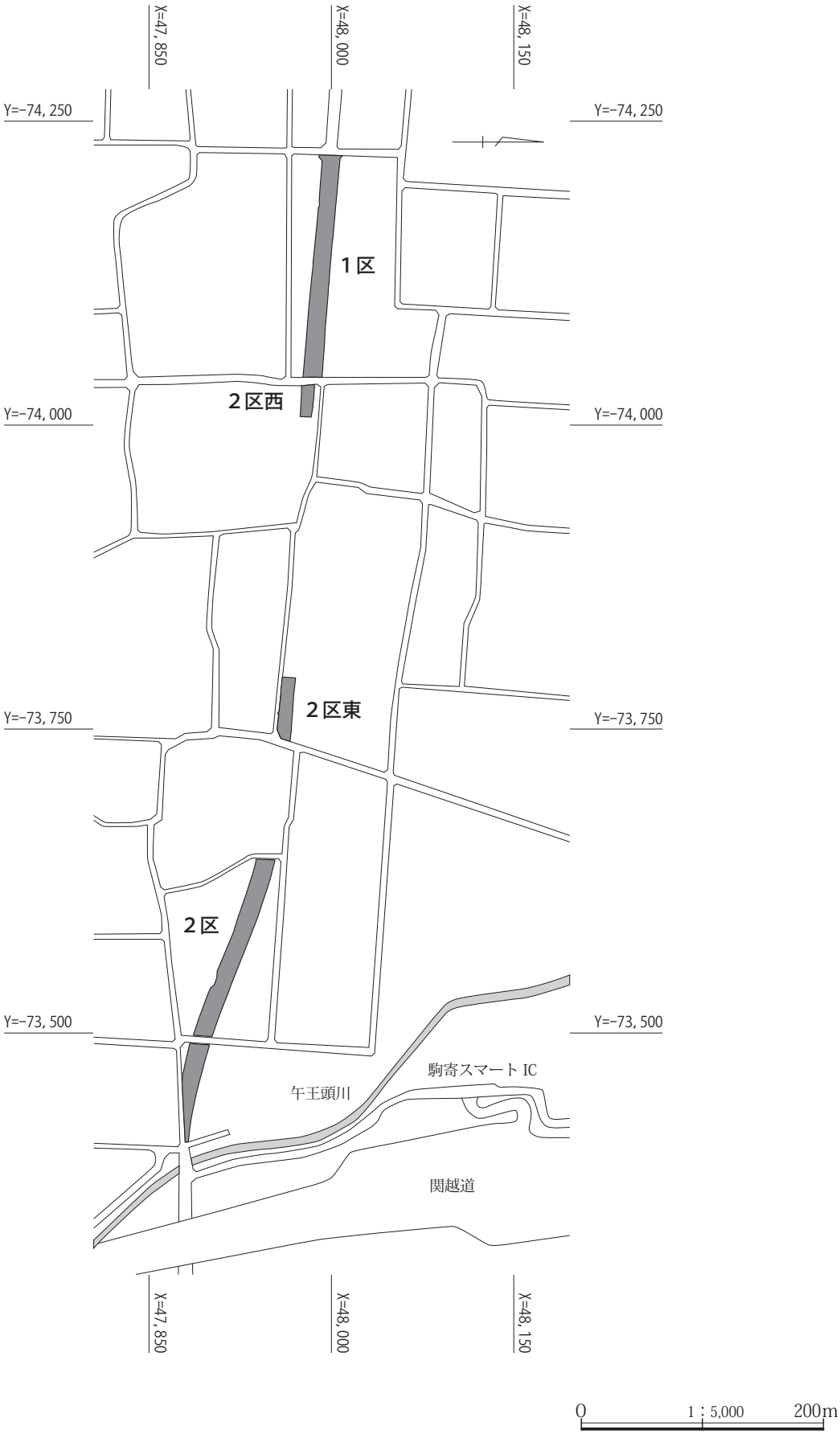
月末に全発掘調査工程が完了し、埋戻しも終了した。

２区西では、古代の遺物が多数出土したが、遺構の検出には至らず、遺物集中として記録を行った。

２区東の西側では中世以降の土坑、ピット、井戸が検出された。ピットは列状に並んでいるが、建物は認定できなかった。東側では中世以降の畠の他、土坑、ピット、井戸が検出された。井戸からは、須恵器や灰釉陶器の皿、内耳鍋、古瀬戸の灰釉瓶子などの小片が出土した。

第３節　整理事業

整理事業･報告書作成作業は令和２年４月に開始した。遺物の分類、調査図面の確認、編集作業から始め、出土遺物の接合・復元、復元した土器及び石製品や鉄製品などの写真撮影、出土遺物の実測図作成、編集した遺構図･遺物図のデジタル編集を行った。また、一部の遺物については、その性質をより明らかにするために自然科学分析の業務委託を実施した。こうした作業と並行し、本文原稿の執筆作業を進め、最終的な編集レイアウト作業を行って、令和３年３月に調査報告書を刊行した。遺物、図面等の収納作業を行い、整理事業を終了した。


X=47, 850
X=48, 000
X=48, 150
Y=−74, 250
Y=−74, 000
Y=−73, 750
Y=−73, 500
１区
２区西
２区東
２区
駒寄スマート IC
午王頭川
関越道
0
1：5,000
200m

第２図　調査区位置図

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

前橋市0107遺跡は、前橋市中心街より北西へ約６㎞程の池端町にある。池端町は前橋市の西端で、吉岡町・榛東村・高崎市に囲まれる地点に位置する。東には関越自動車道、西には群馬県道25号高崎・渋川線がほぼ南北に通っている。前橋台地面と榛名山東麓斜面との移行部にあたり、平坦であるが東に緩やかに傾斜する地形面をなしている。本遺跡がある地点の標高は175m～190mを測る。榛名山中を源流とする河川が南東方向に並走し、台地を細長く画している。前橋市0107遺跡は、その午王頭川と八幡川にはさまれた台地上にある。午王頭川と八幡川は共に榛東村内の渓谷に源を発し、利根川へとつながる一級河川である。

本遺跡のある前橋台地を構成する地層は上位から表土、黒土層、総社砂層、褐色火山灰土層（上部ローム層）、火山泥流堆積物、砂礫層からなっている。火山泥流堆積物は不透水性の性質を持っているため、これを覆っている火山灰質シルト層は部分的に少量の地下水を保有しており、その地下水面が地表にまで現れて、いわゆる湿田地帯を形成していることもある。この地下水は量が少なく、水質も良くないが、泥流堆積物の下位に伏在する前橋砂礫層には、豊富な地下水がある。前橋台地の地域内にある深井戸は、この深層地下水を採っている。これらの深井戸の孔内における自然水位は地下十数メートルのところにある。

第２節　歴史的環境

調査対象地は周知の遺跡として前橋市の遺跡台帳に登録されている（前橋市遺跡番号0107）地点に所在し、周辺にも多数の遺跡が確認されている。

縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡には、清里・長久保遺跡（６）、七日市遺跡（７）（８）、金竹西Ｖ遺跡(34)、沼南遺跡(35)、長久保大畑遺跡(40)、下東西遺跡(62)、熊野谷遺跡(64)がある。七日市遺跡、金竹西Ｖ遺跡、沼南遺跡では、いずれも前期の竪穴建物、また、沼南遺跡では中期中葉の環濠集落、清里・長久保遺跡では前期～中期の集落、熊野谷遺跡では中期～後期の集落、長久保大畑遺跡では中期後葉の集石遺構、下東西遺跡では中期の埋甕遺構が確認されている。

弥生時代

弥生時代の遺跡としては清里・庚申塚遺跡(10)、見柳東遺跡(51)、下東西遺跡が挙げられる。いずれも竪穴建物を検出している。特に清里・庚申塚遺跡では中期後半の環濠集落が確認されている。その他、長久保大畑遺跡、新田入口遺跡(52)では、弥生時代のものとみられる溝を検出している。

古墳時代

古墳時代になると、遺跡の確認数が増加する。古墳も多くみられ、武人埴輪が出土している前方後円墳の高塚古墳(12)、一辺９ｍの八角形墳の三津屋古墳(38)といった首長クラスの埋葬者が想定されるものも見られる。清里・長久保遺跡、清里・庚申塚遺跡、長久保古墳群(11)、雉子古墳群(13)、南下古墳群(24)、柿の木坂古墳群(47)内には複数の古墳が存在した。その他、清里３号墳（２）、丸山古墳(14)、庚申塚古墳(15)、観音山古墳(45)、いなり山古墳(46)、立畦古墳(49)、金古愛宕山古墳(58)、諏訪古墳(60)の他、大藪遺跡(25)、本宿遺跡(37)内でも古墳が確認されている。そして、国指定史跡の総社二子山古墳(71)も本遺跡から南東３㎞の位置にある。これらの古墳で時期が判明しているものは、６世紀中頃～７世紀にかけてのものである。また、大久保Ａ遺跡(21)、熊野遺跡(29)、金竹西遺跡(30)、金竹西遺跡Ⅲ遺跡(32)、同Ⅳ遺跡(33)、同Ｖ遺跡(34)、上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡(39)、長久保大畑遺跡、下東西遺跡では、集落或いは数棟の竪穴建物が確認されている。さらに、善徳遺跡(42)、北原遺跡(70)では水田、金古北十三町遺跡(59)では畠、長久保大畑Ⅱ遺跡(41)では畝状遺構、中御所Ⅱ遺跡（４）では道

路状遺構が確認されており、前原遺跡(44)、大下遺跡(53)では溝が検出されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代は本遺跡周辺で最も多くの遺跡が見られる時期である。６～９ページに掲載した周辺遺跡のうち、古墳や城館を除く全ての遺跡において、奈良から平安、いずれかの時期の竪穴建物や掘立柱建物が確認されている。また、善徳遺跡、長久保大畑遺跡、見柳東遺跡では、水田或いは畝状遺構が確認されており、集落と共に溝も検出している遺跡も数多くみられ、それぞれの地に集落が広がっていたことが伺える。本遺跡に近い清里・陣場遺跡（３）では製鉄関連遺構も確認されている。また、同遺跡では大量の灰釉陶器・緑釉陶器が出土しており、この遺跡の調査が行われた1980年代では、県内最多の出土量であった。

中・近世

中・近世の遺跡では、大藪遺跡内の桃井城、青梨子砦(54)、檜田城(66)、金古北十三町遺跡の中・近世の集落が挙げられる。その他、中・近世に渡る遺構が確認されたのは、下東西遺跡の竪穴建物・井戸、総社桜ヶ丘遺跡(69)の畝状遺構・溝、清里南部遺跡群Ⅲ(56)、中島遺跡(61)の溝である。中世の様々な遺構が調査されたのは長久保大畑遺跡で、掘立柱建物・柵列・溝・道・水田・畠・井戸を検出している。他には、清里・陣場遺跡の集石遺構・井戸、七日市遺跡の畠・井戸・溝、大久保Ａ遺跡、同Ｂ遺跡の道・井戸・溝、新田入口遺跡の道・溝、中御所Ⅱ遺跡、北原遺跡の溝が挙げられる。近世の遺構としては、前原遺跡の石組遺構・溝、中町遺跡(36)の石組井戸、清里南部遺跡群(55)の井戸・溝、沼南遺跡の溝が確認されている。

第３節　基本土層

本遺跡における地表の標高は、１区の西端で190ｍ、２区の東端では175ｍで、地表から遺構検出面までは、0.4ｍ前後であった。本遺跡では、調査地点によって堆積土層が異なっており、標準的な土層を示すことができなかった。

表土下には、調査を行ったどの地点においても３世紀末～４世紀初頭浅間山噴火起源のAs-Cが含まれているが、その一次堆積物は確認することができなかった。本遺跡では、調査区によってその検出数は異なるが、古墳時代後期以降の竪穴建物等の遺構が検出されている。集落の形成等、当時の生活に伴って、降下した火山灰の移動が行われていたことが推測できる。一方、天仁元年(1108年)浅間山噴火起源のAs-Bは、１区ではAs-Cと共に表土下の層に含まれていたが、２区ではほとんど見られなかった。また、１万５千年前浅間山噴火起源のAs-YPについては、一次堆積とみられる層がＣ地点の地表から４ｍ程の位置で確認できた。その他のテフラも、本遺跡のある地域に降下していたと考えられるが、それぞれを確認することはできなかった。

各地点の表土層以下の基本土層の詳細は第５～７図に示した。各層の軽石等、いずれかの降下テフラが含まれていると考えられるが、それぞれを判別することが難しいため、調査所見に基づいて色調で表現を行っている。

第３図　周辺遺跡分布図

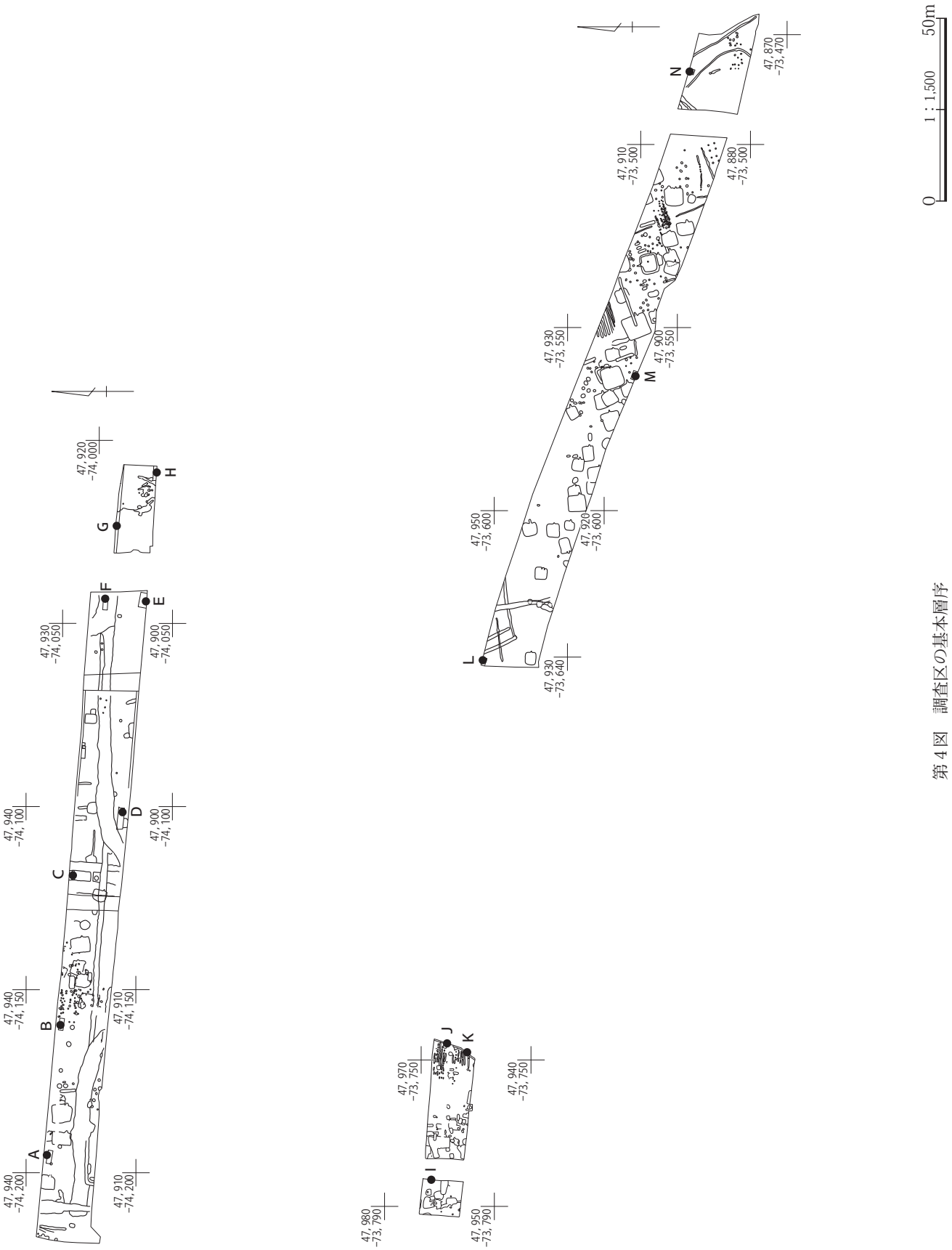
第１表　周辺遺跡一覧

№.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
1	前橋市0107遺跡											本報告書
2	清里３号墳				◎						南半分は神明宮の石段のため原形を留めていないが、北半分は円形の盛土を示しており、埴輪片が認められる。径は推定30m程。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
3	清里・陣場遺跡		○			◎	◎	◎			奈良平安：集落・製鉄関連遺構　中世：井戸・集石遺構	『清里・陣場遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1981
4	中御所Ⅱ遺跡				◎	◎	◎	◎			古墳：道路状遺構、平安：集落、中世：溝	『中御所Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2005
5	中御所遺跡						◎				平安：竪穴建物・掘立柱建物	『中御所遺跡』吉岡町教育員会2001
6	清里・長久保遺跡		◎		◎		◎				縄文：前期～中期集落、古墳：６世紀後半～７世紀末の古墳14基、 平安：竪穴建物・墓壙	『清里・長久保遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1986
7	七日市遺跡(駒寄PA)		◎	○		◎	◎				縄文：前期竪穴建物、奈良平安：集落・溝	『七日市遺跡・滝沢古墳・女塚遺跡』吉岡村教育員会・群馬県教育委員会・日本道路公団1986
8	七日市遺跡		◎		○	◎	◎	◎			縄文：前期竪穴建物、奈良平安：集落・溝、中世：畠状遺構・溝・井戸	『七日市遺跡』吉岡町教育員会2017
9	片貝Ⅱ遺跡					◎	◎				奈良平安：竪穴建物	『片貝Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2001
10	清里・庚申塚遺跡			◎	◎		◎				弥生：中期後半環濠集落、古墳：７世紀の古墳２基、平安：竪穴建物	『清里・庚申塚遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1981
11	長久保古墳群				◎		○				７世紀前後の前方後円墳２基と円墳20基。いずれも横穴式石室を有する。	『長久保古墳群発掘調査略報』長久保古墳群調査団1978 『榛東村誌』1988
12	高塚古墳				◎						群馬県林業試験場内にある県指定史跡　６世紀後半　全長60m　２段構築の前方後円墳　両袖型横穴式石室　武人埴輪出土	『群馬県史 資料編３』1981
13	雉子古墳群				◎						古墳11基。榛東村39号墳は直径13.2mの円墳。葺石が墳丘を円形に囲む。自然石乱石積の両袖型横穴式石室。鉄器、耳環、馬具、歯等出土。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971 『榛東村39号墳(雉子遺跡)発掘調査報告書』榛東村教育委員会1985
14	丸山古墳				◎						自然の丘を利用した乱石積古墳。Ａ石室は丘頂にあり、巾1.2m、高さ1.5m、奥行き５m。Ｂ石室は丘の南斜面に埋没しており、奥行きは６m。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
15	庚申塚古墳				◎						直径33m、高さ28mの円墳。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
16	三疋遺跡					◎	◎				奈良平安：竪穴建物	『三疋遺跡』吉岡町教育員会2010
17	下八幡南遺跡					◎	◎				奈良平安：集落・溝	『下八幡南遺跡』吉岡町教育員会2002
18	女塚遺跡						◎				平安：竪穴建物	『七日市遺跡・滝沢古墳・女塚遺跡』吉岡村教育員会・群馬県教育委員会・日本道路公団1986
19	宮前Ⅱ遺跡					◎	◎				奈良平安：集落・溝	『宮前Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2007
20	道城遺跡					◎	◎				奈良平安：集落	『道城遺跡』吉岡町教育員会1998 『道城Ⅱ遺跡』2005　『道城Ⅲ遺跡』2008
21	大久保A遺跡		○		◎	◎	◎	◎			古墳：後期集落、奈良平安：集落、中世：道路状遺構	『大久保A遺跡 Ⅰ区』『大久保A遺跡 Ⅱ区』吉岡村教育員会・群馬県教育委員会・日本道路公団1986
22	宮西遺跡					◎	◎				奈良平安：集落・溝	『宮西遺跡』吉岡町教育員会2012
23	大久保B遺跡						◎	◎	○		平安：集落、中世：井戸・溝	『有馬遺跡Ⅰ・大久保B遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1989
24	南下古墳群				◎						６世紀後半～７世紀末　円墳６基　すべて横穴式石室(内１基は推定) 漆喰を塗って仕上げたもの、石室構築のための作業用の赤線が壁面に残っているものなどがある。	『群馬県史研究11』1980

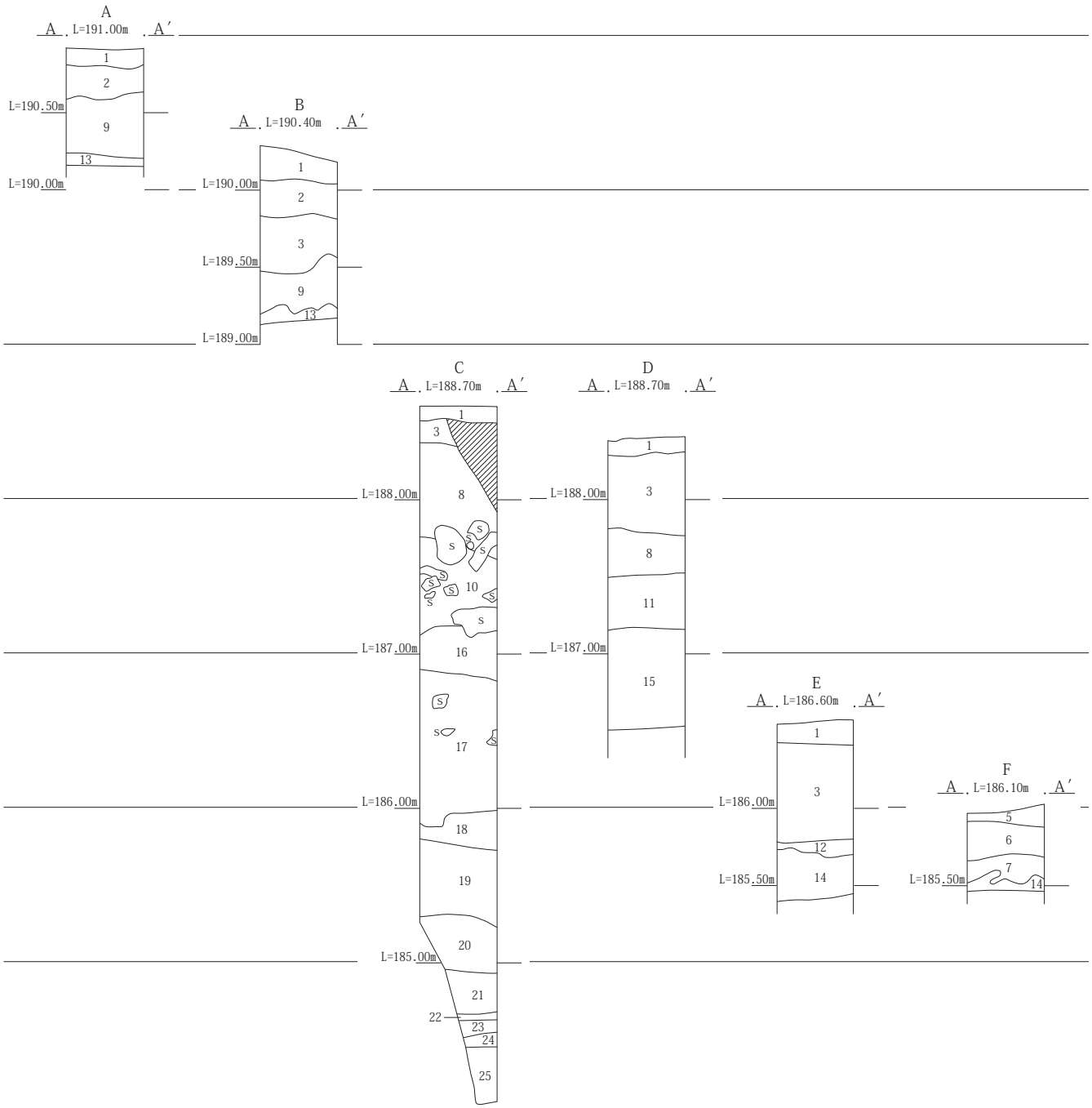
№.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
25	大藪遺跡				◎			◎			古墳：大藪城山古墳６世紀中葉　全長約53m　前方後円墳　横穴式石室 側面全域に葺石があり、墳裾の外側に埴輪列（円筒埴輪・形象埴輪） 中世：桃井城	『大藪遺跡』吉岡町教育員会2012
26	畑中遺跡						◎				平安：集落・溝	2000『畑中遺跡』吉岡町教育員会
27	辺玉遺跡		○			◎	◎				奈良平安：竪穴建物	『熊野・辺玉遺跡』吉岡町教育員会1995
28	熊野Ⅲ遺跡					◎					奈良：竪穴建物	『熊野Ⅲ遺跡』吉岡町教育員会2010
29	熊野遺跡		○		◎	◎	◎				古墳：後期集落、奈良平安：集落	『熊野・辺玉遺跡』吉岡町教育員会1995
30	金竹西遺跡		○		◎	◎	◎				古墳：後期集落、奈良平安：集落	『金竹西遺跡』吉岡町教育員会1994
31	金竹西Ａ遺跡					◎	◎				奈良平安：竪穴建物・井戸・溝	『金竹西Ａ遺跡・中町遺跡』吉岡町教育員会1996
32	金竹西Ⅲ遺跡		○		◎	◎	◎				古墳：後期竪穴建物、奈良平安：竪穴建物	『金竹西Ⅲ遺跡』吉岡町教育員会1999
33	金竹西Ⅳ遺跡				◎	◎	◎				古墳：後期竪穴建物、奈良平安：竪穴建物	『金竹西Ⅳ遺跡』吉岡町教育員会2004
34	金竹西Ⅴ遺跡		◎		◎	◎	◎				縄文：前期竪穴建物、古墳：後期集落、奈良平安：集落	『金竹西Ⅴ遺跡』吉岡町教育員会2005
35	沼南遺跡		◎				◎		◎		縄文:前期竪穴建物、中期中葉環状集落、平安:集落、近世：溝	『沼南遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1999
36	中町遺跡					◎	◎		◎		奈良平安：集落、近世：石組井戸	『金竹西Ａ遺跡・中町遺跡』吉岡町教育員会1995
37	本宿遺跡				◎	◎					古墳：オトカ山古墳墳径20m、高さ3.6mの円墳 奈良：竪穴建物	『本宿遺跡発掘調査報告書』吉岡町教育員会1991
38	三津屋古墳				◎						群馬県指定史跡。７世紀　２段構築　一辺約９ｍの八角形墳　横穴式石室	『三津屋古墳』吉岡町教育員会1996
39	上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡				◎	◎	◎				古墳：後期竪穴建物、奈良平安：竪穴建物	『上ノ原Ⅰ・Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2011
40	長久保大畑遺跡		◎	◎	◎	◎	◎	◎			縄文:中期後葉集石遺構、弥生:溝、古墳:竪穴建物・水田、 奈良平安：集落・溝・水田・畠、 中世：掘立柱建物・柵列・溝・道・水田・畠・井戸	『長久保大畑遺跡・新田入り口遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2000
41	長久保大畑Ⅱ遺跡				◎		◎				古墳：畝状遺構、平安：竪穴建物	『長久保大畑Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2003
42	善徳遺跡		○		◎		◎				古墳：水田、平安：竪穴建物・水田	『善徳遺跡』吉岡町教育員会2004
43	長久保大畑Ⅲ遺跡						◎				平安：集落・畝状遺構・井戸・溝	『長久保大畑Ⅲ遺跡』吉岡町教育員会2006
44	前原遺跡		○	○	◎		◎		◎		古墳：溝、平安：竪穴建物・掘立柱建物・溝、近世：石組遺構・溝	『前原遺跡』吉岡町教育員会2002
45	観音山古墳				◎						直径７ｍ、高さ3.5mの円墳で開口しており、石室は完存している。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
46	いなり山古墳				◎						全長63m、前方部の高さ4.3m、後円部の高さ6.6mの前方後円墳。現在は後円部のみ残る。円筒埴輪、直刀が出土した。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
47	柿の木坂古墳群				◎						28基の古墳が散在していたが、現存するものは９基。その内１基は開口しており、石室、覆土の保存がよい。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
48	北原古墳群				◎						25基の古墳が散在する。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
49	立畦古墳				◎						６基の古墳が散在し、埴輪片が出土している。	『群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)』群馬県教育委員会1971
50	見柳東Ⅱ遺跡					◎	◎				奈良平安：集落・溝・畝状遺構	『見柳東Ⅱ遺跡』吉岡町教育員会2005
51	見柳東遺跡		○	◎		◎	◎	○	○		弥生：竪穴建物、奈良平安：集落・溝	『見柳東遺跡』吉岡町教育員会2001

№.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	種別・概要	文献
52	新田入口遺跡			◎		◎	◎	◎			弥生：溝、奈良平安：集落・溝、中世：溝・道	『長久保大畑遺跡・新田入り口遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2000
53	大下遺跡		○		◎	◎	◎				古墳：溝、奈良：竪穴建物、平安：道	『大下遺跡発掘調査報告書』吉岡町教育員会1993
54	青梨子砦							◎			中世：16世紀城館	『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
55	清里南部遺跡群		○				◎	○	◎		平安：集落・溝、近世：溝・井戸	『富田遺跡群・西大室遺跡・清里南部遺跡群』 群馬県教育委員会1980
56	清里南部遺跡群Ⅲ					◎	◎	◎	◎		奈良平安：集落・溝、中近世：溝	『清里南部遺跡群Ⅲ』群馬県教育委員会1980
57	松ノ木遺跡						◎		○		平安：集落・溝	『清里南部遺跡群Ⅲ』群馬県教育委員会1980
58	金古愛宕山古墳				◎						６世紀末～７世紀前半　墳径40m、高さ４mの円墳。両袖型横穴式石室。	『群馬県の遺跡』群馬県教育委員会1963 『群馬県遺跡台帳Ⅱ(西毛編)』群馬県教育委員会1972
59	金古北十三町遺跡				◎	◎	○	◎	◎		古墳：畠、奈良：集落、中近世：集落	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
60	諏訪古墳				◎						７世紀後半　墳径約14mの円墳　横穴式石室	『群馬県の遺跡』群馬県教育委員会1963 『町内遺跡Ⅴ』群馬町教育委員会1997
61	中島遺跡		○			◎	◎	◎	◎		奈良平安：集落・溝、中近世：溝	『中島遺跡発掘調査概報』前橋市教育委員会1981
62	下東西遺跡		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		縄文：中期埋甕遺構、弥生～平安：竪穴建物、中近世：竪穴状遺構、井戸	『下東西遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団1987
63	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡						◎				平安：集落・溝	『熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1991
64	熊野谷遺跡		◎				◎				縄文：中期～後期集落、平安：集落	『熊野谷遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989
65	青梨子熊野前遺跡						◎	○	○		平安：竪穴建物	『青梨子熊野前遺跡』高崎土木事務所 群馬県埋蔵文化財調査事業団2009
66	檜田城							◎			中世：16世紀城館	『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988
67	柿木遺跡		○	○		◎	◎				奈良平安：集落	『柿木遺跡』前橋市教育委員会1984
68	高井桃ノ木遺跡		○			◎	◎	○	○		奈良平安：集落	『高井桃ノ木Ⅲ遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団2006
69	総社桜ヶ丘遺跡		○				◎	◎	◎		平安：集落、中近世：溝・畝状遺構	『総社桜ヶ丘遺跡』 前橋市教育委員会　前橋市埋蔵文化財調査団1985
70	北原遺跡		○	○	◎	◎	◎	◎			古墳：水田、奈良平安：集落、中世：溝	『北原遺跡』群馬町教育委員会1984
71	総社二子山古墳				◎						国指定史跡　６世紀後半　全長約90m　２段構築前方後円墳 前方部と後円部それぞれに両袖型横穴式石室がある。	『群馬県史資料編３』1981 『群馬県の史跡　古墳編』群馬県教育委員会1995

（○印は遺物や土坑等の確認のみ）



第４図　調査区の基本層序

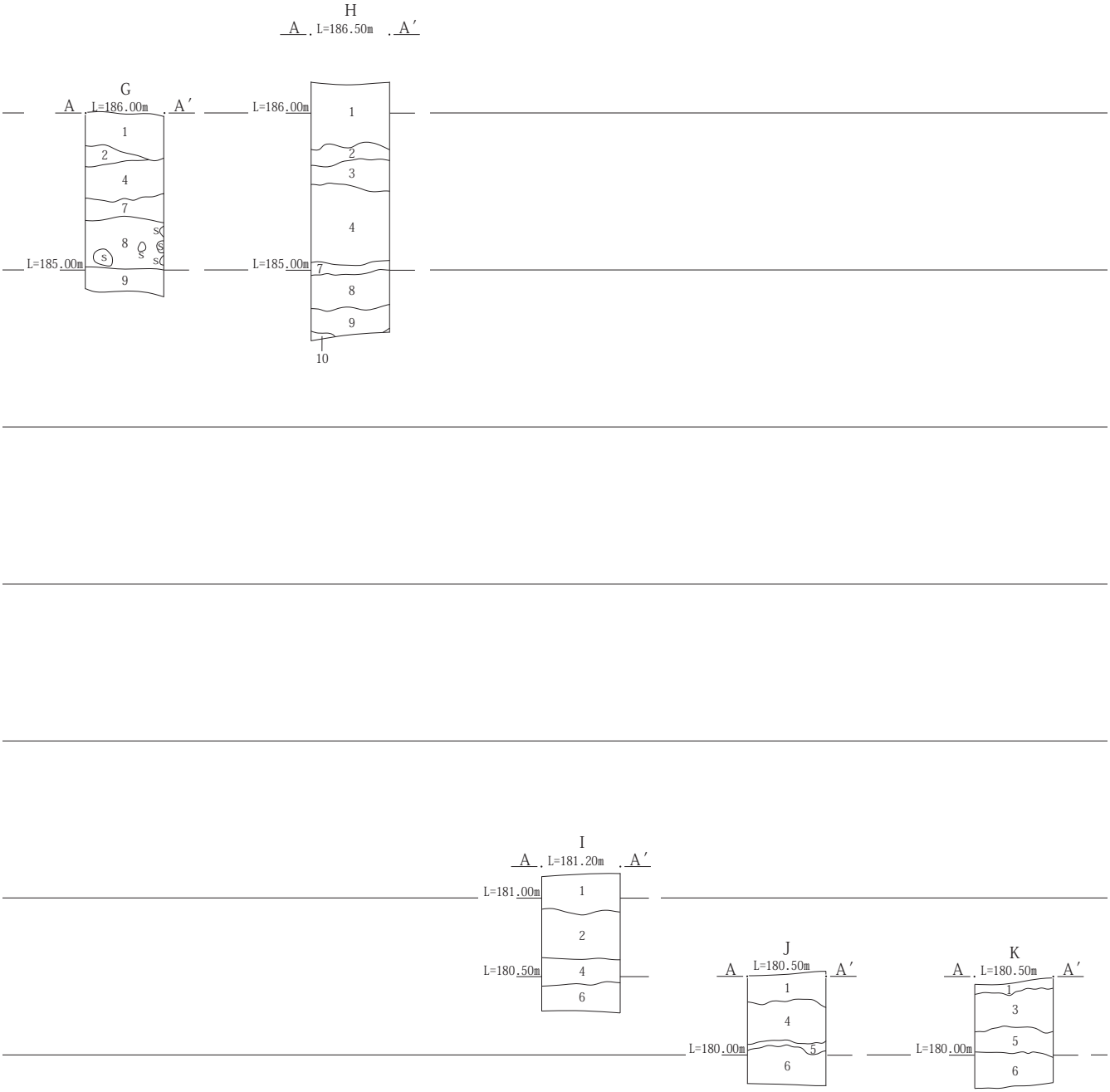


1区（A・B・C・D・E・F）基本土層

1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-B、As-Cを含む。
3．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、黄橙色土粒を少量含む。
4．黒褐色土　白色粒・黄橙色土粒を多量、炭化物を少量含む。
5．灰オリーブ色土　亜角礫主体の砂層。
6．黒褐色土　ややシルト質。白色軽石・灰オリーブ色砂質土を多量、黄褐色土粒を少量含む。鉄分凝集が見られる。
7．黒褐色土　砂礫層。暗褐色砂質、亜円礫を多量に含む。（７～19は総社砂層）
8．暗褐色土　白色粒・黄橙色土粒を多量に含む。
9．にぶい黄褐色土　亜角礫・白色粒・黄橙色土粒を多量、黄色土塊・黒土塊を少量含む。締りあり。
10. 灰褐色土　砂層。亜角礫を多量に含む。固く締まる。
11. 灰黄褐色土　非常にかたい砂質土。礫を多量、白色粒・黄橙色土粒を少量含む。
12. 褐灰色土　やや硬い砂質土。黒褐色土を微量含む。
13. 明黄褐色土　シルト質。白色粒・黄橙色土粒を微量含む。
14. 明黄褐色土　硬い砂質土。白色シルト質土を多量、黒褐色土を微量含む。
15. 明黄褐色土　砂質土。赤褐色土粒・灰黄褐色土粒を少量、礫を微量含む。
16. 明褐色土　硬い礫層。亜角礫を多量に含む。
17. 褐灰色土　砂層。層状の明褐色砂質土・亜円礫を多量に含む。
18. 黒色土　白色粒を多量、黄橙色土粒を少量、亜角礫を微量含む。粘性あり。
19. 灰白色土　シルト質。亜円礫を少量含む。
20. 黒色土
21. 明黄褐色土　上部ローム層。
22. 黄褐色土　As-YP（アッシュ）
23. 黄橙色土　As-YP（軽石）
24. 明黄褐色土　上部ローム層。
25. 褐灰色土　湧水帯。

0　1：40　1m

第５図　１区基本土層

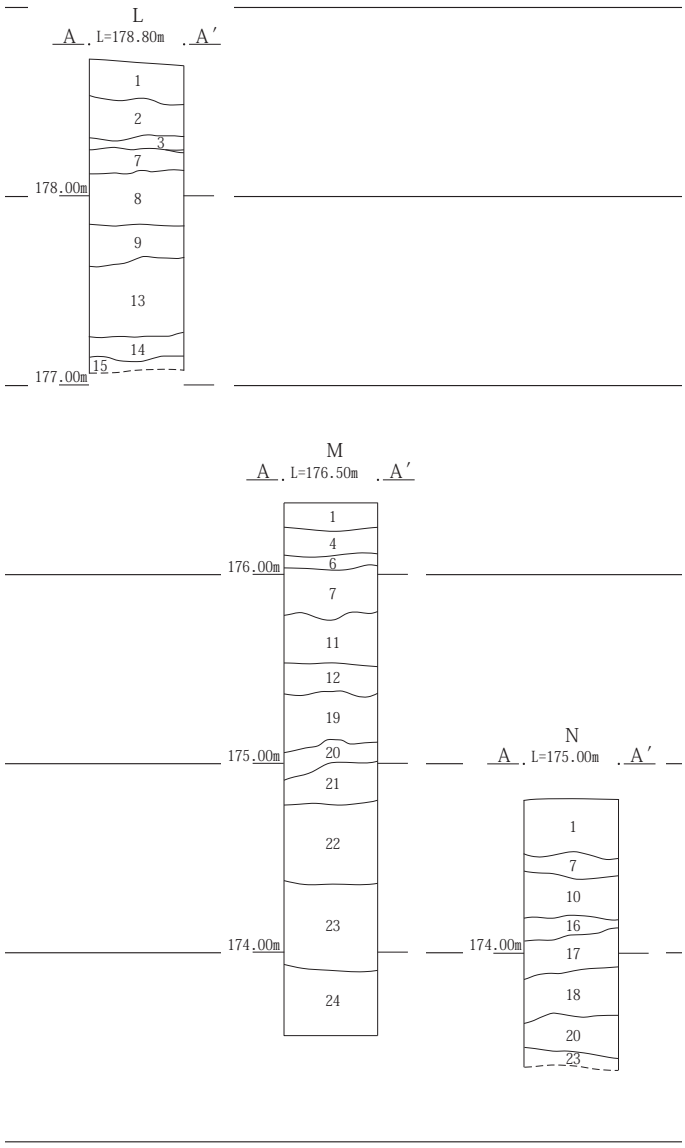


２区西・２区東（Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ・Ｋ）　基本土層

１．表土（耕作土）。
２．暗褐色土　As-B・As-C・橙色土粒を少量含む。
３．暗褐色土　橙色土粒を微量含む。
４．暗褐色土　As-C・褐色土粒を少量含む。
５．暗褐色土　白色軽石・褐色土粒・橙色土粒を微量含む。
６．黒褐色土　橙色土粒を少量、白色軽石・黄色軽石・黄褐色土粒を微量含む。
７．灰黄褐色土　黒褐色土を微量含む。
８．灰黄褐色土　砂質土。礫を多量、黄橙色土粒を少量含む。
９．褐灰色土　砂質土。黄橙色土粒を微量含む。
10．明黄褐色土　砂質土。黄橙色土粒を微量含む。

0　1：40　1m

第６図　２区西・２区東基本土層



２区（Ｌ・Ｍ・Ｎ）基本土層

１．表土（耕作土）。
２．暗褐色土　As-C・黄橙色土を微量含む。締り・粘性あり。
３．暗褐色土　As-C・黒褐色土小塊を少量含む。粘性あり。
４．褐色土　As-Cを少量含む。締り強。
５．黄褐色土　As-Cを少量含む。粘性強。
６．黒褐色土　As-Cを少量含む。粘性あり。
７．黒褐色土　As-C・黄褐色土塊を少量含む。粘性あり。
８．黒褐色土　As-Cを少量含む。締りあり。粘性弱。
９．暗褐色土　黄褐色土粒・黄橙色土粒を含む。粘性あり。
10. にぶい黄褐色土　黒褐色土塊を含む。粘性あり。
11. にぶい黄褐色土　黄褐色土小塊を多量含む。粘性あり。
12. にぶい黄褐色土　黄褐色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
13. にぶい黄褐色土　粘質土。浅黄橙色軽石・暗褐色土小塊を少量含む。締りあり。
14. にぶい黄褐色土　シルト質土。褐灰色土小塊を含む。締りあり。
15. 灰白色土　砂質土。締り・粘性弱。
16. 褐色土　黄褐色土小塊・にぶい黄褐色土小塊を含む。粘性あり。
17. 褐色土　にぶい黄褐色土小塊を少量含む。粘性あり。
18. にぶい黄橙色土　締り・粘性あり。
19. にぶい黄橙色土　浅黄橙色軽石を少量含む。締り強。
20. 明黄褐色土　軽石主体。締りあり。粘性弱。As-YPか。
21. にぶい黄橙色土　粘質土。角礫を含む。締り弱。
22. 灰黄褐色土　粘質土。角礫を少量含む。締りあり。
23. にぶい黄橙色土　粘質土。角礫を多量含む。締りあり。
24. 灰黄褐色土　やや砂質。青灰色小礫を多量含む。

0　1：40　1m

第７図　２区基本土層

第３章　調査の成果

第１節　成果の概要

１区では、調査区を東西、南北に横切る大規模な溝の他、多数の溝が検出された。出土遺物やAs-Bを含む埋没土の状況から、多くは中世以降に比定される。水成堆積の見られる水路としての機能が確認できるものや、区画溝としての性格が推定される遺構が混在している。また、本調査区周辺では、清里・陣場遺跡の調査で多量の灰釉陶器・緑釉陶器が出土しているが、今回の調査でも灰釉陶器・緑釉陶器を伴う10世紀に比定される竪穴建物が複数検出された。また、その時期以前の竪穴建物や、古墳時代～中・近世の土坑、墓壙、井戸も検出された。

２区では、古墳時代後期以降の竪穴建物を35棟、掘立柱建物を１棟確認した。６世紀後半から７世紀代の建物が多く、一辺４m、深さ50㎝規模の建物が大半であるが、長軸及び短軸が６m以上の大型のものもあった。また、埋没土や床面の広範囲に焼土や炭化物が残る焼失した建物を複数棟確認した。内部施設については、貯蔵穴、柱穴、壁溝を確認し、竈は一部で北壁や西壁も認められたが、ほとんどが東壁に付設していた。竈の一部は壊されているものの、残存状況は比較的に良好であり、補強のための構築材として使用した石が残存するものもあった。調査区の中央付近では、重複する竪穴建物が多く検出され、建て替えの行われた建物も確認された。その他、古墳時代～中・近世の土坑、井戸、溝、畠、集石などが検出された。

第２節　１区の遺構と遺物

１．竪穴建物・竪穴状遺構

１区で調査した竪穴建物は16棟で、広い範囲に分布するが、東端部では検出していない。時期は、10世紀代が多く、土師器や須恵器と共に、緑釉陶器・灰釉陶器・羽釜・黒色土器などが出土している。調査区全体が後世の削平を受けており、58号竪穴建物など、わずかに床面を残すのみの建物もあった。

１区１号竪穴建物（第8図、PL.2）

調査区西端にある。建物の東側以外の大部分は調査区外にある。

位置　X＝48,003～48,006　Y＝-74,216～-74,218

重複遺構　なし

形状　方形と見られるが、大部分が調査区外のため不明である。

主軸方位　N－98°－E

規模　東西(1.85m)　南北2.84m

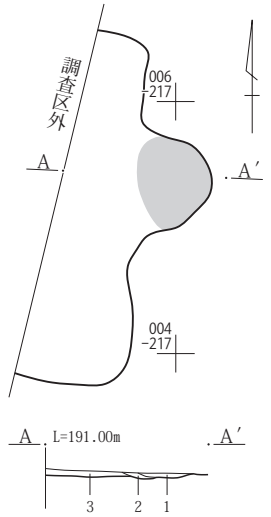
床面積　(1.74㎡)

埋没土層　後世の削平・撹乱がひどく、埋没土上層は不明だが、床面付近ではAs-C・明黄褐色土塊を含む暗褐色土を確認した。

壁高　５㎝

床面　ほぼ平坦で、地山を直接床面としている。

１区１号竪穴建物



１号竪穴建物
１．明赤褐色土　焼土塊主体、炭化物粒を含む。
２．黒色土　炭化物主体、締りなし。
３．暗褐色土　As-C・明黄褐色土塊を少量含む。

0　1：60　2m

第８図　１号竪穴建物

竈　東壁やや北寄りに検出したが、後世の削平により、構築材は残っておらず、わずかに焼土面を残すのみであった。規模は長軸60㎝、袖幅75㎝を測る。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　出土遺物はない。

所見　西壁の位置は不明だが、小規模な建物とみられる。床面の一部、竈の底部を検出したが、建物の大部分が調査区外にある。出土遺物はなく、時期は不明である。

１区３号竪穴建物(第９～11図、第８表、PL.２・46)

調査区西側、１号竪穴建物の東約15mの位置にある。建物の北壁のほとんどが調査区外にあり、南壁部分も試掘トレンチに壊されている。

位置　X＝48,002～48,005　Y＝-74,200～-74,204

重複遺構　なし

形状　北壁と南壁が確認できないが、建物の北東隅と南西隅の位置から、ほぼ正方形と考えられる。

主軸方位　N－104°－E

規模　東西3.79m　南北(3.75m)

床面積　(11.61㎡)

埋没土層　埋没土上層及び周縁部の土層は、建物の北部が調査区外にあることや、南部が試掘トレンチによって失われていることにより不明であるが、周縁部以外の床面付近ではAs-C・黄褐色土塊・焼土・炭化物を含む暗褐色土を確認した。

壁高　22～26㎝

床面　地山を直接床面としている。６基の土坑を検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、㎝)である。

１号土坑	73×62×31	２号土坑	66×42×22
３号土坑	50×46×23	４号土坑	(20)×28×20
５号土坑	89×60×８	６号土坑	(80)×61×18

この建物の使用に伴うものとして調査を行ったが、これらの用途は不明である。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸118㎝、袖幅110㎝を測り、拳大～頭大の石を使用し構築している。上部は撹乱により壊されている。灰層が見られ、焚口の外まで広がっている。

貯蔵穴　竈右袖の南側にある。規模は長径98㎝、短径78㎝の楕円形、深さ17㎝を測る。

柱穴　建物の北西部でピット１基を検出した。計測値は長径27㎝、短径25㎝、深さ11㎝であった。浅いため、主柱穴である可能性は低い。

壁溝　西壁と北壁付近の一部で検出した。幅10㎝～15㎝を測る。

遺物　床面直上、竈内、埋没土中、床下土坑内から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は１・２：須恵器の杯、３～５：同椀(３・４は竈内、５は貯蔵穴直上)、６・７：緑釉陶器の皿(６は床面直上)、８～10:同椀(10は竈内)、11・12：羽釜(11は竈内、12は床面直上)、13：磨石(３号土坑内中位)、14：敲石(床面から９㎝)、15・16：砥石(15は竈内)、17：羽口、18・19：鉄滓(19は５号土坑内上位)である。

所見　床面直上、竈、土坑内から磨石、敲石、砥石と共に、羽口、鉄滓が少量ながら出土しており、鉄製品の製作に関わる建物である可能性がある。床面付近や竈内で出土した遺物から、時期は10世紀前半である。

１区４号竪穴建物(第12・13図、第８表、PL.２・46)

調査区西側、３号竪穴建物の10m程東にある。試掘トレンチにより、建物の一部が壊されている。

位置　X＝47,997～48,012　Y＝-74,188～-74,192

重複遺構　５号竪穴建物、２号溝と重複する。新旧関係は５号竪穴建物より新しく、２号溝より旧い。

形状　２号溝との重複により、南壁が明確に確認できなかったが、南北に長い長方形と考えられる。

主軸方位　N－98°－E

規模　東西3.5m　南北(5.14m)

床面積　(16.25㎡)

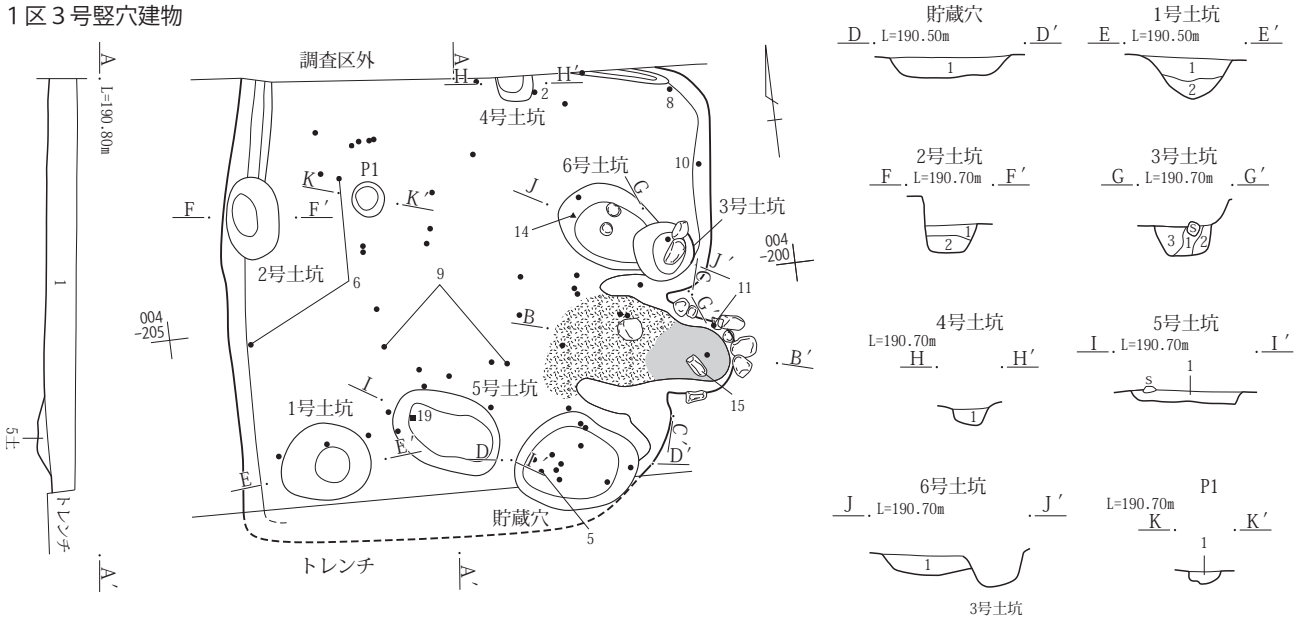
埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近ではAs-C・黄褐色土・焼土粒を含む暗褐色土を確認した。

壁高　７～13㎝

床面　ほぼ平坦で、南に向い緩やかな傾斜が見られる。建物の南西隅で土坑１基を検出した。規模は長径83㎝、短径74㎝、深さ34㎝を測る。

掘方　床面から10㎝前後の深さがあり、南側で土坑・ピット状のくぼみを検出したが、その他の起伏や細かい凹凸

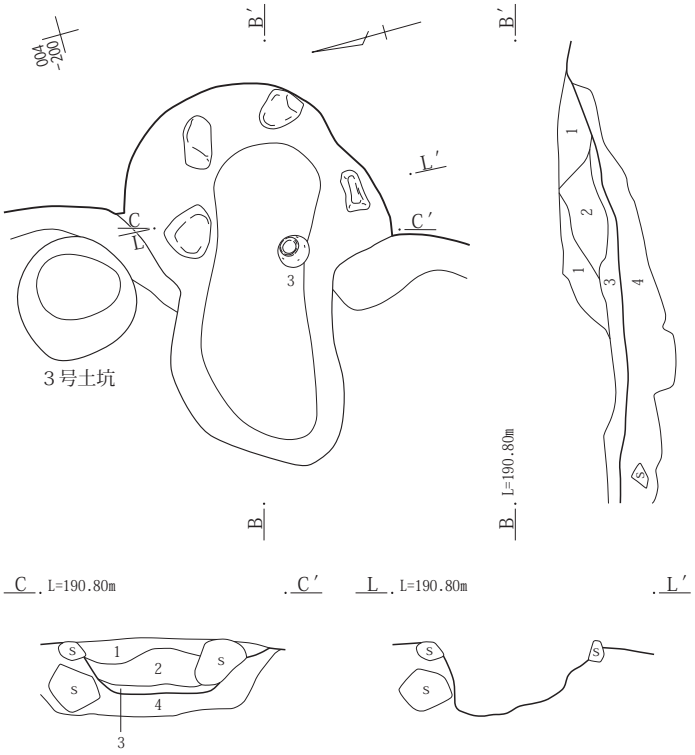
１区３号竪穴建物



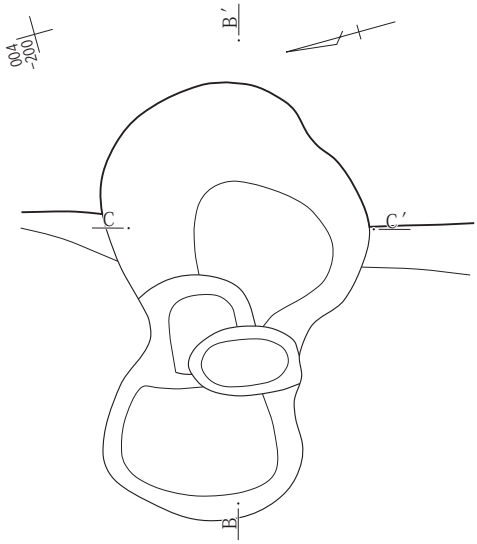
３号竪穴建物
１．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
貯蔵穴
１．暗褐色土　As-C・黄褐色土塊・焼土粒・炭化物粒を多量含む。
１号土坑
１．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
２．黒褐色土　黒色粘質土塊を含む。
２号土坑
１．黒褐色土　炭化物を微量、明黄褐色土塊を少量含む。
２．暗褐色土　炭化物を微量、明黄褐色土塊を多量含む。
３号土坑
１．黒色土　粘質土塊主体、明黄褐色土粒を少量含む。
２．明黄褐色土　粘質土塊主体、黒色粘質土を含む。
３．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
４号土坑
１．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
５号土坑
１．黒褐色土　炭化物を微量、明黄褐色土塊を少量含む。
６号土坑
１．暗褐色土　明黄褐色粘質土塊、炭化物粒・焼土粒を多量含む。
Ｐ１
１．黒褐色土　明黄褐色土塊を少量含む。

0　1：60　2m

竈



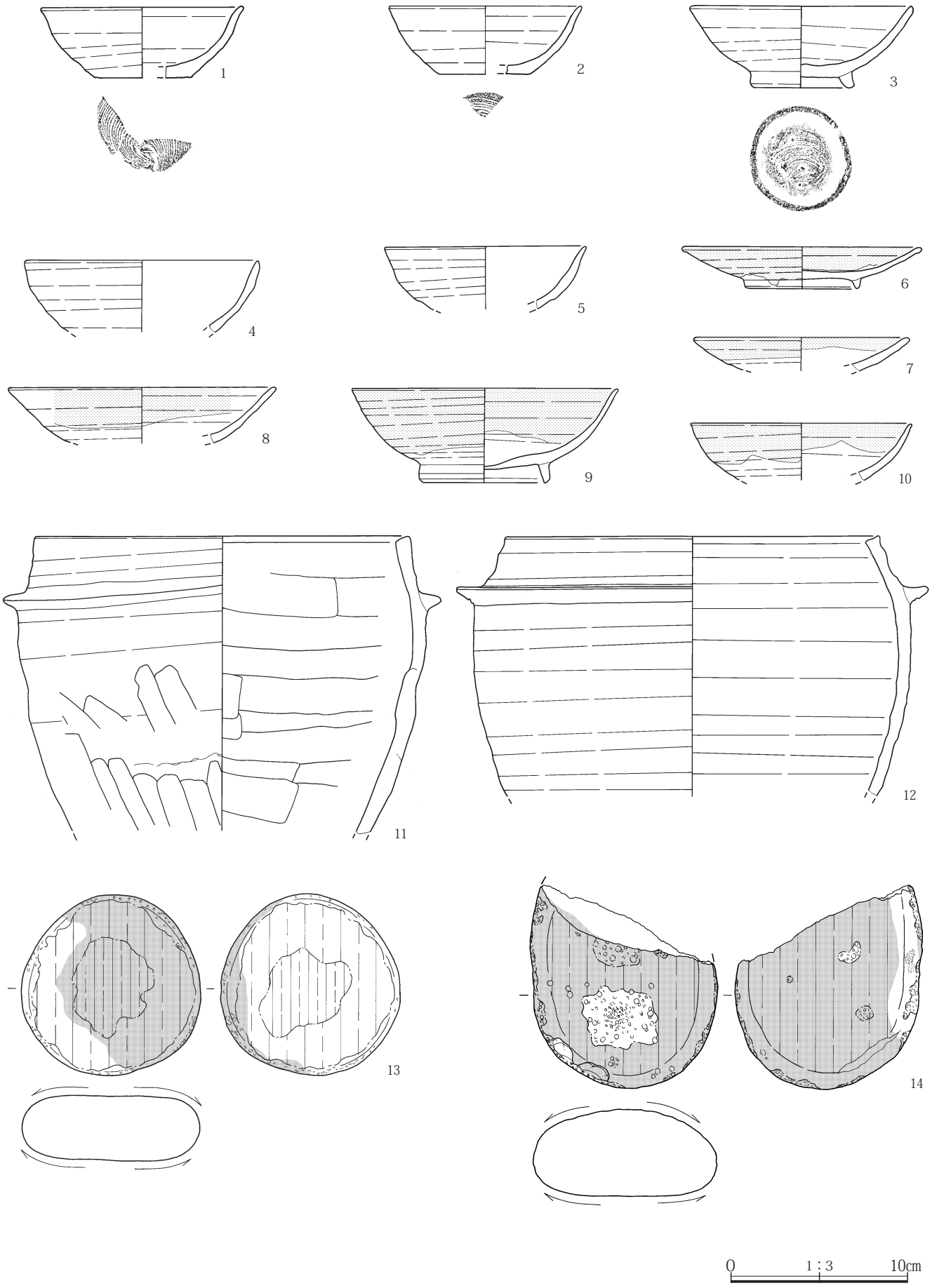
竈掘方



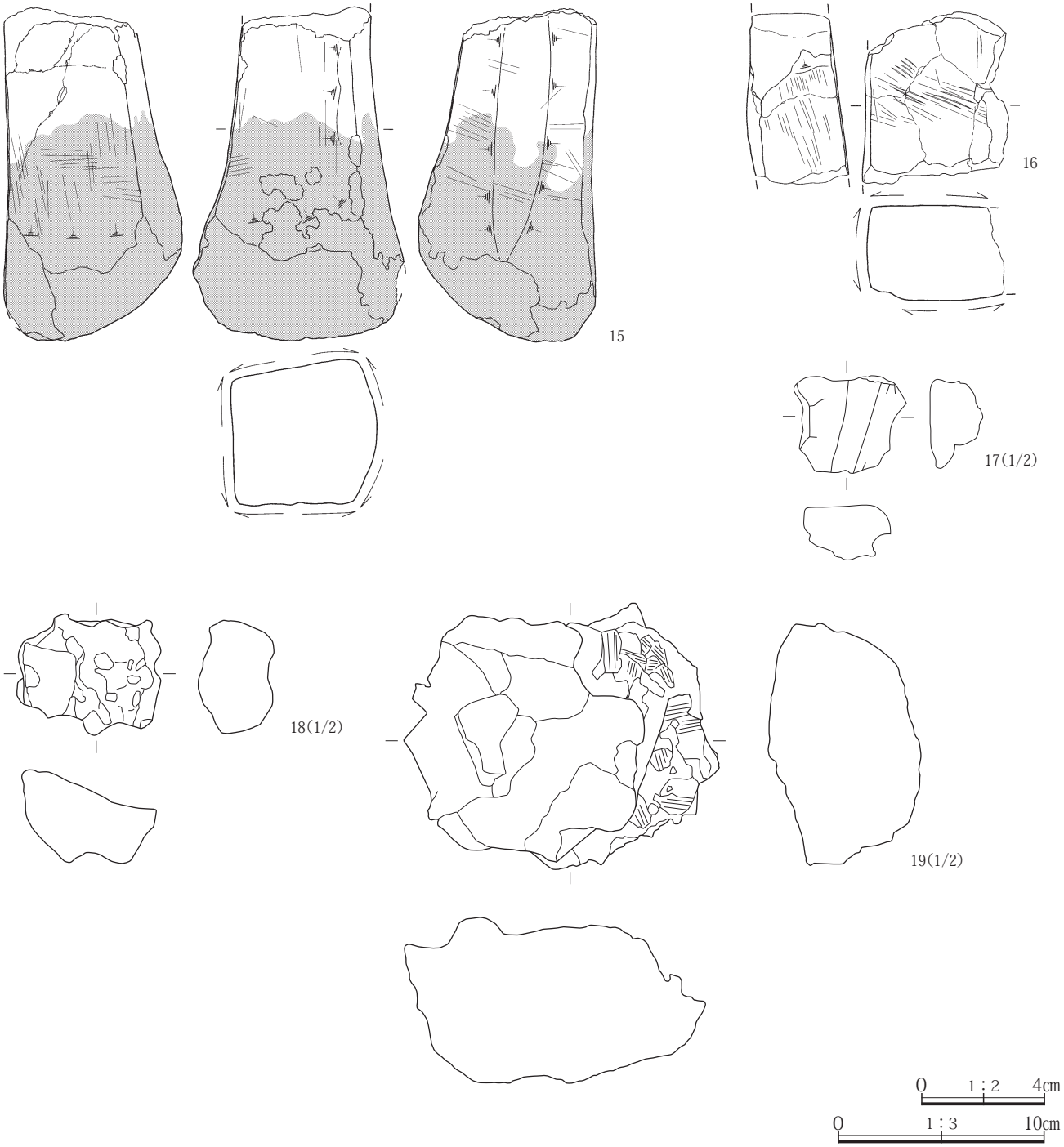
竈
１．にぶい黄褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
２．明黄褐色土　粘質塊主体、天井の崩落土。
３．黒色土　層状に灰層が厚く堆積。
４．にぶい黄褐色土　黒色粘質土・焼土粒・炭化物を含む。締りあり。

0　1：30　1m

第９図　３号竪穴建物（１）

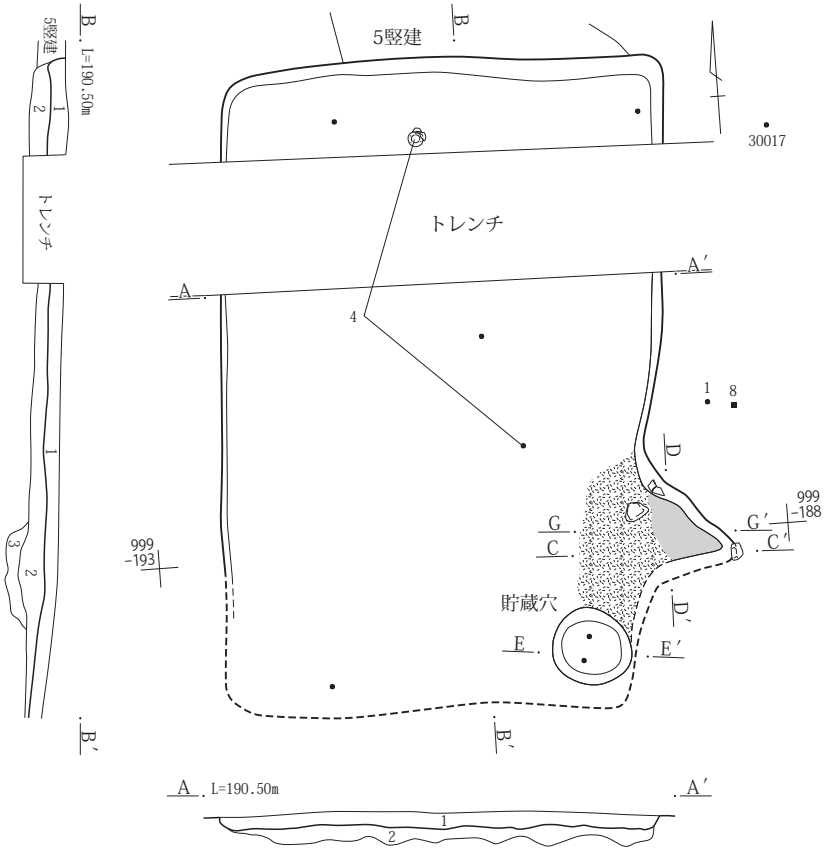


第10図　３号竪穴建物（２）



第11図　３号竪穴建物（３）

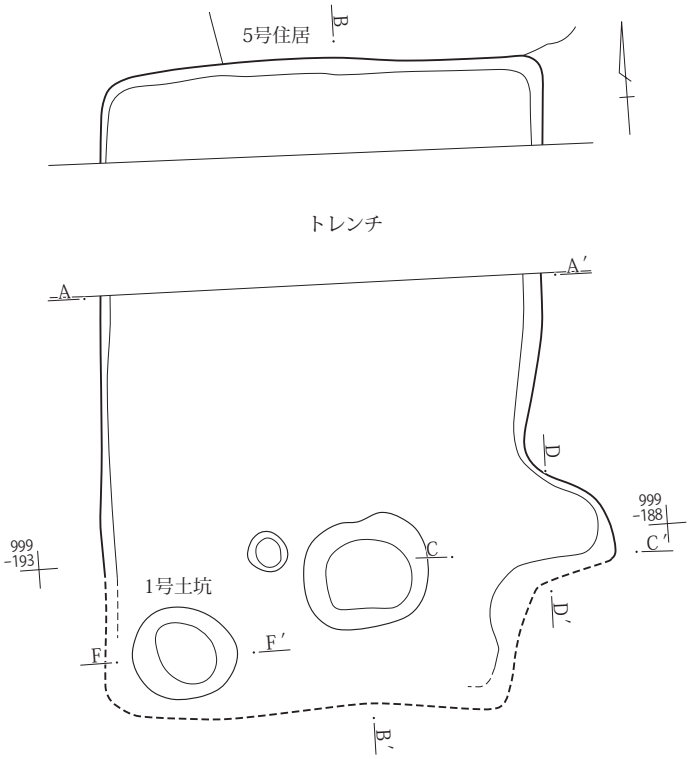
１区４号竪穴建物

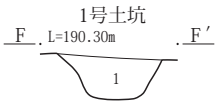


貯蔵穴
１．黒褐色土　As-C、黄色土塊・粘土塊を多量含む。

４号竪穴建物
１．暗褐色土　As-C・黄褐色土・焼土粒を少量含む。
２．黒褐色土　As-C・黄色土塊・粘土塊を多量含む。
３．黒褐色土　As-C・黄色土塊・粘土塊を少量含む。

掘方



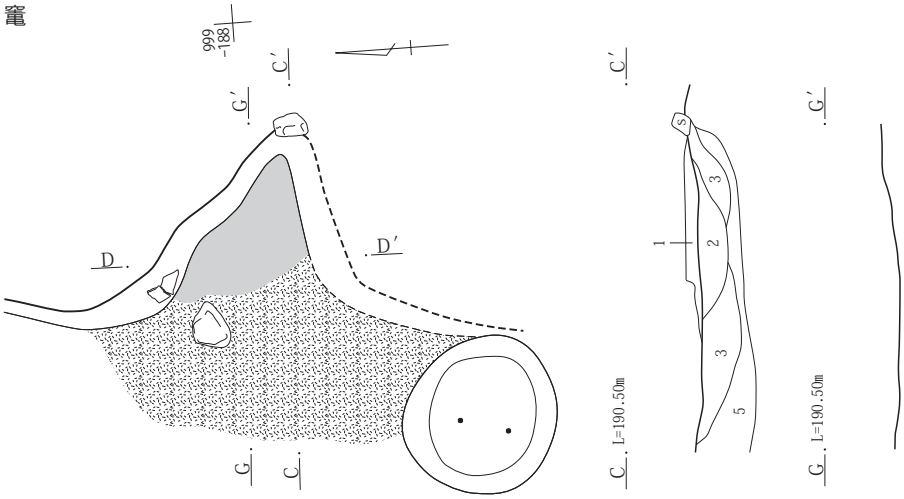


1号土坑
１．黒褐色土　白色粒・黄色粒・炭化物粒・礫を含む。

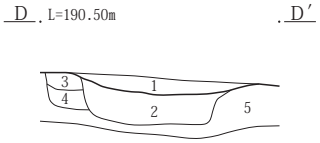
0　1：60　2m

第12図　４号竪穴建物（１）

竈



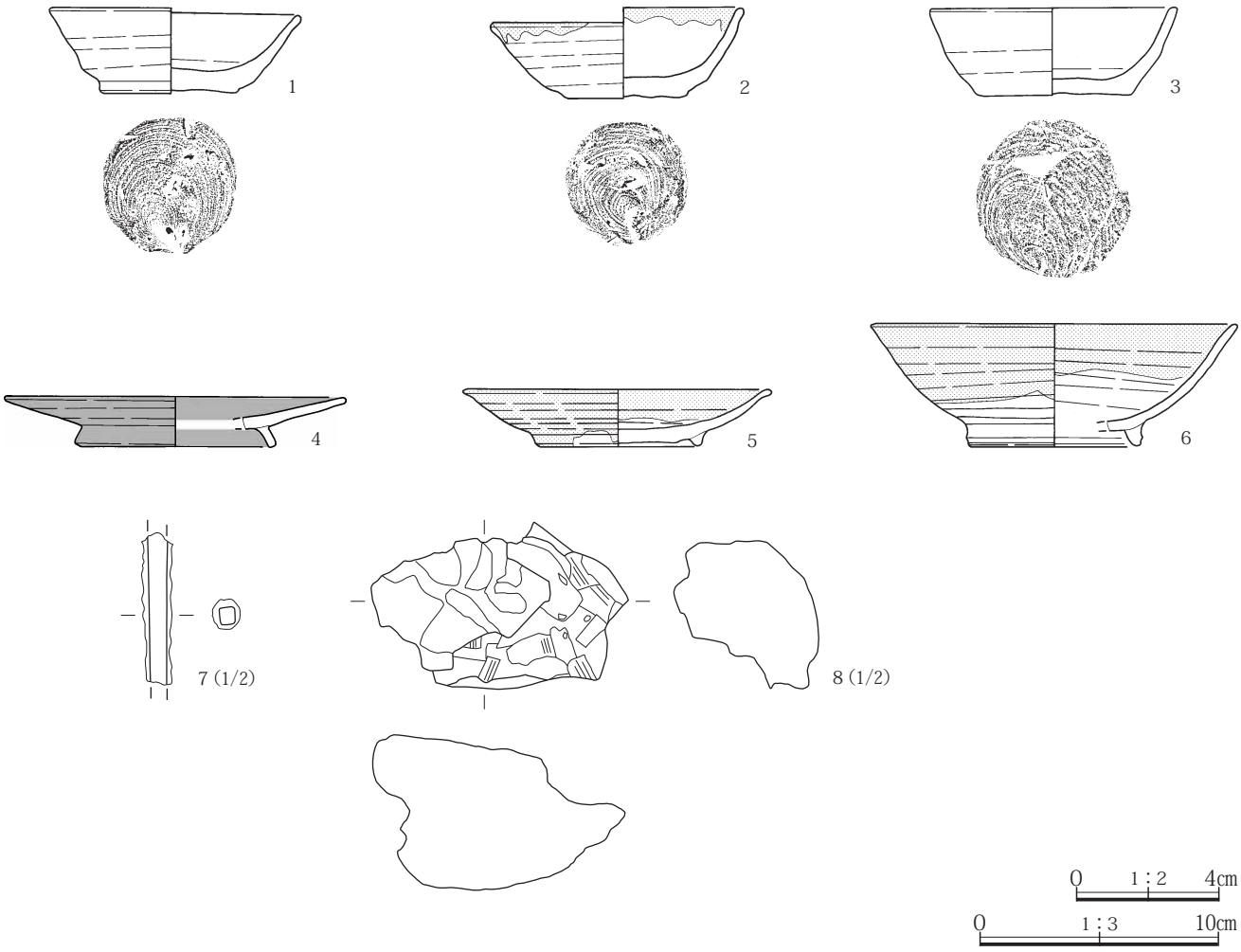
貯蔵穴



竈

1．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒・黄褐色土塊・焼土塊を多量、黄褐色粘質土塊を少量含む。
2．浅黄橙色土　灰・焼土粒・炭化物粒を多量含む。
3．黒褐色土　焼土塊を多量含む。
4．赤褐色土　焼土層。礫を含む。
5．黒褐色土　焼土粒を少量含む。

0　1：30　1m



第13図　４号竪穴建物（２）

は少なめである。

竈　東壁南寄りに検出された。規模は長軸(75㎝)、袖幅(80㎝)を測る。上部が削平により壊されており、燃焼部の底部以下を残すのみであったが、焼土・炭化物を含む厚い層が見られ、焚口から貯蔵穴に至る範囲の床面で灰を検出した。拳大の石がその付近で数点出土しており、竈構築材の可能性がある。

貯蔵穴　南東隅にある。規模は長径63㎝、短径60㎝のほぼ円形、深さ10㎝を測る。

柱穴　床面でピットを確認することはできなかったが、掘方の調査により建物の南西部でピット状のくぼみを検出した。計測値は長径34㎝、短径32㎝、床面からの深さ20㎝であり、主柱穴の可能性がある。建物北部は試掘トレンチにより壊されており、その位置に柱穴があった可能性もある。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中などから多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、１～３：須恵器の椀(１・２は床面直上)、４：緑釉陶器の皿(床面直上)、５：灰釉陶器の皿、６：同椀、７：釘、８：鉄滓である。

所見　主軸に対してはっきりとした横長の建物である。他の多くの建物同様、竈の右側に貯蔵穴があるが、南西隅で検出した１号土坑も、その規模と形状から、貯蔵穴に類するものである可能性がある。床面直上で出土した遺物から、時期は10世紀第２四半期である。

１区５号竪穴建物(第14図、第８表、PL.２・３)

調査区西側、４号竪穴建物の北に位置し、建物の南西部が重複している。また､建物の北側が調査区外にあり、確認できた範囲は少ない。

位置　X＝48,002～48,004　Y＝-74,188～-74,191

重複遺構　４号竪穴建物と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　掘方の調査から方形の様相も呈しているが、確認できた範囲が限られており、形状は不明である。

主軸方位　不明である。竈の主軸方位は、N－140°－Eとして調査を行った。

規模　東西(2.42m)　南北(1.49m)

床面積　(3.30㎡)

埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近ではAs-C・黄褐色土・焼土・炭化物を含む暗褐色土を確認した。

壁高　10～15㎝

床面　ほぼ平坦である。

掘方　床面から15㎝前後の深さで、起伏は少ない。

竈　建物全体の形状が明らかでないため、竈の位置も不確かであるが、掘方の調査で、竈を境に建物の範囲が直角に曲がる状況が見られ、竈の位置は建物の南東隅である可能性がある。上部は削平されており、一部は焼土面の下まで撹乱によって壊されているが、焼土・灰・炭化物を検出した。規模は長軸115㎝、袖幅95㎝を測る。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土器が出土した｡掲載した遺物は１：須恵器の短頸壺、２：灰釉陶器の短頸壺である。

所見　確認できた範囲が少なく、不明な点の多い建物である。床面直上での出土遺物がなかったため、時期は明らかではないが、埋没土中で出土した遺物は９世紀～10世紀のものである。

１区６号竪穴建物(第15～17図、第８表、PL.３・46)

調査区西側、４号竪穴建物の７m程東にある。試掘トレンチにより、建物の一部が壊されている。

位置　X＝47,997～48,012　Y＝-74,181～-74,186

重複遺構　25号土坑と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　方形に近いが西壁が曲がっており、北壁と南壁が平行にならず、長さも異なる。不整形。

主軸方位　N－96°－E

規模　東西5.15m　南北5.57m

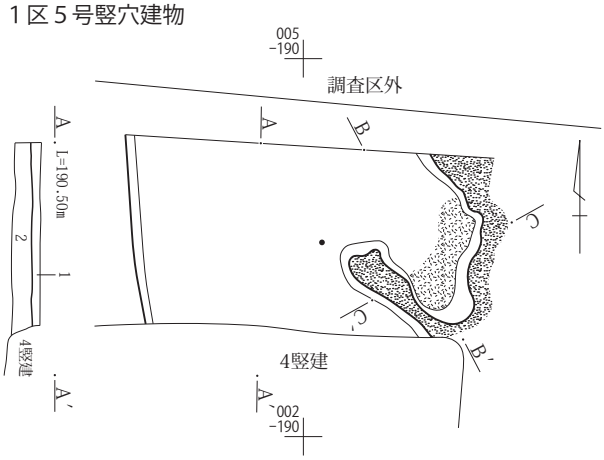
床面積　23.46㎡

埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近ではAs-C・焼土・炭化物を含む暗褐色土を確認した。

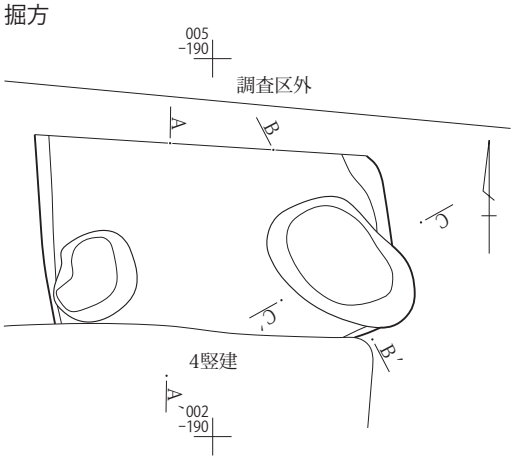
壁高　８～27㎝

床面　ほぼ平坦だが､南に向い緩やかな傾斜が見られる。竈周辺から建物の中央及び北側にかけて硬化面が見られる。また、竈付近から建物の中央方向への80㎝×40㎝程の範囲で粘土を検出した。

１区５号竪穴建物



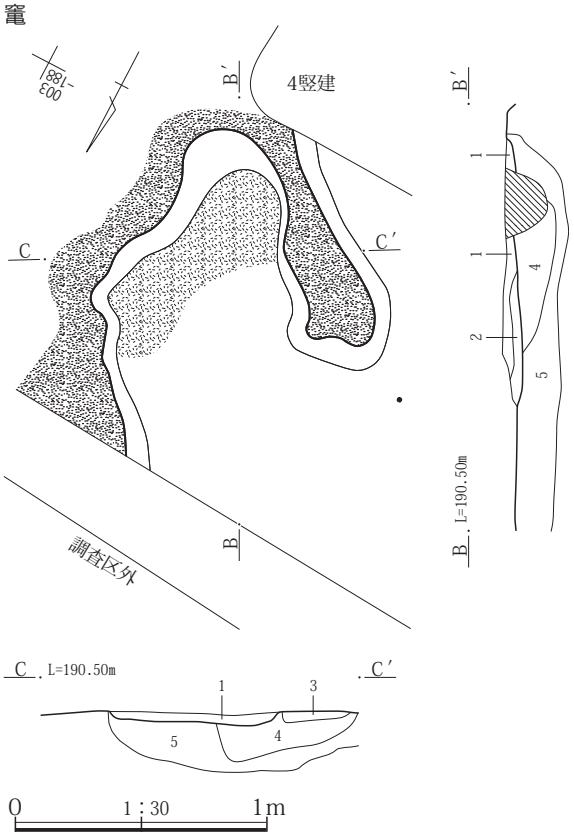
掘方



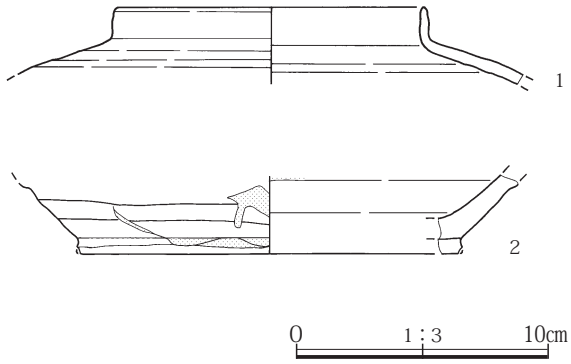
５号竪穴建物
１．暗褐色土　As-C・黄褐色土を多量、炭化物粒・焼土粒を少量含む。
２．黒褐色土　白色軽石・褐色土塊を多量含む。

0　1：60　2m

竈

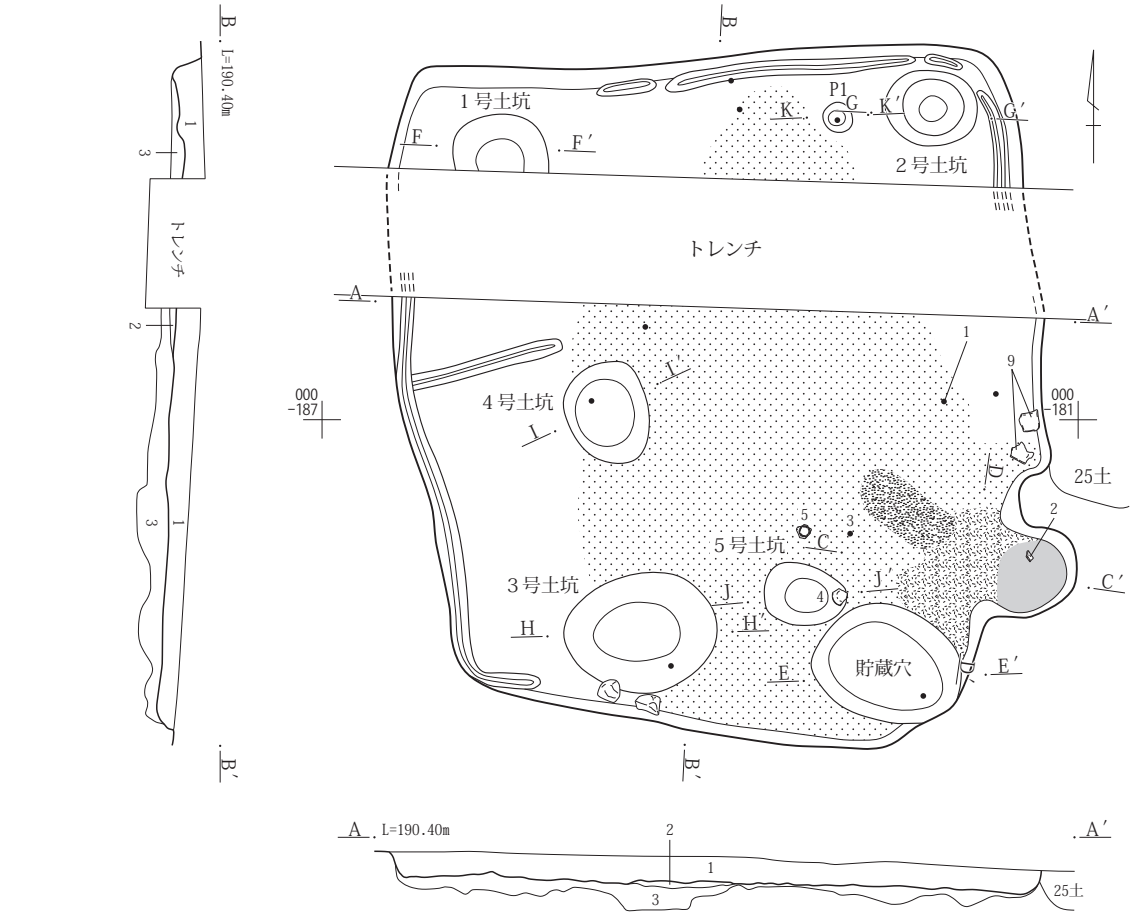


竈
１．黒褐色土　白色軽石・褐色土塊を多量、黄褐色土塊・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
２．黒褐色土　炭化物・焼土粒を多量含む。
３．明黄褐色土　黒色土塊を少量含む。締りあり。やや粘質土。
４．褐灰色土　焼土・灰・炭化物粒を多量含む。
５．黒褐色土　白色軽石・褐色土塊を多量含む。締りあり。

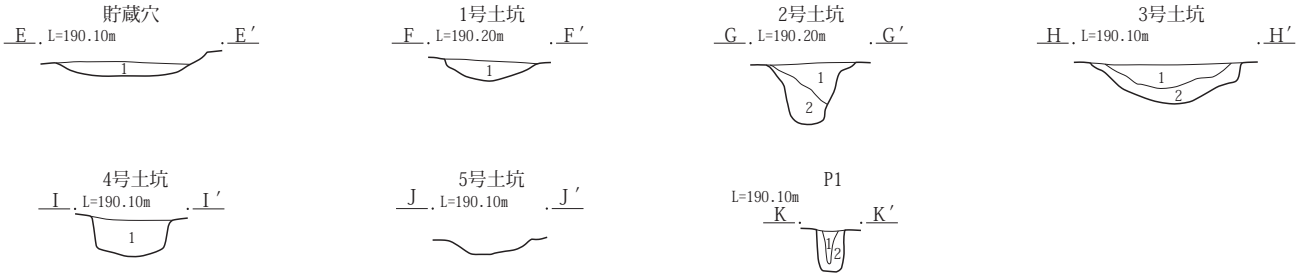


第14図　５号竪穴建物

１区６号竪穴建物



６号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Cを多量、炭化物粒・焼土塊を少量含む。
２．黄褐色土　砂質。貼り床。
３．暗褐色土　黄褐色土塊を多量含む。



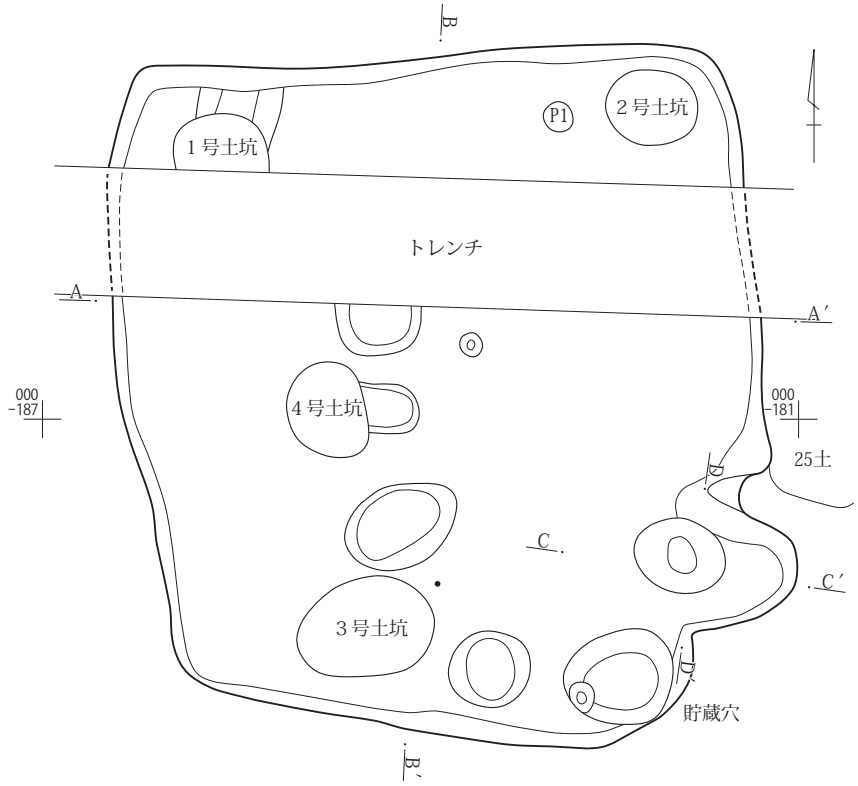
貯蔵穴
１．暗褐色土　As-C・明黄褐色土塊・黒色粘質土・炭化物粒・焼土粒を多量含む。
１号土坑
１．黒褐色土　As-C・白色粒・黄橙色粒を多量、炭化物粒・焼土粒を少量含む。
２号土坑
１．黒褐色土　As-Cを多量、暗褐色土塊・白色粒・炭化物粒を微量含む。
２．黒褐色土　白色軽石含む。しまりあり。

３号土坑
１．黒褐色土　粘土塊・As-C・炭化物粒を少量、黄橙色粘土を微量含む。
２．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量、黄橙色粘土を微量含む。
４号土坑
１．暗褐色土　As-C・炭化物粒・明黄褐色土塊を多量含む。
Ｐ１
１．黒褐色土　As-C・褐色土塊を微量含む。締りなし。
２．暗褐色土　黄褐色粘質土、As-Cを微量含む。締りあり。

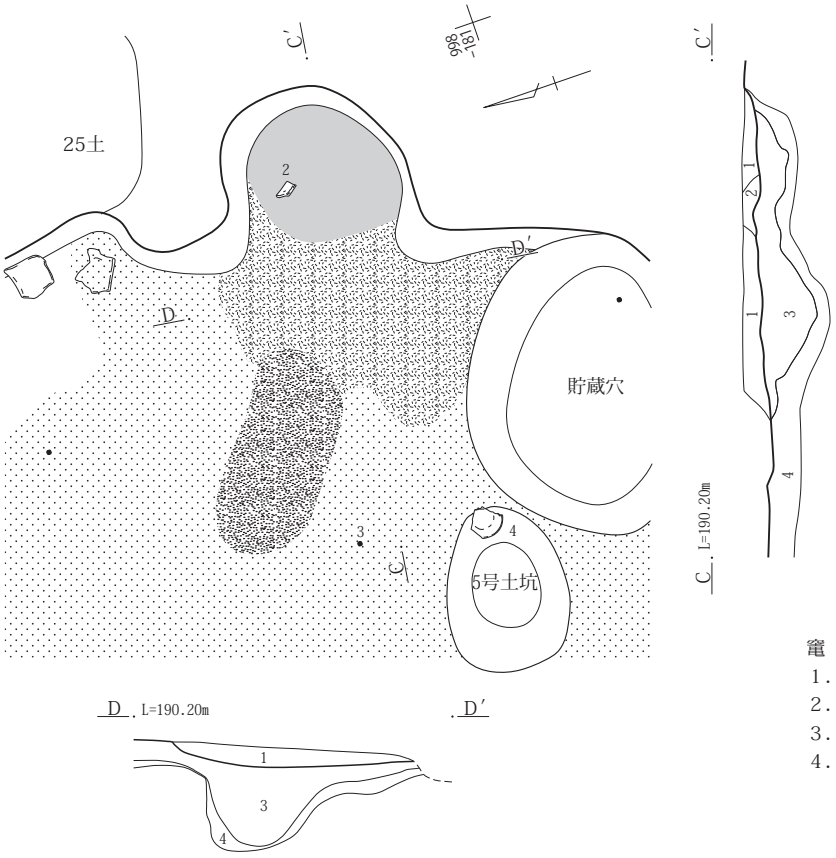
0　1：60　2m

第15図　６号竪穴建物（１）

掘方

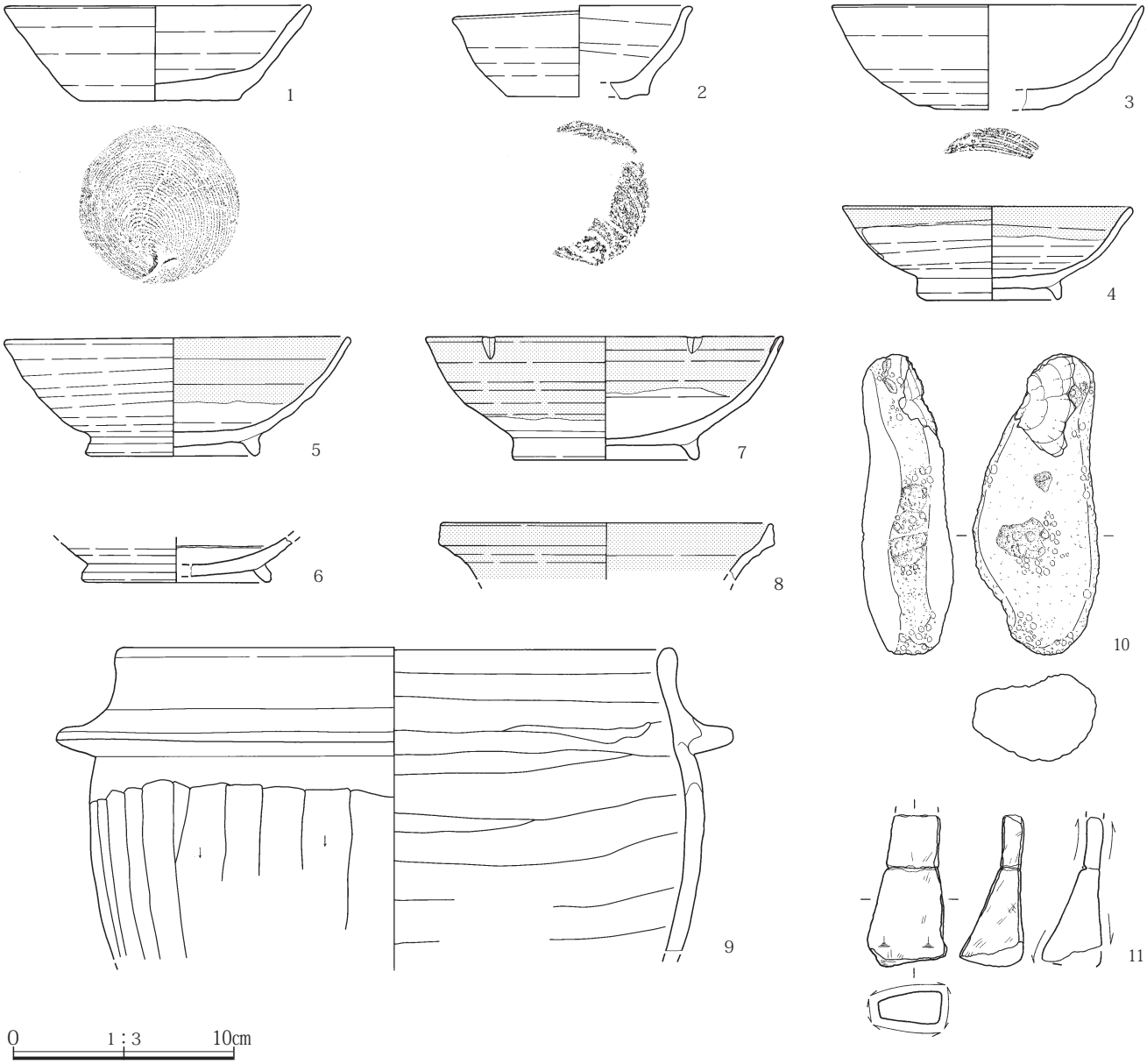


竈



竈
1．暗褐色土　As-C・炭化物粒・焼土粒を含む。
2．暗褐色土　As-C・焼土塊を含む。
3．浅黄橙色土　灰・焼土粒・炭化物粒を多量含む。
4．暗褐色土　黄褐色土塊を多量含む。

第16図　６号竪穴建物（２）



第17図　６号竪穴建物（３）

掘方　床面から10㎝前後の深さで、凹凸が見られる。

竈　東壁の南端に設置しており、規模は長軸72㎝、袖幅74㎝を測る。上部が削平により壊されており、燃焼部の底部以下を残すのみであったが、焼土・炭化物を含む厚い層が見られ、焚口から貯蔵穴に至る範囲の床面で灰を検出した。

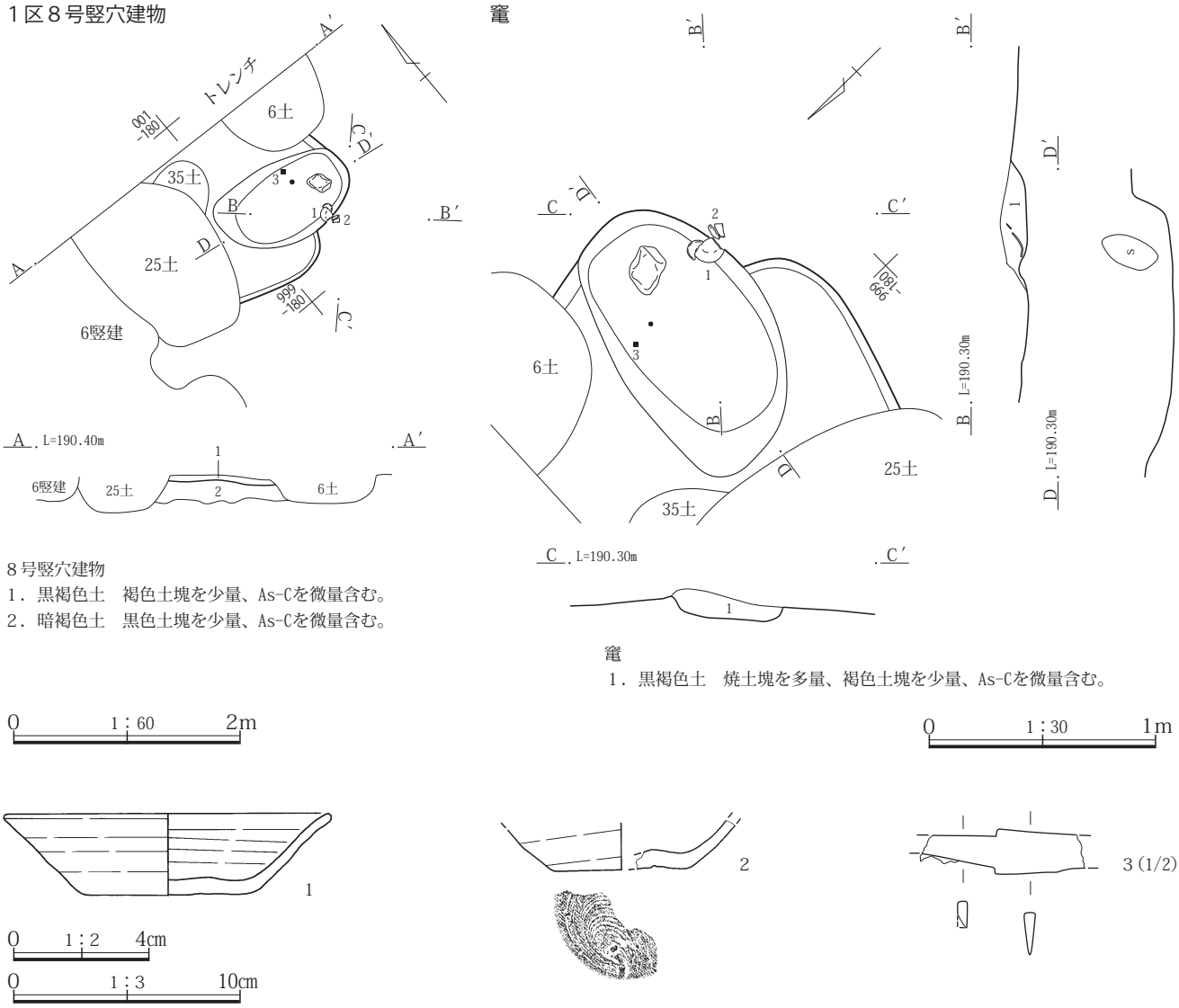
貯蔵穴　建物の南東隅にある。規模は長径117㎝、短径93㎝の楕円形、深さ11㎝を測る。

柱穴　建物の北東隅でピット１基を検出した。計測値は長径24㎝、短径23㎝、深さ33㎝であった。主柱穴である可能性があるが、他にピットは検出されなかった。

壁溝　南壁の西端から試掘トレンチまでの西壁付近、北壁の中央から東壁の試掘トレンチまでの範囲で壁溝を確認した。幅５㎝～10㎝、深さ３㎝～５㎝を測る。

遺物　竈内、床面直上や埋没土中から土器、石製品が出土した。掲載した遺物は、１：須恵器の杯（床面直上）、２・３：同椀（２は竈内）、４～６：灰釉陶器の椀（５は床面直上）、７：同輪花椀、８：同壺、９：羽釜（竈付近）、10：敲石、11：砥石である。

所見　床面の硬化範囲から、出入り口は南壁中央付近の可能性がある。西壁のほぼ中央から建物内に向かう、幅６㎝～７㎝の床面小溝を検出した。これが古墳時代に見られる転ばし根太などの据え付け掘方に相当するかは、検討が必要である。床面では、５基の土坑を検出した。



第18図　８号竪穴建物

それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

１号土坑　76×(45)×16　　２号土坑　73×61×49

３号土坑　121×94×33　　４号土坑　81×65×33

５号土坑　67×49×11

この建物の使用に伴うものとして調査を行ったが、これらの用途は不明である。建物の規模や形状、数基の土坑、床面小溝、出土遺物が特徴的である。周辺の建物とは異なる目的で使用された建物である可能性がある。床面直上や竈内及びその付近から出土した遺物から、時期は10世紀第２四半期である。

１区８号竪穴建物（第18図、第８表、PL.３・46）

調査区西側、６号竪穴建物の東にある。３基の土坑と重複し、試掘トレンチによって壊されており、調査できたのは、建物のごく一部である。

位置　X＝47,999・48,000　Y＝-74,179・-74,180

重複遺構　６号・25号・35号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が最も旧い。

形状　建物の大部分が土坑との重複や試掘トレンチによって壊されており、形状は不明である。

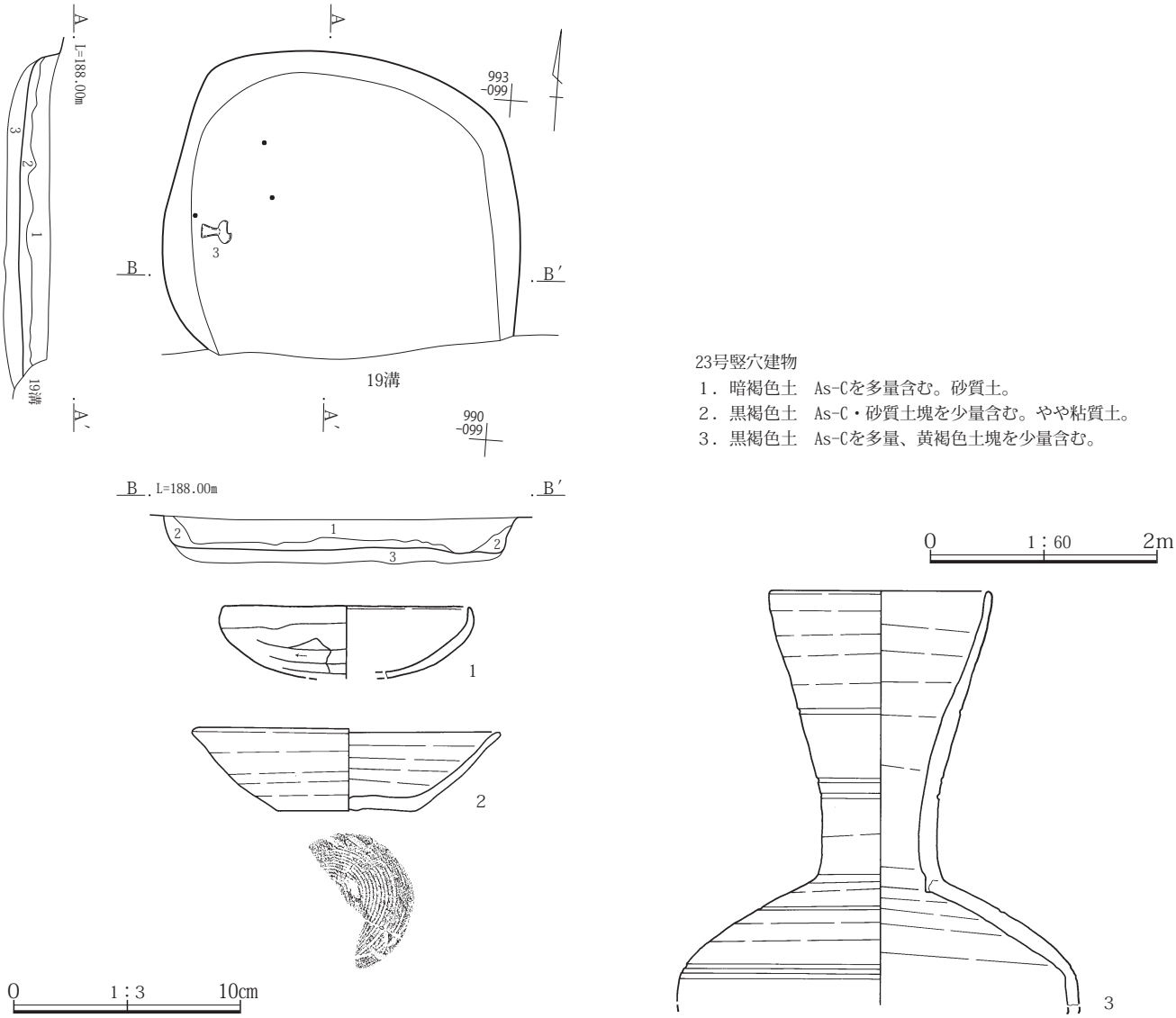
主軸方位　不明である。竈の主軸方位は、N－109°－Eである。

規模　東西(1.2m)　南北(1.55m)

床面積　(1.66㎡)

埋没土層　後世の削平・撹乱がひどく、埋没土上層は不明だが、床面付近ではAs-C・褐色土塊を含む黒褐色土を確認した。

１区23号竪穴建物



23号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Cを多量含む。砂質土。
２．黒褐色土　As-C・砂質土塊を少量含む。やや粘質土。
３．黒褐色土　As-Cを多量、黄褐色土塊を少量含む。

第19図　23号竪穴建物

壁高　６㎝

床面　東に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から10㎝前後の深さで、凹凸が見られる。

竈　建物の南東隅とみられる位置に設置している。削平により、構築材は残っておらず、わずかに焼土面を残すのみであった。規模は長軸123㎝、袖幅75㎝を測る。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や掘方から数点の遺物が出土した。掲載した遺物は、１・２：須恵器の杯(床面直上)、３：刀子(床面直上)である。

所見　建物の大部分が土坑との重複や試掘トレンチによって壊されているため、確認できた範囲が限られているが、床面直上で出土した遺物から、時期は９世紀第３四半期である。

１区23号竪穴建物(第19図、第８表、PL.３・47)

調査区中央から、やや東寄りの位置にある。

位置　X＝47,990～47,993　Y＝-74,098～-74,101

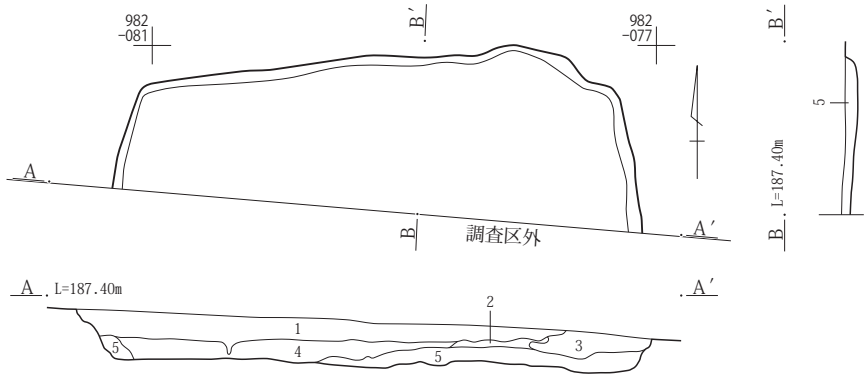
重複遺構　19号溝と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　不整形

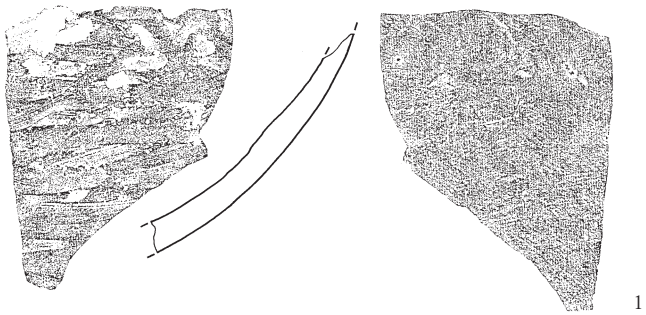
主軸方位　失われている南壁以外に竈が見られず、不明であるが、長軸方位はN－３°－Wである。

規模　東西3.15m　南北(2.7m)

１区24号竪穴建物



24号竪穴建物
１．灰黄褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊・炭化物粒を含む。やや砂質。
２．明黄褐色土　As-B・As-C・炭化物粒を含む。やや砂質。
３．暗褐色土　明黄褐色土塊を多量、As-B・As-C・炭化物粒を少量含む。やや砂質。
４．にぶい黄褐色土　明黄褐色土塊を多量、As-B・As-C・炭化物粒を少量含む。やや砂質。
５．黒褐色土　As-C・褐灰色土塊を含む。



0　1：60　2m

0　1：3　10cm

第20図　24号竪穴建物

床面積　(5.94㎡)

埋没土層　埋没土上層はAs-Cを多量に含む暗褐色土、床面付近はAs-C・砂質土塊を少量含む黒褐色土である。

壁高　29～34㎝

床面　多少の起伏はあるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から10㎝前後の深さがある。凹凸が少なく、比較的平坦である。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中から土器が出土した。土師器の甕が多かったが小片が多く、掲載した遺物は、１：土師器の杯、２：須恵器の杯、３：同長頸壺(床面直上)である。

所見　竈は検出されていない。土器は数点出土しているが、建物の規模が小さめで、土層中に焼土や炭化物が見られないことから、日常の生活の場とは異なるものである可能性もある。床面直上で出土した遺物から、時期は７世紀後半である。

１区24号竪穴建物(第20図、第８表、PL.３)

調査区東側、23号竪穴建物の南東約20mの位置にある。建物の北側以外の大部分が調査区外にある。

位置　X＝48,180・48,181　Y＝-74,077～-74,081

重複遺構　なし

形状　方形と見られるが、大部分が調査区外のため不明である。

主軸方位　北壁の方位を計測するとN－84°－Eである。

規模　東西4.12m　南北(1.4m)

床面積　(4.16㎡)

埋没土層　埋没土上層は明黄褐色土塊・As-B・As-Cを含むやや砂質の土層で、後世の削平・撹乱や洪水等の影響を受けていた。床面付近では、As-C・褐灰色土塊を含む黒褐色土を確認した。

壁高　４～10㎝

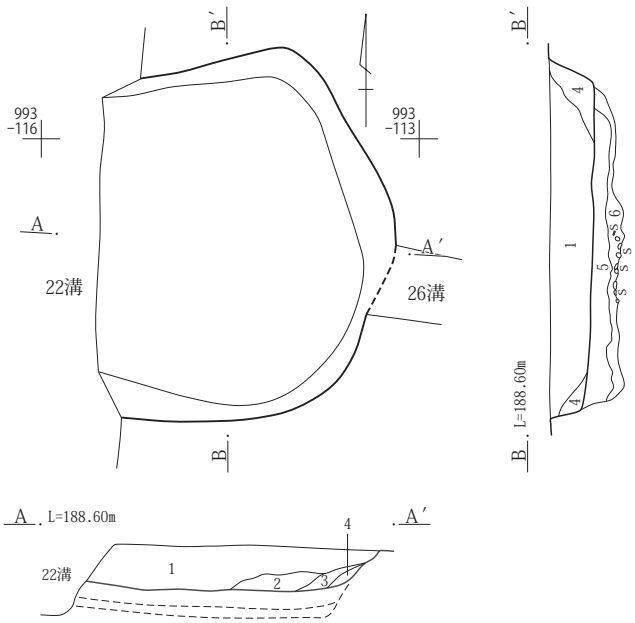
床面　少々起伏がある。掘方はなく、地山を直接床面としている。

竈　確認できなかった。

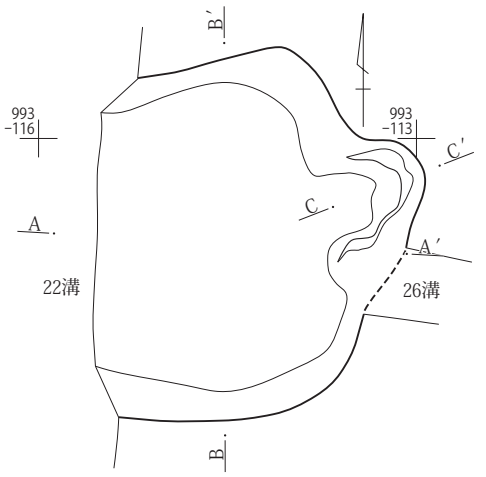
貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

１区30号竪穴建物



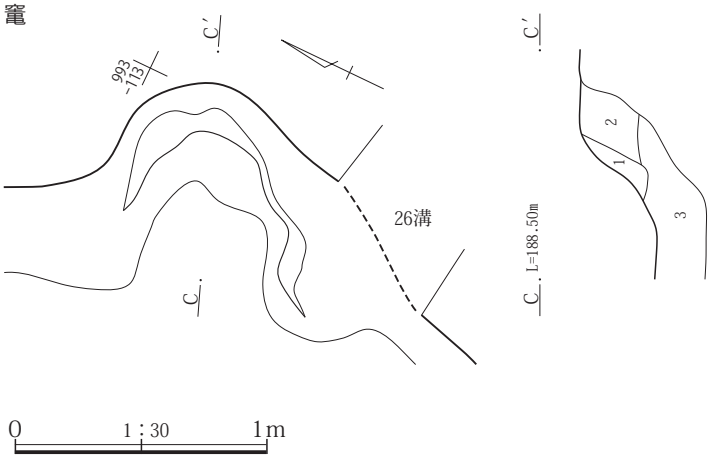
掘方



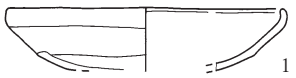
30号竪穴建物
1．暗褐色土　As-Cを多量に、黒色粘質土塊を少量含む。やや砂質。
2．暗褐色土　As-C・黄褐色土・焼土粒を少量含む。
3．にぶい黄褐色土　明黄褐色土塊、As-Cを少量、焼土・炭化物を微量含む。
4．黒褐色土　As-C・黄色土塊・粘土塊を多量含む。
5．黒褐色土　As-Cを多量、明黄褐色土塊を少量含む。
6．にぶい黄褐色土　中央下部に礫を多量、As-C、黒褐色土塊を少量含む。

0　1：60　2m

竈



竈
1．明黄褐色土　焼土粒を少量含む。やや粘質土。締りあり。
2．黒褐色土　白色軽石・黄褐色土塊を少量含む。
3．黒褐色土　白色軽石・褐色土塊を多量含む。締りあり。



0　1：30　1m

0　1：3　10cm

第21図　30号竪穴建物

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中から土師器や須恵器がそれぞれ数点出土した。掲載した遺物は、須恵器の甕（床面直上）である。

所見　建物の大部分が調査区外にあり、調査できた範囲が限られているが、床面直上で出土した遺物から、時期は９世紀後半である。

１区30号竪穴建物（第21図、第８表、PL．４）

調査区のほぼ中央、23号竪穴建物の西約15mの位置にある。

位置　X＝47,990～47,993　Y＝-74,113～-74,115

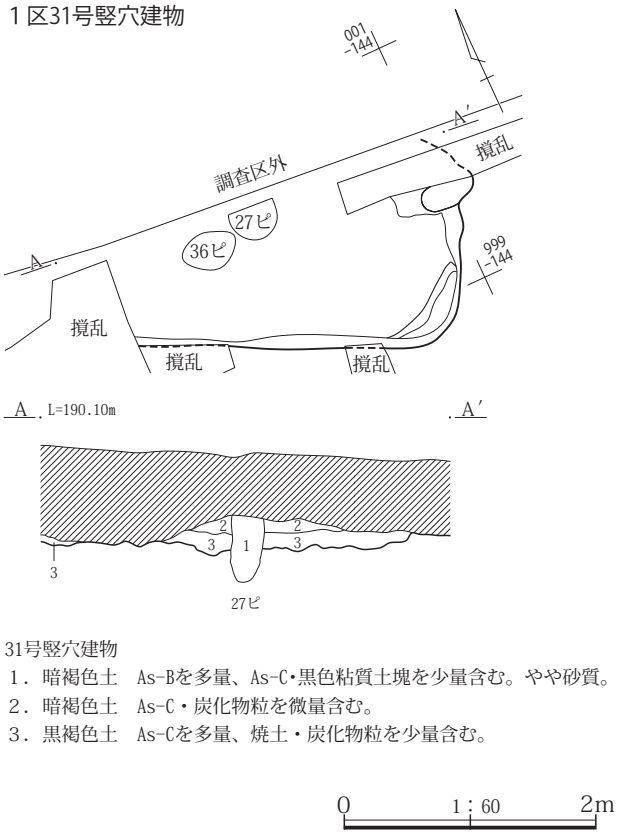
重複遺構　22号・26号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も旧い。

形状　不整形

主軸方位　N－70°－E

規模　東西（2.32m）　南北2.94m

床面積　（4.59㎡）



31号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Bを多量、As-C･黒色粘質土塊を少量含む。やや砂質。
２．暗褐色土　As-C・炭化物粒を微量含む。
３．黒褐色土　As-Cを多量、焼土・炭化物粒を少量含む。

0　1：60　2m

第22図　31号竪穴建物

埋没土層　埋没土の多くはAs-Cを含む暗褐色土で、明黄褐色土塊や黄色土塊などを一部、多量に含んでいる。

壁高　29～35㎝

床面　多少の起伏はあるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から20～30㎝の深さがあり、下部から礫が多数出土している。

竈　掘方の調査により、東壁のほぼ中央で少量の焼土を含む痕跡を検出した。その規模は長軸91㎝、袖幅50㎝を測る。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器がそれぞれ数点出土した。掲載した遺物は、土師器の杯である。

所見　規模の小さい建物である。床面精査時は確認できなかったが、掘方の調査で竈の痕跡を検出した。その位置で重複している26号溝によって東壁の一部と共に竈も壊された可能性がある。床面直上での出土遺物がなかったため、時期は明らかではないが、埋没土中から出土した遺物の多くは、７世紀後半のものである。

１区31号竪穴建物（第22図、PL.４）

調査区中央から、やや西寄り、30号竪穴建物の西約30ｍの位置にあり、建物の大部分は、調査区外にある。また、調査区内にある範囲においても、撹乱等によって、壊されている箇所があったため、確認できたのは建物の南東部分の限られた範囲であった。

位置　Ｘ＝47,998～48,000　Ｙ＝-74,143～-74,146

重複遺構　重複する遺構はないが、27号・36号ピットによって埋没土から床面まで掘り込まれている。

形状　南東部分の形状から方形である可能性が高いが、確認できた範囲が少ないため、明らかではない。

主軸方位　南壁の方位を計測するとＮ－125°－Ｅである。

規模　東西(2.80m)　南北(1.66m)

床面積　(3.11㎡)

埋没土層　埋没土の大部分が後世の削平・撹乱を受けているが、一部の床面付近でAs-C･炭化物を含む黒褐色土・暗褐色土を確認した。

壁高　１～11㎝

床面　地山を直接床面としており、凹凸が見られる。

竈　東壁で竈の一部を検出した。北側は撹乱によって壊されている。また、削平により、構築材は残っておらず、わずかに掘方を残すのみであった。残存部分は長軸65㎝、袖幅(20㎝)を測る。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器が数点出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見　埋没土の大部分が撹乱を受けており、後世の遺物が混入した可能性もあるため、建物の時期は明らかではない。また、出土した遺物も小片のため細かい時期の比定は難しいが、古墳時代後半から平安時代初頭のものとみられる。

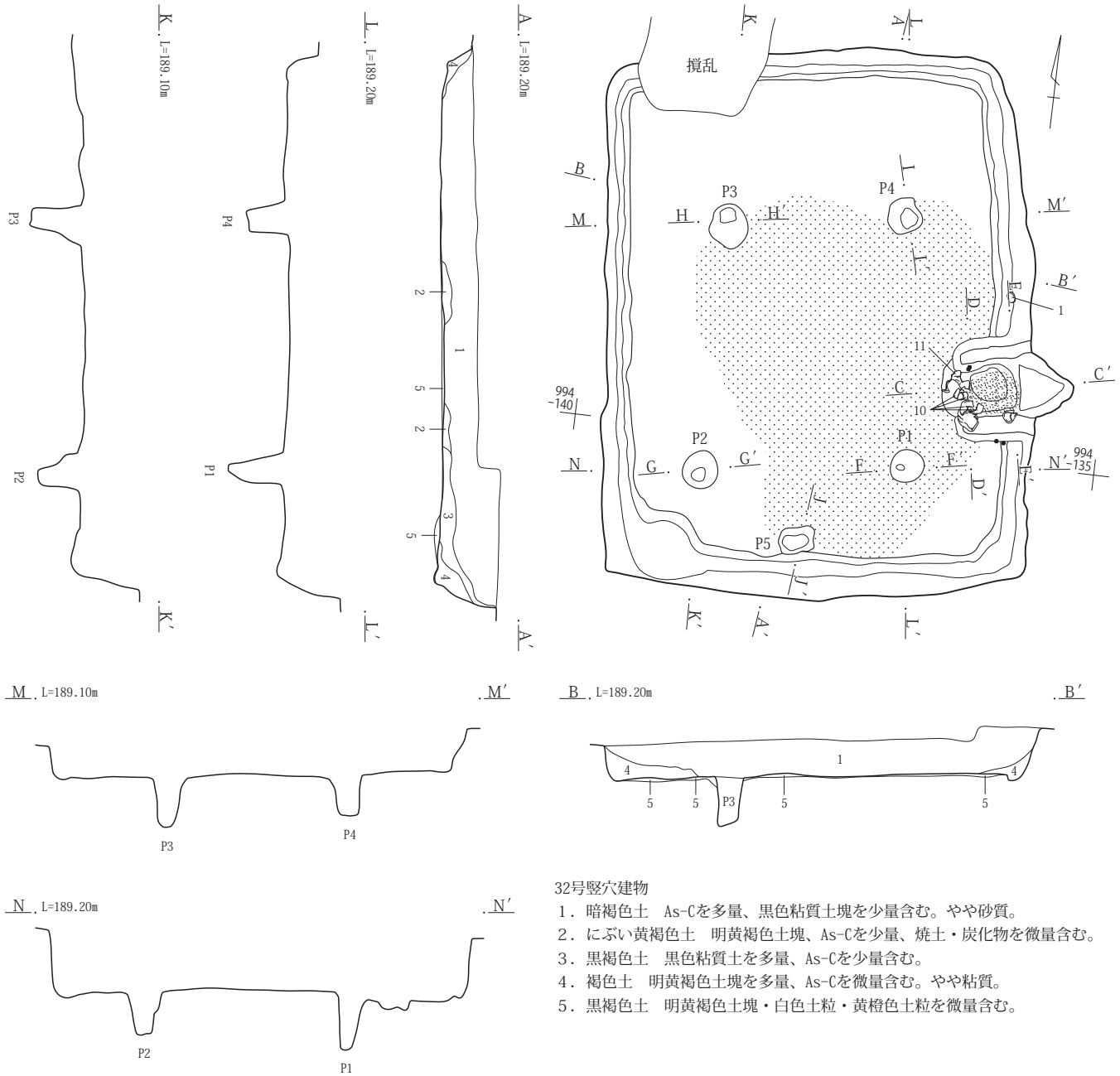
１区32号竪穴建物（第23～25図、第８表、PL.４・47）

調査区のほぼ中央、31号竪穴建物の７ｍ程南東にある。建物の北側の一部が撹乱により壊されている。

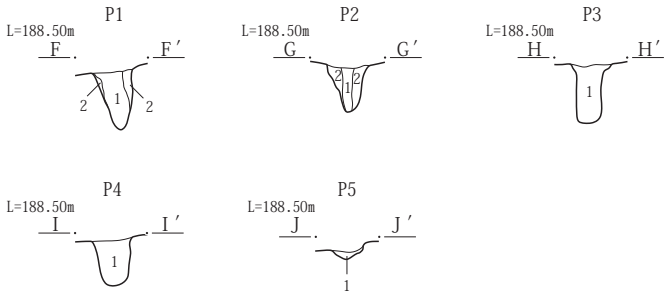
位置　Ｘ＝47,992～47,997　Ｙ＝-74,135～-74,140

重複遺構　なし

１区32号竪穴建物



32号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Cを多量、黒色粘質土塊を少量含む。やや砂質。
２．にぶい黄褐色土　明黄褐色土塊、As-Cを少量、焼土・炭化物を微量含む。
３．黒褐色土　黒色粘質土を多量、As-Cを少量含む。
４．褐色土　明黄褐色土塊を多量、As-Cを微量含む。やや粘質。
５．黒褐色土　明黄褐色土塊・白色土粒・黄橙色土粒を微量含む。

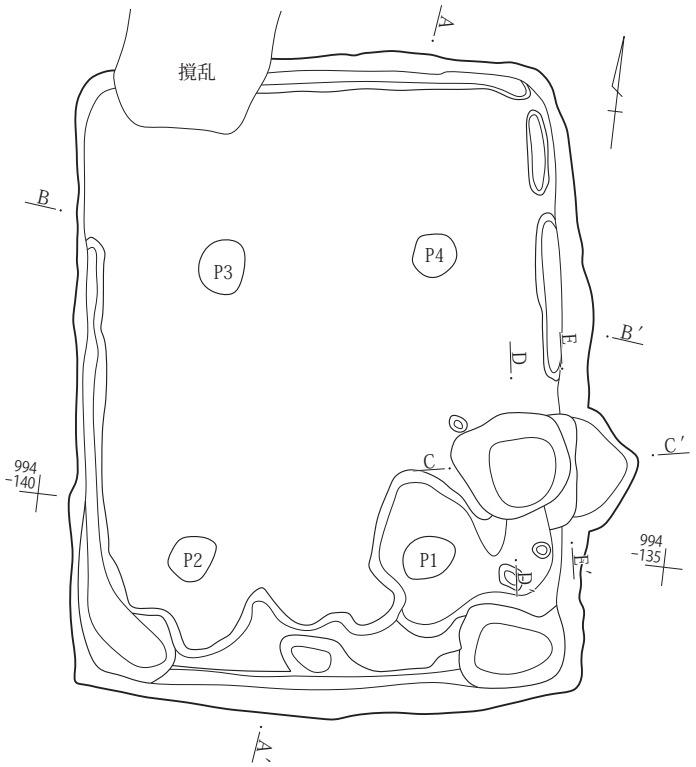


Ｐ１
１．暗褐色土　As-Cを少量含む。締りなし。柱痕。
２．灰黄褐色土　暗褐色土塊を多量含む。締りあり。シルト質。
Ｐ２
１．暗褐色土　As-Cを少量含む。締りなし。柱痕。
２．灰黄褐色土　暗褐色土塊を多量含む。シルト質。
Ｐ３
１．暗褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。
Ｐ４
１．暗褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。
Ｐ５
１．暗褐色土　As-Cを少量含む。締りなし。

0　1：60　2m

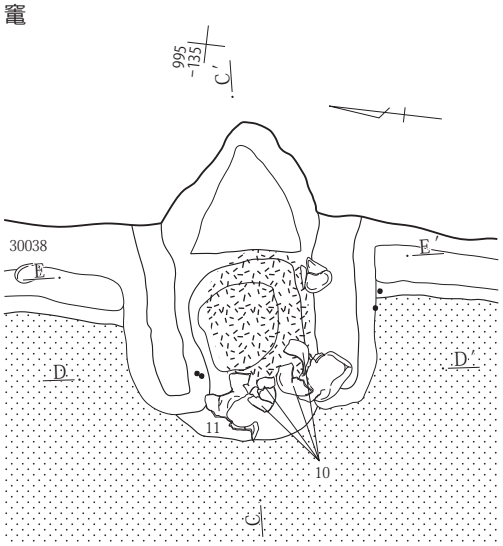
第23図　32号竪穴建物（１）

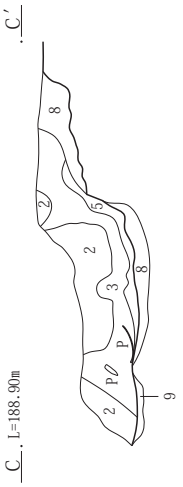
掘方



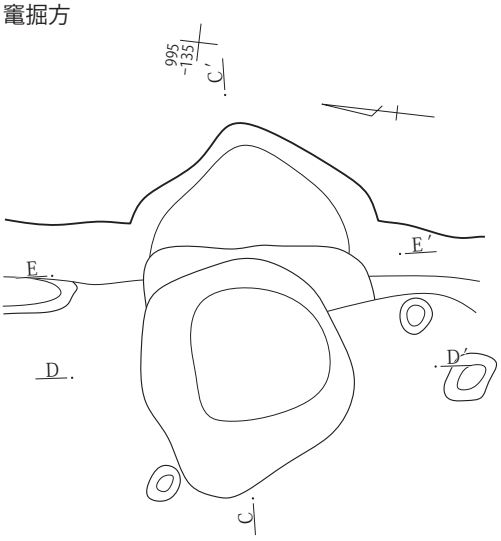
0　1：60　2m

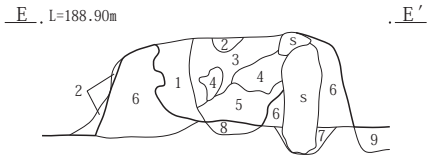
竈

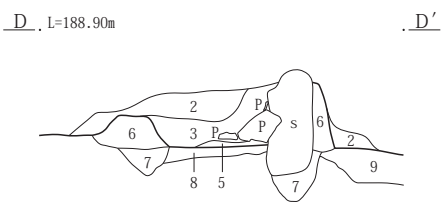




竈掘方





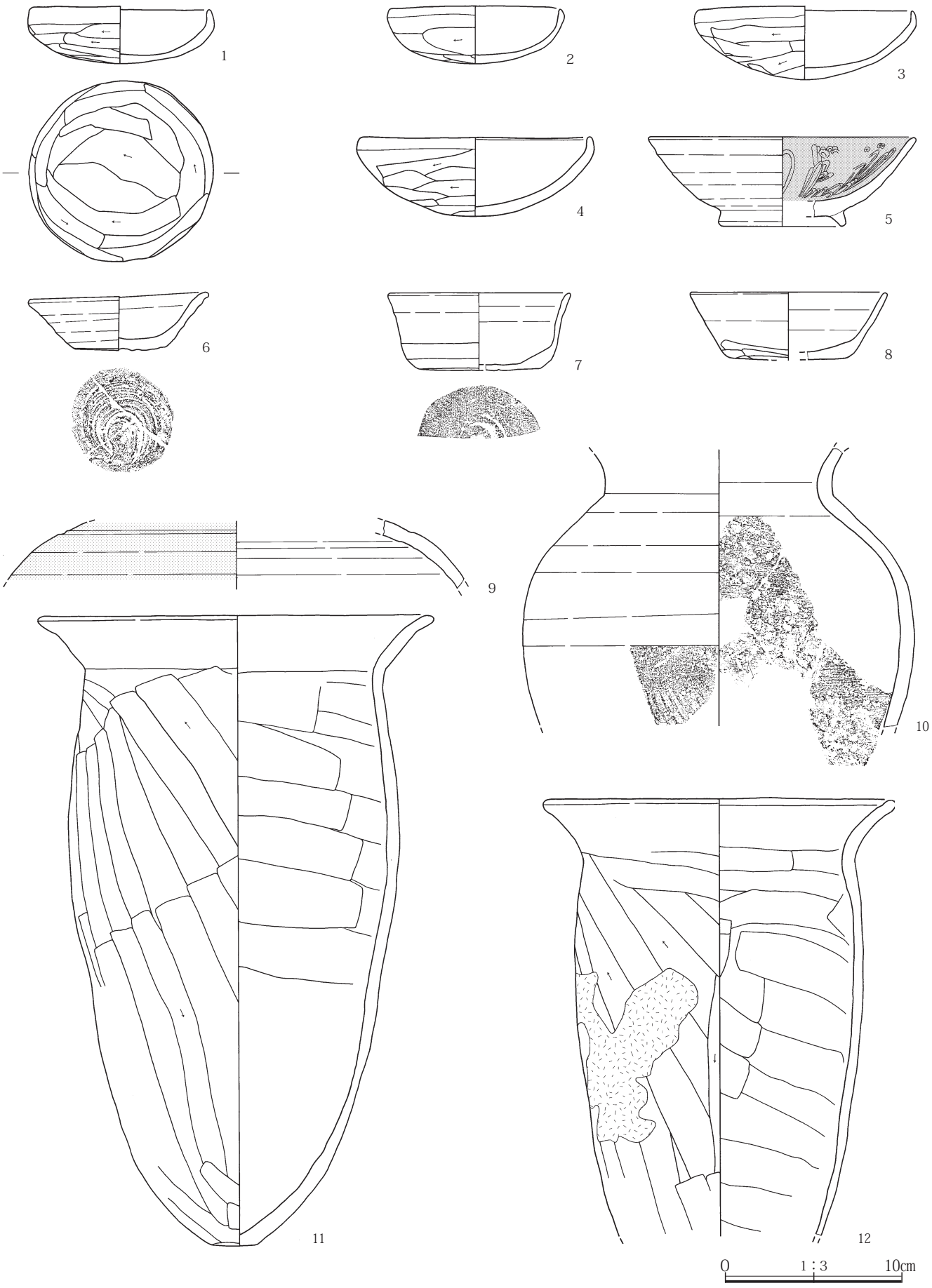


竈

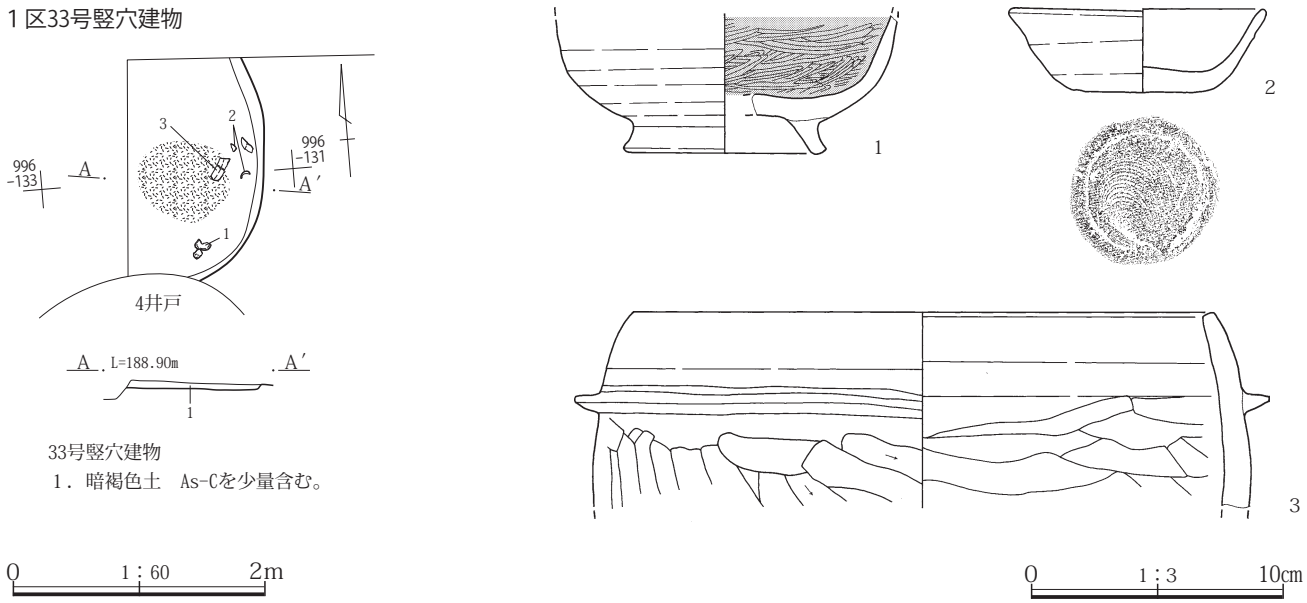
1．暗褐色土　As-C・黄砂質土を少量含む。締りなし。
2．暗褐色土　As-Cを多量、黒色粘質土塊を少量含む。やや砂質。
3．暗褐色土　黄褐色土塊・赤褐色焼土塊・炭化物を多量含む。
4．赤褐色土　暗褐色土塊を多量含む。
5．灰白色土　赤褐色焼土塊・白色粘土塊・黒褐色土塊を少量、炭化物を微量含む。
6．黄褐色土　白色粘土塊を多量、黄橙色土粒・礫・赤褐色焼土塊を少量含む。
7．にぶい黄褐色土　白色粘土塊・黒褐色土塊を微量、黄橙色土粒・As-Cを少量含む。
8．暗褐色土　白色粘土塊を多量、As-C・黄橙色土粒・黒褐色土を少量含む。
9．黒褐色土　白色粘土塊・赤褐色焼土塊を多量含む。貼床構築土。

0　1：30　1m

第24図　32号竪穴建物（２）



第25図　32号竪穴建物（３）



第26図　33号竪穴建物

形状　長方形

主軸方位　Ｎ－81°－Ｅ

規模　東西4.12m　南北5.23m

床面積　18.23㎡

埋没土層　主にAs-C・黒色粘質土塊を含む暗褐色土で埋没している。床面の周縁部にはAs-C・明黄褐色土塊を含む褐色土などが三角堆積している。

壁高　39～75㎝

床面　ほぼ平坦だが、西に向い多少傾斜が見られる。南壁のほぼ中央に位置するＰ５周辺から竈周辺、建物の中央一帯にかけて硬化面を確認した。

掘方　床面からの深さは数㎝以内で、大きな起伏はないが、細かい凹凸がある。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。右袖は20㎝×10㎝程の石２つを立てて使用し、白色粘土塊を含む黄褐色土で構築されている。規模は長軸114㎝、袖幅99㎝を測る。燃焼部の底部で多量の焼土・灰層を確認し、焚口付近では多数の土器片が出土した。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　床面でピット５基を検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、㎝）である。

Ｐ１　34×30×48　　Ｐ２　36×34×39

Ｐ３　43×34×45　　Ｐ４　37×35×34

Ｐ５　37×25×13

位置、形状からＰ１～Ｐ４が主柱穴とみられる。Ｐ５は位置、形状及び床面の硬化範囲から、出入り口に関わるものである可能性が高い。

壁溝　撹乱の範囲を除き、全周している。幅10㎝～15㎝、深さ５㎝～22㎝を測る。

遺物　竈内や焚口周辺、埋没土中から多数の土器が出土した。掲載した遺物は、１～４：土師器の杯（１・４は竈内、２は竈左の壁溝内）、５：黒色土器の椀、６～８：須恵器の杯、９：灰釉陶器の長頸壺か、10：須恵器の壺（竈内）、11・12：土師器の甕（焚口）である。

所見　埋没土中には９世紀代の土器も含まれていたが、後世に混入したものと考えられる。竈内や竈周辺から出土した遺物から、時期は７世紀第４四半期である。

１区33号竪穴建物（第26図、第８表、PL.４・47）

調査区のほぼ中央、32号竪穴建物の５m程東にある。建物の西側及び北側が撹乱によって、南側は４号井戸によって壊されている。

位置　Ｘ＝47,995・47,996　Ｙ＝-74,131・-74,132

重複遺構　４号井戸と重複しており、新旧関係は本遺構が旧い。

形状　残存する部分が少なく、不明である。

主軸方位　不明

規模　東西（1.10m）　南北（1.25m）

床面積　（1.58㎡）

埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近では、As-Cを含む暗褐色土を確認した。

壁高　４㎝

床面　残されている範囲の床面は、ほぼ平坦である。一部から灰が検出された。掘方はなく、地山を直接床面としている。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中から数点の土器が出土した。掲載した遺物は、１:黒色土器の椀、２:須恵器の杯、３:羽釜で、いずれも床面直上で出土したものである。

所見　床面直上で出土した遺物から、時期は10世紀後半である。

１区38号竪穴建物(第27図、第８表、PL.５・47)

調査区の中央から、やや西寄りで、32号竪穴建物の５m程西にある。

位置　X＝47,993～47,997　Y＝-74,141～-74,146

重複遺構　40号竪穴建物、55号・56号土坑と重複する。新旧関係は、発掘時は本遺構が最も旧いと判断して調査を進めたが、40号竪穴建物との新旧関係について整理段階で出土遺物も含めて検討した結果、本建物の方が新しいと判断した。また、４号・39号・44号・53号ピットによって掘方まで堀り込まれている。

形状　重複や撹乱により、明らかではない。北西隅の角は、ほぼ直角であり、長方形に近い形状とも考えられるが、東側の形状にゆがみが見られる。

主軸方位　N－107°－E

規模　東西4.24m　南北3.23m

床面積　11.22㎡

埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近では、As-Cを含む暗褐色土を確認した。

壁高　３～12㎝

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から10㎝前後の深さがある。凹凸は少ない。

竈　建物の北東部が撹乱により壊されているが、東壁の北寄りの位置に設置されていたとみられ、その南側に位置する地点の床面で灰が検出された。また、拳大～頭大の石が、その灰上及び周辺から十数点出土した。竈構築材の可能性がある。

貯蔵穴　掘方の調査で建物の南東隅に貯蔵穴の可能性のある土坑状のくぼみを検出した。掘方面での形状は長径68㎝、短径60㎝の楕円形である。床面から底面までは20㎝程となる。

柱穴　床面でピット３基を検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、㎝)である。

Ｐ１　37×26×21　　Ｐ２　29×28×33

Ｐ３　39×27×20

建物に対しての配置に多少偏りがあるが、いずれのピットにも柱痕があり、主柱穴の可能性が高い。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土器や鉄滓が出土した。掲載した遺物は、１:須恵器の杯、２:同椀、３:灰釉陶器の椀、４:釘、５：鉄滓である。

所見　出土遺物は埋没土中からではあるが、型式の共通する遺物が多数出土しており、時期は10世紀後半とみられる。

１区40号竪穴建物(第28・29図、第８表、PL.５)

調査区の中央から、やや西寄りで、38号竪穴建物の南西にあり重複している。

位置　X＝47,992～47,996　Y＝-74,145～-74,149

重複遺構　38号竪穴建物、56号・57号・65号土坑と重複する。新旧関係は、発掘調査時は38号竪穴建物より新しく、３基の土坑より旧いと判断して調査を進めたが、38号竪穴建物との新旧関係について整理段階で出土遺物も含めて検討した結果、本建物の方が旧いと判断した。また、28号・37号・38号ピットによって埋没土から床面や掘方面まで掘り込まれている。

形状　不整形

主軸方位　東壁に竈があったと考えて計測すると、N－102°－Eである。

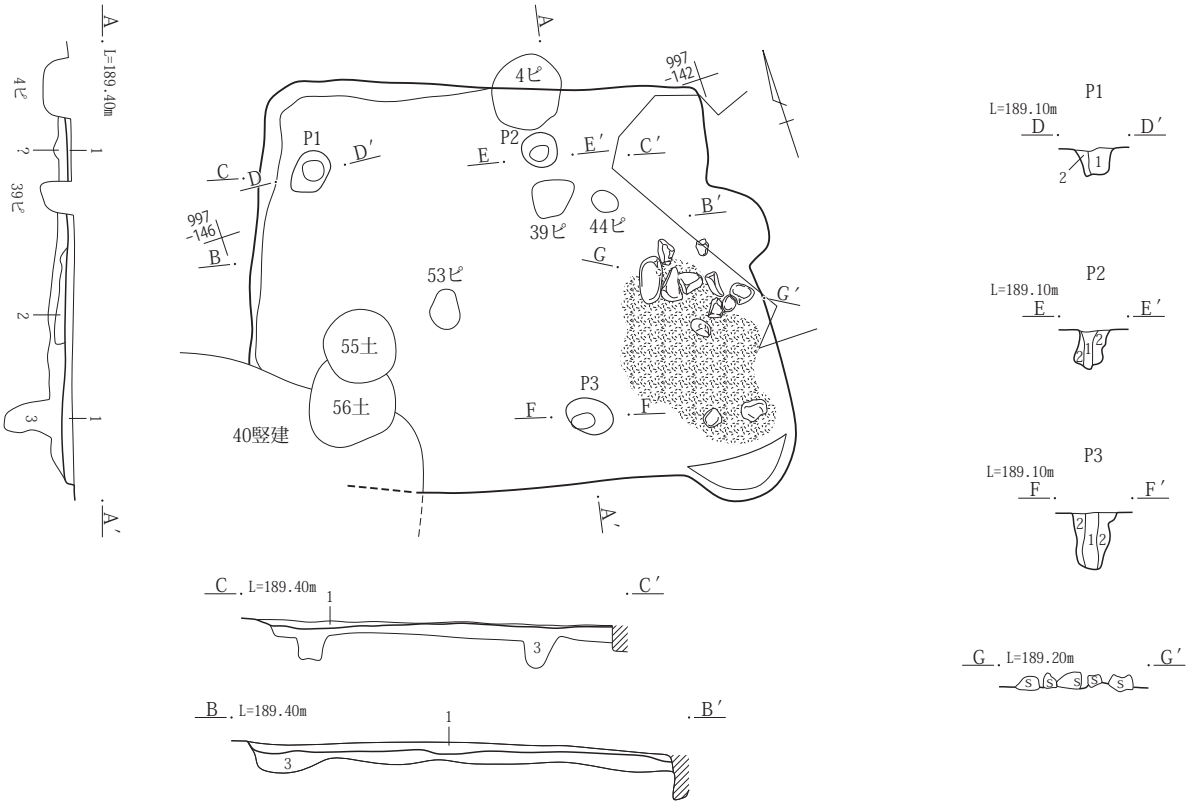
規模　東西4.27m　南北4.22m

床面積　14.41㎡

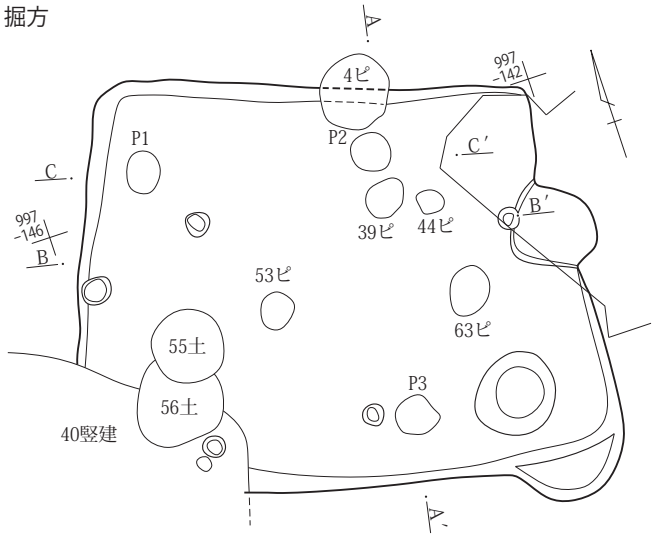
埋没土層　後世の削平・撹乱により、埋没土上層は不明だが、床面付近では、As-C・褐色土塊・焼土・炭化物を含む黒褐色土を確認した。

壁高　３～25㎝

１区38号竪穴建物



掘方

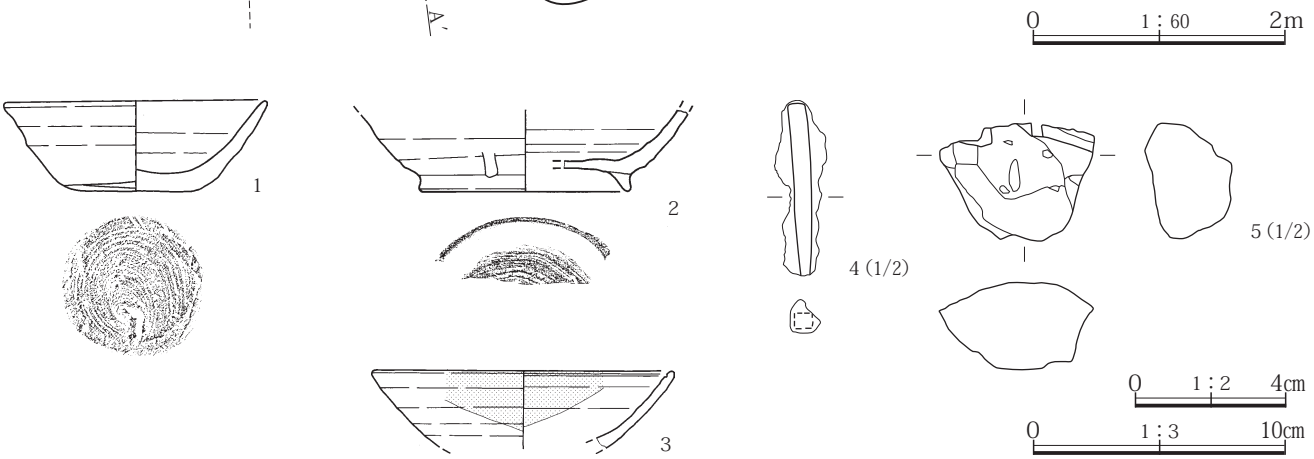


38号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Cを少量含む。
２．黄橙色土　焼土を多量、炭化物を少量含む。層状。
３．暗褐色土　褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

Ｐ１
１．暗褐色土　As-B・As-Cを多量、黄褐色土塊を少量含む。柱痕。
２．暗褐色土　As-B・As-C・黄褐色土塊を多量含む。やや締りあり。

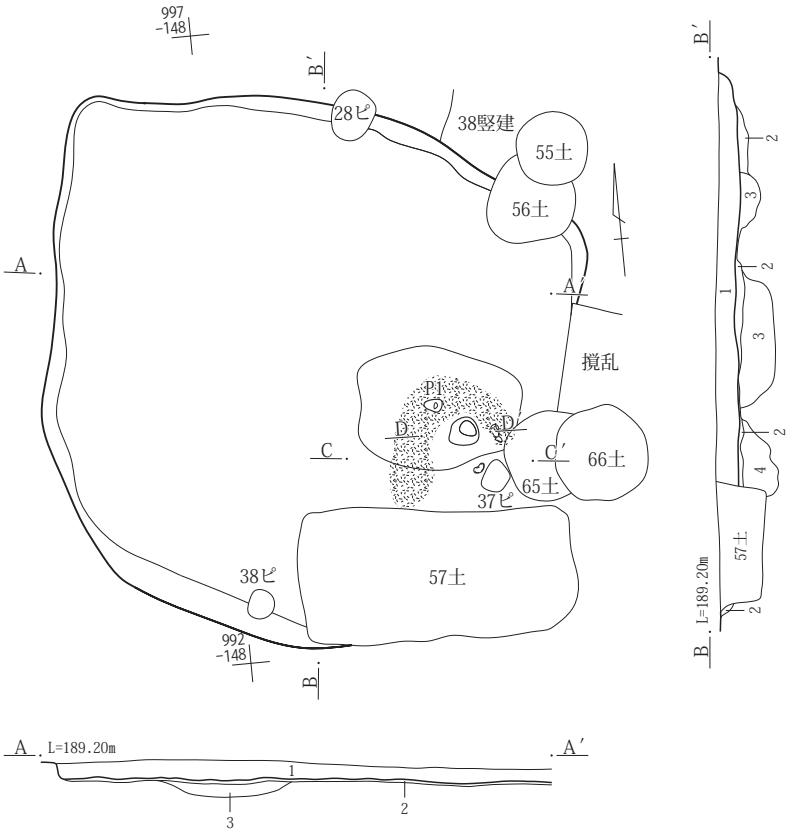
Ｐ２
１．暗褐色土　As-B・As-Cを多量、黄褐色土塊を少量含む。柱痕。
２．暗褐色土　As-B・As-C・黄褐色土塊を多量含む。やや締りあり。

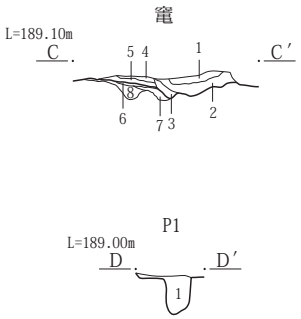
Ｐ３
１．暗褐色土　As-B・As-Cを多量、黄褐色土塊・黄橙色土粒を少量含む。柱痕。
２．暗褐色土　As-B・As-C・黄褐色土塊・炭化物粒を多量含む。やや締りあり。やや明るい。



第27図　38号竪穴建物

１区40号竪穴建物





40号竪穴建物

１．黒褐色土　黒色粘質土・褐色土を塊状に多量、As-C・焼土・炭化物粒を微量含む。

２．黒褐色土　As-Cを多量含む。締りあり。貼り床。

３．暗褐色土　褐色土塊を多量含む。

４．暗褐色土　褐色土塊・焼土塊を多量含む。

竈

１．暗褐色土　褐色土塊を少量、炭化物を微量含む。

２．暗褐色土　灰を多量、褐色土塊・焼土を少量、炭化物を微量含む。

３．褐灰色土　焼土粒を微量含む。灰層。

４．黒褐色土　灰層。層状。

５．浅黄橙色土　焼土塊主体、灰を少量含む。

６．黄褐色土　締りあり。

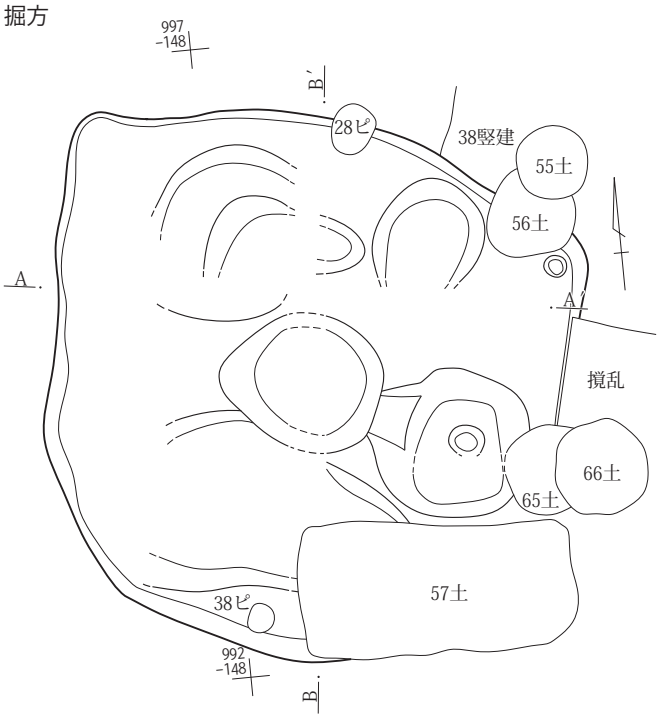
７．褐灰色土　灰層。黒色の灰を層状に含む。

８．暗褐色土　焼土粒・炭化物粒を少量含む。

Ｐ１

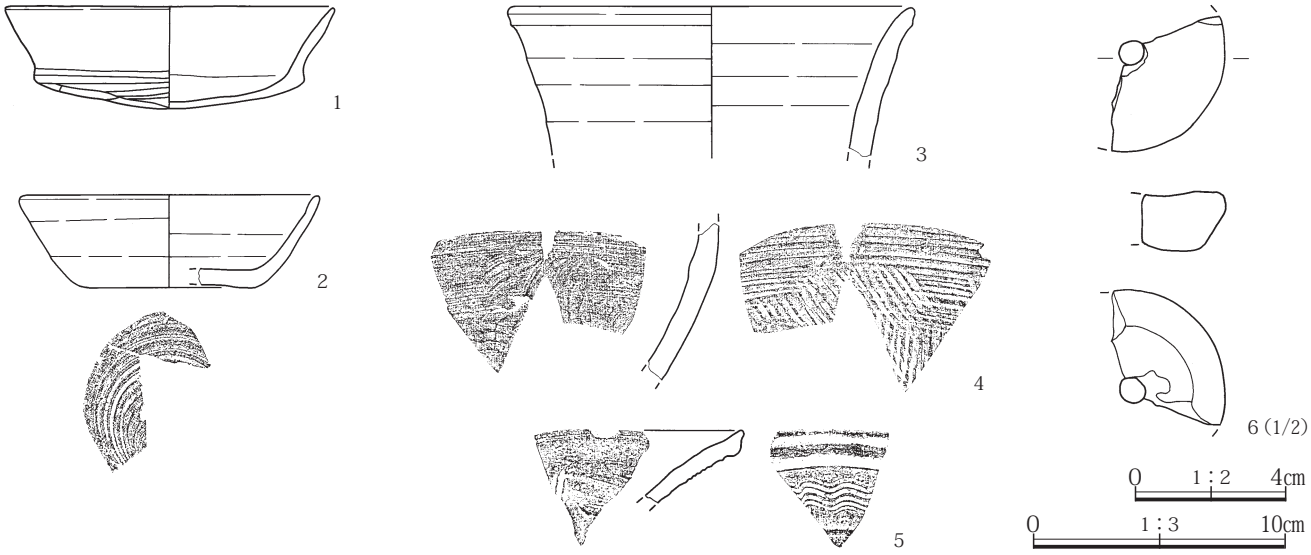
１．暗褐色土　褐色土塊を多量、As-Cを少量、黄橙色土粒・炭化物粒を微量含む。

掘方



0　1：60　2m

第28図　40号竪穴建物（１）



第29図　40号竪穴建物（２）

床面　多少起伏があるが平坦である。南東部で多量の焼土や灰を検出した。

掘方　全体的には床面から10㎝以内の深さであるが、所々に大きな起伏が見られる。

竈　竈を確認することはできなかったが、多量の焼土や灰を建物の東部で検出した。土坑との重複や撹乱によって東壁の大半が壊されており、その範囲に竈が存在した可能性が高い。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　建物の東部でピット１基を検出した。計測値は長径25㎝、短径23㎝、深さ26㎝であった。主柱穴の可能性があるが、他にピットは検出されなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器などが多数出土した。掲載した遺物は、１：土師器の杯、２：須恵器の杯、３：同広口壺、４：同壺、５：同甕、６：土製品の紡輪である。

所見　出土遺物は埋没土中からではあるが、型式の共通する遺物が多数出土しており、時期は７世紀前半とみられる。

１区45号竪穴建物（第30図、第８表、PL.５・47）

調査区のほぼ中央、30号竪穴建物の10m程西にある。

位置　X＝47,987～47,991　Y＝-74,122～-74,126

重複遺構　21号・27号溝と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　西壁がやや外側にふくらんでいるが、ほぼ長方形である。

主軸方位　N－103°－E

規模　東西3.16m　南北3.74m

床面積　8.79㎡

埋没土層　21号・27号溝と重複しており、限られた範囲のみ残存していた。床面付近では、褐色土塊を多量に含む黒褐色土を確認した。

壁高　14～23㎝

床面　ほぼ平坦であるが、緩やかに東に傾斜している。掘方はなく、地山を直接床面としている。

竈　東壁の南寄りの位置に設置している。規模は長軸61㎝、袖幅46㎝を測る。21号溝との重複によって、上部が失われており、残存していたのは焼土面付近のみである。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

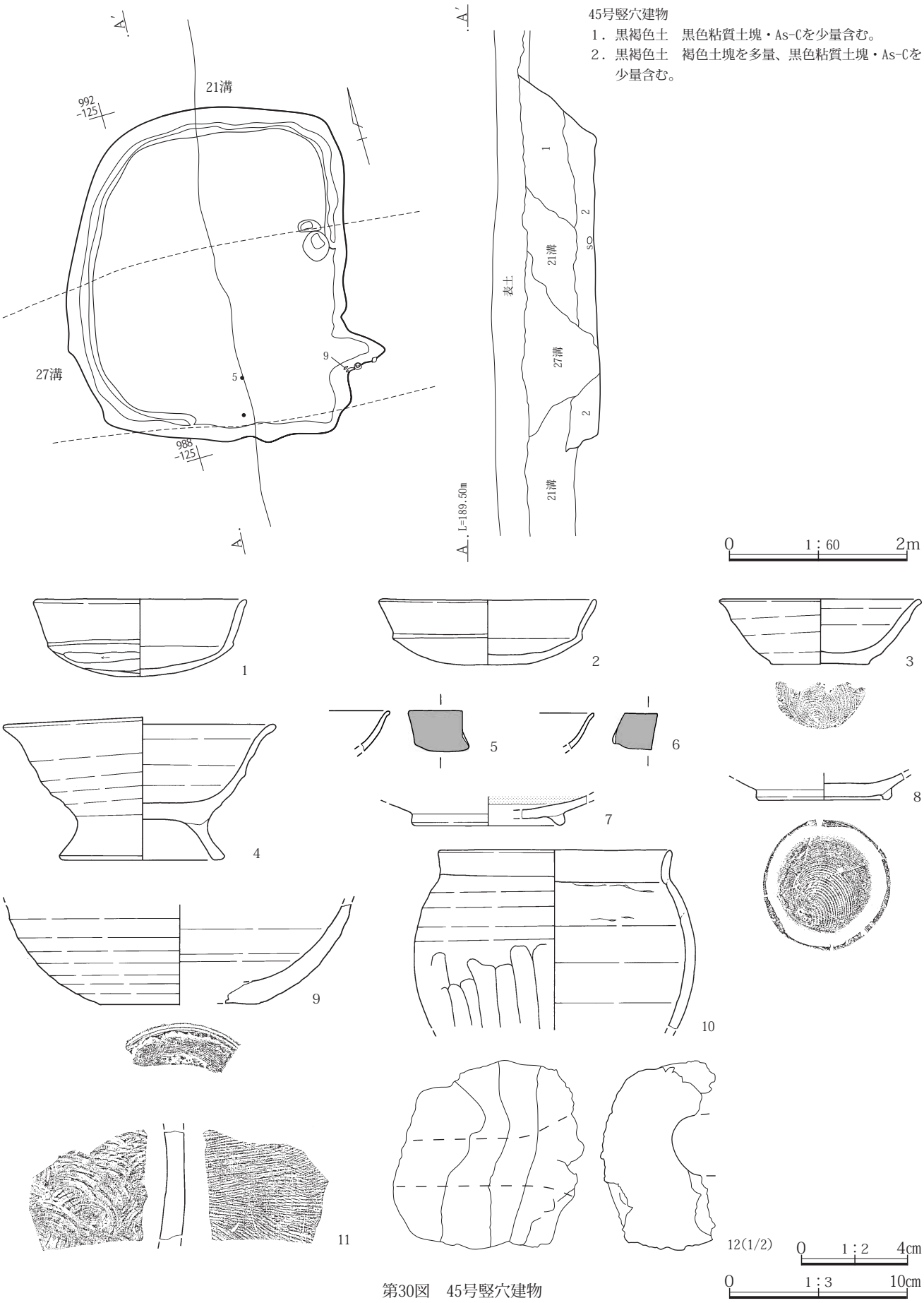
壁溝　建物の南東部以外で検出した。幅10㎝～15㎝、深さ１㎝～５㎝を測る。

遺物　床面直上や竈内、埋没土中から土器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯（床面直上）、３：須恵器の杯、４：同椀、５・６：緑釉陶器の椀（５は床面直上）、７：灰釉陶器の皿、８：同椀、９：須恵器の壺（床面直上）、10：土師器の小型甕、11：須恵器の甕、12：羽口である。

所見　21号溝と27号溝がほぼ直交する下に位置してお

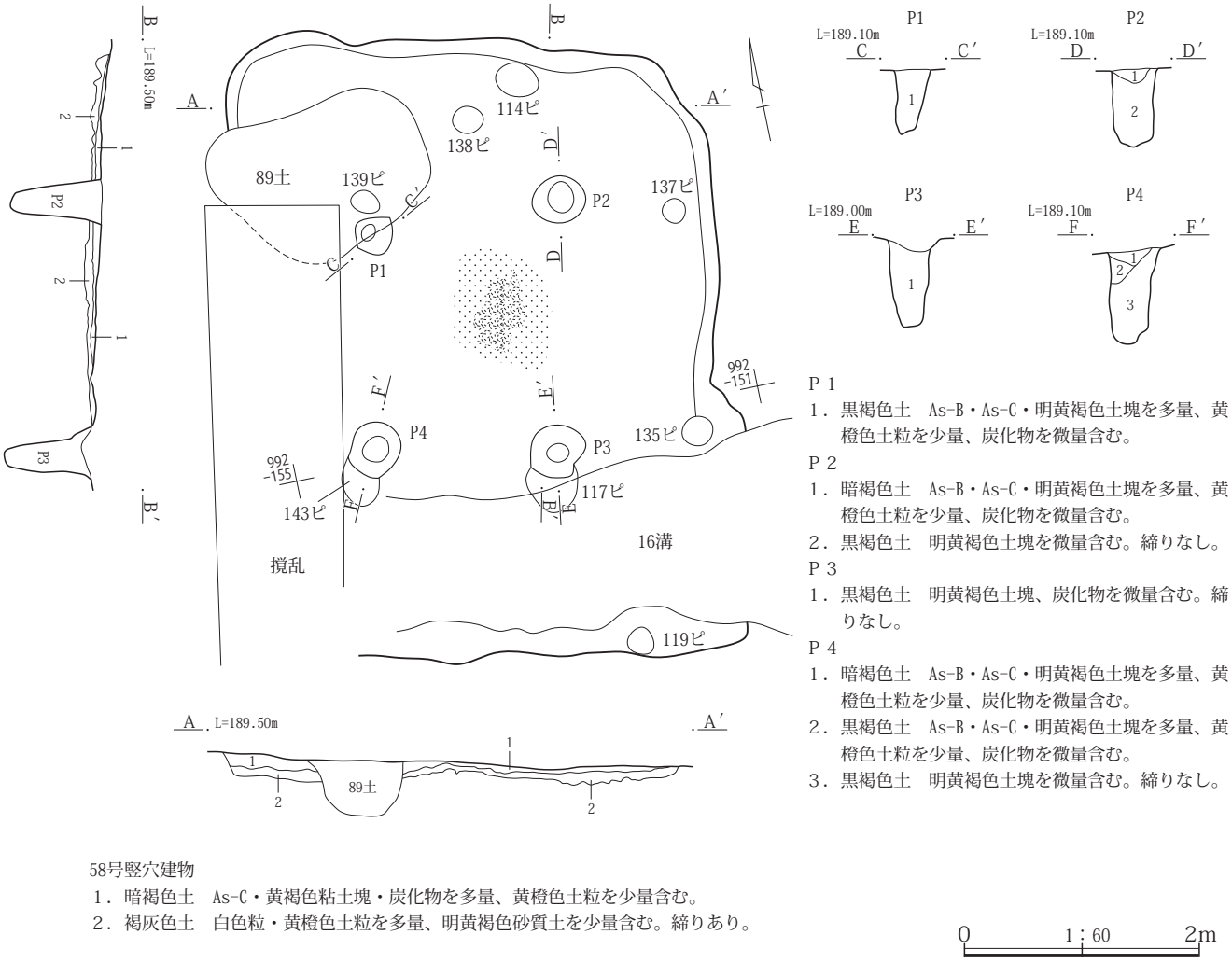
１区45号竪穴建物

45号竪穴建物
１．黒褐色土　黒色粘質土塊・As-Cを少量含む。
２．黒褐色土　褐色土塊を多量、黒色粘質土塊・As-Cを少量含む。



第30図　45号竪穴建物

１区58号竪穴建物



Ｐ１
１．黒褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊を多量、黄橙色土粒を少量、炭化物を微量含む。
Ｐ２
１．暗褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊を多量、黄橙色土粒を少量、炭化物を微量含む。
２．黒褐色土　明黄褐色土塊を微量含む。締りなし。
Ｐ３
１．黒褐色土　明黄褐色土塊、炭化物を微量含む。締りなし。
Ｐ４
１．暗褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊を多量、黄橙色土粒を少量、炭化物を微量含む。
２．黒褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊を多量、黄橙色土粒を少量、炭化物を微量含む。
３．黒褐色土　明黄褐色土塊を微量含む。締りなし。

58号竪穴建物
１．暗褐色土　As-C・黄褐色粘土塊・炭化物を多量、黄橙色土粒を少量含む。
２．褐灰色土　白色粒・黄橙色土粒を多量、明黄褐色砂質土を少量含む。締りあり。

第31図　58号竪穴建物

り、埋没土の残存は限られていたが、床面直上で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

１区58号竪穴建物（第31図、PL.５）

調査区の中央から、やや西寄りで、40号竪穴建物のほぼ西に位置する。撹乱や他の遺構との重複により、建物の南部及び東部の広範囲が壊されていた。また、建物を検出できたのが床面の直上であったため、建物の埋没土は確認できなかった。

位置　X＝47,991～47,995　Y＝-74,150～-74,154

重複遺構　16号溝、89号土坑と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形の可能性があるが、撹乱や他の遺構との重複により、明らかではない。

主軸方位　N－103°－E

規模　東西4.12m　南北(3.90m)

床面積　(13.26㎡)

床面　多少起伏があるがほぼ平坦である。建物の中央部で硬化面と灰を検出した。

掘方　床面から10cm～20cm程の深さで、多少凹凸が見られる。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　床面でピット４基を検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１　37×34×55　　Ｐ２　46×40×63

Ｐ３　48×45×75　　Ｐ４　47×42×49

位置、形状から、それぞれ主柱穴の可能性が高い。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面の上位から土師器や須恵器が出土したが、小

片のため掲載できるものはなかった。

所見　削平・撹乱が床面直上まで至っていたため、後世に混入したものの可能性もあるが、床面上位から９世紀～10世紀代の遺物が出土した。

１区１号竪穴状遺構(第32図)

調査区西側、４号竪穴建物の10m程南西にある。重複する16号溝の調査時に、本遺構を検出することができなかったため、本遺構及び16号溝の掘削後の検討の結果、別遺構であることが明らかになり、土層断面図・写真での記録ができなかった。

座標値　X＝47,992・47,993　Y＝-74,197～-74,200

重複遺構　16号溝と重複する。新旧関係は不明である。

形状　北側が重複によって失われており、明確ではないが、楕円形或いは隅丸方形の可能性がある。

長軸方位　N－88°－W

規模　東西2.72m　南北(0.79m)

壁高　３～19㎝である。

床面　ほぼ平坦であるが、緩やかに東に傾斜している。掘方はなく、地山を直接床面としている。

所見　竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝共に検出できなかったため、竪穴状遺構とした。前述のように、土層断面図・写真での記録ができず、遺物も出土しなかったため、時期は不明である。

１区２号竪穴状遺構(第32図、PL.５)

調査区東側、24号竪穴建物の10m程北にある。

座標値　X＝47,990～47,992　Y＝-74,073・-74,074

重複遺構　３号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　西側が重複によって失われているが、長方形とみられる。

長軸方位　N－88°－W

規模　東西(1.38m)　南北1.36m

埋没土層　粘土塊・赤褐色土塊を含む黒褐色土、As-C・黒褐色土塊を含む黒色土で埋没している。

壁高　６～14㎝

床面　概ね平坦であるが、多少起伏が見られる。掘方はなく、地山を直接床面としている。

遺物　埋没土中で土師器や須恵器が出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見　竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝共に検出できなかったため、竪穴状遺構とした。床面直上での出土遺物がなく、時期は明らかではないが、埋没土中で出土した遺物は10世紀代のものである。

１区３号竪穴状遺構(第32図、PL.５)

調査区東側、２号竪穴状遺構の西にあり、重複している。

座標値　X＝47,990～47,993　Y＝-74,074～-74,077

重複遺構　２号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　長方形

長軸方位　N－３°－E

規模　東西2.52m　南北3.20m

埋没土層　にぶい黄橙色粘質土塊・黒色土塊を含む黒褐色土で埋没しており、床面中央部にAs-C・黒褐色土塊を含む黒色土が堆積している。

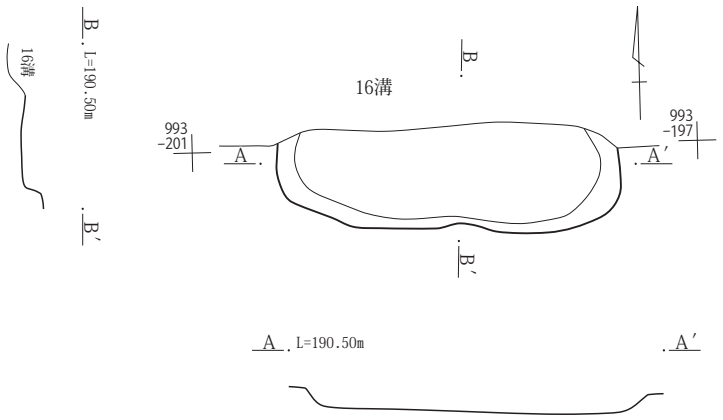
壁高　６～14㎝

床面　概ね平坦であるが、多少起伏が見られる。掘方はなく、地山を直接床面としている。

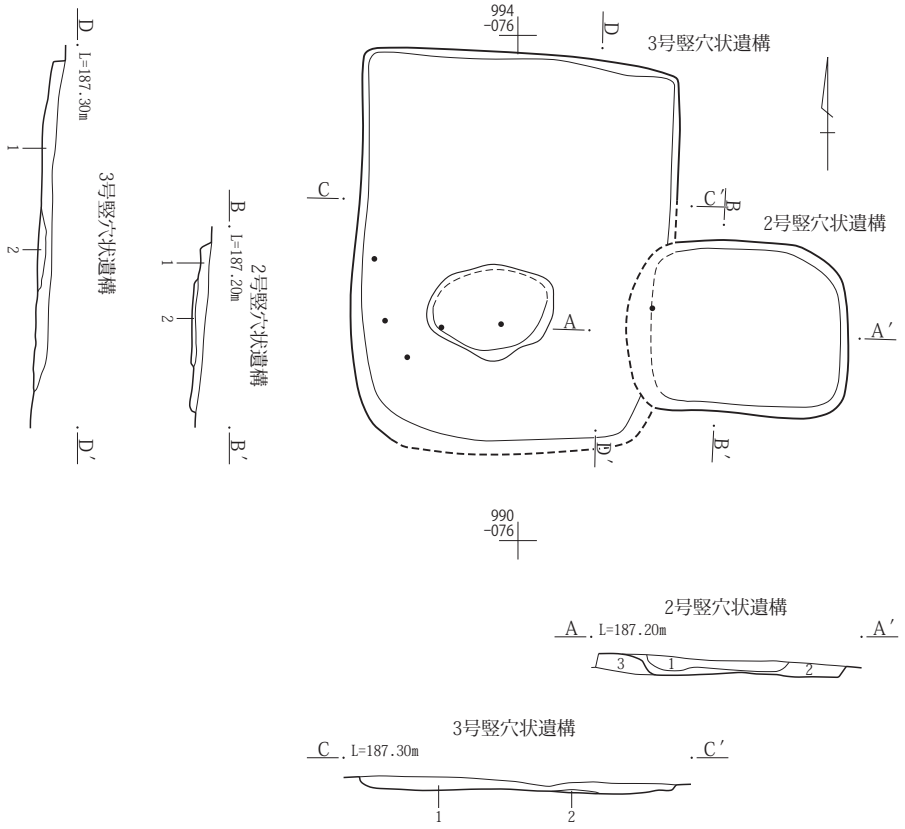
遺物　床面直上や埋没土中で土師器や須恵器が出土したが、小片のため掲載できるものはなかった。

所見　竈、貯蔵穴、柱穴、壁溝共に検出できなかったため、竪穴状遺構とした。床面直上で出土した遺物から、時期は９世紀代である。

１区１号竪穴状遺構



１区２号・３号竪穴状遺構



２号竪穴状遺構
1．黒褐色土　粘土塊・赤褐色土塊を多量含む。
2．黒色土　ややシルト質。As-C・黒褐色土塊を多量含む。
3．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊･黒色土塊を多量含む。
　締りあり。

３号竪穴状遺構
1．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・黒色土塊を多量含む。
　締りあり。
2．黒色土　ややシルト質。As-C・黒褐色土塊を多量含む。

0　1：60　2m

第32図　１～３号竪穴状遺構

２．土坑

１区では37基の土坑を確認した。調査区全体に分布しているが、ほとんどの土坑が調査区の西側100mの範囲内にある。37基中、円形が８基、楕円形が21基、長方形が２基、不整形が４基、不明のものが２基である。遺物が出土した土坑は21基で、用途が考えられるものは３基である。

１区１号土坑(第33図、第８表、PL．６・48)
座標値　X＝48,001・48,002　Y＝-74,217・-74,218
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－30°－W
規模　長軸0.77m　短軸0.69m　深さ0.18m
遺物　掲載した遺物は、１・２：釘、３：鉄製品である。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区３号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,996～47,998　Y＝-74,213～-74,215
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－16°－E
規模　長軸1.5m　短軸1.09m　深さ0.08m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区４号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,998・47,999　Y＝-74,175・-74,176
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－４°－E
規模　長軸1.22m　短軸1.05m　深さ0.12m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区５号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,983～47,985　Y＝-74,047・-74,048
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－10°－E
規模　長軸1.09m　短軸0.79m　深さ0.16m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区６号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝48,000　Y＝-74,178・-74,179
重複遺構　８号竪穴建物　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－５°－E
規模　長軸(0.58)m　短軸0.95m　深さ0.27m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

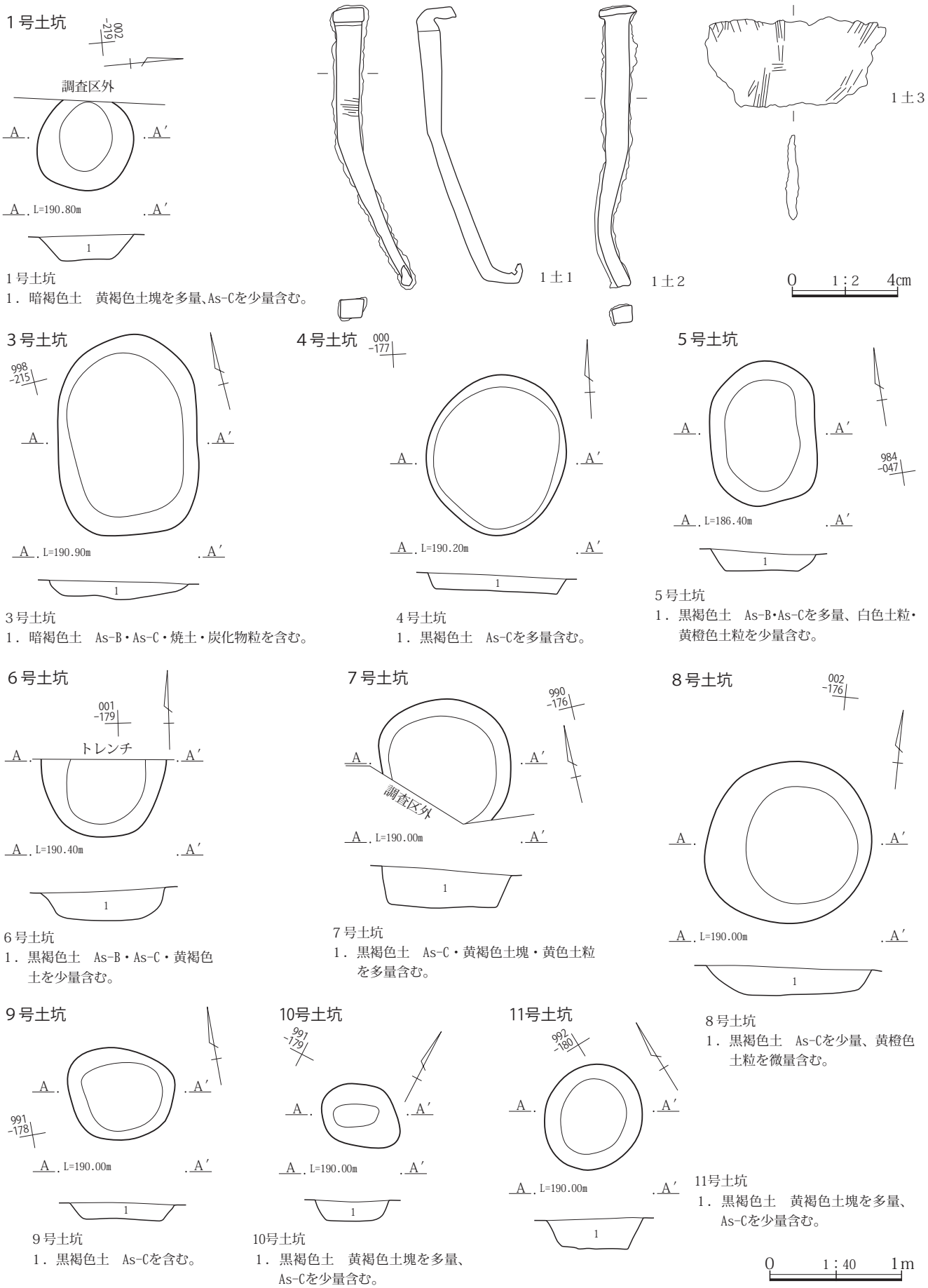
１区７号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,989・47,990　Y＝-74,176・-74,177
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－９°－E
規模　長軸(0.96)m　短軸0.98m　深さ0.29m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区８号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝48,000・48,001　Y＝-74,175・-74,176
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－60°－E
規模　長軸1.3m　短軸1.23m　深さ0.22m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区９号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,991・47,992　Y＝-74,176・-74,177
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－84°－E
規模　長軸0.79m　短軸0.71m　深さ0.12m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区10号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,990・47,991　Y＝-74,178
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－63°－E
規模　長軸0.55m　短軸0.47m　深さ0.15m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区11号土坑(第33図、PL．６)
座標値　X＝47,991　Y＝-74,179・-74,180
形状　円形　　**長軸方位**　N－42°－E
規模　長軸0.81m　短軸0.74m　深さ0.23m



1号土坑
1．暗褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

3号土坑
1．暗褐色土　As-B・As-C・焼土・炭化物粒を含む。

4号土坑
1．黒褐色土　As-Cを多量含む。

5号土坑
1．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、白色土粒・黄橙色土粒を少量含む。

6号土坑
1．黒褐色土　As-B・As-C・黄褐色土を少量含む。

7号土坑
1．黒褐色土　As-C・黄褐色土塊・黄色土粒を多量含む。

8号土坑
1．黒褐色土　As-Cを少量、黄橙色土粒を微量含む。

9号土坑
1．黒褐色土　As-Cを含む。

10号土坑
1．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

11号土坑
1．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

第33図　１・３～11号土坑

所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区12号土坑（第34図、PL.６）
座標値　X＝47,991・47,992　Y＝-74,181・-74,182
形状　楕円形　**長軸方位**　N－23°－W
規模　長軸0.75m　短軸0.49m　深さ0.76m
遺物　土師器や須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区13号土坑（第34図、PL.７）
座標値　X＝48,002・48,003　Y＝-74,197
形状　円形　**長軸方位**　N－７°－E
規模　長軸0.63m　短軸0.61m　深さ0.18m
遺物　土師器や須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区14号土坑（第34図、PL.７）
座標値　X＝47,996・47,997　Y＝-74,175
形状　楕円形　**長軸方位**　N－38°－E
規模　長軸0.56m　短軸0.49m　深さ0.46m
遺物　土師器と須恵器の小片が各１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区15号土坑（第34図、第８表、PL.７）
座標値　X＝47,997・47,998　Y＝-74,164・-74,165
形状　楕円形　**長軸方位**　N－90°
規模　長軸1.37m　短軸1.25m　深さ0.2m
遺物　掲載した遺物は灰釉陶器の椀である。他に土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区17号土坑（第34図、PL.７）
座標値　X＝47,989・47,990　Y＝-74,174・-74,175
形状　楕円形　**長軸方位**　N－90°
規模　長軸0.71m　短軸0.68m　深さ0.38m
遺物　土師器や須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

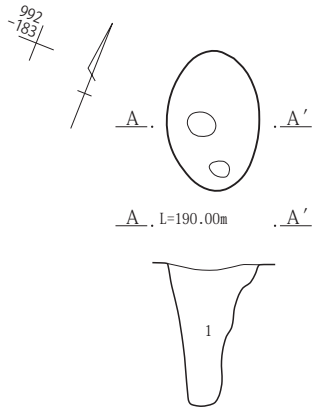
１区18号土坑（第34図、PL.７）
座標値　X＝48,000　Y＝-74,171・-74,172
形状　円形　**長軸方位**　N－16°－E
規模　長軸0.99m　短軸0.94m　深さ0.14m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区19号土坑（第34図、第８表、PL.７・48）
座標値　（X＝47,999）（Y＝-74,175）
遺物　掲載した遺物は、２～４：須恵器の杯、１・５：灰釉陶器の椀である。他に土師器、須恵器の小片が数点、灰釉陶器の小片が２点出土している。
所見　遺物の下位の精査で黒褐色土の範囲を検出し、土坑と判断されたため、形状や規模等は不明である。出土遺物は、10世紀後半のものである。

１区25号土坑（第34図、PL.７）
座標値　X＝47,999・48,000　Y＝-74,180・-74,181
重複遺構　６号・８号竪穴建物、35号土坑
形状　楕円形　**長軸方位**　N－14°－E
規模　長軸1.49m　短軸(1.03)m　深さ0.31m
遺物　土師器や須恵器の小片が数点出土している。
所見　６号竪穴建物との新旧関係が難しいが、本遺構の方が旧いと判断して調査を行った。また、８号竪穴建物よりも新しいため、時期は９世紀後半～10世紀前半となる。

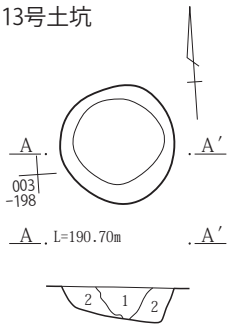
１区32号土坑（第35図、PL.７）
座標値　X＝47,991・47,992　Y＝-74,186～-74,189
重複遺構　２号溝　**形状**　不整形
長軸方位　N－82°－W
規模　長軸2.58m　短軸(0.94)m　深さ0.45m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

12号土坑



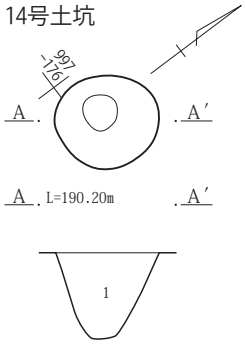
12号土坑
1．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

13号土坑



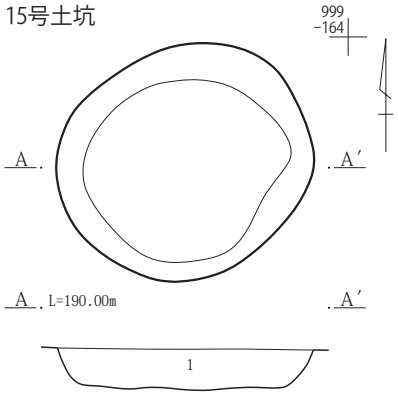
13号土坑
1．黒褐色土　As-C・褐色土を微量含む。
2．暗褐色土　As-C・黒色土塊を微量含む。

14号土坑



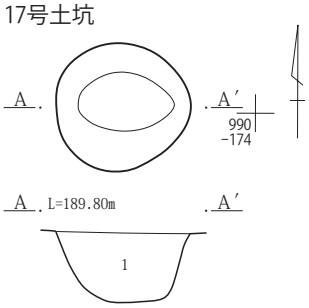
14号土坑
1．黒褐色土　黄橙色土粒を多量、As-Cを少量、暗褐色土塊を微量含む。

15号土坑



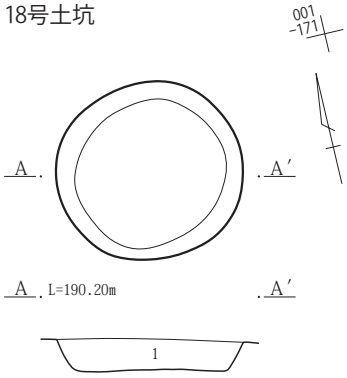
15号土坑
1．黒褐色土　黄橙色土粒を多量、As-Cを少量、暗褐色土塊を微量含む。

17号土坑

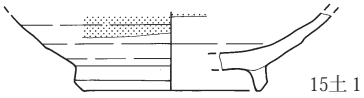


17号土坑
1．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

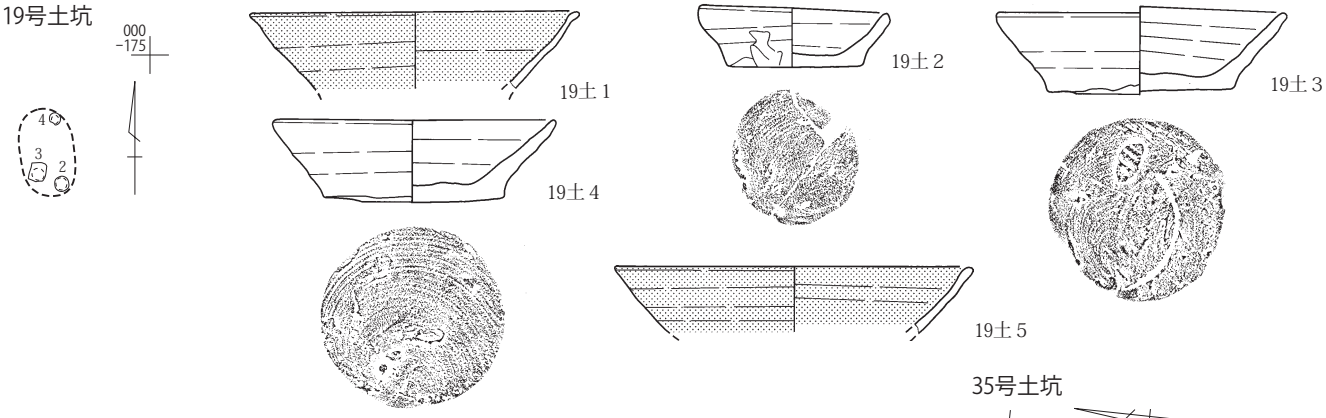
18号土坑



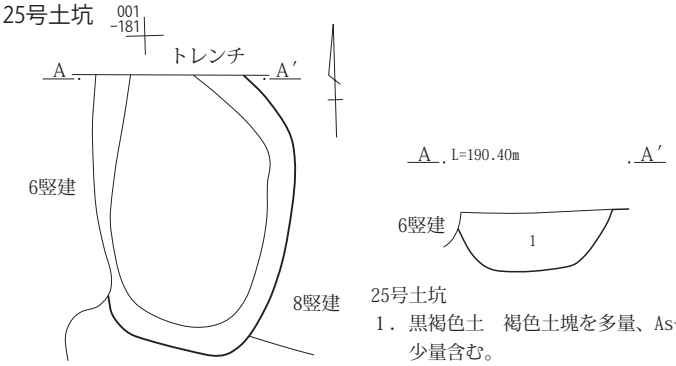
18号土坑
1．黒褐色土　黄橙色土粒を多量、As-Cを少量、暗褐色土塊を微量含む。



19号土坑

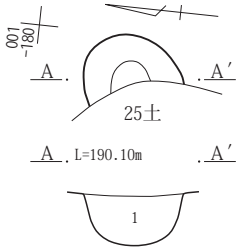


25号土坑



25号土坑
1．黒褐色土　褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。

35号土坑



35号土坑
1．黒褐色土　黄橙色土粒を多量、As-Cを少量、暗褐色土塊を微量含む。

0　1：3　10cm

0　1：40　1m

第34図　12～15・17～19・25・35号土坑

１区33号土坑(第35図、第８表、PL.７・48)
座標値　X＝47,992・47,993　Y＝-74,179～-74,182
形状　不整形　　**長軸方位**　N－76°－W
規模　長軸2.4m　短軸1.18m　深さ0.75m
遺物　掲載した遺物は、１：須恵器の長頸壺、２：陶器片口、３：石製品、４：古銭(政和通寶)である。他に土師器、須恵器の小片が多数出土している。
所見　土坑の形状・埋没土・出土遺物から、15世紀代の墓壙の可能性がある。

１区35号土坑(第34図)
座標値　X＝48,000　Y＝-74,180
重複遺構　８号竪穴建物、25号土坑　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－23°－W
規模　長軸0.52m　短軸(0.27)m　深さ0.28m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　25号土坑よりも旧く、８号竪穴建物よりも新しいため、時期は９世紀後半と考えられる。

１区36号土坑(第35図、PL.７)
座標値　X＝47,981～47,983　Y＝-74,079～-74,081
重複遺構　24号竪穴建物　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－22°－W
規模　長軸1.54m　短軸1.27m　深さ0.07m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区37号土坑(第36図、PL.７)
座標値　X＝47,983・47,984　Y＝-74,076
形状　円形　　**長軸方位**　N－82°－E
規模　長軸0.72m　短軸0.66m　深さ0.51m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区39号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,985・47,986　Y＝-74,095～-74,097
重複遺構　19号溝　　**形状**　楕円形か
長軸方位　N－８°－E
規模　長軸(0.83)m　短軸1.24m　深さ0.34m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区45号土坑(第36図)
座標値　X＝47,986・47,987　Y＝-74,112
形状　円形か　　**長軸方位**　N－２°－E
規模　長軸0.83m　短軸0.35m　深さ0.22m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

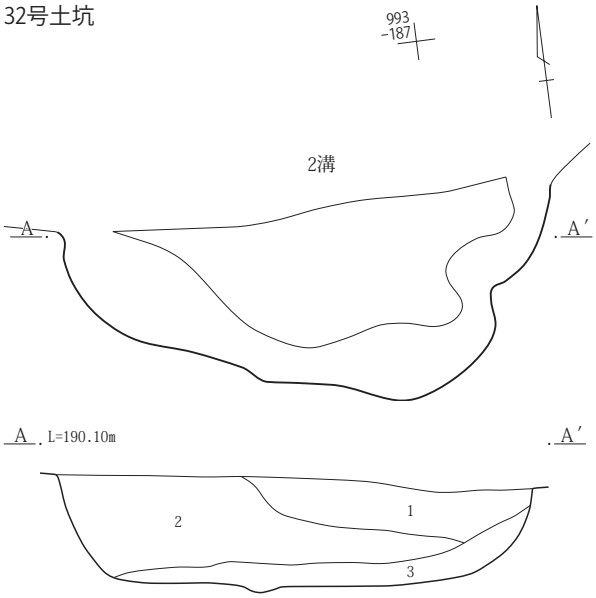
１区50号土坑(第36図、第８表、PL.８・48)
座標値　X＝47,990・47,991　Y＝-74,128・-74,129
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－86°－E
規模　長軸(1.19)m　短軸1.36m　深さ0.24m
遺物　掲載した遺物は砥石である。他に土師器、須恵器の小片、石製品が出土している。
所見　埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区51号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,997・47,998　Y＝-74,143
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－89°－E
規模　長軸0.67m　短軸0.56m　深さ0.35m
遺物　土師器と須恵器の小片が出土している。
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区52号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,997・47,998　Y＝-74,145・-74,146
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－10°－E
規模　長軸0.7m　短軸0.68m　深さ0.24m
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

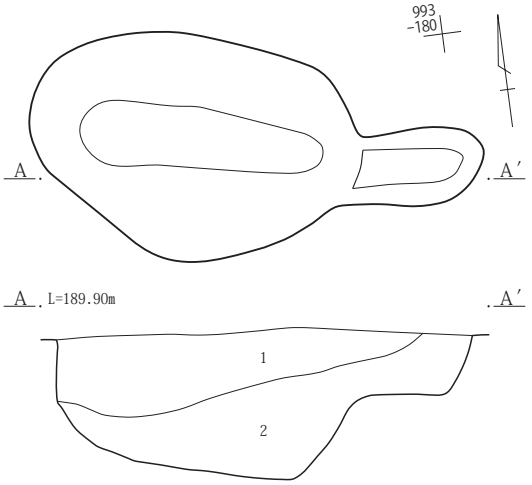
１区55号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,995・47,996　Y＝-74,144・-74,145
重複遺構　56号土坑　　**形状**　円形
長軸方位　N－11°－E
規模　長軸0.58m　短軸0.57m　深さ0.61m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似している

32号土坑

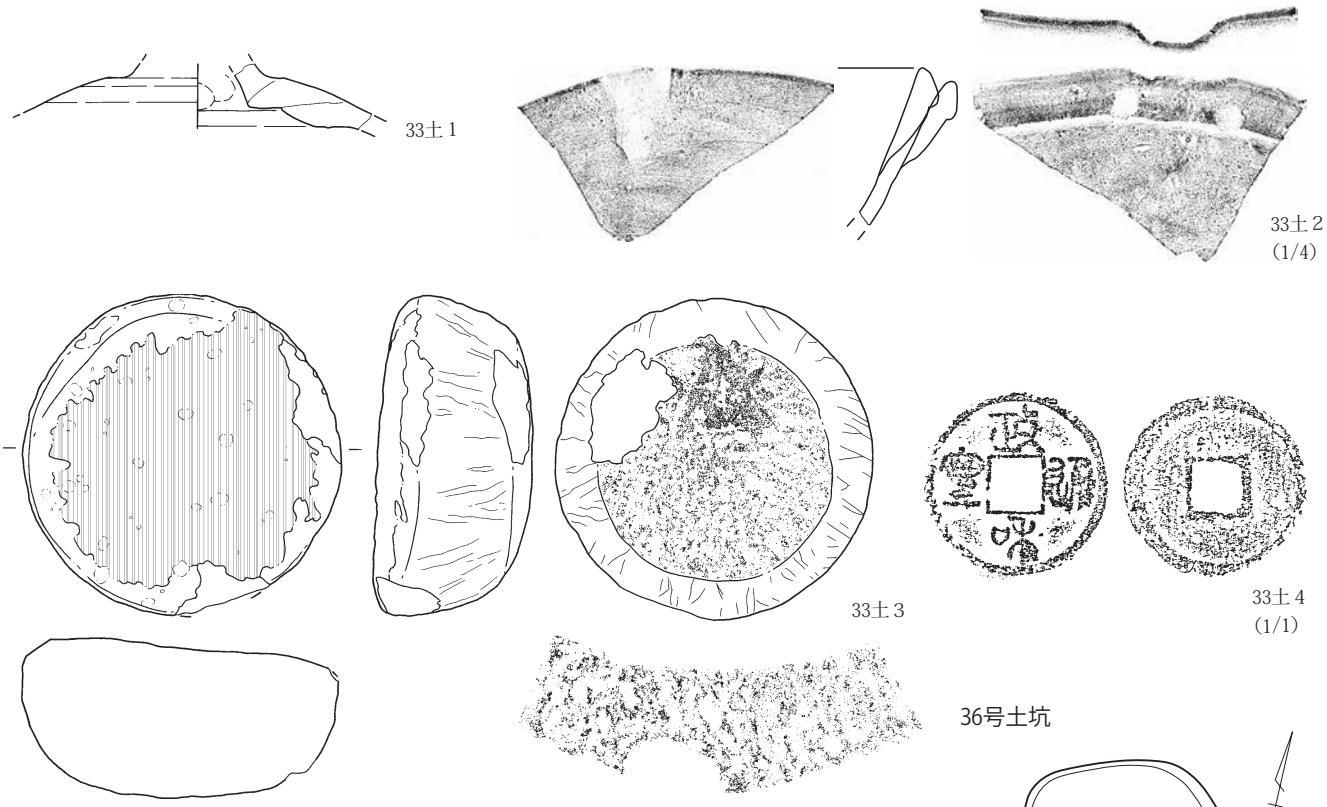


32号土坑
1．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・炭化物粒を少量、黄褐色土粒を微量含む。
2．にぶい黄褐色土　やや砂質。As-B・As-C・炭化物粒・黄褐色土粒を少量含む。
3．黒褐色土　黄橙色土塊・オリ-ブ色土塊を少量含む。

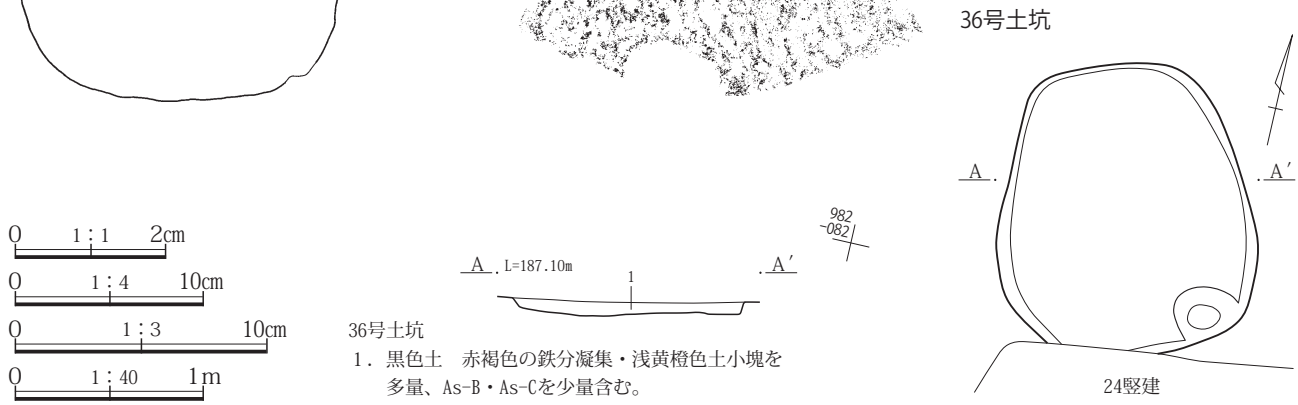
33号土坑



33号土坑
1．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・炭化物粒を少量、黄褐色土粒を微量含む。
2．にぶい黄褐色土　やや砂質。As-B・As-C・黄褐色土・黒褐色土塊・炭化物粒を含む。



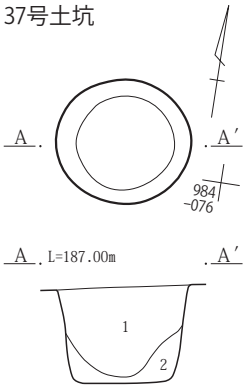
36号土坑



36号土坑
1．黒色土　赤褐色の鉄分凝集・浅黄橙色土小塊を多量、As-B・As-Cを少量含む。

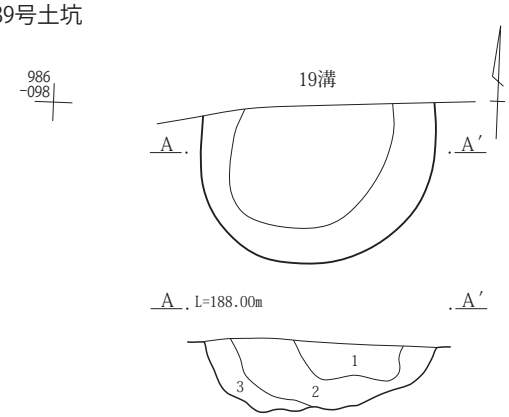
第35図　32・33・36号土坑

37号土坑



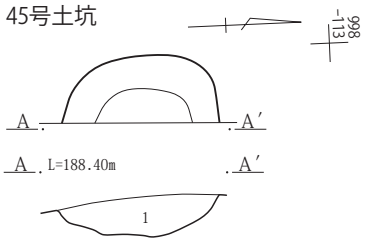
37号土坑
1．黒褐色土　As-B・As-Cを少量、黄橙色土粒・炭化物を微量含む。
2．黒褐色土　As-C・黄橙色土粒を微量含む。硬い。

39号土坑



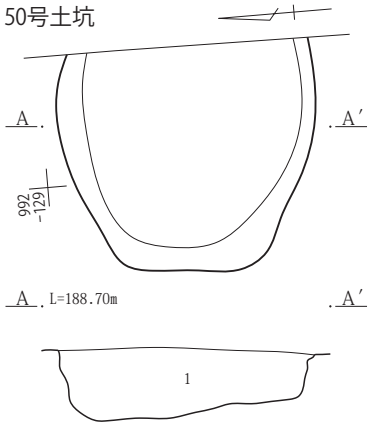
39号土坑
1．黒褐色土　黒色土塊を多量、As-B・As-Cを少量含む。
2．暗褐色土　黒色土塊を少量、As-B・As-Cを微量含む。鉄分凝集有り。
3．黒褐色土　黒色土塊・黄色土塊を少量、As-B・As-Cを微量含む。

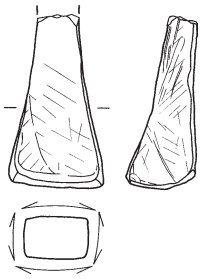
45号土坑



45号土坑
1．暗褐色土　As-B・As-C・黒色土を多量含む。

50号土坑

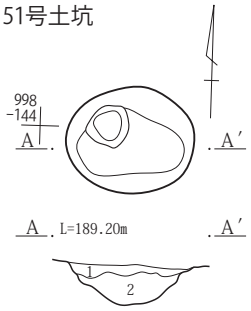




50土1

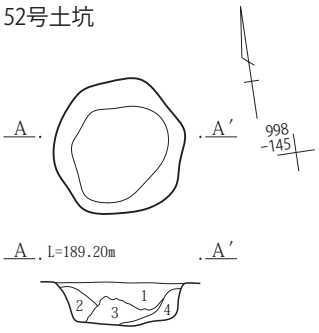
50号土坑
1．暗褐色土　As-B・As-Cを少量、亜角礫を微量含む。

51号土坑



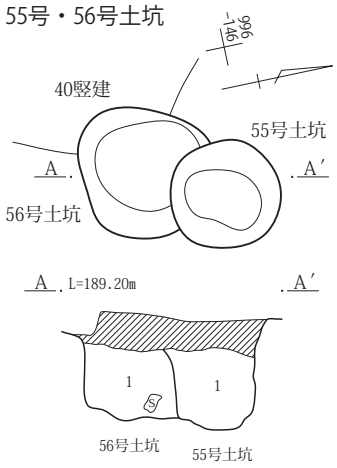
51号土坑
1．黒褐色土　暗褐色土塊を多量、As-B・As-Cを少量含む。
2．黒褐色土　黄橙色土粒・白色土粒・明黄褐色土塊・炭化物を多量含む。

52号土坑



52号土坑
1．黒褐色土　As-B・As-C・暗褐色土塊を多量含む。
2．黒褐色土　暗褐色土塊を多量、As-Cを少量含む。
3．黄褐色土　白色土粒・黒褐色土塊を多量含む。ややシルト質。しまり弱。
4．暗褐色土　白色土粒を少量含む。

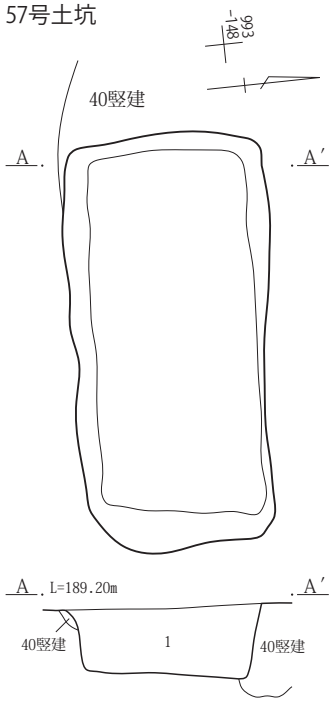
55号・56号土坑



55号土坑
1．暗褐色土　褐色土塊を少量、As-Cを微量含む。

56号土坑
1．暗褐色土　褐色土塊を多量、As-Cを微量含む。

57号土坑



57号土坑
1．黒褐色土　黄褐色土塊を多量、As-B・As-Cを少量含む。

0　1：3　10cm

0　1：40　1m

第36図　37・39・45・50～52・55～57号土坑

ことから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区56号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,995　Y＝-74,145
重複遺構　55号土坑　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－25°－W
規模　長軸0.75m　短軸0.72m　深さ0.45m
遺物　土師器や須恵器の小片が多数、灰釉陶器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区57号土坑(第36図、PL.８)
座標値　X＝47,992・47,993　Y＝-74,145～-74,147
重複遺構　40号竪穴建物　　**形状**　長方形
長軸方位　N－84°－W
規模　長軸2.23m　短軸1.04m　深さ0.25m
所見　形状が箱型であることと、埋没土にAs-Bが含まれていることから、中世以降の貯蔵穴の可能性がある。

１区58号土坑(第38図、PL.８)
座標値　X＝47,996～47,998　Y＝-74,146～-74,149
形状　長方形　　**長軸方位**　N－89°－W
規模　長軸3.46m　短軸1.31m　深さ0.36m
遺物　土師器や須恵器の小片が多数出土している。
所見　形状が箱型であることと、埋没土にAs-Bが含まれていることから、中世以降の貯蔵穴の可能性がある。

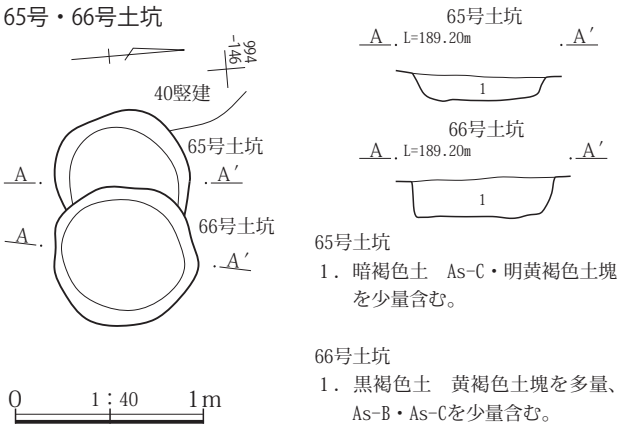
１区65号土坑(第37図、PL.８)
座標値　X＝47,993　Y＝-74,145
重複遺構　66号土坑　　**形状**　円形
長軸方位　N－11°－E
規模　長軸0.76m　短軸0.74m　深さ0.22m
遺物　土師器の小片が出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区66号土坑(第37図、PL.８)
座標値　X＝47,993　Y＝-74,144・-74,145
重複遺構　65号土坑　　**形状**　円形
長軸方位　N－５°－E
規模　長軸0.71m　短軸(0.4)m　深さ0.13m
遺物　土師器の小片が多数出土している。
所見　埋没土にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

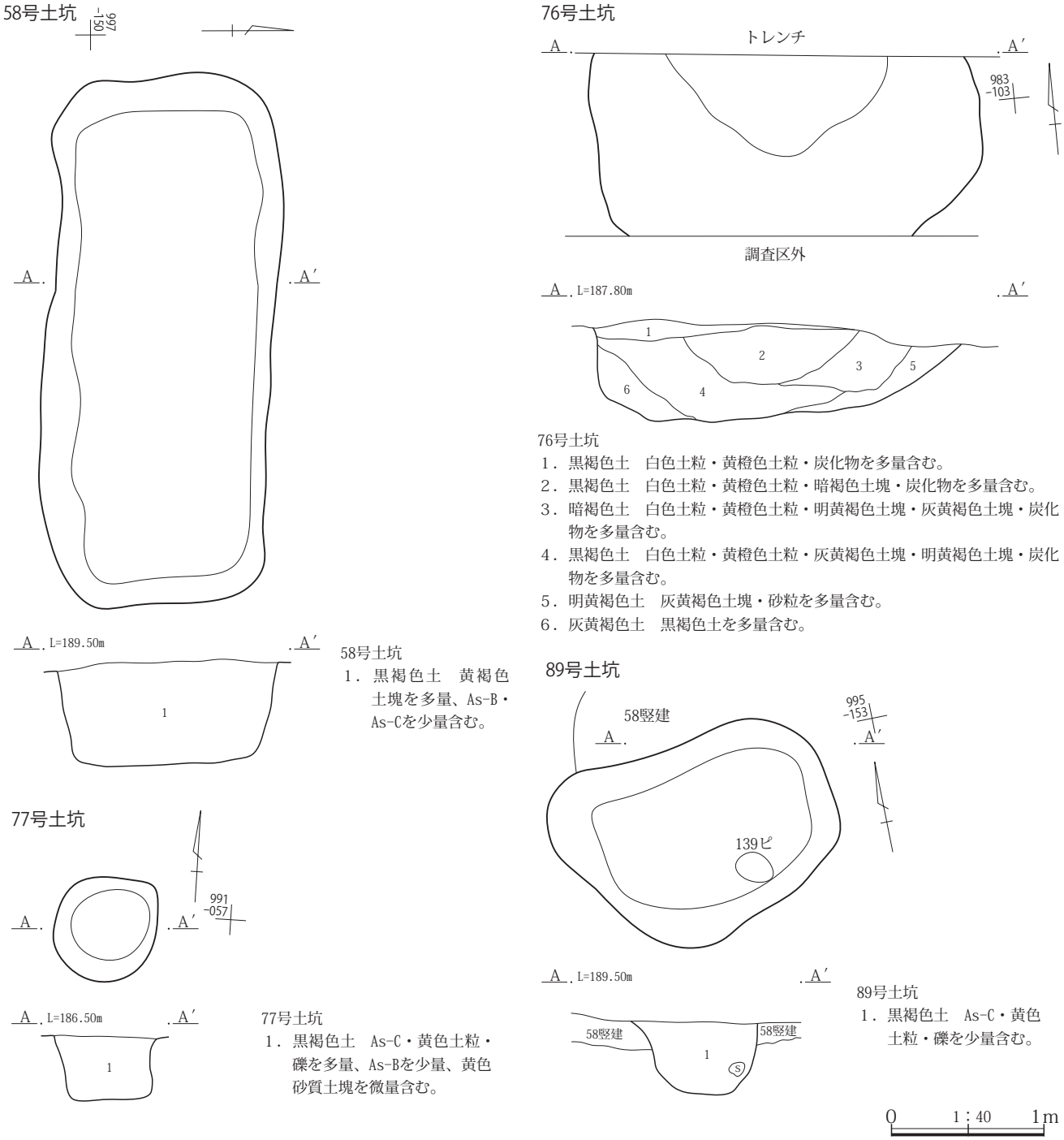
１区76号土坑(第38図)
座標値　X＝47,982・47,983　Y＝-74,103～-74,105
形状　不明　　**長軸方位**　N－３°－E
規模　長軸(1.18)m　短軸2.5m　深さ0.6m
遺物　土師器の小片が多数出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

１区77号土坑(第38図、PL.８)
座標値　X＝47,980・47,981　Y＝-74,057・-74,058
形状　不整形　　**長軸方位**　N－13°－E
規模　長軸0.69m　短軸0.65m　深さ0.43m
所見　埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区89号土坑(第38図、PL.８)
座標値　X＝47,993～47,995　Y＝-74,153～-74,155
重複遺構　58号竪穴建物、139号ピット
形状　不整形　　**長軸方位**　N－78°－W
規模　長軸1.91m　短軸1.31m　深さ0.42m
遺物　土師器２点と須恵器１点の小片が出土している。
所見　58号竪穴建物よりも新しいため、時期は平安時代以降の可能性が高い。



第37図　65・66号土坑

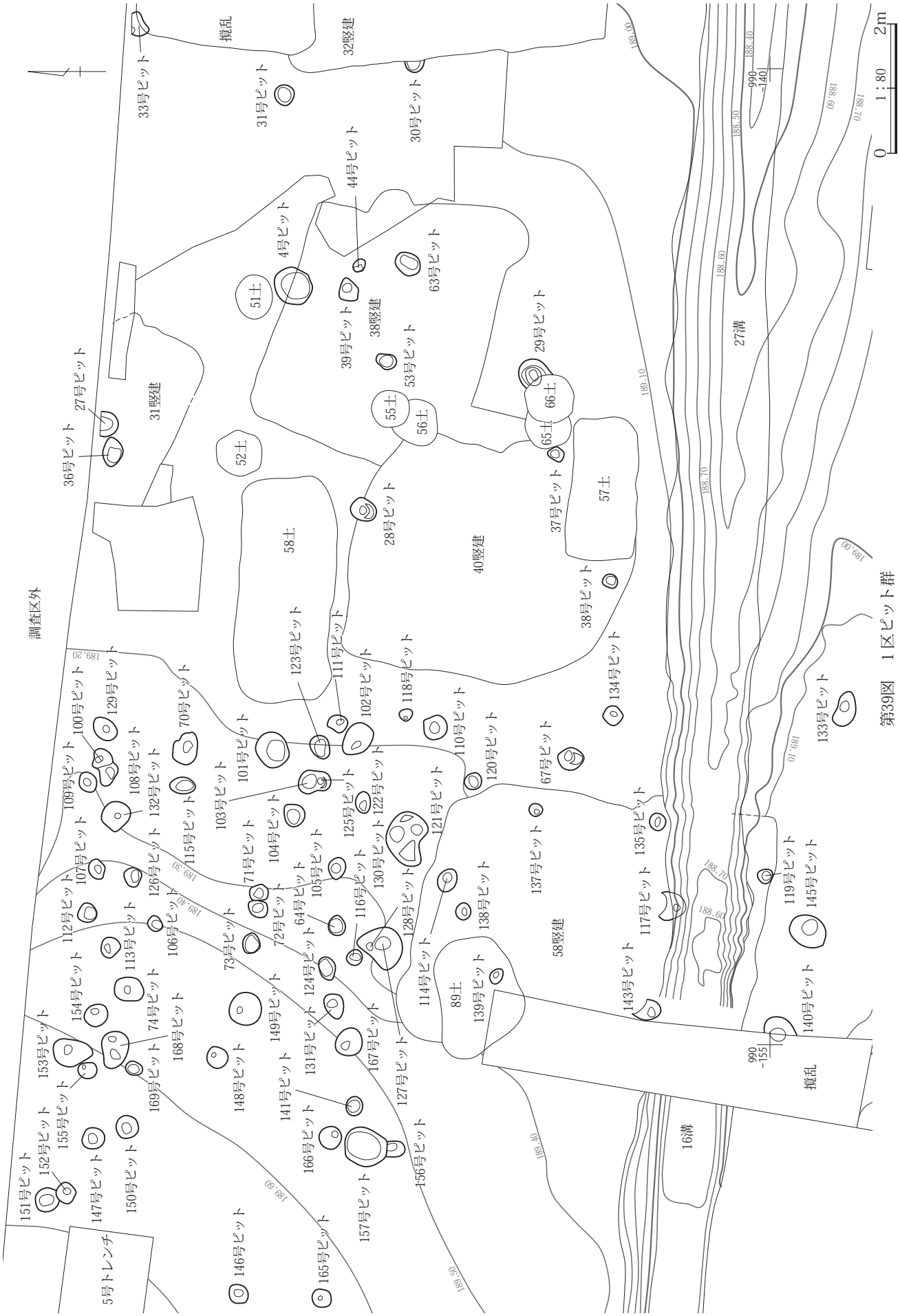


第38図　58・76・77・89号土坑

３．ピット

１区で検出されたピットは90基を数える。調査区の東側や西側でもわずかに検出しているが、ほとんどが調査区中央の32号・38号・40号・58号竪穴建物の付近である。（付図、第39図を参照）平面形状は、円形又は楕円形である。径は20cm～40cmが大半である。確認面からの深さは、50cm以上のものもあるが、大半は20cm～40cmである。１区のピットの埋没土はAs-B、As-Cを多量に含むものが多く、竪穴建物を埋没土と共に掘り込んでいるものも数基検出した。これらのピットは中世以降のものであると考えられる。それ以外のピットの時期の比定は難しいが、埋没土が付近の竪穴建物の埋没土と類似していることから、古代～中世と考える。

（第２表　１区ピット一覧を参照）


調査区外
撹乱
32竪建
33号ピット
31号ピット
30号ピット
44号ピット
4号ピット
63号ピット
51土
39号ピット
38竪建
53号ピット
29号ピット
27号ピット
31竪建
36号ピット
55土
56土
66土
65土
52土
37号ピット
57土
58土
28号ピット
40竪建
38号ピット
123号ピット
111号ピット
118号ピット
102号ピット
134号ピット
133号ピット
100号ピット
129号ピット
70号ピット
101号ピット
110号ピット
120号ピット
67号ピット
109号ピット
108号ピット
132号ピット
103号ピット
125号ピット
122号ピット
121号ピット
135号ピット
107号ピット
115号ピット
104号ピット
137号ピット
126号ピット
71号ピット
105号ピット
130号ピット
119号ピット
145号ピット
112号ピット
64号ピット
116号ピット
128号ピット
138号ピット
117号ピット
106号ピット
72号ピット
73号ピット
113号ピット
124号ピット
114号ピット
89土
139号ピット
58竪建
143号ピット
140号ピット
154号ピット
149号ピット
74号ピット
168号ピット
131号ピット
167号ピット
153号ピット
169号ピット
148号ピット
141号ピット
127号ピット
155号ピット
166号ピット
156号ピット
151号ピット
152号ピット
147号ピット
150号ピット
157号ピット
146号ピット
165号ピット
5号トレンチ
16溝
27溝
撹乱
990
-155
990
-140
0
1：80
2m

第39図　1区ピット群

第２表　１区ピット一覧

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
1	１号ピット	X＝48,006	Y＝-74,216	円形	0.31	0.31	0.17	古代～中世
1	２号ピット	X＝47,990	Y＝-74,182	楕円形	0.39	0.34	0.34	古代～中世
1	３号ピット	X＝48,002	Y＝-74,090・-74,091	円形	0.38	0.37	0.23	中世以降
1	４号ピット	X＝47,997	Y＝-74,143	円形	0.60	0.55	0.25	古代-中世
1	９号ピット	X＝47,998	Y＝-74,136・-74,137	楕円形	0.38	0.35	0.25	古代～中世
1	27号ピット	X＝48,000	Y＝-74,145	円形か	(0.28)	0.38	0.52	須恵器小片１点 古代～中世
1	28号ピット	X＝47,996	Y＝-74,146	楕円形	0.41	0.34	0.33	古代～中世
1	29号ピット	X＝47,993	Y＝-74,144	楕円形	(0.32)	0.46	0.62	古代～中世
1	30号ピット	X＝47,995	Y＝-74,139・-74,140	楕円形か	(0.17)	0.30	0.08	古代～中世
1	31号ピット	X＝47,997	Y＝-74,140	円形	0.32	0.31	0.06	古代～中世
1	32号ピット	X＝47,997・47,998	Y＝-74,138	円形	0.22	0.20	0.14	古代～中世
1	33号ピット	X＝47,999	Y＝-74,139	円形か	0.38	(0.23)	0.69	土師器小片１点 古代～中世
1	34号ピット	X＝47,999	Y＝-74,138	楕円形か	0.37	(0.14)	0.62	土師器小片３点 古代～中世
1	35号ピット	X＝47,999	Y＝-74,138	円形か	0.46	(0.23)	0.25	古代～中世
1	36号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,145・-74,146	楕円形	0.46	0.31	0.40	土師器小片２点 古代～中世
1	37号ピット	X＝47,993	Y＝-74,145・-74,146	楕円形	0.24	0.19	0.29	土師器小片１点 古代～中世
1	38号ピット	X＝47,992	Y＝-74,147	円形	0.23	0.21	0.34	古代～中世
1	39号ピット	X＝47,996	Y＝-74,143	不定形	0.37	0.31	0.23	古代-中世
1	44号ピット	X＝47,996	Y＝-74,142・-74,143	楕円形	0.21	0.17	0.22	古代-中世
1	53号ピット	X＝47,995・47,996	Y＝-74,144	楕円形	0.31	0.21	0.42	土師器小片４点、 須恵器小片１点 古代～中世
1	63号ピット	X＝47,995	Y＝-74,142・-74,143	楕円形	0.41	0.33	0.40	土師器小片３点、 須恵器小片１点 古代～中世
1	64号ピット	X＝47,996	Y＝-74,153	円形	0.30	0.27	0.26	土師器小片４点 古代～中世
1	67号ピット	X＝47,992・47,993	Y＝-74,150	楕円形	0.40	0.35	0.40	中世以降
1	70号ピット	X＝47,998・47,999	Y＝-74,150	楕円形	0.45	0.39	0.52	中世以降
1	71号ピット	X＝47,997	Y＝-74,152	楕円形	0.28	0.23	0.25	中世以降
1	72号ピット	X＝47,997・47,998	Y＝-74,152・-74,153	楕円形	0.32	0.25	0.29	中世以降
1	73号ピット	X＝47,997・47,998	Y＝-74,153	楕円形	0.31	0.27	0.24	中世以降
1	74号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,153・-74,154	楕円形	0.46	0.36	1.34	中世以降
1	100号ピット	X＝48,000	Y＝-74,150	円形か	0.33	(0.29)	0.35	中世以降
1	101号ピット	X＝47,997	Y＝-74,150	楕円形	0.55	0.47	0.30	中世以降
1	102号ピット	X＝47,996	Y＝-74,150	楕円形	0.54	0.38	0.39	中世以降
1	103号ピット	X＝47,996・47,997	Y＝-74,150・-74,151	楕円形か	0.36	(0.27)	0.37	中世以降
1	104号ピット	X＝47,997	Y＝-74,151	楕円形	0.36	0.32	0.26	中世以降
1	105号ピット	X＝47,996	Y＝-74,152	楕円形	0.35	0.26	0.34	中世以降
1	106号ピット	X＝47,999	Y＝-74,153	円形	0.24	0.21	0.29	中世以降
1	107号ピット	X＝48,000	Y＝-74,152	楕円形	0.31	0.25	0.35	中世以降
1	108号ピット	X＝48,000	Y＝-74,150・-74,151	楕円形か	0.37	(0.27)	0.30	中世以降
1	109号ピット	X＝48,000	Y＝-74,150・-74,151	円形	0.32	0.27	0.39	中世以降
1	110号ピット	X＝47,994・47,995	Y＝-74,149・-74,150	楕円形	0.48	0.45	0.62	中世以降
1	111号ピット	X＝47,996	Y＝-74,149・-74,150	楕円形	0.31	0.27	0.52	中世以降
1	112号ピット	X＝48,000	Y＝-74,152・-74,153	円形	0.30	0.29	0.22	中世以降
1	113号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,153	楕円形	0.31	0.31	0.38	中世以降
1	114号ピット	X＝47,994・47,995	Y＝-74,152	楕円形	0.38	0.29	0.21	中世以降
1	115号ピット	X＝47,998・47,999	Y＝-74,150・-74,451	楕円形	0.39	0.26	0.23	中世以降
1	116号ピット	X＝47,996	Y＝-74,153	円形	0.24	0.24	0.13	中世以降

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
1	117号ピット	X＝47,991	Y＝-74,152・-74,153	楕円形	0.41	0.29	0.48	中世以降
1	118号ピット	X＝47,995	Y＝-74,149・-74,150	楕円形	0.19	0.18	0.52	中世以降
1	119号ピット	X＝47,989・47,990	Y＝-74,152	円形	0.23	0.23	0.11	中世以降
1	120号ピット	X＝47,994	Y＝-74,150・-74,151	円形	0.26	0.26	0.26	中世以降
1	121号ピット	X＝47,995	Y＝-74,151・-74,152	楕円形	0.66	0.53	0.62	中世以降
1	122号ピット	X＝47,996	Y＝-74,151	楕円形	0.32	0.23	0.08	中世以降
1	123号ピット	X＝47,996・47,997	Y＝-74,150	楕円形	0.35	0.29	0.02	中世以降
1	124号ピット	X＝47,996	Y＝-74,153・-74,154	楕円形	0.37	0.25	0.31	中世以降
1	125号ピット	X＝47,996	Y＝-74,150・-74,151	円形か	0.30	(0.23)	0.29	中世以降
1	126号ピット	X＝47,999	Y＝-74,152	楕円形	0.30	0.26	0.34	中世以降
1	127号ピット	X＝47,995・47,996	Y＝-74,153	楕円形か	0.68	(0.43)	0.97	中世以降
1	128号ピット	X＝47,995・47,996	Y＝-74,153	円形か	0.35	(0.27)	0.84	中世以降
1	129号ピット	X＝48,000	Y＝-74,149・-74,150	楕円形	0.41	0.30	0.61	中世以降
1	130号ピット	X＝47,995	Y＝-74,151・-74,152	楕円形か	0.43	(0.39)	0.16	中世以降
1	131号ピット	X＝47,996	Y＝-74,153・-74,154	楕円形	0.40	0.29	0.35	中世以降
1	132号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,151	楕円形	0.44	0.40	0.48	中世以降
1	133号ピット	X＝47,988・47,989	Y＝-74,149・-74,150	楕円形	0.56	0.28	0.16	中世以降
1	134号ピット	X＝47,992	Y＝-74,149・-74,150	円形	0.31	0.31	0.69	中世以降
1	135号ピット	X＝47,991	Y＝-74,151	円形	0.26	0.25	0.21	中世以降
1	137号ピット	X＝47,993	Y＝-74,151	円形	0.20	0.18	0.37	中世以降
1	138号ピット	X＝47,994	Y＝-74,152・-74,153	円形	0.26	0.24	0.33	中世以降
1	139号ピット	X＝47,994	Y＝-74,153・-74,154	楕円形	0.24	0.19	0.15	中世以降
1	140号ピット	X＝47,989・47,990	Y＝-74,154	楕円形か	(0.38)	0.49	0.78	古代～中世
1	141号ピット	X＝47,996	Y＝-74,155・-74,156	円形	0.30	0.26	0.08	中世以降
1	143号ピット	X＝47,991・47,992	Y＝-74,154	楕円形か	(0.42)	0.31	0.48	中世以降
1	145号ピット	X＝47,989	Y＝-74,153	楕円形	0.57	0.48	0.64	中世以降
1	146号ピット	X＝47,998	Y＝-74,158	楕円形	0.33	0.28	0.27	中世以降
1	147号ピット	X＝48,000	Y＝-74,156	円形	0.33	0.33	0.19	中世以降
1	148号ピット	X＝47,998	Y＝-74,155	円形	0.33	0.32	0.27	中世以降
1	149号ピット	X＝47,997・47,998	Y＝-74,154	円形	0.49	0.49	0.62	中世以降
1	150号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,156	円形	0.35	0.34	0.22	中世以降
1	151号ピット	X＝48,000・48,001	Y＝-74,157	円形	0.37	0.36	0.21	中世以降
1	152号ピット	X＝48,000	Y＝-74,157	円形	0.31	0.28	0.18	中世以降
1	153号ピット	X＝48,000・48,001	Y＝-74,154・-74,155	楕円形	0.61	0.42	0.31	中世以降
1	154号ピット	X＝48,000	Y＝-74,154	円形	0.34	0.34	0.65	中世以降
1	155号ピット	X＝48,000	Y＝-74,155	円形	0.27	0.25	0.30	中世以降
1	156号ピット	X＝47,995	Y＝-74,156	楕円形か	(0.28)	0.24	0.27	古代～中世
1	157号ピット	X＝47,995・47,996	Y＝-74,156	楕円形	0.64	0.59	0.46	古代～中世
1	165号ピット	X＝47,996・47,997	Y＝-74,158・-74,159	円形	0.29	0.27	0.23	古代～中世
1	166号ピット	X＝47,996	Y＝-74,156	円形	0.34	0.34	0.19	古代～中世
1	167号ピット	X＝47,996	Y＝-74,154・-74,155	円形	0.43	0.40	0.85	古代～中世
1	168号ピット	X＝47,999・48,000	Y＝-74,154・-74,155	楕円形	0.56	0.40	0.25	中世以降
1	169号ピット	X＝47,999	Y＝-74,155	楕円形	0.26	0.21	0.16	中世以降
1	170号ピット	X＝47,988・47,989	Y＝-74,055	楕円形	0.64	0.39	0.22	古代～中世
1	171号ピット	X＝47,988・47,989	Y＝-74,056・-74,057	楕円形	0.52	0.44	0.34	古代～中世

４．墓壙

１区では４基の墓壙を検出した。いずれも人骨を伴っている。１号～３号墓壙は３号竪穴状遺構の10m程西の位置で隣接しており、４号墓壙は１～３号墓壙の西約90mの位置にある。

１区１号墓壙（第40・41図、第８表、PL.９・48）

座標値　X＝47,903・47,904　Y＝-74,084～-74,086

形状　長方形　　**長軸方位**　N－87°－W

規模　長軸2.69m　短軸(1.06)m　深さ0.34m

埋没土　As-B・As-C・黄褐色土粒を含む暗褐色土

遺物　人骨と共に出土し掲載した遺物は、１：肥前磁器の染付小碗、２：釘、３～９：古銭（３～６は寛永通寶）である。

所見　２号墓壙・３号墓壙に比べ規模が大きく、離れたところから、複数の頭骨が出土しており、複数の人が葬られている可能性がある。葬制は不明である。寛永通寶と判別できる古銭や、肥前磁器の染付小碗が出土しており、18～19 世紀前半の墓壙と考えられる。

１区２号墓壙（第42図、第８表、PL.９）

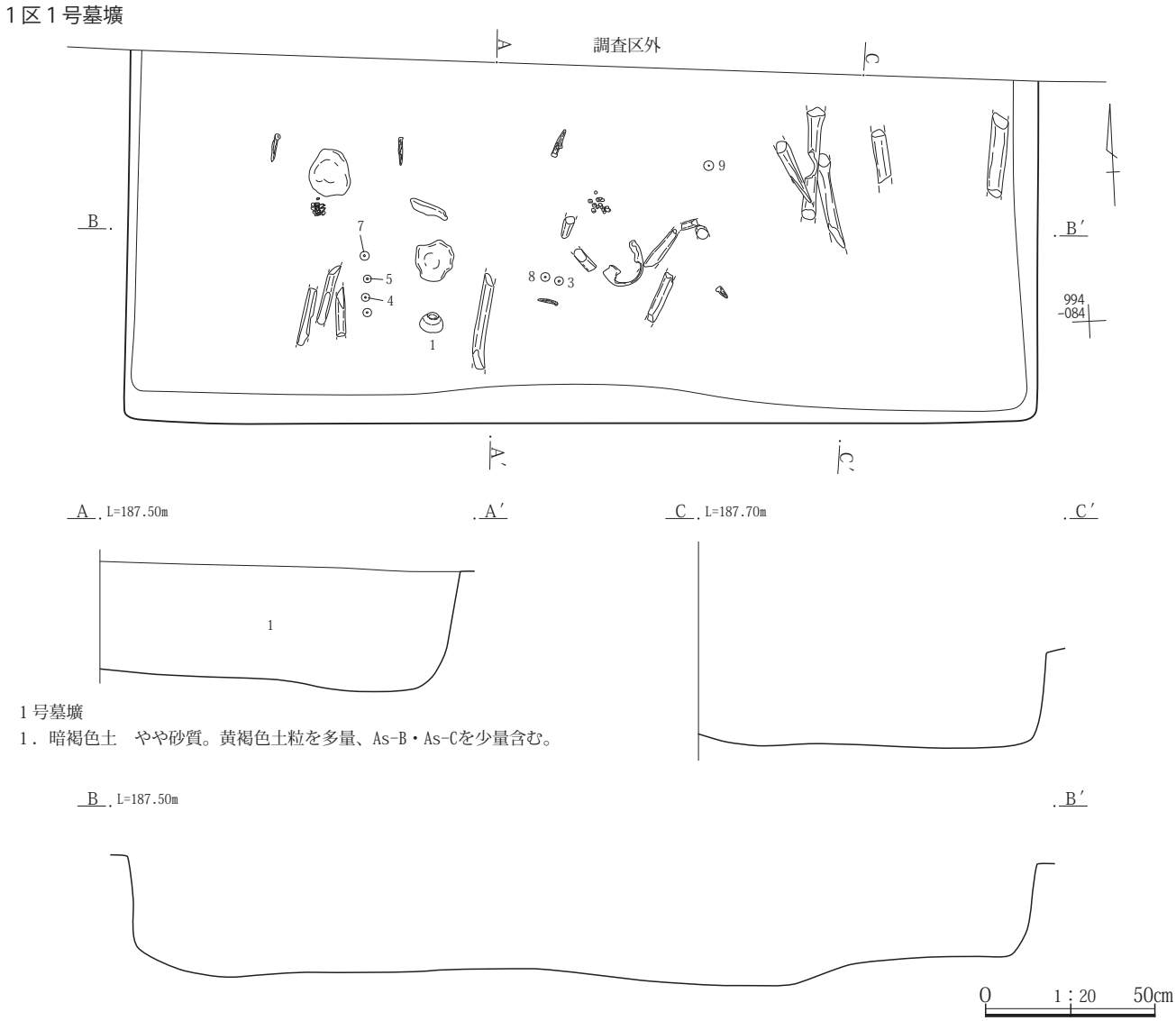
座標値　X＝47,993・47,994　Y＝-74,083・-74,084

形状　長方形　　**長軸方位**　N－８°－E

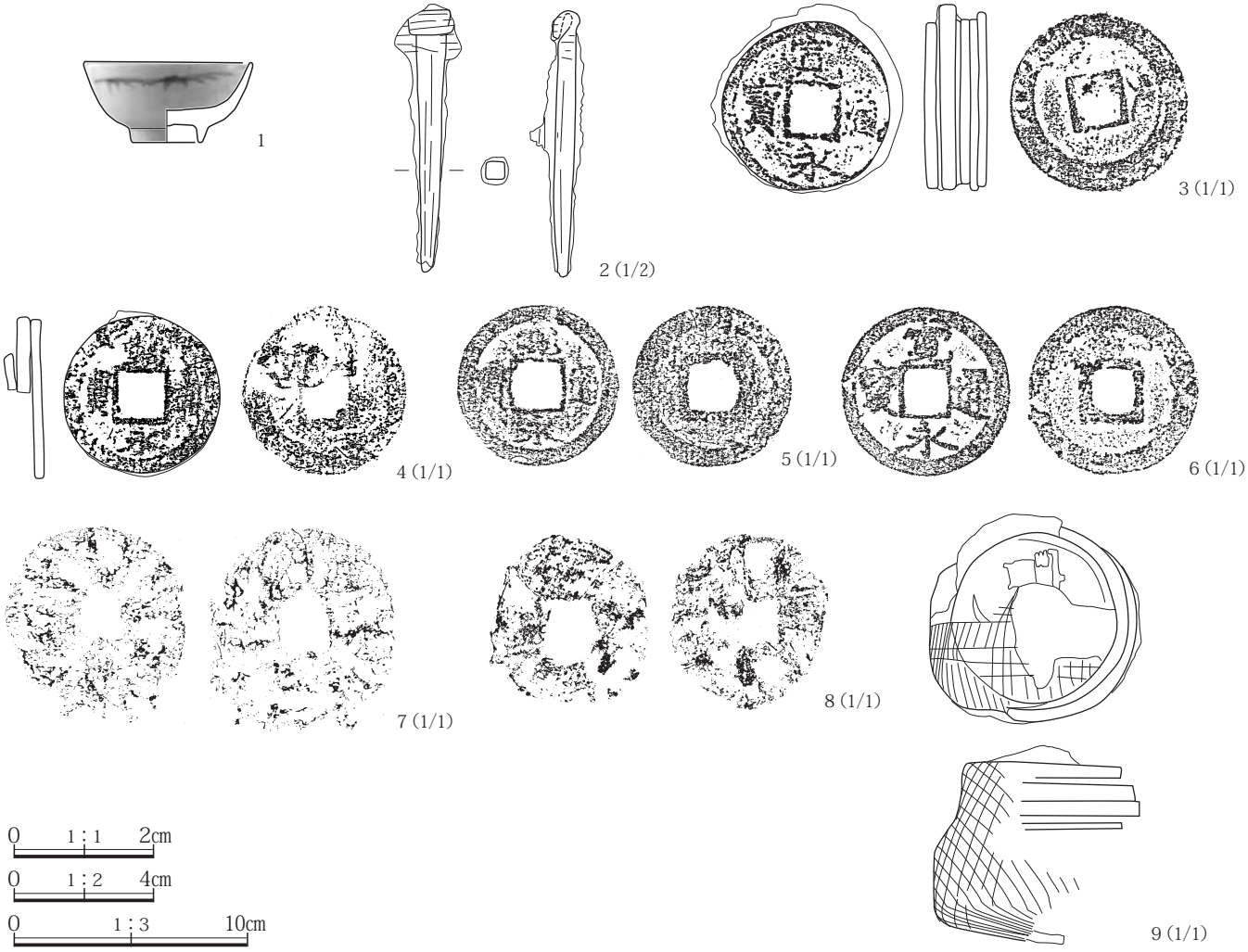
規模　長軸0.84m　短軸0.64m　深さ0.14m

埋没土　As-B・As-C・黄褐色土粒を含む暗褐色土

遺物　人骨と共に出土し掲載した遺物は、１：肥前磁器の染付碗、２・３：古銭（２は寛永通寶）である。



第40図　１号墓壙（１）



第41図　１号墓壙（２）

所見　箱館での座葬による埋葬とみられる。寛永通寶と判別できる古銭や、肥前磁器の染付碗が出土しており、18世紀後半の墓壙と考えられる。

１区３号墓壙（第42図、第８表、PL.９・48）

座標値　X＝47,993・47,994　Y＝-74,082・-74,083

形状　長方形　　**長軸方位**　N－９°－E

規模　長軸(0.81)m　短軸0.76m　深さ0.17m

埋没土　As-B・As-C・黄褐色土粒を含む暗褐色土

遺物　人骨と共に出土し掲載した遺物は、１・２：瀬戸・美濃陶器の小碗である。

所見　箱館での座葬による埋葬とみられる。整理当初は時期について、中世か近世かの判断がつかなかったが、出土遺物が18世紀の瀬戸・美濃陶器の小碗であることが判明し、18世紀の墓壙と考えられる。この墓壙から出土した人骨については、新潟医療福祉大学に鑑定・分析を委託し、壮年期後半以降の男性であることが推定された。詳細については、第４章第１節・第３節に記した。

１区４号墓壙（第42図、第８表、PL.９・48）

座標値　X＝47,999　Y＝-74,175

形状　楕円形　　**長軸方位**　N－８°－W

規模　長軸(0.79)m　短軸(0.34)m　深さ不明

埋没土　不明

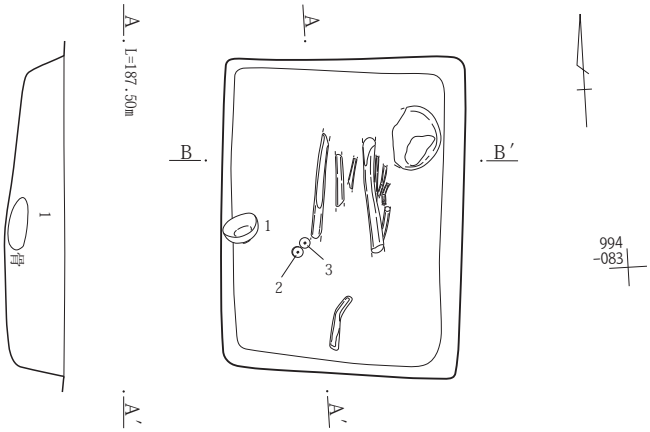
遺物　人骨と共に出土し掲載した遺物は、銭種不明の古銭である。

所見　墓壙の検出は、周辺の遺構精査時に人骨が出土したことによるもので、人骨の記録時及び取り上げ後に調査を行ったが、埋没土や墓壙の範囲を明確に確認することができなかった。時期の比定につながる出土遺物はないが、頭北面西右脇臥の状態で人骨が出土していることから、中世土壙墓の可能性が高い。この人骨については、

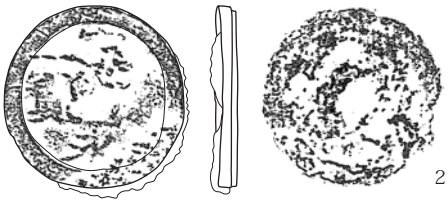
新潟医療福祉大学に鑑定・分析を委託し、12歳から18歳程度の女性であることが推定された。詳細については、第４章第１節・第３節に記した。

２墓１

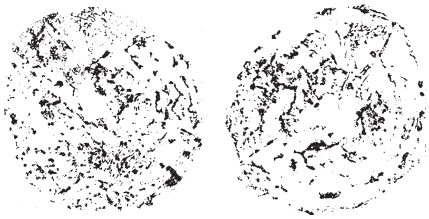
１区２号墓壙



２号墓壙
１．暗褐色土　やや砂質。黄褐色土粒を多量、As-B・As-Cを少量含む。

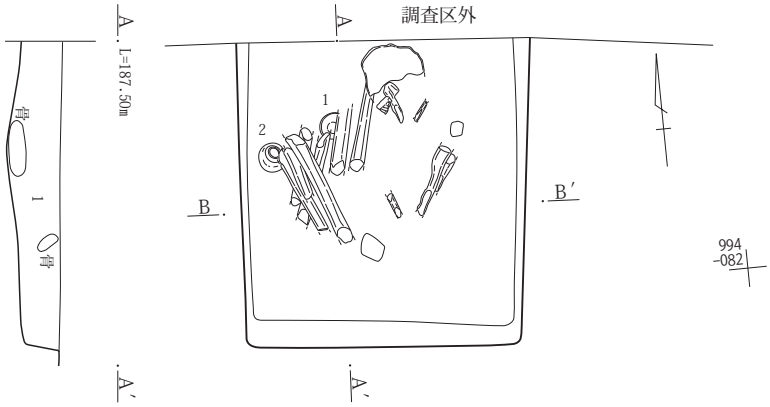


２墓２(1/1)



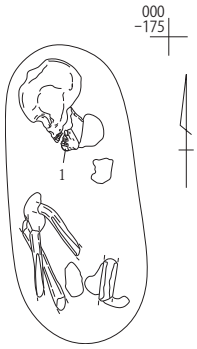
２墓３(1/1)

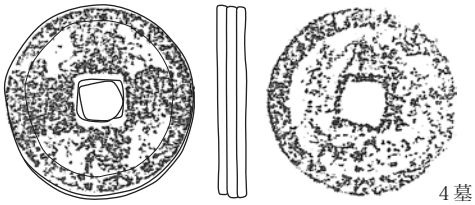
１区３号墓壙



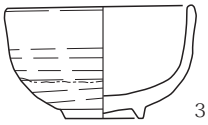
３号墓壙
１．暗褐色土　やや砂質。黄褐色土粒を多量、As-B・As-Cを少量含む。

１区４号墓





４墓１(1/1)



３墓１

３墓２

0　1：1　2cm
0　1：3　10cm
0　1：20　50cm

第42図　２～４号墓壙

５．井戸

１区では、調査区の中央から西の範囲に４基の井戸が点在している。規模や形状、埋没土はそれぞれ異なっている。

１区１号井戸（第43図、第８表、PL.９）

座標値　X＝48,000・48,001　Y＝-74,192・-74,193

平面形状　楕円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－34°－E　　**重複**　なし

規模　長軸1.01m　短軸0.96m　深さ(0.65)m

埋没土　黄橙色土粒を含む黒色土、黄色土塊・黄橙色土粒を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は灰釉陶器の皿である。他に土師器、須恵器の小片が数点出土している。

所見　10世紀の建物と考えられる４号竪穴建物の西側で接する位置にあるため、同時期に使用されていたとは考えにくく、時期は10世紀後半以降の可能性が高い。

１区２号井戸（第44図、PL.９）

座標値　X＝47,996・47,997　Y＝-74,159・-74,160

平面形状　円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－34°－E　　**重複**　なし

規模　長軸1.01m　短軸0.96m　深さ(0.65)m

埋没土　黄色土塊・黄橙色土粒を含む黒褐色土、礫・褐灰色砂質土を含む黒褐色土、黄橙色土粒を含む黒色土で埋没している。

所見　出土遺物がなく、埋没土からも時期の比定は難しいが、古代の竪穴建物や中近世のものとみられるピットが数多く検出された範囲にあることから、それらの遺構と同時期の可能性がある。

１区３号井戸（第44図、PL.９）

座標値　X＝47,990・47,991　Y＝-74,118～-74,120

平面形状　円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－82°－W　　**重複**　なし

規模　長軸1.19m　短軸1.10m　深さ0.97m

埋没土　As-B・As-C・礫を含む暗褐色土、黒褐色土で埋没している。

遺物　土師器と須恵器の小片が数点出土している。

所見　埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区４号井戸（第44図、第８表、PL.９）

座標値　X＝47,992～47,995　Y＝-74,131～-74,133

平面形状　楕円形　　**断面形状**　すり鉢形

長軸方位　N－11°－W

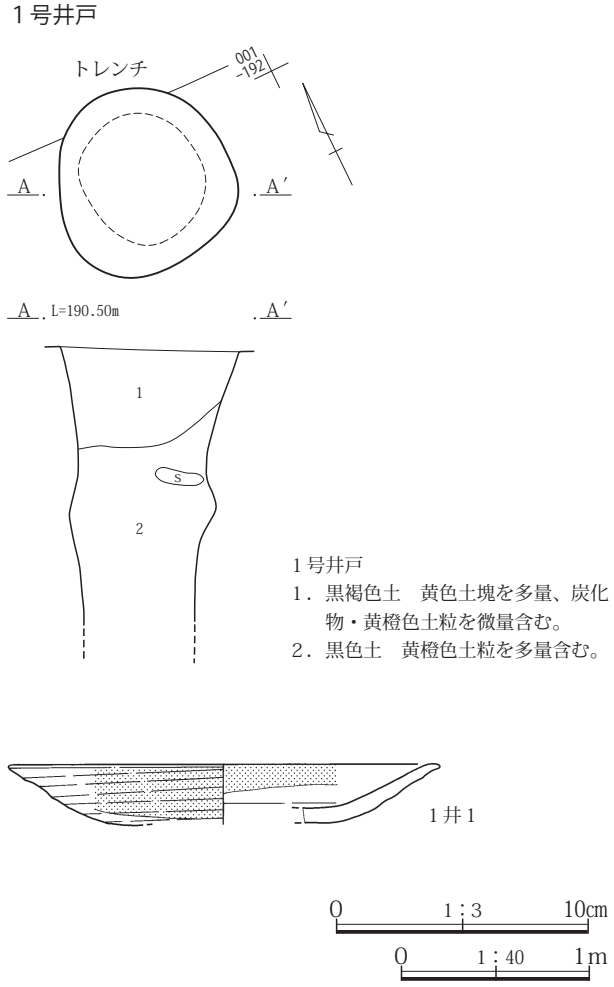
重複　33号竪穴建物（新旧関係は本遺構が新しい。）

規模　長軸2.77m　短軸2.40m　深(1.85)m

埋没土　上位は、As-B・As-Cを含む暗褐色土、下位は礫を含む黒褐色土等で埋没している。

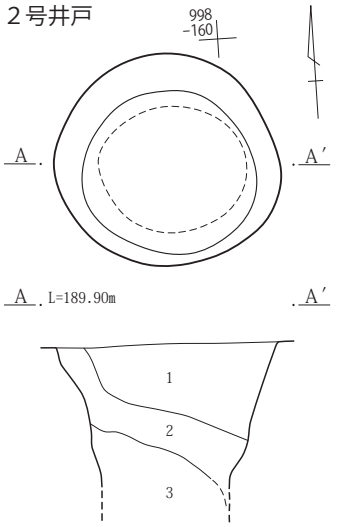
遺物　掲載した遺物は須恵器の椀である。他に土師器、須恵器の小片が多数、灰釉陶器の小片が３点出土している。

所見　10世紀後半の建物とみられる33号竪穴建物より新しく、埋没土の上層にAs-Bが見られることから、時期は中世以降の可能性が高い。



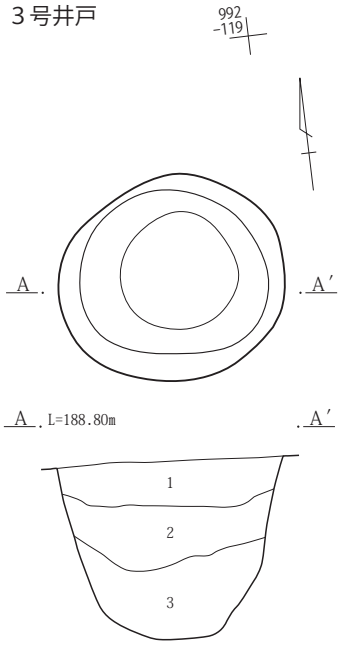
第43図　１号井戸

２号井戸



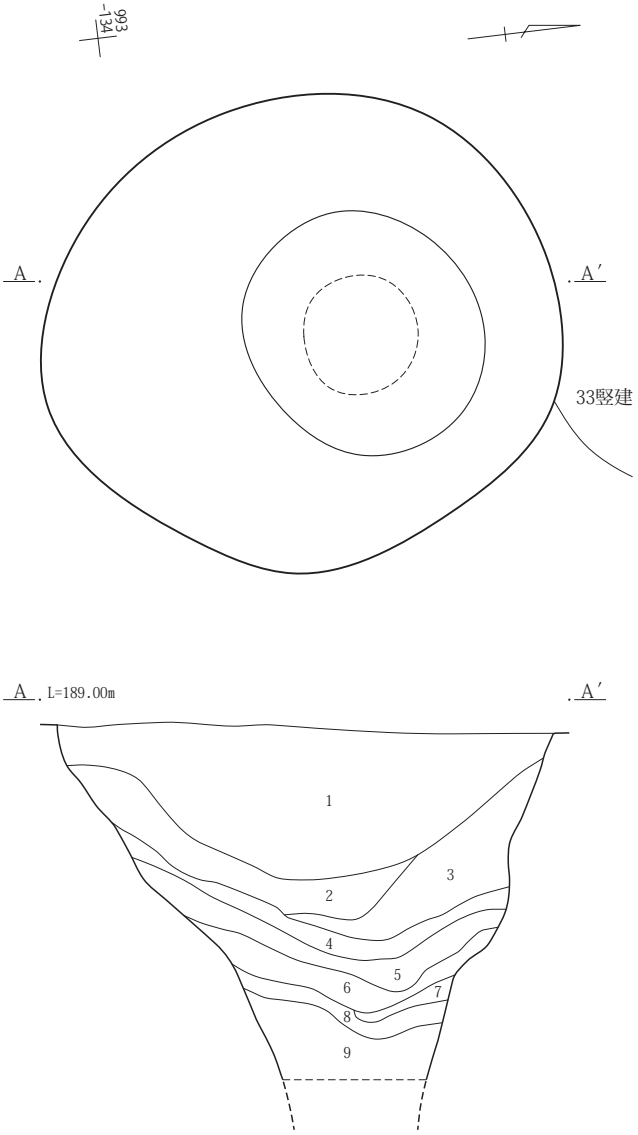
２号井戸
1．黒褐色土　黄色土塊を多量、炭化物・黄橙色土粒を微量含む。
2．黒褐色土　礫を多量、褐灰色砂質土を少量含む。締りなし。
3．黒色土　黄橙色土粒を多量含む。

３号井戸

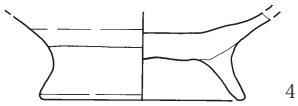


３号井戸
1．暗褐色土　礫を多量、As-B・As-Cを少量含む。
2．黒褐色土　As-B・As-Cを多量含む。
3．黒褐色土　As-B・As-Cを少量、亜角礫を微量含む。底部は明黄褐色土。

４号井戸



４号井戸
1．暗褐色土　As-B・As-Cを少量、亜角礫を微量含む。
2．暗褐色土　As-B・As-C・黄橙色土塊を少量含む。
3．黒褐色土　As-B・As-C・明黄褐色土塊を少量含む。
4．暗褐色土　As-Cを少量、明黄褐色土塊を微量含む。
5．黒褐色土　As-C・亜円礫を微量含む。
6．暗褐色土　亜円礫を微量含む。
7．明黄褐色土
8．黒褐色土
9．暗褐色土



４井１

0　1：3　10cm

0　1：40　1m

第44図　２～４号井戸

６．溝

１区では、19条の溝を検出した。調査区を東西、南北に横切る多数の大規模な溝が検出された。出土遺物やAs-Bを含む埋没土の状況から、多くが中世以降に比定される。水成堆積が見られる水路としての機能が確認できるものや、区画溝としての性格が推定される遺構が混在している。

１区２号溝(第45・46図、第８表、PL.10・49)

座標値　X＝47,988～47,997　Y＝-74,160～-74,211

重複遺構　４号竪穴建物、32号・33号土坑、１号・16号・51号溝と重複する。新旧関係は４号竪穴建物・32号土坑より新しく、１号・16号・51号溝、33号土坑より旧い。

延伸方位　N－80°－W

規模　調査区の西端付近から50m程東へ伸び、南に曲がって調査区外へと続いている。幅は4.3～4.8m、深さは0.26m～0.74mである。

埋没土層　多くはAs-B・As-C・黄橙色土粒を含む黒褐色土で埋没しており、底部に黄色土塊を含む暗褐色土などが堆積している箇所がある。

遺物　掲載した遺物は、１：須恵器の杯、２：灰釉陶器の瓶、３：同長頸壺、４：須恵器の甕、５：石臼、６：羽口である。他に土師器、須恵器、灰釉陶器の小片が多数、埴輪の小片が１点出土している。

所見　調査区の西端で溝が途切れている。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。４号竪穴建物より新しく、埋没土の多くにAs-Bが見られることから、時期は中世以降と考えられる。

１区16号・27号溝(第45・47図、第８表、PL.10～13)

16号溝は、調査区西側から中央にかけて東西に直線的に伸び、西端は南へほぼ垂直に曲がって南壁へと続いている。溝の東部は、27号溝に続いている。別の溝として調査を行ったが、同一の遺構と考えられるため、両溝を合わせて記述する。

座標値　X＝47,981～47,990　Y＝-74,110～-74,203

重複遺構　45号・58号竪穴建物、１号竪穴状遺構、33号土坑、２号・19号溝と重複する。新旧関係は45号・58号竪穴建物より新しく、33号土坑、２号･19号溝より旧い。１号竪穴状遺構との新旧関係は不明である。

延伸方位　N－88°－E(西端部は南へ曲がる)

規模　南壁に曲がる所から19号溝との重複地点までの長さは95.5m、幅は0.80～2.00m、深さは0.54m程である。

埋没土層　埋没土上層の多くはAs-B・As-C・褐色土塊等を含む黒褐色土･暗褐色土で、底部には、オリーブ褐色･黒褐色の砂質土や鉄分の沈着などが見られる。

遺物　掲載した遺物は、16溝１:黒色土器の椀、27溝１:灰釉陶器の椀、27溝２:土師器の甕である。他に土師器、須恵器、灰釉陶器の小片が多数出土し、45号竪穴建物との重複地点(第45図参照)で獣骨が出土した。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いており、凹凸が見られる。東西約100mに渡り直線的に延伸し､一部に水成堆積が見られることから、水路、或いは流水を伴う区画溝といった掘削目的が考えられる。出土した獣骨については、新潟医療福祉大学に鑑定・分析を委託し、少なくとも５歳以上の日本在来馬であることが推定された。詳細については、第４章第１節・第４節に記した。埋没土の多くにAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区19号溝(第45・48図、第８表、PL.11・49)

座標値　X＝47,985～47,989　Y＝-74,050～-74,116

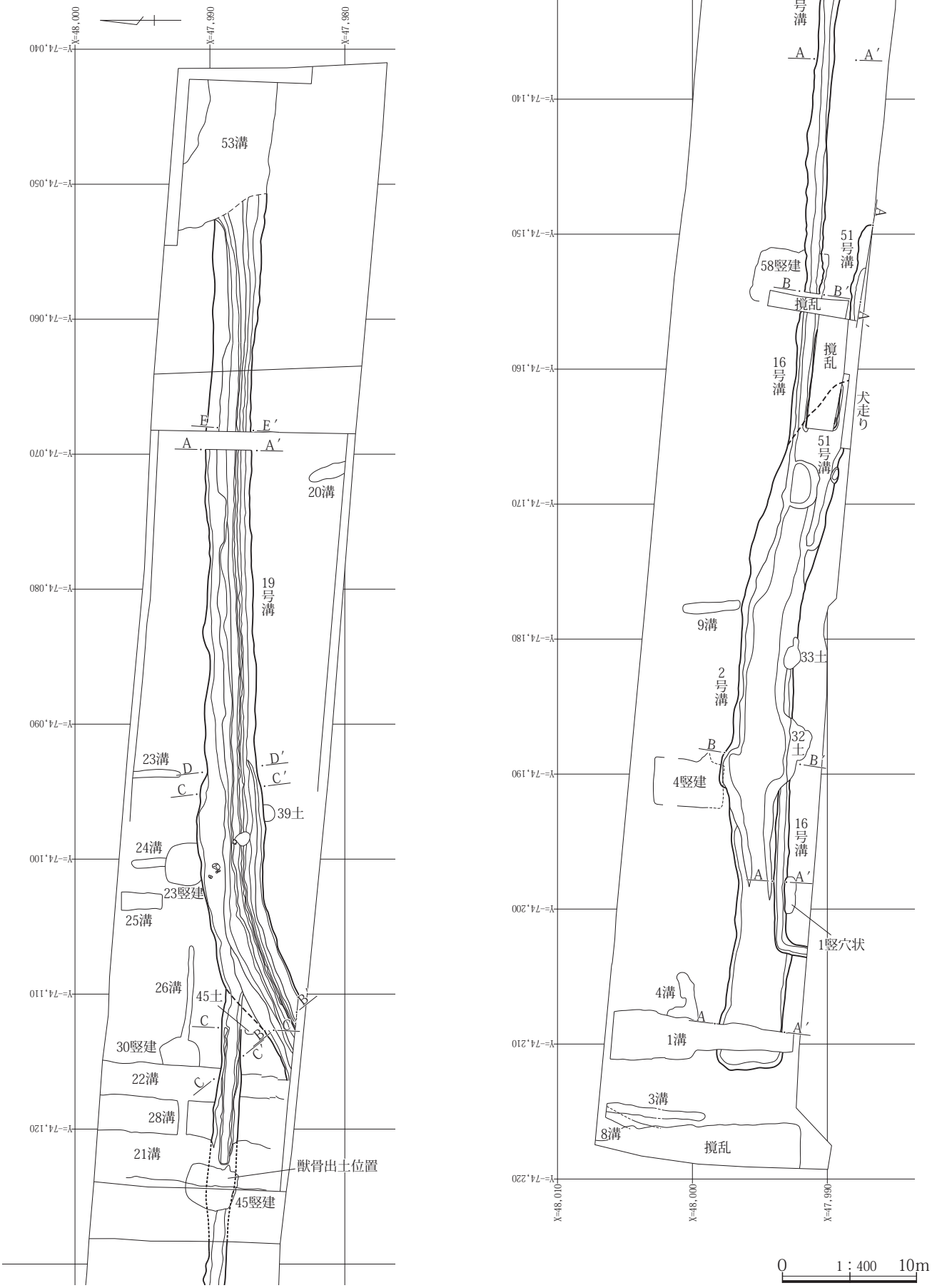
重複遺構　23号竪穴建物、39号土坑、27号・53号溝と重複する。新旧関係は23号竪穴建物、27号溝、39号土坑より新しく、53号溝より旧い。　**延伸方位**　N－83°－E

規模　調査区南壁中央付近から53号溝との重複地点までの長さは63m、幅は3.00～5.05m、深さは0.94m程である。

埋没土層　主にAs-B・As-C・黄色土塊・炭化物を含むやや砂質の暗褐色土で埋没している。一部に水成堆積、硬化した層がある。

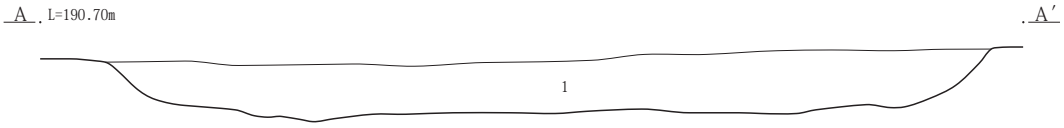
遺物　掲載した遺物は、１・２:瀬戸･美濃陶器の皿、３:肥前磁器の染付碗、４：在地系土器のすり鉢、５・６：砥石である。他に土師器、須恵器、灰釉陶器の小片が多数、陶磁器の小片が1点出土している。

所見　水成堆積が見られ、水路とみられる。水成堆積の上層に一部硬化した面を検出した。溝廃絶後に道として利用された可能性もある。埋没土全体にAs-Bが含まれて

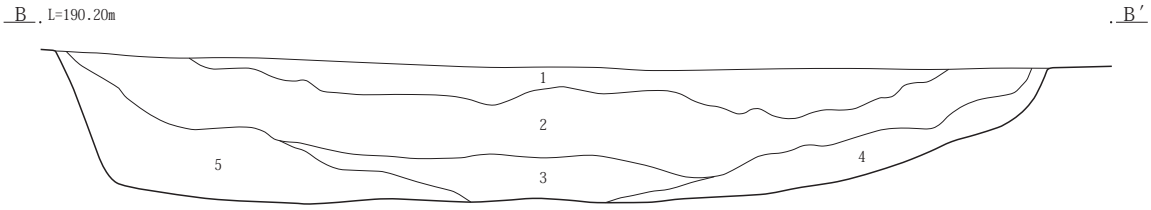


第45図　２・16・19・27・51号溝

２号溝

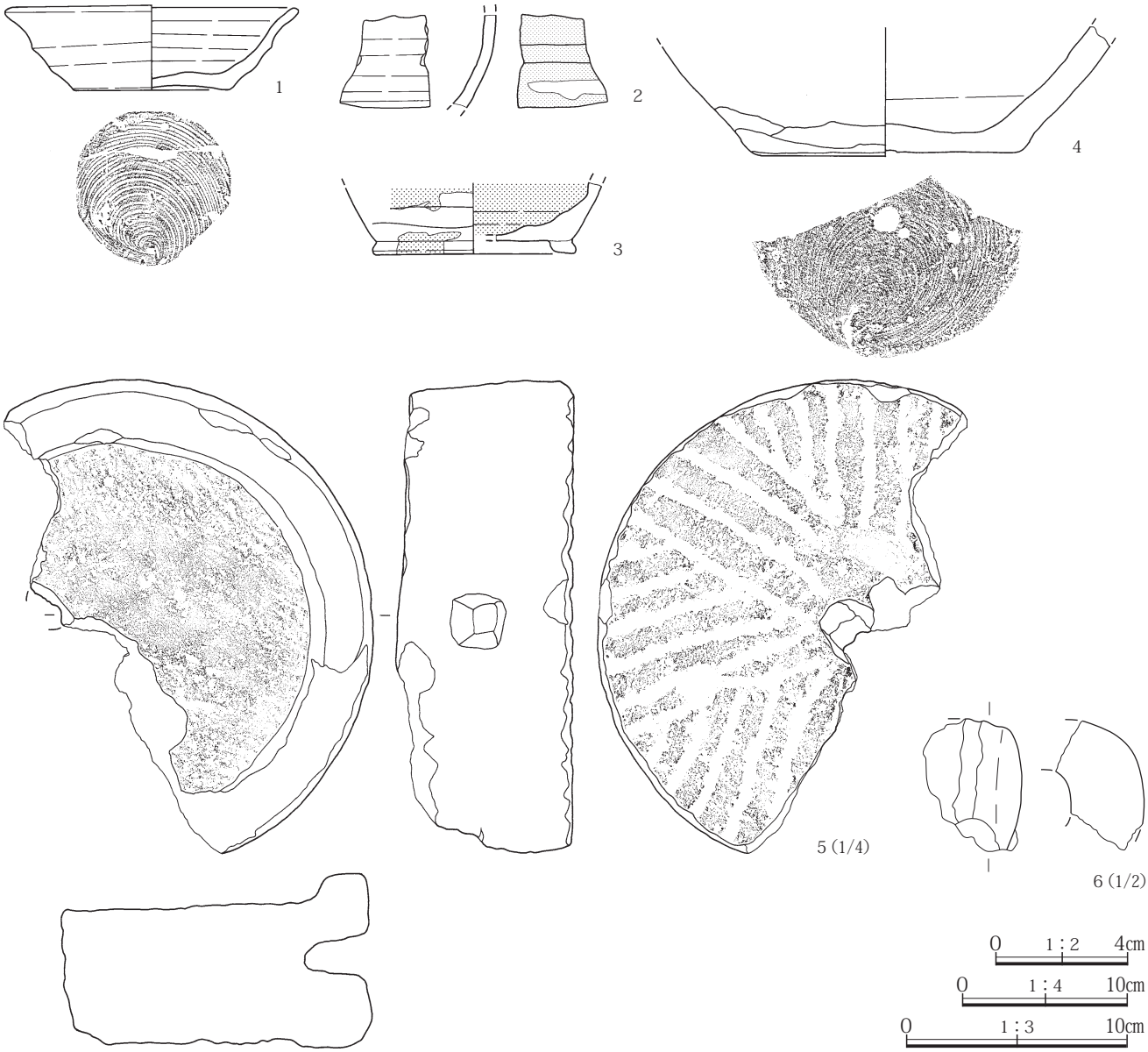


２号溝　A-A′
１．黒褐色土　As-B・As-C・黄橙色土粒を微量含む。



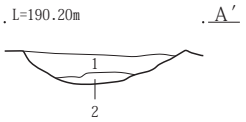
２号溝　B-B′
１．黒褐色土　砂質土。
２．黒褐色土　As-B・As-C・黄橙色土粒を微量含む。
３．黒色土　As-Cを多量、黄色土塊を微量含む。締りあり。
４．暗褐色土　黄色土塊・黒色土塊を多量含む。
５．黒褐色土　亜角礫を少量、黄色土塊を微量含む。

0　1：40　1m

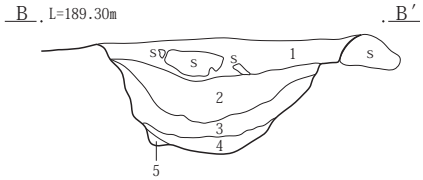


第46図　２号溝

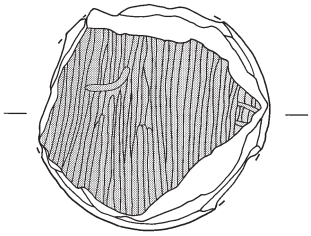
16号溝

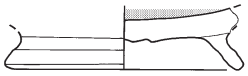


16号溝　A-A′
１．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、褐色土塊を少量含む。
２．暗褐色土　As-B・As-C・褐色土塊を多量含む。

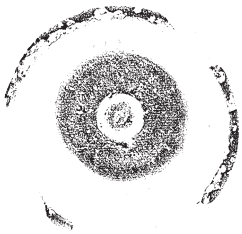


16号溝　B-B′
１．暗褐色土　As-B・As-Cを多量、礫を少量・白色粒・黄橙色土粒を微量含む。
２．黒褐色土　As-Cを多量、黄橙色土粒・炭化物粒を少量含む。
３．暗褐色土　As-C・明黄褐色土・オリーブ褐色砂質土塊を少量含む。
４．黒褐色土　明黄褐色土・オリーブ褐色砂質土塊・白色粒を多量含む。硬い層。
５．オリーブ褐色土　砂質層。明黄褐色砂質土を含む。

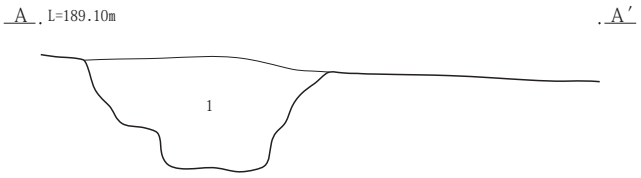




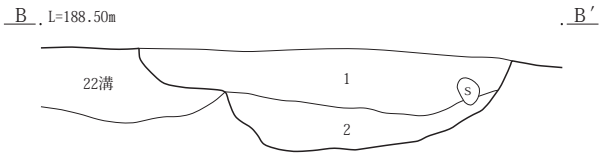
16溝１



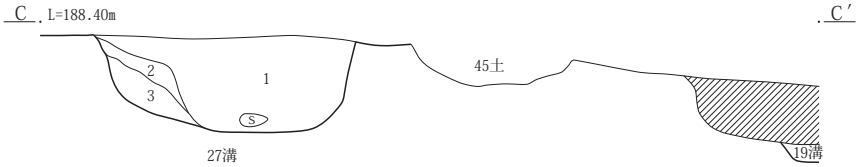
27号溝



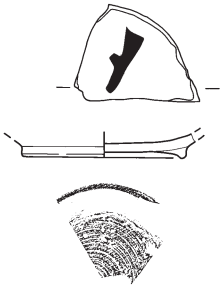
27号溝　A-A′
１．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、褐色土塊を少量含む。



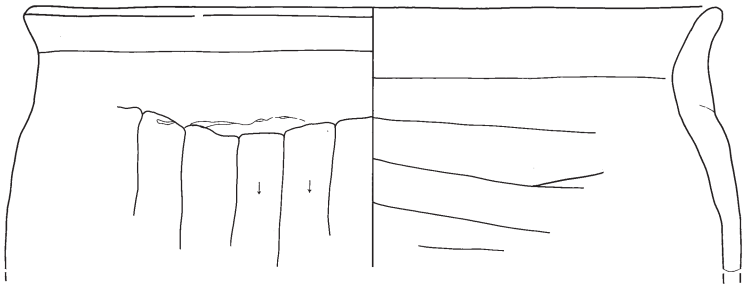
27号溝　B-B′
１．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-Cを少量含む。
２．褐灰色土　As-Bを多量、黄褐色土塊・As-Cを少量含む。



27号溝　C-C′
１．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-Cを少量含む。
２．黒褐色土　As-Cを多量含む。
３．褐灰色土　As-Bを多量、As-C・黄褐色土塊を少量含む。



27溝１



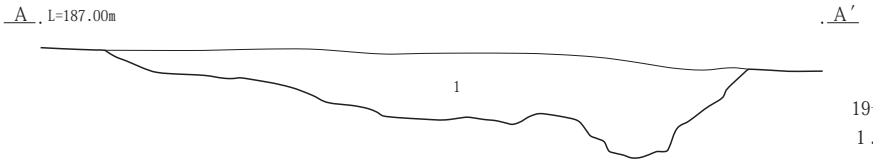
27溝２

0　1：3　10cm

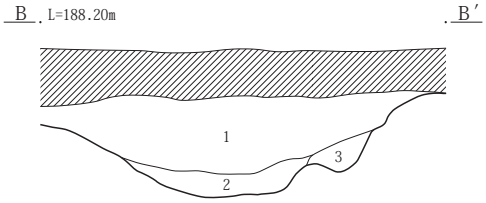
0　1：40　1m

第47図　16・27号溝

19号溝

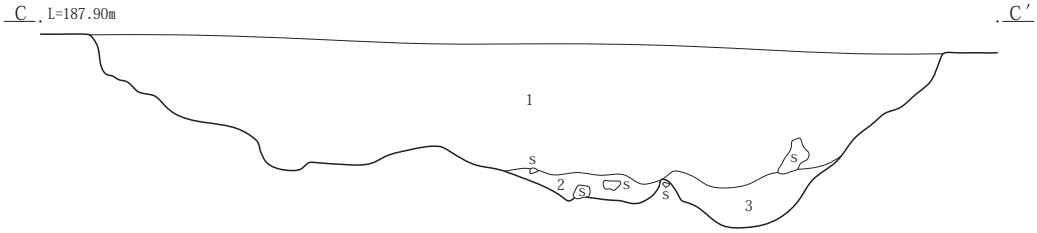


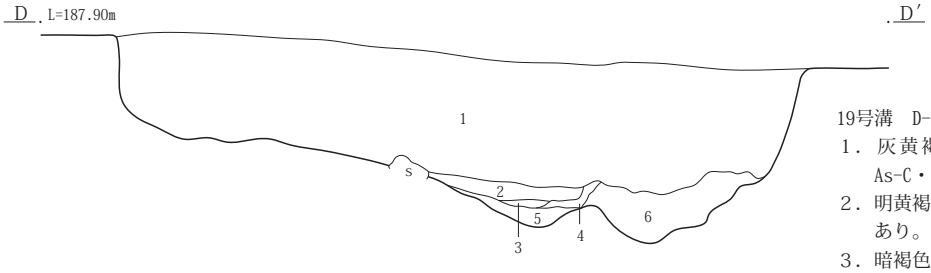
19号溝　A-A′
1．黒褐色土　As-B・As-C・暗褐色土・亜角礫を含む。



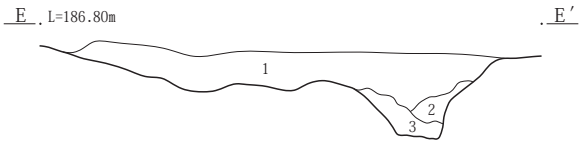
19号溝　B-B′
1．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-C・黄褐色土粒を少量含む。
2．にぶい黄褐色土　As-B・As-C・黄褐色土塊を含む。
3．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-C・黄褐色土を少量含む。

19号溝　C-C′
1．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-C・黄褐色土粒を少量含む。
2．にぶい黄褐色土　黄褐色土塊を多量、As-B・As-Cを含む。
3．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-C・黄褐色土を少量含む。

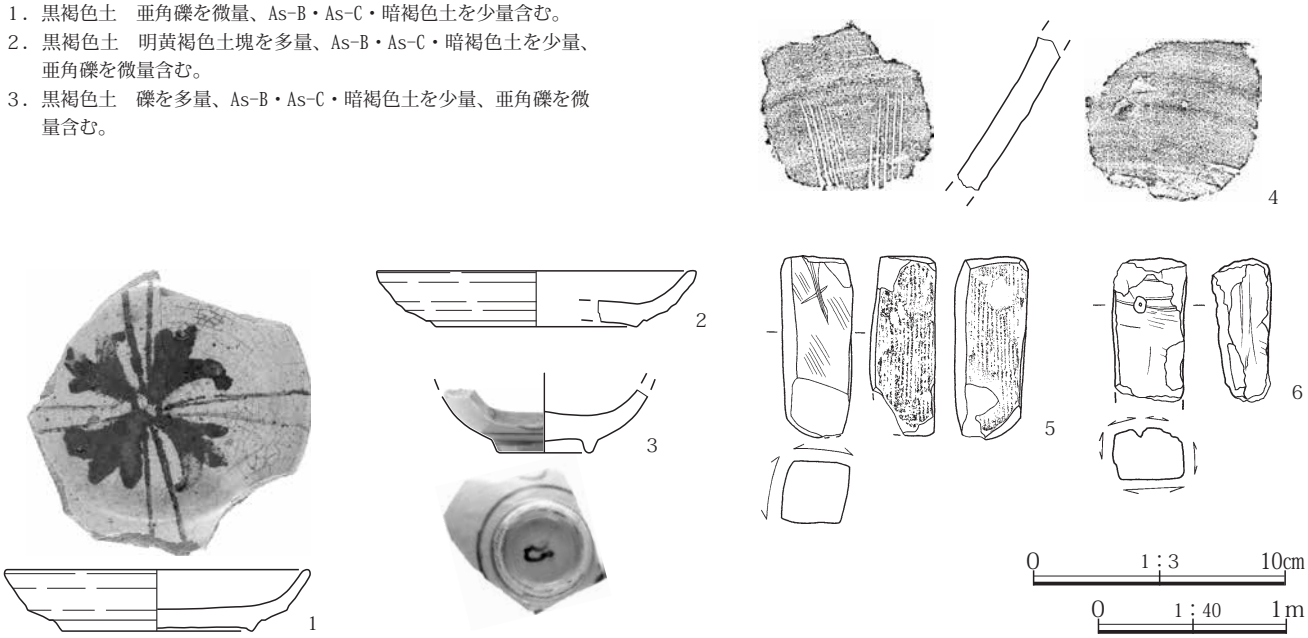




19号溝　D-D′
1．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量、As-C・黄褐色土粒を少量含む。
2．明黄褐色土　As-C・明黄褐色土塊を含む。硬く締りあり。
3．暗褐色土　As-Cを含む。硬い層。
4．暗褐色土　As-Cを含む。締り弱。
5．黄褐色土　砂質土。
6．灰黄褐色土　褐灰色洪水土主体。As-Bを多量に、As-C、黄褐色土を少量含む。

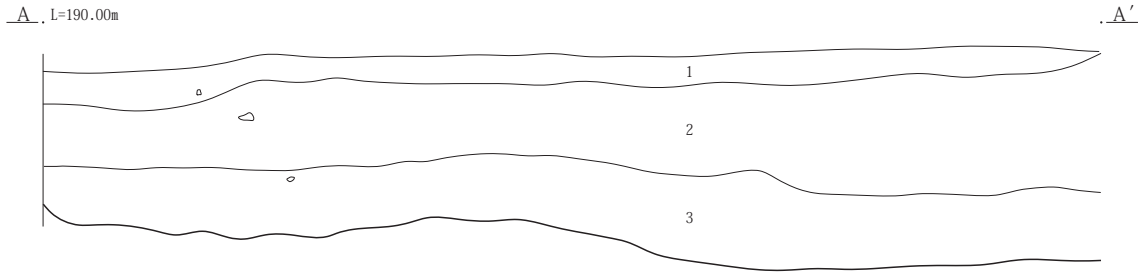


19号溝　E-E′
1．黒褐色土　亜角礫を微量、As-B・As-C・暗褐色土を少量含む。
2．黒褐色土　明黄褐色土塊を多量、As-B・As-C・暗褐色土を少量、亜角礫を微量含む。
3．黒褐色土　礫を多量、As-B・As-C・暗褐色土を少量、亜角礫を微量含む。



第48図　19号溝

51号溝



51号溝
１．表土（耕作土）。
２．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、黄橙色土粒・炭化物粒を少量含む。２次堆積土。
３．黒褐色土　As-Cを多量、黄褐色土塊を少量含む。

0　1：40　1m

第49図　51号溝

いることから、時期は中世以降と考えられる。

１区51号溝(第45・49図、PL.13)

座標値　X＝47,986～47,992　Y＝-74,149～74,173

重複遺構　なし。　**延伸方位**　N－88°－W

規模　調査区南壁際の撹乱によって壊されている地点からの長さは24.50m、幅は(0.56)～(0.86)m、深さは1.15m程である。

埋没土層　上層はAs-B・As-C・黄橙色土粒・炭化物を含む黒褐色土、下層はAs-C・黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　南側が調査区外にあり、土層断面の記録が延伸方向であるため、掘削形態は不明であるが、深さが少なくとも1.15mある。掘削目的は特定できない。埋没土の上位にAs-Bが含まれているが、下層は別の土層が見られ、時期は古墳時代～古代の可能性もある。

１区１号溝(第50図、第８表、PL.10・49)

座標値　X＝47,992～48,006　Y＝-74,207～-74,211

重複遺構　２号・４号溝と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。　**延伸方位**　N－５°－E

規模　調査区を横断し南北に続いている。幅は1.42～3.73m、深さは0.91m前後である。

埋没土層　埋没土上層は暗褐色土、下層はにぶい黄褐色土である。共にやや砂質でAs-B・As-C・炭化物を少量含んでいる。

遺物　掲載した遺物は、1・2：須恵器の杯、3：同椀、4：灰釉陶器の広口壺、５：青磁の碗、６：釘である。他に土師器、須恵器の小片が多数、陶磁器の小片が２点出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状にに開いている。ほぼ南北方向に延伸しており、両端が調査区外に続いている。調査区内では南側程幅が狭くなっている。掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれており、青磁の碗が出土していることから時期は中世以降と考えられる。

１区３号溝(第51図、第８表、PL.10)

座標値　X＝47,999～48,006　Y＝-74,214・-74,215

重複遺構　８号溝と重複する。新旧関係は本溝が旧い。

延伸方位　N－６°－E

規模　北側の調査区外へと続いており、調査区内の長さは7.32m、幅は0.58～3.76m、深さは0.32m程である。

埋没土層　As-B・As-C・炭化物を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は在地形土器のすり鉢である。他に土師器、須恵器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。ほぼ南北に延伸しており、調査区内で途切れている。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区４号溝(第50図、PL.10)

座標値　X＝47,999～48,001　Y＝-74,204～-74,208

重複遺構　１号溝と重複する。新旧関係は本溝が旧い。

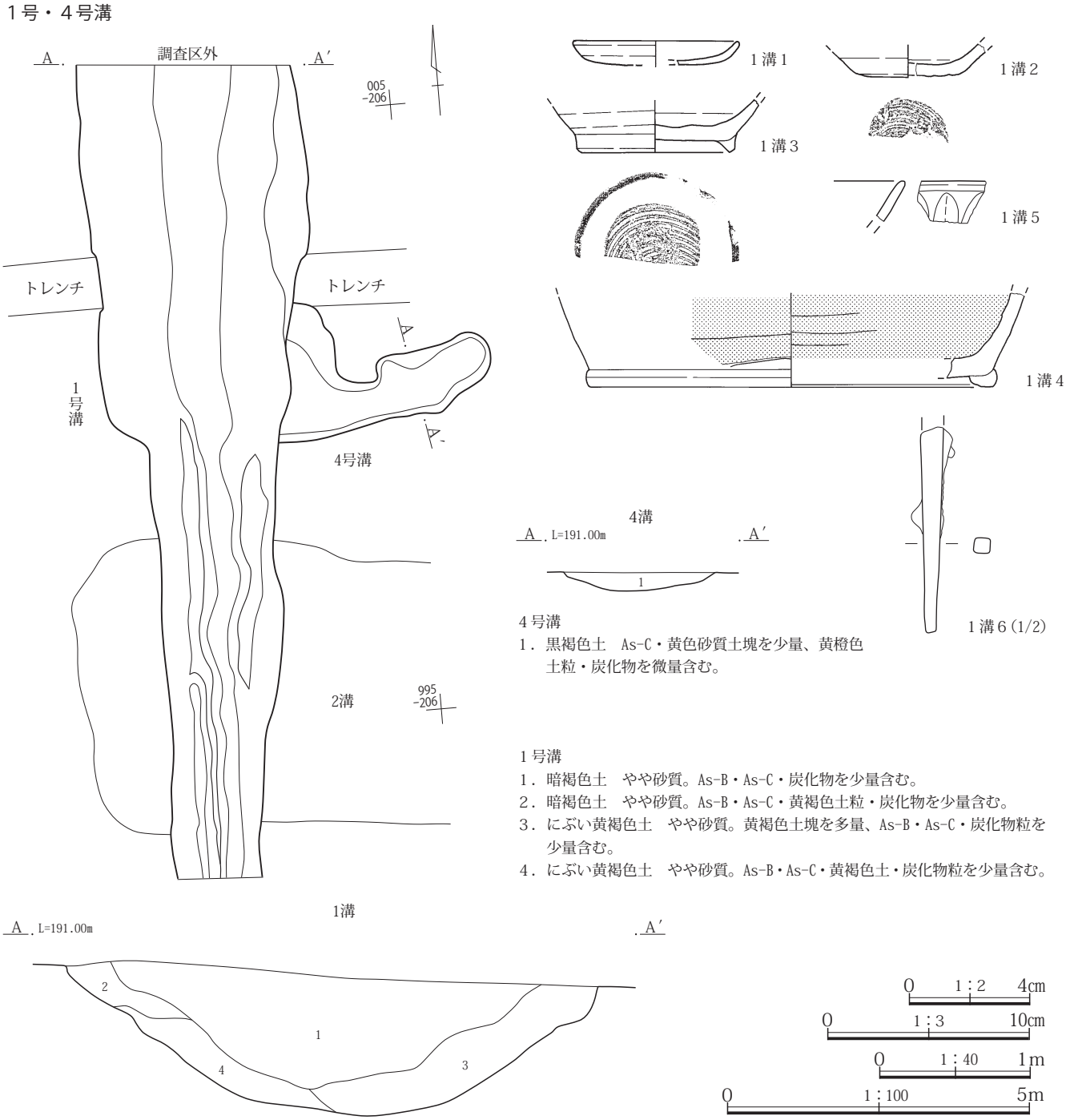
延伸方位　N－74°－E

規模　溝の東端から１号溝と重複するところまでの長さは3.38m、幅は0.70～2.30m、深さは0.12m程である。

埋没土層　As-C・黄色砂質土塊・黄橙色土粒・炭化物を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片２点が出土した。

所見　西端が１号溝と重複し、距離が短く浅い。１号溝との重複部で最も幅が広く、３号竪穴建物方向に曲がりながら急激に狭くなり、その先で幾分広がって途切れている。３号竪穴建物との関わりがあることも考えられるが、掘削目的は特定できない。時期は古墳時代以降とみられる。



４号溝
1．黒褐色土　As-C・黄色砂質土塊を少量、黄橙色土粒・炭化物を微量含む。

１号溝
1．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・炭化物を少量含む。
2．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・黄褐色土粒・炭化物を少量含む。
3．にぶい黄褐色土　やや砂質。黄褐色土塊を多量、As-B・As-C・炭化物粒を少量含む。
4．にぶい黄褐色土　やや砂質。As-B・As-C・黄褐色土・炭化物粒を少量含む。

第50図　１・４号溝

１区８号溝(第51図、第８表、PL.10・49)

座標値　X＝48,002～48,006　Y＝-74,214～-74,216

重複遺構　調査区北壁際で３号溝と重複する。新旧関係は本溝が新しい。

延伸方位　N－26°－E

規模　調査区北壁から調査区西壁の撹乱範囲へと続いており、調査区内の長さは3.54m、幅は0.68～0.76m、深さは0.2m程である。

埋没土層　As-B・As-C・黄色土塊・炭化物を含むやや砂質の暗褐色土で埋没している。

遺物　出土した遺物は掲載した須恵器の杯１点である。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、検出した範囲が限られており、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区９号溝(第51図、PL.11)

座標値　X＝47,996～48,000　Y＝-74,177・-74,178

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－５°－W

規模　長さは4.27m、幅は0.77～0.84m、深さは0.15m程である。

埋没土層　As-B・As-C・黄色土粒・炭化物を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　土師器、須恵器の小片が各２点出土した。

所見　箱堀状掘削形態である。距離が短く、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区20号溝(第51図、PL.11)

座標値　X＝47,980～47,982　Y＝-74,070・-74,071

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－19°－W

規模　調査区南壁からの長さは2.8m、幅は0.87～1.04m、深さは0.16m程である。

埋没土層　白色粒・黄橙色土粒を含む黒色土で埋没している。底部に灰黄褐色砂質土塊が見られる。

遺物　出土遺物はない。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、凹凸が見られる。埋没土と断面の形状から流水を伴っていた可能性があるが、掘削目的は特定できない。時期は古墳時代以降と推定する。

１区23号溝(第51図、PL.12)

座標値　X＝47,992～47,995　Y＝-74,093

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－１°－W

規模　調査区北壁からの長さは3.51m、幅は0.46～0.58m、深さは0.17m程である。

埋没土層　As-B・As-C・褐灰色土塊・黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が３点出土した。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区24号溝(第51図、PL.12)

座標値　X＝47,993～47,995　Y＝-74,099・-74,100

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－４°－W

規模　長さは2.52m、幅は0.64～0.68m、深さは0.22m程である。

埋没土層　As-B・As-C・褐灰色土塊・黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土した。

所見　箱堀状掘削形態で短い溝である。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区25号溝(第51図、PL.12)

座標値　X＝47,993～47,996　Y＝-74,102・-74,103

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－１°－E

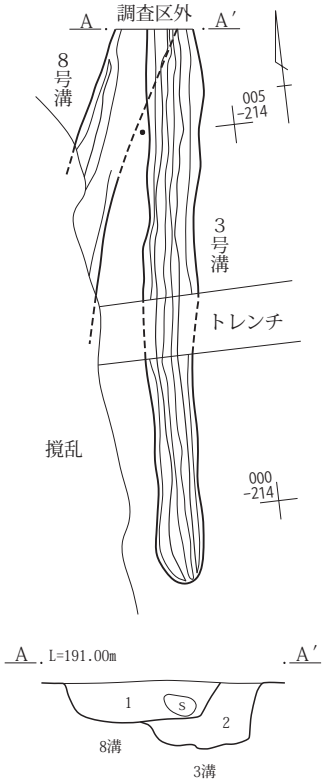
規模　調査区北壁からの長さは2.46m、幅は1.16～1.33m、深さは0.19m程である。

埋没土層　As-B・As-C・褐灰色土塊・黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋没している。

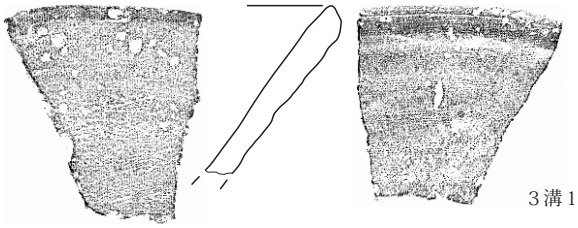
遺物　出土遺物はない。

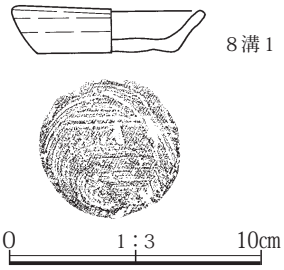
所見　箱堀状掘削形態である。上部の削平で底部のみが残存したとみられる。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

３号・８号溝

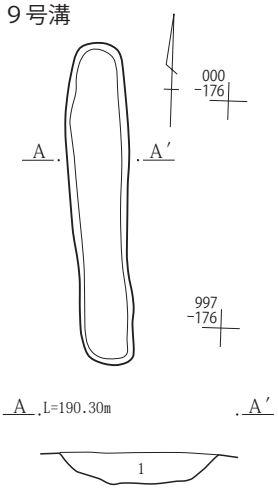


３号・８号溝
1．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・黄色土塊・炭化物を含む。
2．暗褐色土　やや砂質。As-B・As-C・炭化物を含む。



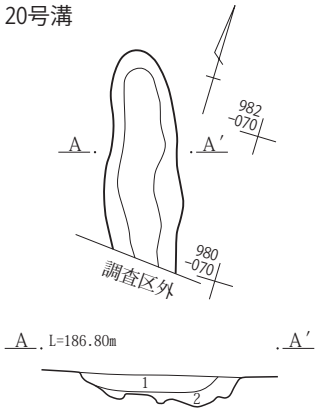


９号溝



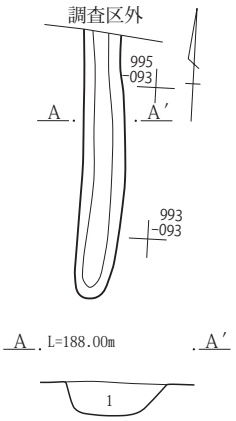
９号溝
1．黒褐色土　As-B・As-Cを多量、黄色土粒・炭化物を少量含む。

20号溝



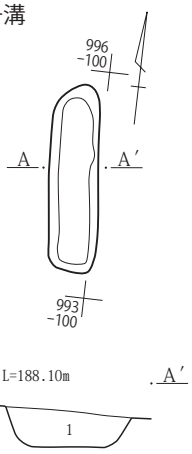
20号溝
1．黒色土　白色粒・黄橙色土粒を多量含む。
2．黒色土　灰黄褐色砂質土塊を多量含む。

23号溝



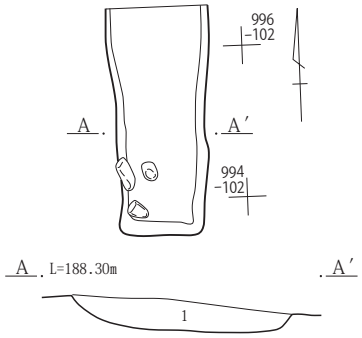
23号溝
1．灰黄褐色土　As-Bを多量、As-C・褐灰色洪水土塊・黄褐色土塊を少量含む。

24号溝



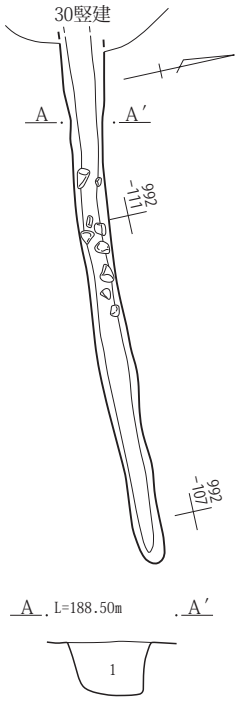
24号溝
1．灰黄褐色土　As-Bを多量、As-C・褐灰色洪水土塊・黄褐色土塊を少量含む。

25号溝



25号溝
1．灰黄褐色土　As-Bを多量、As-C・褐灰色洪水土塊・黄褐色土塊を少量含む。

26号溝



26号溝
1．灰黄褐色土　As-Bを多量、As-C・褐灰色洪水土塊・黄褐色土塊を少量含む。

0　1：40　1m

0　1：100　5m

第51図　３・８・９・20・23～26号溝

１区26号溝(第51図、PL.12)

座標値　X＝47,991・47,992　Y＝-74,106～-74,113

重複遺構　30号竪穴建物と重複する。新旧関係は本溝が新しい。

延伸方位　N－86°－W

規模　30号竪穴建物との重複地点からの長さは7.04m、幅は0.37～0.58m、深さは0.28m程である。

埋没土層　As-B・As-C・褐灰色土塊・黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋没している。

遺物　土師器・須恵器の小片が多数出土した。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区28号溝(第52図、PL.13)

座標値　X＝47,991・47,992　Y＝-74,117～-74,120

重複遺構　21号・22号溝と重複する。新旧関係は本溝が最も新しい。

延伸方位　N－88°－W

規模　21号溝との重複地点から22号溝との重複地点までの長さは3.53m、幅は0.62～0.79m、深さは0.45m程である。

埋没土層　As-B・As-Cを暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　箱堀状掘削形態である。位置関係としては、21号・22号溝それぞれとの関わりが想起されるが、両溝共に埋没土が全く異なっており、時期の異なる遺構の可能性が高い。掘削目的は特定できない。埋没土全体にAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

１区21号溝(第52・53図、第８表、PL.12・49)

座標値　X＝47,985～47,998　Y＝-74,120～-74,124

重複遺構　45号竪穴建物、27号・28号溝と重複する。新旧関係は45号竪穴建物より新しく、27号・28号溝より旧い。

延伸方位　N－６°－E

規模　調査区を横断し南北に続いている。幅は3.12～3.65m、深さは0.58m程である。

埋没土層　As-C、黄褐色砂質土、黒色土塊を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は、１：須恵器の杯、２～４：同椀、５：灰釉陶器の段皿、６・７：同椀、８：釘、９・10：鉄滓である。他に土師器、須恵器、灰釉陶器の小片が多数出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状にに開いている。１号溝と規模や延伸方位が似ているが、埋没土は異なっている。掘削目的は特定できない。重複する27号・28号溝の埋没土には多量のAs-Bが含まれているが、本遺構では見られないことから、時期は古墳時代～古代と考えられる。

１区22号溝(第52・53図、第８表、PL.12)

座標値　X＝47,984～47,998　Y＝-74,114～-74,117

重複遺構　30号竪穴建物、27号・28号溝と重複する。新旧関係は30号竪穴建物より新しく、27号・28号溝より旧い。

延伸方位　N－３°－E

規模　調査区を横断し南北に続いている。幅は2.30～2.56m、深さは0.86m程である。

埋没土層　As-C、黄褐色砂質土、黒色土塊を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は、１：土師器の杯、２：須恵器の椀、３：同長頸壺である。他に土師器、須恵器、灰釉陶器の小片が数点出土している。

所見　壁面の傾斜の緩い薬研堀状掘削形態である。21号溝と規模や延伸方位、埋没土が似ているが、掘削形態が異なっている。21号溝とは掘削目的が異なる可能性があるが特定はできない。21号溝同様、時期は古墳時代～古代と考えられる。

１区53号溝(第54図、PL.13)

座標値　X＝47,985～47,995　Y＝-74,042～-74,053

重複遺構　19号溝と重複する。新旧関係は本溝が新しい。

延伸方位　N－55°－W

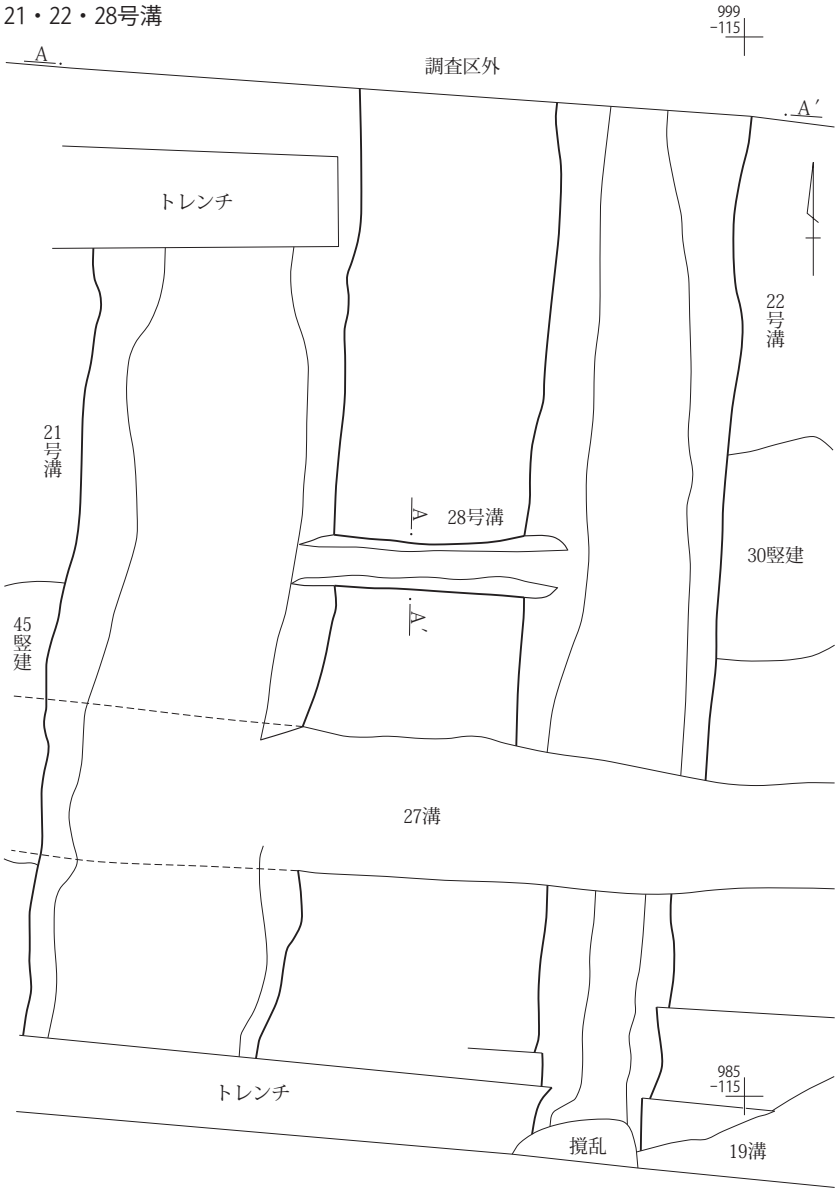
規模　調査区の南東端から北東方向に向かって延伸しており、幅は4.96～5.38m、深さは0.67m程である。

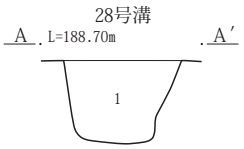
埋没土層　上層はAs-B・As-Cを含む黒褐色土、下層は亜角礫や亜円礫を含む砂質土などで埋没している。

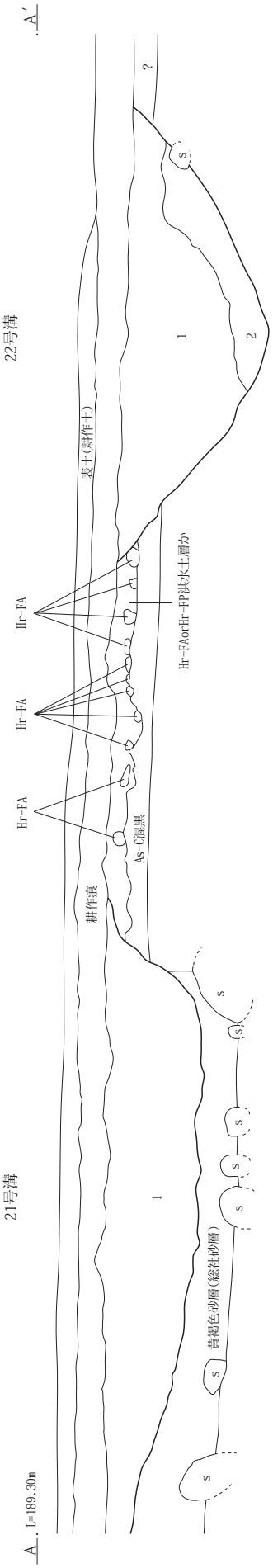
遺物　出土遺物はない。

所見　埋没土の下層に水成堆積があり、大規模な水路と

21・22・28号溝







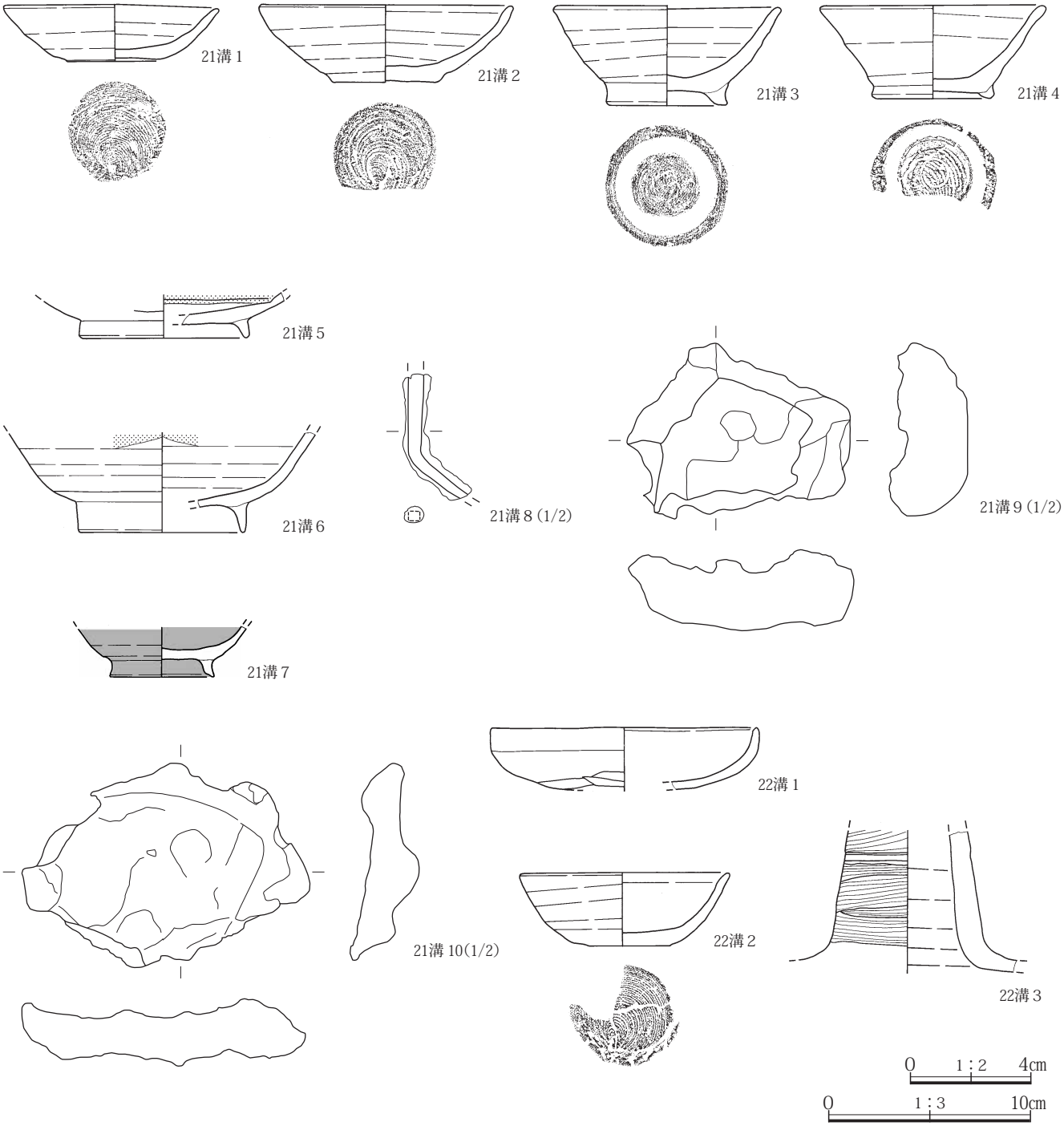
28号溝
1．暗褐色土　As-B・As-Cを多量含む。

21号溝
1．黒褐色土　As-Cを多量、黄褐色砂質土塊・黒色土塊を少量含む。

22号溝
1．黒褐色土　As-Cを多量、黄褐色砂質土塊・黒色土塊を少量含む。
2．黒褐色土　黒色土塊・黄褐色砂質土塊を多量含む。

0　1：40　1m
0　1：100　5m

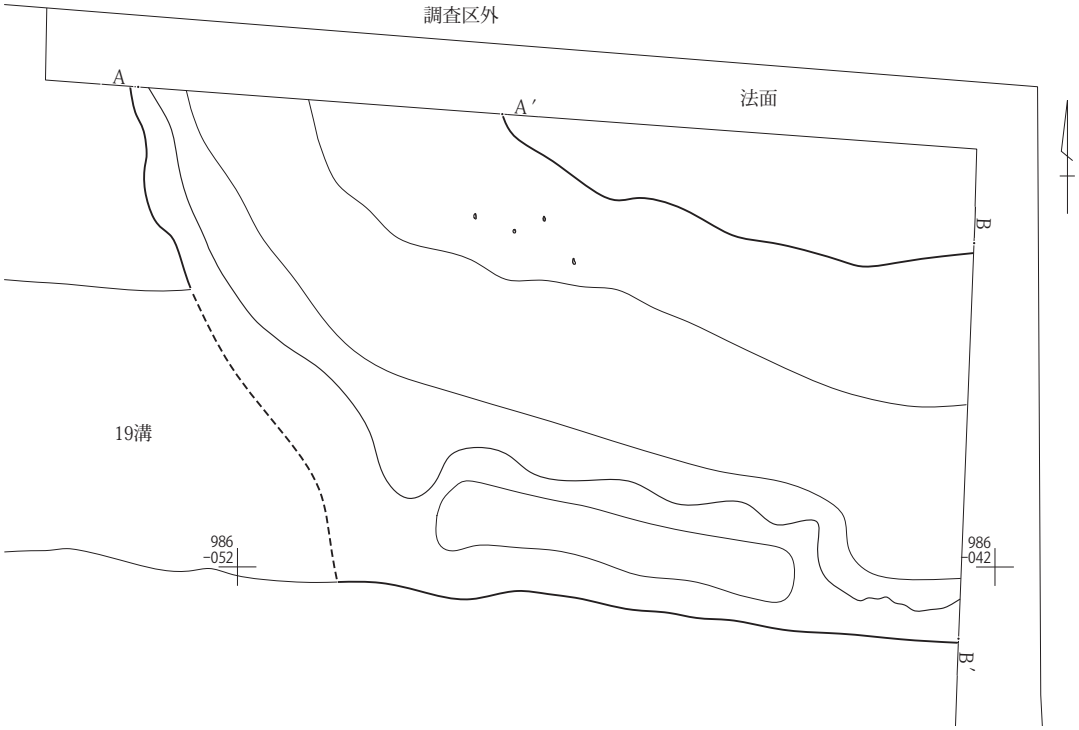
第52図　21・22・28号溝

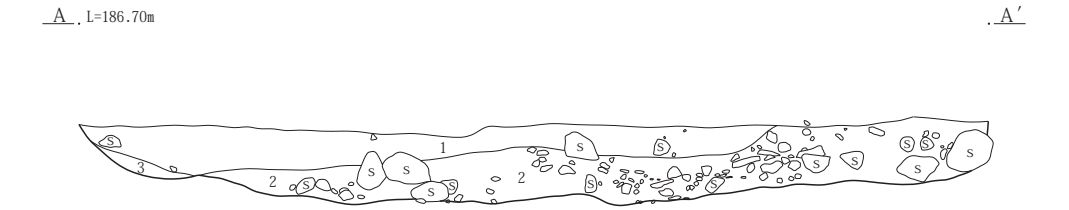


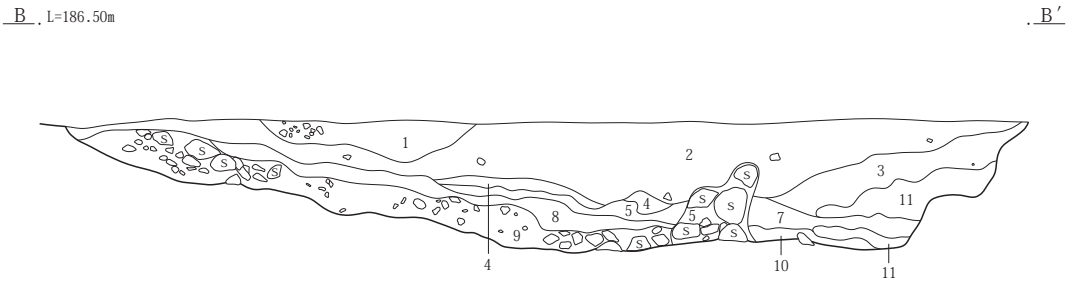
第53図　21・22号溝

みられる。上層にはAs-Bが含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

53号溝







53号溝　A-A′
１．黒褐色土　As-Cを多量含む。
２．黒褐色土　砂礫層。暗褐色砂質土・亜円礫を多量に含む。
３．黒褐色土　明黄褐色土塊を多量含む。
53号溝　B-B′
１．黒褐色土　As-B・As-Cを含む。
２．黒褐色土　As-C・As-Bを含む。
３．暗褐色土　黄褐色砂質土塊を多量含む。
４．黒褐色土　灰オリーブ色砂質土を多量、As-B・As-Cを少量含む。
５．灰オリーブ色砂質土　As-B・As-Cを含む。
６．黒褐色土　亜角礫を多量、As-Cを少量含む。
７．黒褐色土　黄褐色砂質土塊を多量含む。
８．黒褐色土　灰オリーブ色砂質土を多量、As-B・As-C・黄褐色土粒を少量含む。
９．黒褐色土　砂礫層。暗褐色砂質土・亜円礫を多量含む。
10．灰オリーブ色砂質土　As-B・As-Cを含む。
11．明黄褐色土

0　1：40　1m
0　1：100　5m

第54図　53号溝

７．遺構外の遺物

１区の調査で出土した、古代以降の遺構に伴わない遺物を扱う。遺構外出土遺物には、土器類をはじめ、石製品および金属製品がある。以下、種別ごとに記載する。尚、遺構外出土遺物の中には、縄文土器も含まれていた。縄文時代の遺構は本遺跡では確認されていないため、２区の遺構外出土遺物についての項で一括して扱う。

（１）土器類（第55図、第８表、PL.49）

古代の土器として１～６の６点を図示した。

１：須恵器の皿、２：同杯蓋、３：同杯、４：同椀、５・６：灰釉陶器の椀である。

中世以降の土器として７～13の７点を図示した。

７：龍泉窯系青磁の碗、８：瀬戸・美濃陶器の卸皿、９：瀬戸・美濃陶器の碗、10・11：瀬戸・美濃陶器の二次加工品、12：在地形土器のすり鉢、13：常滑陶器の片口鉢である。

（２）石製品（第56図、第８表、PL.49・50）

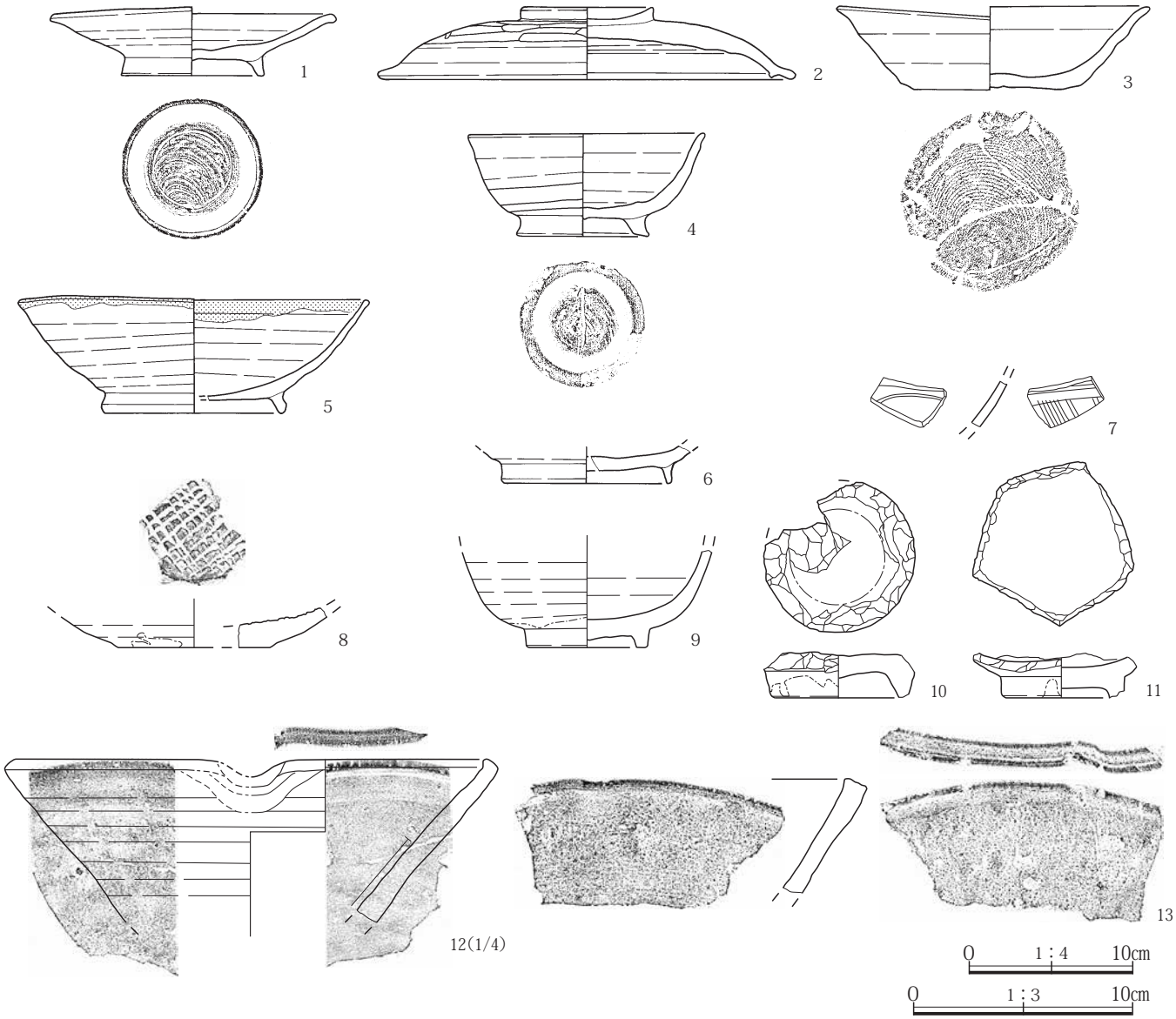
図示した石製品は２点である。

14:粗粒輝石安山岩製の凹石、15:砥沢石製の砥石である。

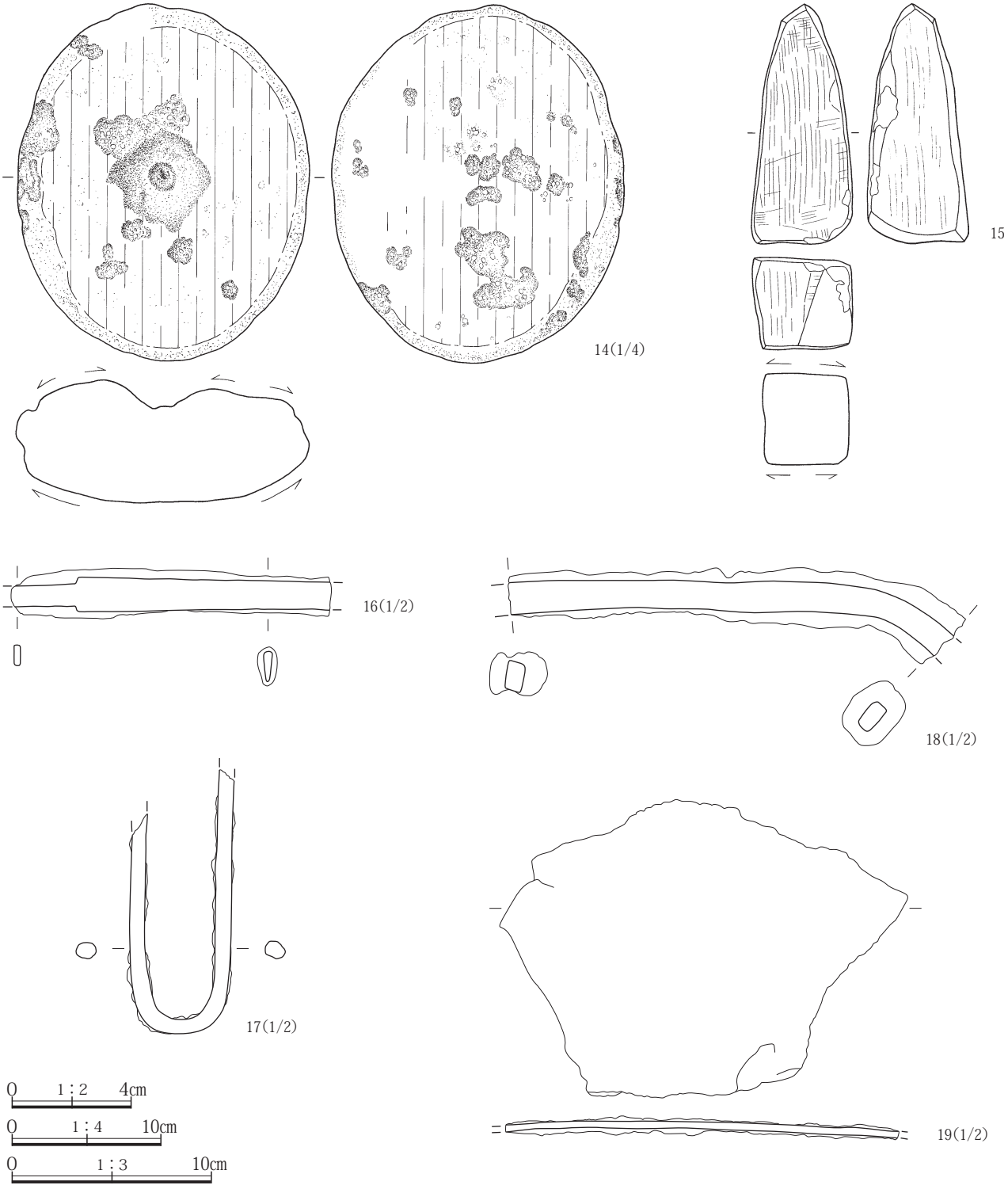
（３）金属製品（第57図、第８表、PL.50）

図示した金属製品は４点である。

16：刀子、17：器種不明の鉄製品、18：つる、19：鍋片である。



第55図　１区遺構外出土遺物（１）



第56図　１区遺構外出土遺物（２）

第３節　２区の遺構と遺物

１．竪穴建物・竪穴状遺構

２区で調査した竪穴建物は35棟あり、調査区の中央での検出数が多く、東端や30年度調査範囲の２区東・２区西では検出されなかった。１区よりも竪穴建物の出現数が多く、集落の構成時期も異なり、７世紀代が主体である。後の時代による削平は１区より少ないが、他の遺構との重複等により、不明な点の多い建物もある。

２区７号竪穴建物(第57図、PL.15)

調査区西端から約30mの位置にある。

位置　X＝47,928～47,932　Y＝-74,607～-74,611

重複遺構　なし

形状　長方形

主軸方位　N－100°－W

規模　東西4.08m　南北2.80m

床面積　9.38㎡

埋没土層　埋没土上層はAs-Cを含む黒褐色土、床面付近はローム塊を含む灰黄褐色土である。

壁高　４～21cm

床面　ほぼ平坦である。

掘方　床面から10cm前後の深さで、多少凹凸が見られる。建物の南西隅(竈から南、Ｐ２から西の範囲)が他の範囲より更に10cm程低くなっている。

竈　西壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸74cm、袖幅85cmを測る。後世の削平により、上部は失われているが、袖の基部は浅黄橙色粘質土・黒褐色土を含む暗褐色土で構築している。右袖側で焼土・灰を検出したが、焼土の量は少なめで、灰層の範囲も燃焼部底部の限られた範囲であった。

貯蔵穴　建物の北西隅にある。規模は長径65cm、短径53cmの楕円形、深さ26cmを測る。

柱穴　ピットを３基検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１　60×32×24　　Ｐ２　57×47×22

Ｐ３　55×53×15

Ｐ１・Ｐ３は主柱穴の可能性があるが、配置や形状について、疑問も残る。Ｐ２は、その位置から出入り口に関わるものの可能性がある。

壁溝　確認できなかった。

遺物　出土遺物はない。

所見　本遺跡において竈を西壁に設置しているのは、この建物のみである。それに伴い、貯蔵穴は他の多くの建物に見られる南東部ではなく、竈の右にあたる北西部に置かれている。形状も本遺跡では数少ない、主軸方向に縦長の建物である。遺物が出土しなかったため、時期は、不明である。

２区９号竪穴建物(第58～62図、第８表、PL.15・16・50)

調査区のほぼ中央にある。本遺跡では最も大きい竪穴建物である。

位置　X＝47,907～47,915　Y＝-74,545～-74,553

重複遺構　13号溝と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　長方形

主軸方位　N－68°－E

規模　東西6.64m　南北6.19m

床面積　35.46㎡

埋没土層　埋没土上層はAs-C･炭化物等を含む黒褐色土、床面付近はローム小塊を含むにぶい黄褐色土であり、更にその周縁部にはAs-C・焼土・ローム粒を含む灰黄褐色土が堆積している。

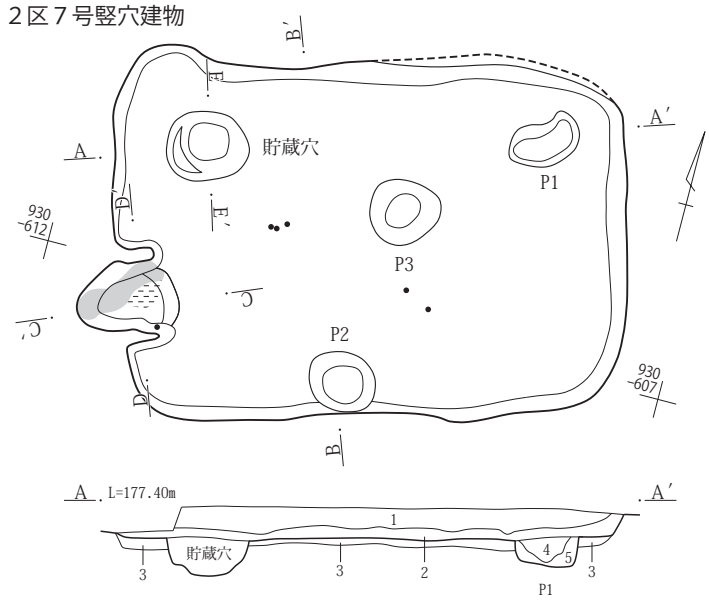
壁高　40～55cm

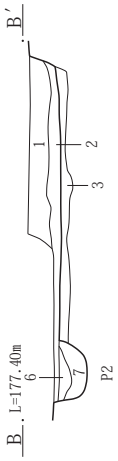
床面　ほぼ平坦である。床面の下に、旧床面と見られる締りのある平坦な面を検出した。また、建物の南壁付近や他の周縁部等から、多量の焼土や炭化物が出土した。

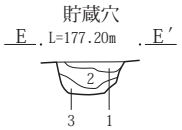
掘方　床面から平均10cm程の深さであるが、起伏があり、場所によっては、30cm程の掘り込みがある。掘方の調査で検出したＰ11は、出入り口に関わるものの可能性がある。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸135cm、袖幅93cmを測る。拳大～頭大の石を使用し、にぶい黄橙色粘質土で構築されている。支脚とみられる10cm×10cm×27cm程の石が燃焼部の中央にあり、それを囲むように底部全体に灰を含む焼土が厚く堆積している。竈内から焚口前の床面にかけて灰を検出した。長期

２区７号竪穴建物



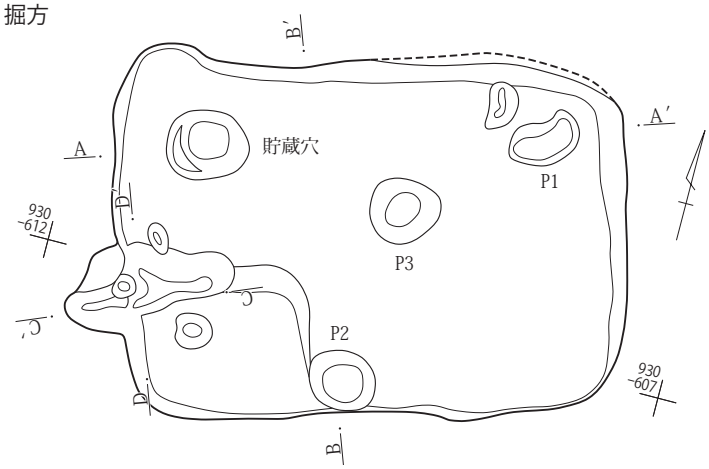




貯蔵穴
1．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
2．灰黄褐色土　ローム小塊・灰白色軽石を含む。締りあり・粘性強。
3．灰黄褐色土　ローム大塊を含む。締りあり・粘性強。

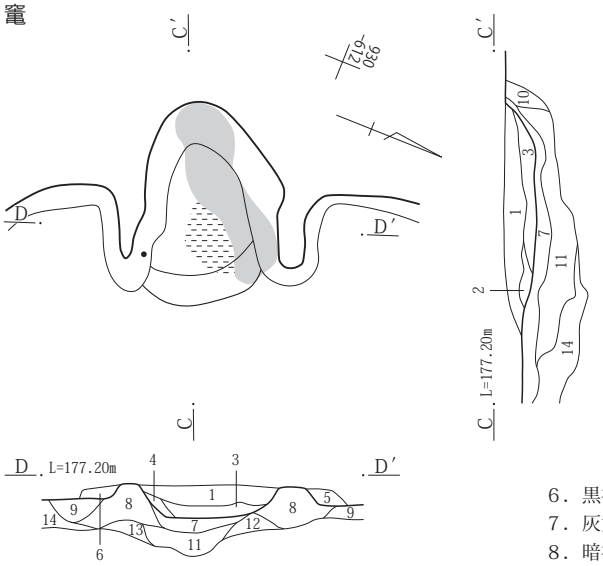
７号竪穴建物
1．黒褐色土　As-Cを多量含む。締り・粘性あり。
2．灰黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム大塊･粒を多量、灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
4．黒褐色土　ローム粒を多量、ローム小塊を少量、灰白色軽石を微量含む。締り強。粘性あり。
5．黄褐色土　ローム塊を多量､浅黄橙色軽石を微量含む。粘性あり。
6．灰黄褐色土　ローム粒を多量、ローム小塊を少量含む。締り弱。粘性あり。
7．灰黄褐色土　ローム塊主体、締り・粘性あり。

掘方

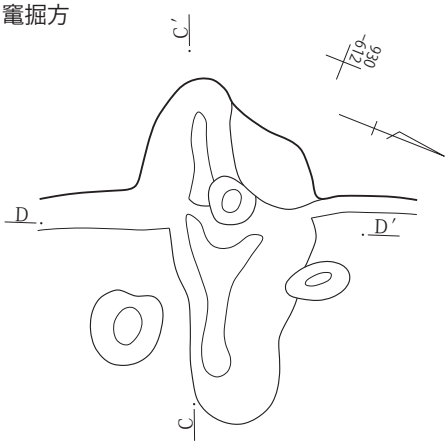


0　1：60　2m

竈



竈掘方



竈
1．黒褐色土　焼土塊を含む。締り・粘性あり。
2．暗灰色土　灰層。締り・粘性弱。
3．黒褐色土　ローム塊を含む。粘性あり。
4．灰黄褐色土　締り強。粘性弱。
5．黒褐色土　ローム小塊を含む。締り・粘性あり。
6．黒褐色土　ローム粒を少量含む。粘性あり。
7．灰黄褐色土　ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
8．暗褐色土　黒褐色土・浅黄橙色粘質土を含む。粘性あり。
9．にぶい黄褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
10．明黄褐色土　ローム塊を少量含む。粘性あり。
11．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り弱。粘性あり。
12．灰黄褐色土　ローム小塊を少量含む。粘性あり。
13．にぶい黄色土　ローム塊主体。締り・粘性あり。
14．明黄褐色土　粘質土。ローム塊を含む。締り弱。

第57図　７号竪穴建物

0　1：30　1m

間にわたってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅にある。規模は長径81cm、短径69cmの楕円形、深さ20cmを測る。

柱穴　床面でピットを10基検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１	68×58×32	Ｐ２	74×54×65
Ｐ３	57×48×57	Ｐ４	76×49×30
Ｐ５	46×(43)×31	Ｐ６	51×51×44
Ｐ７	57×51×62	Ｐ８	45×45×44
Ｐ９	37×33×71	Ｐ10	36×30×8

土層・切り合い、位置関係からＰ１～Ｐ４が主柱穴と見られ、Ｐ５～Ｐ８は、建て替え前の柱穴の可能性がある。Ｐ９やＰ10については、検討の余地があるが、補強材の痕跡とも考えられる。

壁溝　南壁から北壁の一部付近にかけて検出した。幅10cm～15cm、深さ４cm～９cmを測る。

遺物　竈内外や床面直上、埋没土中から多数の土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１～９：土師器の杯(１は床面直上、２は竈内)、10：同高杯(床面直上)、11：同有孔鉢、12：須恵器の杯、13：同長頸壺、14：同壺、15～18：土師器の甕(17・18は焚口)、19・20：須恵器の甕である。９には放射状暗文がある。

所見　上述のように、建て替えによって柱を付け替え、床面を旧床面の上に更に貼り直しているとみられる。また､床面の周縁部で多量の焼土や炭化物が出土しており、ローム塊を多量に含む自然堆積とは考えにくい土が埋没土の下位に見られることから、焼失した後に人為的に埋戻された可能性がある。最も大きな規模であるこの建物を中心として、多数の建物が見られることから、この集落における特別な建物、或いは特別な人物の建物であったことが推測される。床面直上や竈内及びその付近で出土した遺物から、時期は７世紀後半である。

２区10号竪穴建物(第63～65図、第８表、PL.16・51)

調査区中央付近、９号竪穴建物の10m程西にあり、建物の南西部が調査区外にある。

位置　Ｘ＝47,912～47,915　Ｙ＝-74,564～-74,568

重複遺構　11号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　正方形に近い。

主軸方位　Ｎ－63°－Ｅ

規模　東西(3.34m)　南北(3.55m)

床面積　(6.18㎡)

埋没土層　As-C・明褐色土粒・炭化物を含む黒褐色土で埋没している。

壁高　41～44cm

床面　ほぼ平坦であるが、北に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から10cm程の深さで、多少起伏がある。

竈　東壁南寄りに設置している。燃焼部の東半分程が東壁に入り込む位置にあり、煙道が壁外に103cm張り出している。規模は長軸163cm、袖幅80cmを測る。拳大～頭大の石を煙道の上部まで組み、構築している。支脚が煙道方向、袖石は焚口側に傾斜する状態で出土した。燃焼部の底部全体に焼土・灰・炭化物を含む層が厚く堆積しており、焚口から50cm程の範囲の床面でも焼土を検出した。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅にある。規模は長径53cm、短径48cmの楕円形、深さ15cmである。

柱穴　床面でピットを４基検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１	37×27×16	Ｐ２	18×17×14
Ｐ３	55×38×20	Ｐ４	18×17×15

その位置からＰ１・Ｐ２が主柱穴である可能性が高い。

壁溝　確認できなかった。

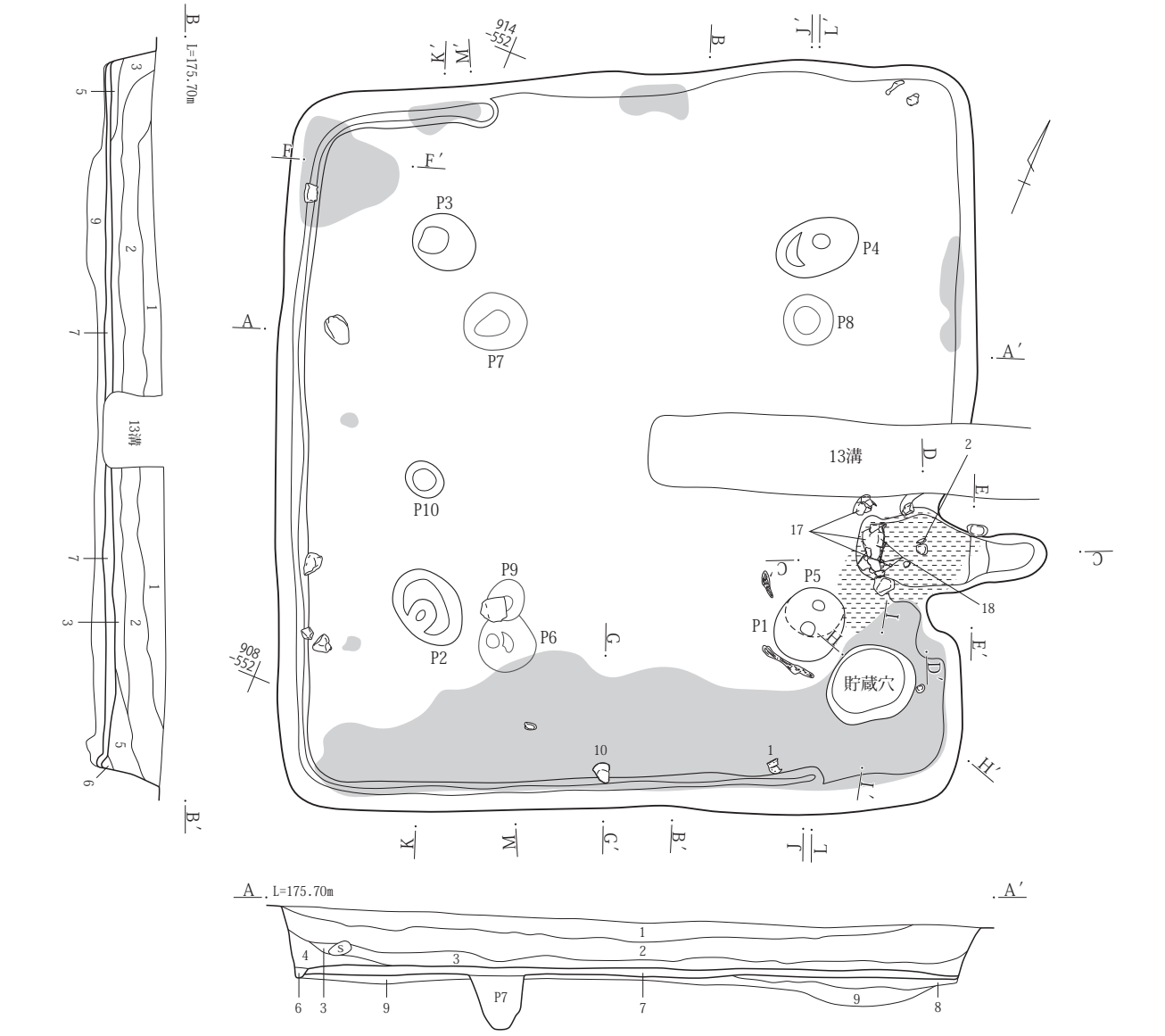
遺物　床面直上や埋没土中から多数の土師器と須恵器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯(１は貯蔵穴の直上)、３：須恵器の高盤(床面から８cm)、４・５：同壺、６・７：土師器の甕(７は竈付近の床面直上)、８：刀子である。

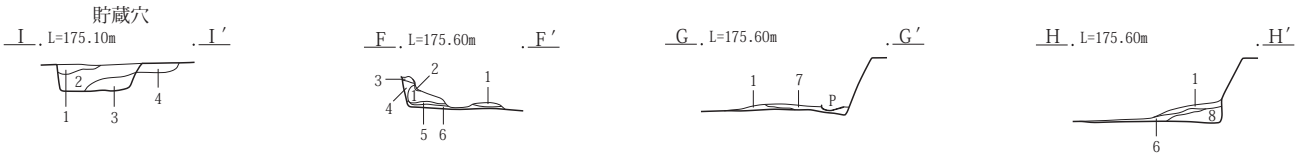
所見　調査区外に出ている範囲が多く、Ｐ１・Ｐ２が主柱穴であるとすれば、更に２つの柱穴が調査区外にある可能性もある。小規模の建物であるが、竈の作りがしっかりしている状況が残されていた。床面直上や竈付近で出土した遺物から、時期は７世紀後半～８世紀初頭である。

２区11号竪穴建物(第66・67図、第８表、PL.16・17)

調査区中央付近、10号竪穴建物の北西で重複する位置にある。他の遺構とも重複しており、一部が調査区外に

２区９号竪穴建物





９号竪穴建物　A-A′・B-B′

１．黒褐色土　褐色土・炭化物を含む。粘性あり。
２．黒褐色土　As-C・炭化物を含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム塊・炭化物を多量含む。締り・粘性あり。
４．黒褐色土　ローム粒･灰白色軽石を少量、焼土･炭化物を微量、粘性あり。
５．灰黄褐色土　As-C・焼土小塊を含む。粘性弱。
６．灰黄褐色土　にぶい黄褐色土を含む。締り弱。
７．灰黄褐色土　にぶい黄褐色土・焼土粒を含む。粘性弱。
８．黒褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
９．褐色土　ローム小塊・粒を多量、黒褐色土を少量含む。締り・粘性あり。

貯蔵穴

１．にぶい橙色土　粘質土。締り弱。粘性強。竈構築材崩落土。
２．黒褐色土　にぶい黄橙色土小塊を多量、焼土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
３．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱、粘性あり。
４．暗褐色土　灰白色軽石を少量含む。粘性あり。

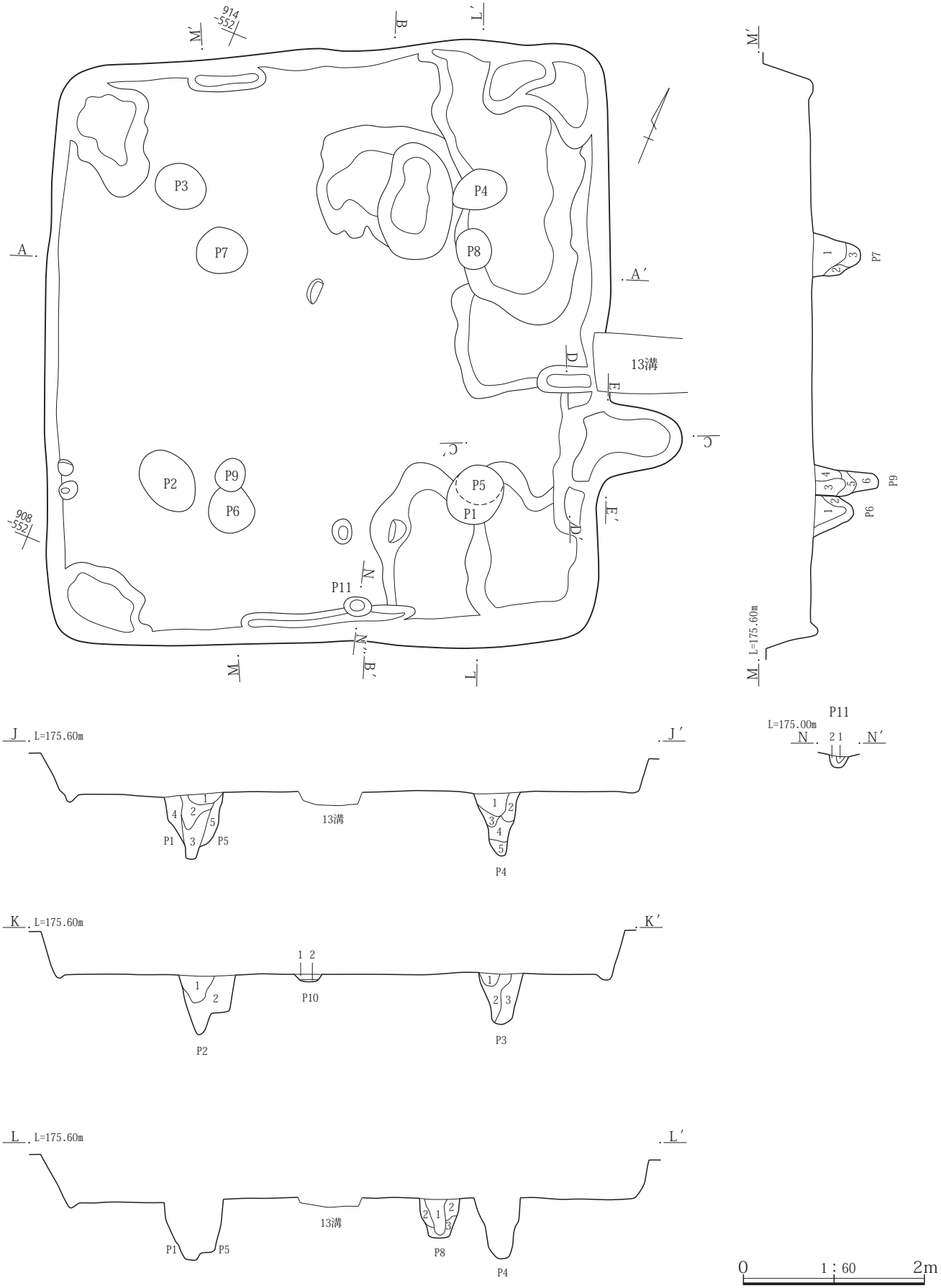
F-F′～H-H′

１．橙色土　焼土小塊・炭化物を含む。粘性あり。
２．灰黄褐色土　焼土粒を少量含む。締り弱、粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　焼土粒・ローム粒を多量含む。締り・粘性弱。
４．にぶい黄褐色土　ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
５．暗褐色土　黒褐色土・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
６．にぶい黄褐色土　焼土小塊・炭化物を含む。締り・粘性あり。
７．にぶい黄褐色土　焼土小塊･粒･炭化物を多量含む。締り弱。粘性あり。
８．暗褐色土　ローム小塊・褐色土塊を含む。締り弱。粘性あり。

0　1：60　2m

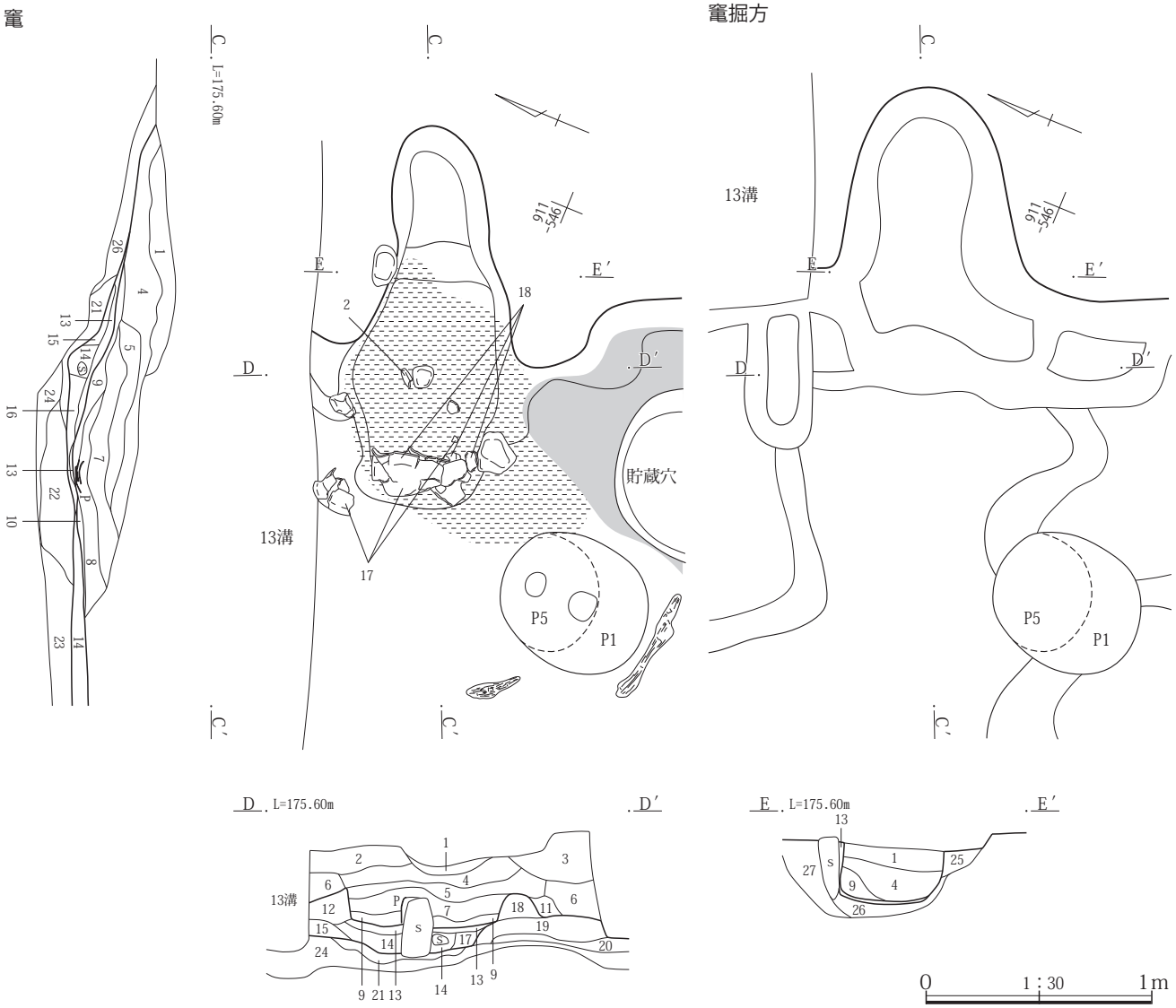
第58図　９号竪穴建物（１）

掘方



第59図　９号竪穴建物（２）

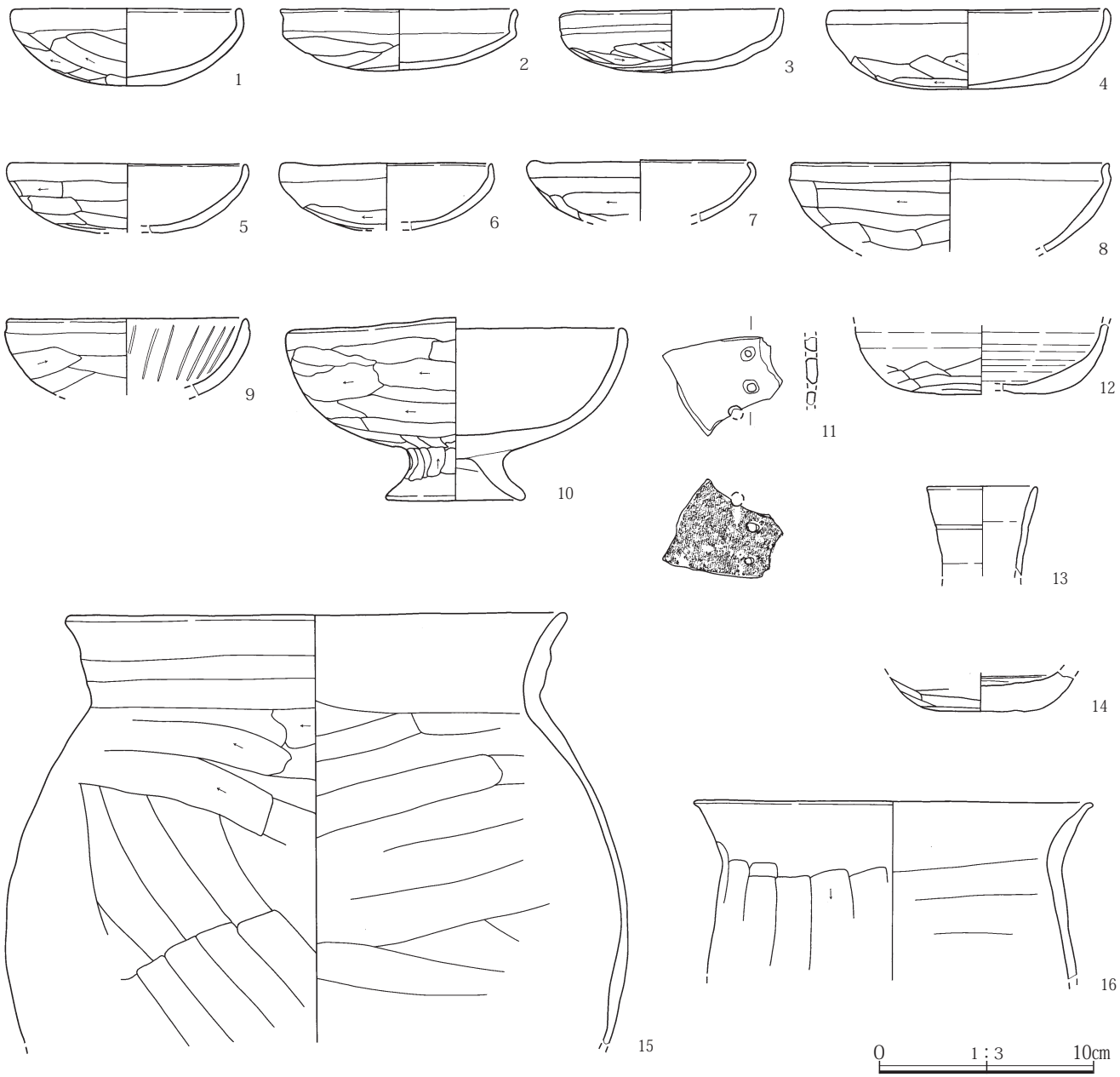
Ｐ１・Ｐ５
１．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
２．黒褐色土　As-Cを微量含む。粘性あり。
３．黒色土　ローム粒・焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
４．黒褐色土　ローム小塊・焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
５．黒褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
Ｐ２
１．黒褐色土　As-C・にぶい黄褐色土を含む。締り弱。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。粘性あり。
Ｐ３
１．黒褐色土　ローム粒を少量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　ローム粒を多量含む。粘性あり。
３．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。
Ｐ４
１．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
２．黒褐色土　褐色土・ローム小塊を含む。締り・粘性あり。
３．灰黄褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　黒褐色土・ローム小塊を含む。粘性あり。
５．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
Ｐ６・Ｐ９
１．灰黄褐色土　ローム塊・粒を含む。締り・粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り・粘性あり。
３．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り強。粘性あり。
５．にぶい黄褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
６．黒褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り弱・粘性強。
Ｐ７
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り弱、粘性あり。
２．明黄褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム塊･粒を多量、黒色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
Ｐ８
１．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。粘性強。
２．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性強。
３．にぶい黄褐色土　ローム塊・黒色土小塊を含む。粘性強。
Ｐ10
１．暗褐色土　As-C・黒褐色土を含む。締り強、粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　黒褐色土を含む。粘性あり。
Ｐ11
１．黒褐色土　焼土小塊を含む。締り弱、粘性あり。
２．黒褐色土　締り弱。粘性あり。



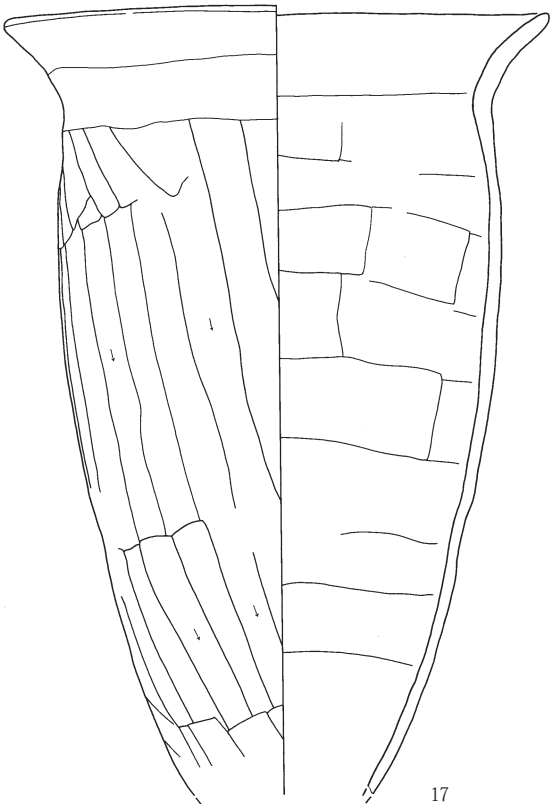
第60図　９号竪穴建物（３）

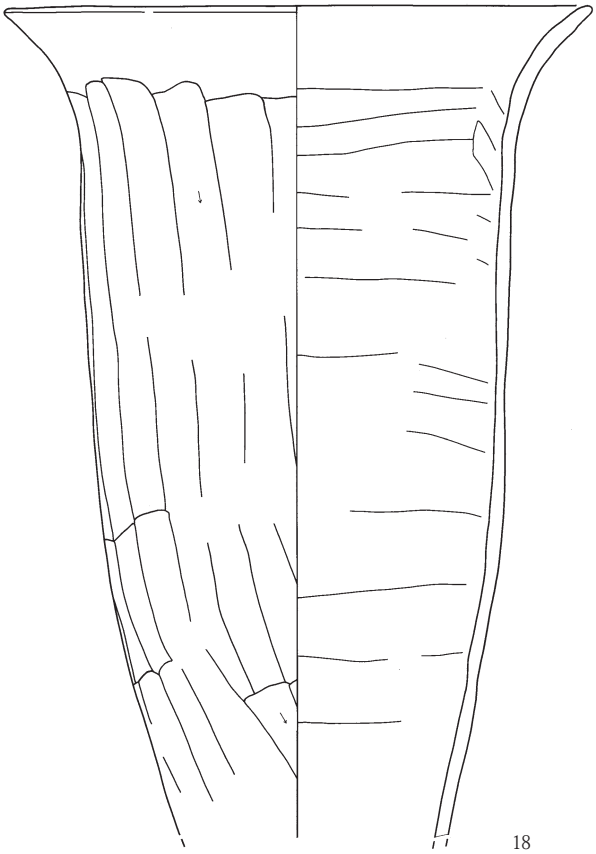
竈

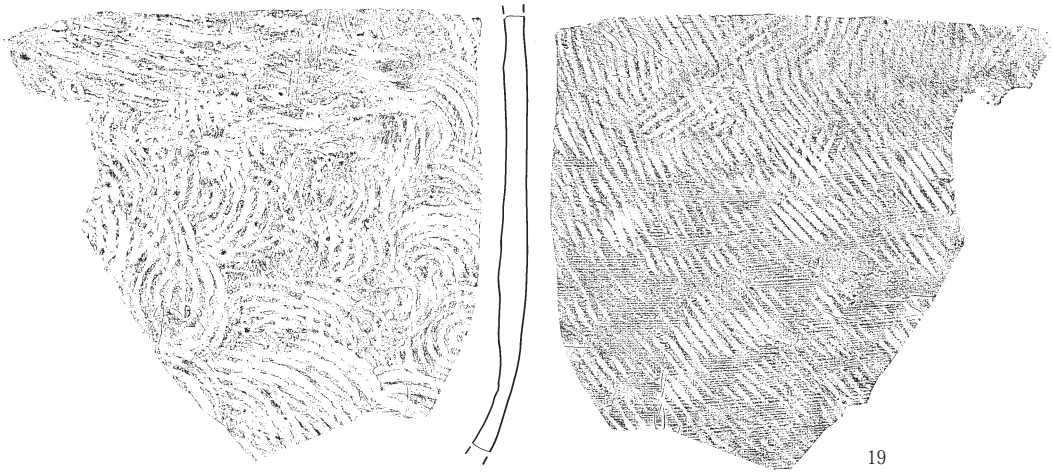
１．にぶい黄褐色土　焼土小塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。
２．にぶい黄橙色土　黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
３．暗褐色土　ローム粒を少量、灰・焼土を微量含む。締り・粘性あり。
４．灰黄褐色土　にぶい黄橙色土小塊･焼土粒を含む。締りあり。粘性強。
５．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。粘性あり。
６．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を含む。粘性あり。
７．灰黄褐色土　灰白色粘質土を多量、焼土粒･炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
８．にぶい黄橙色土　灰白色粘質土、焼土粒を含む。粘性あり。
９．明赤褐色土　焼土層。灰を含む。締りあり。粘性強。
10. 黒褐色土　焼土・炭化物を微量含む。締り弱、粘性あり。
11. にぶい黄橙色土　粘質土。締り弱。カマド崩落土。
12. にぶい黄褐色土　焼土粒を多量含む。粘性弱。
13. にぶい黄褐色土　焼土塊・灰・炭化物を含む。締り弱、粘性あり。
14. 褐色土　焼土粒・礫を含む。締り弱、粘性あり。
15. 褐色土　焼土塊主体。灰を含む。締り・粘性あり。
16. 褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土小塊を多量含む。締り・粘性あり。
17. 暗褐色土　焼土小塊・粒を多量含む。粘性あり。
18. 灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土大塊を多量、焼土粒を少量含む。粘性強。
19. にぶい黄褐色土　焼土小塊・にぶい黄橙色粘質土を多量含む。粘性あり。
20. 暗褐色土　浅黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
21. 黒褐色土　焼土粒・灰を少量含む。締り・粘性あり。
22. 黒褐色土　にぶい黄橙色軽石・にぶい黄褐色土を含む。締り・粘性あり。
23. 黒褐色土　にぶい黄褐色土塊・にぶい黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
24. 暗褐色土　ローム小塊を少量､浅黄橙色軽石を微量含む。粘性あり。
25. 灰黄褐色土　浅黄橙色粘質土塊･焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
26. 黒褐色土　黄褐色土を少量含む。粘性あり。
27. 灰黄褐色土　大礫・浅黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。

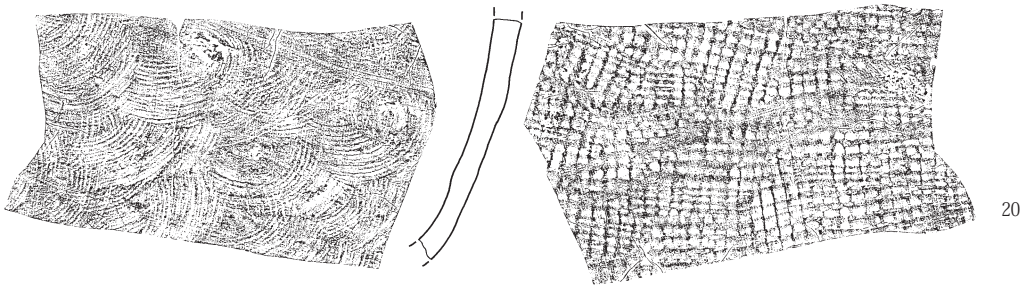


第61図　９号竪穴建物（４）









0　1：3　10cm

第62図　９号竪穴建物（５）

ある。

位置　X＝47,913～47,917　Y＝-74,566～-74,570

重複遺構　10号・12号竪穴建物・62号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が最も旧い。

形状　方形に近いが、確認できた範囲では、壁と壁の角度に偏りが見られる。

主軸方位　N－67°－E

規模　東西(4.02m)　南北(2.87m)

床面積　(9.08㎡)

埋没土層　埋没土上層はAs-C・ローム小塊・炭化物等を含む黒褐色土、床面付近はAs-C・浅黄橙色軽石を含む暗褐色土である。

壁高　36～39cm

床面　ほぼ平坦である。

掘方　床面から数cmで、起伏や細かい凹凸も少ない。

竈　東壁に設置している。一部が10号竪穴建物によって壊されている。規模は長軸91cm、袖幅(56cm)を測り、左袖は褐灰色粘質土を含むにぶい黄褐色土で構築されている。燃焼部から煙道にかけて、焼土塊、炭化物、灰を多量に含む層が厚く堆積している。長期間にわたってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中から多数の土師器と数点の須恵器が出土した。掲載した遺物は１：土師器の杯、２：同小型壺(床面直上)、３：須恵器の長頸壺、４：同壺である。

所見　床面直上で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区12号竪穴建物(第68～70図、第８表、PL.17・51)

調査区中央付近、11号竪穴建物の北西で重複する位置にある。

位置　X＝47,916～47,920　Y＝-74,566～-74,571

重複遺構　11号・28号・35号竪穴建物と重複している。新旧関係は、発掘時は、11号･28号竪穴建物より新しく、35号竪穴建物より旧いと判断して調査を進めたが、整理段階で出土遺物も含めて検討した結果、35号竪穴建物より本遺構が新しいと判断した。

形状　多少ゆがみがあるが正方形に近い。

主軸方位　N－68°－E

規模　東西3.90m　南北(3.74m)

床面積　9.81㎡

埋没土層　As-Cを含む黒褐色土で埋没している。埋没土上層にローム小塊・焼土・炭化物を含み、床面付近には黒色土塊が見られる。

壁高　55～72cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から10cm以内の深さで、起伏がなく、細かい凹凸も少ない。

竈　東壁南端に近くに設置している。燃焼部の東半分程が東壁に入り込む位置にあり、煙道の先端が35号竪穴建物との重複によって失われている。規模は長軸(102cm)、袖幅89cmを測る。燃焼部から煙道にかけて焼土塊が見られる。

貯蔵穴　建物の南東隅にある。規模は長径55cm、短径49cmの楕円形、深さ27cmである。南西隅のＰ６もその規模と形状から､貯蔵穴に類するものである可能性がある。多少ゆがみがあるが、径47cmの円形で、深さは20cmである。

柱穴　Ｐ６以外に５基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１　21×20×18　　Ｐ２　27×22×21

Ｐ３　45×37×53　　Ｐ４　28×28×18

Ｐ５　34×29×21

規模に偏りがあるが、位置関係等からＰ１～Ｐ４が主柱穴の可能性が高い。Ｐ５はしっかりとした掘り込みがあるが、位置的に主柱穴とは考えにくい。補強或いは出入り口に関わるものとも考えられる。

壁溝　確認できなかった。

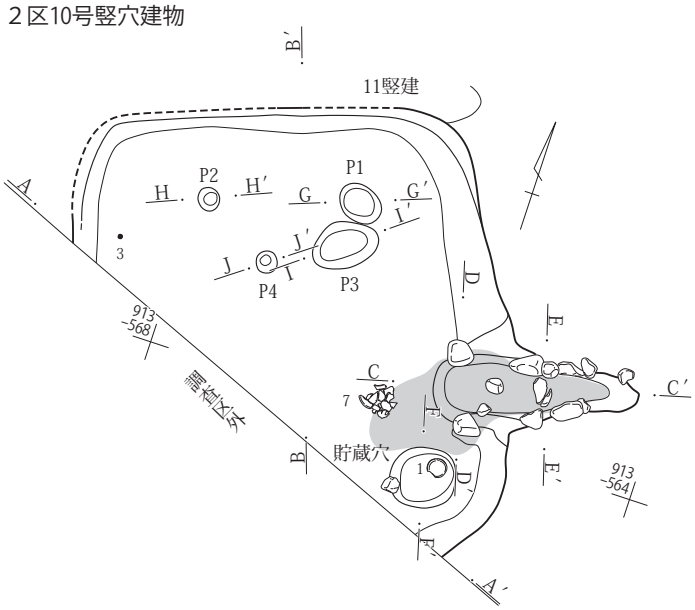
遺物　竈内、床面付近、埋没土中から、多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、1：土師器の杯(貯蔵穴の直上)、２：同台付鉢、３：須恵器の鉢、４：土師器の壺、５：同甕(竈内)、６：砥石である。

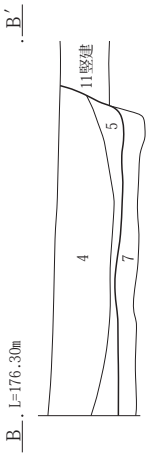
所見　床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は８世紀第１四半期である。

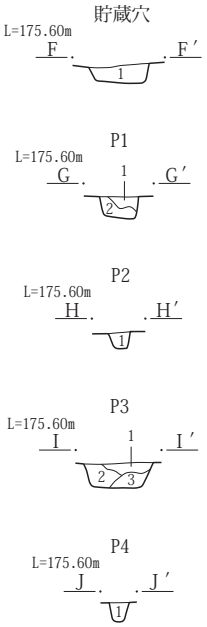
２区13号竪穴建物(第71・72図、PL.17・18)

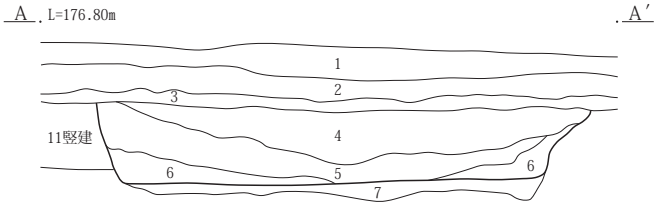
調査区西側、７号竪穴建物の５m程東の位置にある。

２区10号竪穴建物





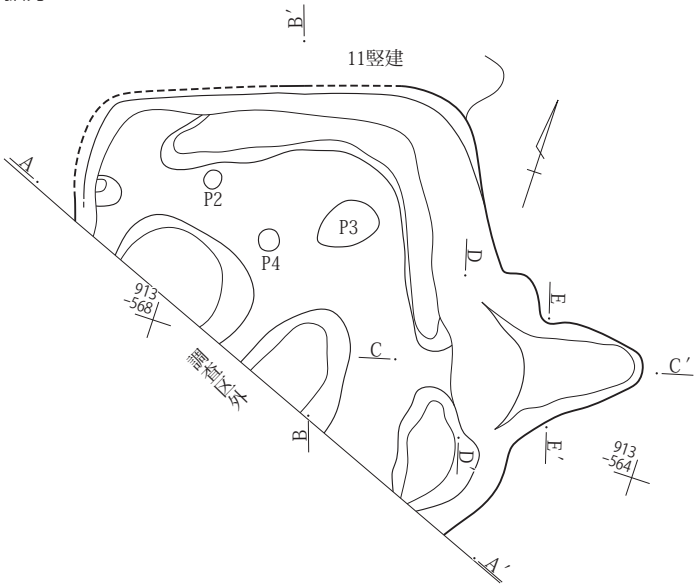


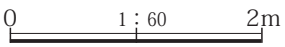


10号竪穴建物
１．表土（耕作土）。
２．黒褐色土　灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
３．灰褐色土　灰白色軽石・小礫を含む。締り・粘性あり。
４．黒褐色土　As-Cを多量、明褐色土粒・炭化物を少量含む。粘性あり。
５．黒褐色土　炭化物を多量、As-C・明褐色土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
６．暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含む。粘性あり。
７．灰黄褐色土　ローム大塊を多量含む。締り強。粘性あり。

貯蔵穴
１．黒褐色土　ローム大塊・焼土粒・炭化物を含む。粘性あり。
Ｐ１
１．黒褐色土　焼土･炭化物･浅黄橙色軽石を微量含む。締り･粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
Ｐ２
１．黒褐色土　焼土･炭化物･浅黄橙色軽石を微量含む。締り･粘性あり。
Ｐ３
１．黒褐色土　ローム大塊・粒を少量含む。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　粘質土。ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。
Ｐ４
１．黒褐色土　浅黄橙色軽石を微量含む。締り・粘性あり

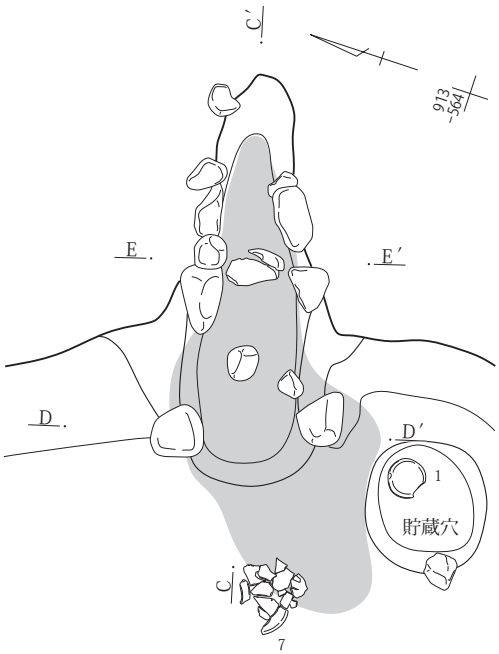
掘方

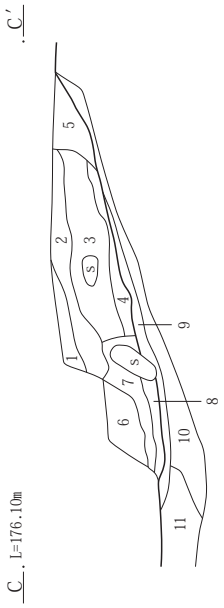




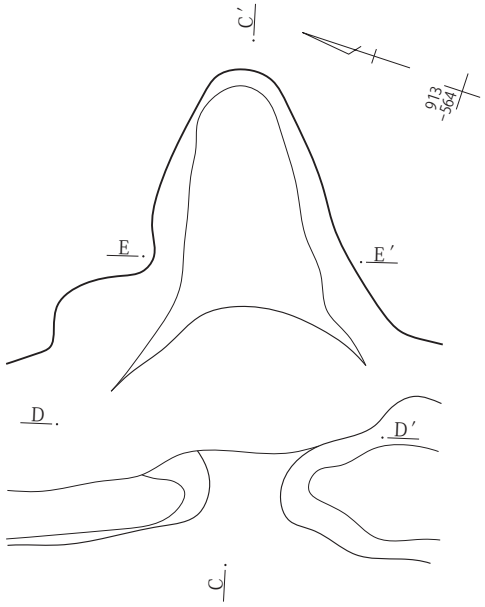
第63図　10号竪穴建物（１）

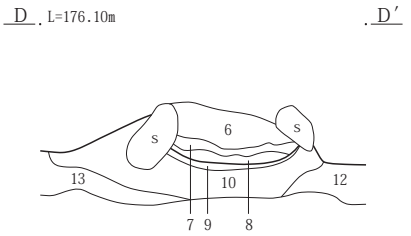
竈

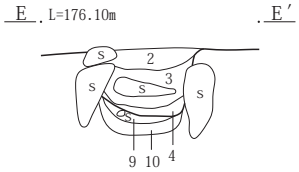




竈掘方



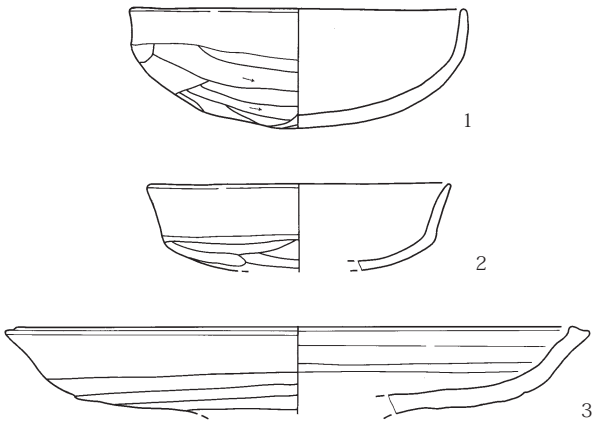


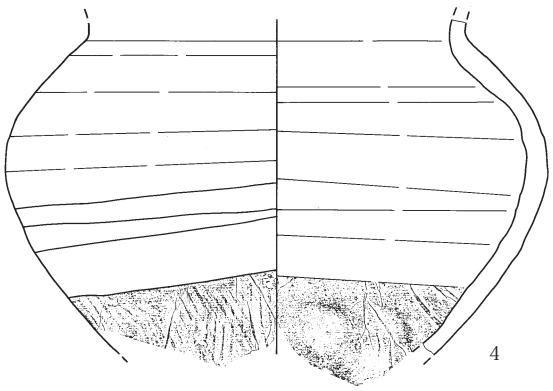


竈

1．灰黄褐色土　浅黄橙色軽石・焼土粒を少量含む。締りあり。
2．灰黄褐色土　焼土小塊を多量含む。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　焼土・炭化物・礫を含む。締り・粘性あり。
4．にぶい黄褐色土　焼土小塊を多量、炭化物を少量含む。締り弱。粘性あり。
5．黒褐色土　As-C・焼土粒を含む。締り・粘性あり。
6．暗褐色土　浅黄橙色軽石・焼土粒・炭化物を含む。締り・粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を含む。締り弱。粘性あり。
8．黒褐色土　焼土・炭化物・灰を多量含む。締り・粘性弱。
9．黒褐色土　灰主体。炭化物・焼土粒を多量含む。締り・粘性弱。
10．にぶい黄褐色土　ローム大塊を多量含む。締りあり。粘性強。
11．にぶい黄褐色土　黒褐色土・ローム塊を含む。締り・粘性あり。
12．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。粘性あり。
13．明黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。

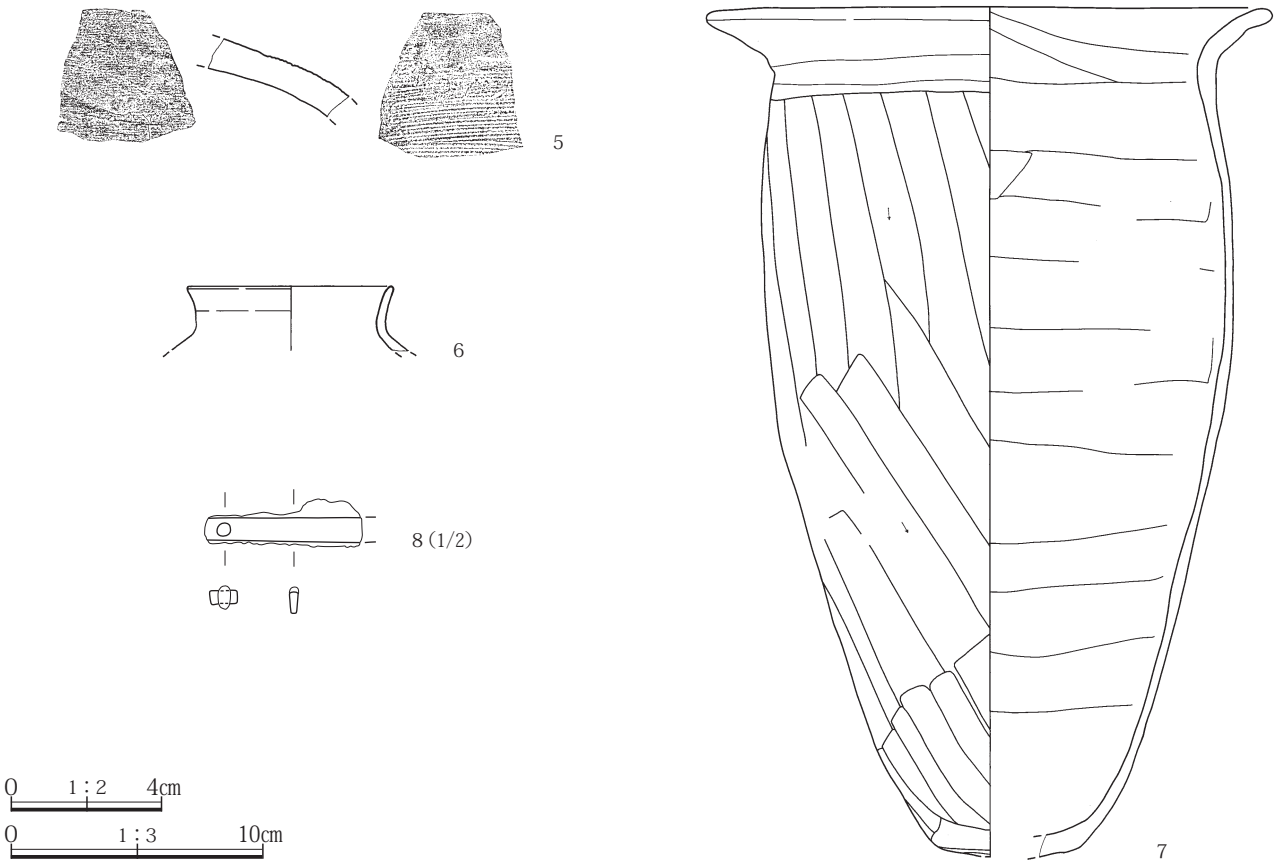
0　1：30　1m





0　1：3　10cm

第64図　10号竪穴建物（２）



第65図　10号竪穴建物（３）

位置　X＝47,928～47,930　Y＝-74,602～-74,605

重複遺構　なし

形状　掘方の調査からほぼ正方形とみられる。

主軸方位　N－101°－E

規模　東西2.59m　南北2.71m

床面積　5.10㎡

埋没土層　ローム塊・軽石粒・一部に黒褐色土を含む暗褐色土で埋没している。

壁高　16～20cm

床面　ほぼ平坦であるが、南に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から20cm～30cmの深さがあり、凹凸が見られる。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸84cm、袖幅102cmを測る。燃焼部から煙道にかけて、少量ながら焼土が見られ、焚口から50cm程の範囲の床面で灰を検出した。

貯蔵穴　建物の南端にある。規模は長径53cm、短径47cmの楕円形で、深さ25cmを測る。

柱穴　掘方の調査で、建物の南西部にピット１基を確認した。計測値は長径45cm、短径41cm、床面からの深さ42cmであった。更に建物の南東隅、北東隅、北西隅に、それぞれくぼみが検出された。床面からの深さは南東隅：32cm、北東隅：25cm、北西隅：28cmで、それらが主柱穴の位置であったと考えることもできる。

壁溝　確認できなかった。

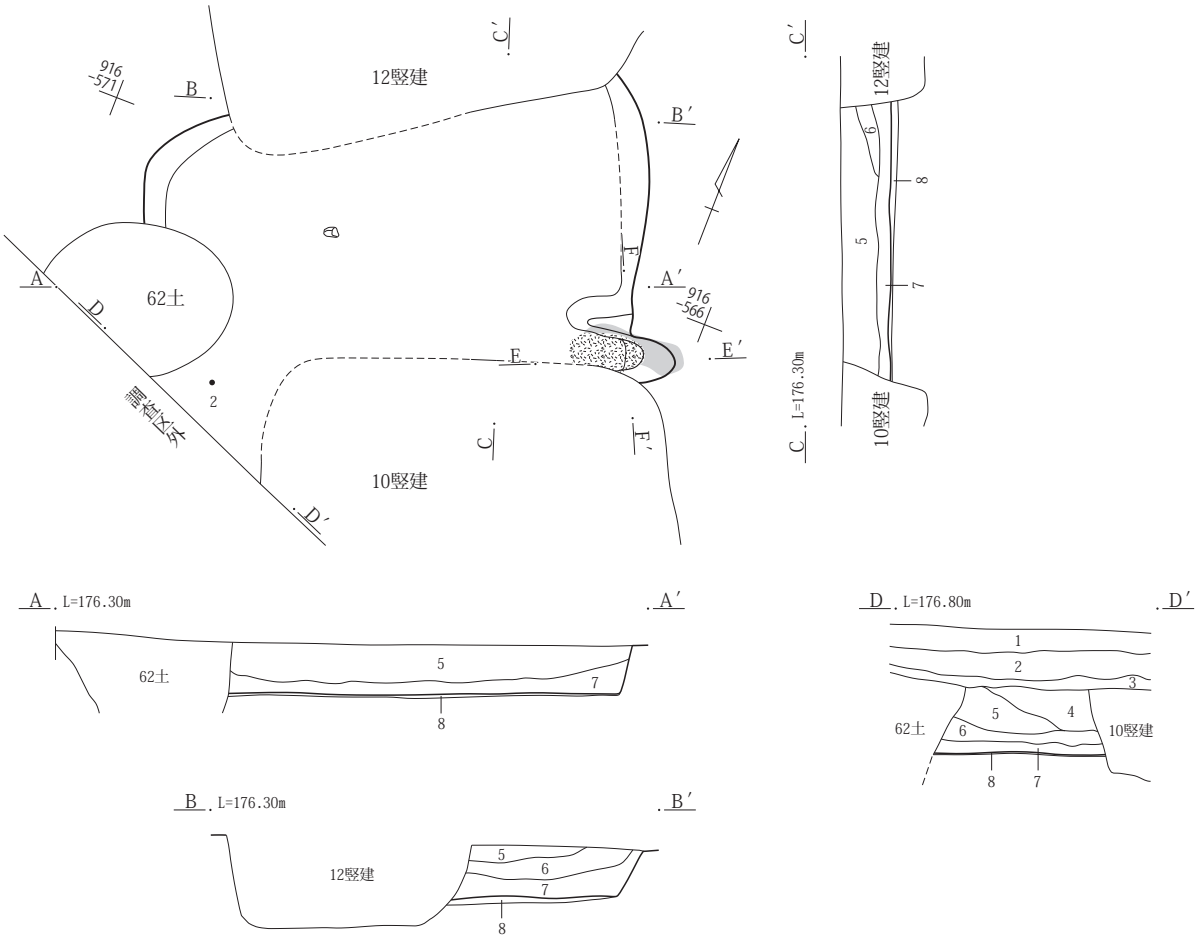
遺物　出土遺物はない。

所見　長軸が３m未満の小規模な建物である。床面の検出時は南東隅が内側に入り込むような形状を確認したが、掘方の調査によって、建物の本来の形状は正方形に近く、壁面の崩れがあったことがわかった。埋没土層に大小のローム塊を含む不自然な様相が見られることから、使用後に人為的に埋め戻された可能性があり、壁面の崩れは建物の解体に伴うものと考えることもできる。遺物が出土しなかったため、時期は、不明である。

２区14号竪穴建物（第73・74図、第８表、PL.18・51）

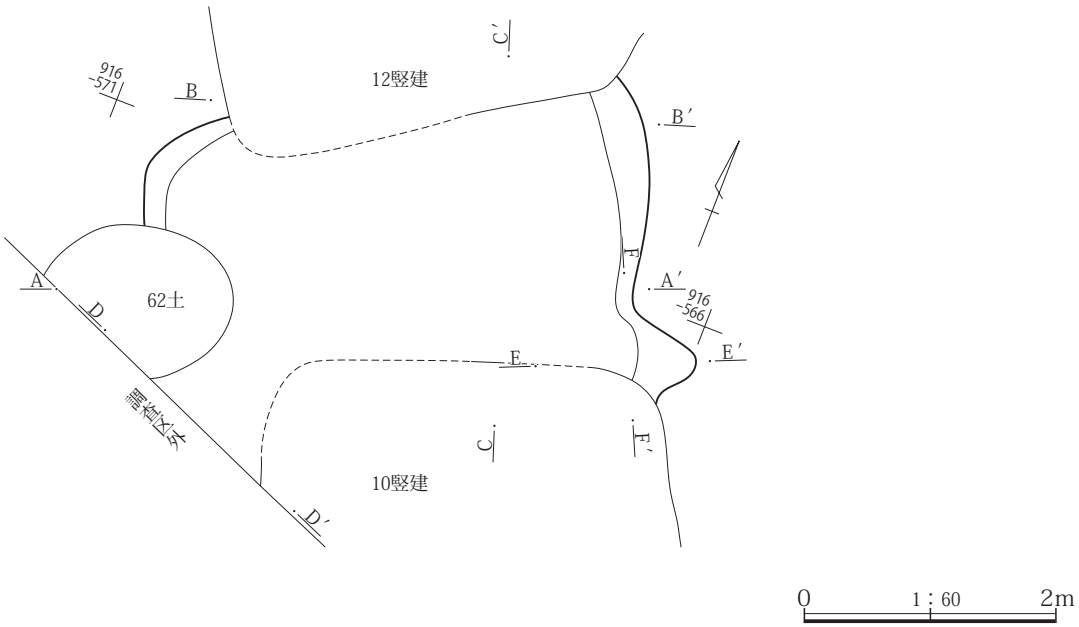
調査区西端にある。建物の南西の上部が撹乱により壊

２区11号竪穴建物

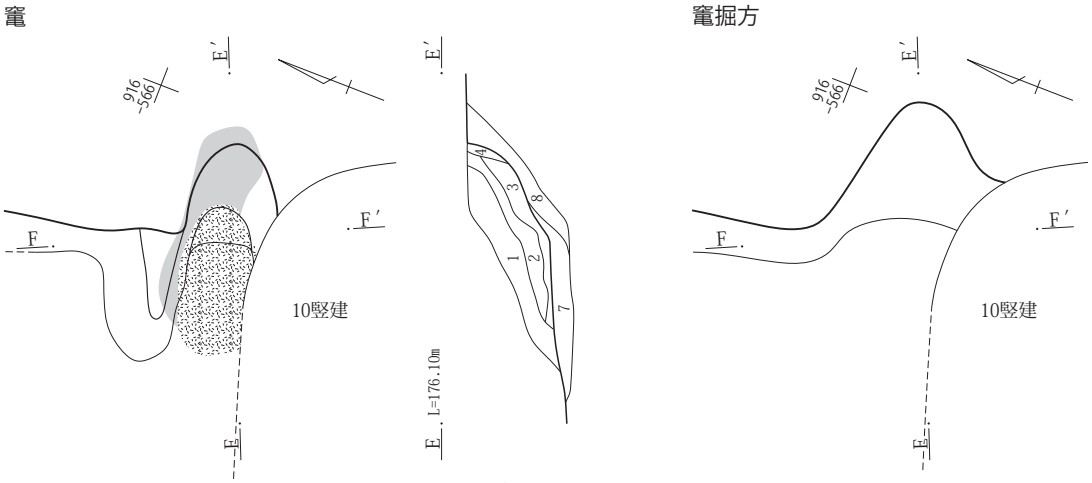


11号竪穴建物
１．表土（耕作土）。
２．黒褐色土　灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
３．灰褐色土　灰白色軽石・小礫を含む。締り・粘性あり。
４．黒褐色土　As-Cを多量、明褐色土粒・炭化物を少量含む。粘性あり。
５．黒褐色土　As-C・明褐色土粒を少量含む。締り・粘性あり。
６．黒褐色土　As-Cを多量、ローム小塊・粒を少量、炭化物を微量含む。粘性あり。
７．暗褐色土　As-C・浅黄橙色軽石を微量含む。締り弱。粘性あり。
８．黒褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。

掘方

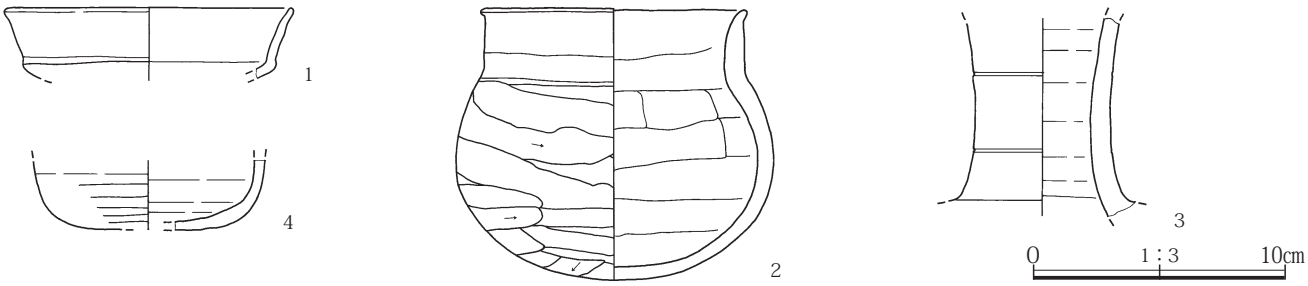


第66図　11号竪穴建物（１）



竈

1．暗褐色土　焼土小塊を多量、ローム小塊・粒を少量、As-Cを微量含む。締り強、粘性あり。
2．暗褐色土　焼土小塊主体。褐灰色粘質土・ローム小塊を少量含む。締り・粘性あり。
3．灰黄褐色土　炭化物を多量、焼土粒・灰を少量含む。締り・粘性弱。
4．にぶい黄褐色土　ローム塊主体。締り強。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　褐灰色粘質土塊・焼土粒・炭化物を含む。締り・粘性あり。
6．にぶい黄褐色土　焼土粒・炭化物を少量含む。粘性あり。
7．褐色土　ローム大塊主体。にぶい黄褐色土を含む。粘性あり。
8．黒褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
9．黒褐色土　焼土粒・ローム粒を含む。締り・粘性あり。
10．暗褐色土　黒褐色土・ローム粒を含む。締り・粘性あり。



第67図　11号竪穴建物（２）

されている。

位置　X＝47,938～47,941　Y＝-74,638～-74,642

重複遺構　なし

形状　長方形

主軸方位　N－87°－E

規模　東西(3.32m)　南北2.89m

床面積　6.76㎡

埋没土層　主に埋没土上層はAs-C・黄橙色土塊を含む暗褐色土や黒褐色土、床面付近は黄橙色土塊を含む灰黄褐色土であり、周縁部には、焼土を含む黒褐色土が堆積している。

壁高　42～50cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。竈の焚口から建物の中央の広い範囲、更に北側の一部で焼土を検出した。

掘方　床面から10cm前後の深さで、凹凸が見られる。

竈　東壁のほぼ中央に設置している。規模は長軸84cm、袖幅111cmを測り、袖はにぶい黄橙色粘質土を使用して構築されている。燃焼部の底部で多量に焼土・灰・炭化物を含む層が見られ、焚口前の１m×１m程の範囲の床面で多量の焼土を検出した。よく使用されていたと考えられる。

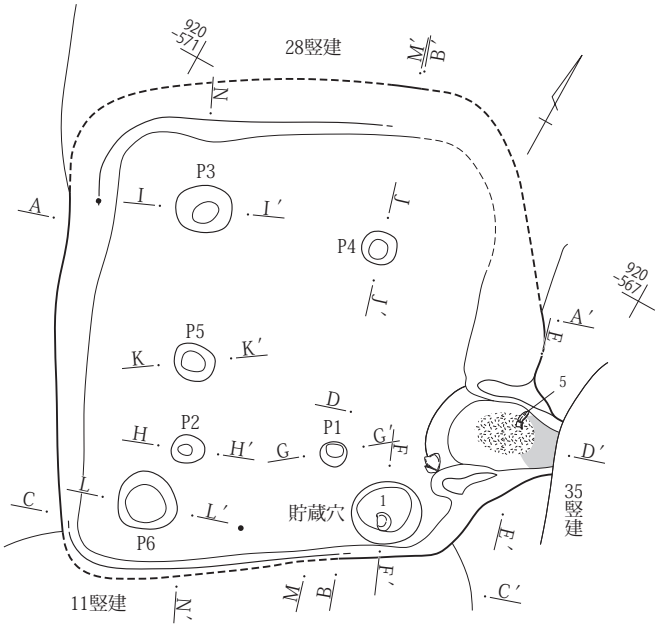
貯蔵穴　建物の南東隅の位置にある。規模は長径66cm、短径36cmの楕円形、深さ22cmを測る。

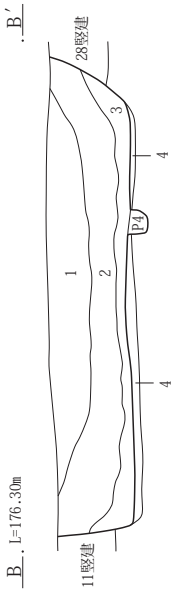
柱穴　確認できなかった。

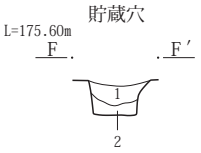
壁溝　西側周縁部で確認した。幅15cm～20cm、深さ３cm～９cmを測る。

遺物　竈内、床面直上、埋没土中から多数の遺物が出土

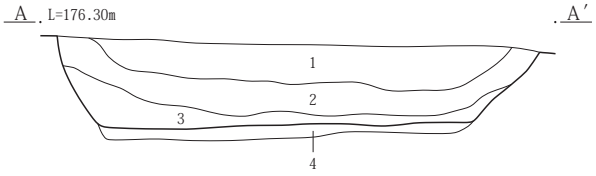
２区12号竪穴建物

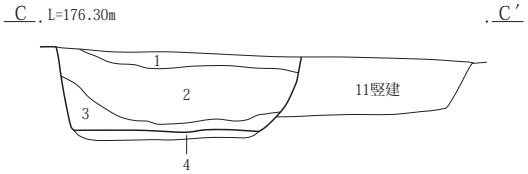




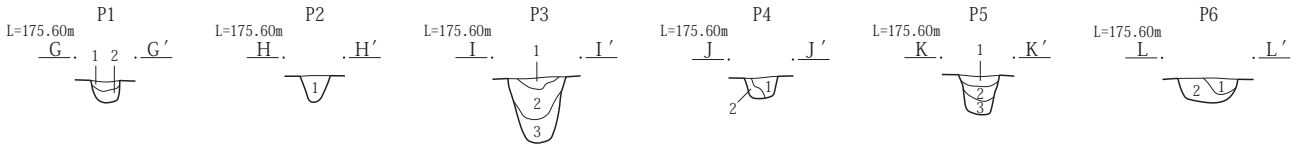


貯蔵穴
1．黒褐色土　にぶい黄橙色土・ローム粒を含む。締り弱。粘性強。
2．灰黄褐色土　ローム塊を少量含む。粘性あり。





12号竪穴建物
1．黒褐色土　As-Cを多量、焼土小塊・炭化物を少量含む。粘性あり。
2．黒褐色土　As-C・炭化物・ローム小塊・粒を含む。粘性あり。
3．黒褐色土　As-C・黒色土小塊を含む。締り弱。粘性あり。
4．黒褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。



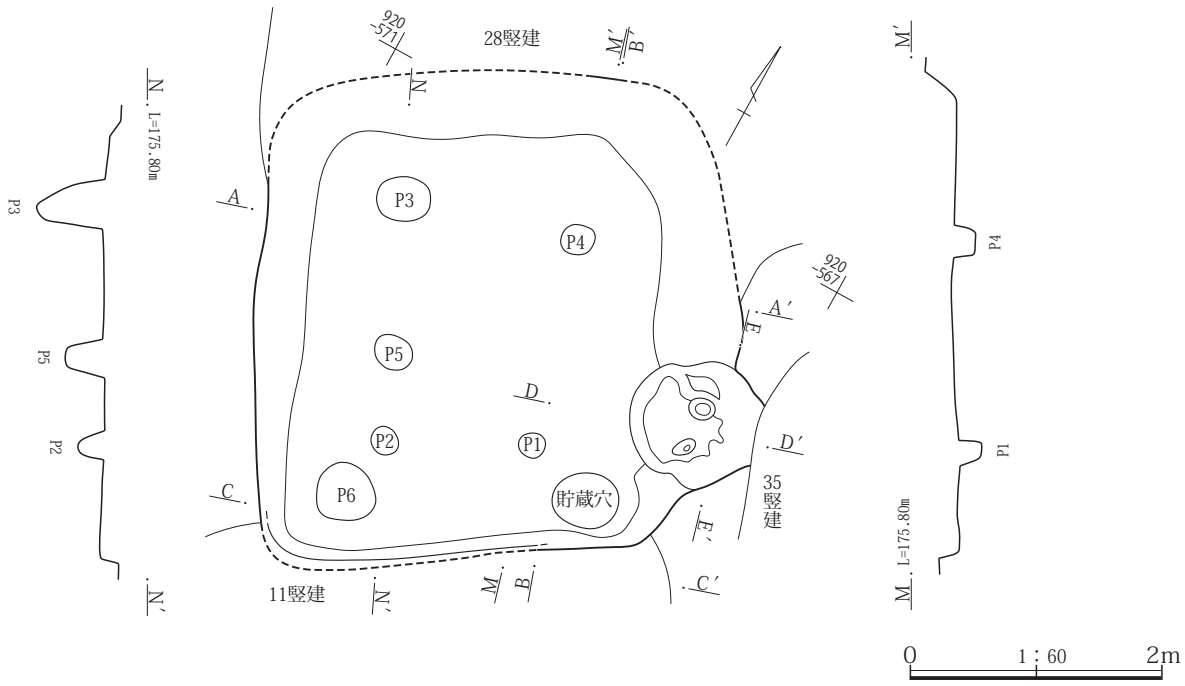
P１
1．黒褐色土　暗褐色土・浅黄橙色軽石を含む。締り弱。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　浅黄橙色軽石を微量含む。締り強。粘性あり。
P２
1．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、黒褐色土を少量含む。締りあり。粘性強。
P３
1．暗褐色土　黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　褐色土を少量含む。締りあり。粘性強。
3．黒褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り弱。粘性あり。

P４
1．黒褐色土　暗褐色土・浅黄橙色軽石を含む。締り弱。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　浅黄橙色軽石を微量含む。締り強。粘性あり。
P５
1．黒褐色土　浅黄橙色軽石を微量含む。締り・粘性あり。
2．暗褐色土　ローム粒を多量含む。締り・粘性あり。
3．灰黄褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。
P６
1．黒褐色土　灰黄褐色土・ローム塊を含む。締り弱。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム塊を含む。締り弱。粘性あり。

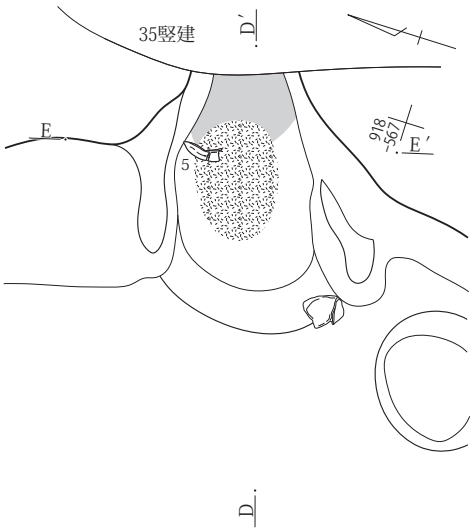
0　1：60　2m

第68図　12号竪穴建物（１）

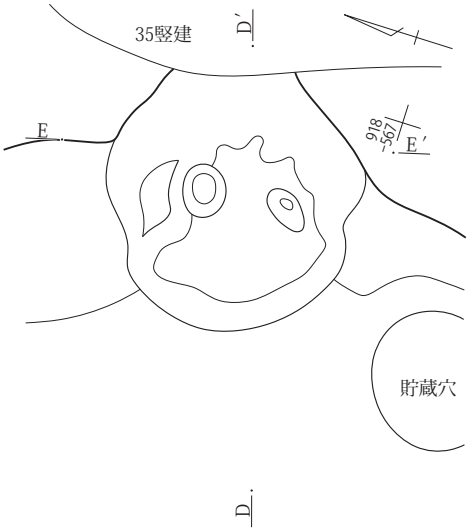
掘方



竈



竈掘方

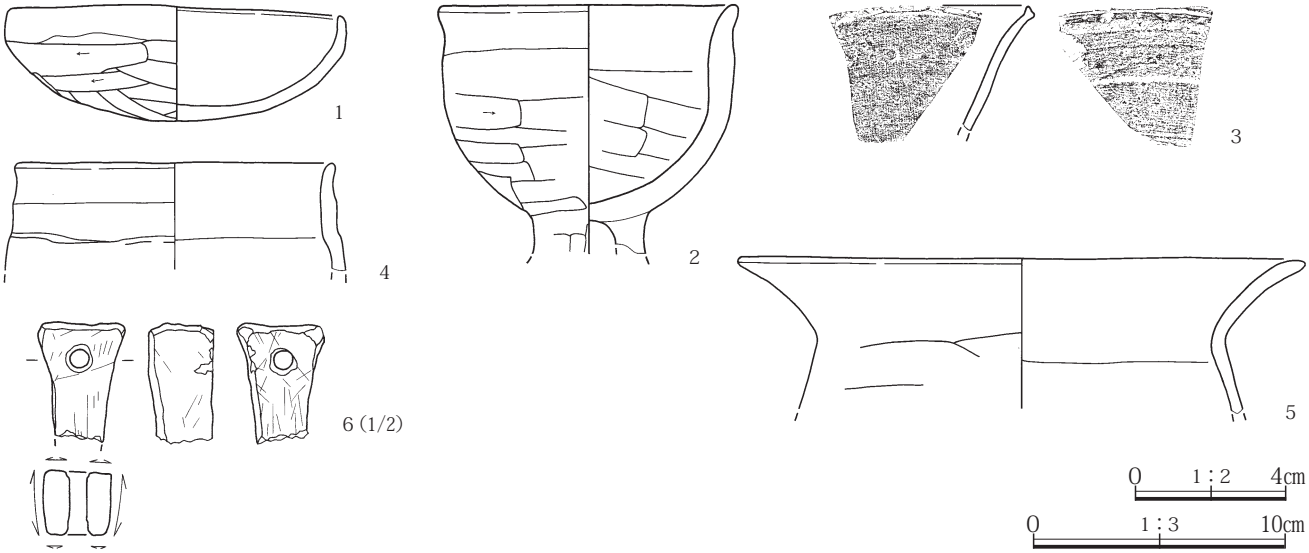


竈

1．灰黄褐色土　ローム大塊主体。浅黄橙色軽石を少量含む。締り強。粘性あり。
2．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。
3．灰黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
4．明黄褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。カマド天井崩落土。
5．にぶい黄褐色土　焼土塊・ローム大塊・粒を含む。締り・粘性あり。
6．褐色土　焼土・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、焼土粒を微量含む。締り弱。粘性あり。
8．黒褐色土　灰・焼土を多量含む。締り弱。粘性あり。
9．暗褐色土　ローム粒・浅黄橙色軽石を含む。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　焼土粒・灰を含む。締り・粘性あり。
11．黒褐色土　ローム小塊を多量、炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
12．黒褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。
13．暗褐色土　ローム塊を多量、焼土小塊・炭化物を少量含む。締り強。粘性あり。
14．暗褐色土　ローム塊・粒を多量、焼土小塊・炭化物を少量含む。締り強。粘性あり。

0　1：30　1m

第69図　12号竪穴建物（２）



第70図　12号竪穴建物（３）

した。北壁付近の焼土上では鉄製品も出土している。掲載した遺物は、１～３：土師器の杯(床面直上)、４：同小型壺(床面直上)、５・６：同甕（６は床面直上)、７：鎌(床面直上)である。

所見　床面の広範囲で焼土を確認し、その焼土上で鎌が出土した。鉄製品の製作に関わる建物の可能性がある。床面直上で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区15号竪穴建物(第75・76図、第８表、PL.18・19・52)

調査区西側、13号竪穴建物の10m程東にある。

位置　X＝47,926～47,929　Y＝-74,592～-74,596

重複遺構　18号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形とみられるが、西側が重複により失われているため、不明である。

主軸方位　N－83°－E

規模　東西(2.66m)　南北3.46m

床面積　(7.65㎡)

埋没土層　埋没土の多くはAs-C・ローム小塊・炭化物を含む暗褐色土であり、上層の一部にAs-C・焼土を含む黒褐色土が見られる。床面付近の周縁部には明褐色土塊・ローム小塊を含む褐色土が三角堆積している。

壁高　20～35cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。竈内から竈前の床面で灰を検出した。

掘方　床面から10cm～20cmの深さがあり、凹凸が見られる。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸66cm、袖幅58cmを測る。上部は残存せず、袖石とみられる石と共に、多数の土器片が周辺から出土した。この石や土器の下部では、にぶい黄橙色土が見られ、袖の基部の可能性が高い。燃焼部から焚口前の床面にかけて灰を検出した。

貯蔵穴　建物の南東隅の位置にある。規模は長径49cm、短径45cmの楕円形、深さ21cmを測る。

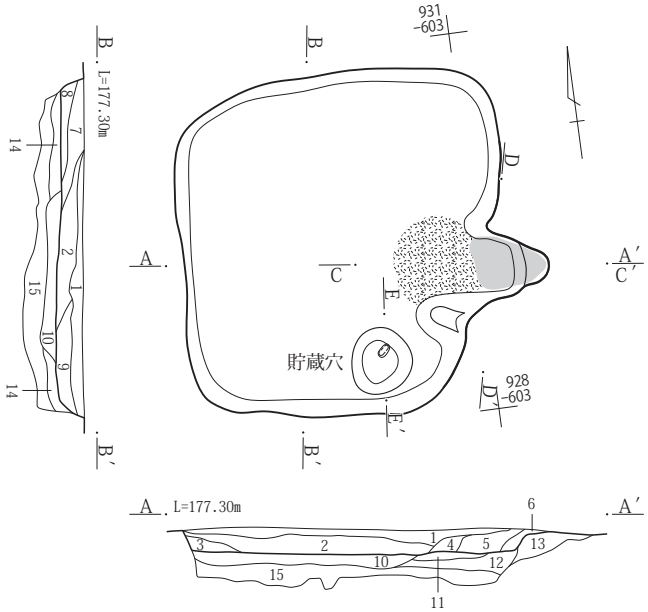
柱穴　床面では確認できなかったが、掘方の調査でピット１基を検出した。計測値は長径28cm、短径26cm、床面からの深さ25cmであった。主柱穴の１つである可能性もある。

壁溝　南壁沿いで確認した。幅10cm～15cm、深さ９cm～10cmを測る。

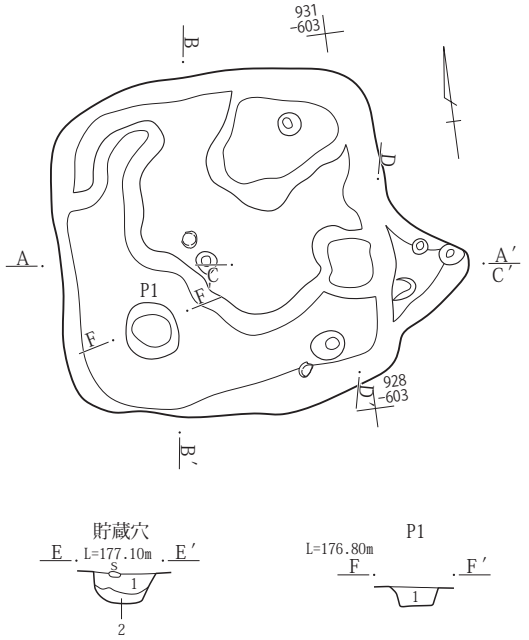
遺物　竈周辺、床面直上、埋没土中から多数の土器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯（１は掘方、２は壁溝)、３：同鉢(床面直上)、４：須恵器の杯蓋(床面直上)、５：土師器の小型壺(床面から８cm)、６・７：同小型甕(床面直上)、８～11：同甕(焚口や付近の床面直上)、12：須恵器の甕である。

所見　竈の上部がほとんど残っておらず、多数の土器片が出土している。埋没土の多くにローム塊が見られることから、建物の放棄時に竈を壊し、埋戻しが行われた可能性がある。床面直上で出土した遺物から、時期は７世紀前半である。

２区13号竪穴建物



掘方



13号竪穴建物
１．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。
２．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。
３．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム粒を含む。
４．暗褐色土　にぶい黄褐色土･黒褐色土･軽石粒･ローム塊を含む。締りあり。
５．にぶい黄褐色土　暗褐色土・焼土粒を含む。
６．暗褐色土　にぶい黄褐色土・焼土粒・炭化物粒を含む。
７．暗褐色土　軽石粒を少量、黒褐色土・ローム塊を微量含む。
８．暗褐色土　ローム小塊・軽石粒を微量含む。締りあり。
９．暗褐色土　軽石粒・ローム塊・小礫を微量含む。締りあり。
10．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。
11．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・炭化物を含む。
12．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量、焼土粒・焼土塊・炭化物を微量含む。
13．暗褐色土　にぶい黄橙色土・ローム塊・焼土粒・焼土塊を含む。
14．暗褐色土　ローム塊・黒褐色土を含む。締りあり。
15．暗褐色土　ローム塊を含む。
貯蔵穴
１．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。
２．暗褐色土　ローム塊を多量含む。
Ｐ１
１．暗褐色土　ローム塊を含む。

0　1：60　2m

第71図　13号竪穴建物（１）

２区16号竪穴建物（第77～79図、第８表、PL.19・52）

調査区西側、13号竪穴建物の10m程北にある。建物の北東端の上部が調査区外にある。

位置　Ｘ＝47,938～47,942　Ｙ＝-74,603～-74,607

重複遺構　なし

形状　長方形

主軸方位　Ｎ－79°－Ｅ

規模　東西2.83m　南北4.01m

床面積　9.61㎡

埋没土層　軽石粒を含む暗褐色土で埋没しており、上層には焼土･炭化物、床面付近にはローム塊を含んでいる。また、周縁部には黒褐色土も多量に混在している。

壁高　44～50cm

床面　ほぼ平坦である。

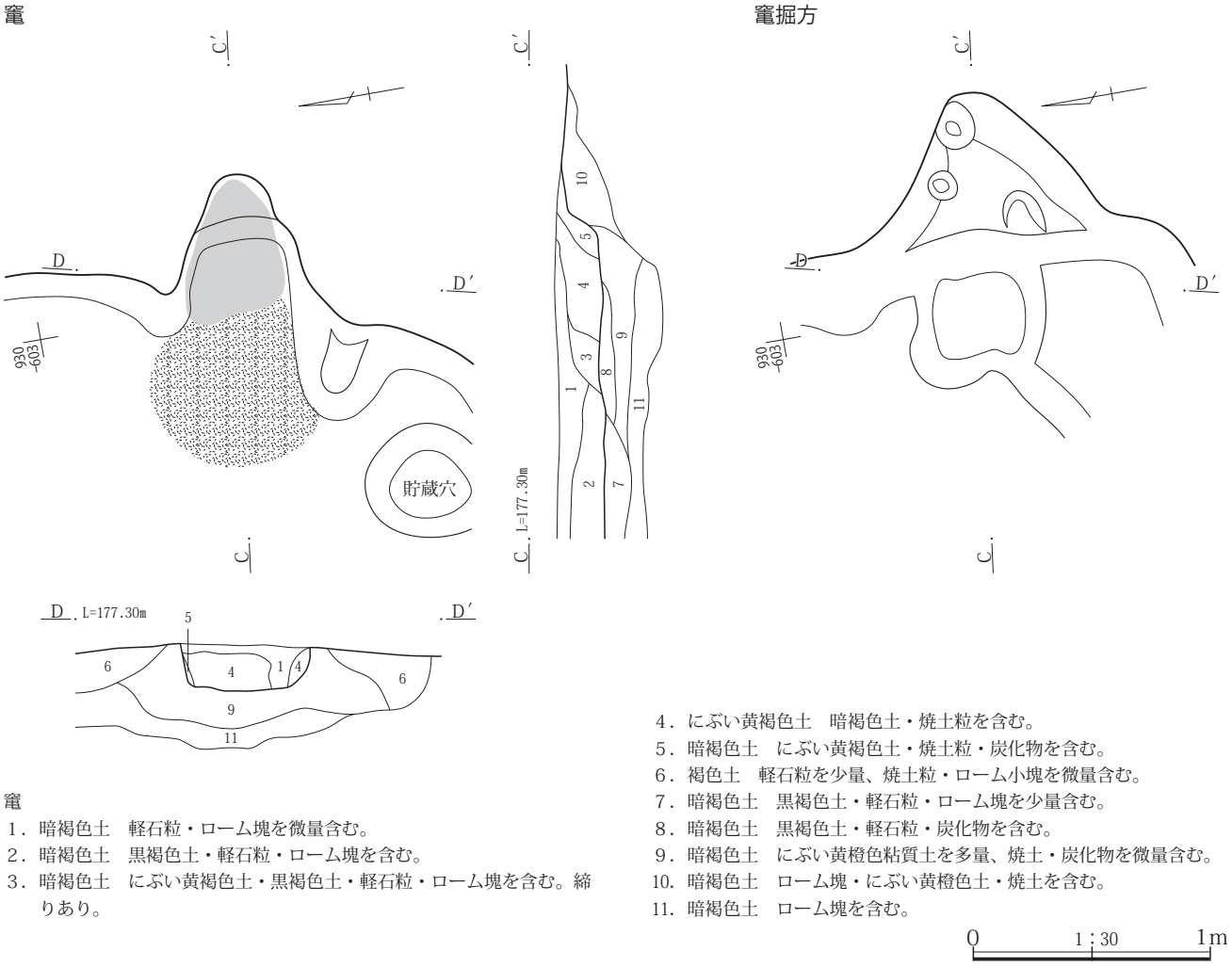
掘方　床面から20cm前後の深さがある。細かい凹凸が見られるが、大きな起伏はない。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸102cm、袖幅104cmを測り、袖はにぶい黄橙色土塊を含む黒褐色土を使用して構築されている。燃焼部中央の底部を中心に焼土が多量に見られ、その下部の広い範囲に炭化物を含む灰層が広がっている。

貯蔵穴　建物の南東隅の位置にある。規模は長径76cm、短径52cmの楕円形、深さ44cmを測る。

柱穴　床面でＰ１～Ｐ４、掘方の調査でＰ５～Ｐ７の計７基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

Ｐ１	28×25×26	Ｐ２	45×40×15
Ｐ３	38×35×19	Ｐ４	50×36×19
Ｐ５	17×15×30	Ｐ６	13×12×28
Ｐ７	13×13×27		



竈
1．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。
3．暗褐色土　にぶい黄褐色土・黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。締りあり。
4．にぶい黄褐色土　暗褐色土・焼土粒を含む。
5．暗褐色土　にぶい黄褐色土・焼土粒・炭化物を含む。
6．褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。
7．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を少量含む。
8．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・炭化物を含む。
9．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量、焼土・炭化物を微量含む。
10．暗褐色土　ローム塊・にぶい黄橙色土・焼土を含む。
11．暗褐色土　ローム塊を含む。

0　1：30　1m

第72図　13号竪穴建物（２）

配置に多少偏りがあるが、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴である可能性がある。床下で確認されたＰ５～Ｐ７については、その位置と規模から出入り口に関わるもの、或いは壁面を支えるものの可能性もある。

壁溝　竈付近以外は全周していた。幅10cm～20cm、深さ４cm～12cmを測る。

遺物　竈周辺、床面直上、埋没土中から土器や石製品が出土した。掲載した遺物は、１～５：土師器の杯（２・４は床面直上、５は床面から９cm）、６～８：同甕（６・８は床面直上）、９：石製品の紡輪１点（壁溝）である。

所見　床面直上で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区17号竪穴建物（第80～82図、第８表、PL.19・20・52・53）

調査区西側、16号竪穴建物の７m程南にある。

位置　X＝47,932～47,935　Y＝-74,603～-74,607

重複遺構　なし

形状　ほぼ正方形

主軸方位　N－90°－E

規模　東西3.75m　南北3.45m

床面積　10.28㎡

埋没土層　埋没土上層はAs-C・黄橙色土粒を含む黒褐色土、床面付近は主にAs-C・にぶい黄褐色土塊・ローム粒を含む暗褐色土であり、一部ににぶい黄橙色土小塊を含むにぶい黄褐色土が見られる。

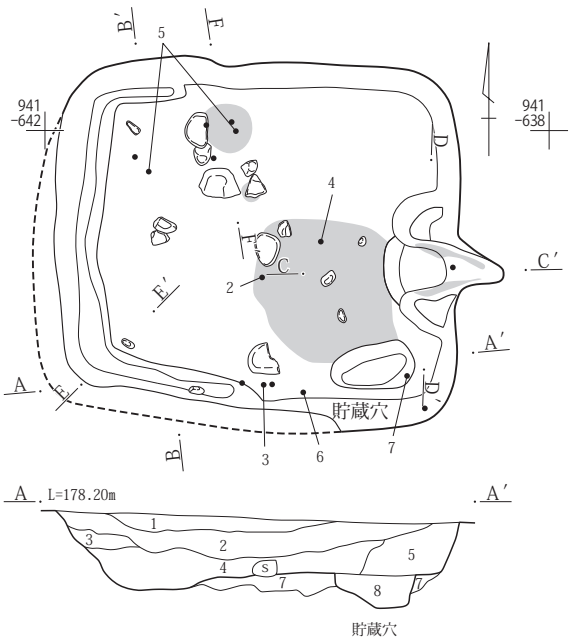
壁高　37～73cm

床面　ほぼ平坦であるが、多少起伏があり、南東に向い緩やかに傾斜している。

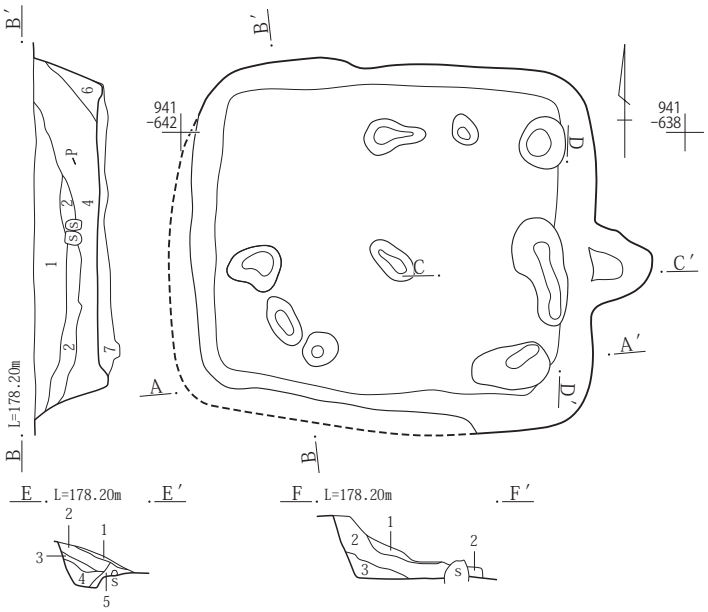
掘方　床面から平均10cm程の深さだが、起伏がある。

竈　東壁やや南寄りに設置している。燃焼部が建物の内側に入る位置にあり、煙道の壁外への張り出しが40cmと

２区14号竪穴建物



掘方



14号竪穴建物　A-A′・B-B′

１．暗褐色土　As-Cを多量、黄橙色土塊を少量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　As-C・黄橙色土塊・大礫を含む。粘性あり。
３．黒褐色土　焼土粒を多量含む。締りあり。粘性弱。
４．灰黄褐色土　黄橙色土小塊・粒を少量含む。粘性弱。
５．黒褐色土　灰白色粘質土・焼土粒を含む。締り・粘性あり。
６．黒褐色土　暗褐色土小塊を含む。
７．にぶい黄褐色土　ローム大塊・灰白色軽石を含む。締り・粘性あり。
８．黒褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。

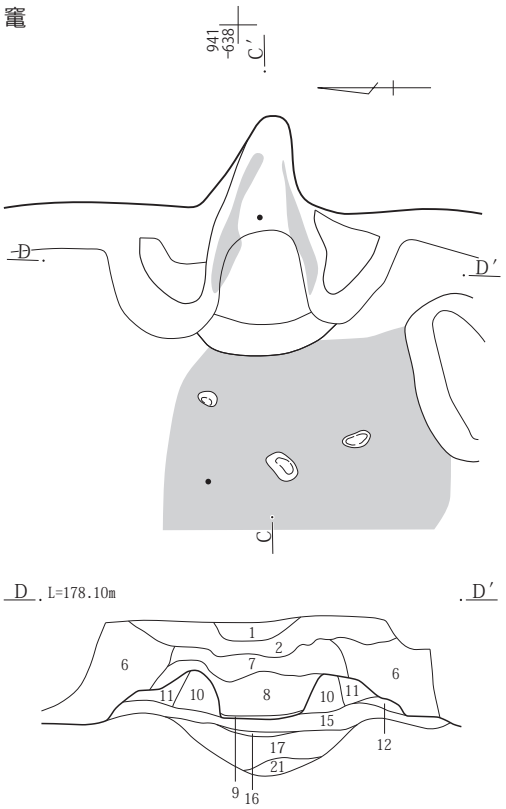
E-E′

１．黒褐色土　焼土小塊・粒を縞状に含む。粘性あり。
２．黒褐色土　ローム塊・粒を含む。締り・粘性あり。
３．黒色土　炭化物主体。締り弱。粘性あり。
４．黒褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締りあり。粘性弱。
５．灰黄褐色土　ローム小塊・礫を含む。締り強。粘性あり。

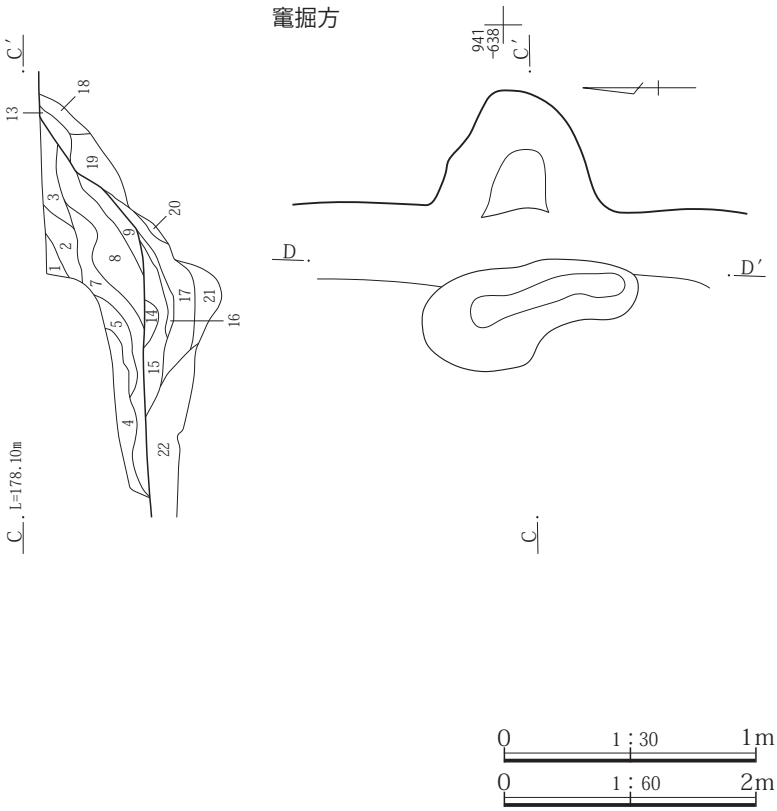
F-F′

１．暗褐色土　灰白色軽石・ローム粒を含む。粘性あり。
２．暗褐色土　灰白色軽石・ローム粒・焼土粒を含む。締り・粘性あり。
３．黒褐色土　焼土粒を少量含む。粘性あり。

竈



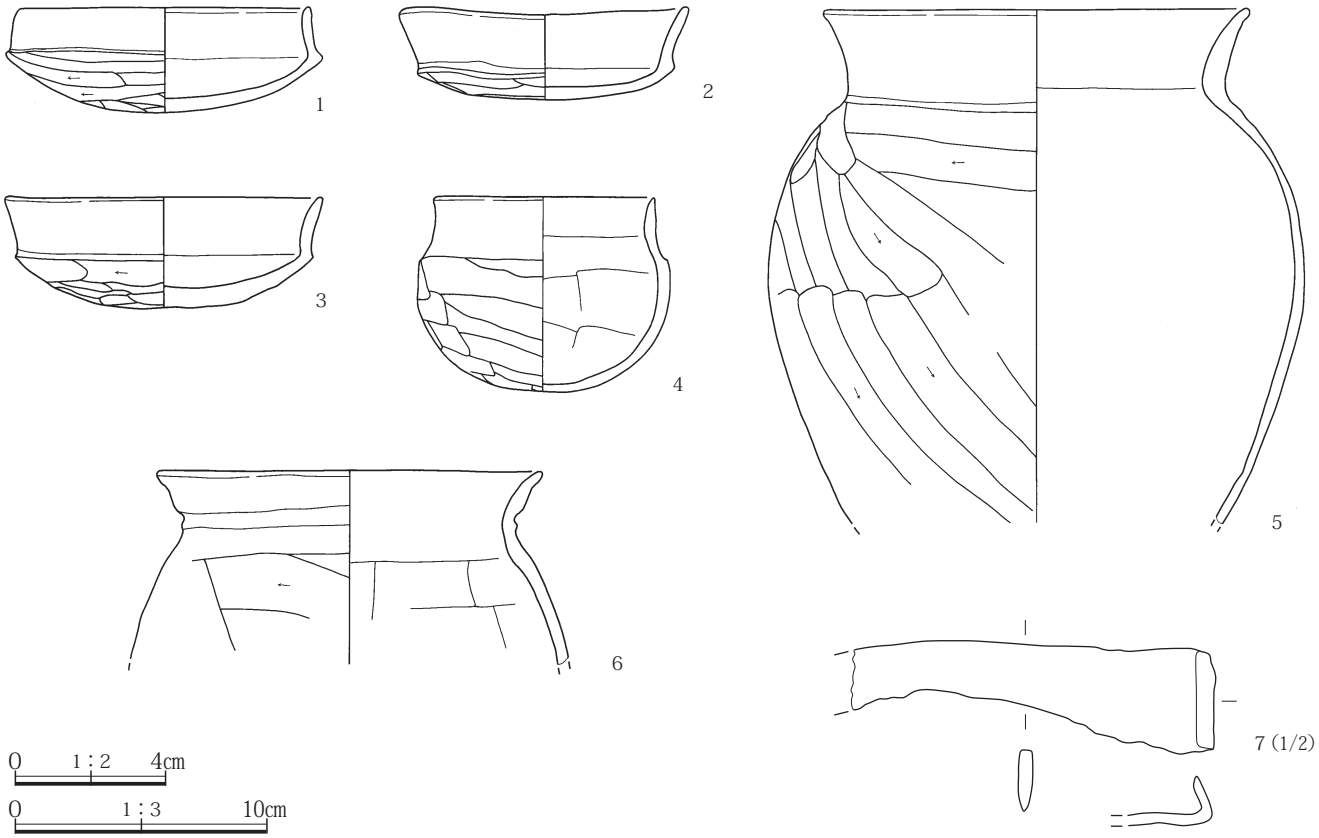
竈掘方



第73図　14号竪穴建物（１）

竈

1．にぶい黄褐色土　黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄橙色土　炭化物・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
3．浅黄橙色土　粘質土。焼土小塊・灰白色粘質土を含む。締り強。
4．黒褐色土　炭化物・ローム粒を含む。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　ローム大塊・黒褐色土小塊・黄橙色軽石を含む。締りあり。粘性弱。
6．暗褐色土　ローム小塊・黄橙色軽石・炭化物を含む。締り・粘性あり。
7．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締りあり。粘性弱。
8．浅黄橙色土　粘質土。黒褐色土を含む。締り強。
9．にぶい黄橙色土　焼土塊主体。炭化物・灰を含む。締りあり。粘性弱。
10．にぶい黄橙色土　粘質土。焼土小塊を含む。締り強。
11．にぶい黄橙色土　にぶい黄褐色土塊を含む。粘性あり。
12．灰黄褐色土　にぶい黄橙色土を含む。粘性あり。
13．にぶい黄橙色土　粘質土。黒褐色土を含む。締り強。粘性あり。
14．暗褐色土　ローム小塊を多量、黄橙色軽石･炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
15．黒褐色土　焼土小塊を多量､ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
16．褐灰色土　焼土・灰主体。粘性弱。
17．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り・粘性あり。
18．黒褐色土　焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
19．黒褐色土　ローム粒を含む。粘性あり。
20．明黄褐色土　ローム塊主体。締り強。粘性あり。
21．にぶい黄褐色土　黒褐色土を含む　締り強。粘性弱。
22．浅黄橙色土　粘質土。黒褐色土を含む。締り強。



第74図　14号竪穴建物（２）

少ない。規模は長軸103cm、袖幅104cmを測り、袖はにぶい黄橙色粘質土を使用して構築されている。両袖石の間で長径48cm、短径19cmの紡錘形に近い形状の石がほぼ長軸方位に横たわる状態で出土した。石の規模や袖石との位置関係から焚口上部の天井石の可能性が高い。燃焼部の底部には焼土を多量に含む層が厚く堆積しており、長期間にわたってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　竈の右、建物の南東隅の位置にある。規模は長径54cm、短径41cmの楕円形、深さ40cmを測る。

柱穴　床面でピットを５基検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

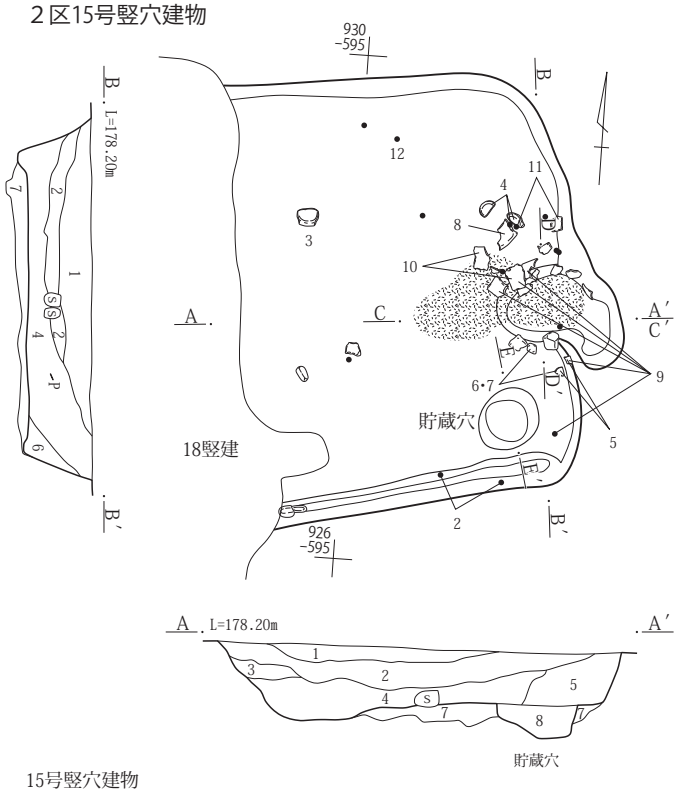
Ｐ１　27×23×29　　Ｐ２　36×29×19
Ｐ３　30×22×20　　Ｐ４　43×38×20
Ｐ５　18×14×20

建物に対しての配置に多少偏りがあるが、それぞれの規模と土層断面からＰ１～Ｐ４が主柱穴とみられる。Ｐ５も柱穴と考えることが可能であるが、その位置や形状からＰ２の補強・補助的なものと考えることもできる。

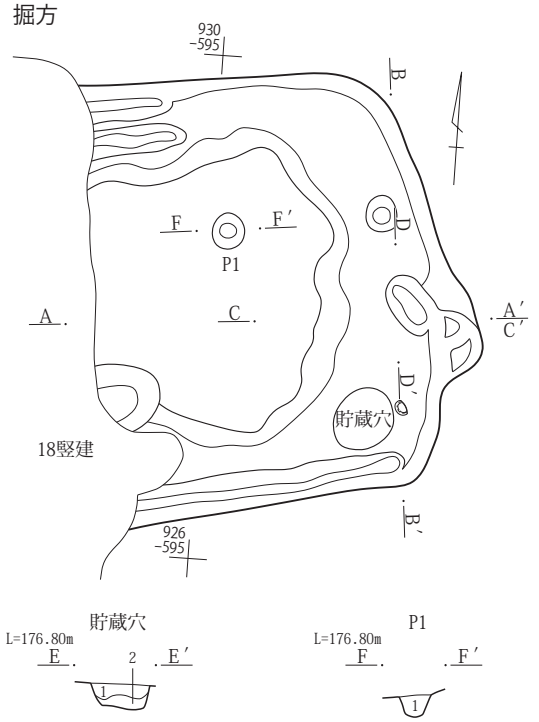
壁溝　確認できなかった。

遺物　竈や貯蔵穴・床面直上、埋没土中から土器などが多数出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯（１は床面直上、２は竈内）、３：同有孔鉢（貯蔵穴直上）、４：

２区15号竪穴建物



掘方



15号竪穴建物

１．黒褐色土　As-C・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
２．暗褐色土　As-Cを多量、ローム小塊・炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
３．褐色土　明褐色土小塊・ローム小塊を含む。締り弱。粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
５．灰黄褐色土　ローム粒を多量含む。粘性あり。
６．暗褐色土　にぶい黄橙土塊・軽石粒・焼土粒・炭化物・ローム塊を含む。締りあり。
７．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・炭化物・ローム塊を微量含む。締りあり。
８．暗褐色土　ローム塊・焼土・軽石を含む。締りあり。
９．暗褐色土　ローム塊・軽石粒を含む。

貯蔵穴

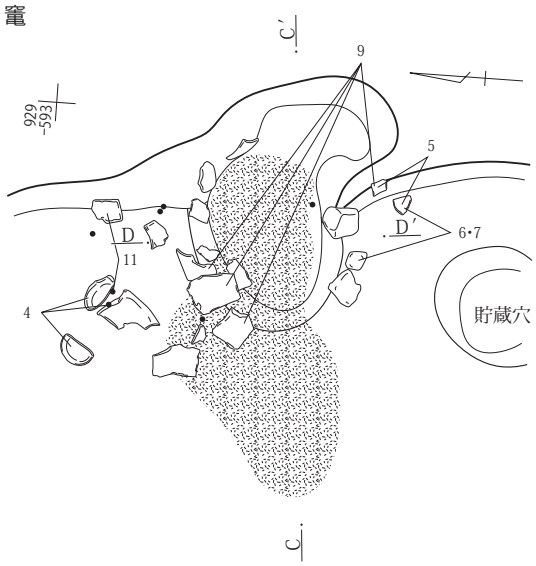
１．暗褐色土　焼土粒・ローム粒を微量含む。
２．暗褐色土　ローム塊を含む。

Ｐ１

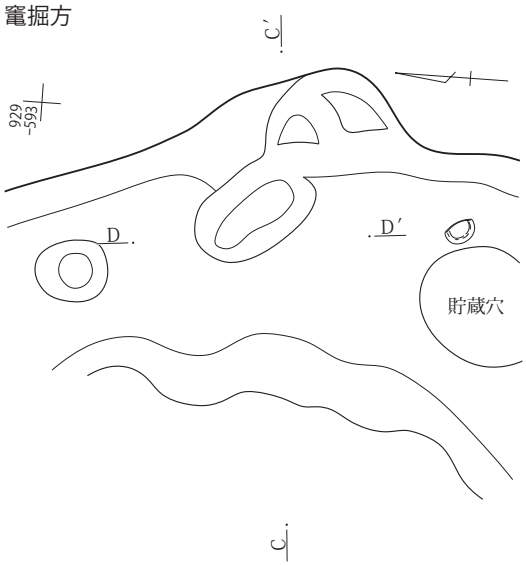
１．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム塊を微量含む。締りあり。

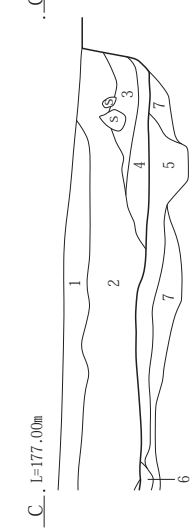
0　1：60　2m

竈



竈掘方



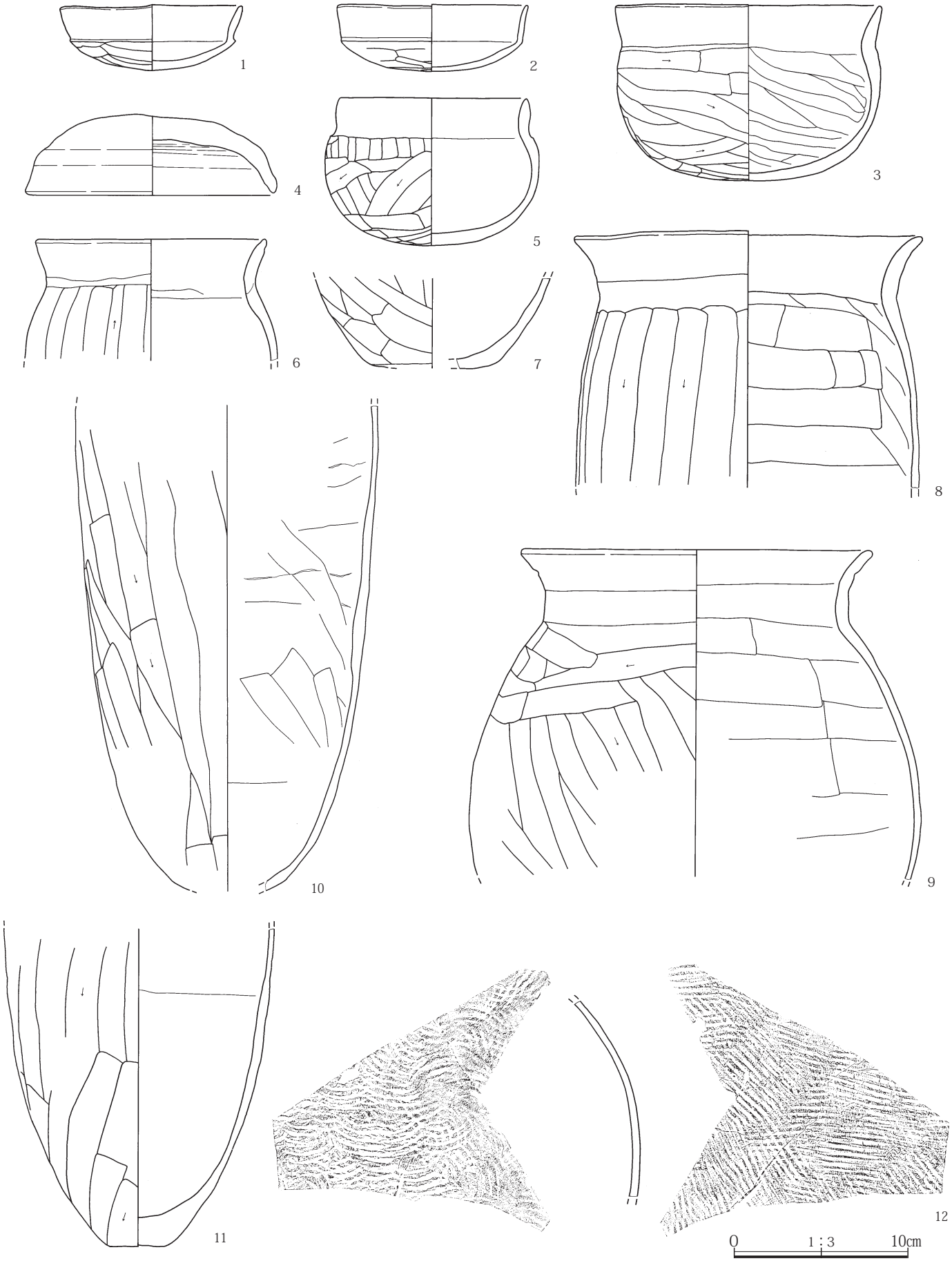


竈

１．黒褐色土　As-C・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
２．暗褐色土　As-C・ローム小塊・炭化物を含む。締り・粘性あり。
３．褐色土　明褐色土小塊・ローム小塊を含む。締り弱。粘性あり。
４．灰黄褐色土　ローム粒を多量含む。粘性あり。
５．暗褐色土　にぶい黄橙色土塊・軽石粒・焼土・炭化物・ローム塊を含む。締りあり。
６．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土・炭化物・ローム塊を微量含む。締りあり。
７．暗褐色土　ローム塊・軽石粒を含む。

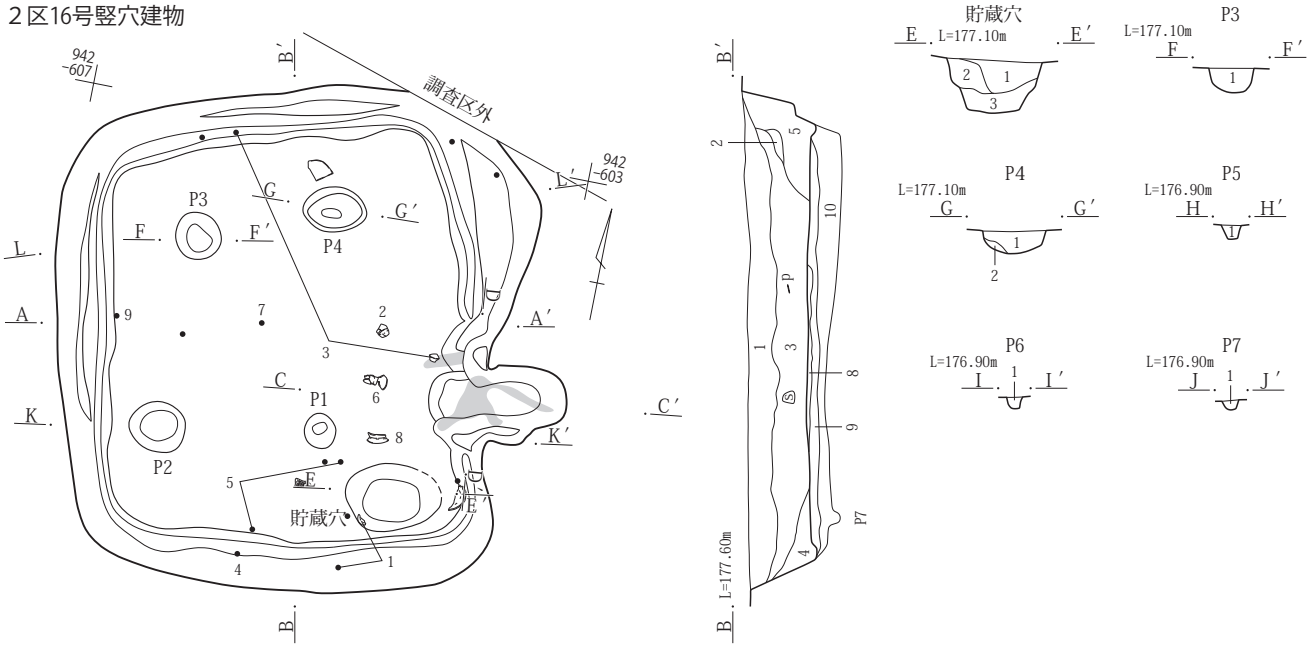
0　1：30　1m

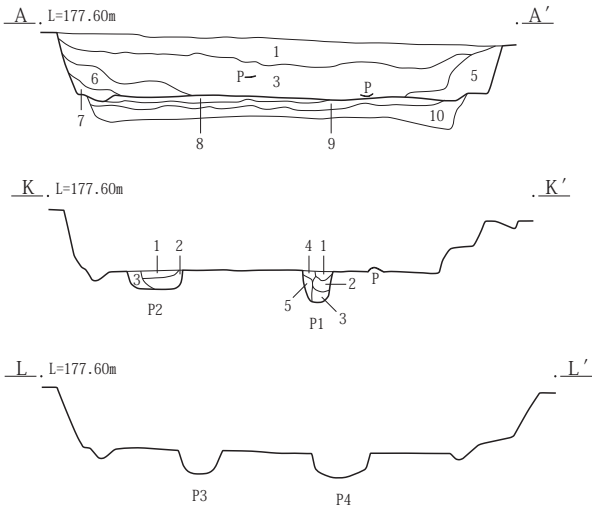
第75図　15号竪穴建物（１）



第76図　15号竪穴建物（２）

２区16号竪穴建物





16号竪穴建物

1．暗褐色土　軽石粒を多量、焼土・炭化物を微量含む。締りあり。
2．黒褐色土　軽石粒を少量、ローム粒を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒を多量、ローム塊を微量含む。締りあり。
4．暗褐色土　黒褐色土を多量、軽石粒・ローム塊を微量含む。
5．暗褐色土　黒褐色土を多量、軽石粒を少量、ローム塊を微量含む。
6．暗褐色土　黒褐色土を多量、ローム塊を微量含む。
7．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。
8．にぶい黄褐色土　ローム小塊を多量含む。締り強。粘性あり。
9．黒褐色土　黄橙色軽石・褐色土塊を含む。粘性あり。
10．褐色土　ローム大塊・にぶい黄褐色土・黒褐色土小塊を含む。締り強。粘性あり。

貯蔵穴

1．暗褐色土　ローム小塊を少量、灰白色軽石を微量含む。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む。締り弱。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム大塊・小礫を含む。締り強。粘性あり。

Ｐ１

1．にぶい黄褐色土　ローム小塊を含む。粘性あり。
2．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。粘性強。
3．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
4．にぶい黄褐色土　締り強。粘性あり。
5．灰黄褐色土　黒褐色土を含む。締り・粘性あり。

Ｐ２

1．にぶい黄褐色土　ローム小塊を含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。締り強。粘性あり。
3．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。

Ｐ３

1．黒褐色土　ローム塊・灰白色軽石を含む。粘性あり。

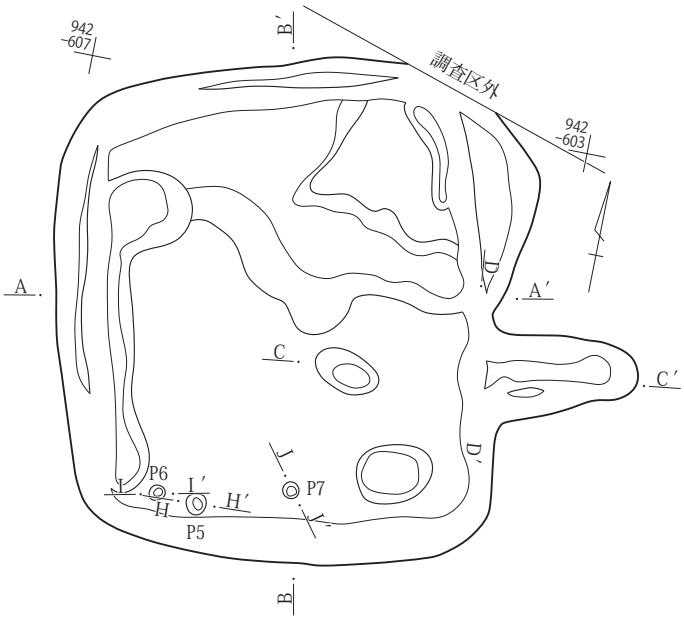
Ｐ４

1．黒褐色土　ローム塊・灰白色軽石を含む。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒主体。粘性あり。

Ｐ５～Ｐ７

1．灰黄褐色土　ローム粒・浅黄橙色軽石を含む。締り弱。粘性あり。

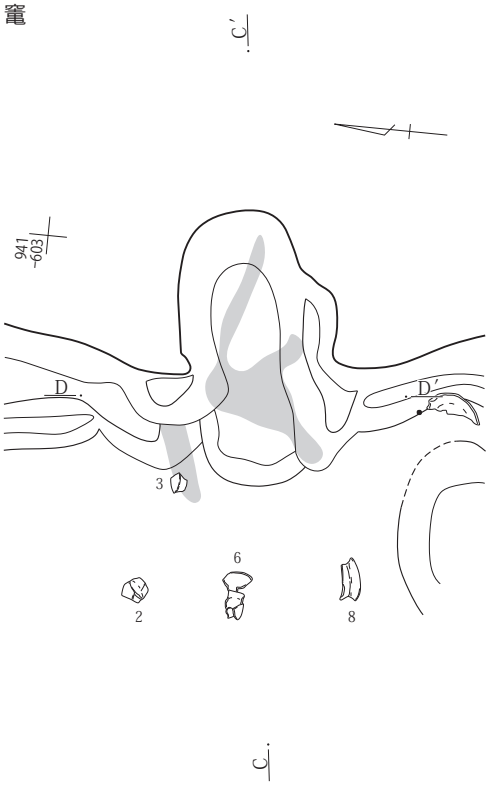
掘方



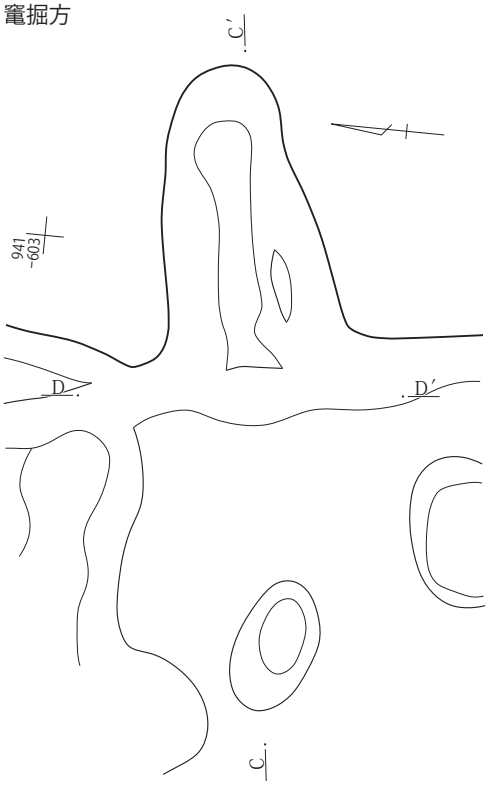
0　1：60　2m

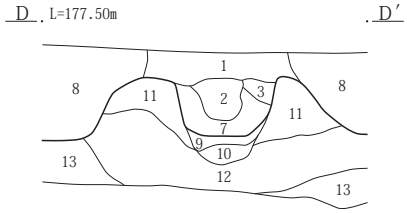
第77図　16号竪穴建物（１）

竈



竈掘方

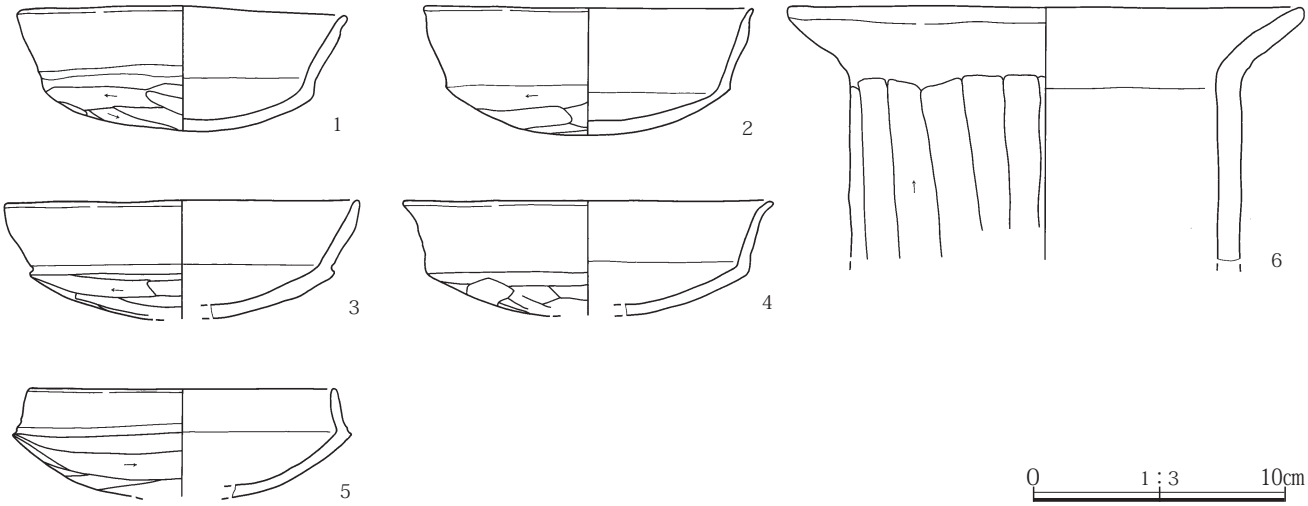




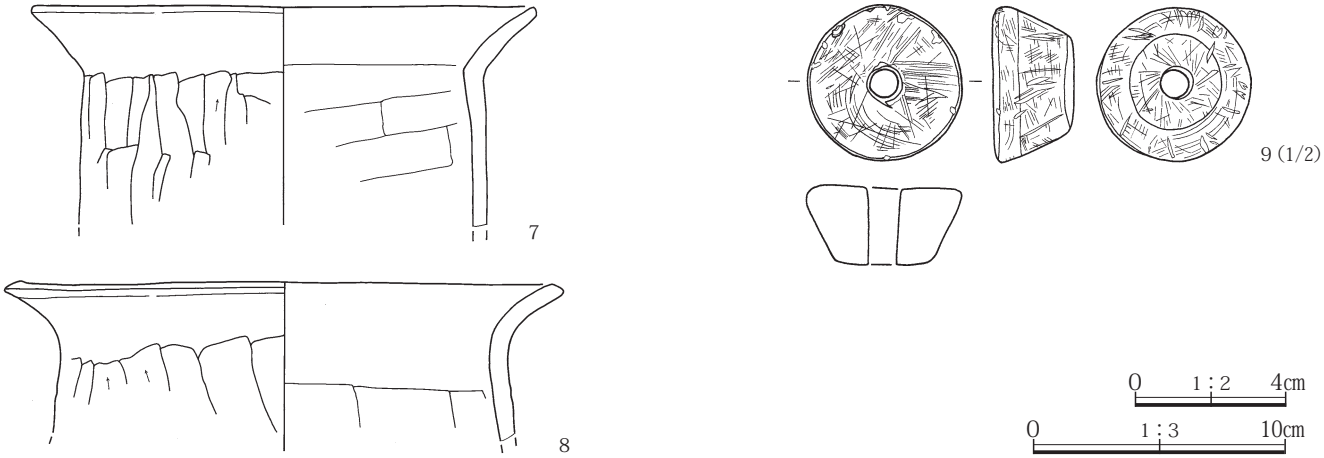
竈

1．暗褐色土　ローム小塊を含む。粘性あり。
2．黒褐色土　焼土粒を多量、黄橙色土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
3．黒褐色土　焼土粒を微量含む。締り強。粘性あり。
4．黒褐色土　ローム大塊・にぶい黄褐色土・黄橙色軽石を含む。締りあり。粘性弱。
5．明褐色土　粘質土。天井崩落土。
6．灰褐色土　ローム塊を多量含む。粘性強。
7．にぶい黄褐色土　焼土小塊・粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
8．灰黄褐色土　ローム小塊・灰白色軽石を含む。締り弱。粘性あり。
9．褐灰色土　灰・焼土・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　焼土小塊を多量・ローム小塊を少量含む。粘性あり。
11．黒褐色土　焼土小塊・粒・にぶい黄橙色土塊を含む。締り強。粘性あり。
12．にぶい黄褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
13．灰黄褐色土　ローム小塊主体。黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり
14．にぶい黄褐色土　ローム小塊を多量含む。締り強。粘性あり。
15．黒褐色土　黄橙色軽石・褐色土塊を含む。粘性あり。
16．褐色土　ローム大塊を多量、にぶい黄褐色土・黒褐色土小塊を少量含む。締り強。粘性あり。

0　1：30　1m



第78図　16号竪穴建物（２）



第79図　16号竪穴建物（３）

同小型壺（貯蔵穴直上）、５：同壺（竈付近の床面直上）、６・７：同小型甕（貯蔵穴直上）、８・９：同甕（８は竈付近の床面直上、９は床面から７㎝）、10：須恵器の甕である。

所見　土器と共に、丸みを帯びた石も多数出土した。埋没土の上層から床面付近まで、出土した位置は様々であった。建物の使用に伴うものである可能性もあるが、埋没土にローム塊が多量に見られることから、人為的に建物の解体と埋め戻しが行われ、その時に投げ込まれたものである可能性がある。床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区18号竪穴建物（第83～85図、第８表、PL.20・53）

調査区西側、15号竪穴建物の西にあり、重複している。

位置　Ｘ＝47,925～47,929　Ｙ＝-74,595～-74,600

重複遺構　15号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　ほぼ正方形

主軸方位　Ｎ－85°－Ｅ

規模　東西4.39m　南北4.84m

床面積　18.38㎡

埋没土層　埋没土上層はローム大塊・灰白色軽石・炭化物等を含む暗褐色土、床面付近は主にローム大塊・黒色土塊・炭化物を含むにぶい黄褐色土である。周縁部には、ローム塊・焼土・炭化物を含む暗褐色土や褐色土などが堆積している。

壁高　36～57㎝

床面　ほぼ平坦である。中央や北西の一部で炭化物が出土した。

掘方　床面から平均10㎝程の深さだが、起伏がある。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸129㎝、袖幅98㎝を測り、袖はにぶい黄褐色粘質土を使用して構築されている。袖石には、成形した様相が見られ、ほぼ左右対称に整えて設置されている。燃焼部の下部全体に焼土層、更にその下部から焚口にかけて灰層がしっかりと残っており、よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅の位置にある。規模は長径63㎝、短径52㎝の楕円形、深さ34㎝を測る。

柱穴　床面でピットを５基検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、㎝）である。

Ｐ１　33×31×47　　Ｐ２　37×33×58

Ｐ３　36×28×48　　Ｐ４　34×28×47

Ｐ５　22×21×36

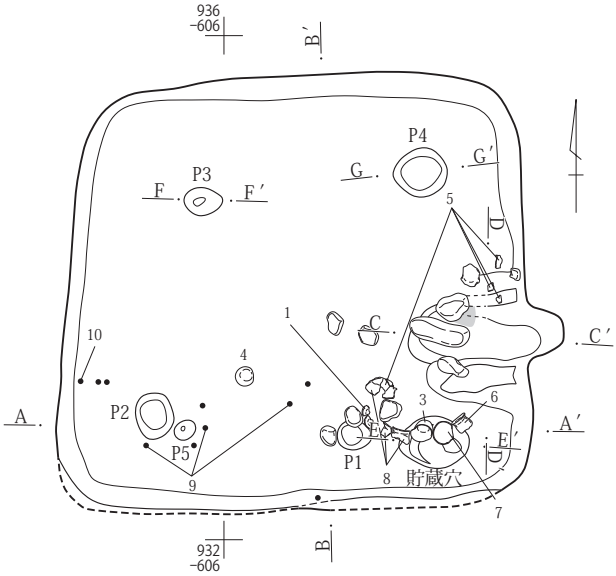
それぞれの規模と配置から、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と見られる。Ｐ５は出入り口に関わるものの可能性がある。

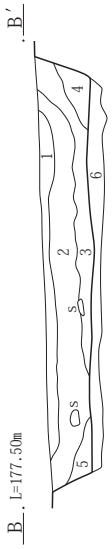
壁溝　竈の南側からＰ５付近にかけての範囲で検出した。幅10㎝～15㎝、深さ７㎝を測る。

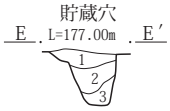
遺物　竈内外や床面直上、埋没土中から多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３：須恵器の杯蓋（竈付近の床面直上）、４～６：土師器の甕（５は竈付近の床面直上）、７：須恵器の壺（竈付近の床面直上）、８：釘（床面直上）である。

所見　床面直上や竈付近で出土した遺物から、時期は７世紀前半である。

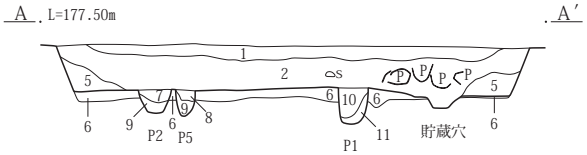
２区17号竪穴建物

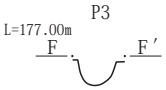


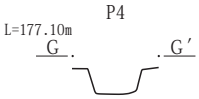




貯蔵穴
1．暗褐色土　ローム粒を少量、灰白色軽石を微量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
3．灰黄褐色土　ローム小塊･粒を多量含む。締り･粘性あり。

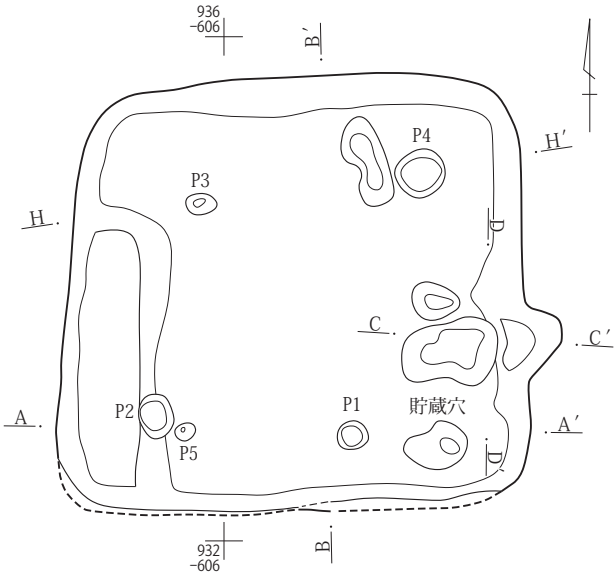


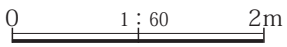




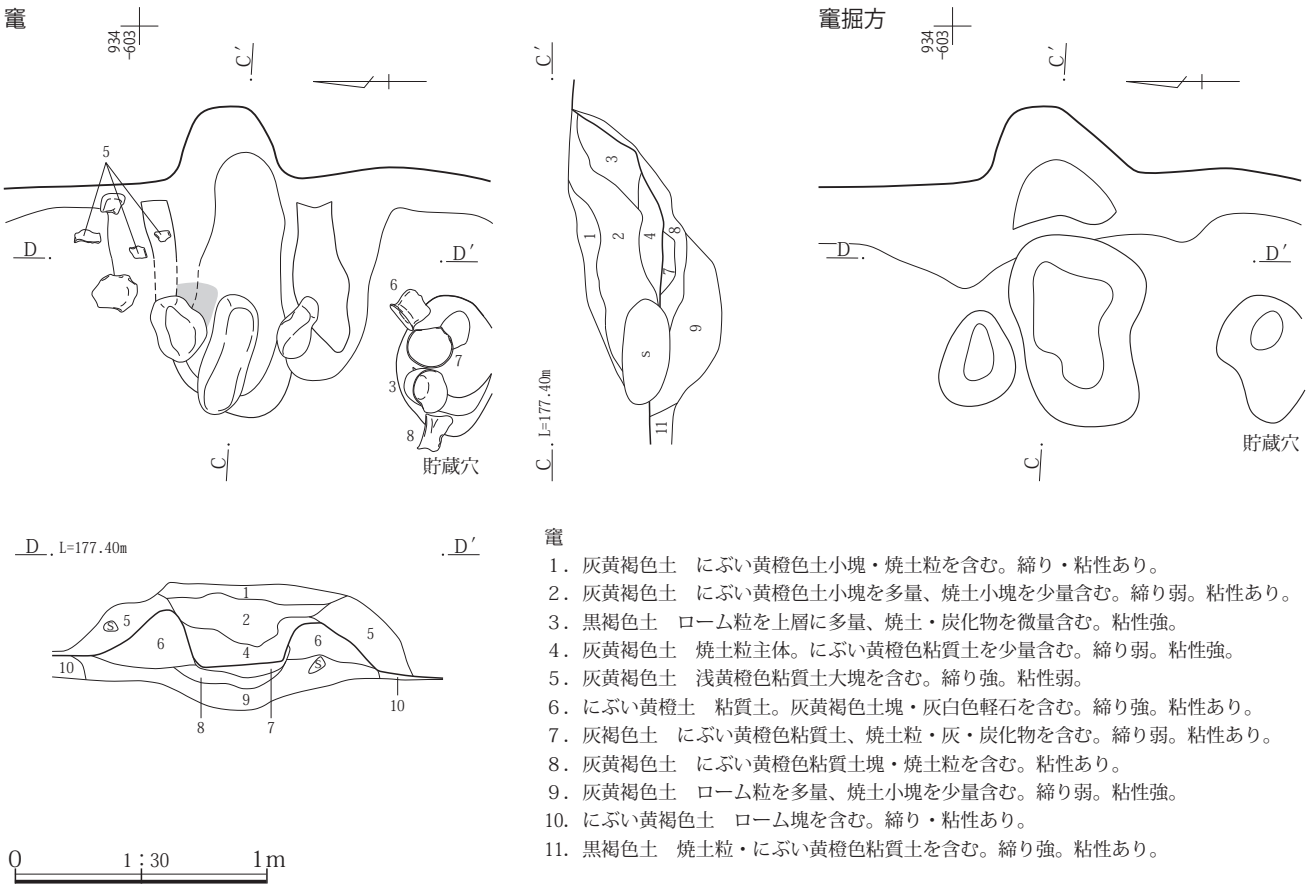
17号竪穴建物
1．黒褐色土　As-Cを多量、黄橙色土粒を微量含む。締り・粘性あり。
2．暗褐色土　As-Cを多量、にぶい黄褐色土塊・ローム粒を少量含む。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色土小塊を多量含む。粘性あり。
4．暗褐色土　黄褐色土小塊を少量、As-Cを微量含む。粘性あり。
5．暗褐色土　ローム小塊・粒を多量、黒褐色土小塊を少量、As-Cを微量含む。粘性強。
6．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量、黒褐色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
7．灰黄褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。
8．灰黄褐色土　ローム大塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。
9．黄褐色土　ローム小塊・粒主体。締り・粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　黒褐色土塊を含む。締り・粘性あり。
11．明黄褐色土　灰黄褐色土を含む。締り・粘性あり。

掘方





第80図　17号竪穴建物（１）



竈
1．灰黄褐色土　にぶい黄橙色土小塊・焼土粒を含む。締り・粘性あり。
2．灰黄褐色土　にぶい黄橙色土小塊を多量、焼土小塊を少量含む。締り弱。粘性あり。
3．黒褐色土　ローム粒を上層に多量、焼土・炭化物を微量含む。粘性強。
4．灰黄褐色土　焼土粒主体。にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り弱。粘性強。
5．灰黄褐色土　浅黄橙色粘質土大塊を含む。締り強。粘性弱。
6．にぶい黄橙土　粘質土。灰黄褐色土塊・灰白色軽石を含む。締り強。粘性あり。
7．灰褐色土　にぶい黄橙色粘質土、焼土粒・灰・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
8．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・焼土粒を含む。粘性あり。
9．灰黄褐色土　ローム粒を多量、焼土小塊を少量含む。締り弱。粘性強。
10．にぶい黄褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
11．黒褐色土　焼土粒・にぶい黄橙色粘質土を含む。締り強。粘性あり。

第81図　17号竪穴建物（２）

２区20号竪穴建物（第86・87図、第８表、PL.21・54）

調査区西側、15号竪穴建物の８m程東にある。

位置　X＝47,925～47,928　Y＝-74,585～-74,589

重複遺構　59号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　ほぼ正方形

主軸方位　N－99°－E

規模　東西3.32m　南北3.22m

床面積　8.43㎡

埋没土層　ローム塊・軽石粒を含む暗褐色土。

壁高　31～39㎝

床面　ほぼ平坦であるが、西に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から10㎝前後の深さで、起伏や細かい凹凸がある。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸105㎝、袖幅108㎝を測り、袖はにぶい黄橙色粘質土と黒褐色土の混土を使用して構築されている。燃焼部の底部で焼土を含む層が見られたが、焼土が多量に検出されたのは、左袖付近のみであった。

貯蔵穴　竈右袖前にある。規模は長径50㎝、短径41㎝の楕円形、深さ31㎝を測る。

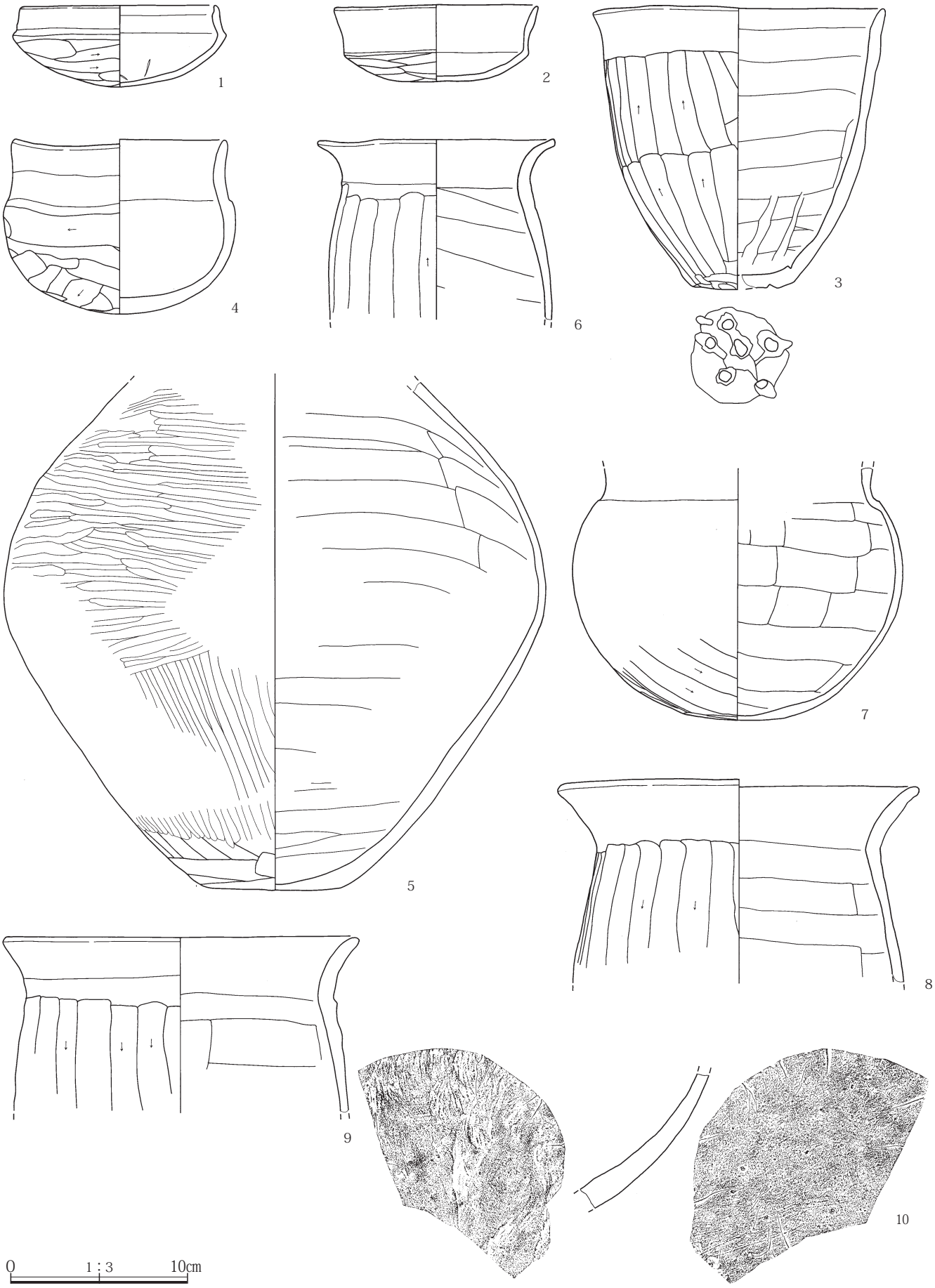
柱穴　床面でピットを11基検出した。いずれも建物の周縁部にある。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、㎝）である。

Ｐ１	27×22×10	Ｐ２	13×８×４
Ｐ３	26×24×12	Ｐ４	20×12×７
Ｐ５	15×13×５	Ｐ６	19×９×６
Ｐ７	13×11×５	Ｐ８	12×10×８
Ｐ９	14×10×９	Ｐ10	15×13×８
Ｐ11	30×18×10		

いずれも小規模なピットで、主柱穴にあたるものがあるのかは明らかではないが、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ11が他のピットより規模が大きい。

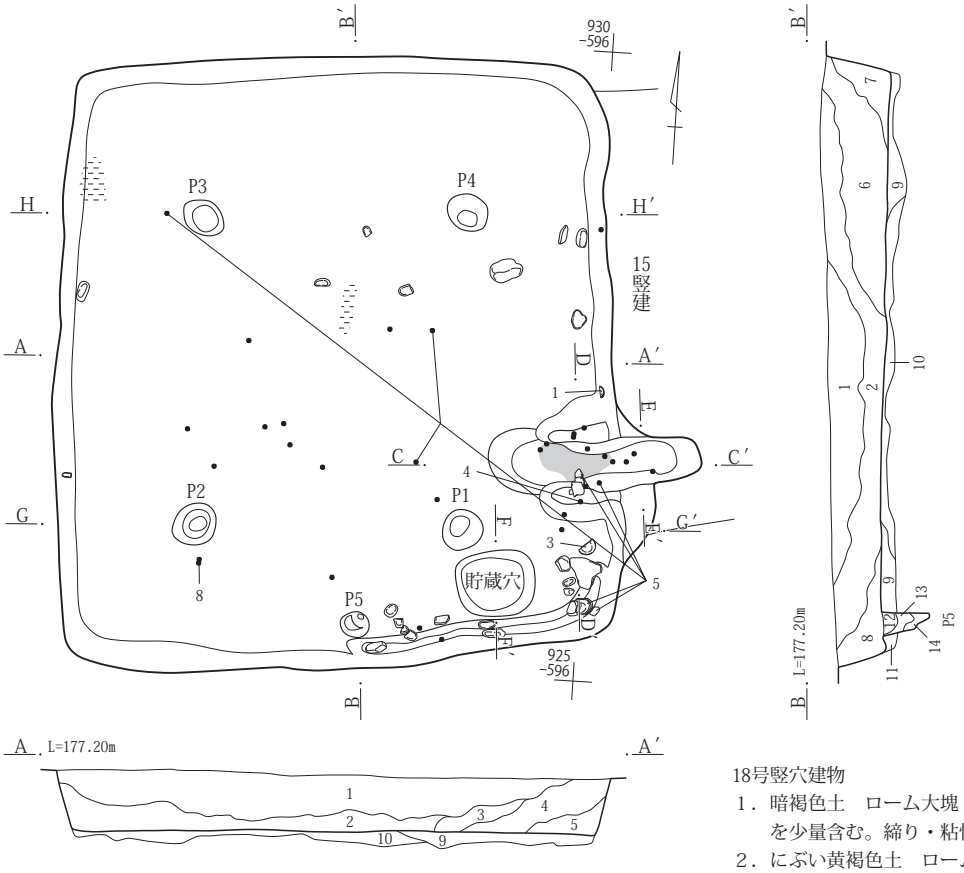
壁溝　南壁中央付近と北東隅で検出した。幅10㎝～15㎝、深さ５㎝～10㎝を測る。

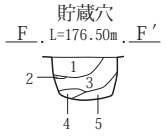
遺物　竈付近や床面直上、埋没土中から土器や勾玉が出土した。掲載した遺物は、１～３：土師器の杯（１は床面直上、２は床面から８㎝）、４・５：同小型壺（床面直上）、



第82図　17号竪穴建物（３）

２区18号竪穴建物

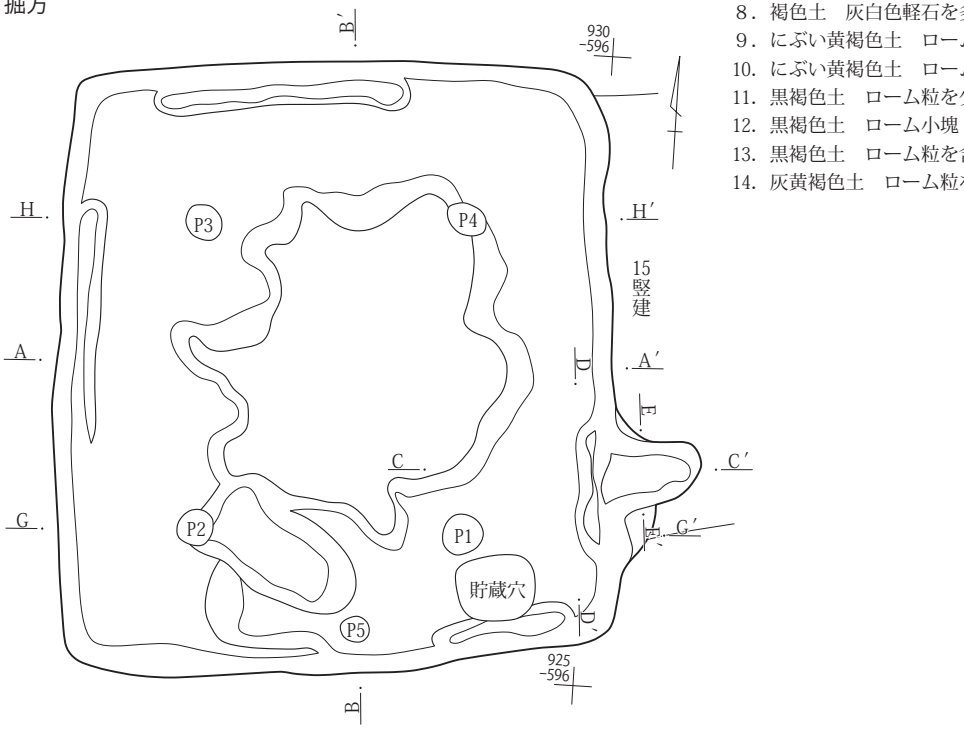


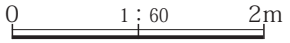


貯蔵穴
1．黒褐色土　灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　灰主体。締りあり。
3．灰黄褐色土　ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
4．にぶい黄褐色土　黒褐色土･灰を含む。締りあり。
5．にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む。締り強。

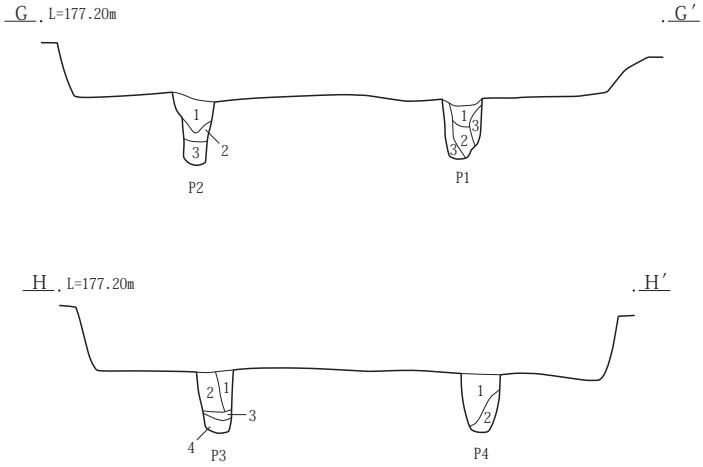
18号竪穴建物
1．暗褐色土　ローム大塊・灰白色軽石を多量、炭化物・黒色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム大塊・黒色土小塊・炭化物を含む。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　浅黄橙色粘質土小塊･炭化物を含む。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム塊を含む。粘性あり。
5．暗褐色土　炭化物・焼土粒を含む。粘性あり。
6．にぶい黄褐色土　ローム大塊を多量、灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
7．褐色土　ローム塊・粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
8．褐色土　灰白色軽石を多量含む。締り弱。粘性あり。
9．にぶい黄褐色土　ローム塊を少量含む。締り強。粘性弱。
10．にぶい黄褐色土　ローム大塊主体。締り強。粘性弱。
11．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
12．黒褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り強。粘性あり。
13．黒褐色土　ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
14．灰黄褐色土　ローム粒を含む。締り弱、粘性あり。

掘方



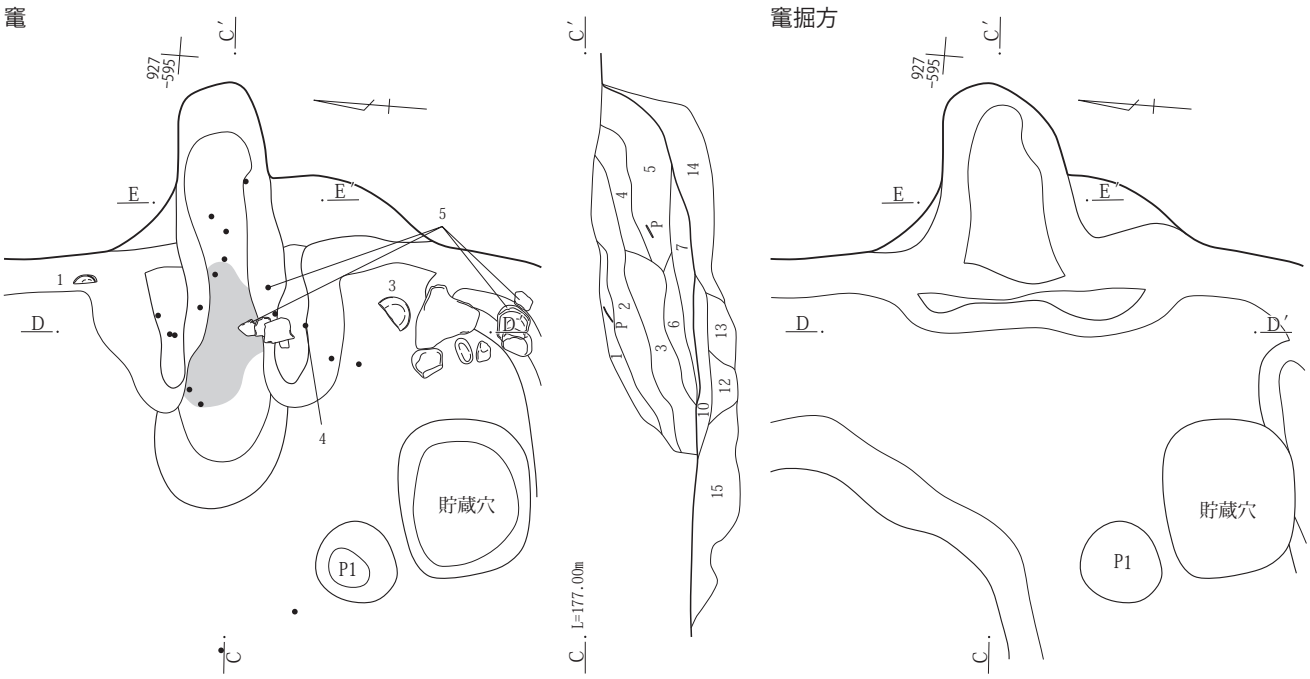


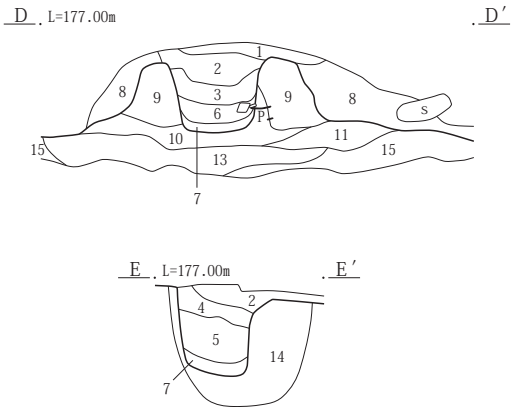
第83図　18号竪穴建物（１）



Ｐ１
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム塊･粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
３．黒褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
Ｐ２
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量、黒色土塊を少量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。
３．灰黄褐色土　ローム粒・浅黄橙色土粒を多量含む。粘性強。
Ｐ３
１．にぶい黄褐色土　ローム大塊・粒を多量含む。粘性あり。
２．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　黄橙色軽石を多量含む。締り弱。粘性あり。
４．灰黄褐色土　締り弱。粘性強。
Ｐ４
１．黒褐色土　ローム小塊・粒・灰白色軽石を含む。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む。締り弱。粘性あり。

0　1：60　2m

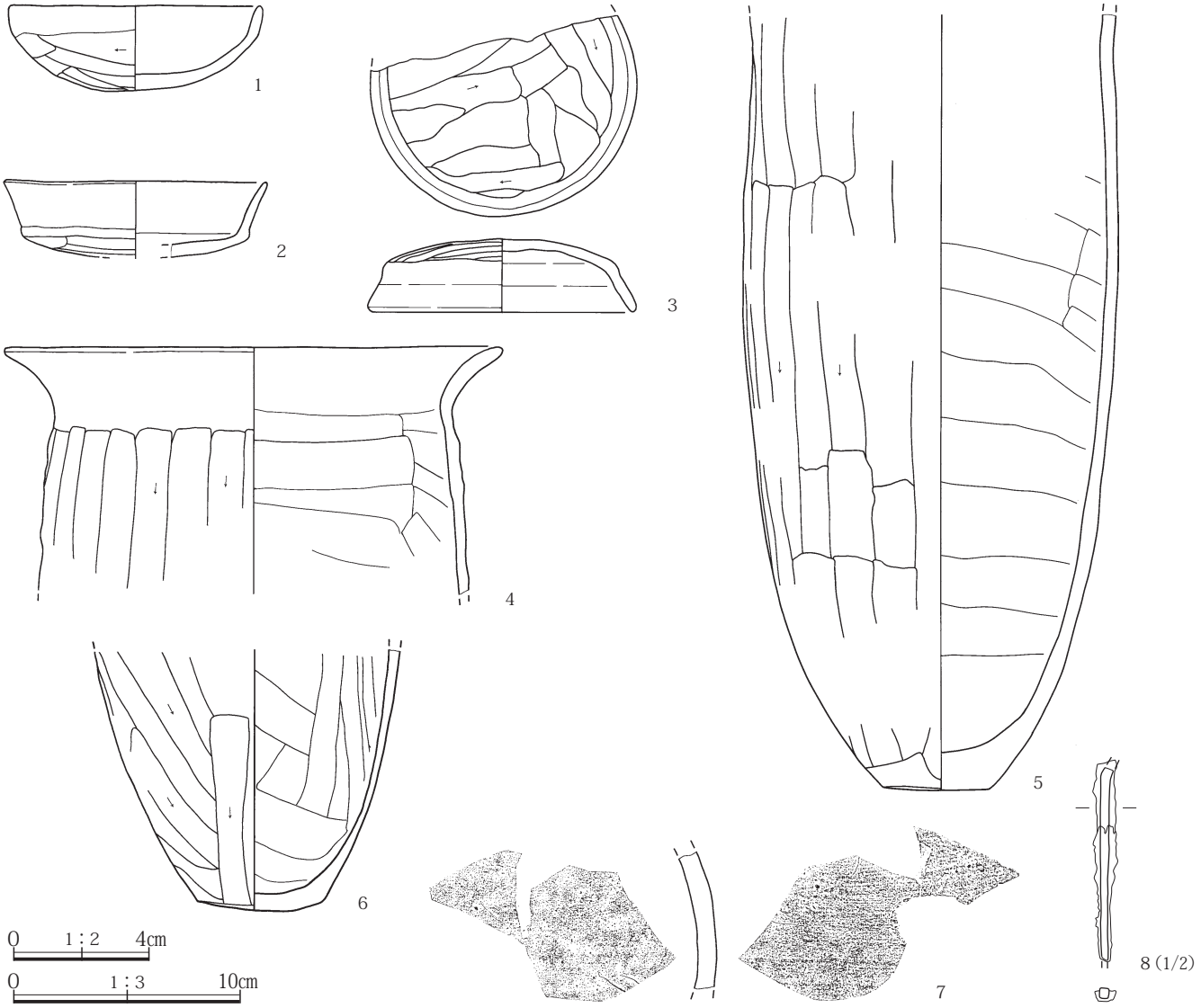




竈
１．にぶい黄褐色土　ローム小塊・灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　炭化物・灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
３．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土を少量含む。粘性あり。
５．にぶい黄褐色土　焼土粒を微量含む。締り・粘性あり。
６．黒褐色土　焼土小塊・粒・灰を含む。締り弱。粘性あり。
７．赤褐色土　焼土塊主体。粘性弱。
８．灰黄褐色土　炭化物を多量、焼土粒を少量含む。粘性あり。
９．にぶい黄褐色土　粘質土。締り強。粘性あり。
10．褐色土　暗青灰色灰主体。締り・粘性弱。
11．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。
12．黒褐色土　ローム小塊・粒を多量、焼土粒を少量、浅黄橙色軽石を微量含む。粘性あり。
13．にぶい黄褐色　ローム小塊・粒を少量含む。粘性あり。
14．暗褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
15．灰黄褐色土　ローム大塊を少量含む。締り・粘性あり。

0　1：30　1m

第84図　18号竪穴建物（２）



第85図　18号竪穴建物（３）

６：同小型甕（竈内）、７：同甕（床面直上）、８：須恵器の甕、９：勾玉である。

所見　周縁部で検出したピットはいずれも小規模で、特にＰ１・Ｐ３・Ｐ11以外のピットは柱穴とは別のものである可能性が高い。南壁から北壁にかけて連なるようにあることから、壁面を支えるものなどの可能性がある。本遺跡で多く見られる小規模な建物だが、唯一勾玉が出土していることも含め、特徴的な建物である。床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区21号竪穴建物（第88～90図、第８表、PL.21・22・54）

調査区西側、20号竪穴建物の５m程南にあり、建物の南側が調査区外にある。また、建物の北西隅は撹乱によって壊されている。

位置　X＝47,921～47,924　Y＝-74,587～-74,592

重複遺構　22号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　長方形の可能性が高いが、南側が調査区外のため、不明である。

主軸方位　N－82°－E

規模　東西4.25m　南北（3.38m）

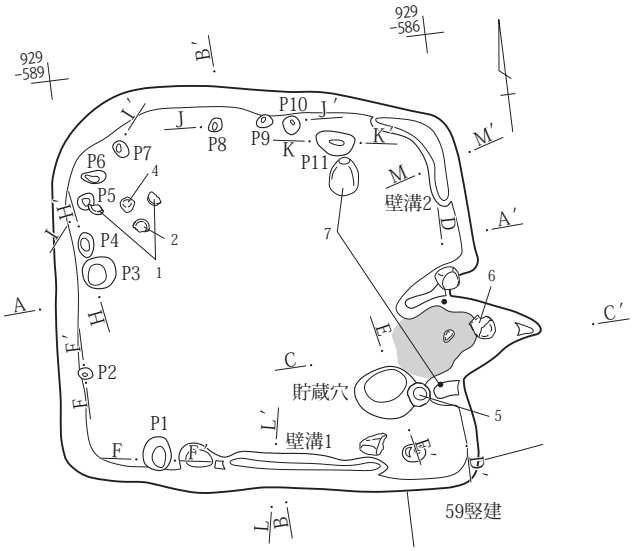
床面積　（9.16㎡）

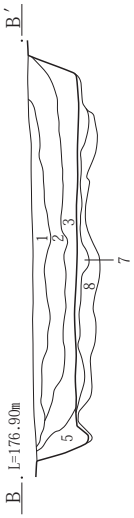
埋没土層　主に小礫を含む暗褐色土で埋没している。上層には部分的に褐色土を含み、床面付近にはローム塊・炭化物が見られる。北側周縁部では灰白色軽石などを含む黒褐色土が堆積している。

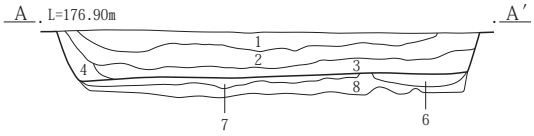
壁高　37～47㎝

床面　ほぼ平坦であるが、北に向い緩やかに傾斜している。

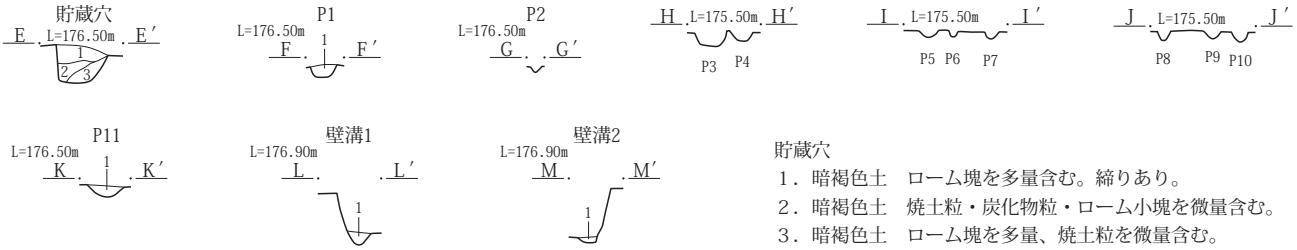
２区20号竪穴建物





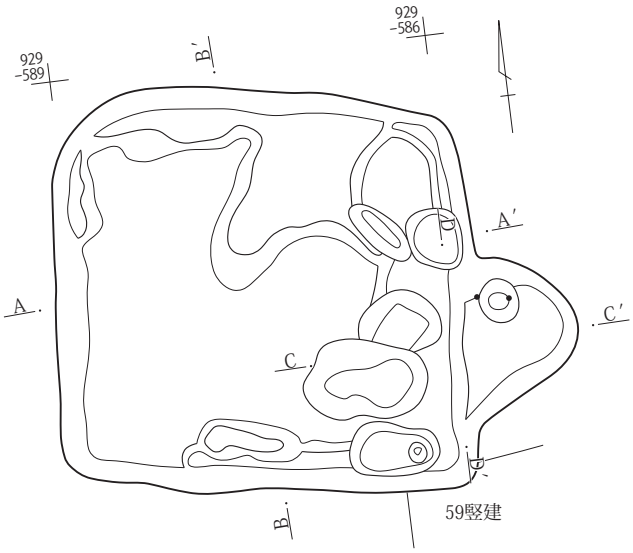


20号竪穴建物
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。
3．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム塊を微量含む。締りあり。
4．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
5．暗褐色土　黒褐色土・ローム塊を含む。
6．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・炭化物粒・ローム塊を微量含む。
7．暗褐色土　ローム塊を微量含む。
8．暗褐色土　ローム塊を多量含む。



貯蔵穴
1．暗褐色土　ローム塊を多量含む。締りあり。
2．暗褐色土　焼土粒・炭化物粒・ローム小塊を微量含む。
3．暗褐色土　ローム塊を多量、焼土粒を微量含む。
Ｐ１・Ｐ11・壁溝１・壁溝２
1．暗褐色土　ローム塊を微量含む。

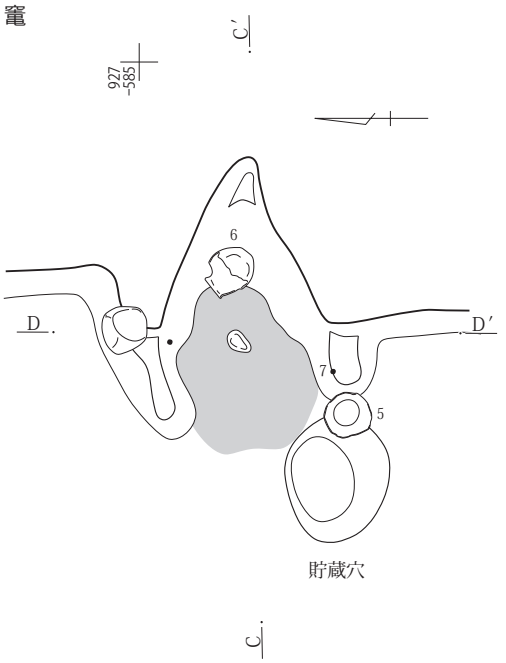
掘方

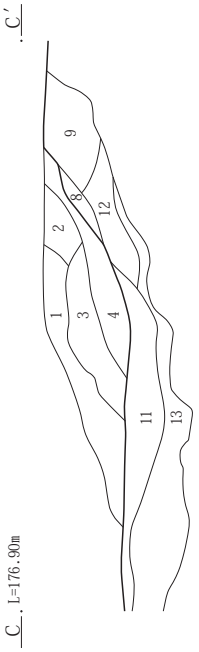


0　1：60　2m

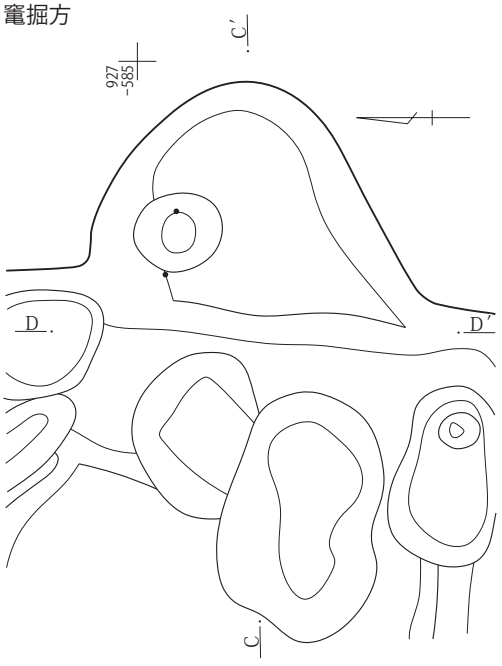
第86図　20号竪穴建物（１）

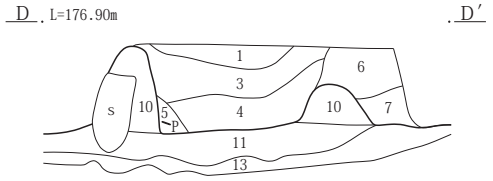
竈





竈掘方

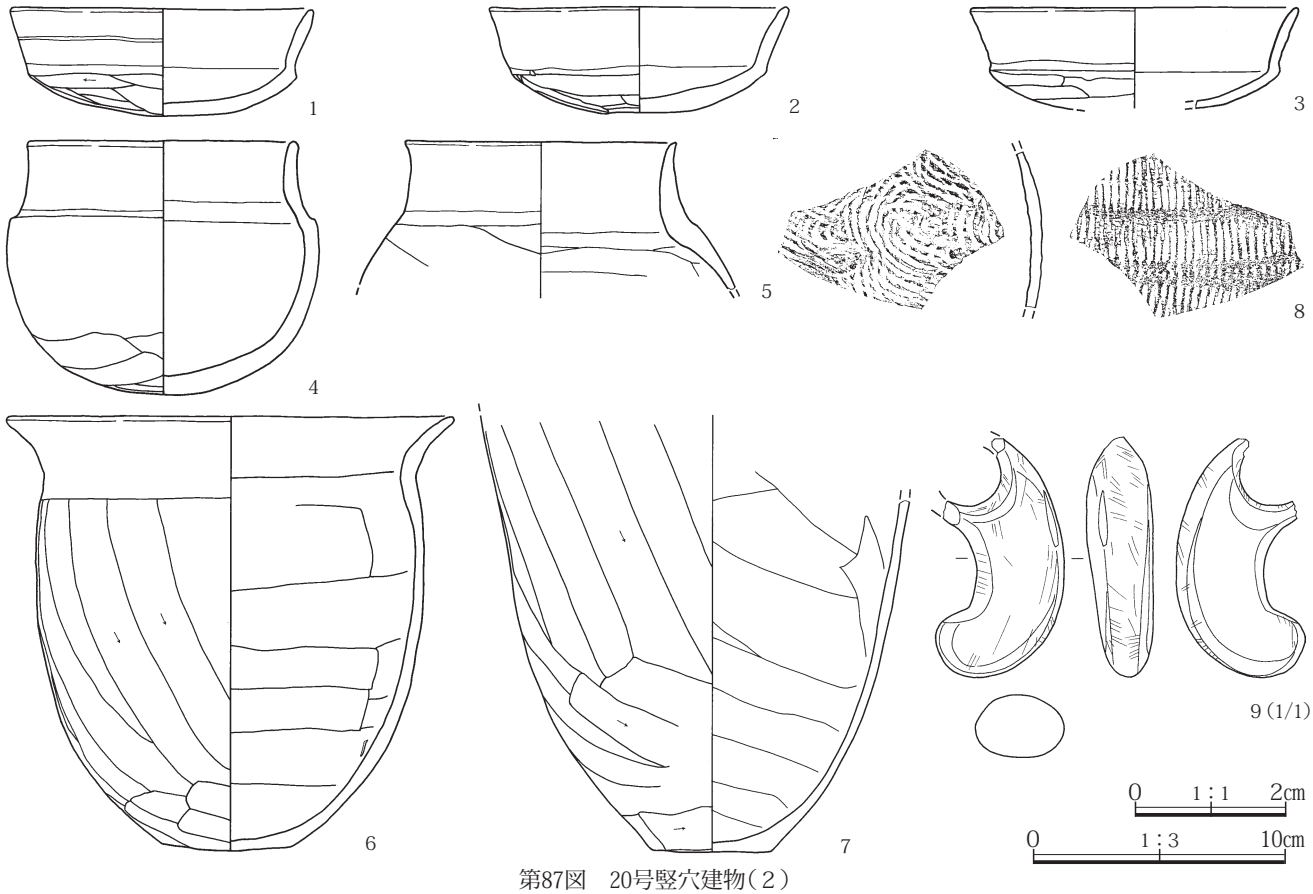




竈

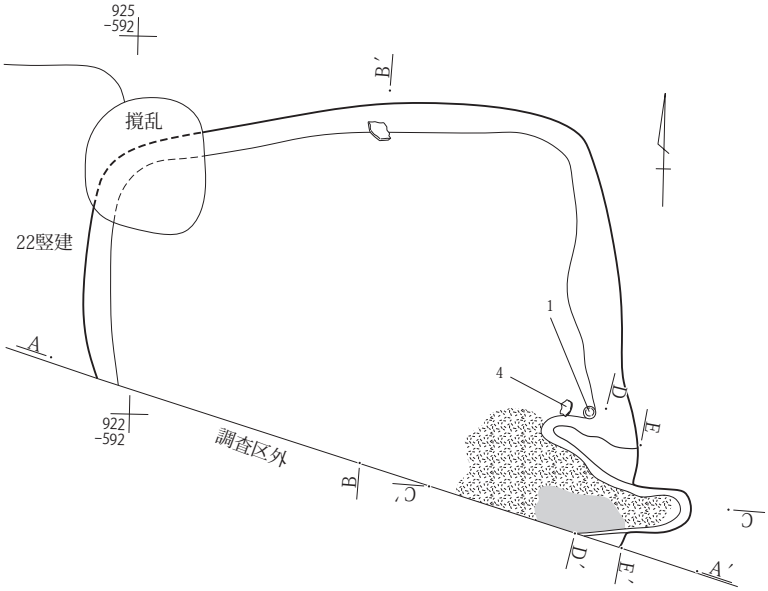
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　粘土質のにぶい黄橙色土・焼土粒・軽石粒を含む。締りあり。
3．暗褐色土　粘土質のにぶい黄橙色土塊を含む。締りあり。
4．暗褐色土　焼土粒を少量、軽石粒・炭化物を微量含む。締りあり。
5．暗褐色土　焼土粒・塊を多量、軽石粒・炭化物を微量含む。締りあり。
6．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。。
7．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、焼土粒、ローム塊を微量含む。
8．暗褐色土　粘土質のにぶい黄橙色土・焼土塊・軽石粒を含む。締りあり。
9．暗褐色土　焼土粒・軽石粒を微量含む。締りあり。
10．暗褐色土　粘土質のにぶい黄橙色土を含む。締りあり。
11．暗褐色土　ローム塊・軽石粒・焼土粒を含む。締りあり。
12．暗褐色土　ローム塊を部分的に含む。締りあり。
13．暗褐色土　ローム塊を多量含む。

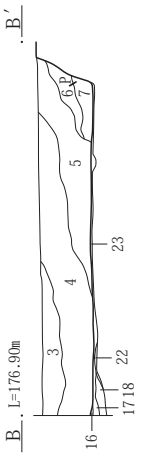
0　1：30　1m

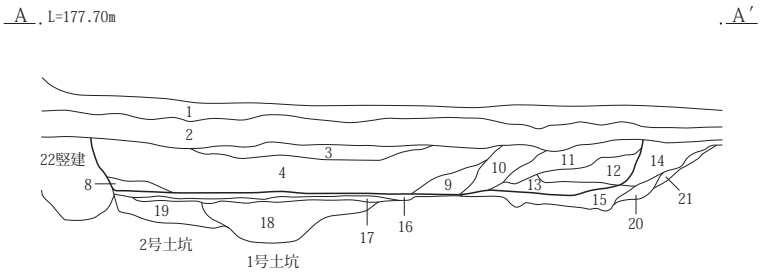


第87図　20号竪穴建物（２）

２区21号竪穴建物



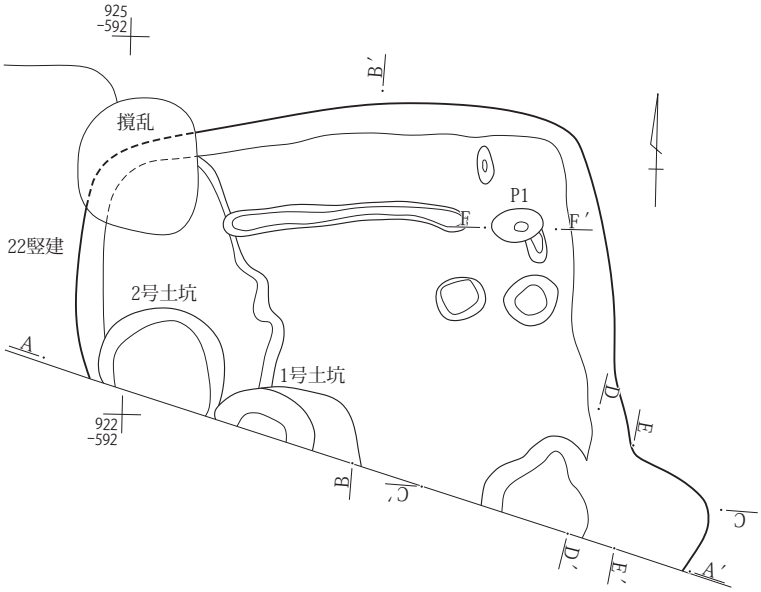


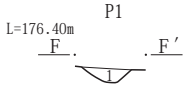


21号竪穴建物

1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-Cを少量含む。粘性あり。
3．暗褐色土　褐色土・小礫を含む。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム小塊・炭化物・小礫を含む。粘性あり。
5．黒褐色土　黒色土塊。灰白色軽石を含む。粘性あり。
6．黒褐色土　灰白色軽石を微量含む。粘性強。
7．黄褐色土　ローム塊主体。粘性強。
8．暗褐色土　ローム小塊を多量含む。締り・粘性あり。
9．暗褐色土　焼土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
10. 灰黄褐色土　ローム小塊・小礫・炭化物を含む。粘性あり。
11. にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、焼土粒を少量、As-Cを微量含む。粘性あり。
12. にぶい黄褐色土　ローム塊・灰・焼土小塊を含む。締り弱、粘性あり。
13. 暗灰黄色土　灰・焼土・炭化物・にぶい黄橙色粘質土を含む。締り弱、粘性あり。
14. にぶい黄褐色土　ローム大塊・焼土粒・浅黄橙色軽石を含む。締り・粘性あり。
15. 暗灰黄色土　炭化物を多量、焼土粒を微量含む。締り弱。粘性あり。
16. 黒褐色土　ローム粒を含む。締り強。粘性あり。
17. 明黄褐色土　ローム塊主体。粘性あり。
18. 灰黄褐色土　ローム粒・小礫を含む。締り弱。粘性あり。
19. にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。
20. にぶい黄褐色土　ローム粒を少量、炭化物を微量含む。締り・粘性あり。
21. にぶい黄褐色土　ローム小塊を含む。粘性あり。
22. 灰黄褐色土　ローム大塊・粒を多量含む。粘性あり。
23. にぶい黄褐色土　ローム大塊を多量、浅黄橙色軽石を微量含む。締り弱。粘性強。

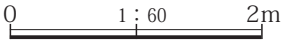
掘方





P１

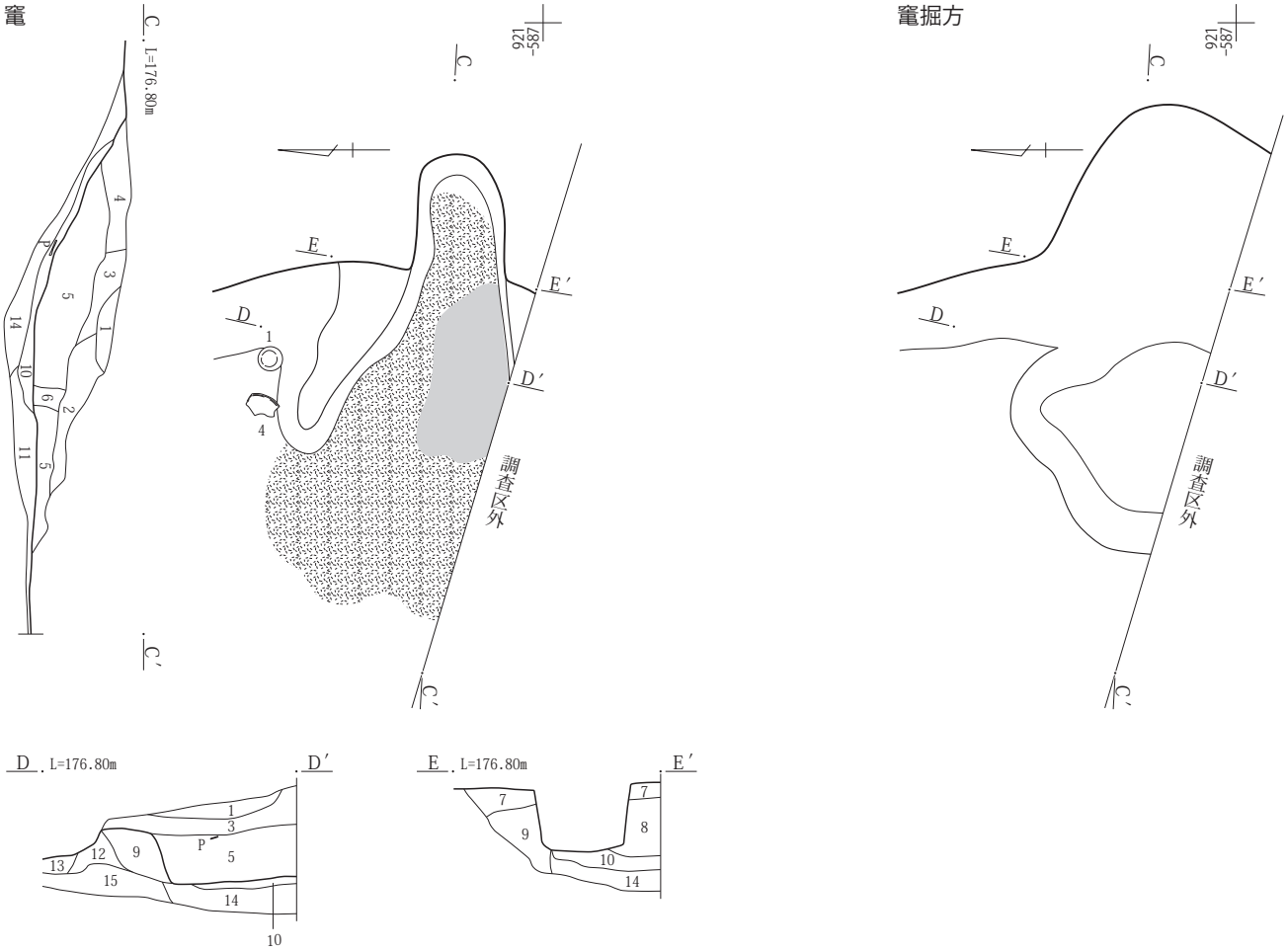
1．暗褐色土　黒褐色土小塊・ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。



第88図　21号竪穴建物（１）

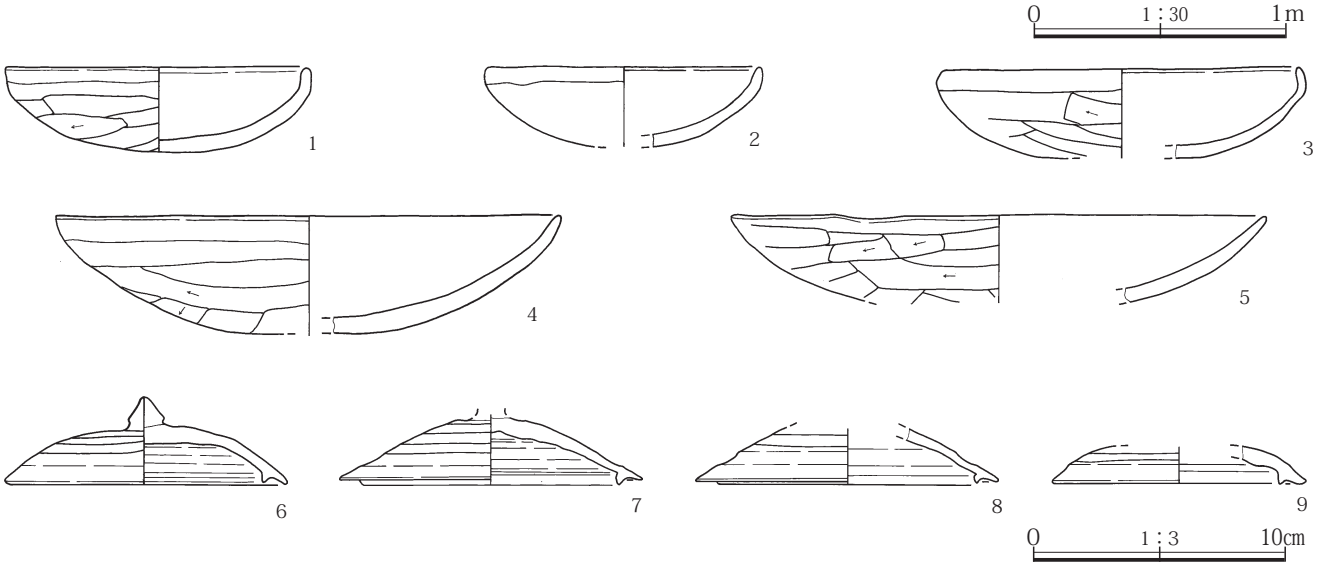
竈

竈掘方

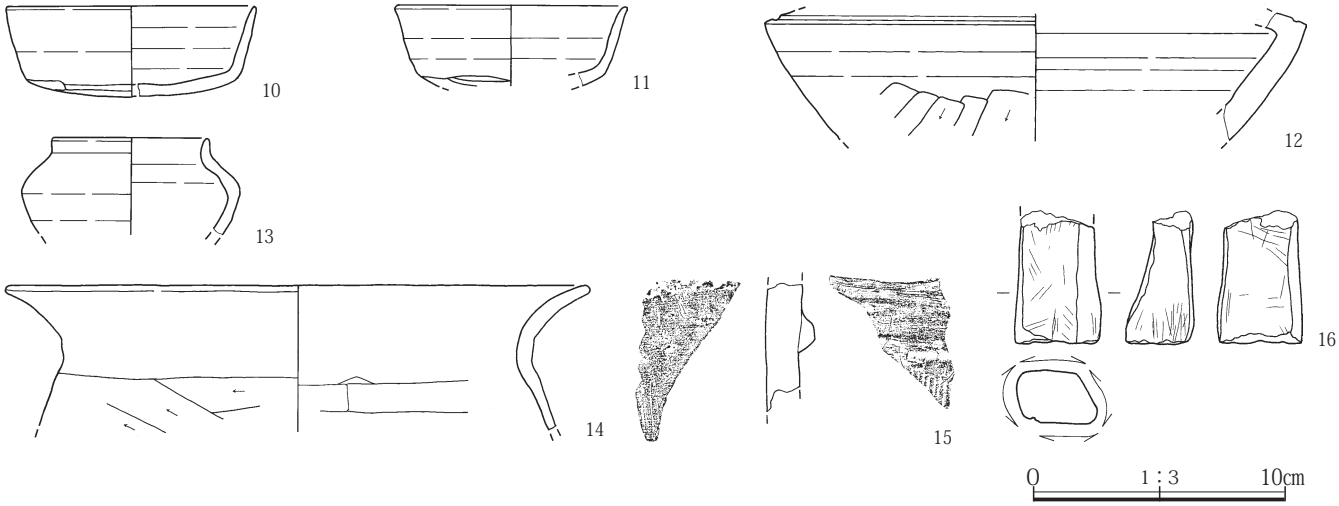


竈

1．黒褐色土　　灰白色軽石・ローム粒を少量含む。締りあり。
2．にぶい黄褐色土　粘質土。ローム大塊を多量、灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム粒を少量含む。締り強。粘性あり。
4．灰黄褐色土　ローム塊・黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
5．にぶい黄橙色土　小礫を含む。締り強。
6．褐灰色土　灰を含む。締り弱。粘性あり。
7．暗褐色土　にぶい黄褐色土・灰白色軽石を含む。締り・粘性あり。
8．にぶい黄褐色土　黒褐色土小塊・にぶい黄橙色土を含む。締り強。粘性あり。
9．にぶい黄橙色土　粘質土。黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
10．褐灰色土　灰主体。焼土粒を含む。粘性あり。
11．灰黄褐色土　炭化物・灰を多量、焼土粒を微量含む。締り弱。
12．にぶい黄褐色土　黄褐色土を含む。粘性あり。
13．暗褐色土　灰白色軽石・黄褐色土小塊を含む。締り・粘性あり。
14．にぶい黄褐色土　焼土粒を少量含む。粘性あり。
15．褐色土　ローム小塊・粒を含む。粘性あり。



第89図　21号竪穴建物（２）



第90図　21号竪穴建物（３）

掘方　建物の北東部は床面から10cm未満の所もあるが、西側では深さ30cmの土坑もあり、起伏や細かい凹凸が見られる。２基の土坑の埋没土は、ローム粒を含む灰黄褐色土、ローム塊を含むにぶい黄褐色土であり、本遺構構築前のものであると考えられる。

竈　東壁に設置している。右袖が調査区外に出る位置にある。規模は長軸123cm、袖幅(93cm)を測り、袖はにぶい黄橙色粘質土を使用して構築されている。燃焼部の上部に相当する位置で掛口の可能性がある土層を検出した。燃焼部の下部に焼土を多量に含む層、更にその下部から焚口周辺の床面にかけて灰が残っており、よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　床面精査時は確認できなかったが、掘方の調査で、建物の北東部にピット１基を確認した。計測値は長径41cm、短径26cm、床面からの深さ12cmであった。浅いため、主柱穴の可能性は低い。

壁溝　確認できなかった。

遺物　竈付近や、埋没土中等から土器や埴輪片、石器など、多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、１～３：土師器の杯（１は竈付近の床面直上、２は竈内）、４・５：同盤（４は竈付近の床面直上、５は竈掘方）、６～９：須恵器の杯蓋、10・11：同杯、12：同平瓶、13：同小型短頸壺、14：土師器の甕、15：埴輪（竈掘方）、16：砥石（竈掘方）である。

所見　埴輪（円筒か）の破片が、竈の掘方から出土した。埴輪片が確認されている清里３号墳が本遺構の南西にあり、直線距離は150m程である。竈内やその付近で出土した遺物から、時期は７世紀第４四半期である。

２区22号竪穴建物（第91図、第８表、PL.22・54）

調査区西側、21号竪穴建物の西にあり、重複している。21号竪穴建物同様、建物の南側が調査区外にある。建物の北東隅は撹乱によって壊されている。

位置　X＝47,922・47,923　Y＝-74,592～-74,595

重複遺構　21号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形と見られるが、南側が調査区外にあり、重複により壁面の多くが失われているため、不明である。

主軸方位　北壁の方位を計測するとN－85°－Wである。

規模　東西3.34m　南北(2.42m)

床面積　(5.26㎡)

埋没土層　主にAs-C・ローム塊を含む黒褐色土で埋没しており、床面付近には、小礫・黒色土塊が一部に含まれる。周縁部にはローム塊を含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土が堆積している。

壁高　38～46cm

床面　ほぼ平坦である。西側の一部で粘土を検出した。

掘方　床面から数cmで、細かい凹凸が見られる。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。21号竪穴建物と重複し、調査区外となる建物の南東隅でピットを１基検出した。計測値は長径(33)cm、短径(28)cm、深さ22cmであった。ピットとして調査を行ったが、南東隅にあり、底部が平らな

断面形状から、貯蔵穴である可能性が高い。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や埋没土中から土器などが出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯（１は床面直上）、３：同甕である。１の上には赤色顔料の塊が乗った状態であった。

所見　１の杯は、建物の西側床面直上の、粘土が出土している範囲内で出土した。赤色顔料の塊は出土時に杯の上部全体にあり、径65～75㎜、厚さは最も厚いところで約20㎜であった。接合復元作業により杯が完形に近い形となり、赤色顔料はその一部に乗っている形となったが、出土時の状況から、埋没前には杯内部全体に赤色顔料が入っていた可能性が高い。この赤色顔料については、九州国立博物館に分析・研究を委託し、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラであることが明らかになった。詳細については、第４章第１節・第２節に記した。この杯の時期は７世紀第３四半期である。

２区26号竪穴建物（第92～94図、第８表、PL.22・23・54）

調査区中央付近、12号竪穴建物の８ｍ程西にある。建物の南西部が調査区外にある。

位置　Ｘ＝47,915～47,920　Ｙ＝-74,572～-74,578

重複遺構　44号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　多少ゆがみがあるが、正方形に近い。

主軸方位　Ｎ－69°－Ｅ

規模　東西4.95ｍ　南北5.03ｍ

床面積　（16.84㎡）

埋没土層　ローム塊・軽石粒を含む暗褐色土。

壁高　54～70㎝

床面　ほぼ平坦である。南西部で粘土・炭化物が出土し、付近から土器も多めに出土した。

掘方　床面から数㎝で凹凸は少ない。

竈　東壁のほぼ中央に設置している。規模は長軸109㎝、袖幅102㎝を測り、袖はにぶい黄橙色粘質土と黒褐色土の混土を使用して構築されている。燃焼部から煙道上部への広い範囲に焼土を多量に含む層があり、その下の燃焼部から焚口付近の床面にかけて灰が検出された。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　竈の右袖付近に設置している。規模は長径53㎝、短径50㎝のほぼ円形、深さ25㎝を測る。

柱穴　床面でピットを３基検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、㎝）である。

Ｐ１　35×28×28　　Ｐ２　36×28×32

Ｐ３　25×23×38

それぞれの位置や形状からＰ１～Ｐ３が主柱穴である可能性が高い。建物の南西隅にあたる調査区外に、更に１基柱穴がある可能性もある。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上、埋没土中から多数の土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１～４：土師器の杯（１・２は床面直上）、５～７：同甕（５は粘土付近の床面直上、７は焚口）、８：須恵器の甕である。

所見　床面直上で出土した遺物から、時期は６世紀後半である。本遺跡では最も大きい６世紀台の建物である。

２区27号竪穴建物（第95・96図、第８表、PL.23・55）

調査区中央付近、26号竪穴建物の10ｍ程北にある。

位置　Ｘ＝47,926～47,930　Ｙ＝-74,570～-74,574

重複遺構　43号土坑とわずかに重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　長方形

主軸方位　Ｎ－61°－Ｅ

規模　東西3.42ｍ　南北2.88ｍ

床面積　6.89㎡

埋没土層　ローム塊・軽石粒を含む暗褐色土で埋没しており、床面付近は黒褐色土・焼土が含まれ、礫が多数出土した。

壁高　39～53㎝

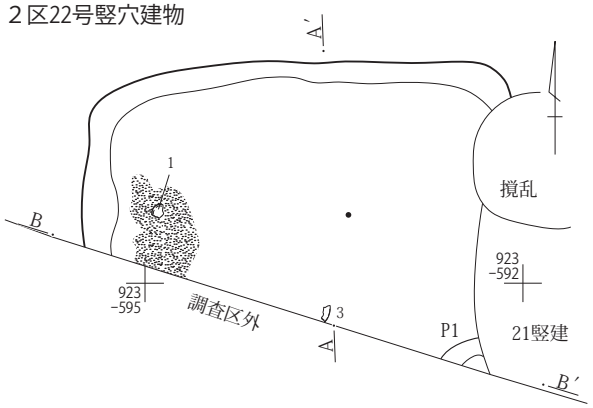
床面　ほぼ平坦であるが、北に向い緩やかに傾斜している。

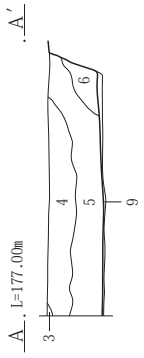
掘方　床面から10㎝以内の深さで細かい凹凸が見られる。

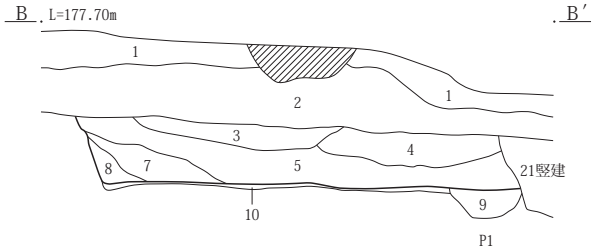
竈　東壁のほぼ中央に、設置している。燃焼部が東壁に入り込む位置にあり、煙道が壁外に92㎝張り出している。規模は長軸111㎝、袖幅44㎝を測る。拳大の石を多数使用して、構築している。焼土・炭化物を検出したが、量は少なく、粒状に点在する程度であった。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径

２区22号竪穴建物



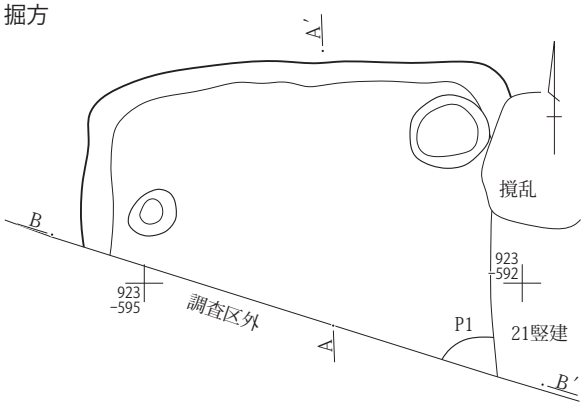




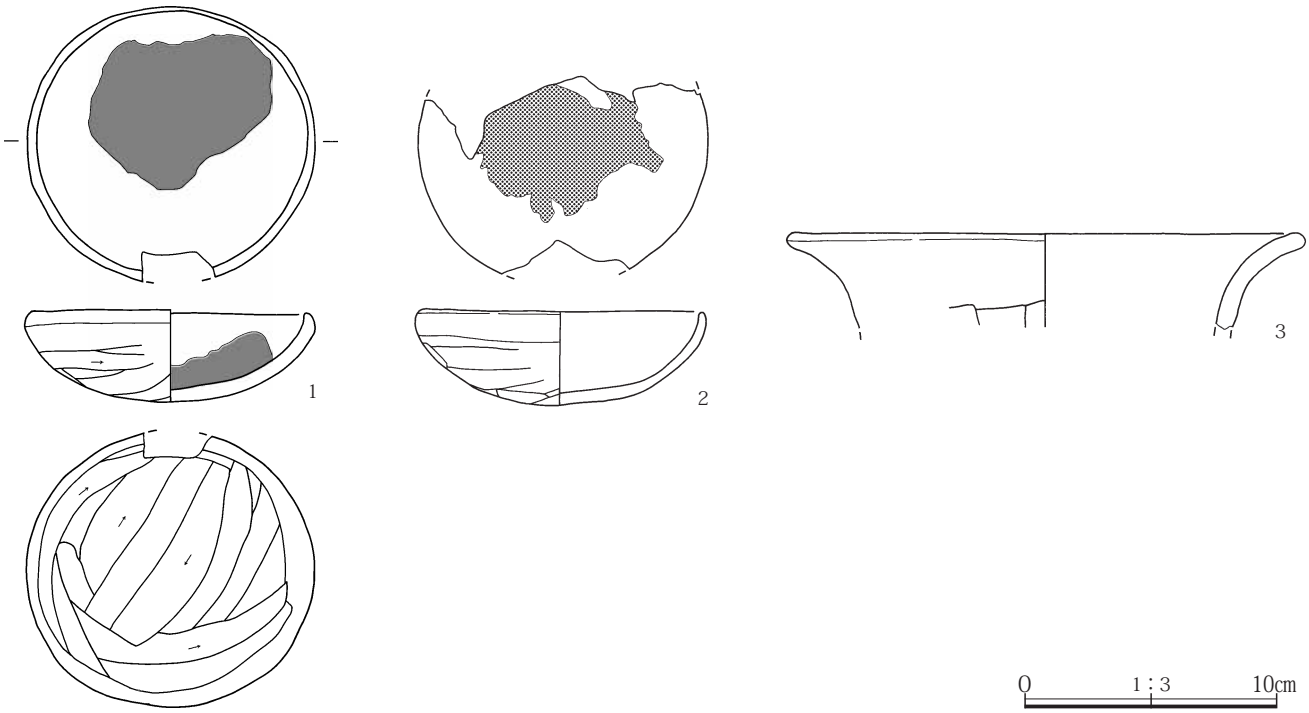
22号竪穴建物

1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-Cを少量含む。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム塊を多量、As-Cを微量含む。締り弱。粘性あり。
4．黒褐色土　As-Cを多量、ローム小塊・粒を微量含む。粘性あり。
5．黒褐色土　As-C・小礫・黒色土小塊を含む。締り・粘性あり。
6．にぶい黄褐色土　ローム大塊を多量、浅黄橙色土を微量含む。締り弱。粘性強。
7．黒褐色土　黒色土小塊・ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
8．灰黄褐色土　シルト質土。粘性強。
9．灰黄褐色土　ローム塊・炭化物・焼土粒を含む。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　ローム大塊・粒を多量含む。粘性強。

掘方



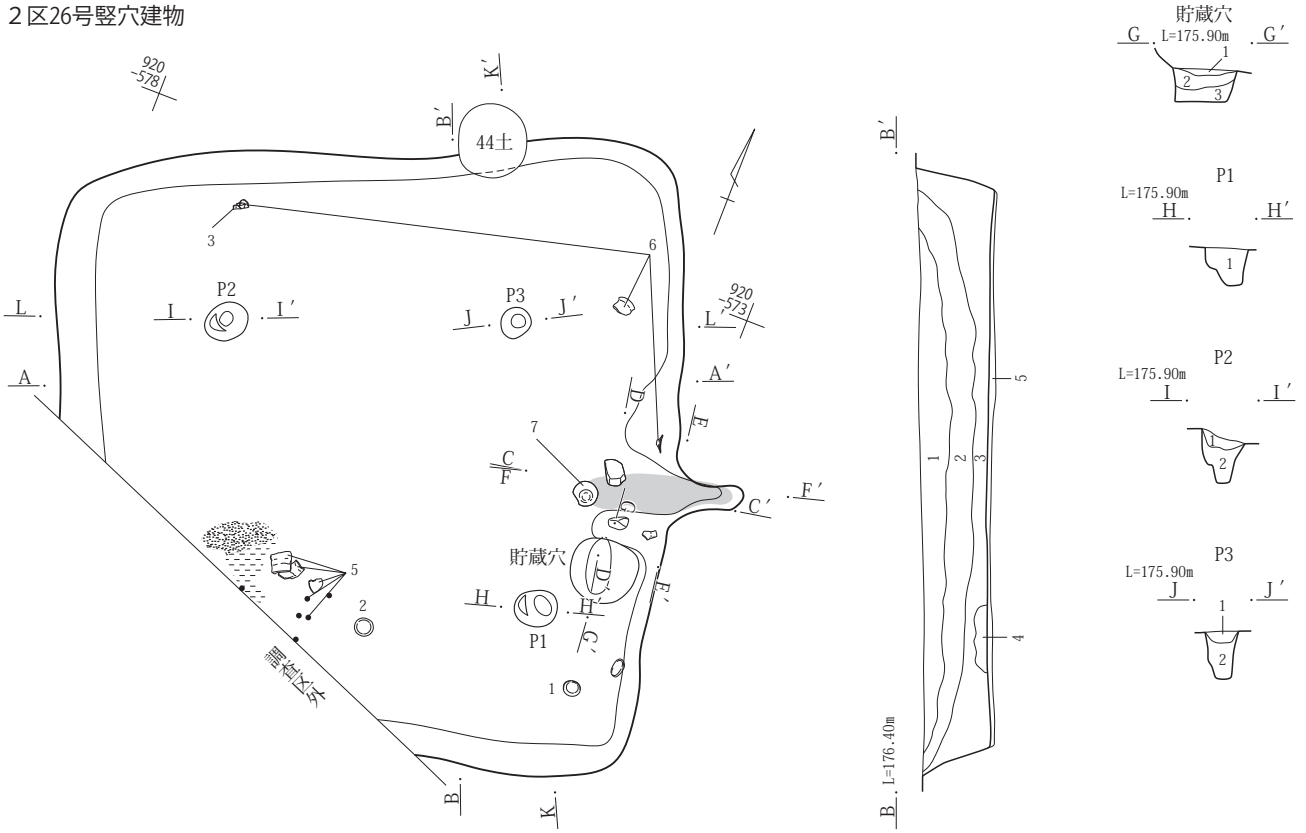
0　1：60　2m

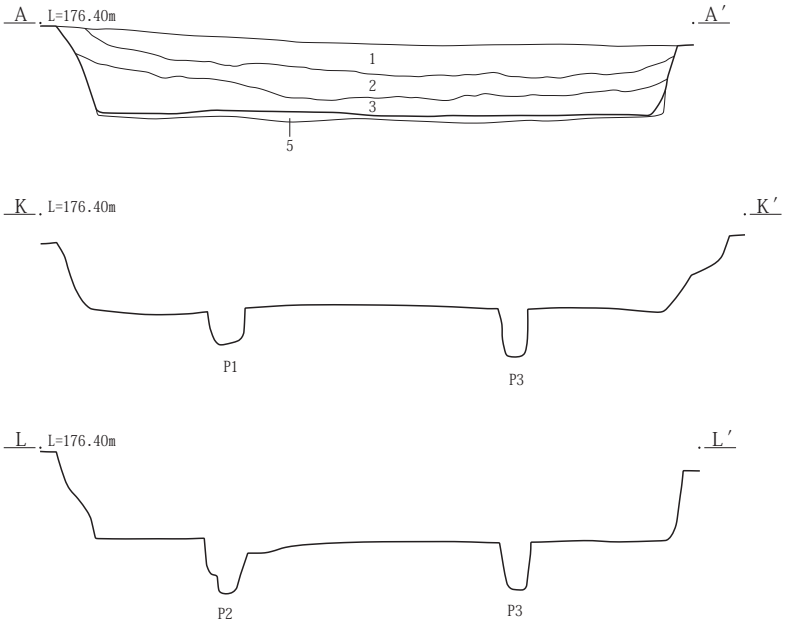


0　1：3　10cm

第91図　22号竪穴建物

２区26号竪穴建物





26号竪穴建物
１．暗褐色土　軽石粒を多量、ローム塊・粒を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を多量含む。締りあり。
３．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。締りあり。
４．粘土
５．黒褐色土　ローム塊・軽石粒を含む。

貯蔵穴
１．黒褐色土　ローム塊を多量､軽石粒を少量含む。締りあり。
２．黒褐色土　暗褐色土塊・軽石粒を少量含む。締りあり。
３．黒褐色土　暗褐色土塊を少量、軽石粒を微量含む。

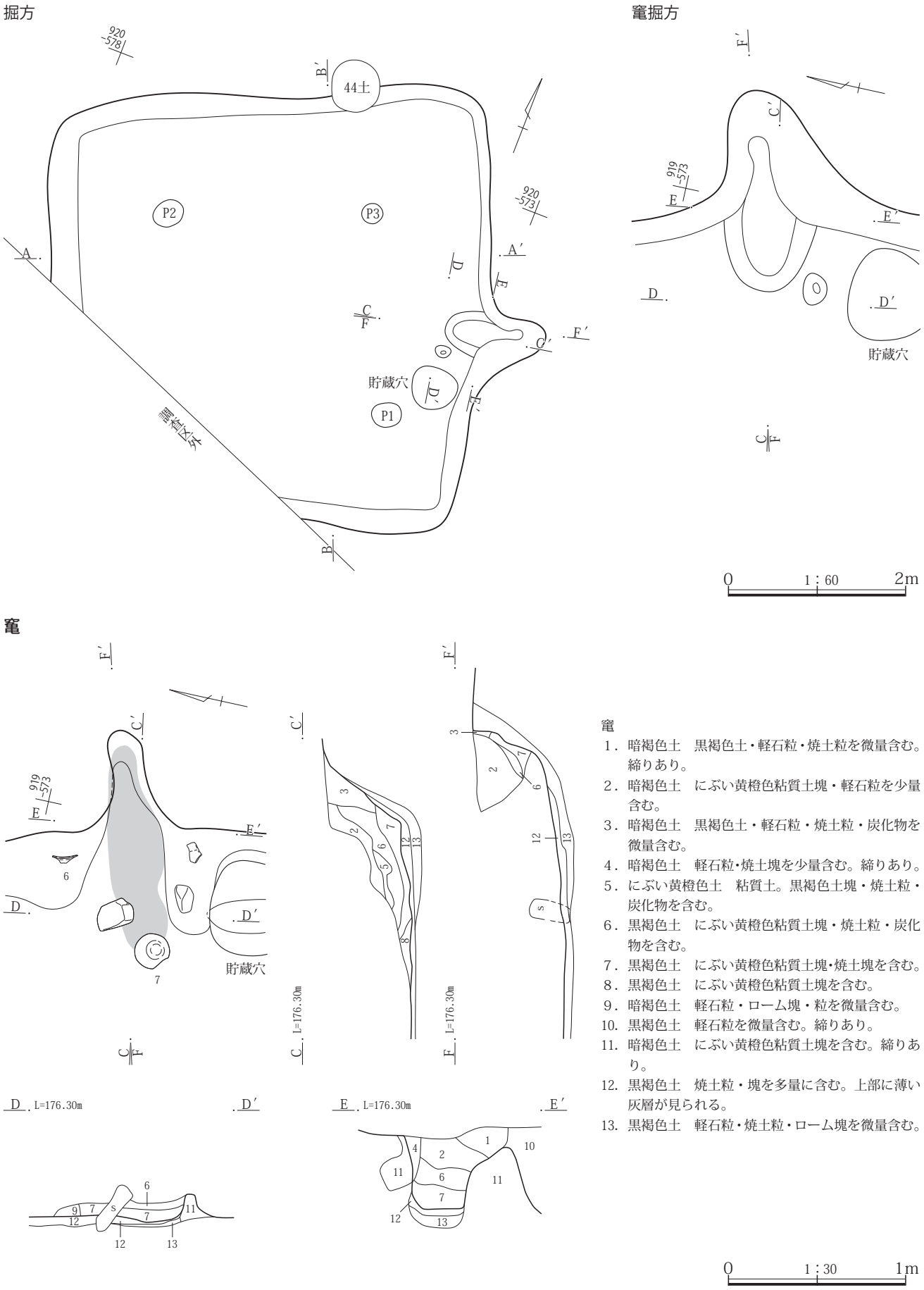
Ｐ１
１．黒褐色土　ローム塊・軽石粒を含む。

Ｐ２
１．黒褐色土　暗褐色土・軽石粒・焼土粒・炭化物・小礫を含む。締りあり。
２．黒褐色土　暗褐色土塊・軽石粒を含む。

Ｐ３
１．黒褐色土　軽石粒・焼土粒・炭化物を微量含む。
２．黒褐色土　軽石粒を微量含む。

0　1：60　2m

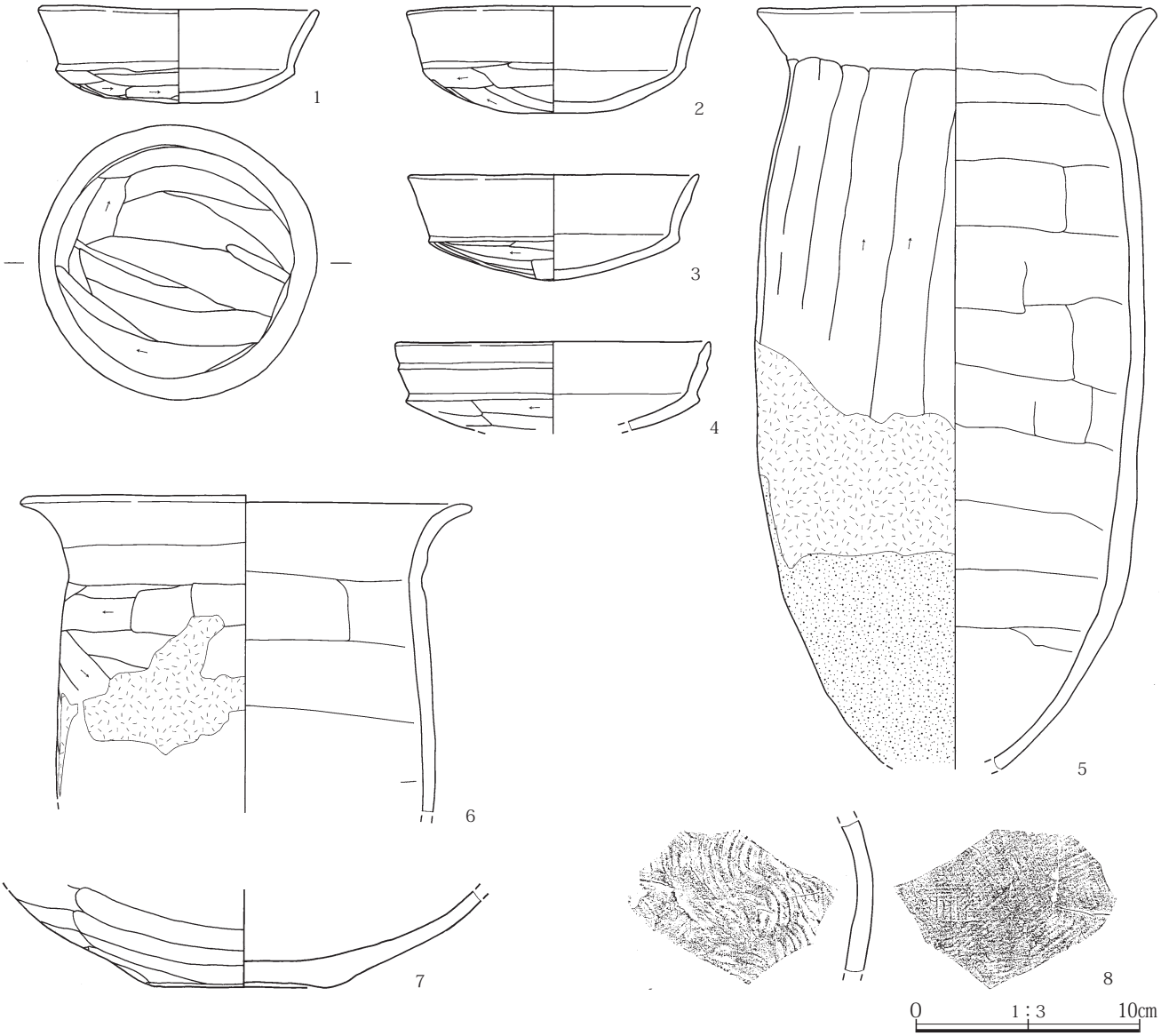
第92図　26号竪穴建物（１）



竈

1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・焼土粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・軽石粒を少量含む。
3．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・焼土粒・炭化物を微量含む。
4．暗褐色土　軽石粒・焼土塊を少量含む。締りあり。
5．にぶい黄橙色土　粘質土。黒褐色土塊・焼土粒・炭化物を含む。
6．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・焼土粒・炭化物を含む。
7．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・焼土塊を含む。
8．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。
9．暗褐色土　軽石粒・ローム塊・粒を微量含む。
10．黒褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
11．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。締りあり。
12．黒褐色土　焼土粒・塊を多量に含む。上部に薄い灰層が見られる。
13．黒褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム塊を微量含む。

第93図　26号竪穴建物（２）



第94図　26号竪穴建物（３）

37cm、短径34cmのほぼ円形、深さ15cmを測る。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器、石製品などが出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３：須恵器の杯蓋、４：砥石である。

所見　わずかに主軸方向に縦長の小規模な建物である。角のある拳大～頭大の石が、埋没土の上層から床面付近までの様々な位置で多数出土している。建物の使用に伴うものである可能性もあるが、埋没土には石と共にローム塊を多めに含んでおり、人為的に建物の解体と埋め戻しが行われ、その時に投げ込まれたものである可能性が高い。多数の土器の出土も埋没土中からであり、時期の判断が難しいが、出土した遺物の多くは７世紀後半のものである。

２区28号竪穴建物（第97・98図、第８表、PL.23・55）

調査区中央付近、12号竪穴建物の北西にあり、重複している。

位置　X＝47,918～47,922　Y＝-74,567～-74,572

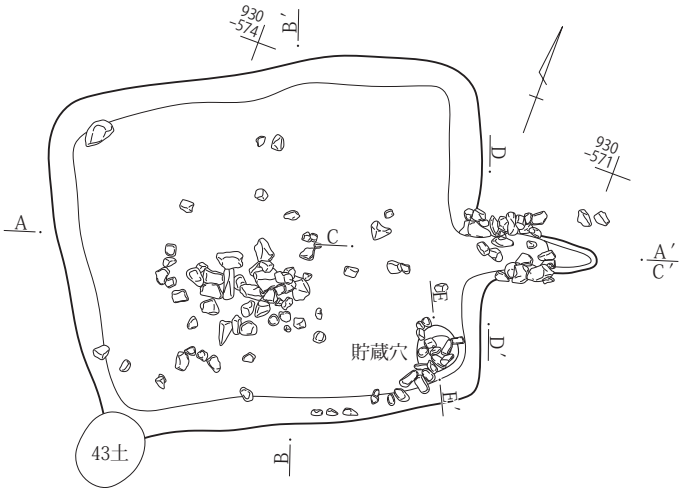
重複遺構　12号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

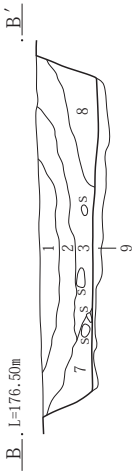
形状　方形と見られるが、北西隅が多少鋭角で、12号竪穴建物との重複が大きく、明らかではない。

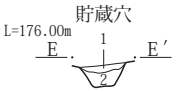
主軸方位　N－71°－E

規模　東西4.2m　南北(3.38m)

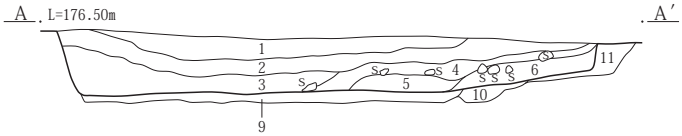
２区27号竪穴建物





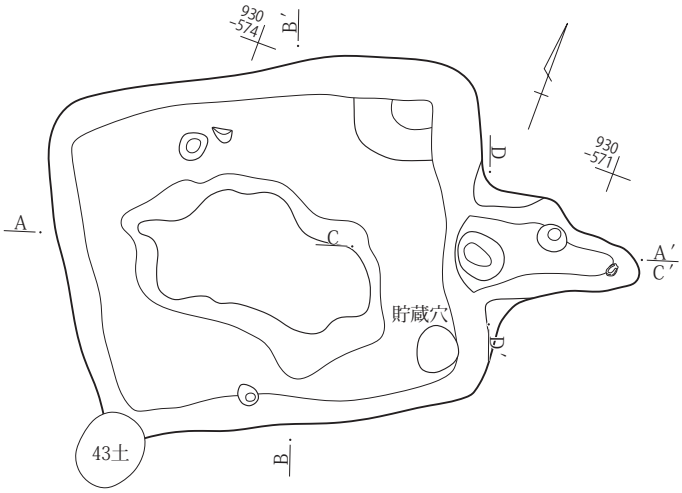


貯蔵穴
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　小礫を多量、褐色土を少量、焼土粒を微量含む。



27号竪穴建物
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を少量、ローム塊を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　黒褐色土塊を少量、ローム塊を微量含む。締りあり。
4．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム塊・小礫を微量含む。締りあり。
5．暗褐色土　焼土粒･炭化物粒少量、軽石粒を微量含む。締りあり。
6．暗褐色土　拳大の礫を多量、軽石粒・焼土粒・炭化物粒・ローム塊を微量含む。
7．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム塊を含む。締りあり。
8．暗褐色土　ローム塊を多量、軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。締りあり。
9．暗褐色土　小礫を多量、ローム塊を少量含む。締りあり。
10．暗褐色土　焼土粒・塊・炭化物を微量含む。締りあり。
11．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・炭化物を微量含む。締りあり。

掘方



0　1：60　2m

第95図　27号竪穴建物（１）

床面積　（10.08㎡）

埋没土層　黒褐色土で埋没しており、上層にはAs-C・ローム小塊、床面付近には焼土・炭化物が含まれている。周縁部にはAs-C・焼土を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土が堆積している。

壁高　42～47㎝

床面　多少起伏が見られ、東に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から10㎝程で凹凸は少ない。

竈　東壁に設置している。規模は長軸83㎝、袖幅53㎝を測る。燃焼部から煙道にかけて焼土を多量に含む層が見られ、その下部に灰層を確認した。

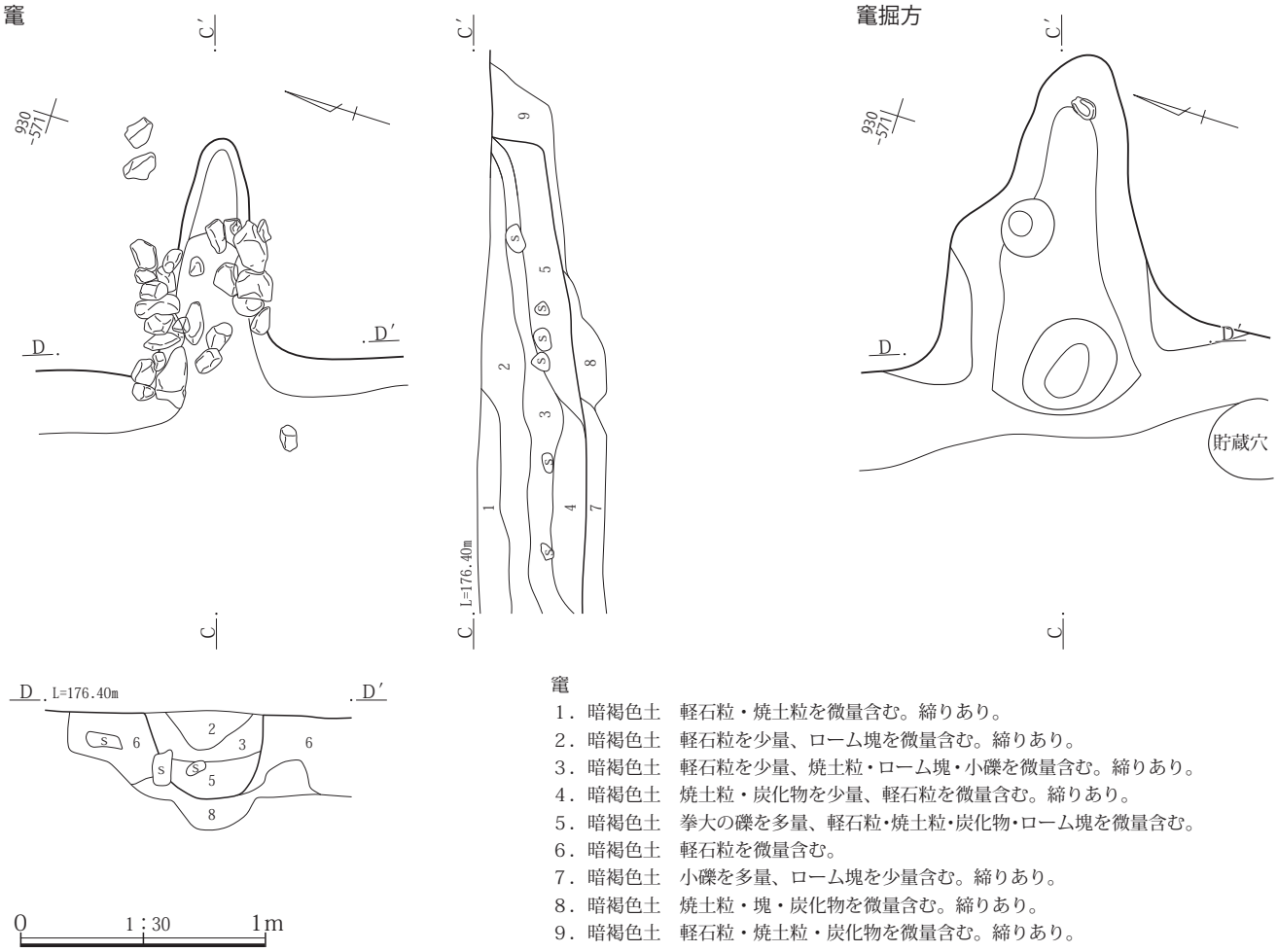
貯蔵穴　確認できなかった。

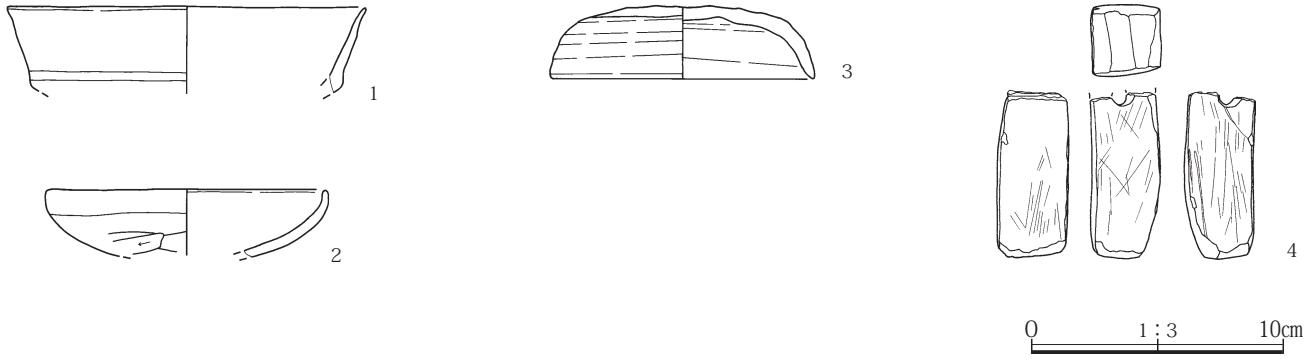
柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面付近や埋没土中から土器や石器などが多数出土した。掲載した遺物は、１：須恵器の小型壺、２：土師器の壺、３：須恵器の壺、４・５：同甕（４は床面直上、５は掘方）である。

所見　埋没土中の多数の礫は、ローム塊を多量に含む不自然な土層から出土しており、人為的に埋め戻される段階で投入されたものである可能性が高い。床面直上から出土した遺物から、時期は６世紀後半である。





第96図　27号竪穴建物（２）

２区34号竪穴建物（第99・100図、第８表、PL.23・24・55）

調査区西側、７号竪穴建物の10m程北西にある。

位置　X＝47,935～47,938　Y＝-74,615～-74,618

重複遺構　なし

形状　多少ゆがみがあるが、正方形に近い。

主軸方位　N－97°－E

規模　東西3.19m　南北3.28m

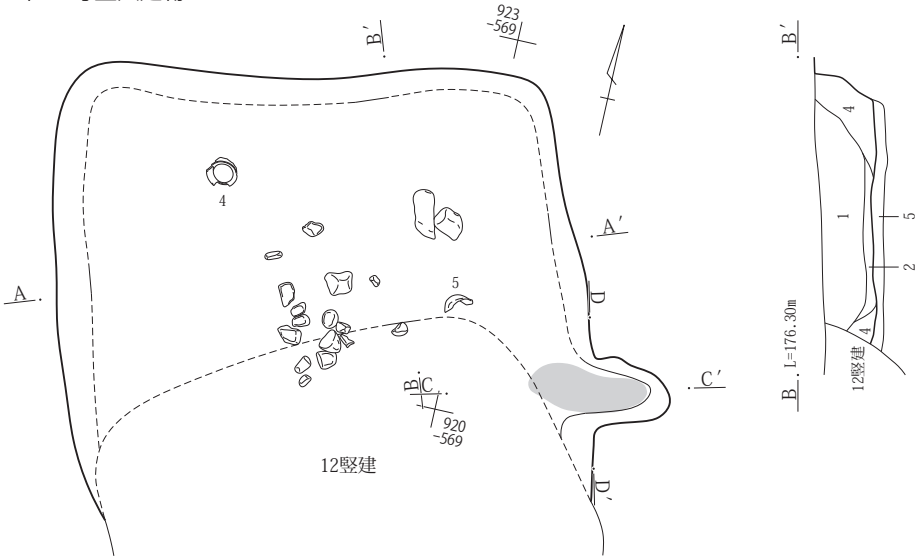
床面積　8.78㎡

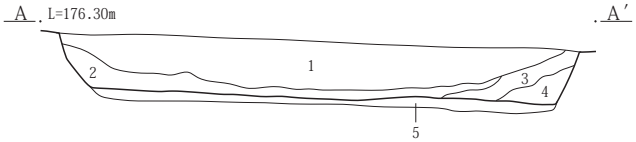
埋没土層　埋没土上層はAs-Cを含む黒褐色土、床面付近はAs-C・ローム塊・黒色土塊を含む暗褐色土である。周縁部には、にぶい黄褐色土や灰黄褐色土が三角堆積している。

壁高　10～22cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

２区28号竪穴建物

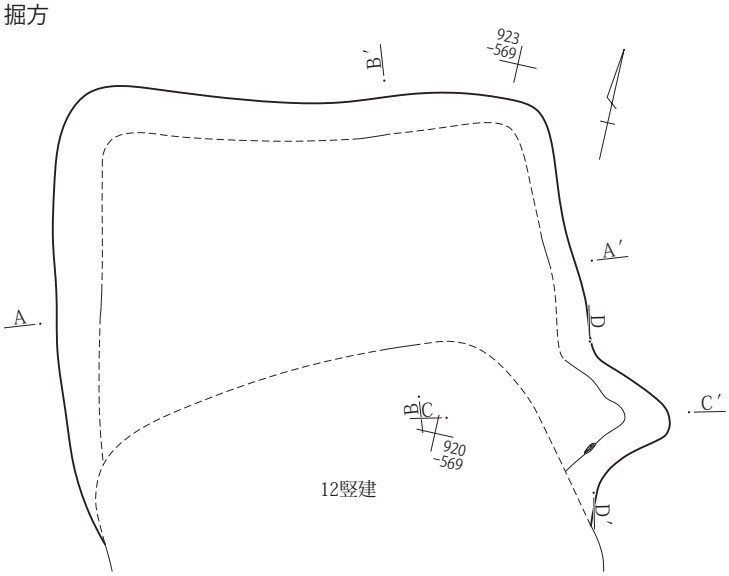




28号竪穴建物

１．黒褐色土　As-C・ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　焼土・炭化物を多量含む。粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム粒・焼土粒を多量、As-Cを少量含む。粘性あり。
４．暗褐色土　As-C・焼土粒・黒褐色土小塊を含む。粘性あり。
５．暗褐色土　黒褐色土小塊を含む。締り強。粘性あり。

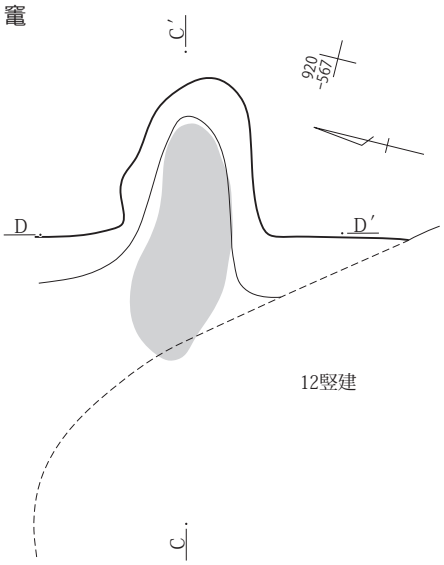
掘方

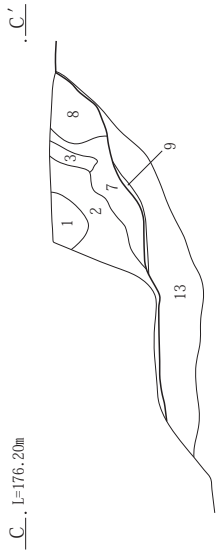


0　1：60　2m

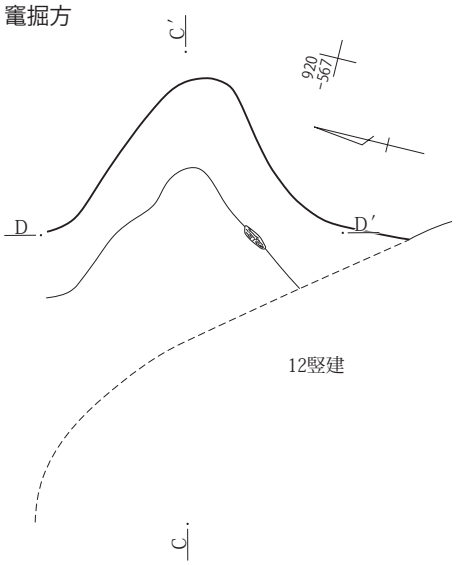
第97図　28号竪穴建物（１）

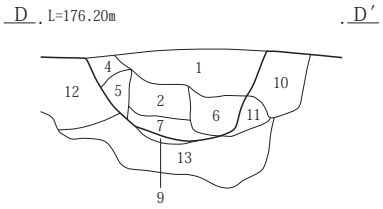
竈





竈掘方

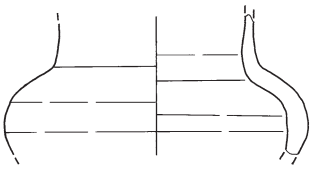


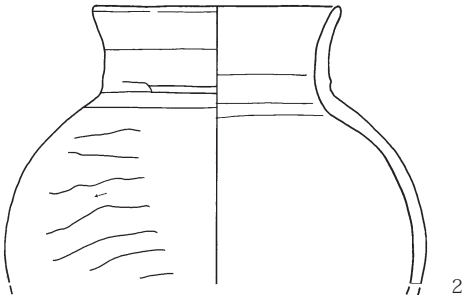


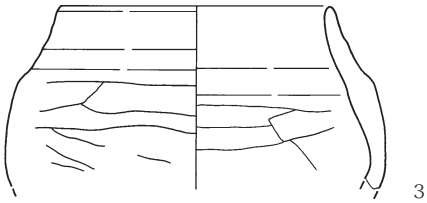
0　1：30　1m

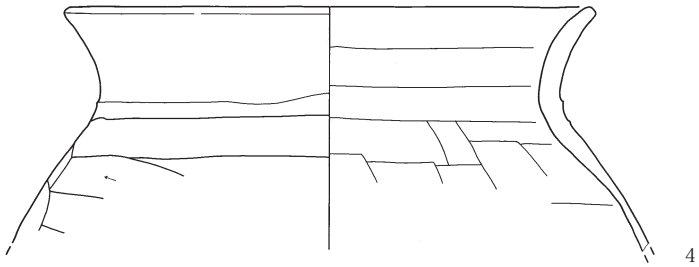
竈

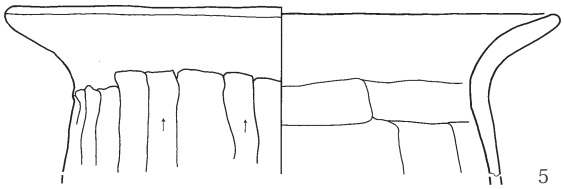
1．黒褐色土　As-C・にぶい黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　As-C・焼土粒を多量含む。粘性あり。
3．黒褐色土　焼土小塊を多量含む。粘性あり。
4．黒褐色土　にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り強。粘性弱。
5．灰黒褐色土　As-C・ローム小塊を含む。締り弱。粘性強。
6．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土大塊・焼土小塊を含む。粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　焼土粒を多量、にぶい黄橙色土を少量含む。締り・粘性あり。
8．黒褐色土　焼土小塊・にぶい黄橙色軽石を含む。締り強。
9．黒褐色土　炭化物・灰を多量含む。締り弱。
10. 黒褐色土　にぶい黄橙色軽石・にぶい黄橙色粘質土を含む。締りあり。粘性弱。
11. 黒褐色土　暗褐色土・にぶい黄橙色軽石を含む。締り・粘性あり。
12. 黒褐色土　ローム小塊・暗褐色土・にぶい黄橙色軽石を含む。締り弱。粘性あり。
13. にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り弱。粘性あり。











0　1：3　10cm

第98図　28号竪穴建物（２）

掘方　10cm前後の掘り込みで凹凸が見られる。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸66cm、袖幅96cmを測る。後世の削平によって、上部が失われており、燃焼部の底部と、袖の基部が残存している。袖の基部はにぶい黄橙色土であり、上部もこの土を使用して構築された可能性がある。燃焼部底部の広い範囲に、焼土・灰を含む層が堆積している。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径47cm、短径33cmの楕円形、深さ12cmを測る。

柱穴　床面で４基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

Ｐ１	22×21×11	Ｐ２	27×24×14
Ｐ３	21×18×22	Ｐ４	25×22×20

小規模であるが、その位置からＰ１～Ｐ４が主柱穴と見られる。

壁溝　竈付近を除き、全周している。幅10cm～15cm、深さ５cm～10cmを測る。

遺物　竈の内外や床面付近から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１～３：土師器の杯（１・２は床面から７cmの位置で重なって出土、３は竈付近の床面直上）、４：須恵器の甕である。

所見　本遺跡の小規模な建物は、柱穴や壁溝などが見られない建物が多いが、本遺構は小規模ながら、柱穴が揃っており、壁溝のはっきりした建物である。床面付近や竈内から出土した遺物から、時期は８世紀第２四半期である。

２区35号竪穴建物（第101～104図、第８表、PL.24・25・55）

調査区中央、12号竪穴建物の東にあり、一部が重複している。

位置　Ｘ＝47,914～47,920　Ｙ＝-74,560～-74,567

重複遺構　12号・36号・44号竪穴建物と重複している。発掘時は、新旧関係は本遺構が最も新しいと判断して調査を進めたが、整理段階で出土遺物も含めて検討した結果、12号竪穴建物より本遺構の方が旧いと判断した。

形状　正方形

主軸方位　Ｎ－72°－Ｅ

規模　東西5.82m　南北5.87m

床面積　27.14㎡

埋没土層　埋没土上層はAs-Cを含む黒褐色土、床面付近はローム大塊を含む暗褐色土である。周縁部には、黄橙色粘質土を含む黒褐色土が三角堆積している。

壁高　47～59cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から20cm前後で、起伏や細かい凹凸が見られる。北西部に建物構築前の風倒木の痕跡を検出した。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸112cm、袖幅110cmを測り、袖はにぶい黄橙色粘質土を使用して構築されている。燃焼部の底部に焼土や灰が厚く堆積する層があり、その上下にも焼土塊や灰が多くみられる。竈周辺の床面の１ｍ×２ｍ程の範囲でも灰を検出しており、長期間にわたってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径75cm、短径65cmの楕円形、深さ33cmを測る。

柱穴　床面でピットを12基検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

Ｐ１	53×51×60	Ｐ２	52×49×61
Ｐ３	60×49×63	Ｐ４	55×38×55
Ｐ５	(35)×(22)×68	Ｐ６	50×(43)×69
Ｐ７	(36)×(27)×61	Ｐ８	48×35×58
Ｐ９	49×(34)×68	Ｐ10	31×(18)×36
Ｐ11	(33)×(33)×55	Ｐ12	34×(26)×50

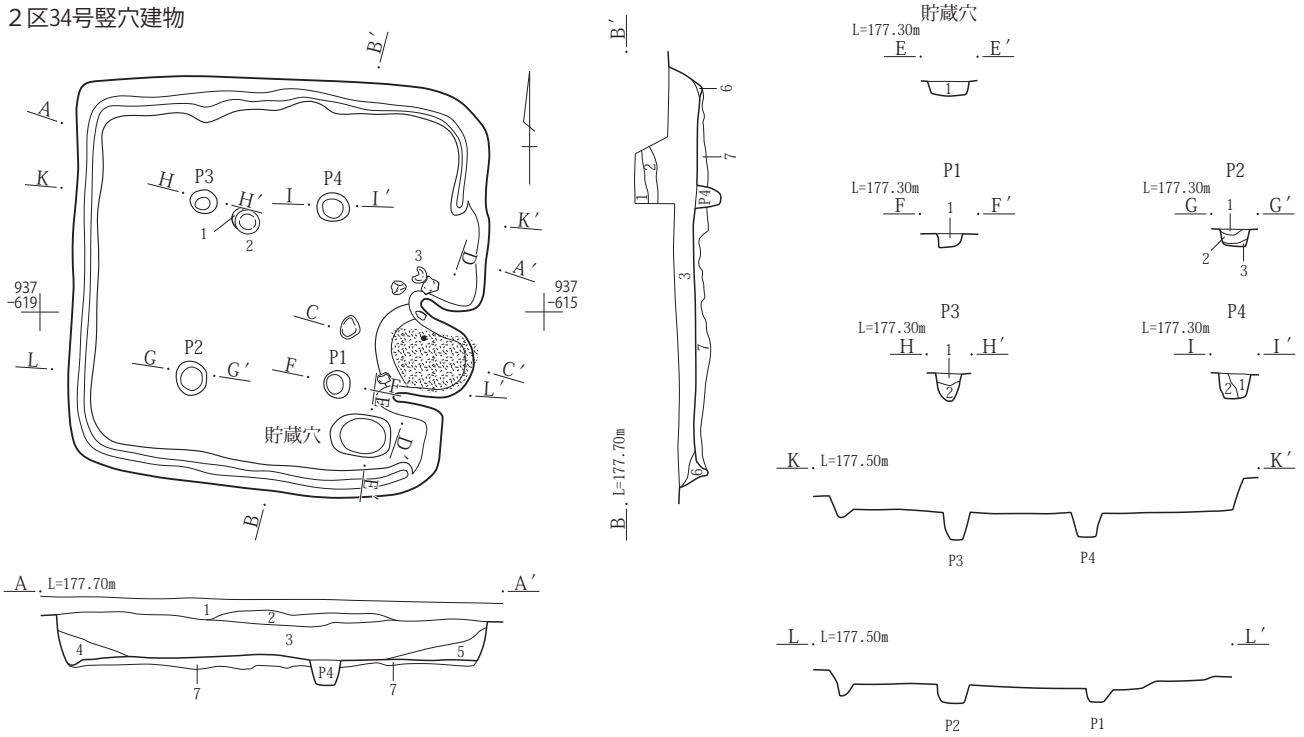
上記のピットは２度の建て替えに伴う、それぞれの時期の主柱穴の可能性が高い。Ｐ１～Ｐ４が重複する他のピットを切っており、最も新しい柱穴である。また、位置関係や底部の形状からＰ５～Ｐ８、Ｐ９～Ｐ12が対応する可能性が高い。Ｐ５～Ｐ８とＰ９～Ｐ12の新旧関係は難しいが、Ｐ８がＰ12を切る土層が見られることから、Ｐ５～Ｐ８の方が新しい可能性がある。

壁溝　南壁中央付近が周囲より低くなっていたが、他の周縁部では検出できなかった。

遺物　竈内、床面付近、埋没土中から土師器や須恵器など、多数の遺物が出土した。掲載した遺物は、１～５：土師器の杯（１・３は竈内、４は床面から10cm）、６・７：須恵器の杯蓋、８：同短頸壺、９・10：土師器の甕、11：須恵器の甕、12：刀子である。

所見　９号竪穴建物に次いで規模の大きい建物である。２度の建て替えを行い、それに伴って柱を付け替えた可能性がある。竈内から出土した遺物から、建物の時期は

２区34号竪穴建物



34号竪穴建物

１．黒褐色土　As-Cを多量含む。締りあり。粘性弱。
２．暗褐色土　As-C、黒色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
３．暗褐色土　As-C・黒色土大塊・ローム塊を少量含む。締りあり。粘性強。
４．黒褐色土　ローム小塊・粒を少量、As-Cを微量含む。粘性強。
５．にぶい黄褐色土　ローム大塊・黒褐色土を含む。粘性あり。
６．灰黄褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり
７．にぶい黄褐色土　ローム塊・浅黄橙色軽石・黒褐色土を含む。粘性あり。

貯蔵穴

１．にぶい黄褐色土　ローム塊・炭化物・灰・焼土粒を含む。粘性あり。

Ｐ１

１．暗褐色土　ローム小塊を少量、灰白色軽石を微量含む。粘性あり。

Ｐ２

１．黒褐色土　炭化物を含む。締りあり。粘性強。
２．黒褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む。締り弱。粘性あり。

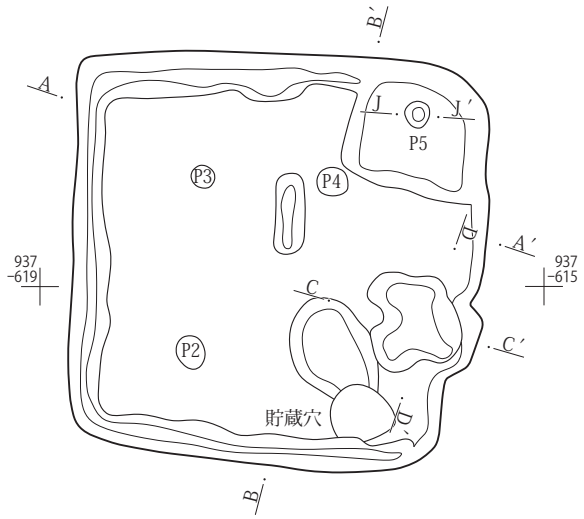
Ｐ３

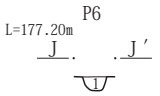
１．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り弱。粘性強。
２．にぶい黄褐色土　粘性強。

Ｐ４

１．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り弱。粘性強。
２．灰黄褐色土　黒褐色土塊・灰白色軽石を含む。粘性あり。

掘方





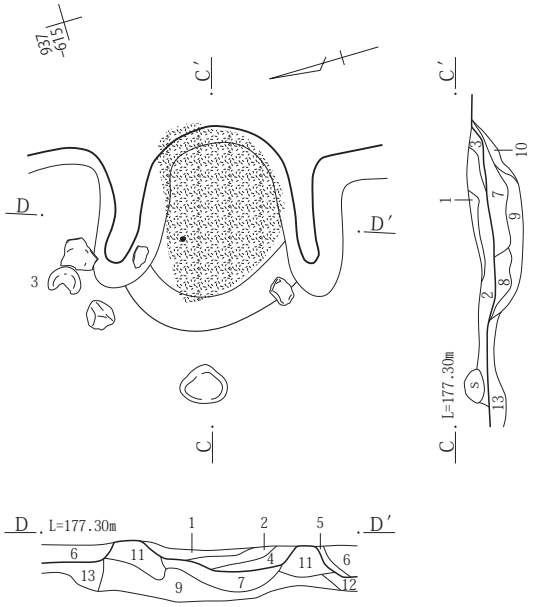
Ｐ６

１．灰黄褐色土　ローム粒を多量含む。粘性あり。

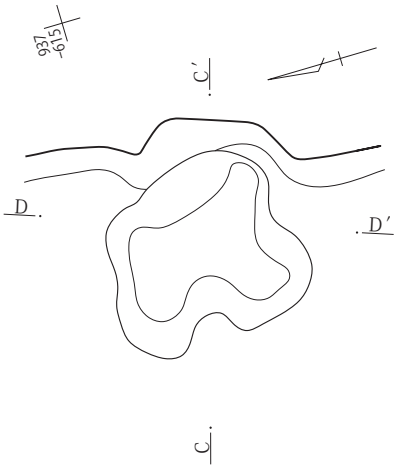
0　1：60　2m

第99図　34号竪穴建物（１）

竈



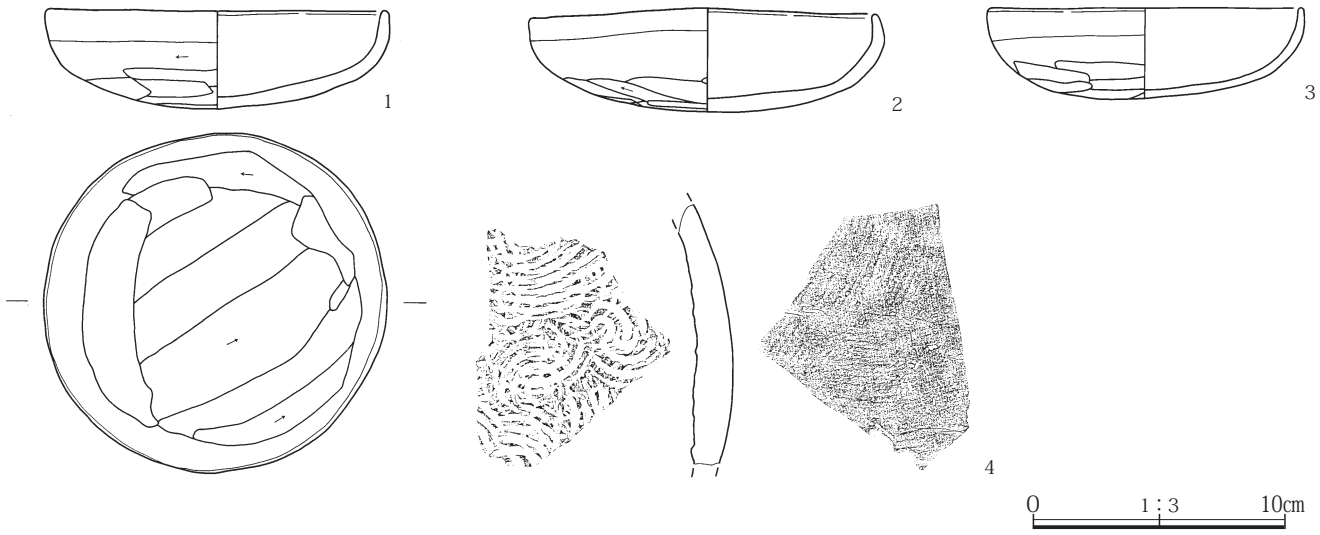
竈掘方



竈

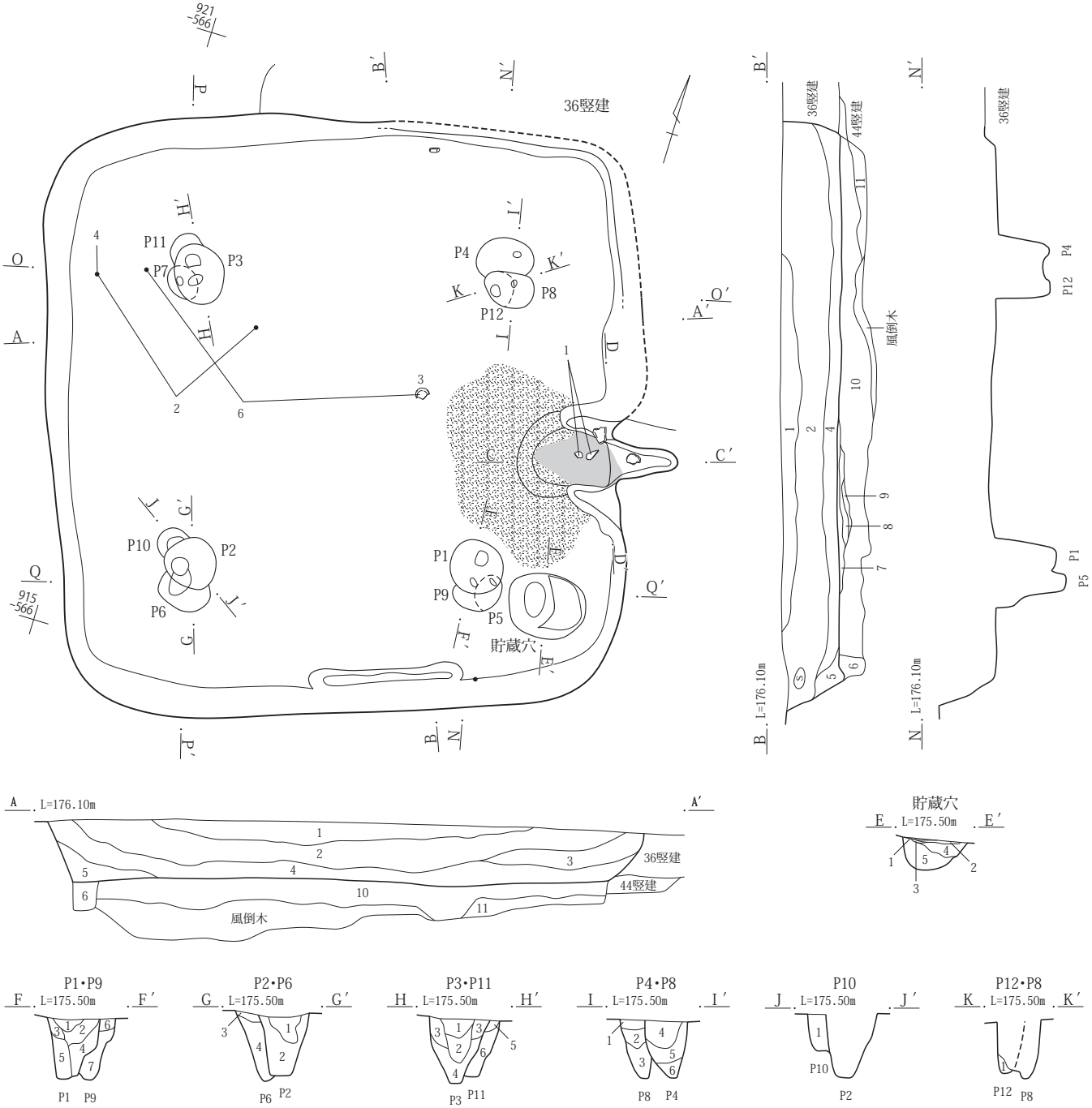
1．灰黄褐色土　粘質土。ローム小塊を含む。締り弱。粘性あり。
2．明黄褐色土　浅黄橙色粘質土を含む。締り弱。粘性強。
3．褐灰色土　灰・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
4．黒褐色土　粘性あり。
5．明黄褐色土　灰白色軽石を含む。締り・粘性強。
6．にぶい黄橙色土　灰白色軽石を少量含む。締り強。粘性あり。
7．褐灰色土　灰を多量、焼土粒。黄褐色土を少量含む。粘性あり。
8．褐灰色土　黄褐色土を多量、灰を少量含む。締り・粘性あり。
9．にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む。締り弱。粘性あり。
10．黄褐色土　灰を少量含む。締り弱。粘性あり。
11．にぶい黄橙色土　にぶい黄褐色土を含む。締り強。粘性弱。
12．暗褐色土　浅黄橙色軽石を少量含む。粘性あり。
13．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量、浅黄橙色軽石・黒褐色土を少量含む。粘性あり。

0　1：30　1m



第100図　34号竪穴建物（２）

２区35号竪穴建物



35号竪穴建物

1．黒褐色土　As-Cを少量含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　As-C・黄橙色土小塊・大礫・炭化物を含む。締り・粘性あり。
3．暗褐色土　As-C・浅黄橙色土小塊・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
4．暗褐色土　ローム大塊・粒を少量含む。粘性あり。
5．黒褐色土　黄橙色粘質土を微量含む。締り弱。
6．にぶい黄褐色土　ローム塊を含む。締りあり。粘性強。
7．にぶい黄褐色土　縞状のローム塊･にぶい黄橙色粘質土を含む。締りあり。粘性強。
8．褐灰色土　ローム粒・焼土小塊を多量含む。締りあり。粘性強。
9．褐灰色土　焼土・炭化物を含む。
10．暗褐色土　ローム小塊・粒を多量、As-C・黒色土小塊を少量含む。締り弱。粘性強。
11．黒褐色土　ローム粒・小塊を少量含む。締り弱。粘性強。

貯蔵穴

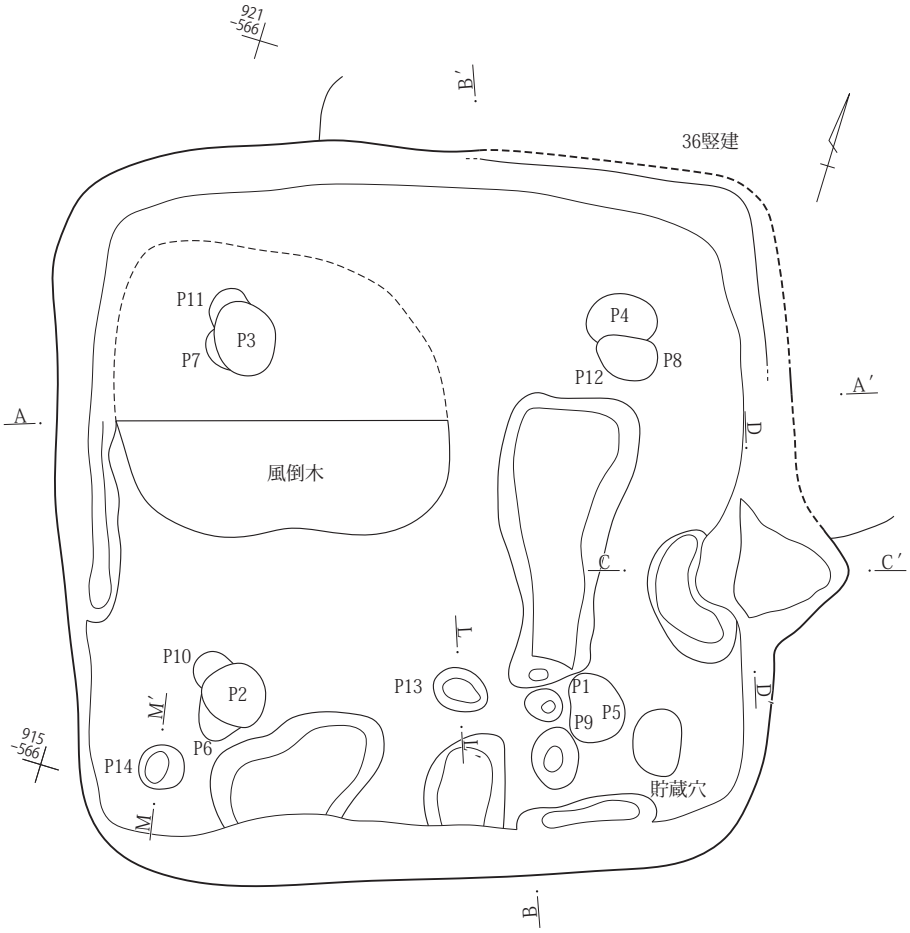
1．黒褐色土　褐色土小塊を含む。粘性あり。
2．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量、焼土粒を少量含む。粘性あり。
3．黒色土　炭化物・灰主体。締り・粘性弱。
4．黒褐色土　ローム塊を多量、焼土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。締り弱。粘性強。

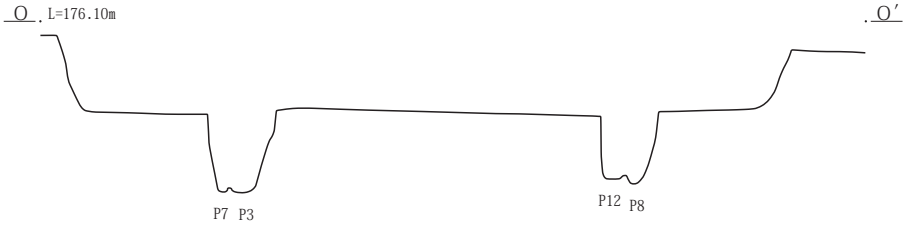
0　1：60　2m

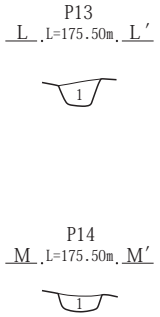
第101図　35号竪穴建物（１）

Ｐ１・Ｐ９
１．黒褐色土　灰白色軽石・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
２．黒褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を多量含む。締りあり。粘性強。
４．黒褐色土　ローム小塊を壁際に含む。締り・粘性あり。
５．灰黄褐色土　ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
６．灰黄褐色土　ローム小塊・焼土塊を含む。締り・粘性あり。
７．黒褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。
Ｐ２・Ｐ６
１．黒褐色土　ローム小塊を少量、炭化物を微量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　ローム小塊を多量含む。締り弱。粘性あり。
３．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。粘性あり。
４．黒褐色土　ローム塊・粒を少量含む。締り・粘性あり。
Ｐ３・Ｐ11
１．黒褐色土　As-C・ローム小塊・粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
２．黒褐色土　ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。粘性あり。
４．灰黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り・粘性あり。
５．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
６．灰黄褐色土　ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
Ｐ４・Ｐ８
１．暗褐色土　As-C・焼土粒を少量含む。粘性あり。
２．黒褐色土　浅黄橙色軽石を少量含む。粘性あり。
３．黒褐色土　浅黄橙色軽石を微量含む。締りあり。粘性強。
４．黒褐色土　As-C・暗褐色土を含む。粘性あり。
５．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。締りあり。粘性強。
６．褐色土　ローム粒主体。黒褐色土を含む。締りあり。粘性強。
Ｐ10
１．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒・焼土粒を少量含む。粘性あり。
Ｐ12
１．黒褐色土　ローム粒を多量含む。締り弱。粘性強。

掘方



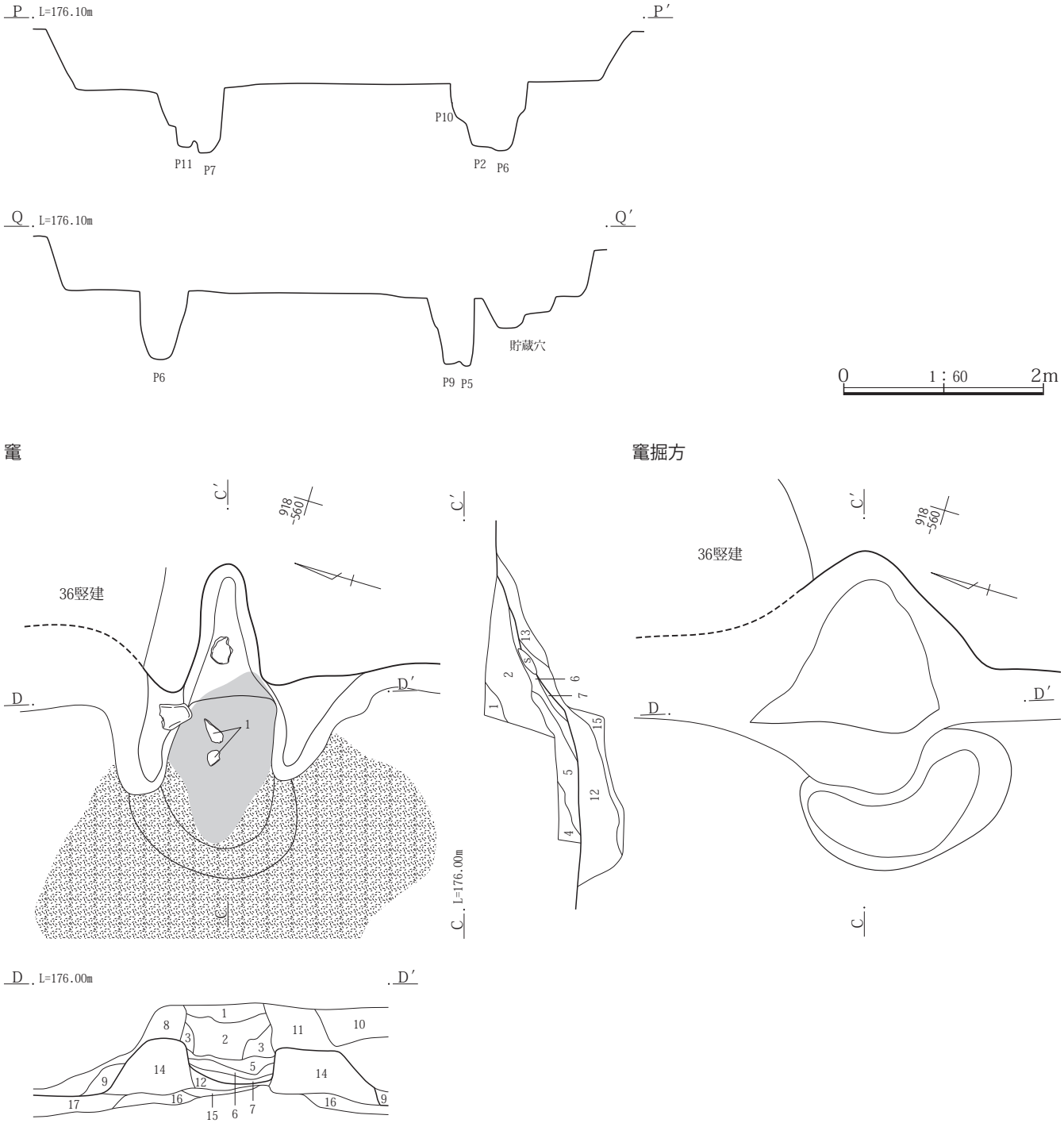




Ｐ13
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り・粘性あり。
Ｐ14
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り・粘性あり。

0　1：60　2m

第102図　35号竪穴建物（２）

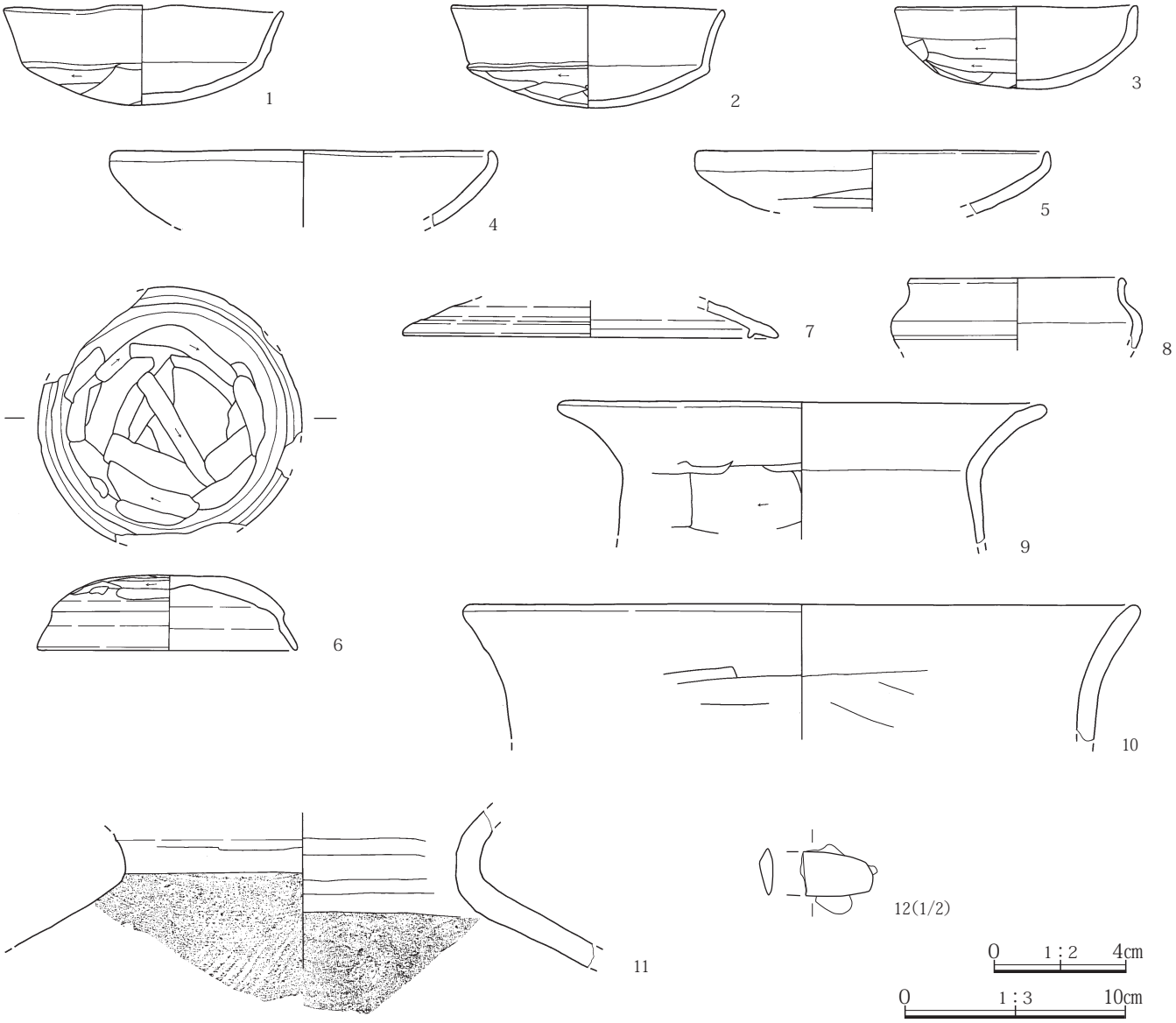


竈

1．にぶい黄褐色土　焼土粒･炭化物･浅黄橙色軽石を含む。締り強。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　灰黄褐色土小塊・黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　焼土小塊・黄橙色粘質土を多量含む。締り・粘性あり。
4．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土・焼土粒を含む。粘性あり。
5．明褐色土　焼土塊主体。灰を含む。締り弱。粘性あり。
6．橙色土　灰を多量含む。締り弱。粘性弱。
7．黒褐色土　黄橙色粘質土を微量含む。締り弱。粘性ややあり。
8．暗褐色土　浅黄橙色軽石・焼土粒・炭化物を含む。締り・粘性あり。
9．黒褐色土　ローム大塊を多量含む。締り弱。粘性あり。
10．黒褐色土　As-Cを少量含む。粘性あり。
11．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量含む。締り強。粘性あり。
12．灰黄褐色土　焼土塊・にぶい黄橙色粘質土・灰を含む。粘性弱。
13．褐灰色土　暗褐色土・焼土粒を少量含む。
14．にぶい黄橙色土　粘質土。小礫を含む。締り強。粘性あり。
15．黒褐色土　褐色土・浅黄橙色軽石を含む。粘性あり。
16．灰黄褐色土　粘質土。にぶい黄橙色粘質土・焼土塊を少量含む。粘性あり。
17．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、焼土粒を少量含む。粘性あり。

0　1：30　1m

第103図　35号竪穴建物（３）



第104図　35号竪穴建物（４）

７世紀前半である。埋没土中からは、７世紀末～８世紀の土器も出土しているが、後世に混入したものとみられる。

２区36号竪穴建物（第105・106図、第８表、PL.25）

調査区中央、35号竪穴建物の北東にあり、重複している。

位置　X＝47,918～47,922　Y＝-74,560～-74,565

重複遺構　35号・44号竪穴建物と重複している。新旧関係は35号竪穴建物より旧く、44号竪穴建物より新しい。

形状　正方形に近いが、大部分が重複しているため、明らかではない。

主軸方位　N－72°－E

規模　東西(4.45m)　南北4.21m

床面積　(10.41㎡)

埋没土層　埋没土上層はAs-C・焼土塊を含む暗褐色土及び黒褐色土、床面付近は焼土・炭化物を含む黒褐色土及びにぶい黄褐色土である。

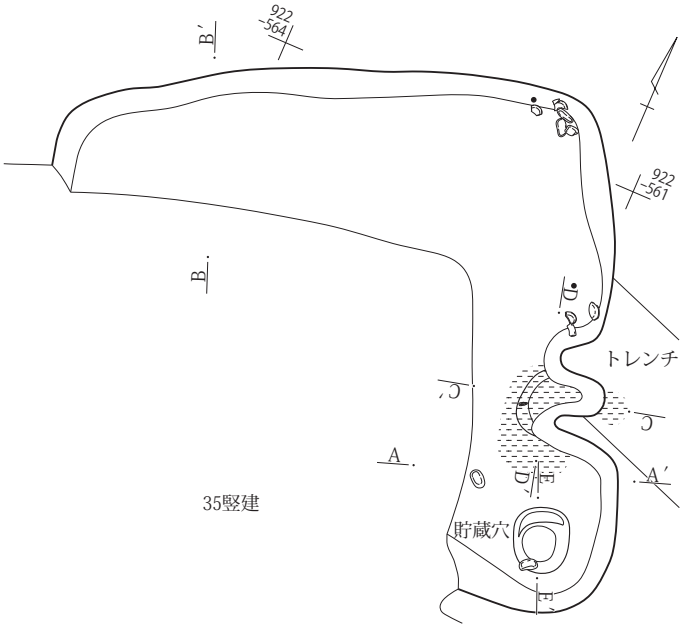
壁高　19～53cm

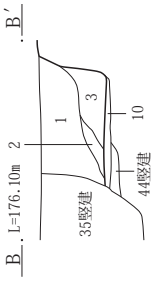
床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。竈の焚口周辺で炭を多量に検出した。

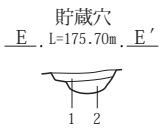
掘方　床面から10cm前後で凹凸は少ない。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸53cm、袖幅103cmを測る。燃焼部底部に３cm程の焼土を含む層が見られ、焚口周辺の床面で炭化物や灰を検出した。44号竪穴建物を壊して建物を構築しており、44号竪

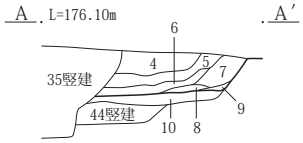
２区36号竪穴建物





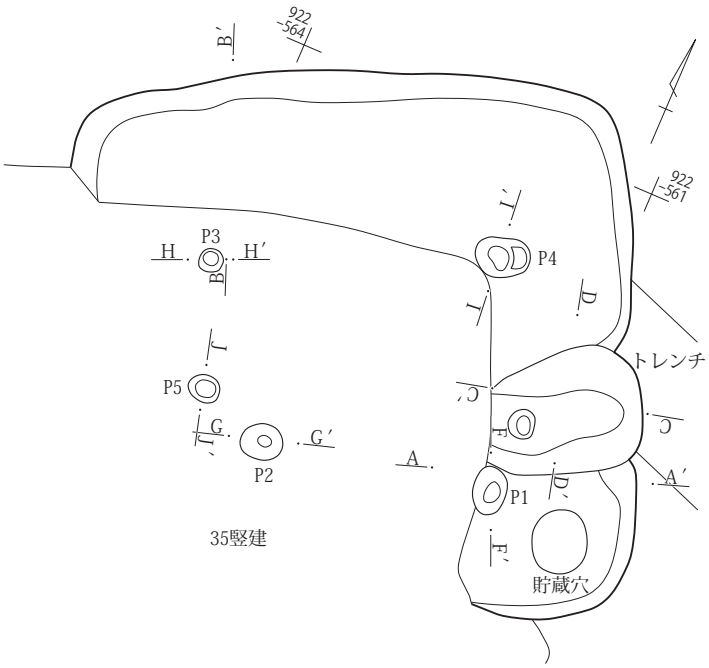


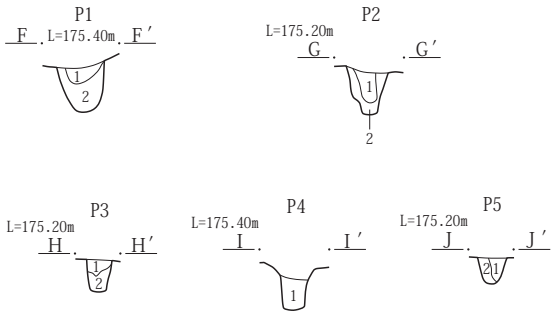
貯蔵穴
1．暗褐色土　浅黄橙色軽石を少量、焼土小塊･炭化物を微量含む。締り弱。粘性あり。
2．黒褐色土　焼土粒を微量含む。締り弱。粘性あり。



36号竪穴建物
1．暗褐色土　As-C・焼土小塊・粒を含む。粘性あり。
2．暗褐色土　黒色土小塊・焼土塊・炭化物を含む。粘性あり。
3．灰黄褐色土　As-C･にぶい黄褐色土･暗褐色土･礫を含む。粘性あり。
4．黒褐色土　As-C・炭化物・ローム小塊を含む。締り・粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　焼土塊を多量、As-Cを微量含む。粘性あり。
6．黒褐色土　縞状の灰・炭化物を含む。締り弱、粘性あり。
7．黒褐色土　As-Cを少量含む。締り強。
8．暗褐色土　As-C・焼土粒・浅黄橙色軽石を含む。締り・粘性あり。
9．黒褐色土　締り・粘性あり。
10．黒褐色土　As-C･にぶい黄橙色土･ローム塊を含む。締り･粘性あり。

掘方



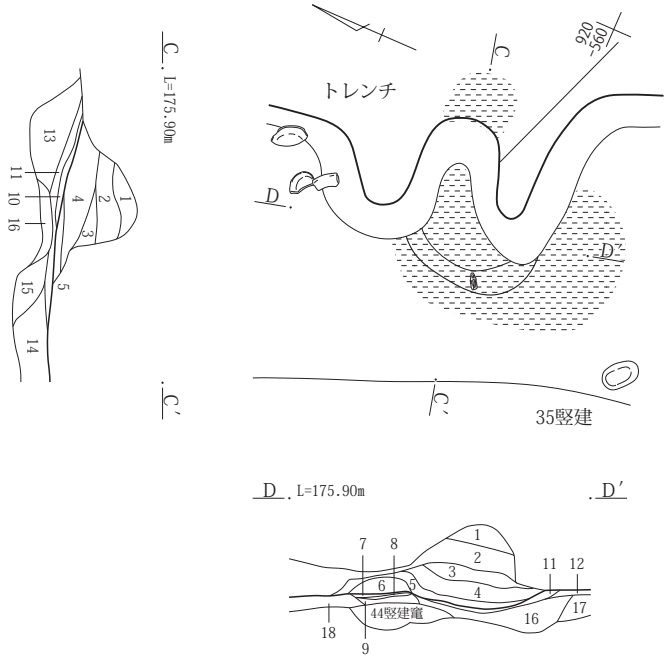


Ｐ１
1．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
Ｐ２
1．にぶい黄褐色土　ローム小塊･粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。締り強。粘性あり。
Ｐ３
1．黒褐色土　ローム小塊・粒を多量、浅黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。
Ｐ４
1．にぶい黄褐色土　ローム粒を少量、浅黄橙色軽石を微量含む。粘性あり。
Ｐ５
1．にぶい黄褐色土　ローム小塊･粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。粘性あり。

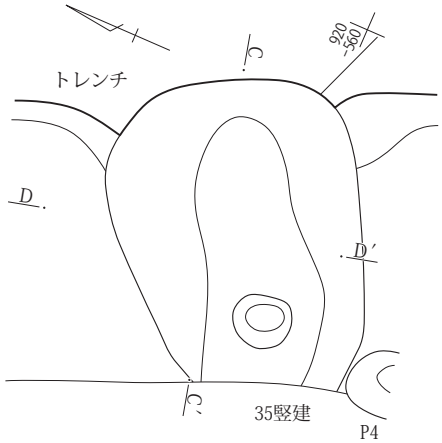
0　1：60　2m

第105図　36号竪穴建物（１）

竈

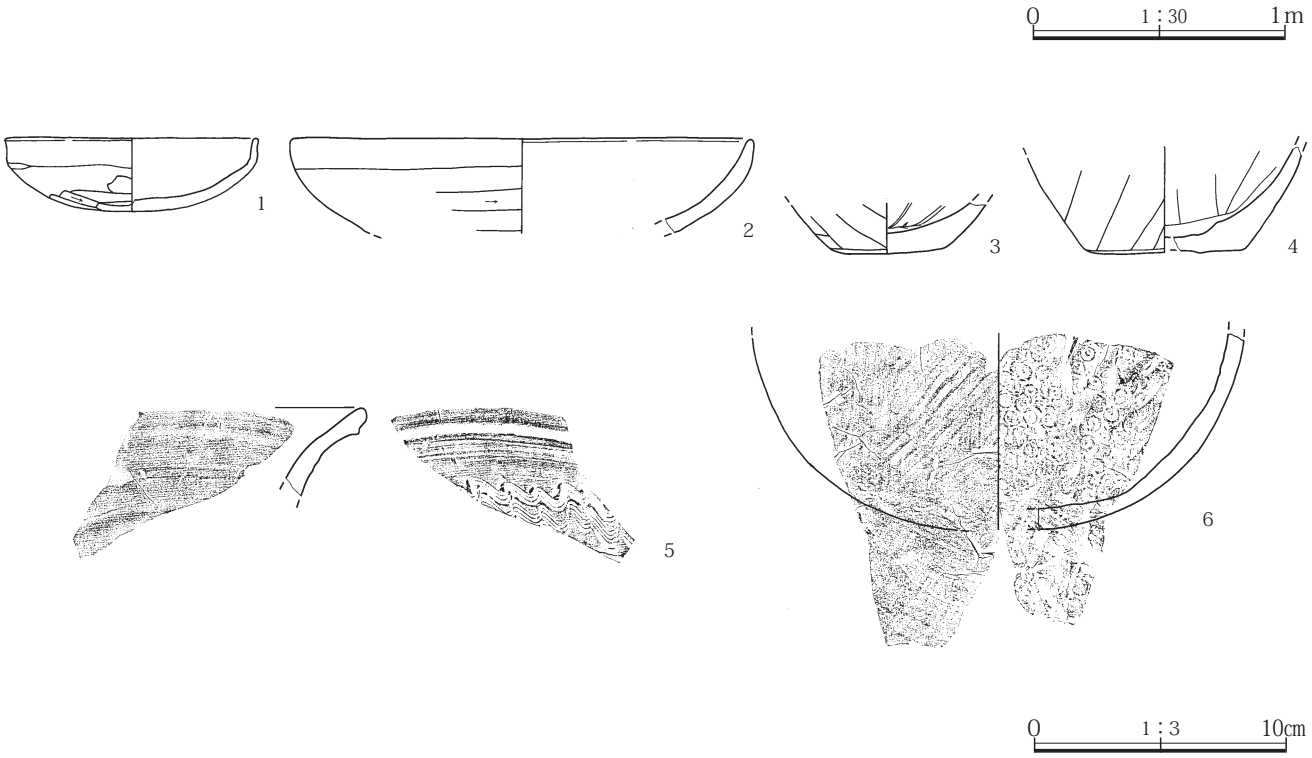


竈掘方



竈

1．にぶい黄褐色土　ローム小塊・焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　浅黄橙色軽石を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
3．黒褐色土　As-Cを少量含む。粘性強。
4．黒褐色土　黄褐色土塊・焼土粒・浅黄橙色軽石を含む。締り・粘性あり。
5．黒褐色土　焼土小塊主体。灰・炭化物を含む。締り弱。
6．灰褐色土　焼土塊・ローム小塊を含む。粘性強。（44竪建竈の痕跡含む）
7．黒褐色土　灰を少量含む。締り弱。粘性あり。（44竪建竈の痕跡含む）
8．黒褐色土　灰・焼土粒を少量含む。粘性あり。（44竪建竈の痕跡含む）
9．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。締りあり。粘性強。（44竪建竈の痕跡含む）
10. にぶい黄褐色土　黒褐色土・焼土小塊を含む。締り・粘性弱。
11. 灰黄褐色土　灰主体。焼土大塊を含む。粘性あり。
12. 暗褐色土　灰・炭化物を含む。粘性あり。
13. 暗褐色土　ローム塊を含む。締り弱。粘性あり。
14. 暗褐色土　焼土小塊・炭化物を少量、As-Cを微量含む。粘性あり。
15. 黒褐色土　ローム小塊・にぶい黄橙色粘質土塊を含む。締り・粘性あり。
16. 黒褐色土　黒色土小塊・にぶい黄褐色土・焼土粒を含む。粘性あり。
17. 黒褐色土　黒色土小塊・黄橙色軽石・焼土粒を含む。締り弱。粘性あり。
18. 黒褐色土　暗褐色土を含む。締り・粘性あり。



第106図　36号竪穴建物（２）

穴建物の竈の痕跡を左袖の下で検出した。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径53cm、短径44cmの楕円形、深さ19cmを測る。

柱穴　床面では確認できなかったが、掘方の調査で５基のピットを検出した。検出面でのそれぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×床面からの深さ、cm)である。尚、Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５の範囲では、重複により床面が失われているため、それぞれ付近で残存する床面の標高をもとに計測を行った。

Ｐ１　38×27×57　　Ｐ２　33×29×59
Ｐ３　20×18×73　　Ｐ４　44×31×63
Ｐ５　25×21×55

建物に対しての配置に偏りがあるが、それぞれの規模と位置関係からＰ１～Ｐ４が主柱穴と考えられる。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から多数の土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３・４：同甕、５・６：須恵器の甕２点である。

所見　Ｐ１～Ｐ４では、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４に対し、Ｐ２の位置が内側に寄り過ぎている。何かの理由によって、外側(西)に配置できず、そのような配置となり、Ｐ５はその強度を補うものであったと推測することもできる。出土した遺物の時期は８世紀前半であるが、重複により本建物を壊している35号竪穴建物の時期が７世紀前半であり、同建物内にも後世の遺物が混入していることから、同様に混入した遺物と考えられる。このことから、この建物の時期は明らかではないが、44号竪穴建物より新しいことから、７世紀前半以前の古墳時代と考えられる。

２区44号竪穴建物(第107・108図、PL.26)

調査区中央にあり、ほぼ全ての範囲が35号・36号竪穴建物と重複している。

位置　Ｘ＝47,918～47,922　Ｙ＝-74,560～-74,564

重複遺構　35号・36号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が最も旧い。

形状　方形の可能性が高いが、確認できた範囲が限られており、明らかではない。

主軸方位　Ｎ－63°－Ｅ

規模　東西3.07m　南北3.63m

床面積　(7.05㎡)

埋没土層　重複のため、埋没土上層は不明だが、床面付近では、ローム小塊を含む黒褐色土・暗褐色土を確認した。

壁高　５cm～18cm

床面　確認した範囲から、ほぼ平坦とみられる。

掘方　確認できなかった。

竈　東壁に設置しており、ほぼ中央にあたる位置とみられる。重複によりはっきりしないところがあるが、36号竪穴建物の竈から僅かに北にずれた位置で検出した。残存する部分の計測値は長軸(60cm)、袖幅49cmである。検出された範囲では焼土・灰・炭化物が多量に検出された。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　出土した遺物は少なく、小片のため掲載できるものはなかった。

所見　重複によって埋没土の残存が限られており、出土した遺物も少なく小片のため、時期は明らかではないが、出土した土器片は古墳時代のものである。

２区37号竪穴建物(第109～111図、第８表、PL.25・26・55・56)

調査区中央、35号竪穴建物の５m程東にある。

位置　Ｘ＝47,915～47,919　Ｙ＝-74,555～-74,559

重複遺構　30号溝と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　長方形

主軸方位　Ｎ－76°－Ｅ

規模　東西3.29m　南北3.77m

床面積　9.57㎡

埋没土層　埋没土上層は、As-C・焼土・炭化物を含む黒褐色土で、中央付近で丸みを帯びた石が数点出土した。床面付近は主にローム小塊・黒褐色土小塊・焼土粒を含む暗褐色土で埋没している。

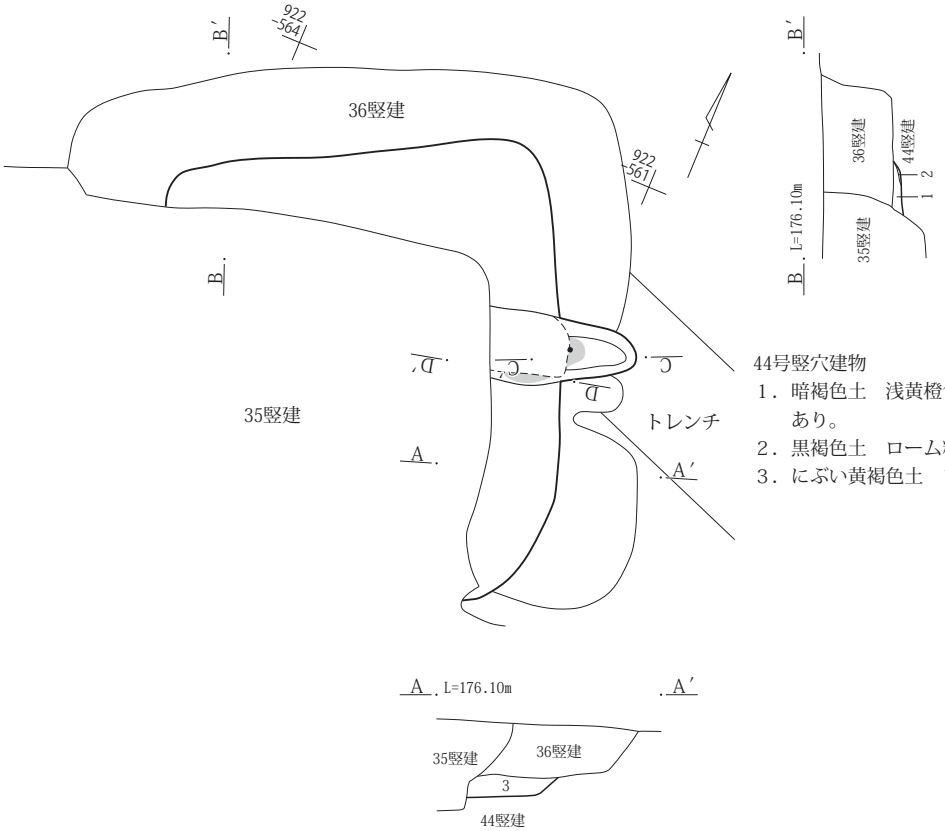
壁高　40～49cm

床面　ほぼ平坦であるが、北西に向い緩やかに傾いている。

掘方　床面から10cm以内の掘り込みで凹凸は少ない。

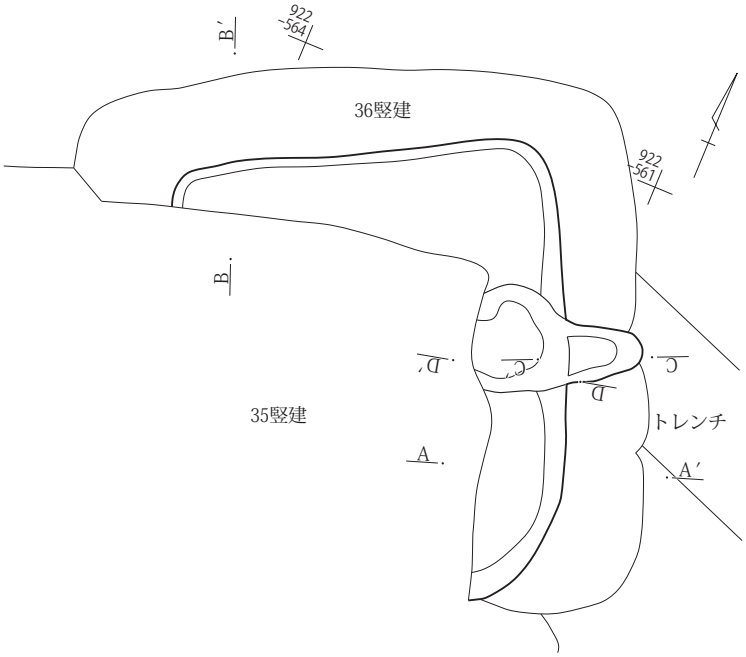
竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸41cm、袖幅101cmを測る。煙道の立ち上がりが急角度で、

２区44号竪穴建物



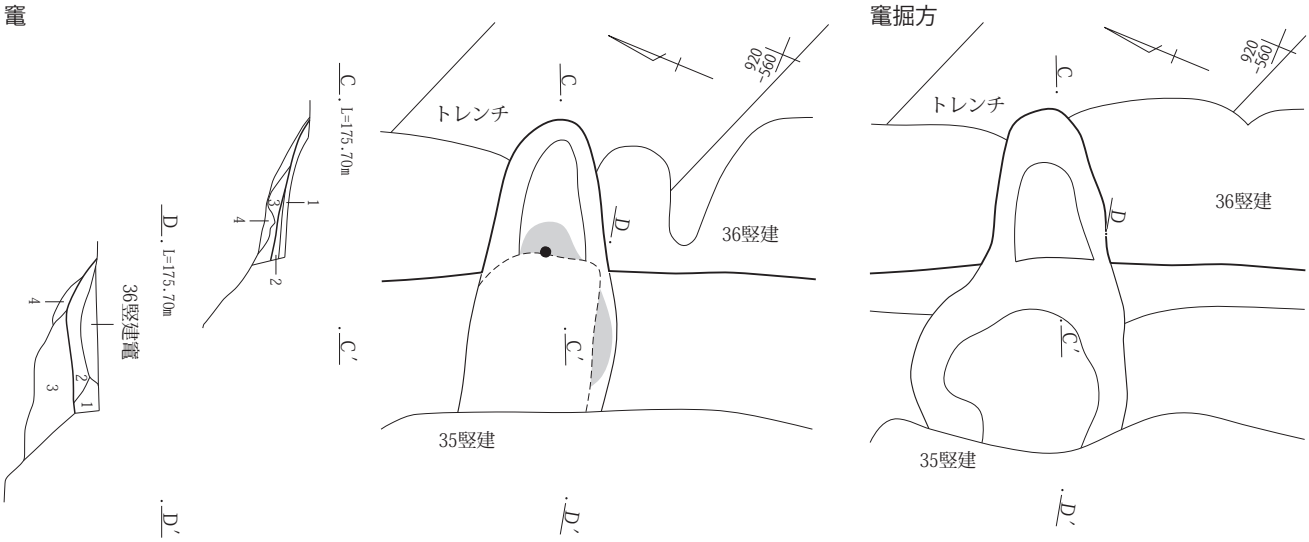
44号竪穴建物
1．暗褐色土　浅黄橙色軽石を少量、ローム小塊を微量含む。粘性あり。
2．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム塊・焼土粒・炭化物を含む。粘性あり。

掘方



0　1：60　2m

第107図　44号竪穴建物（１）



竈　C-C′
1．黒褐色土　ローム小塊を少量含む。締りあり。粘性強。(36竪建竈の掘方)
2．灰黄褐色土　ローム塊・焼土塊を多量含む。締り弱。粘性あり。
3．黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
4．黒褐色土　暗褐色土を含む。粘性あり。

竈　D-D′
1．にぶい黄褐色土　ローム小塊・炭化物・灰を含む。締り・粘性あり
2．黒褐色　黒色土小塊・にぶい黄褐色土・焼土粒を含む。粘性あり。(36竪建竈の掘方)
3．にぶい黄褐色土　黒褐色土塊・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
4．黒褐色土　暗褐色土を含む。締りあり。

0　1：30　1m

第108図　44号竪穴建物(２)

壁外への張り出しが少なく、34cmである。袖の基部には、にぶい黄褐色土、上部には明黄褐色土を使用して構築している。袖石は左右共に長辺25cm程の縦長の石の上に一辺15cm程の石を乗せる形で設置されている。燃焼部の底部から煙道にかけて焼土・灰が堆積している。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径51cm、短径39cmの楕円形、深さ17cmを測る。

柱穴　床面で４基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１　38×27×41　　Ｐ２　33×29×38
Ｐ３　20×18×26　　Ｐ４　44×31×33

それぞれの規模と位置から、主柱穴とみられる。

壁溝　確認できなかった。

遺物　竈を中心に多数の土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、1：土師器の杯、2：須恵器の杯蓋(竈内)、３：同杯(床面から７cm)、４：同盤、５～８：土師器の甕(焚口)である。

所見　主軸に対して若干横長の小規模な建物である。竈内や床面付近で出土した遺物から、時期は８世紀第１四半期である。

２区46号竪穴建物(第112～114図、第８表、PL.26・27・56)

調査区中央付近、９号竪穴建物の10m程北東にある。撹乱により南西隅が壊されている。

位置　X＝47,913～47,917　Y＝-74,539～-74,543

重複遺構　13号溝と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　正方形

主軸方位　N－65°－E

規模　東西3.69m　南北3.67m

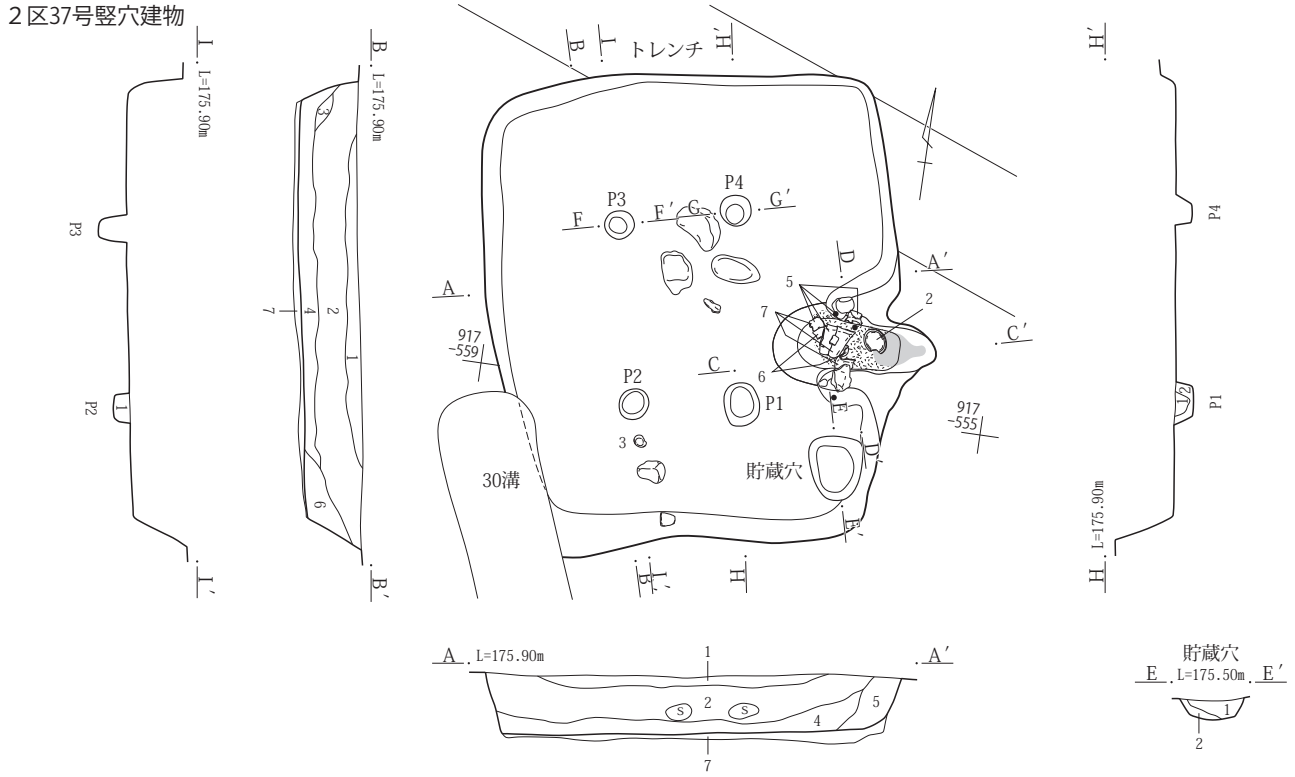
床面積　9.11㎡

埋没土層　主に暗褐色土で埋没している。上層には、軽石粒・焼土・炭化物を含み、礫が点在している。床面付近にはローム塊・軽石粒・黒褐色土塊等を含む。

壁高　51～55cm

床面　ほぼ平坦である。南壁の中央辺りから竈周辺、建物の中央から貯蔵穴のある北東部にかけての範囲で硬化面を確認した。

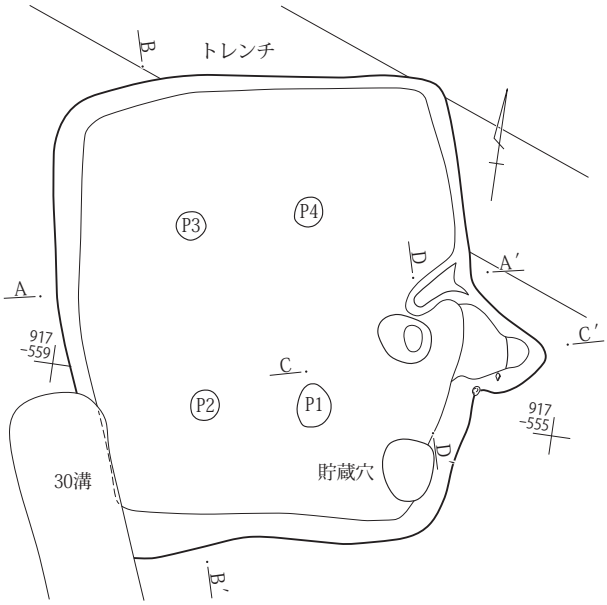
２区37号竪穴建物

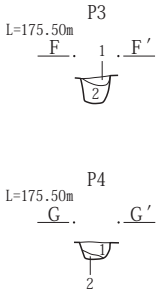


37号竪穴建物
１．黒褐色土　As-Cを少量含む。締りあり。
２．黒褐色土　As-C・黄橙色土塊・焼土・炭化物・礫を含む。粘性あり。
３．黒褐色土　ローム小塊・焼土粒を微量含む。粘性あり。
４．暗褐色土　黒褐色土・ローム小塊・焼土粒を含む。締り・粘性あり。
５．黒褐色土　黒色土小塊・ローム粒を含む。粘性あり。
６．暗褐色土　As-C・にぶい黄橙色土小塊を含む。締り・粘性あり。
７．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。

貯蔵穴
１．暗褐色土　褐色土・ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
Ｐ１
１．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
２．褐色土　ローム粒を多量含む。締りあり。
Ｐ２
１．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。

掘方



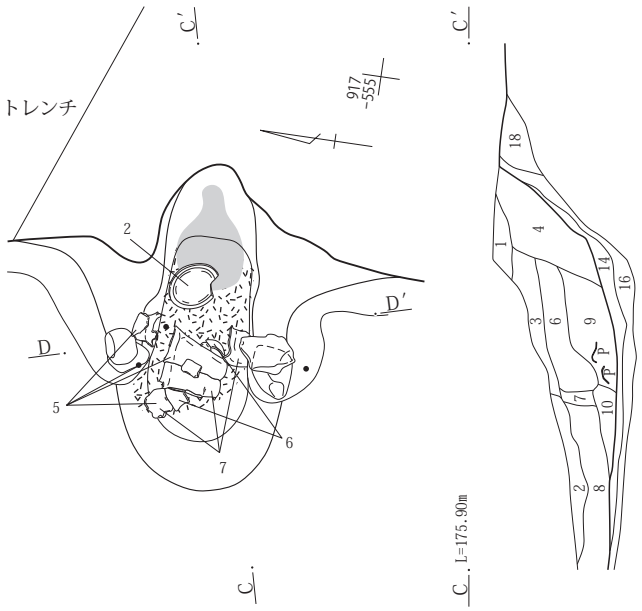


Ｐ３
１．黒褐色土　褐色土・浅黄橙色軽石を含む。粘性あり。
２．褐色土　ローム粒を多量含む。締りあり。
Ｐ４
１．黒褐色土　褐色土・浅黄橙色軽石を含む。粘性あり。
２．褐色土　ローム粒を多量含む。締りあり。

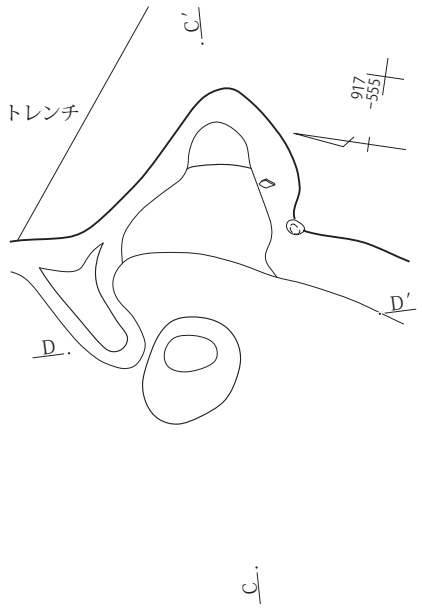
0　1：60　2m

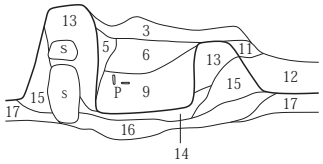
第109図　37号竪穴建物（１）

竈



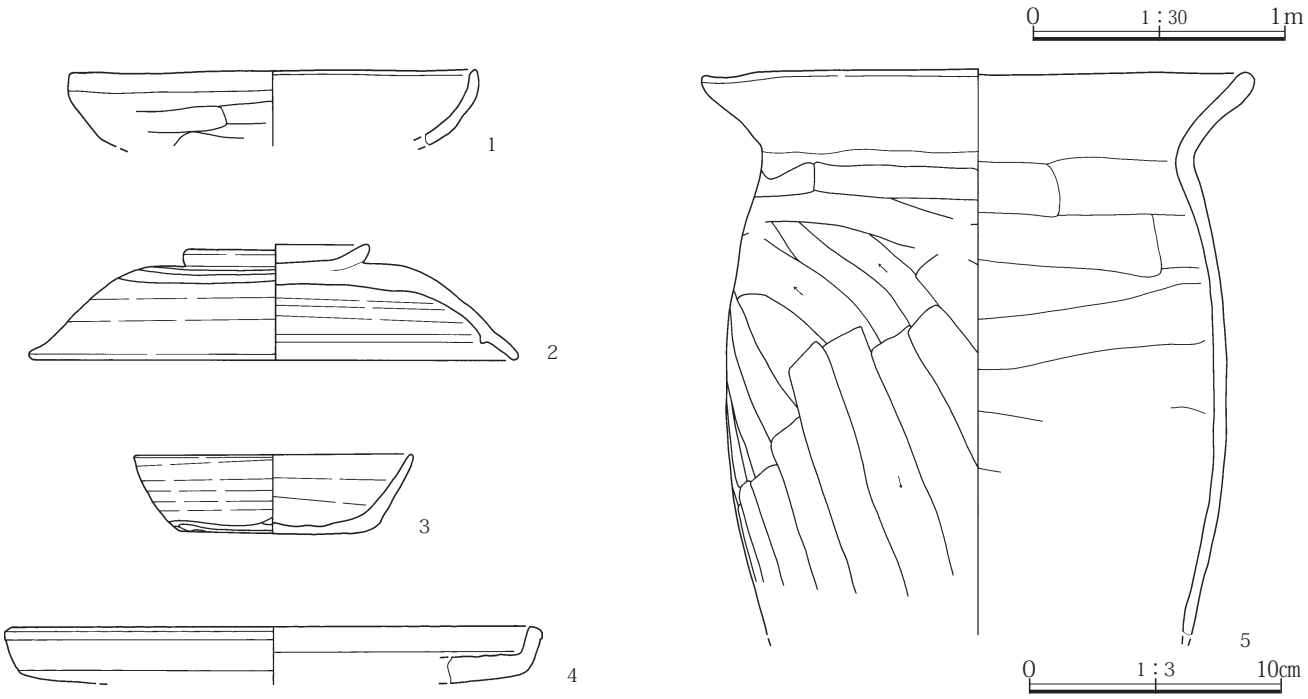
竈掘方



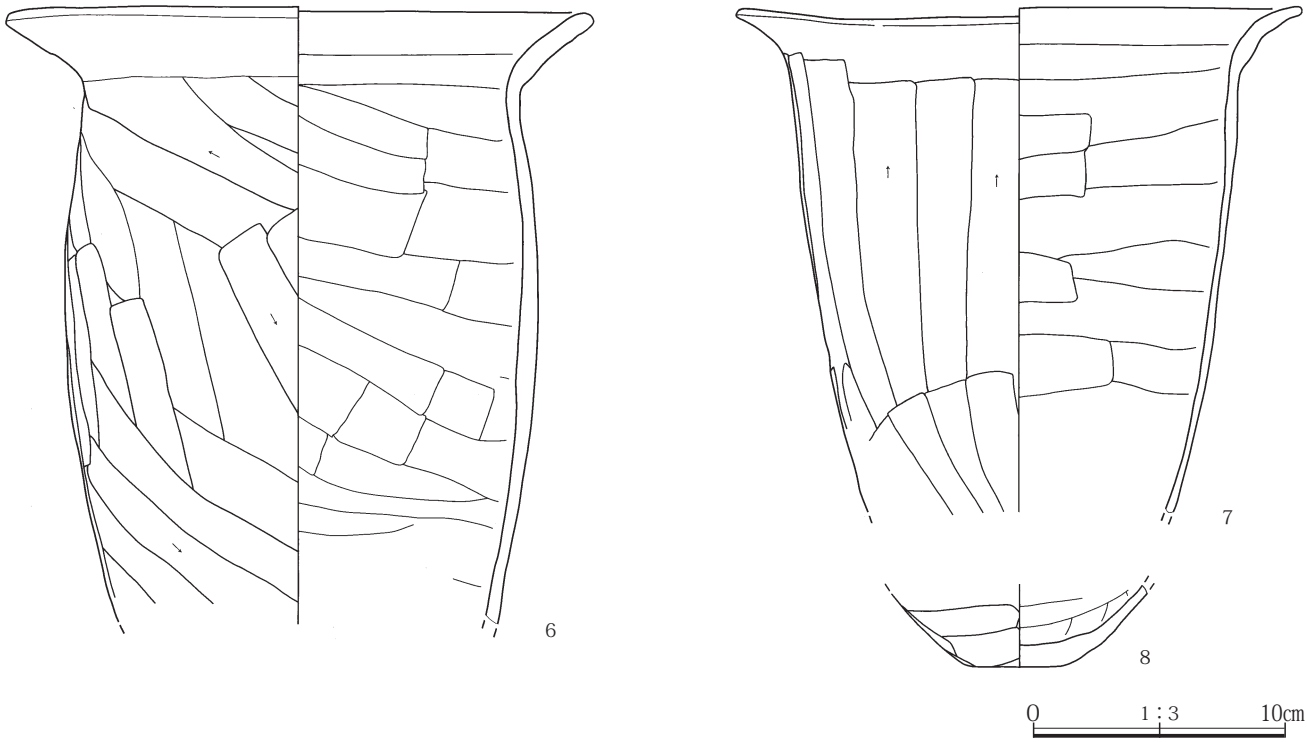


竈

1．暗褐色土　焼土粒を少量、As-Cを微量含む。締り・粘性あり。
2．暗褐色土　As-C・ローム塊を含む。粘性あり。
3．黒褐色土　ローム粒を多量、焼土粒・炭化物を微量含む。粘性あり。
4．にぶい黄褐色土　ローム塊主体。焼土小塊を多量含む。締り・粘性あり。
5．灰黄褐色土　明黄褐色土小塊を多量含む。粘性あり。
6．黒褐色土　As-C・焼土粒・ローム粒を含む。締り弱。粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
8．黒褐色土　焼土粒を多量、炭化物・As-Cを微量含む。締りあり。粘性強。
9．明黄褐色土　ローム塊主体。締りあり。粘性強。
10. 明黄褐色土　ローム大塊を含む。締り・粘性あり。
11. 灰黄褐色土　粘質土。明黄褐色土小塊を多量含む。締り強。粘性あり。
12. 暗褐色土　焼土粒を多量含む。締り弱。粘性あり。
13. 明黄褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
14. 褐灰色土　焼土粒・ローム小塊を含む。締り弱。粘性あり。
15. にぶい黄褐色土　ローム小塊を少量含む。締り・粘性あり。
16. 黒褐色土　ローム粒を少量含む。締り弱。
17. 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土・ローム小塊・粒を含む。締り・粘性あり。
18. 黒褐色土　ローム大塊・焼土小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。



第110図　37号竪穴建物（２）



第111図　37号竪穴建物（３）

掘方　起伏が大きく、床面から数cmのところもあるが20cmほど掘り込まれているところが多い。

竈　東壁やや南寄りの位置に設置している。規模は長軸110cm、袖幅87cmを測る。煙道の立ち上がりが急角度で、壁外への張り出しが少なく、37cmである。焚口から煙道の上部までの土層中に多量の焼土塊を含み、燃焼部の底部に焼土が厚く堆積している。また、焚口からその付近の床面にかけて炭化物を含む灰層を検出した。長期間にわたってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　建物の北東隅に設置している。規模は長径55cm、短径53cmのほぼ円形、深さ35cmを測る。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　ほぼ全周している。幅10cm～15cm、深さ５cm～10cmを測る。

遺物　床面付近や埋没土中から土師器、須恵器、石製品などの遺物が多数出土した。掲載した遺物は、１～４：土師器の杯（１は床面直上、２は床面から７cm）、５：須恵器の高杯、6・7：土師器の台付甕、8：土師器の甕、9：須恵器の甕、10：磨石（床面直上）、11：砥石（床面直上）である。

所見　本遺跡において、貯蔵穴を竈の左側で検出したのは、この建物のみである。竈、貯蔵穴の位置と硬化面の範囲から、出入り口が南壁の中央付近にあった可能性が高い。時期は床面直上で出土した遺物から７世紀第３四半期である。

２区47号竪穴建物（第115～117図、第８表、PL.27・56）

調査区東側、46号竪穴建物の南東約20mの位置にある。

位置　X＝47,899～47,904　Y＝-74,523～-74,528

重複遺構　40号溝と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　多少ゆがみがあるが、隅丸正方形に近い形状である。

主軸方位　N－77°－E

規模　東西3.89m　南北4.14m。

床面積　12.25㎡

埋没土層　As-C・焼土・炭化物等を含む暗褐色土及び黒褐色土で埋没している。層状の炭化物や炭化材が所々に見られる。

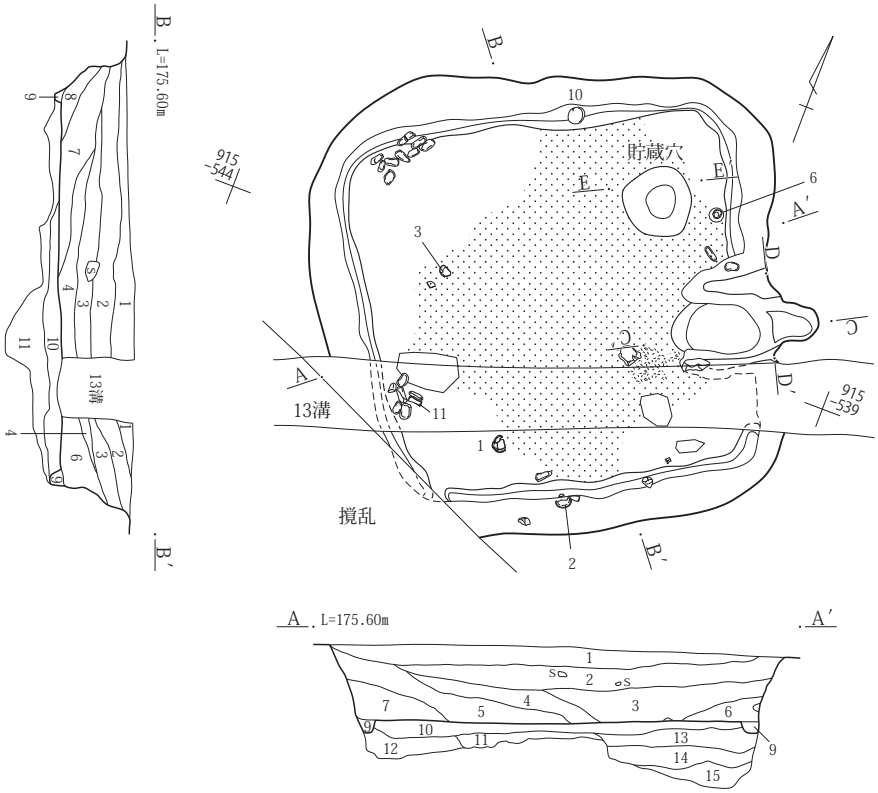
壁高　31～55cm

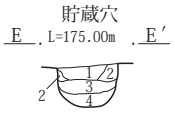
床面　ほぼ平坦であるが、北東に向い緩やかに傾斜している。竈の焚口周辺で粘土を検出した。

掘方　床面から数cmで、細かい凹凸が見られる。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸

２区37号竪穴建物

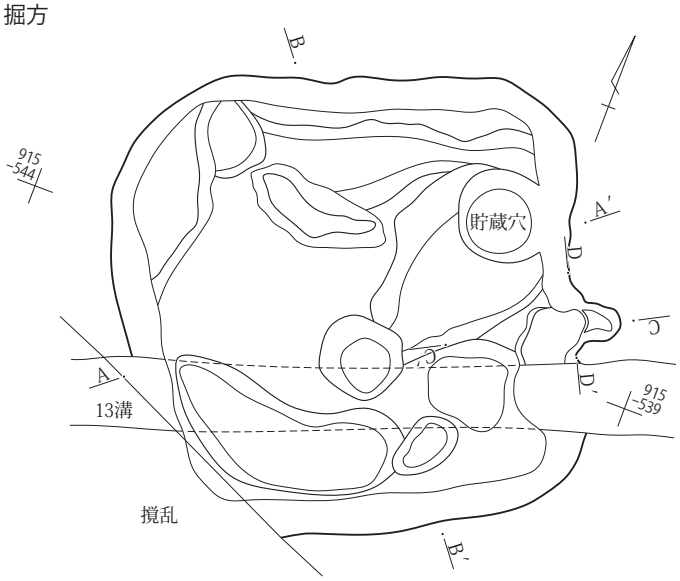


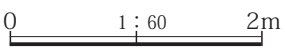


貯蔵穴
1．暗褐色土　褐色土塊状を少量、軽石粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を微量含む。
3．暗褐色土　褐色土・焼土・炭化物を含む。
4．褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

46号竪穴建物
1．暗褐色土　軽石粒を少量､焼土･炭化物･ローム塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を多量、焼土・礫を含む。
3．暗褐色土　焼土・炭化物を多量、軽石粒・ローム塊を少量含む。
4．暗褐色土　にぶい黄褐色土・軽石粒を少量含む。
5．暗褐色土　ローム塊を多量、軽石粒を少量、炭化物を微量含む。
6．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、焼土・炭化物・小礫を微量含む。
7．暗褐色土　軽石粒を多量、黒褐色土を少量、焼土･ローム塊を微量含む。
8．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム塊を微量含む。
9．黒褐色土　ローム塊を多量、軽石粒を微量含む。粘性あり。
10．暗褐色土　ローム塊を多量、軽石粒・焼土・炭化物を微量含む。締りあり。
11．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒・ローム中塊を含む。
12．暗褐色土　黒褐色土・軽石小塊を少量、焼土粒を微量含む。
13．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒・炭化物・ローム粒を微量含む。
14．暗褐色土　褐色土・にぶい黄橙色粘質土塊を多量含む。
15．褐色土　黒褐色土塊・焼土粒を含む。

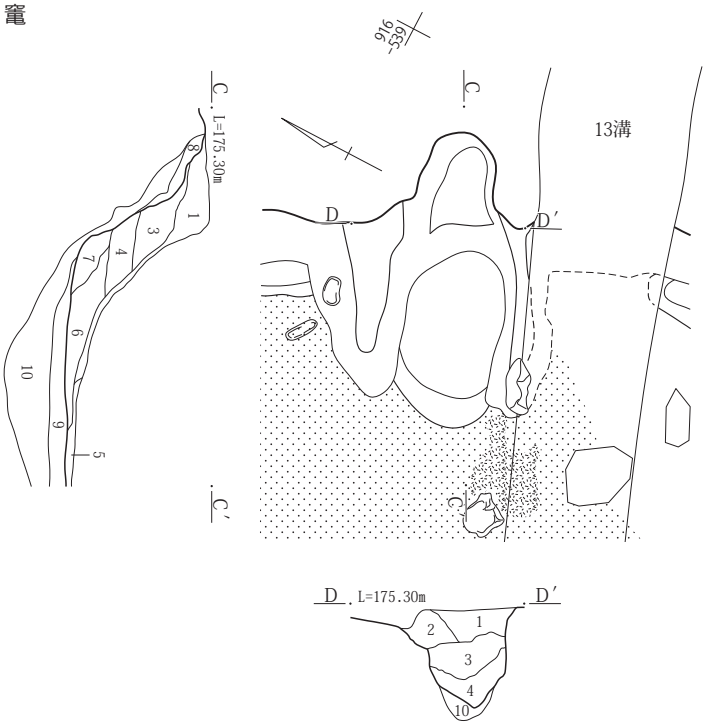
掘方



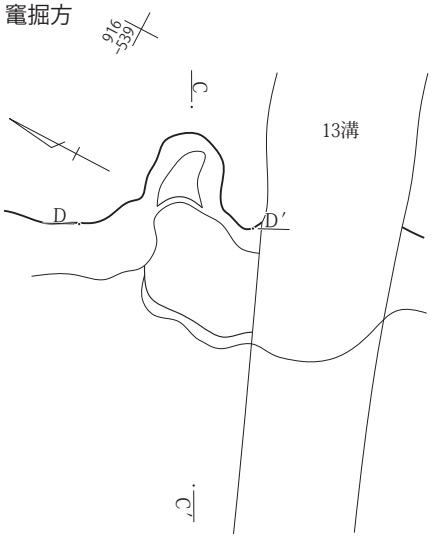


第112図　46号竪穴建物（１）

竈



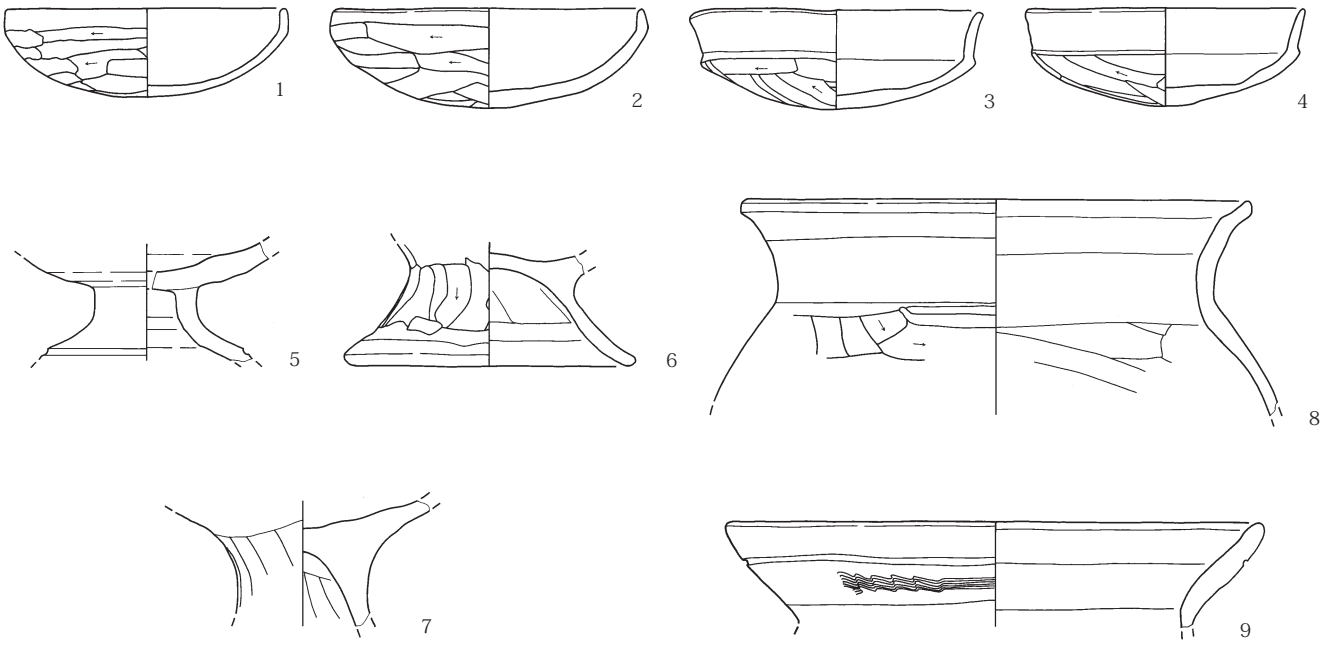
竈掘方



竈

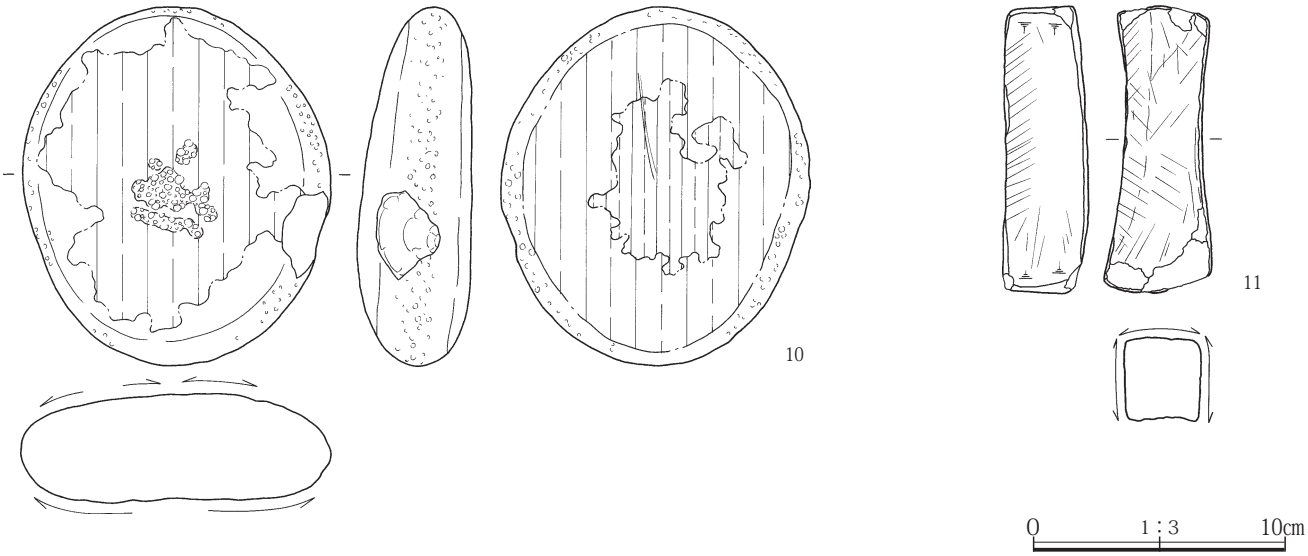
1．暗褐色土　軽石粒・焼土を微量含む。
2．暗褐色土　明黄褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
3．暗褐色土　焼土を多量含む。
4．暗褐色土　焼土・炭化物・ローム小塊を微量含む。
5．褐色土　暗黒褐色土・軽石粒・焼土を微量含む。
6．暗褐色土　焼土を多量、軽石粒・炭化物を微量含む。
7．暗褐色土　焼土・灰を含む。
8．暗褐色土　焼土塊・にぶい黄橙色粘質土塊・ローム塊を少量含む。
9．暗褐色土　焼土塊を多量、黒褐色土・軽石粒少量含む。上部に灰層あり。
10．暗褐色土　ローム塊を多量、軽石粒・焼土・炭化物を微量含む。締りあり。

0　1：30　1m



0　1：3　10cm

第113図　46号竪穴建物（２）



第114図　46号竪穴建物（３）

113cm、袖幅142cmを測る。焼土の量が少なく竈構築材の検出が難しかったため、調査時の破壊により、左袖上部及び燃焼部の多くが失われてしまったが、掘方及び右袖を確認することができ、そこで焼土･灰を少量検出した。拳大～頭大の石を使用し、明黄褐色土を多量に含む暗褐色土で構築されていたとみられる。

貯蔵穴　床面では確認できなかったが、掘方の調査で建物の南東隅に貯蔵穴の可能性のある掘り込みを確認した。掘方面での長径は70cm、短径64cm、床面からの深さは22cmであった。

柱穴　床面で２基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

Ｐ１　41×27×12　　Ｐ２　32×25×10

共に浅いため、主柱穴である可能性は低い。

壁溝　確認できなかった。

遺物　竈付近や埋没土中から土師器や須恵器、鉄製品など、遺物が多数出土した。掲載した遺物は、１～５：土師器の杯、６・７：須恵器の杯蓋（６は床面直上）、８～10：同杯、11：同台付杯（床面から８cm）、12：同盤（竈掘方）、13：同鉢、14～17：同壺、18：同甕、19：釘（床面直上）である。

所見　層状の炭化物や炭化材が埋没土中に見られた。床面での確認ができなかったため、明らかではないが、建物が焼失したと考えることもできる。床面直上やその付近で出土した遺物から、時期は７世紀末～８世紀初頭である。

２区48号竪穴建物（第118～122図、第８表、PL.27・28・56～58）

調査区東側、47号竪穴建物の５m程南東にある。

位置　X＝47,895～47,900　Y＝-74,520～-74,524

重複遺構　なし

形状　長方形

主軸方位　N－79°－E

規模　東西3.58m　南北4.68m

床面積　12.33㎡

埋没土層　主にAs-C・焼土・炭化物を含む暗褐色土で埋没している。上層は焼土・炭化物を多量に含み、床面付近の一部にも層状の堆積が見られる。

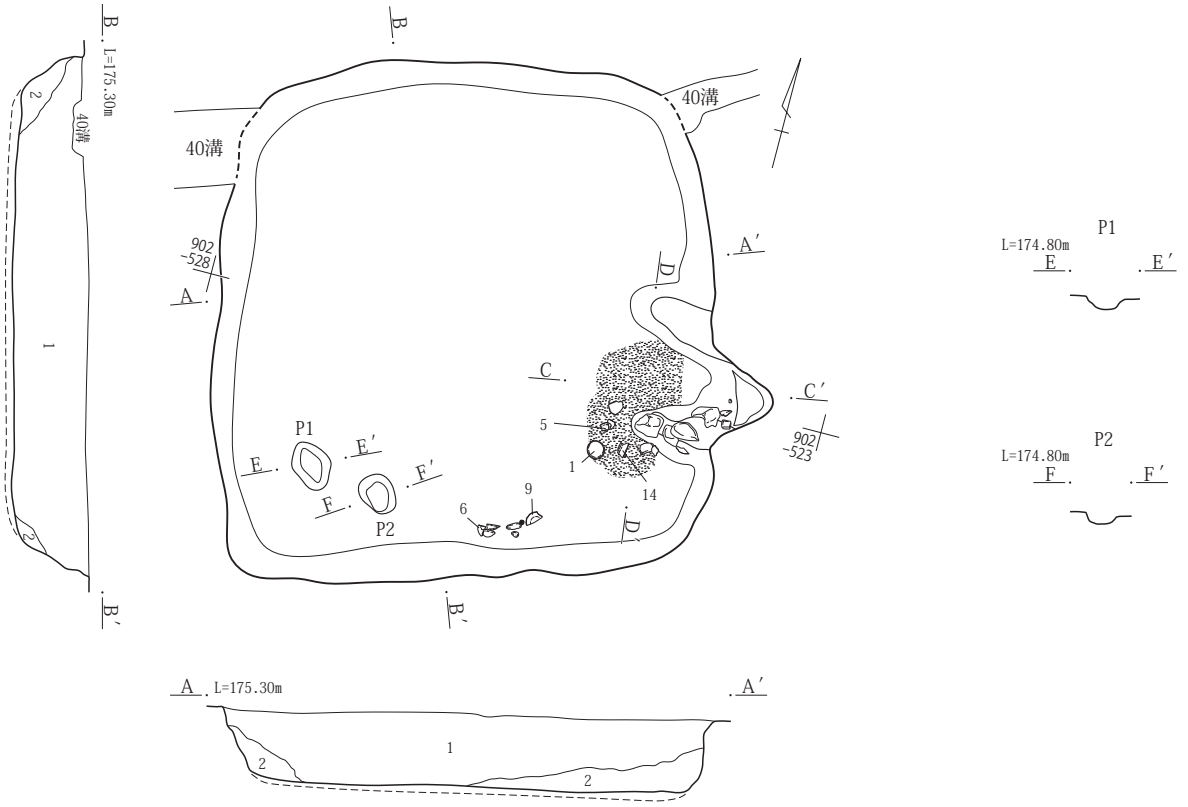
壁高　37～66cm

床面　起伏が見られる。建物の南東隅・南西隅・北西隅を除く範囲で硬化面を確認した。

掘方　床面からの深さは概ね15cm程だが、所々深くなっている。また、細かい凹凸も見られる。

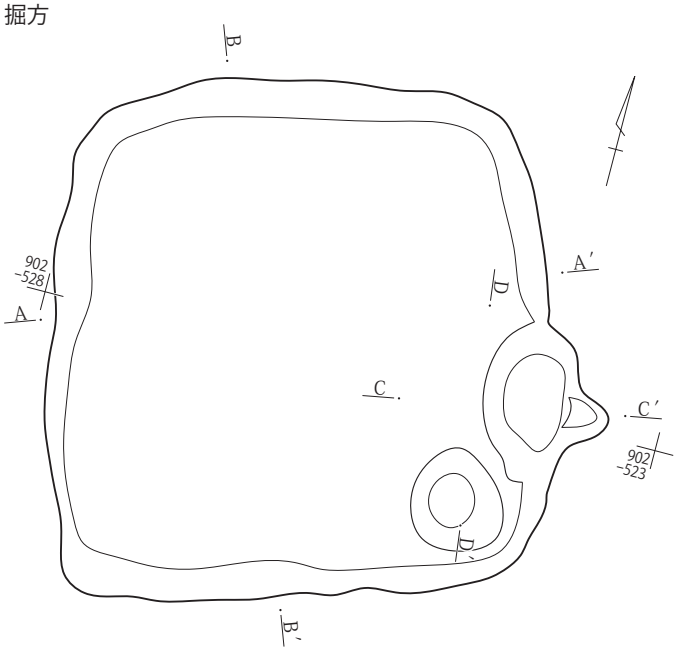
竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸133cm、袖幅137cmを測る。拳大～頭大の石を組み、黒色土塊を多量に含む明黄褐色粘質土で構築している。石は、大きめの石を下部に使用し、煙道方向に向い徐々に小さくなるように組んでいる。煙道の中段の上部には45cm×20cm×15cm程の天井石が使用されている。袖石の内側で比熱によるものとみられる変色を確認した。燃焼部の底部では焼土が多量に見られ、その下部から竈前の床面の２m×１m程の範囲にかけて灰を検出した。長期間にわ

２区47号竪穴建物



47号竪穴建物
１．暗褐色土　As-Cを多量、炭化物を層状に少量、焼土粒を微量含む。
２．黒褐色土　黒色粘質土塊を多量、褐色土塊を少量、As-Cを微量含む。

掘方



0　1：60　2m

第115図　47号竪穴建物（１）

竈

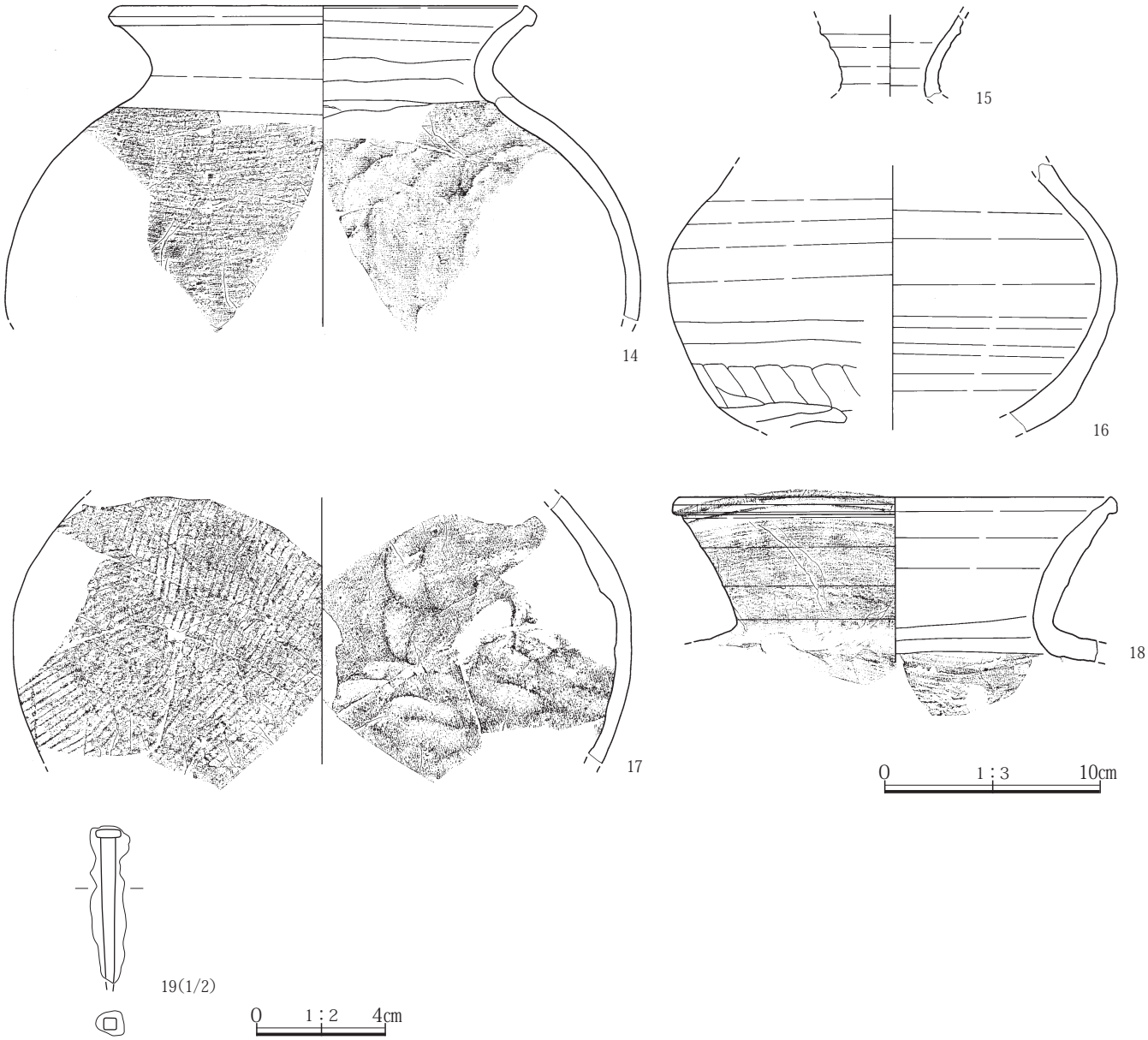
竈掘方

竈
1．灰黄褐色土　灰を少量、明黄褐色土を微量含む。
2．暗褐色土　明黄褐色土を少量、As-Cを微量含む。
3．暗褐色土　明黄褐色土を多量、As-Cを微量含む。
4．暗褐色土　明黄褐色土・As-Cを微量含む。

0　1：30　1m

0　1：3　10cm

第116図　47号竪穴建物（２）



第117図　47号竪穴建物（３）

たってよく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　ほぼ全周している。幅10cm～20cm、深さ10cm～15cm。

遺物　竈の焚口及びその周辺、建物西側の埋没土中から土師器や須恵器が多数出土した。掲載した遺物は、１～８：土師器の杯（６は床面から７cm）、９～11：須恵器の杯蓋、12・13：同杯、14：同高台付杯、15：土師器の小型壺、16～23：同甕（16・18・21は焚口、17は竈付近の床面直上）、24：須恵器の壺、25：同甕を掲載した。

所見　主軸方向が短く、横長の建物である。埋没土の上層に焼土・炭化物を多量に含み、床面付近の一部にも層状の炭化物の堆積が見られることから、建物が焼失した可能性がある。竈付近での出土遺物から、時期は８世紀第１四半期である。

２区49号竪穴建物（第123～125図、第８表、PL.28・58）

調査区東側、47号竪穴建物の10m程西にある。

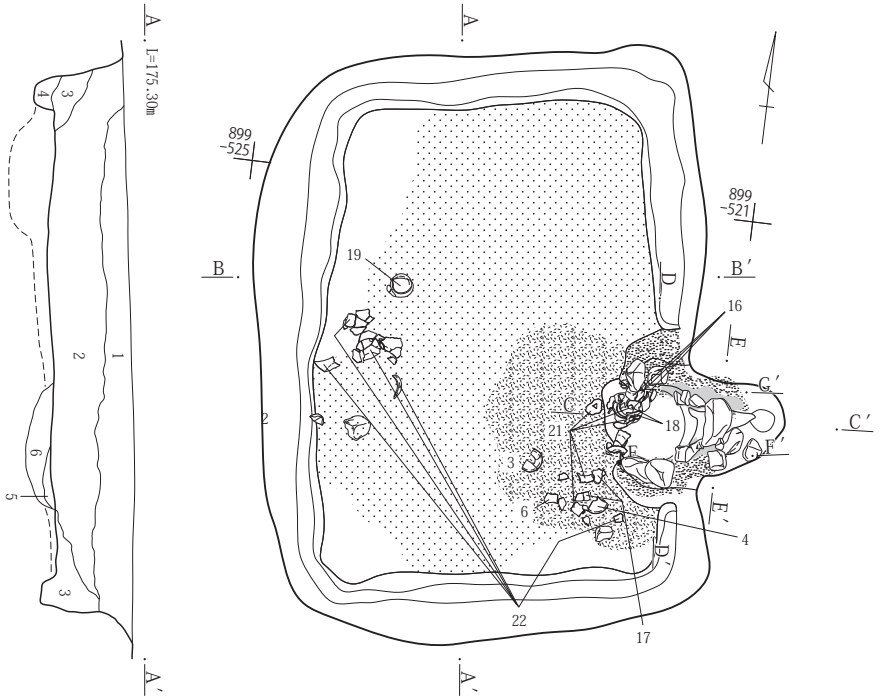
位置　X＝47,899～47,903　Y＝-74,531～-74,535

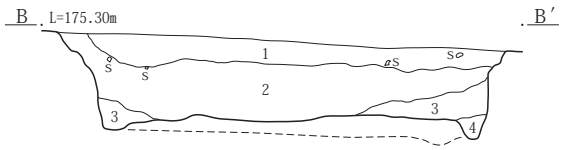
重複遺構　50号竪穴建物、40号溝と重複している。新旧関係は50号竪穴建物より新しく、40号溝より旧い。

形状　正方形に近いが、東部にゆがみがある。

主軸方位　N－107°－E

２区48号竪穴建物

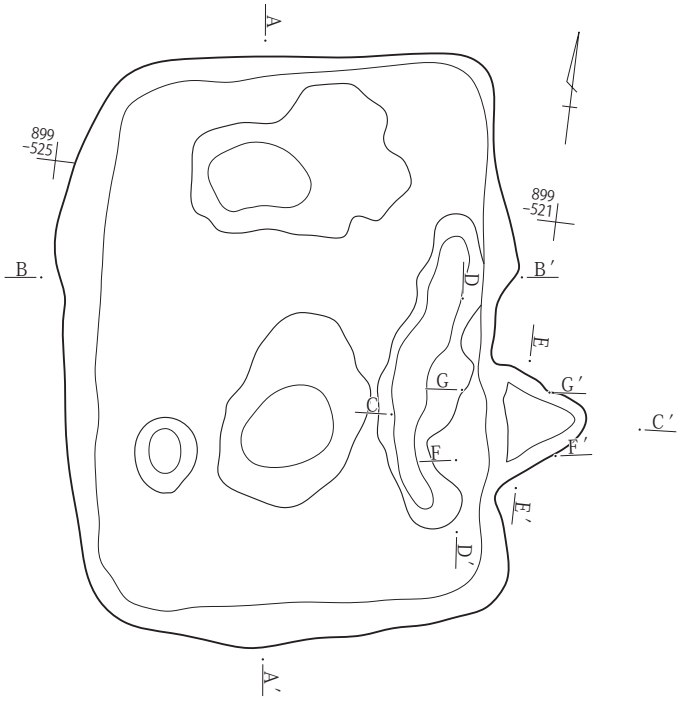




48号竪穴建物

1．暗褐色土　As-C・焼土・炭化物を多量、炭化物を微量含む。
2．暗褐色土　As-Cを多量、焼土・炭化物を少量含む。
3．黒褐色土　As-C・褐色土塊を少量含む。
4．暗褐色土　褐色土塊を多量、As-Cを微量含む。
5．暗褐色土　黒色土塊主体。明黄褐色土塊を少量含む。
6．暗褐色土　焼土塊を多量、黒色土塊・明黄褐色土塊・灰を少量含む。

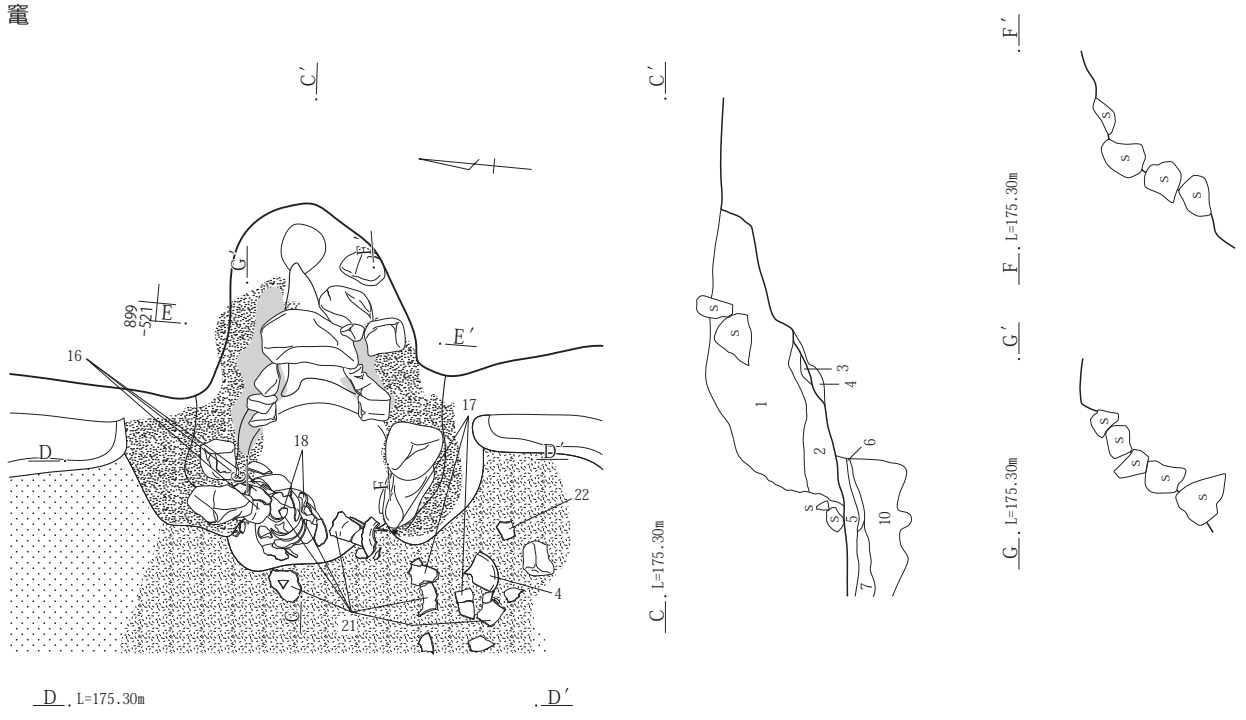
掘方

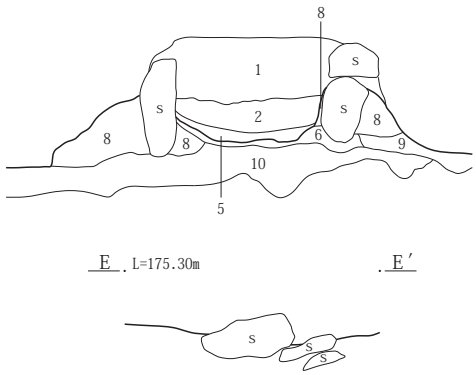


0　1：60　2m

第118図　48号竪穴建物（１）

竈

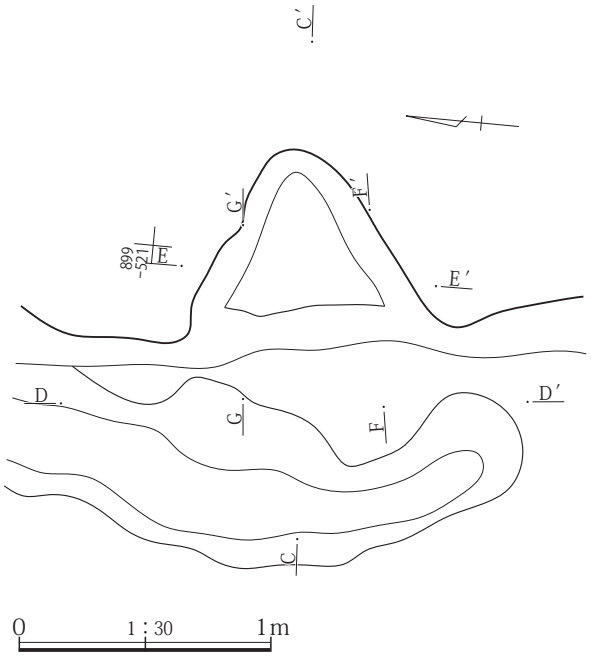


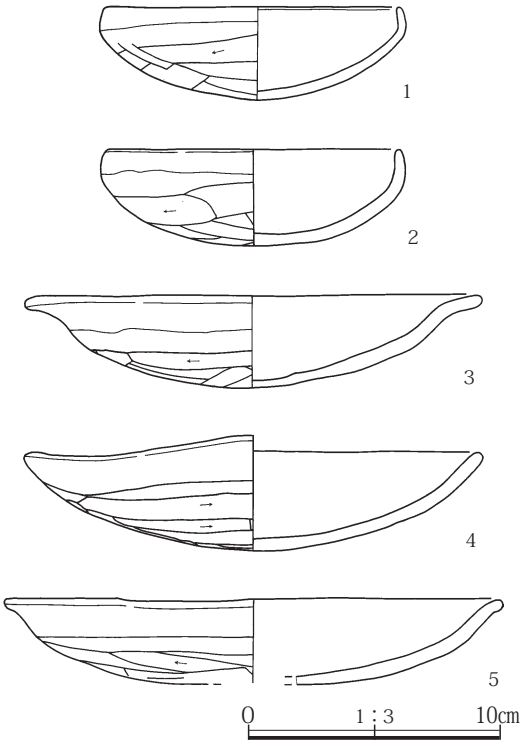


竈

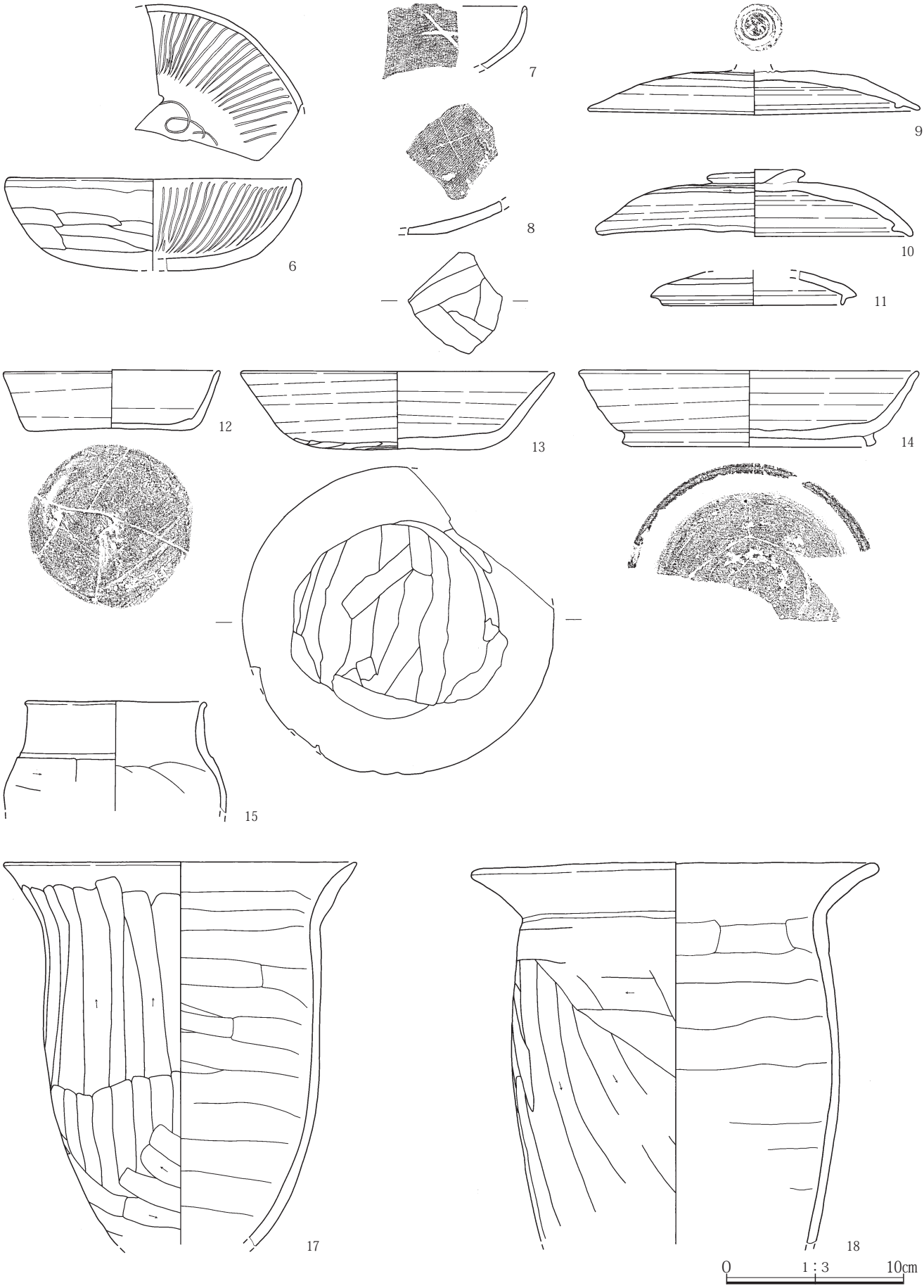
1．暗褐色土　黄褐色土塊・白色軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。
2．黄褐色粘質土　白色軽石・焼土粒を含む。
3．赤褐色土塊　焼土。硬く締まる。
4．褐灰色土　ふかふかの灰層。
5．褐灰色土　黒色炭化層。焼土・灰を多量含む。
6．にぶい黄橙色土　焼土・炭化物・灰を多量含む。
7．にぶい黄橙色土　焼土・炭化物・灰を少量含む。
8．明黄褐色土　黒色土塊を多量、焼土を微量含む。締りあり。
9．灰黄褐色土　焼土粒を多量、灰を少量、明黄褐色土を微量含む。
10．黒褐色土　明黄褐色土塊を多量、As-Cを微量含む。

竈掘方

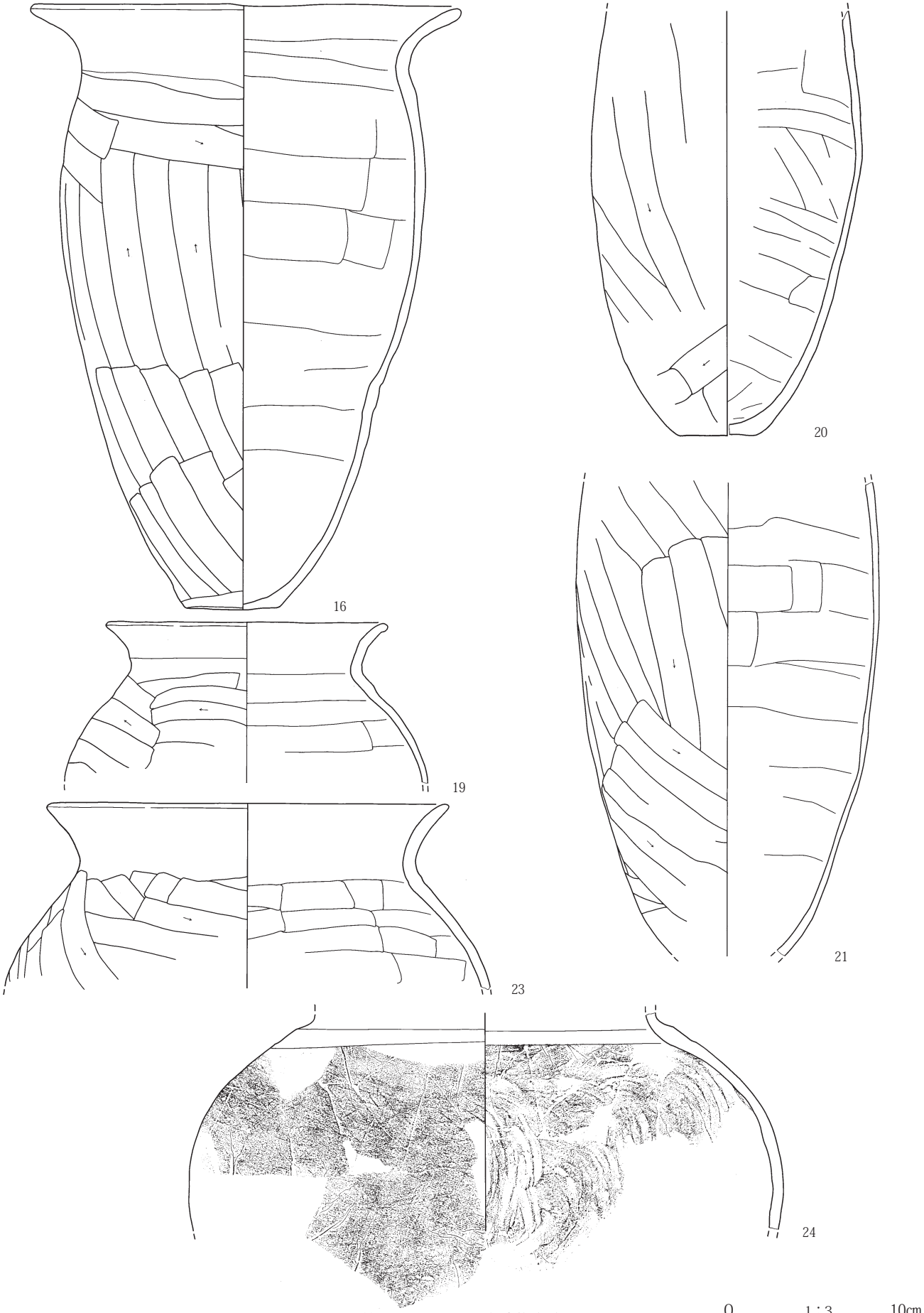




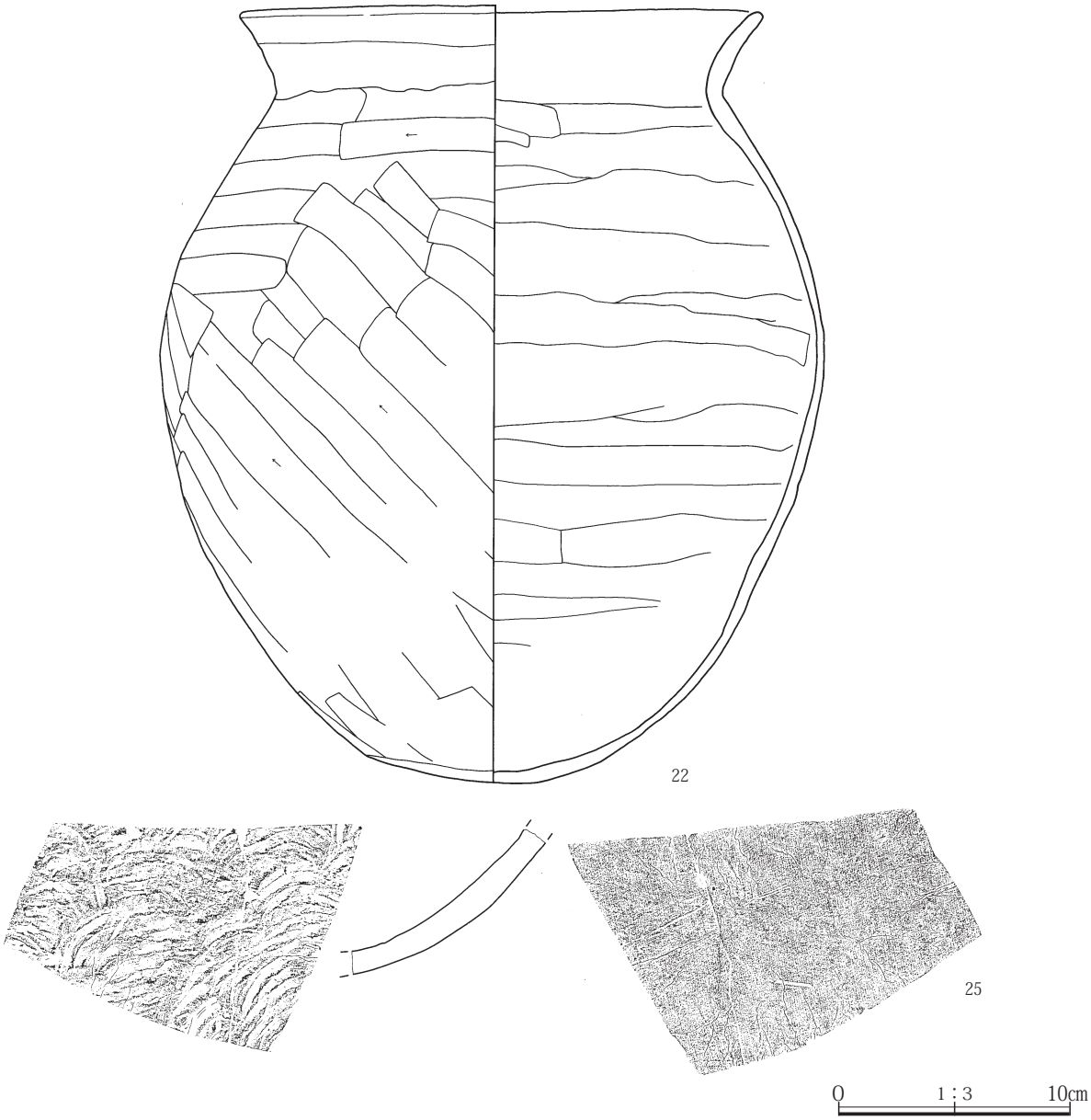
第119図　48号竪穴建物（２）



第120図　48号竪穴建物（３）



第121図　48号竪穴建物（４）



第122図　48号竪穴建物（５）

規模　東西3.74m　南北3.83m

床面積　11.21㎡

埋没土層　As-C・ローム小塊を含む暗褐色土によって埋没しており、周縁部には浅黄橙色軽石・ローム塊・礫を含む灰黄褐色土の三角堆積がみられる。

壁高　30～43cm

床面　ほぼ平坦であるが、北東に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から数cmのところが多いが、起伏があり、土坑状に深くなっている部分がある。また、細かい凹凸も見られる。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸157cm、袖幅135cmを測る。煙道部から燃焼部の底部では焼土を多量に含む層が見られ、その下部で炭化物・灰を検出した。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　床面で２基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

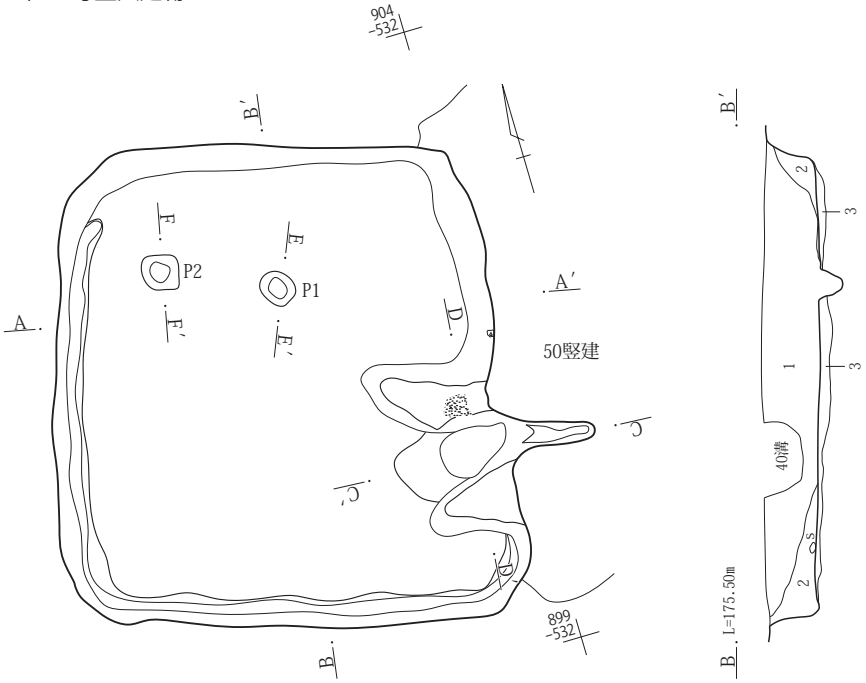
Ｐ１　28×25×22　　Ｐ２　36×31×15

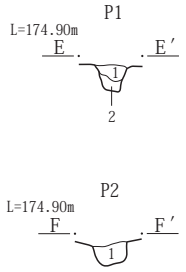
建物に対しての配置に偏りがあり、南部では確認できず、疑問が残るが、主柱穴の可能性もある。

壁溝　北東部を除く全周の3/4程の範囲で確認できた。幅は10cm～20cm、深さ１cm～３cmを測る。

遺物　竈内や埋没土中から多数の土師器や須恵器が出土

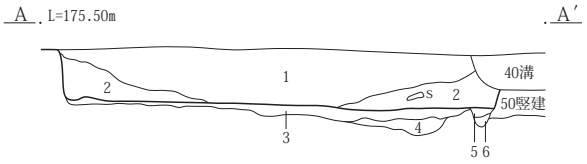
２区49号竪穴建物





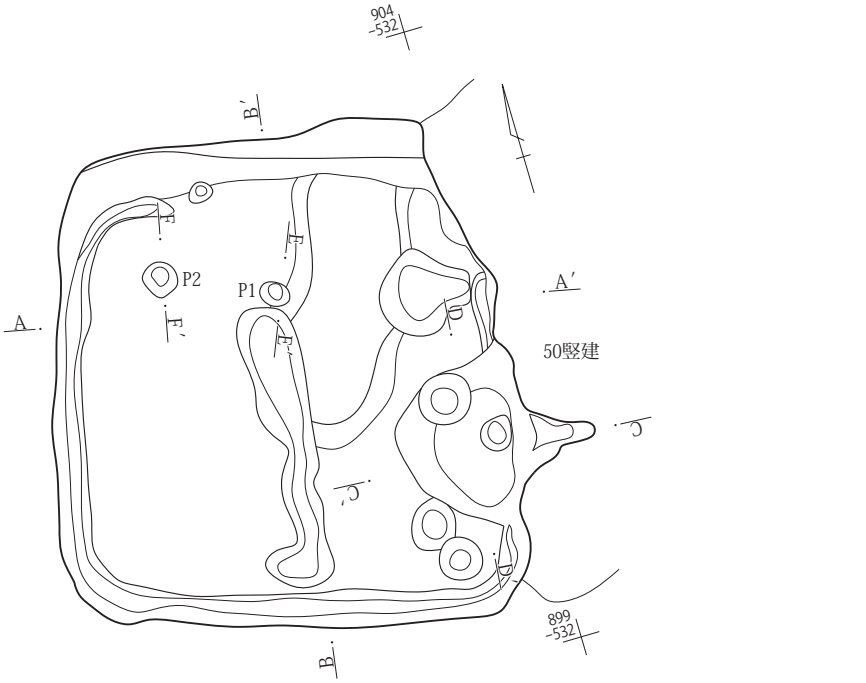
Ｐ１
１．にぶい黄褐色土　ローム小塊を多量含む。粘性強。
２．灰黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り強。粘性あり。

Ｐ２
１．にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量、黒色土小塊を少量含む。締り弱。粘性あり。



49号竪穴建物
１．暗褐色土　As-C・ローム小塊を下層に多量、炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
２．灰黄褐色土　浅黄橙色軽石・ローム塊・粒・礫を含む。締り・粘性あり。
３．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量、小礫を少量含む。粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　ローム小塊を少量含む。粘性あり。
５．にぶい黄褐色土　ローム塊主体。締りあり。粘性弱。
６．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。

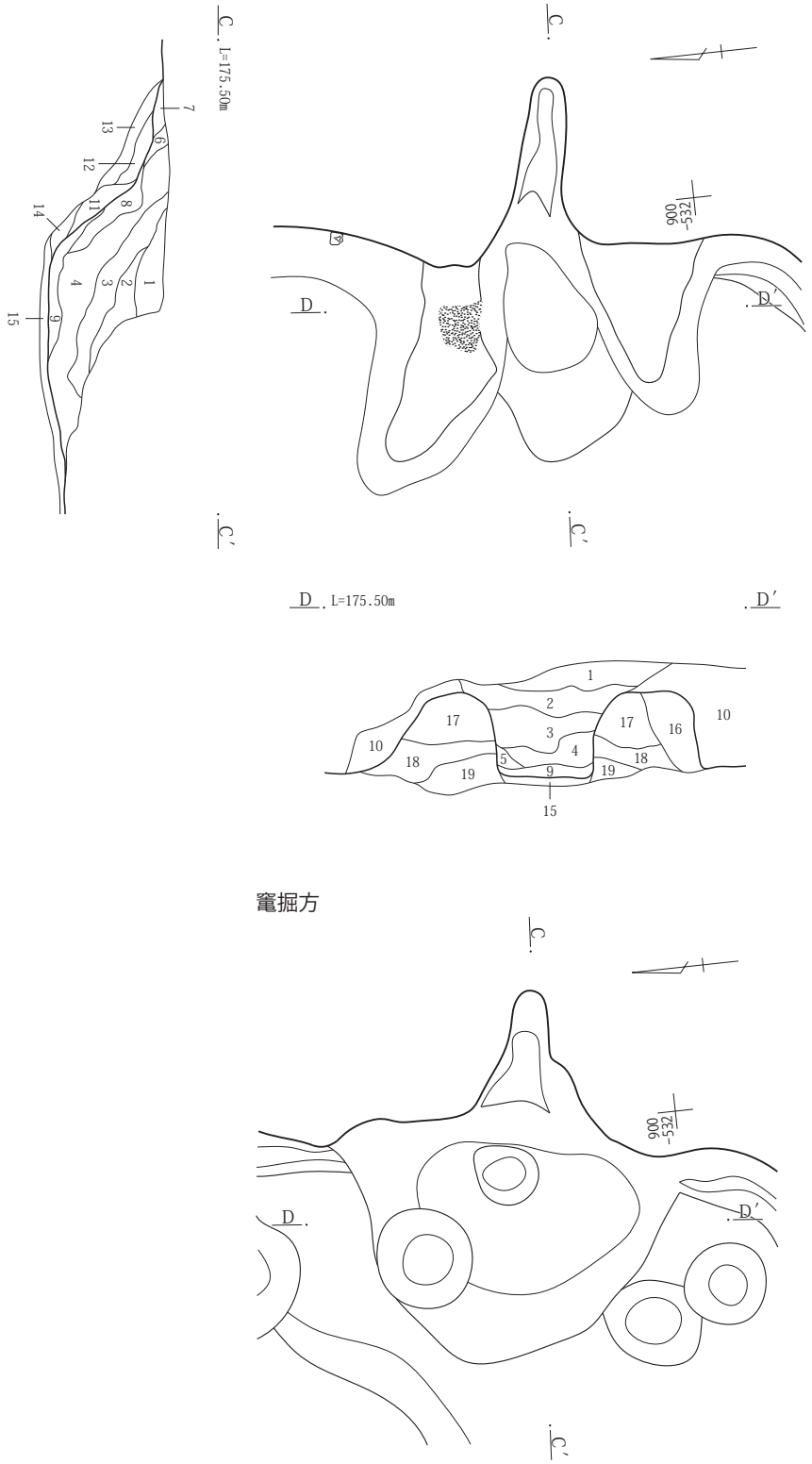
掘方



0　1：60　2m

第123図　49号竪穴建物（１）

竈

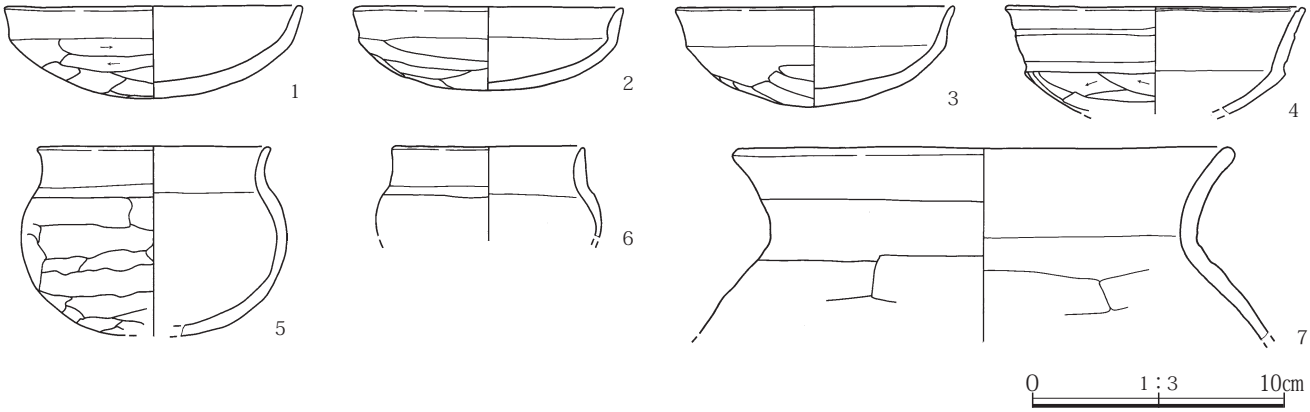


竈

1．黒褐色土　明黄褐色土小塊・小礫を含む。締り弱。粘性あり。
2．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土・小礫を含む。粘性強。
3．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土主体。締り弱。粘性強。
4．にぶい黄橙色土　灰黄褐色土塊・焼土小塊を含む。締り強。粘性あり。
5．にぶい黄橙色土　焼土小塊を多量、灰黄褐色土塊・灰を少量含む。粘性強。
6．灰黄褐色土　焼土塊を多量含む。締り強。粘性あり。
7．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量、焼土粒を微量含む。締り・粘性あり。
8．灰黄褐色土　焼土小塊を多量、にぶい黄橙色粘質土を少量含む。粘性あり。
9．にぶい黄橙色土　炭化物を多量、灰黄褐色土塊・灰を少量含む。締り弱。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　ローム塊・炭化物を含む。締り弱。粘性強。
11．褐色土　焼土小塊・粒を多量、浅黄橙色粘質土を少量含む。締り強。粘性あり。
12．褐灰色土　浅黄橙色粘質土・灰・焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
13．灰白色土　粘質土。黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
14．褐灰色土　灰を多量、焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
15．黄褐色土　ローム小塊・粒・礫を含む。締り・粘性あり。
16．黒褐色土　浅黄橙色軽石を少量含む。締り強。粘性あり。
17．にぶい黄褐色土　浅黄橙色粘質土塊・ローム小塊を含む。締り・粘性あり。
18．暗褐色土　浅黄橙色粘質土を少量、浅黄橙色軽石を微量含む。粘性あり。
19．黒褐色土　浅黄橙色粘質土塊を多量、焼土小塊・灰を少量含む。締り弱。粘性あり。

0　1：30　1m

第124図　49号竪穴建物（２）



第125図　49号竪穴建物（３）

した。掲載した遺物は、１～４：土師器の杯（１は掘方、４は竈掘方）、５・６：同小型壺、７：同甕（竈掘方）である。

所見　50号竪穴建物と重複しており、建物東部の形状や柱穴、貯蔵穴など、はっきりしない建物である。竈付近で出土した遺物から、時期は６世紀末～７世紀初頭である。

２区50号竪穴建物（第126～128図、第８表、PL.28・29・58）

調査区東側、49号竪穴建物の東にあり、重複している。

位置　X＝47,899～47,903　Y＝-74,528～-74,532

重複遺構　49号竪穴建物、40号溝と重複している。新旧関係は本遺構が最も旧い。

形状　重複により北西部は明らかではないが、確認できた範囲の形状から、ほぼ正方形とみられる。

主軸方位　N－65°－E

規模　東西3.97m　南北3.75m

床面積　（9.23㎡）

埋没土層　埋没土上層はローム塊・にぶい黄橙色軽石・焼土粒を含む黒褐色土、床面付近はにぶい黄橙色粘質土塊・黒色土・焼土塊を含むにぶい黄褐色土であり、周縁部はローム小塊・粒・にぶい黄橙色軽石を含む暗褐色土が三角堆積している。

壁高　50～55cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。建物の中央及び南東部の広い範囲で硬化面を確認した。

掘方　床面から平均20cm程の深さであるが、起伏があり、床面からの深さが数cmの箇所がある一方、30cmに及ぶ所もある。また、細かい凹凸も見られる。

竈　東壁の南寄りに設置している。燃焼部が東壁に入り込む位置にある。煙道の立ち上がりが急角度であり、壁外への張り出しは70cm程である。規模は長軸135cm、袖幅106cmを測り、袖はにぶい黄橙色粘質土と暗褐色土の混土を使用して構築している。検出された焼土の量は多量ではないが、燃焼部の底部の広範囲に焼土を含む層があり、その下部に炭化物・灰を多量に含む層を確認した。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は長径89cm、短径49cm、深さ29cmを測る。

柱穴　掘方の調査で２基のピットを確認した。掘方面でのそれぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×床面からの深さ、cm）である。

Ｐ１　24×21×11　　Ｐ２　23×21×22

Ｐ１は浅く、主柱穴の可能性は低い。Ｐ２は、床面の硬化範囲と重なっており、出入り口に関わるものの可能性がある。

壁溝　確認できた床面の周縁部全体で検出した。幅10cm～15cm、深さ10cm～20cm。

遺物　竈付近や埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１～３：土師器の杯、４：須恵器の杯蓋（壁溝内）、５・６：同甕（５は焚口）である。

所見　竈付近などで出土した遺物から、時期は６世紀後半である。

２区51号竪穴建物（第129～134図、第８表、PL.29・30・58・59）

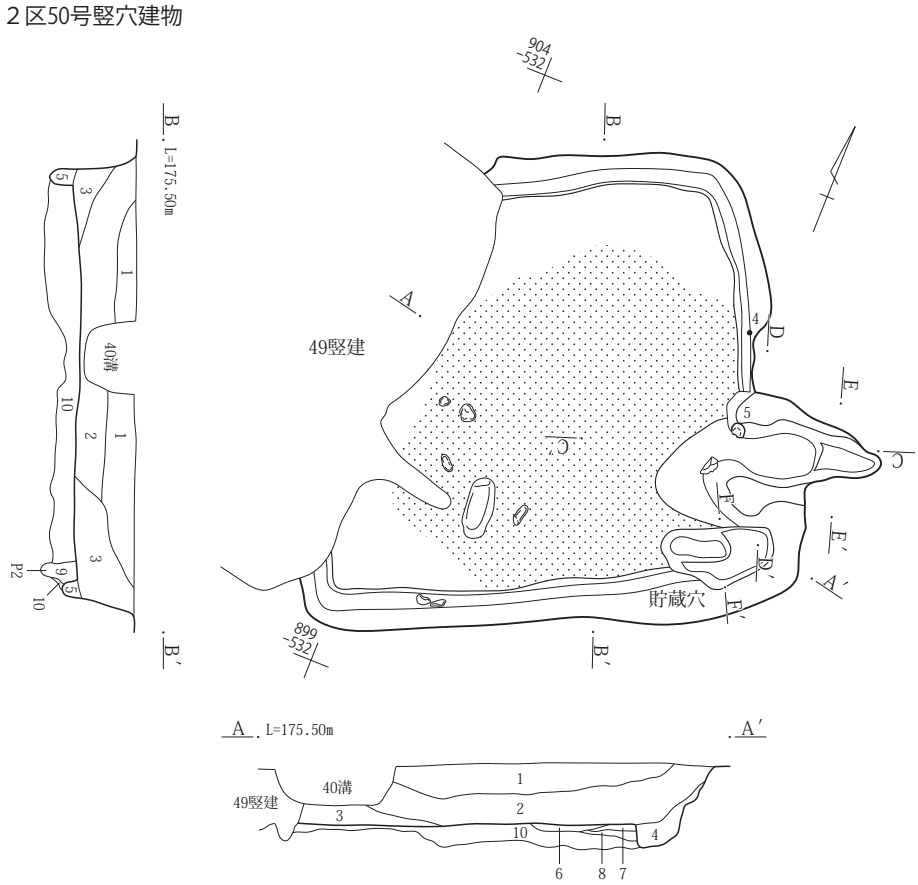
調査区東側、49号竪穴建物の８m程北にある。

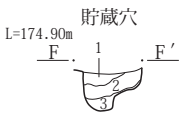
位置　X＝47,904～47,911　Y＝-74,529～-74,535

重複遺構　55号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　長方形

２区50号竪穴建物

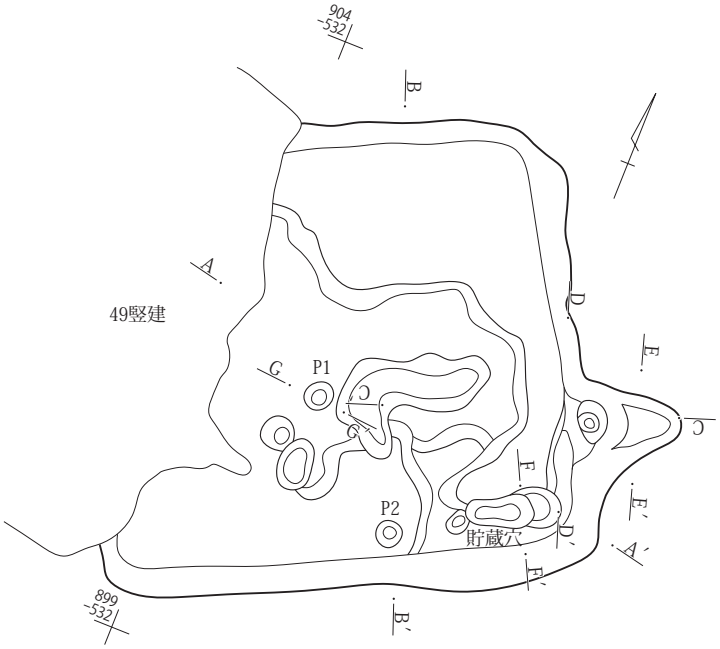


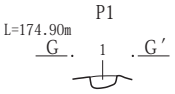


貯蔵穴
1．暗褐色土　焼土粒を少量、軽石粒・炭化物・ローム粒を微量含む。
2．暗褐色土　焼土粒・ローム小塊を微量含む。
3．暗褐色土　焼土粒を微量含む。締り弱。

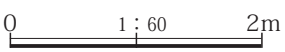
50号竪穴建物
1．黒褐色土　ローム塊・にぶい黄橙色軽石を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、黒色土・焼土塊を少量含む。締りあり。粘性強。
3．暗褐色土　ローム小塊・粒を多量、にぶい黄橙色軽石を少量含む。粘性あり。
4．褐色土　ローム塊・粒を少量含む。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を少量含む。粘性あり。
6．灰黄褐色土　灰主体。焼土小塊を少量含む。締り強。粘性あり。
7．にぶい黄橙色土　粘質土。締り・粘性あり。カマド崩落土。
8．褐色土　焼土を多量、ローム塊を少量含む。締り弱。粘性あり。
9．褐色土　ローム粒を少量、浅黄橙色軽石を微量含む。締り弱。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り強。粘性あり。

掘方



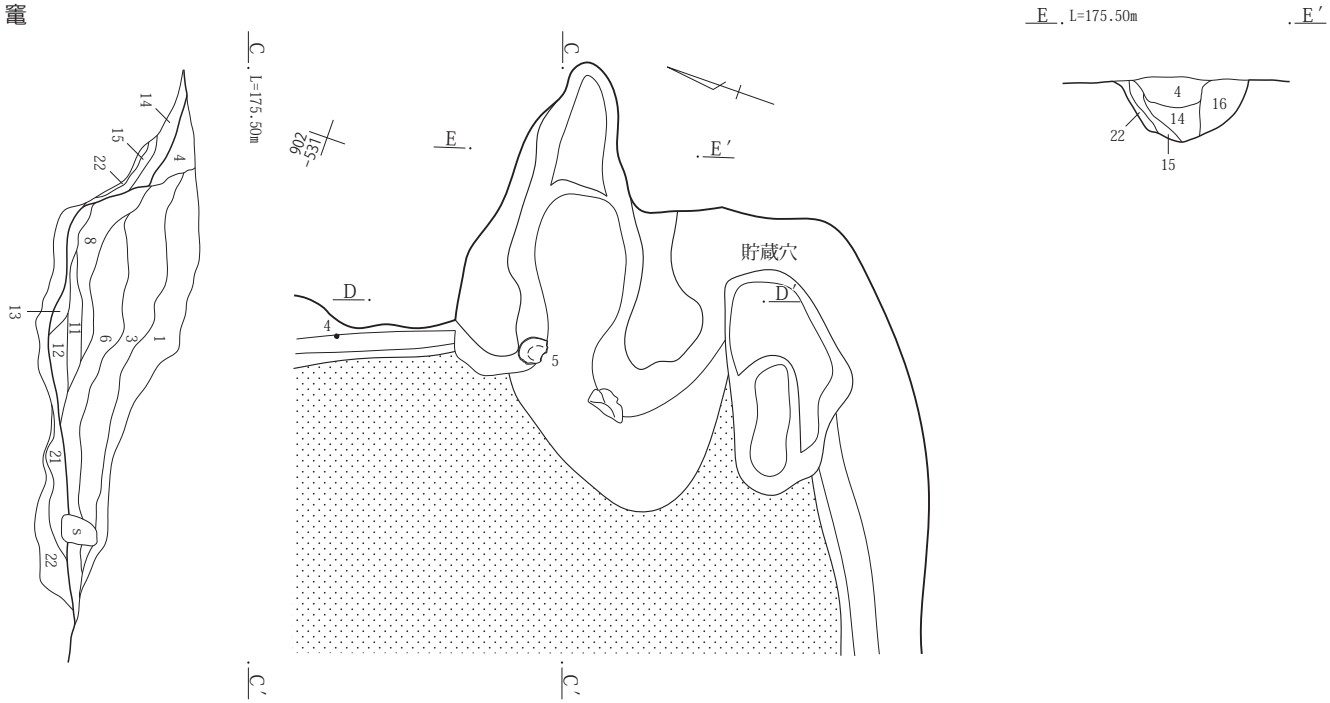


P１
1．灰黄褐色土　ローム小塊を少量含む。締り・粘性あり。



第126図　50号竪穴建物（１）

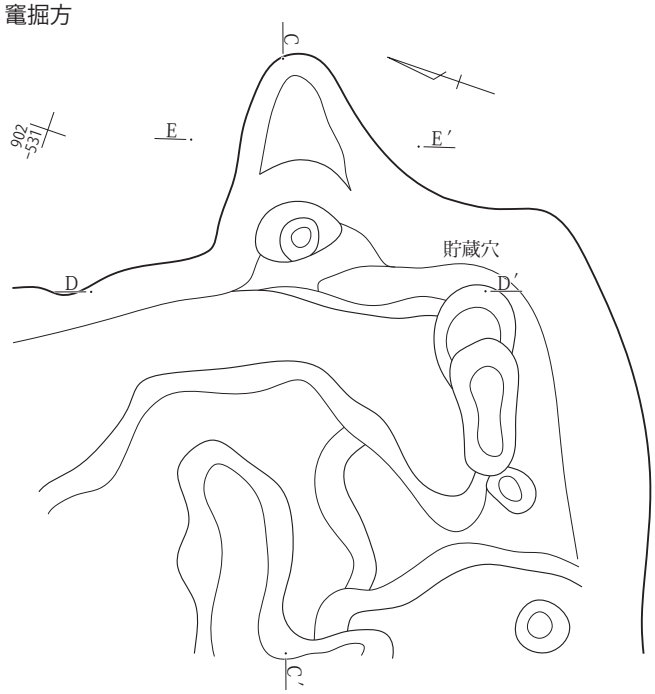
竈



竈

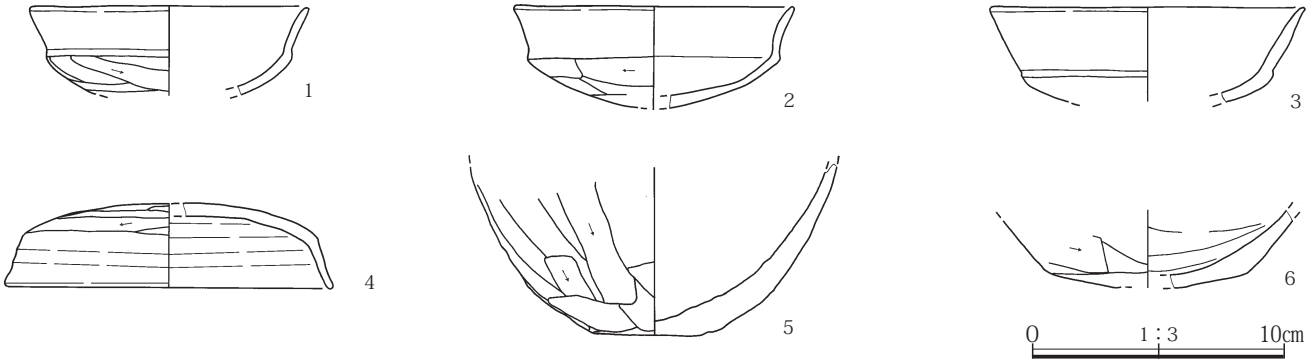
1．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・炭化物・焼土粒を少量含む。粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、浅黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
3．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量含む。締りあり。粘性強。カマド構築材崩落土。
4．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊主体。黒褐色土を含む。締り強。粘性あり。
5．灰黄褐色土　焼土小塊を多量、ローム塊・にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り・粘性あり。
6．暗褐色土　焼土粒・炭化物を多量、にぶい黄橙色粘質土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・焼土粒を微量含む。締り弱。粘性あり。
8．にぶい黄橙色土　にぶい黄橙色粘質土大塊を多量含む。締り・粘性あり。
9．黒褐色土　焼土粒を少量含む。粘性あり。
10. にぶい黄褐色土　ローム粒・焼土粒を多量含む。粘性あり。
11. 浅黄橙色土　焼土小塊を多量含む。粘性あり。
12. 黒色土　灰・炭化物主体。粘性あり。
13. 黒褐色土　暗褐色土塊・焼土小塊・炭化物・灰を含む。締り・粘性あり。
14. 黒褐色土　炭化物・灰を少量含む。締り弱。粘性あり。
15. にぶい黄褐色土　焼土小塊を多量、にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り・粘性あり。
16. にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。締り弱。粘性あり。
17. 暗褐色土　浅黄橙色軽石・にぶい黄橙色粘質土を少量含む。粘性あり。
18. にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、明赤褐色焼土塊を少量含む。締り・粘性あり。
19. にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、暗褐色土を少量含む。締り・粘性あり。
20. にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。締り弱。粘性あり。
21. にぶい黄褐色土　ローム塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。
22. にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り・粘性あり。
23. にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・暗褐色土を多量含む。締り・粘性あり。
24. 褐灰色土　灰主体。締り・粘性弱。
25. にぶい黄褐色土　縞状の焼土・にぶい黄橙色粘質土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
26. にぶい黄褐色土　焼土粒を多量、炭化物・灰を少量含む。締り弱。粘性あり。
27. 褐色土　焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。

竈掘方



第127図　50号竪穴建物（２）

0　1：30　1m



第128図　50号竪穴建物（３）

主軸方位　Ｎ－77°－Ｅ

規模　東西5.58m　南北4.96m

床面積　20.70㎡

埋没土層　埋没土上層は主に、焼土・炭化物・浅黄橙色軽石を含む黒褐色土、床面付近はローム塊・焼土・炭化物を含むにぶい黄褐色土である。周縁部には浅黄橙色軽石・黒褐色土塊を含む褐色土が三角堆積している。

壁高　53～60㎝

床面　ほぼ平坦である。建物の四隅を除く広い範囲で硬化面を確認した。更に、硬化した床面の下に旧床面とみられる平坦な面を検出した。

掘方　床面から10㎝程のところが多く、起伏や細かい凹凸がある。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸128㎝、袖幅115㎝を測り、にぶい黄橙色粘質土を使用して袖を構築している。燃焼部底部に焼土を多量に含む層があり、その下部に灰・炭化物を検出した。更にその下部からも焼土が多量に出土しており、長期間にわたってよく使用されていたと考えられる。また、北壁のほぼ中央でも竈を検出した。燃焼部、袖が残っていないことから、建物の建て替え前の竈と考えられる。規模は長軸156㎝、袖幅80㎝を測り、煙道が長い。煙道では、焼土を多量に検出した。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　７基のピットを確認した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、㎝）である。

Ｐ１	43×33×45	Ｐ２	28×25×46
Ｐ３	37×31×50	Ｐ４	40×33×42
Ｐ５	42×34×28	Ｐ６	(41)×34×38
Ｐ７	(38)×29×42		

その位置関係と切り合いからＰ1～Ｐ４が主柱穴とみられる。Ｐ５～Ｐ７は建て替えが行われる前の柱穴の可能性がある。

壁溝　周縁部をほぼ全周している。幅10㎝～18㎝、深さ３㎝～８㎝を測る。

遺物　竈付近や床面直上、埋没土中から多数の土師器や須恵器などが出土した。掲載した遺物は、１～19：土師器の杯（１・２・３・10は床面直上、11は床面から９㎝）、20～23：須恵器の杯、24：同高杯、25：同甕、26：同長頸壺、27・28：同広口壺（27は床面直上）、29：壺、30～34：土師器の甕（30は床面直上、31は床面から10㎝、34は竈内）、35：同甕（竈内）、36：臼玉である。16～19には放射状暗文が見られる。

所見　建て替えによって拡張を行い、柱を設置し直すと共に、竈を北壁から東壁に付け替えた可能性がある。旧床面は東西約4.8m、南北3.8mであった。臼玉や暗文のある杯も出土しており、特別な建物である可能性がある。床面直上や竈内外で出土した遺物から、時期は７世紀後半である。

２区52号竪穴建物（第135・136図、第８表、PL.30・59）

調査区東側、51号竪穴建物の８m程北にある。建物の北東部は調査区外にある。

位置　Ｘ＝47,912～47,915　Ｙ＝-74,530～-74,534

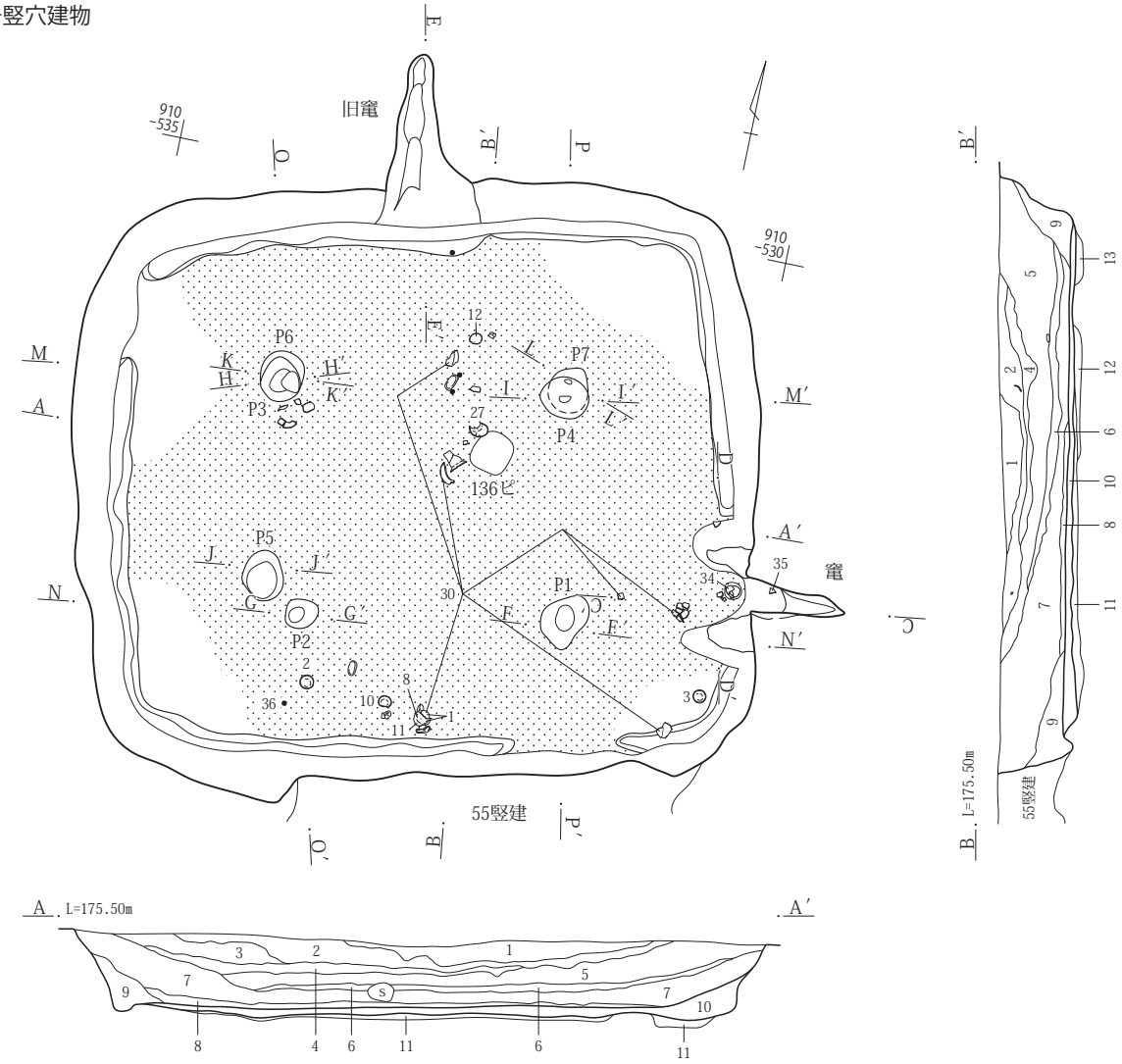
重複遺構　97号土坑と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形と見られるが、建物の広い範囲が調査区外のため、不明である。

主軸方位　南壁を測定するとＮ－77°－Ｅである。

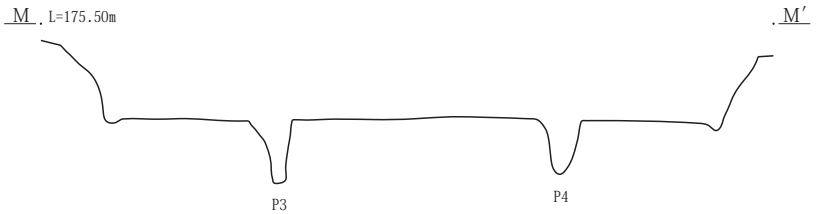
規模　東西（4.51m）　南北（2.87m）

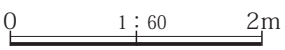
２区51号竪穴建物



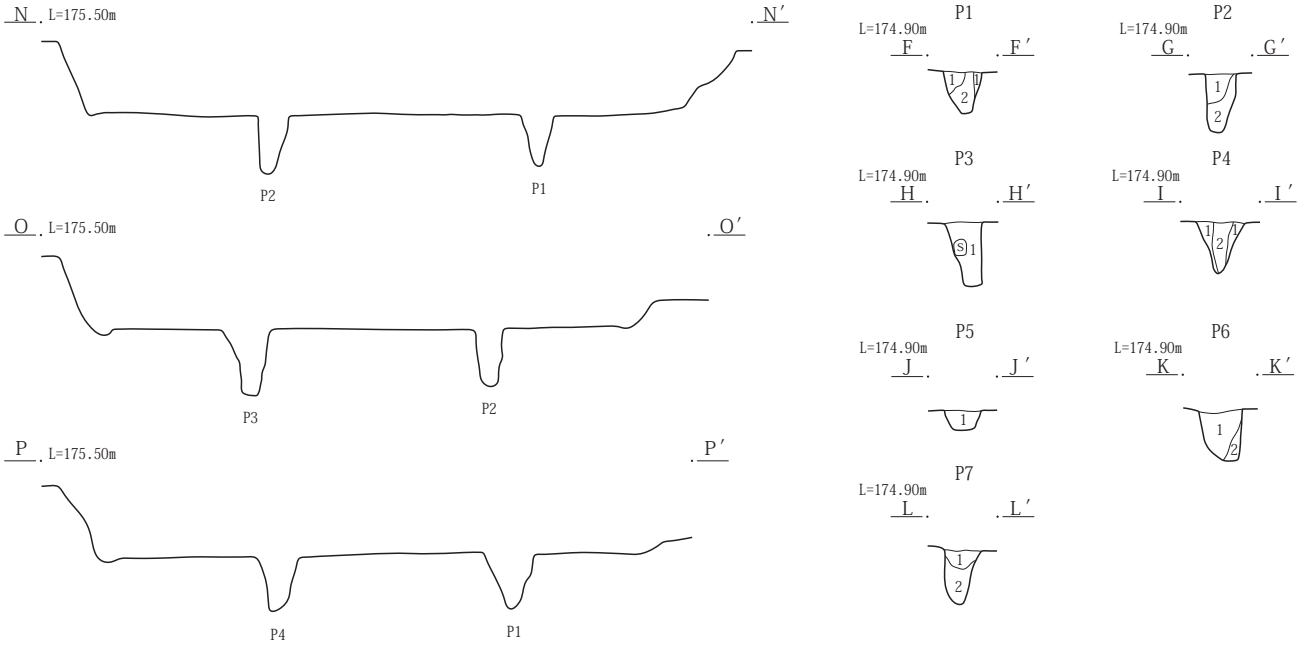
51号竪穴建物

1．黒褐色土　焼土小塊・炭化物・浅黄橙軽石を多量含む。締り・粘性あり。
2．暗褐色土　炭化物を多量、焼土小塊・にぶい黄褐色小塊を少量含む。締り・粘性あり。
3．褐色土　浅黄橙色軽石を多量、焼土粒･炭化物を微量含む。締り・粘性あり。
4．暗褐色土　灰を多量、焼土小塊を少量含む。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　焼土小塊・炭化物を多量、にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り・粘性あり。
6．黒褐色土　炭化物を多量、焼土小塊を少量含む。締り･粘性あり。
7．にぶい黄褐色土　炭化物・ローム塊・焼土を少量含む。締り弱。粘性あり。
8．にぶい黄褐色土　縞状の炭化物を含む。締り・粘性あり。
9．褐色土　黒褐色土・浅黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
10．黒褐色土　焼土小塊・黄褐色土小塊・浅黄橙色軽石を多量含む。締り・粘性あり。
11．にぶい黄褐色土　ローム大塊を多量、焼土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
12．にぶい黄褐色土　焼土･灰･炭化物を多量、ローム小塊を少量含む。締り・粘性あり。
13．にぶい黄褐色土　ローム小塊を多量、焼土小塊を少量含む。締り・粘性あり。

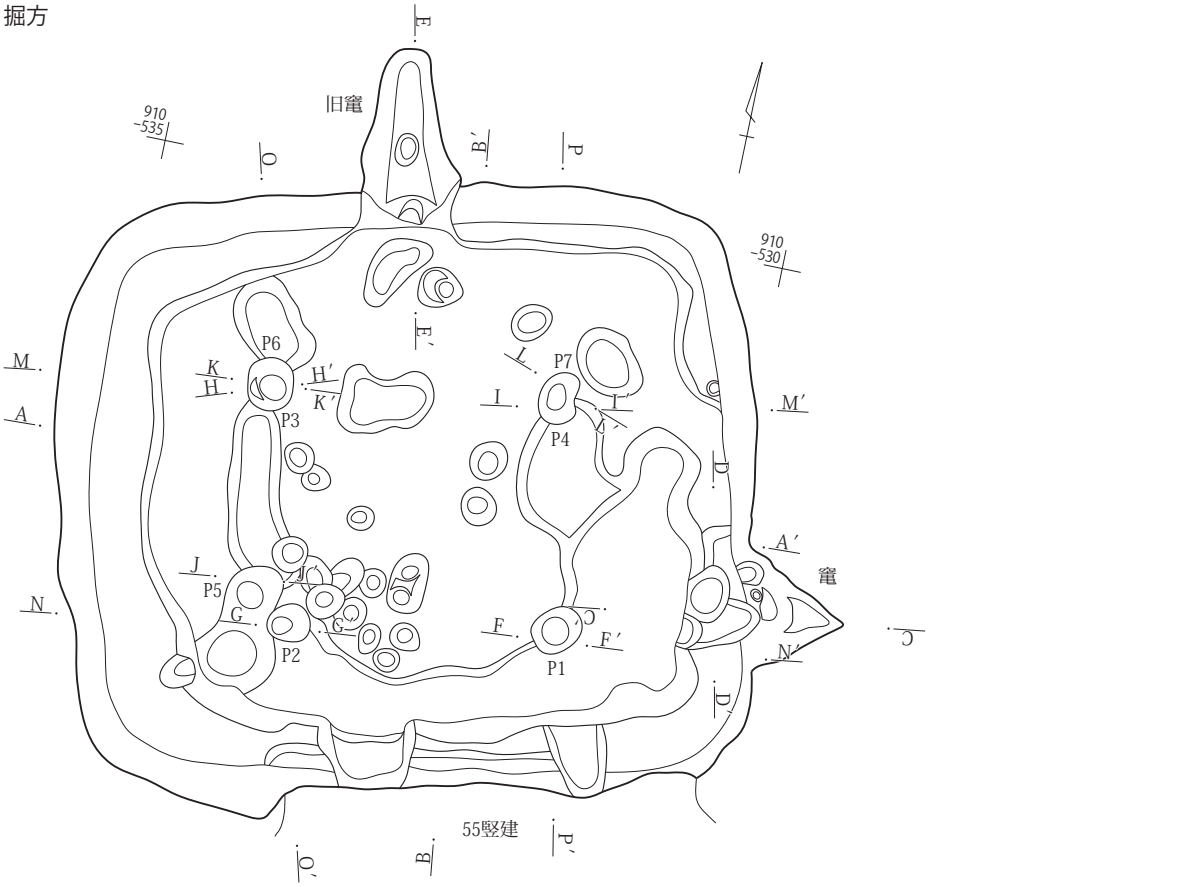




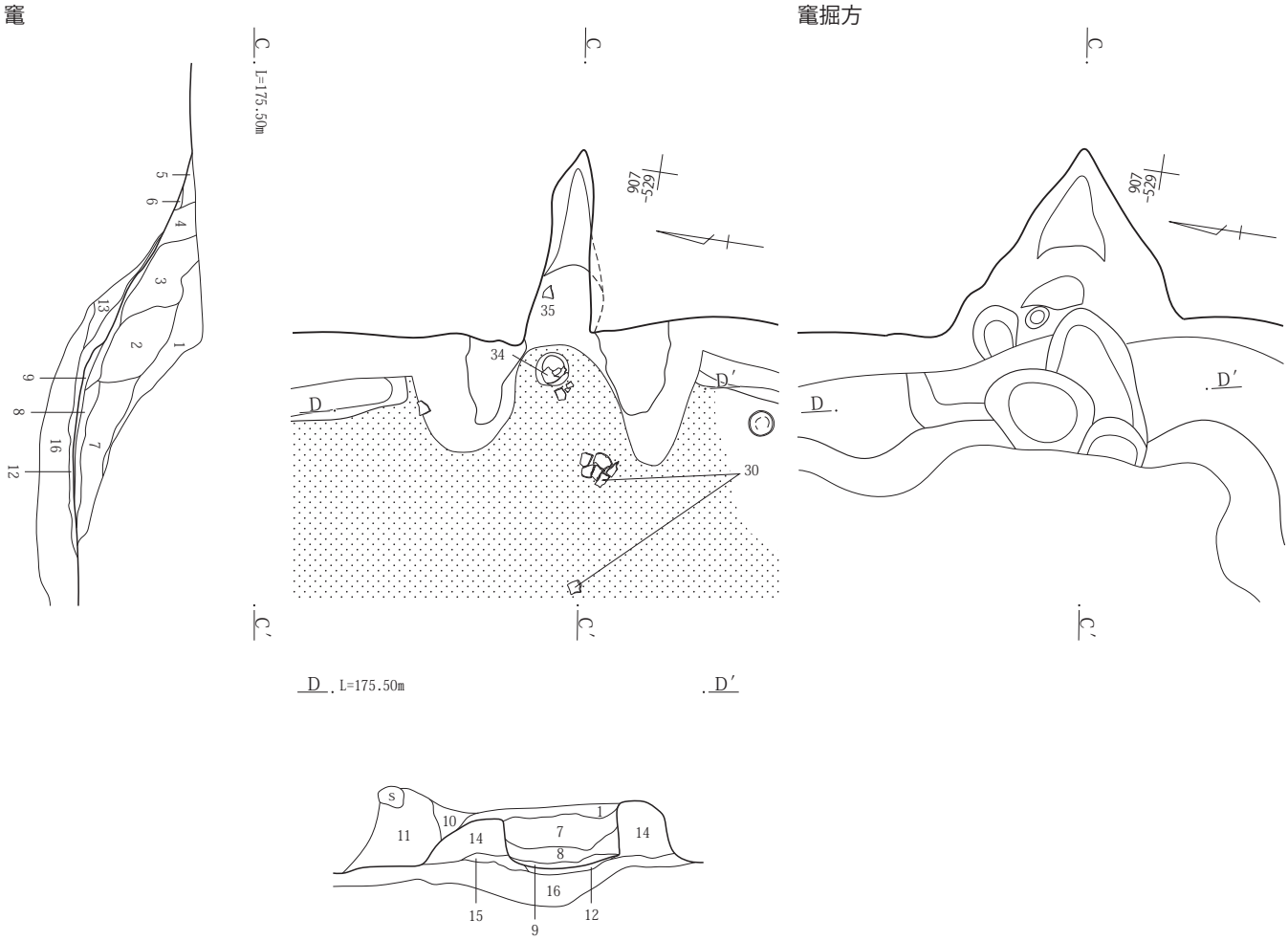
第129図　51号竪穴建物（１）



Ｐ１
１．暗褐色土　焼土粒・ローム小塊・軽石小塊を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
Ｐ２
１．暗褐色土　焼土粒・ローム小塊を微量含む。
２．暗褐色土　ローム塊・軽石粒を含む。締りあり。
Ｐ３
１．暗褐色土　ローム小塊・軽石粒・人頭大の礫を含む。
Ｐ４
１．暗褐色土　ローム塊・軽石粒・焼土・炭化物を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　軽石粒・焼土・炭化物を微量含む。
Ｐ５
１．黒褐色土　ローム塊・黒色土小塊を含む。締り強。
Ｐ６
１．黒褐色土　ローム塊･粒を多量、小礫を少量含む。締り弱。粘性あり。
２．明黄褐色土　ローム大塊・にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
Ｐ７
１．黒褐色土　にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り弱。粘性あり。
２．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量含む。締り弱。粘性あり。



第130図　51号竪穴建物（２）



竈

1．にぶい黄褐色土　浅黄橙色軽石・焼土小塊を少量含む。締りあり。粘性強。
2．暗褐色土　にぶい黄橙色軽石を少量、焼土粒を微量含む。締り強。粘性あり。
3．灰褐色土　焼土塊を多量、にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り・粘性強。
4．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。粘性あり。
5．黒褐色土　締り強。粘性弱。
6．黒色土　暗褐色土を含む。締りあり。粘性強。
7．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊主体。焼土小塊を多量、炭化物を少量含む。粘性強。
8．灰黄褐色土　焼土塊を多量含む。粘性あり。
9．黒褐色土　灰主体。締り弱。
10．黒褐色土　浅黄橙色軽石・焼土小塊を含む。締り・粘性あり。
11．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・大礫を含む。粘性あり。
12．黒色土　焼土・灰・炭化物を多量含む。粘性あり。
13．黒褐色土　暗褐色土を含む。粘性あり。
14．にぶい黄橙土　粘質土。暗褐色土を含む。締り・粘性あり。
15．灰黄褐色土　焼土塊を多量含む。締り弱。粘性あり。
16．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊・焼土塊・にぶい黄橙色軽石を含む。粘性あり。

0　1：30　1m

第131図　51号竪穴建物（３）

床面積　（5.47㎡）

埋没土層　軽石粒・焼土粒などを含む暗褐色土で埋没している。

壁高　49～60㎝

床面　ほぼ平坦であるが、やや起伏があり、南西に向い緩やかに傾斜している。

掘方　床面から20㎝程の深さのところが多く、細かい凹凸がある。

竈　西壁南寄りの位置で竈の一部を検出した。主に煙道部分で、移設前の痕跡とみられる。

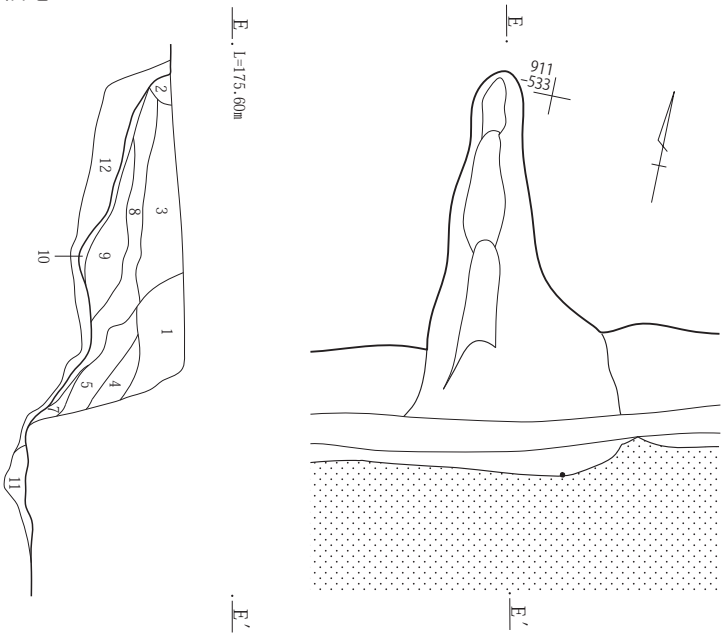
貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　確認できなかった。

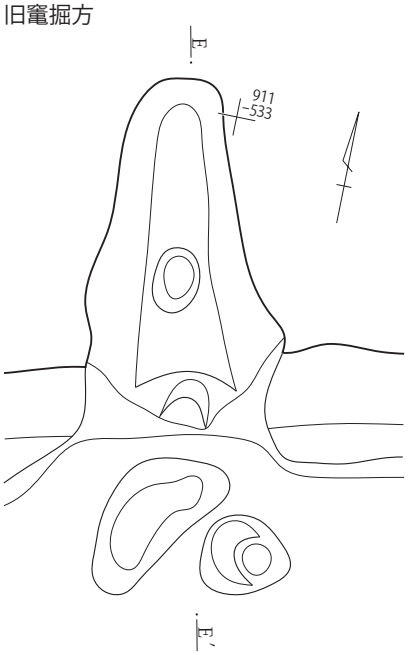
壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器が多数出土した。掲載した遺物は、１～７：土師器の杯、８：土師器の鉢、９・10：須恵器の杯、11～13：須恵器の盤、14：同壺、15：土師器の甕である。うち、３には赤色顔料が付着している。

旧竈



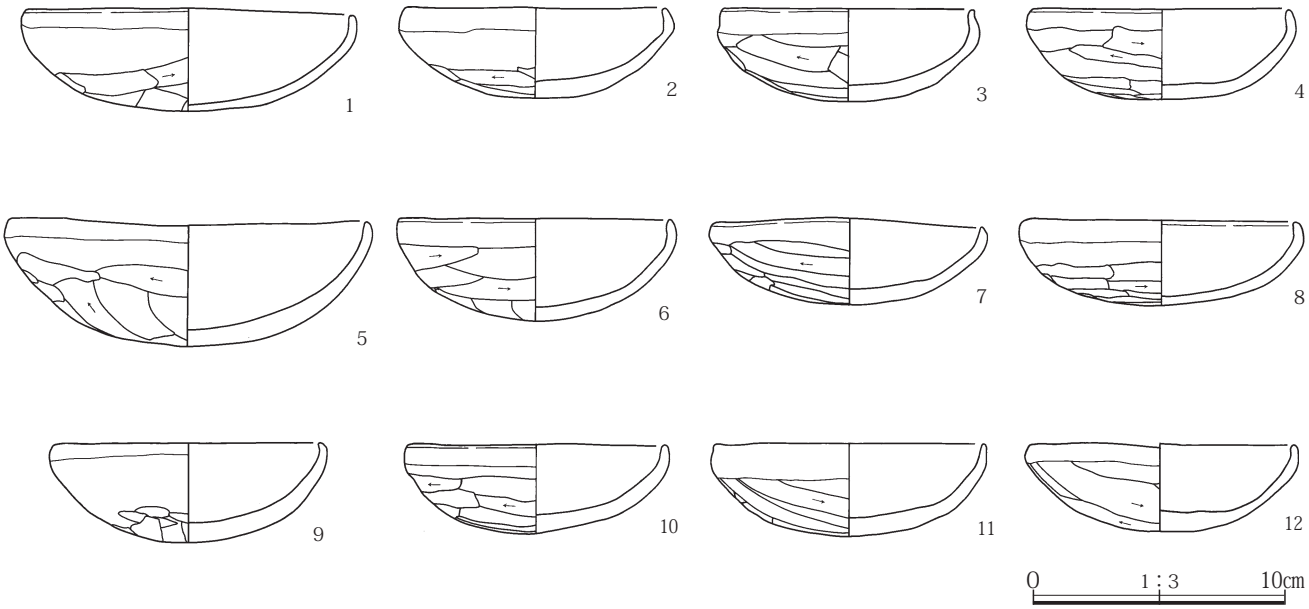
旧竈掘方



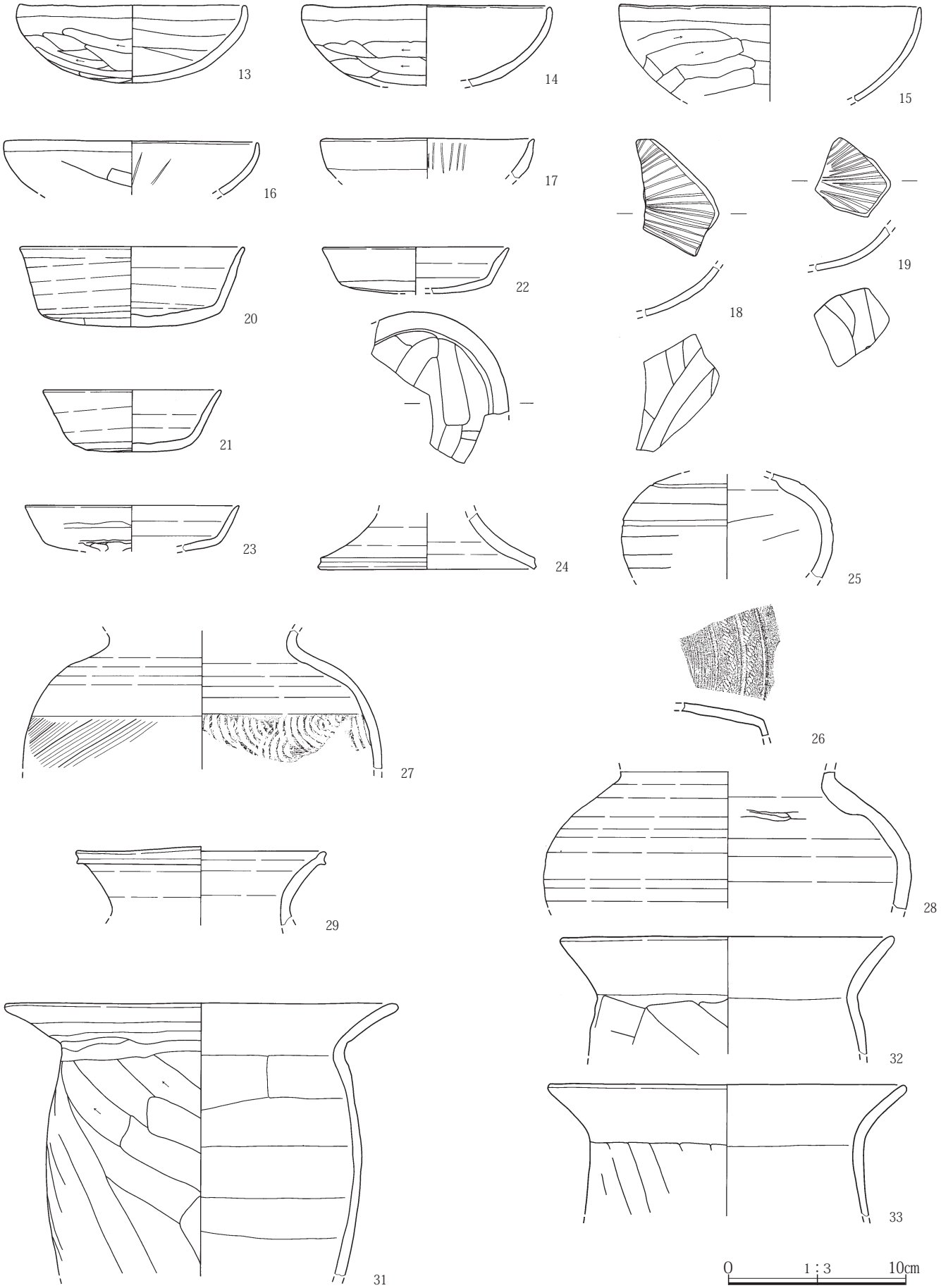
旧竈

1．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土塊を多量含む。締りあり。粘性弱。
2．褐灰色土　焼土粒を多量含む。粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り・粘性あり。
4．黒黄褐色土　浅黄橙色軽石を少量、焼土小塊を微量含む。締り弱。粘性あり。
5．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、焼土小塊・炭化物を少量含む。粘性あり。
6．にぶい黄褐色土　焼土粒を多量、ローム小塊・炭化物を少量含む。粘性あり。
7．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を少量含む。粘性あり。
8．暗褐色土　にぶい黄橙色軽石・ローム塊を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
9．黒褐色土　黒色土大塊・にぶい黄褐色土・焼土粒を含む。粘性あり。
10．にぶい黄褐色土　明赤褐色焼土塊を多量、灰を少量含む。締り・粘性弱。
11．黒褐色土　焼土小塊・炭化物を少量含む。粘性あり。
12．灰黄褐色土　ローム大塊を多量含む。締り・粘性あり。

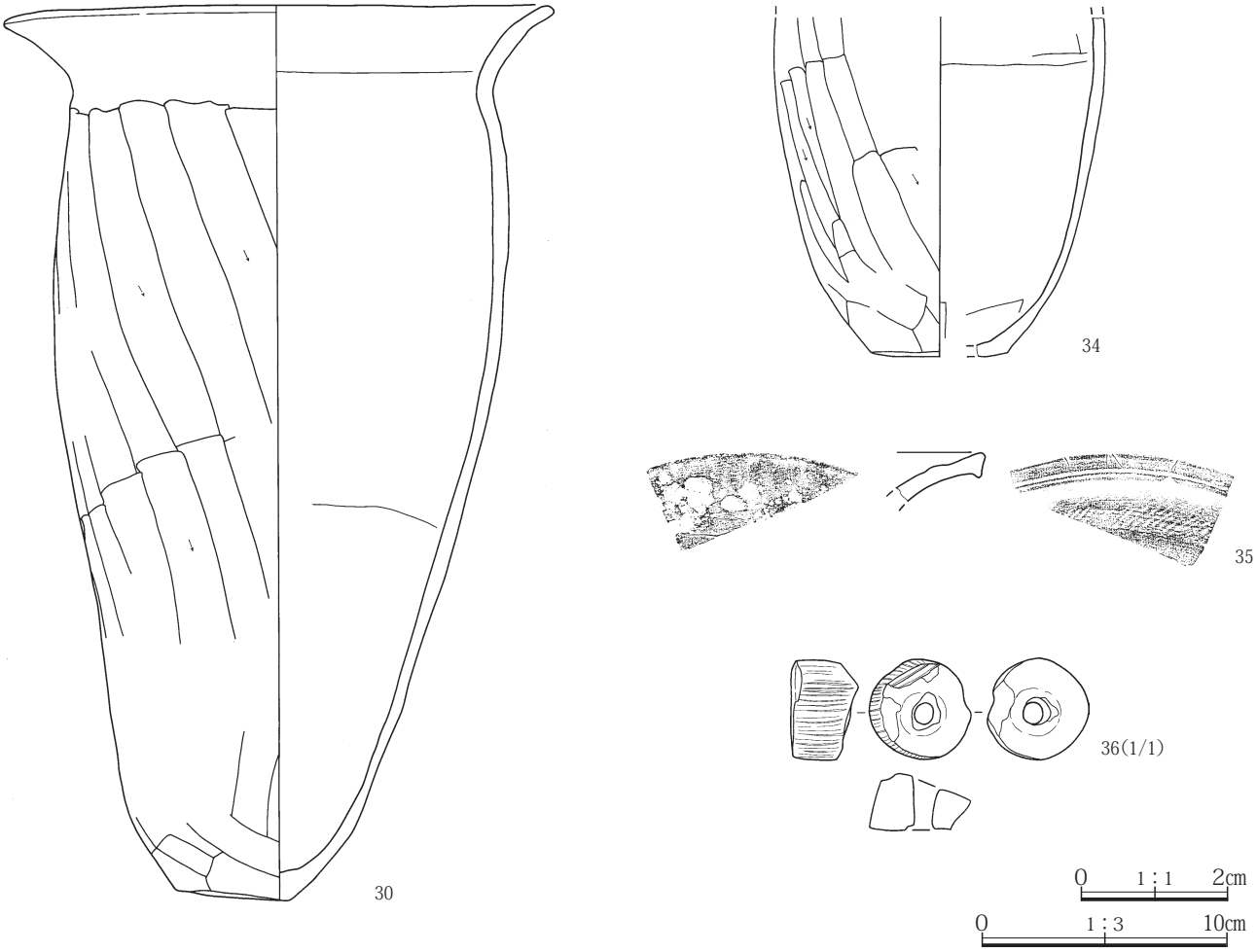
0　1：30　1m



第132図　51号竪穴建物（４）



第133図　51号竪穴建物（５）



第134図　51号竪穴建物（６）

所見　当初は建物の西壁北寄りの位置に竈を設置していたが、何かの理由で他の場所に移設したとみられる。本遺跡のほとんどの建物で東壁南寄りの位置に設置していることから、同様に移設した可能性が高い。風向きなど、どの建物にとっても共通する理由があったと考えられる。埋没土中から赤色顔料の付着した杯が出土している。22号竪穴建物で出土したものと共に、九州国立博物館に分析・研究を委託し、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラであることが明らかになった。詳細については、第４章第１節・第２節に記した。出土遺物はいずれも埋没土中からであり、この建物の時期の特定は難しいが、出土遺物は主に７世紀後半のものである。

２区53号竪穴建物（第137～140図、第８表、PL.30・31・59）

調査区東側、48号竪穴建物の10m程北東にある。

位置　X＝47,898～47,903　Y＝-74,511～-74,516

重複遺構　なし

形状　正方形

主軸方位　N－84°－E

規模　東西4.78m　南北5.03m

床面積　19.40㎡

埋没土層　主にAs-C、褐色土塊、黒色土塊を含む黒褐色土で埋没しており、周縁部にはAs-C、褐色土塊、黒色土塊を含む暗褐色土が三角堆積している。

壁高　42～68cm

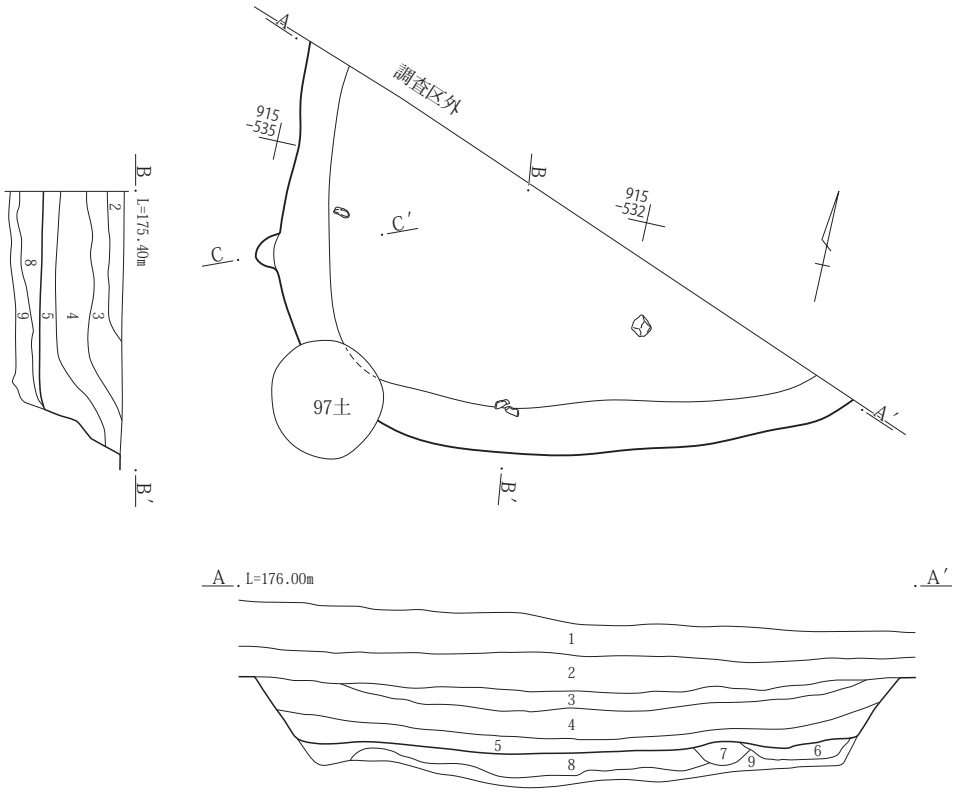
床面　ほぼ平坦である。

掘方　床面から15cm前後の深さで、凹凸がある。

竈　東壁やや南寄りに設置している。燃焼部が建物の内側に入る位置にあり、煙道の壁外への張り出しが少なく、35cm程である。規模は長軸148cm、袖幅139cmを測る。左袖の崩れが多いが、右袖や基部の土層から、灰黄褐色粘質土を使用して構築しているとみられる。燃焼部の底部から煙道の上部にかけて焼土塊・灰を検出した。

また、東壁北寄りの位置でも竈の痕跡を検出した。僅か

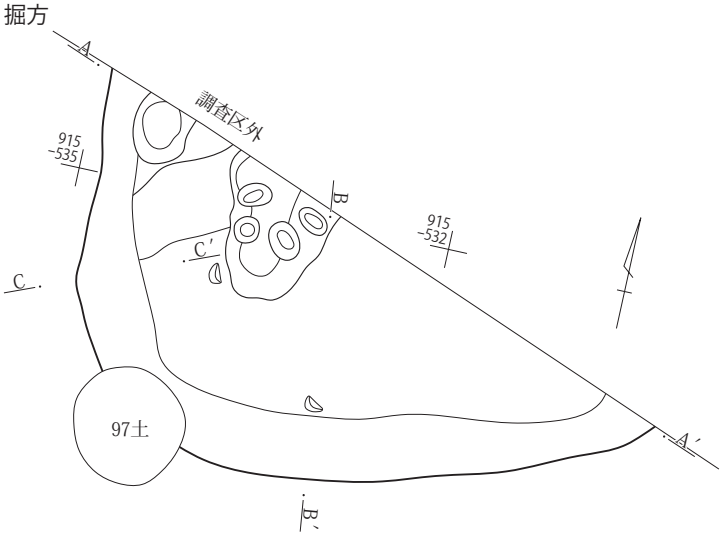
２区52号竪穴建物

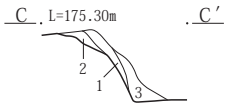


52号竪穴建物

1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・炭化物粒を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。
4．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・小塊を少量、ローム小塊を微量含む。
5．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・小礫を微量含む。
6．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土を少量、ローム小塊・焼土・炭化物を微量含む。
7．暗褐色土　黒褐色土塊・焼土粒を少量、軽石粒を微量含む。
8．暗褐色土　ローム塊を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。
9．暗褐色土　ローム塊を少量、軽石粒を微量含む。締りあり。

掘方



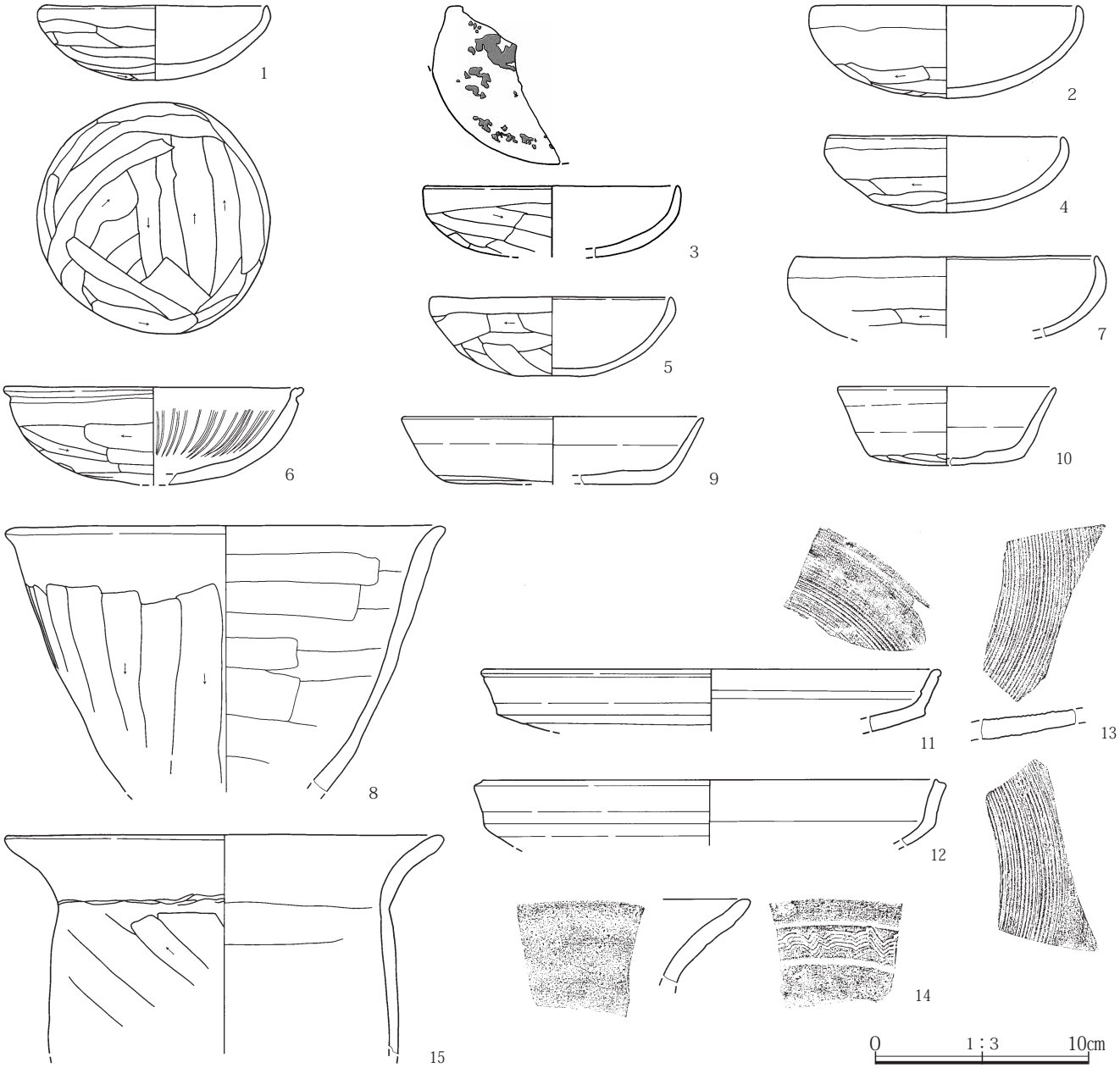


旧竈

1．暗褐色土　焼土を多量、軽石粒を微量含む。
2．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量、軽石粒・焼土を少量含む。
3．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。

0　1：60　2m

第135図　52号竪穴建物（１）



第136図　52号竪穴建物（２）

に焼土を含む煙道部で、移設前の竈と考えられる。

貯蔵穴　建物の南東隅に設置している。規模は、ほぼ径55cmの円形で、深さ24cmを測る。

柱穴　６基のピットを検出した。それぞれの計測値は以下の通り（長径×短径×深さ、cm）である。

Ｐ１	40×35×31	Ｐ２	43×33×43
Ｐ３	40×25×37	Ｐ４	32×27×30
Ｐ５	38×32×50	Ｐ６	38×33×46

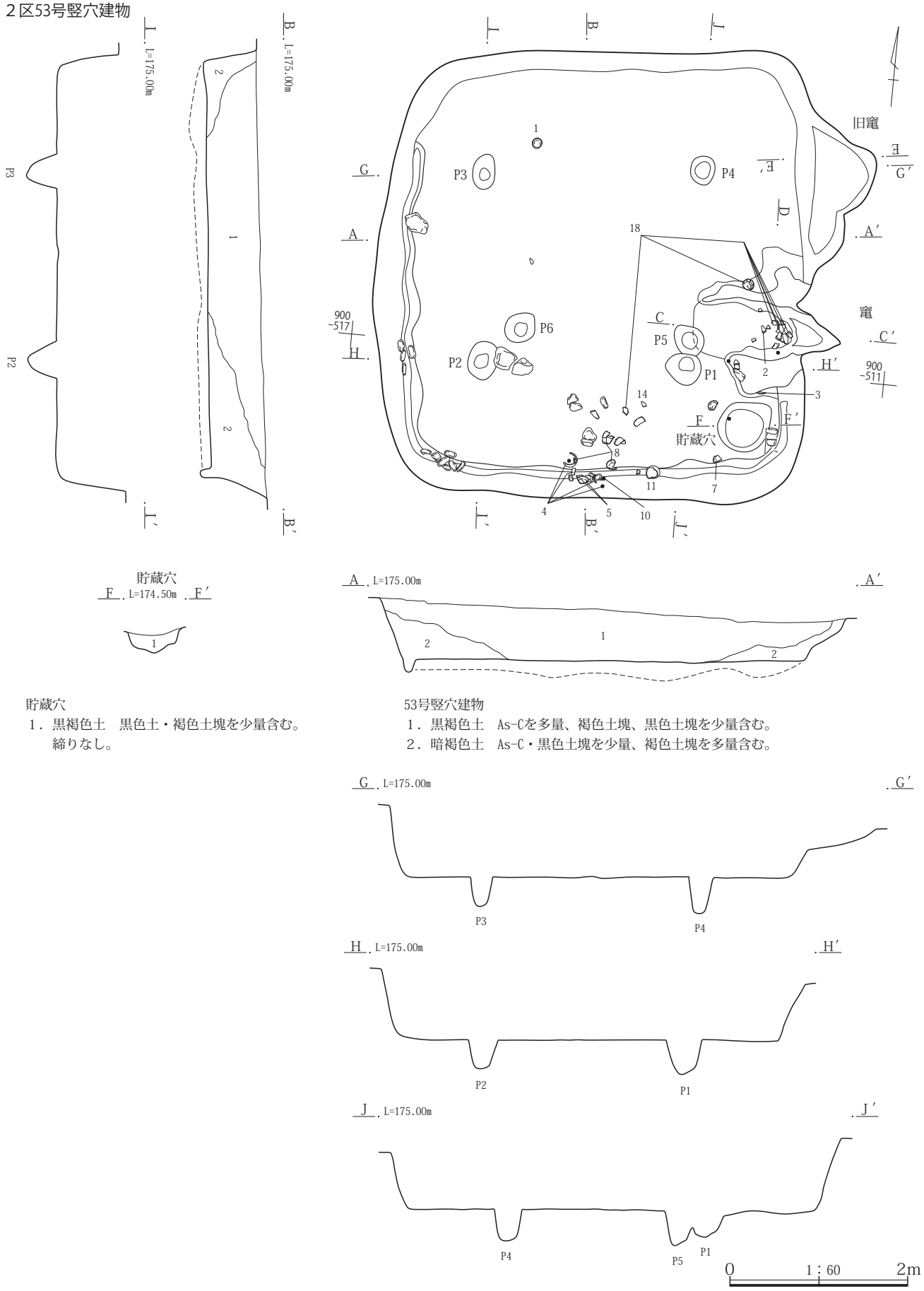
配置や形状から、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴の可能性が高い。

壁溝　竈の右袖付近から西壁にかけての周縁部に続いている。幅10cm～15cm、深さ10cm～15cmを測る。

遺物　床面直上や竈内、埋没土中から多数の土師器や須恵器と共に鉄製品が出土した。掲載した遺物は、１～11：土師器の杯（１・４・５・８・11は床面直上、２は竈内）、12：須恵器の杯蓋、13・14：土師器の壺（13は竈内）、15：須恵器の横瓶、16：同広口壺（床面直上）、17：同壺、18・19：土師器の甕（18は竈内）、20：鎌である。

所見　本遺跡では大きめの建物である。竈の北側に旧竈を検出した。本遺跡の建物のほとんどが、東壁の南寄りに竈を設置しており、同様に設置し直したと考えられる。また、その時、竈だけでなく建物の建て替えにより、柱もＰ５・Ｐ６の位置からＰ１・Ｐ２の位置に設置し直し

２区53号竪穴建物

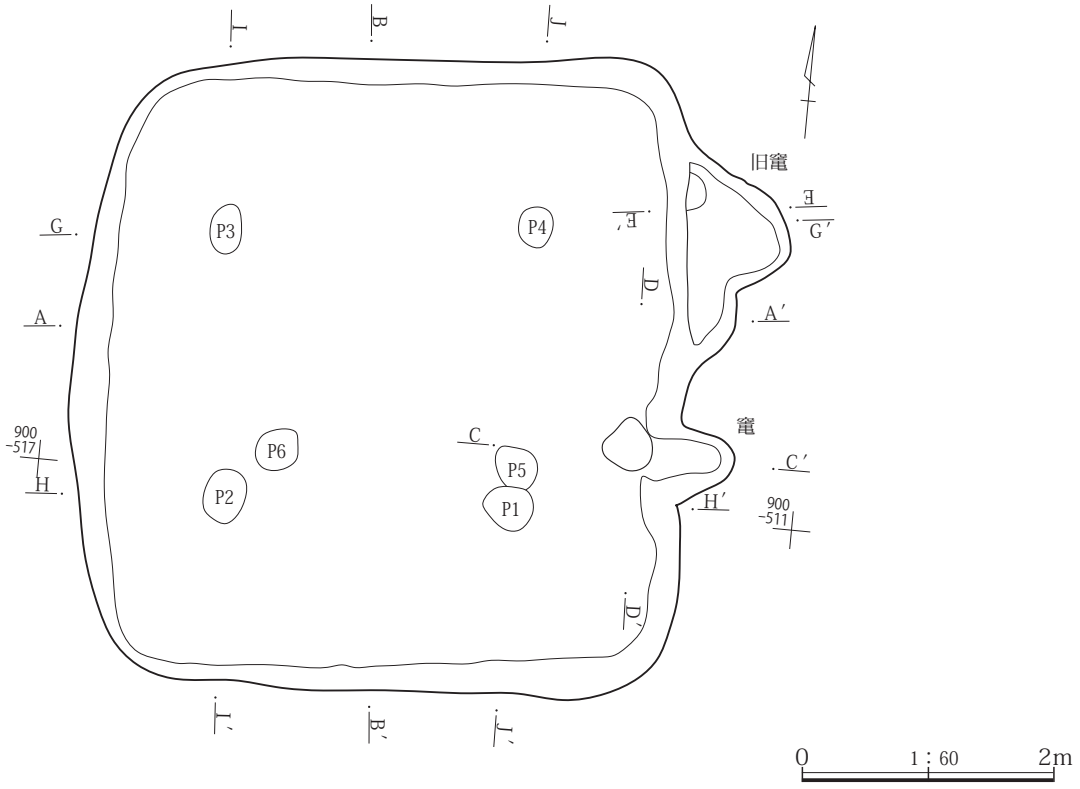


貯蔵穴
１．黒褐色土　黒色土・褐色土塊を少量含む。
　　締りなし。

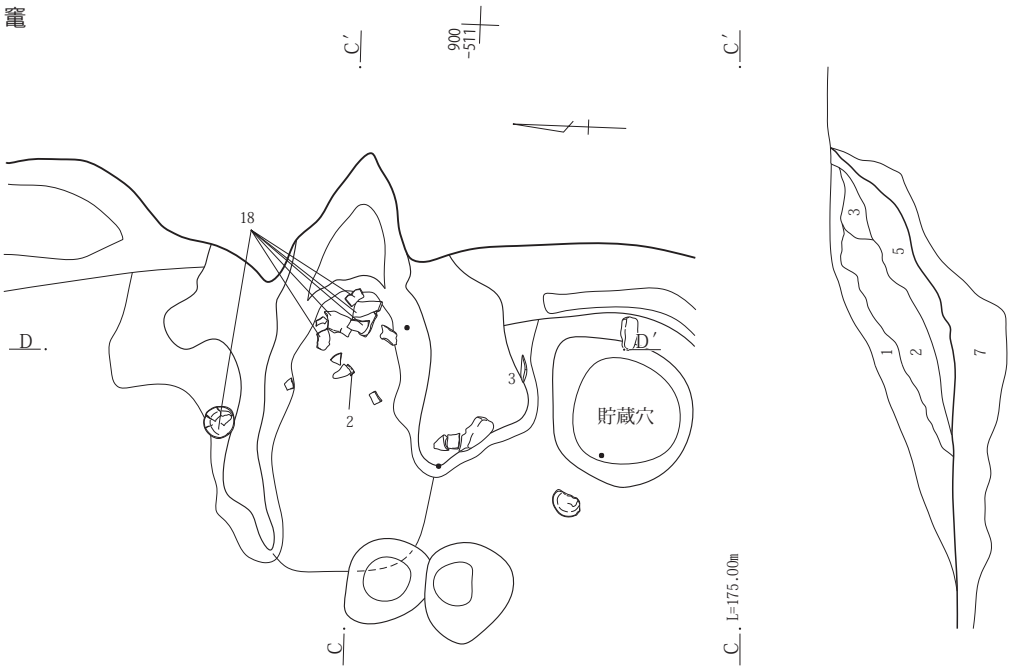
53号竪穴建物
１．黒褐色土　As-Cを多量、褐色土塊、黒色土塊を少量含む。
２．暗褐色土　As-C・黒色土塊を少量、褐色土塊を多量含む。

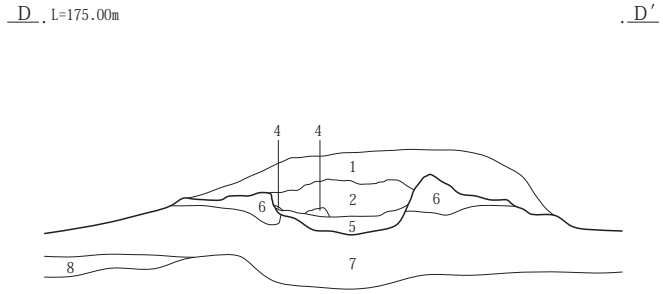
第137図　53号竪穴建物（１）

掘方



竈





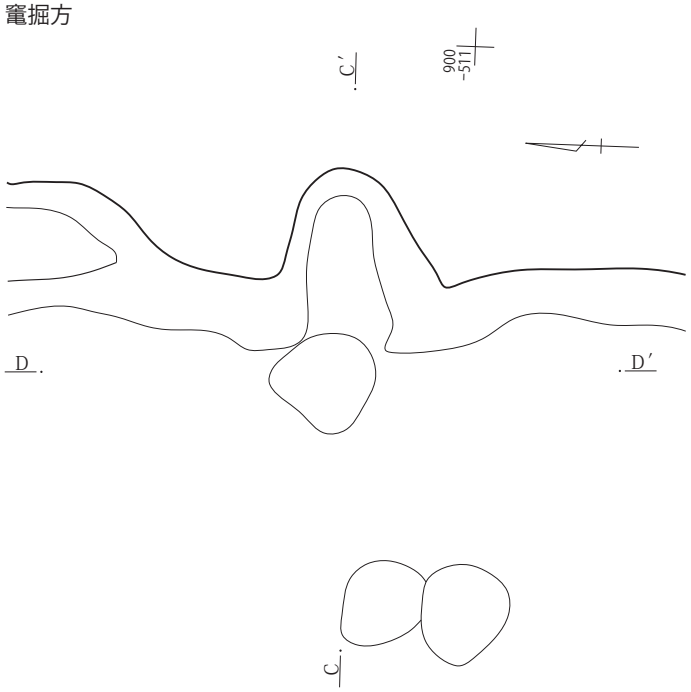
竈

1．暗褐色土　褐灰色粘質土塊・焼土粒を少量含む。
2．褐灰色土　褐灰色粘質土塊・焼土粒を微量含む。
3．灰白色粘質土　褐灰色粘質土塊・黒色土・焼土粒を少量含む。
4．赤褐色土　焼土。
5．にぶい赤褐色土　焼土・灰を多量含む。
6．灰黄褐色土　粘質土。黒色土塊を微量含む。
7．黒褐色土　灰白色粘質土塊を多量、褐色土塊を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。
8．黒褐色土　灰白色粘質土塊・褐色土塊を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。

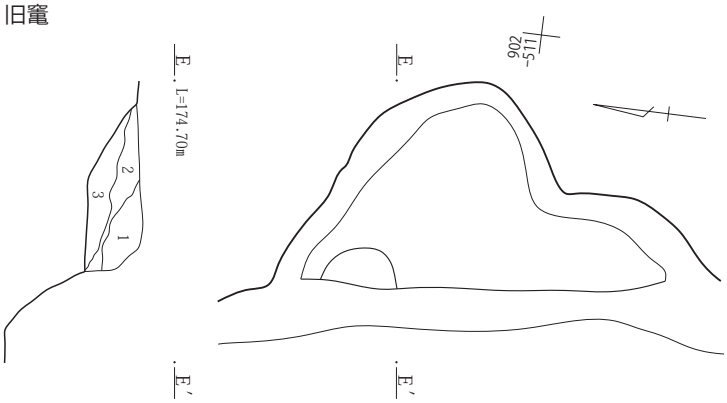
0　1：30　1m

第138図　53号竪穴建物（２）

竈掘方

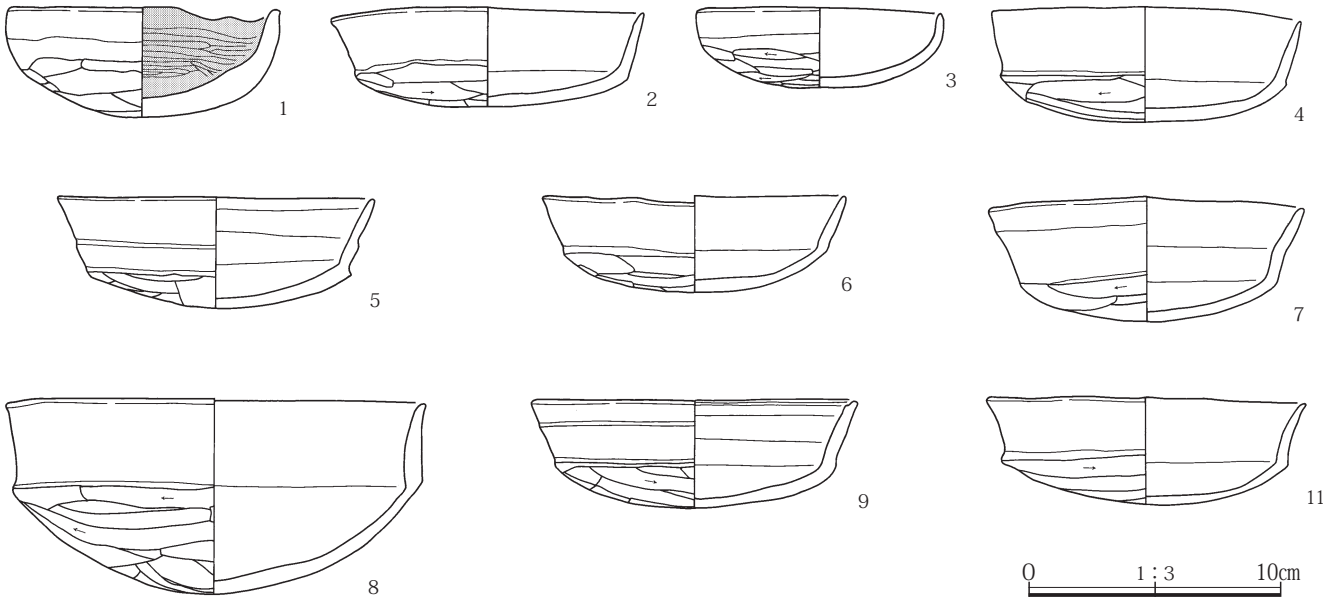


旧竈



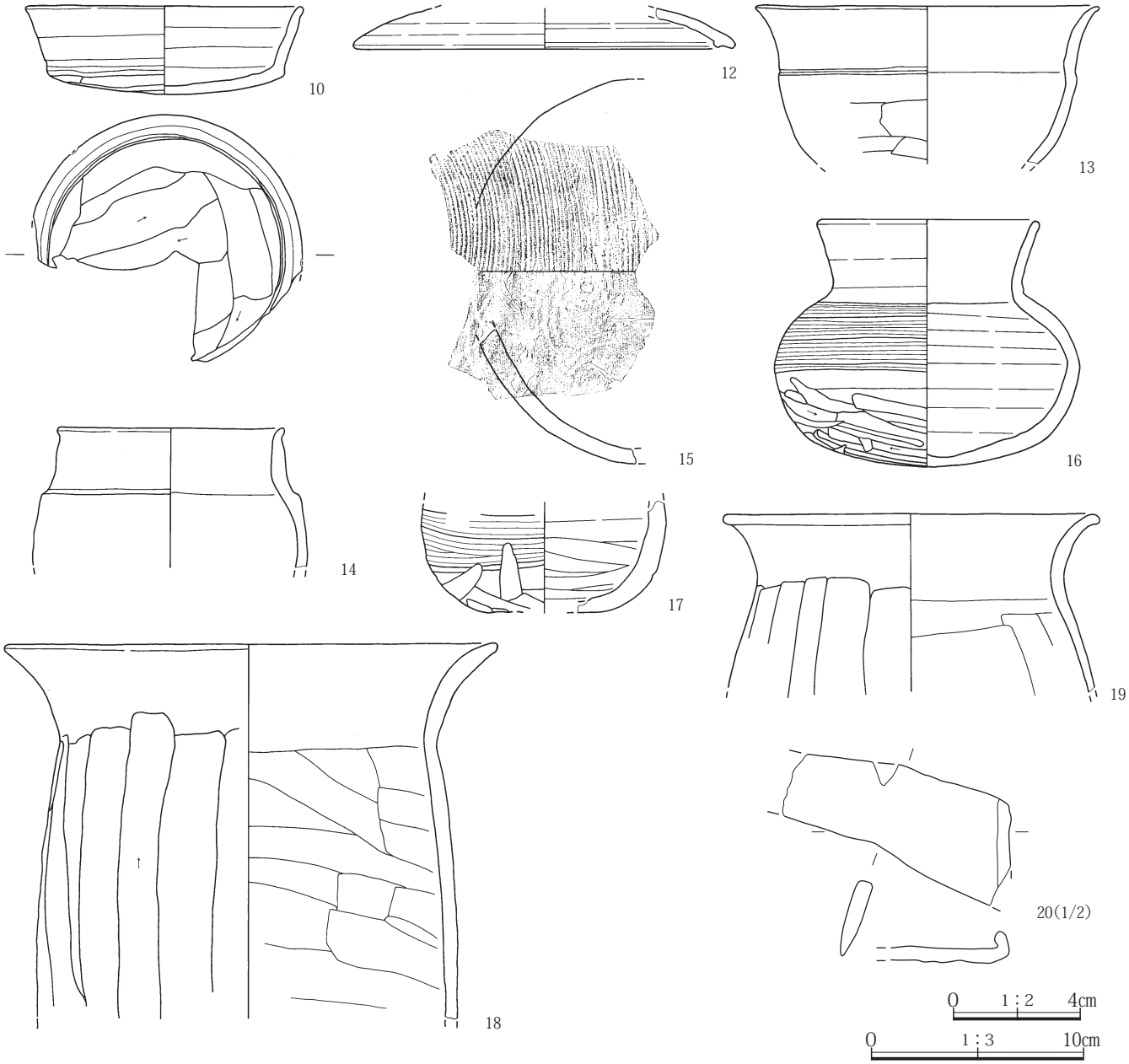
旧竈
１．黒褐色土　As-C・明黄褐色土塊を少量、焼土粒を微量含む。
２．明黄褐色土　黒褐色土塊・焼土粒を少量、As-C・灰を微量含む。
３．黒色土　As-C・焼土粒・炭化物粒・明黄褐色土粒を微量含む。

0　1：30　1m



0　1：3　10cm

第139図　53号竪穴建物（３）



第140図　53号竪穴建物（４）

た可能性がある。床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は７世紀前半である。

２区54号竪穴建物（第141図、第８表、PL.31）

調査区東側、53号竪穴建物の８m程北東にある。建物の北側の多くが調査区外にある。

位置　X＝47,903～47,906　Y＝-74,506～-74,511

重複遺構　なし

形状　方形とみられるが、多くが調査区外のため、不明である。

主軸方位　南壁を計測するとN－67°－Eである。

規模　東西(3.61m)　南北(3.33m)

床面積　(4.97㎡)

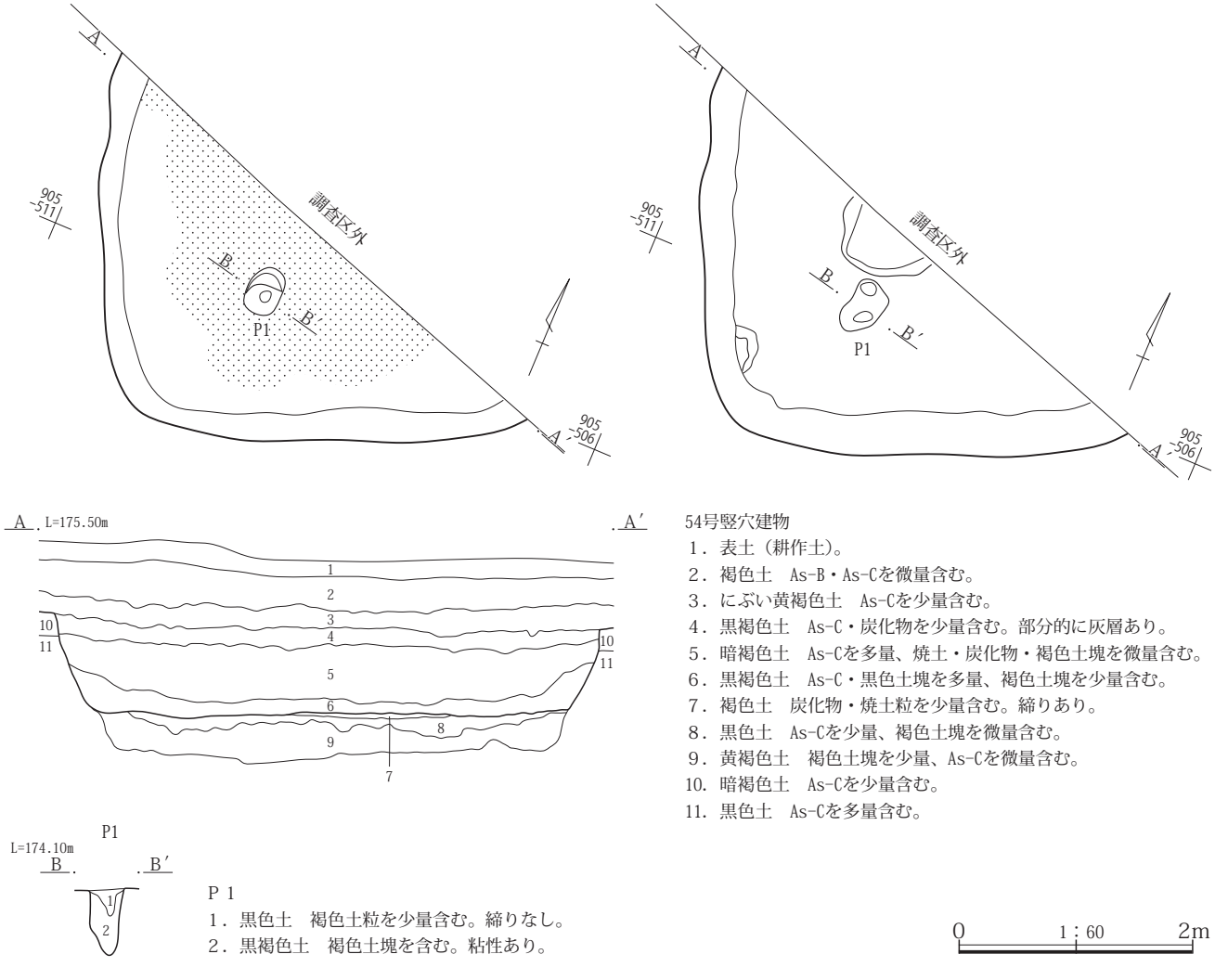
埋没土層　埋没土の多くはAs-C・褐色土塊・焼土・炭化物を含む暗褐色土で、その上層にはAs-C・炭化物を含む黒褐色土、床面付近にはAs-C・褐色土塊・黒色土塊を含む黒褐色土が堆積していた。

壁高　54～56cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。建物の中央部とみられる範囲が硬化している。

掘方　床面から30cm前後の深さまで掘り込まれており、凹凸がある。

２区54号竪穴建物



54号竪穴建物
1．表土（耕作土）。
2．褐色土　As-B・As-Cを微量含む。
3．にぶい黄褐色土　As-Cを少量含む。
4．黒褐色土　As-C・炭化物を少量含む。部分的に灰層あり。
5．暗褐色土　As-Cを多量、焼土・炭化物・褐色土塊を微量含む。
6．黒褐色土　As-C・黒色土塊を多量、褐色土塊を少量含む。
7．褐色土　炭化物・焼土粒を少量含む。締りあり。
8．黒色土　As-Cを少量、褐色土塊を微量含む。
9．黄褐色土　褐色土塊を少量、As-Cを微量含む。
10．暗褐色土　As-Cを少量含む。
11．黒色土　As-Cを多量含む。

P１
1．黒色土　褐色土粒を少量含む。締りなし。
2．黒褐色土　褐色土塊を含む。粘性あり。

第141図　54号竪穴建物

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

柱穴　ピット１基を確認した。計測値は長径42cm、短径29cm、床面からの深さ58cmであり、その形状と位置から、主柱穴の１つとみられる。

壁溝　確認できなかった。

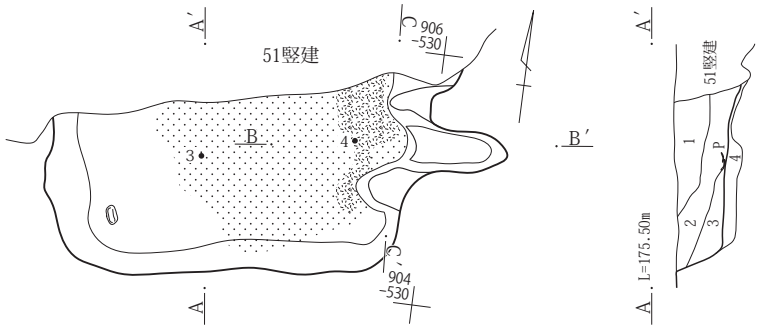
遺物　埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３：同壺である。

所見　床面に於いて硬化範囲と主柱穴の可能性が高いピット１基を検出した。調査区外に竈・貯蔵穴・主柱穴が残されている可能性がある。出土遺物はいずれも埋没土中からであり、この建物の時期の特定は難しいが、出土遺物は７世紀後半のものである。

２区55号竪穴建物（第142・143図、第８表、PL.31・32・60）

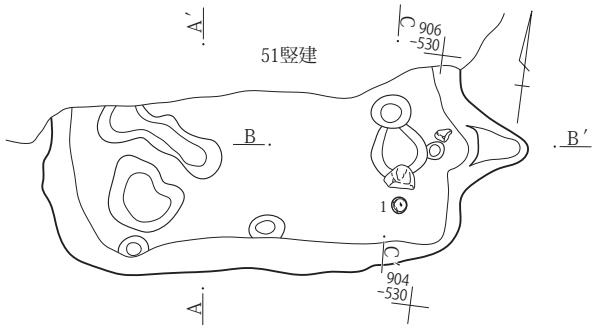
調査区東側、51号竪穴建物の南にあり、重複している。

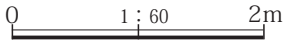
２区55号竪穴建物



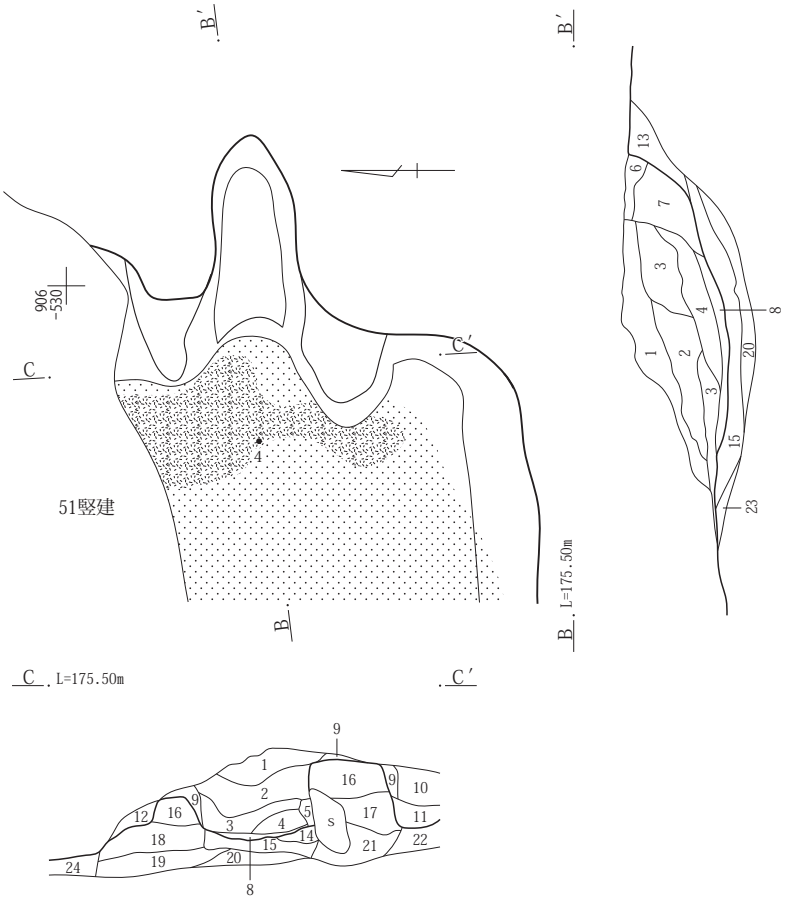
55号竪穴建物
1．にぶい黄褐色土　ローム小塊を少量、浅黄橙色軽石を微量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム塊を含む。締り・粘性あり。
3．黒褐色土　炭化物を含む。粘性あり。
4．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締りあり。

掘方

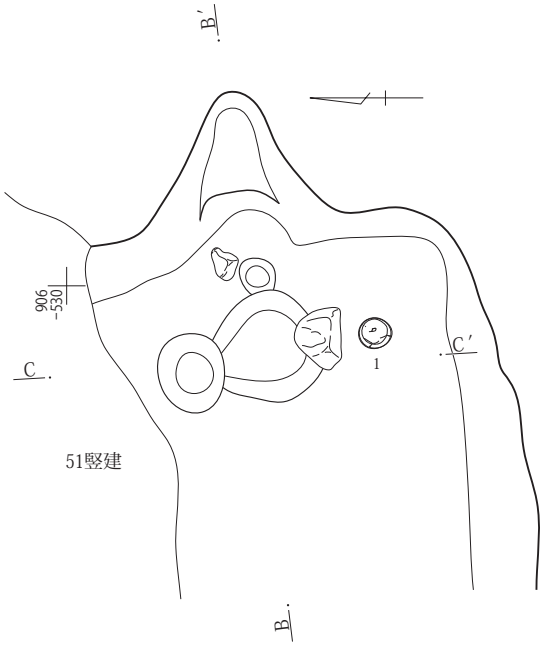




竈



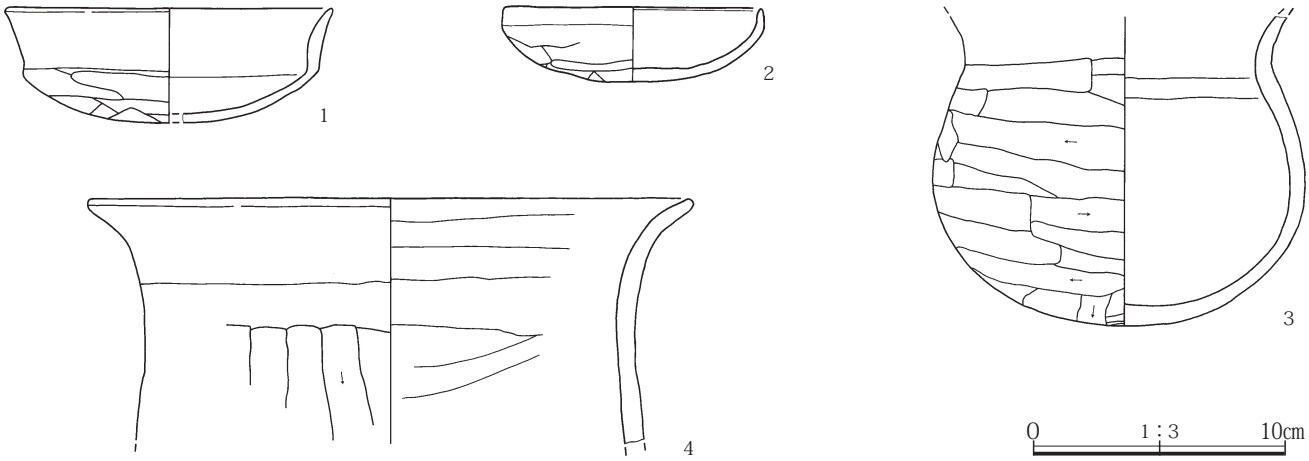
竈掘方



第142図　55号竪穴建物（１）

竈

1．暗褐色土　にぶい黄橙色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色軽石粘質土塊を多量含む。締り・粘性あり。
3．暗褐色土　にぶい黄橙色軽石・ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。締り・粘性強。
4．灰褐色土　にぶい黄橙色粘質土大塊主体。粘性強。
5．黒色土　灰を多量含む。粘性あり。
6．暗褐色土　焼土粒を多量、ローム小塊･にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り強。粘性弱。
7．淡黄色土　ローム塊主体。焼土を下層に多量、暗褐色土を少量含む。締り・粘性あり。
8．灰黄褐色土　焼土・灰を少量含む。粘性あり。
9．暗褐色土　焼土粒を微量含む。粘性あり。
10. 暗褐色土　締り強。粘性あり。
11. 黒褐色土　焼土粒を少量含む。粘性弱。
12. にぶい黄褐色土　黄橙色軽石を多量､にぶい黄橙色粘質土を少量含む。粘性あり。
13. 褐灰色土　焼土塊･ローム粒を多量、浅黄橙色軽石を少量含む。締り強。
14. 灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量含む。締り・粘性あり。
15. 黒褐色土　焼土粒・灰を多量含む。締り弱。粘性あり。
16. 灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土を多量、ローム小塊・焼土粒を少量含む。締り強。粘性あり。
17. 褐色土　ローム小塊を多量、にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
18. 灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土・焼土大塊を多量、ローム小塊を少量含む。締り強。粘性あり。
19. にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒を多量、焼土粒を微量含む。締り弱。粘性強。
20. にぶい黄褐色土　粘質土。ローム粒を多量含む。締り弱。粘性強。
21. にぶい黄褐色土　ローム小塊・焼土粒・灰を含む。粘性あり。
22. 褐色土　黒褐色土を少量含む。締り・粘性あり。
23. にぶい黄褐色土　黒褐色土を含む。粘性あり。
24. 灰黄褐色土　焼土小塊を少量含む。締り・粘性あり。



第143図　55号竪穴建物（２）

位置　X＝47,903～47,905　Y＝-74,529～-74,533

重複遺構　51号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形とみられるが、北側の多くの範囲が重複によって失われており、不明である。

主軸方位　N－80°－E

規模　東西3.22m　南北(1.46m)

床面積　(2.86㎡)

埋没土層　多くはローム塊を含むにぶい黄褐色土で埋没しており、周縁部には炭化物を含む黒褐色土が三角堆積している。

壁高　37～47㎝

床面　平坦であるが、北に向い傾斜している。南壁の中央付近から竈周辺、建物の中央方向へと硬化面が続いている。

掘方　床面から約10㎝の深さで、起伏や細かい凹凸がある。

竈　東壁の規模が不明であるが、南寄りと考えられる位置に設置している。規模は長軸106㎝､袖幅109㎝を測り、にぶい黄橙色粘質土を含む灰黄褐色土で袖を構築している。煙道の上部から燃焼部底部で焼土塊が見られ、その下部から焚口周辺の床面で灰を検出した。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

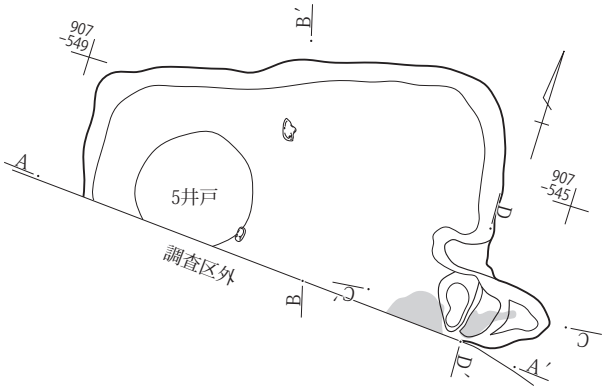
柱穴　確認できなかった。

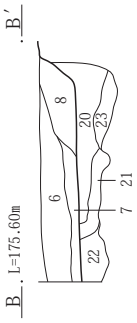
壁溝　確認できなかった。

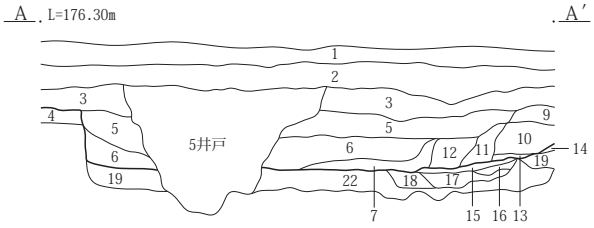
遺物　竈付近等から土器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯（１は床面直上、２は竈内）、３：同小型壺(床面直上)、４：同甕(床面直上)である。

所見　掘方で確認した南壁中央付近のくぼみは、その位

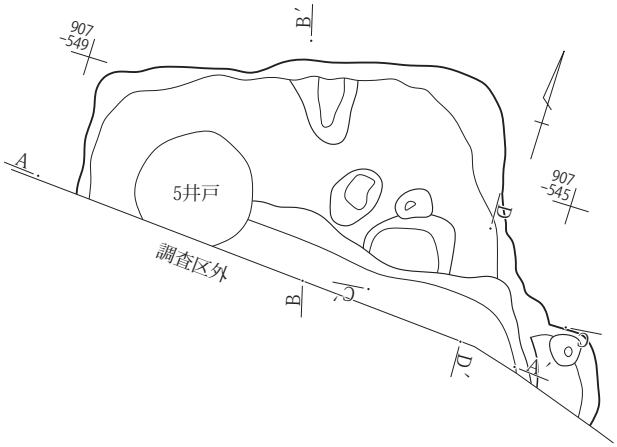
２区56号竪穴建物







掘方



56号竪穴建物
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-Cを微量含む。締り・粘性あり。
3．暗褐色土　黒褐色土・黄褐色土小塊を含む。締り・粘性あり。
4．黒褐色土　As-C・暗褐色土を含む。粘性あり。
5．にぶい黄褐色土　ローム粒を多量、黄褐色土小塊を少量、炭化物を微量含む。締り・粘性あり。
6．黒褐色土　褐色土小塊・炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
7．黒褐色土　明黄褐色土塊・炭化物を少量含む。締り強。粘性あり。
8．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締りあり。粘性強。
9．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を多量含む。粘性あり。
10．にぶい黄橙色土　粘質土。黒褐色土・焼土粒を少量含む。締りあり。粘性強。
11．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土粒を少量含む。粘性あり。
12．黒褐色土　炭化物を多量、焼土粒を少量含む。締りあり。粘性強。
13．にぶい黄褐色土　明赤褐色焼土塊を多量含む。締り・粘性あり。
14．にぶい黄橙色土　灰・炭化物を含む。締りあり。粘性強。
15．黒色土　灰主体。炭化物を含む。粘性強。
16．暗褐色土　ローム小塊・焼土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
17．にぶい黄橙色土　黒褐色土を少量、As-Cを微量含む。締りあり。粘性強。
18．黒褐色土　黒色土小塊を多量、にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
19．にぶい黄褐色土　As-C・黒褐色土・黒色土を少量含む。粘性あり。
20．暗褐色土　As-C・黒褐色土大塊・黄褐色土小塊を少量含む。締り・粘性あり。
21．暗褐色土　黄褐色土塊を多量、黒褐色土小塊を少量含む。粘性あり。
22．黒褐色土　As-C・ローム小塊を少量、焼土粒を微量含む。締り・粘性あり。
23．褐色土　黄褐色土大塊主体。黒褐色土塊を含む。締り・粘性あり。

0　1：60　2m

第144図　56号竪穴建物（１）

置と床面の硬化範囲が重なることから、出入り口に関わるものの可能性がある。床面直上で出土した遺物から、時期は７世紀後半である。

２区56号竪穴建物（第144・145図、第８表、PL.32）

調査区のほぼ中央、９号竪穴建物の南にあり、建物の南側の多くが調査区外にある。

位置　X＝47,905～47,907　Y＝-74,544～-74,548

重複遺構　５号井戸と重複している。新旧関係は本遺構が旧い。

形状　方形とみられるが、多くが調査区外のため、不明である。

主軸方位　N－78°－E

規模　東西3.33m　南北(2.14m)

床面積　(4.37㎡)

埋没土層　埋没土上層はローム粒・黄褐色土小塊・炭化物・礫を含むにぶい黄褐色土、床面付近は褐色土塊・明黄褐色土塊・炭化物などを含む黒褐色土である。

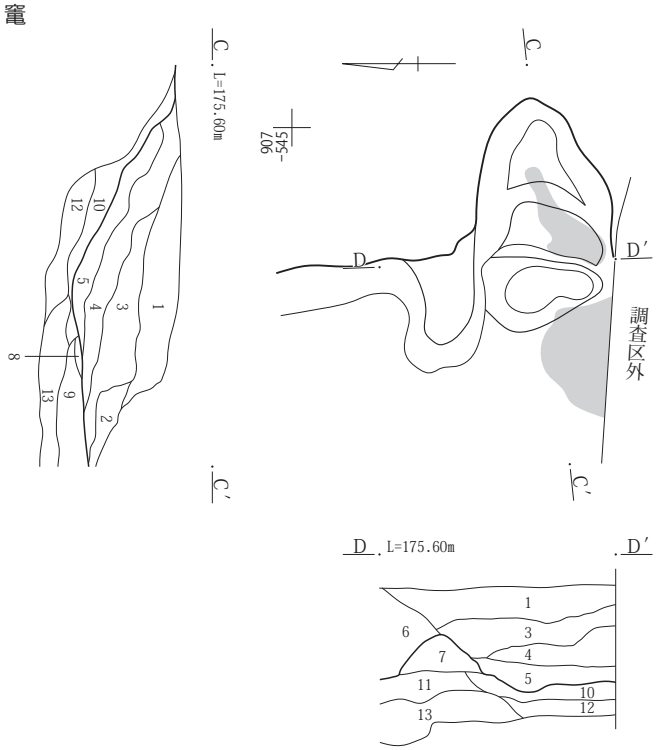
壁高　27～36㎝

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

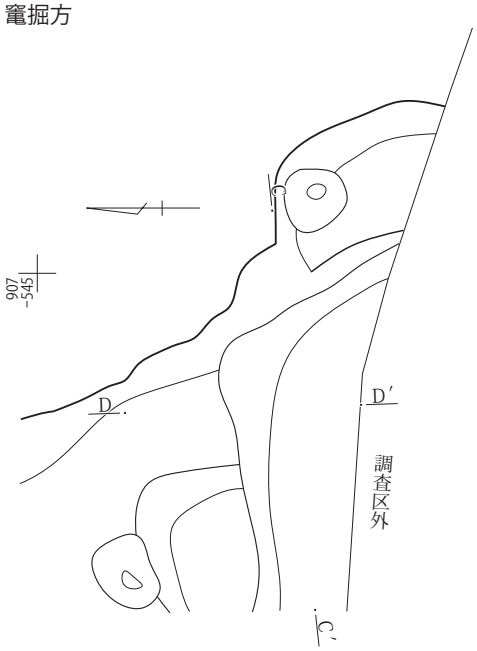
掘方　床面から20㎝前後の掘り込みがあり、凹凸がある。

竈　東壁に設置している。竈の右袖は調査区外となる位置のため、東壁内の位置は不明である。規模は長軸110㎝、袖幅(83㎝)を測る。燃焼部の底部から煙道の上

竈



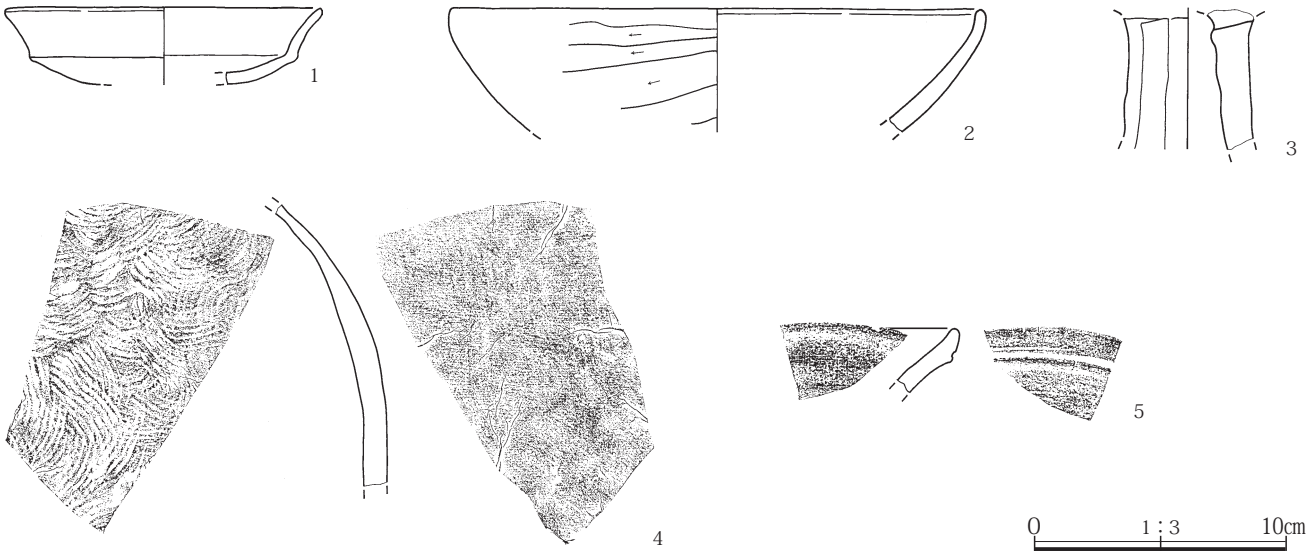
竈掘方



竈

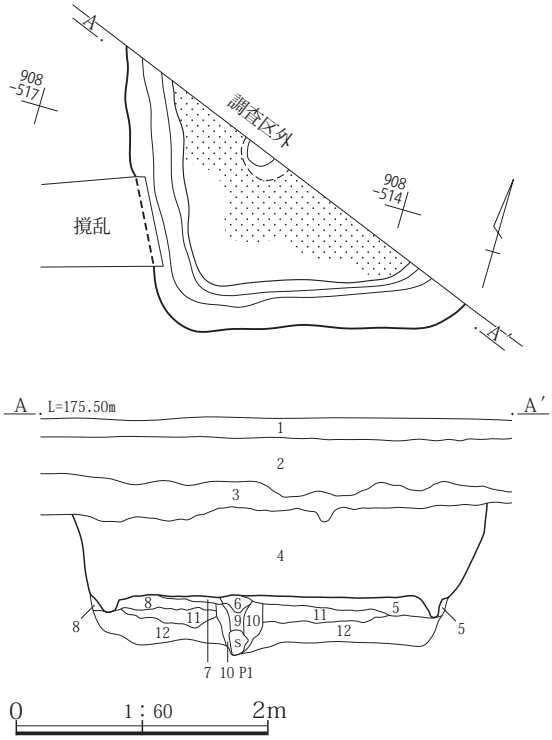
1．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊を多量含む。粘性あり。
2．黒褐色土　炭化物を多量、焼土粒を少量含む。締りあり。粘性強。
3．暗褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土粒を少量含む。粘性あり。
4．にぶい黄橙色土　粘質土。黒褐色土・焼土粒を少量含む。締りあり。粘性強。
5．にぶい黄褐色土　明赤褐色焼土塊を多量含む。締り・粘性あり。
6．黒褐色土　As-C・ローム塊を少量含む。締り・粘性あり。
7．暗褐色土　ローム大塊を多量、焼土粒を少量含む。締り・粘性あり。
8．黒色土　灰主体、炭化物を含む。粘性強。
9．黒褐色土　黒色土小塊を多量、As-C・にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
10．にぶい黄橙色土　灰・炭化物を含む。締りあり。粘性強。
11．暗褐色土　As-C・黒色土塊を少量、焼土を微量含む。締り・粘性あり。
12．暗褐色土　ローム小塊・焼土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
13．にぶい黄橙色土　黒褐色土を少量、As-Cを微量含む。締りあり。粘性強。

0　1：30　1m

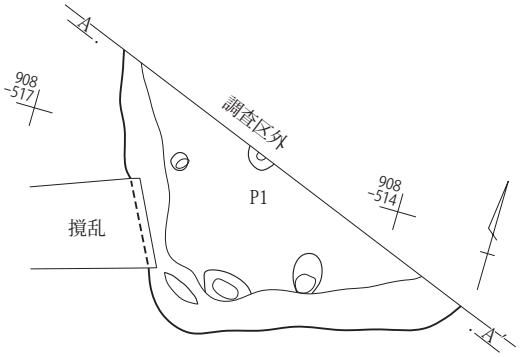


第145図　56号竪穴建物（２）

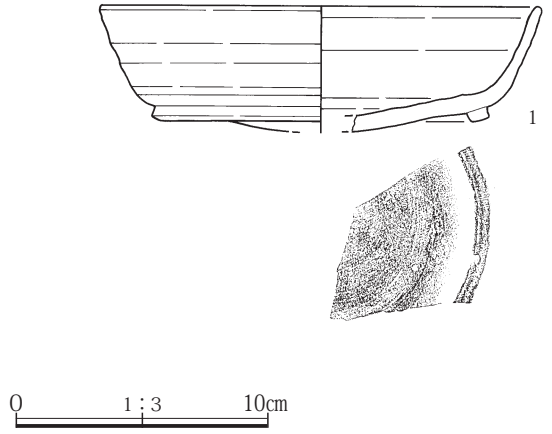
２区57号竪穴建物



掘方



57号竪穴建物
１．表土（耕作土）。
２．褐色土　As-B・As-Cを微量含む。
３．にぶい黄褐色土　As-Cを少量含む。
４．暗褐色土　As-Cを多量、焼土・炭化物・褐色土塊を微量含む。
５．黒褐色土　炭化物粒・焼土粒を多量、明黄褐色土塊を少量含む。締りあり。
６．黒褐色土　褐色土粒を多量、As-Cを少量含む。締りなし。柱痕上層。
７．黒褐色土　褐色土粒を少量、As-Cを微量含む。締りあり。
８．黒色土　As-Cを少量、褐色土粒を微量含む。
９．暗褐色土　砂質土。褐色土粒を少量含む。締りなし。柱痕下層。
10．黄褐色土　As-Cを少量含む。締りあり。
11．黒褐色土　黒色粘質土を多量、褐色土塊を少量含む。
12．黄褐色土　黒色土塊・明黄褐色土塊を含む。



第146図　57号竪穴建物

部にかけて焼土塊を多量に含む層が厚く堆積しており、その下部には灰・炭化物を検出した。よく使用されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。調査区外にある可能性が高い。

柱穴　確認できなかった。

壁溝　確認できなかった。

遺物　埋没土中や掘方から土師器や須恵器などが出土した。掲載した遺物は、1・2：土師器の杯（２は掘方）、3：須恵器の高杯、４：同壺、５：同甕（掘方）である。

所見　小規模な建物とみられる。埋没土中や掘方で出土した遺物をもとにすると、時期は７世紀後半である。

２区57号竪穴建物（第146図、第８表、PL.32・33）

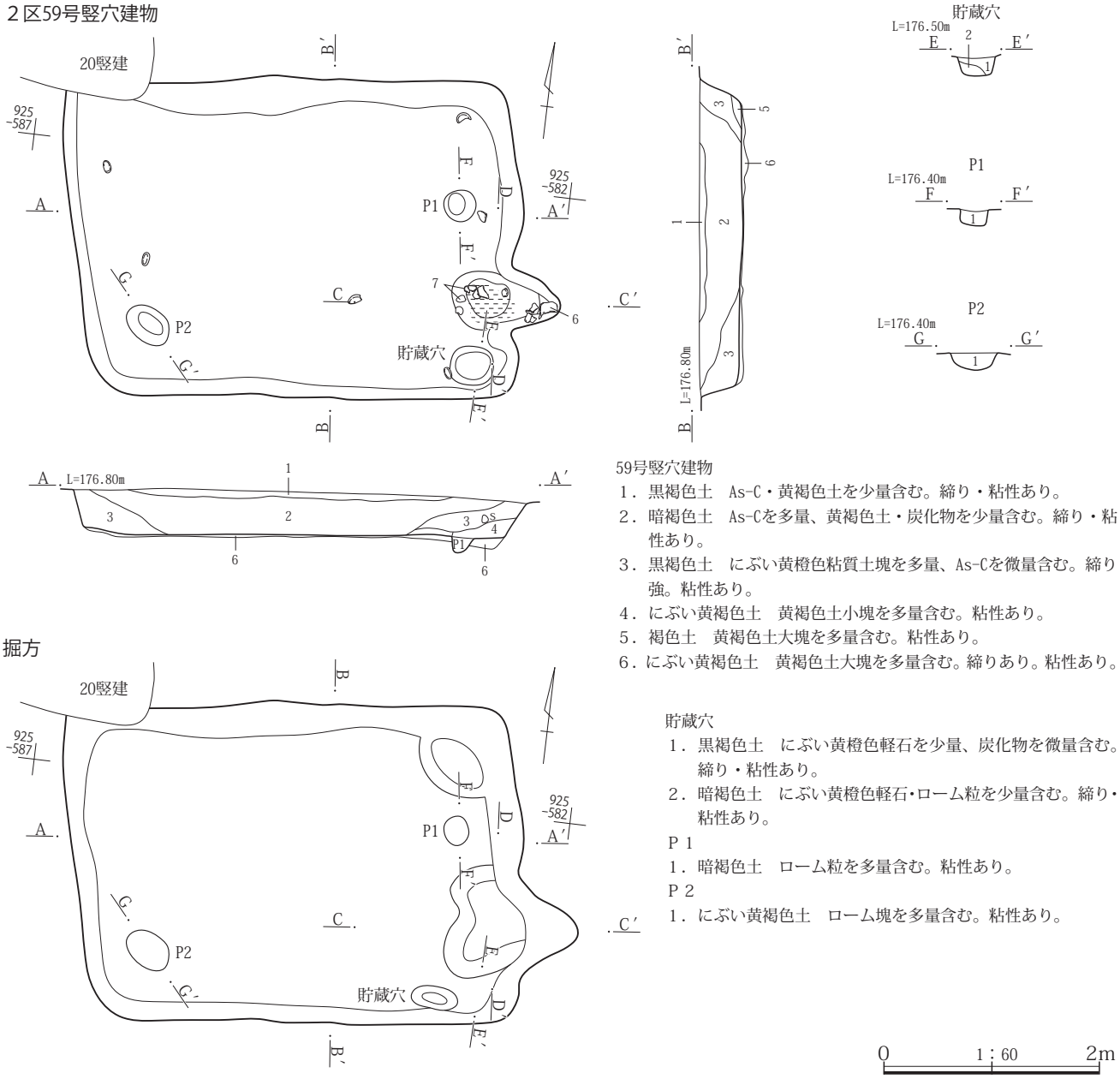
調査区東側、53号竪穴建物の10m程北にあり、建物の北側の大部分が調査区外にある。また、西壁上部の一部は撹乱により壊されていた。

位置　X＝47,906～47,908　Y＝-74,513～-74,516

重複遺構　なし

形状　方形とみられるが、多くが調査区外のため、不明

２区59号竪穴建物



59号竪穴建物
１．黒褐色土　As-C・黄褐色土を少量含む。締り・粘性あり。
２．暗褐色土　As-Cを多量、黄褐色土・炭化物を少量含む。締り・粘性あり。
３．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を多量、As-Cを微量含む。締り強。粘性あり。
４．にぶい黄褐色土　黄褐色土小塊を多量含む。粘性あり。
５．褐色土　黄褐色土大塊を多量含む。粘性あり。
６．にぶい黄褐色土　黄褐色土大塊を多量含む。締りあり。粘性あり。

貯蔵穴
１．黒褐色土　にぶい黄橙色軽石を少量、炭化物を微量含む。締り・粘性あり。
２．暗褐色土　にぶい黄橙色軽石・ローム粒を少量含む。締り・粘性あり。
Ｐ１
１．暗褐色土　ローム粒を多量含む。粘性あり。
Ｐ２
１．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。粘性あり。

0　1：60　2m

第147図　59号竪穴建物（１）

である。

主軸方位　竈が東壁にあると想定し、南壁の方位を測定するとＮ－66°－Ｅである。

規模　東西(2.47m)　南北(2.25m)

床面積　(2.12㎡)

埋没土層　As-C・褐色土塊・焼土・炭化物を含む暗褐色土で埋没している。

壁高　57～69cm

床面　多少起伏があるが、ほぼ平坦である。

掘方　床面から35cm前後の掘り込みがあり、凹凸がある。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

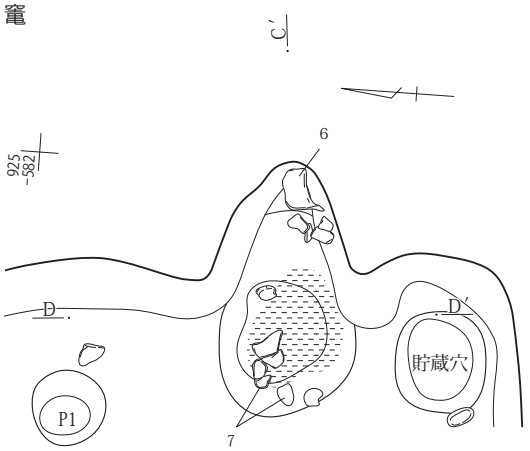
柱穴　調査区北壁際でピット１基を検出した。計測値は長径(40cm)、短径(20cm)、深さ48cmであった。底部には礎石状に使用されている石を確認した。

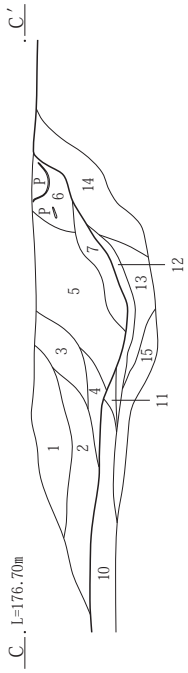
壁溝　調査区内にある範囲では全周していた。幅10cm～20cm、深さ10cm～15cmを測る。

遺物　埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１：須恵器の高台付杯、２：同甕である。

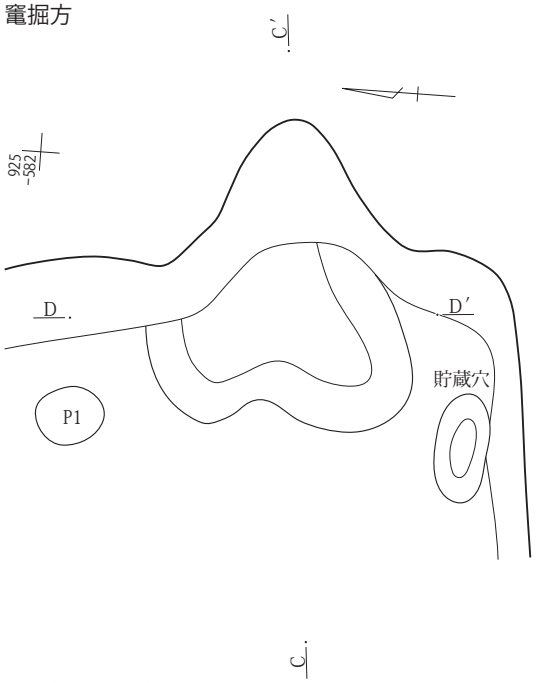
所見　柱穴内に柱痕が残されているのに対し、埋没土は上層まで一様に、As-C・褐色土塊・焼土・炭化物を含む暗褐色土であることから、建物の廃棄時に柱を撤去し、

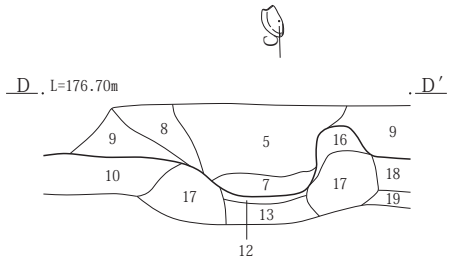
竈





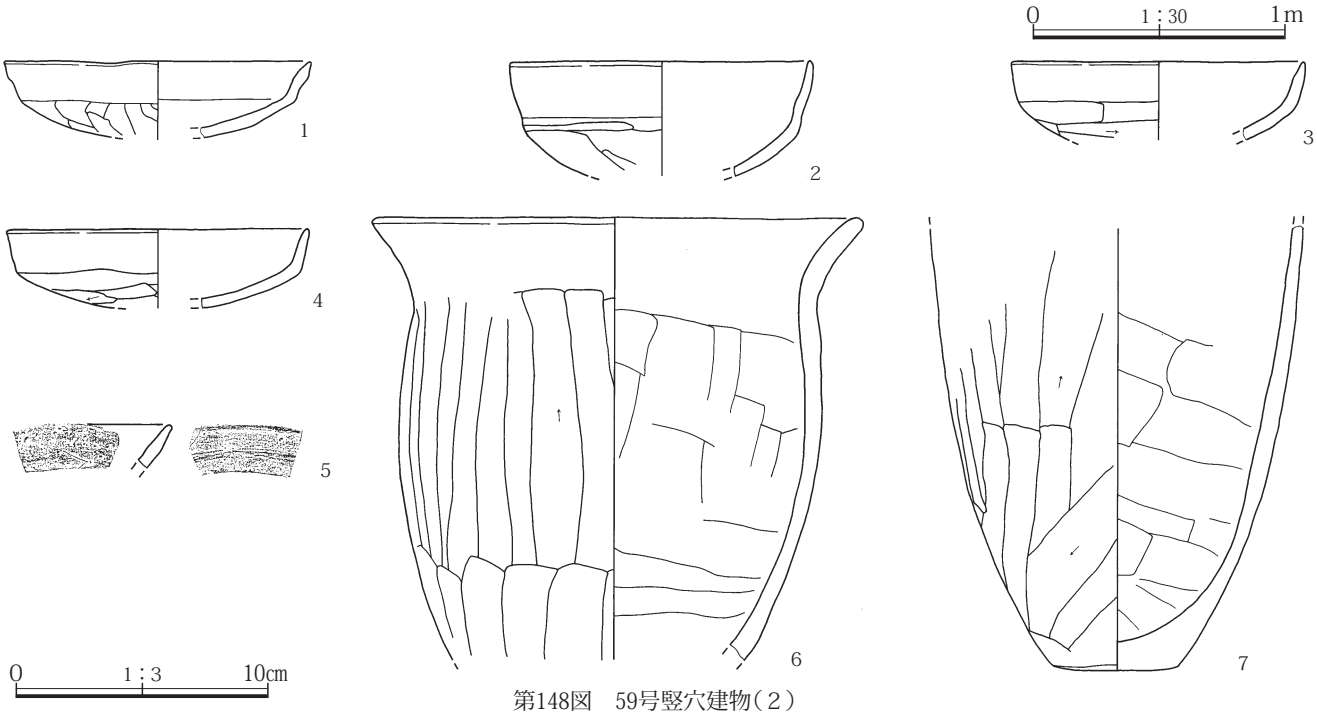
竈掘方





竈

1．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を少量､にぶい黄橙色軽石を微量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　褐色土・にぶい黄橙色軽石・にぶい黄橙色粘質土を少量含む。締り・粘性あり。
3．にぶい黄褐色土　ローム小塊・粒・褐色土・にぶい黄橙色軽石・にぶい黄橙色粘質土を含む。締り・粘性あり。
4．褐色土　黒褐色土を含む。締り・粘性あり。
5．灰黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土塊を含む。締り・粘性あり。竈天井崩落土。
6．にぶい黄橙色土　黄褐色土を含む。締り・粘性あり。
7．褐灰色土　焼土大塊・灰を含む。粘性あり。
8．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土粒を少量含む。締り弱。粘性あり。
9．黒褐色土　にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
10．黒褐色土　ローム粒を少量、As-Cを微量含む。粘性あり。
11．にぶい黄橙色土　粘質土。粘性強。カマド天井崩落土。
12．灰黄褐色土　焼土・灰・炭化物を含む。締り弱。粘性あり。
13．にぶい黄褐色土　にぶい黄橙色粘質土小塊・焼土小塊・黒褐色土小塊を含む。粘性あり。
14．にぶい黄褐色土　黒褐色土小塊を多量含む。粘性あり。
15．にぶい黄褐色土　ローム塊を多量含む。締り強。粘性あり。
16．にぶい黄褐色土　ローム小塊を少量含む。締り・粘性あり。
17．にぶい黄褐色土　粘質土。暗褐色土小塊を含む。締り・粘性あり。
18．黒褐色土　にぶい黄橙色粘質土・炭化物を少量、焼土粒を微量含む。粘性あり。
19．にぶい黄褐色土　黄褐色土小塊を少量含む。粘性あり。



第148図　59号竪穴建物（２）

その際、腐食した部分が柱穴内に残された状態で、埋め戻しが行われた可能性がある。柱穴内に礎石状の石が利用されていたのは、柱が腐食しやすい状態を補うためであったと考えることもできる。建物の南壁は調査区際で曲がり始めている様相が見られ、東西が３m未満の小規模な建物である可能性が高いが、床面の硬化が調査区外へと続いていることから、建物の南壁、東壁ともに更に調査区外へと続き、より規模の大きな建物である可能性も残されている。出土遺物はいずれも埋没土中からであり、この建物の時期の特定は難しいが、出土遺物は８世紀第１四半期のものである。

２区59号竪穴建物(第147・148図、第８表、PL.33・60)

調査区西側、20号竪穴建物の南東で、わずかに重複する位置にある。

位置　X＝47,922～47,925　Y＝-74,581～-74,586

重複遺構　20号竪穴建物と重複している。新旧関係は本遺構が新しい。

形状　長方形

主軸方位　N－81°－E

規模　東西4.18m　南北2.97m

床面積　9.74㎡

埋没土層　埋没土の多くはAs-C・黄褐色土・炭化物を含む暗褐色土で、その上層にはAs-C・黄褐色土を含む黒褐色土、床面の周縁部にはAs-C・にぶい黄橙色粘質土塊を含む黒褐色土が堆積していた。

壁高　32～40cm

床面　ほぼ平坦である。

掘方　床面から数cmと浅く、大きな起伏はほとんどないが、細かい凹凸がある。

竈　東壁南寄りの位置に設置している。規模は長軸103cm、袖幅100cmを測り、にぶい黄橙色粘質土等を使用して袖を構築している。燃焼部の底部に焼土・灰を含む層がみられるが、焼土の量は少ない。

貯蔵穴　竈の右袖付近、建物の南東隅に設置している。規模は長径40cm、短径36cmのほぼ円形で、深さ18cmを測る。

柱穴　ピット２基を検出した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

Ｐ１　31×28×17　　Ｐ２　45×31×15

共に浅めの形状で、壁面に近いところにある。主柱穴である可能性もあるが、その配置や形状について疑問が残る。

壁溝　確認できなかった。

遺物　床面直上や竈内、埋没土中から土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１～４:土師器の杯(１・３・４は掘方)、５：須恵器の高杯、６・７：土師器の甕(竈内)である。

所見　本遺跡では数少ない、主軸方向に縦長の建物である。床面直上や竈内で出土した遺物から、時期は７世紀前半である。

２区４号竪穴状遺構(第149図、第８表、PL.33)

調査区東側、53号竪穴建物の南にある。

座標値　X＝47,894～47,897　Y＝-73,513～-73,516

重複遺構　なし

形状　隅丸正方形

長軸方位　N－70°－W

規模　東西2.26m　南北2.07m

埋没土層　埋没土上層はAs-C・褐色土塊を含む暗褐色土、床面付近はAs-C・黒色土塊を含む黒褐色土である。

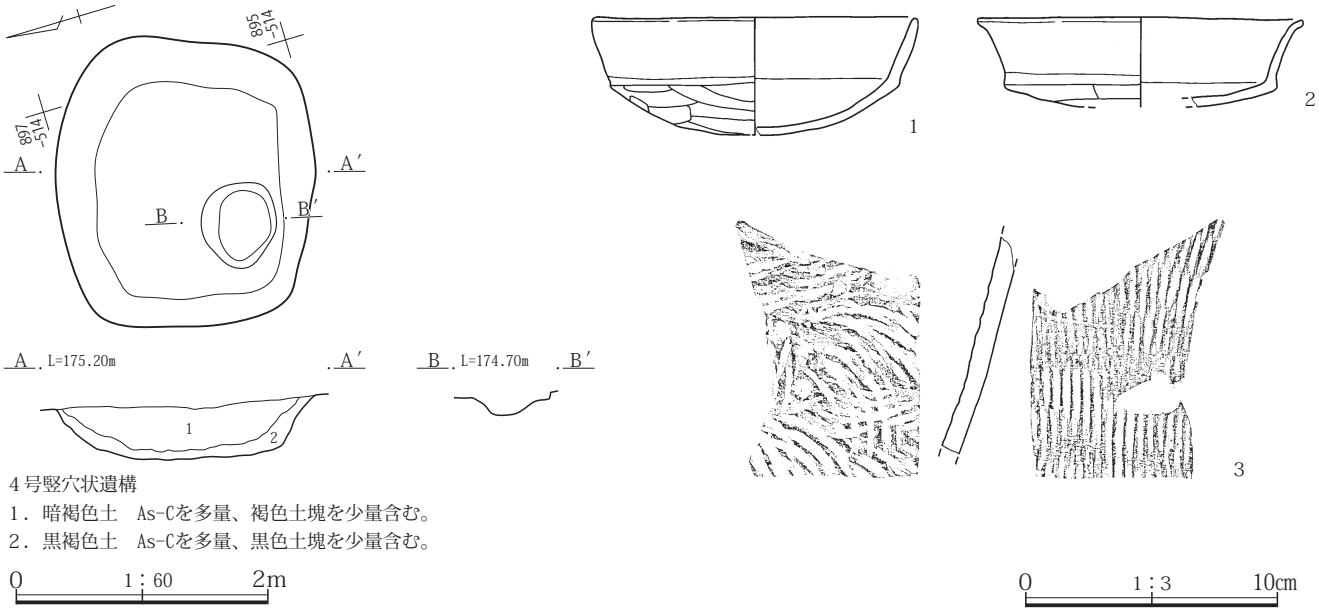
壁高　31～44cmである。

床面　凹凸は少ないが、遺構の中央部が最も低く、すり鉢状になっている。

遺物　埋没土中で土師器や須恵器が出土した。掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３：須恵器の甕である。

所見　竈、柱穴、貯蔵穴、壁溝共に検出できなかったため、竪穴状遺構とした。床面直上での出土遺物がなく、時期は明らかではないが、埋没土中で出土した遺物は７世紀前半のものである。

４号竪穴状遺構



４号竪穴状遺構
１．暗褐色土　As-Cを多量、褐色土塊を少量含む。
２．黒褐色土　As-Cを多量、黒色土塊を少量含む。

第149図　４号竪穴状遺構

２．掘立柱建物・柵

２区１号掘立柱建物(第150図、PL.33)

調査区西側､53号竪穴建物の南東約15mの位置にある。

座標値　X＝47,888～47,891　Y＝-73,499～-73,505

重複遺構　なし

形状　長方形

桁行方位　N－77°－E

規模　桁行5.10m　梁行1.73m

検出状況　検出された柱穴は８基で、Ｐ１～Ｐ８で構成する桁行３間、梁行１間の掘立柱建物である。柱間の距離は、Ｐ２・Ｐ３間、Ｐ６・Ｐ７間が幾分長く、Ｐ７がやや内側に入る位置にあり、Ｐ２との距離が短い。桁行方向1.50～1.94m、梁行方向1.35～1.73mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、長軸35～45cm、短軸32～41cm、深さ31～54cmである。埋没土は主にAs-Cや褐色土塊等を含む暗褐色土である。

所見　本遺構の北西約15mの位置に53号竪穴建物と４号竪穴遺構があり、いずれも７世紀前半の遺構である。この２つの遺構と本遺構の柱穴の埋没土が類似していることから、時期は古墳時代後半前後とみられる。

２区１号柵(第151図)

調査区西側、53号竪穴建物の南東にある。

座標値　X＝47,896・47,897　Y＝-73,506～-73,513

重複遺構　なし

方位　N－87°－E

規模　長軸7.65m

検出状況　検出された柱穴は４基で、３間の柱穴列である。柱間の距離は2.07～3.30mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、長軸58～75cm、短軸47～66cm、深さ37～63cmである。埋没土は主にAs-Cや黒色土塊等を含む暗褐色土である。

所見　53号竪穴建物と埋没土が類似していることから、時期は古墳時代後半前後とみられる。また、方位が同建物の主軸方位とほぼ一致していることから、53号竪穴建物と関係のある柵である可能性もある。

２区２号柵(第151図)

調査区西側、52号竪穴建物の南にある。

座標値　X＝47,911～47,913　Y＝-73,528～-73,535

重複遺構　99号土坑と重複する。本遺構が新しい。100号土坑も範囲内にあるが、柱穴が直接重複していないので、新旧関係は不明である。

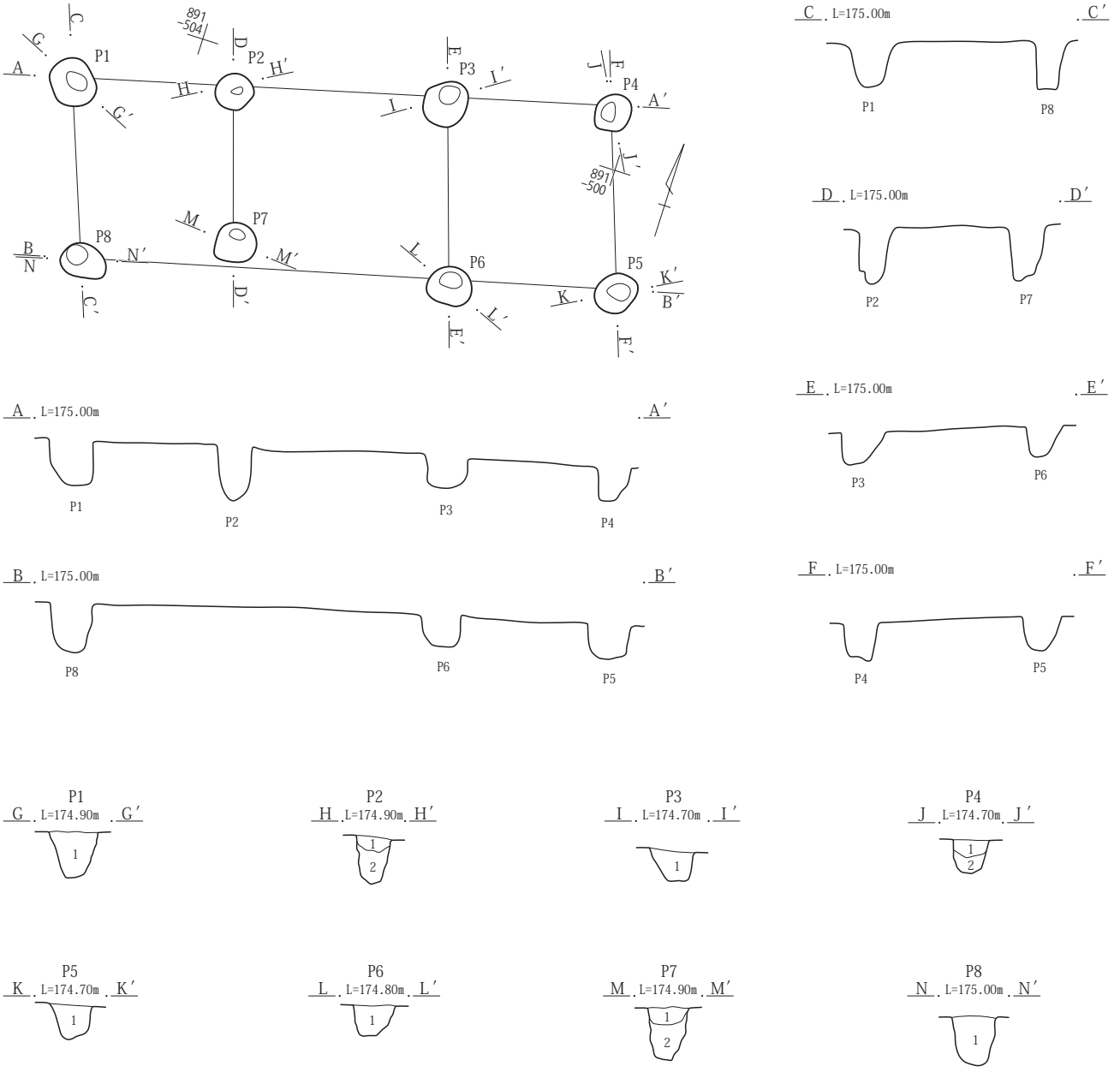
方位　N－76°－E

規模　長軸6.18m

検出状況　検出された柱穴は４基で、３間の柱穴列である。柱間の距離は2.02～2.10mを測る。各柱穴は概ね円形に近い楕円形を呈し、長軸46～68cm、短軸39～53cm、深さ49～65cmである。埋没土は主にAs-C等を含む暗褐色土である。

所見　52号竪穴建物と埋没土が類似していることから、時期は古墳時代後半前後とみられる。また、方位が同建物の主軸方位とほぼ一致していることから、52号竪穴建物と関係のある柵である可能性もある

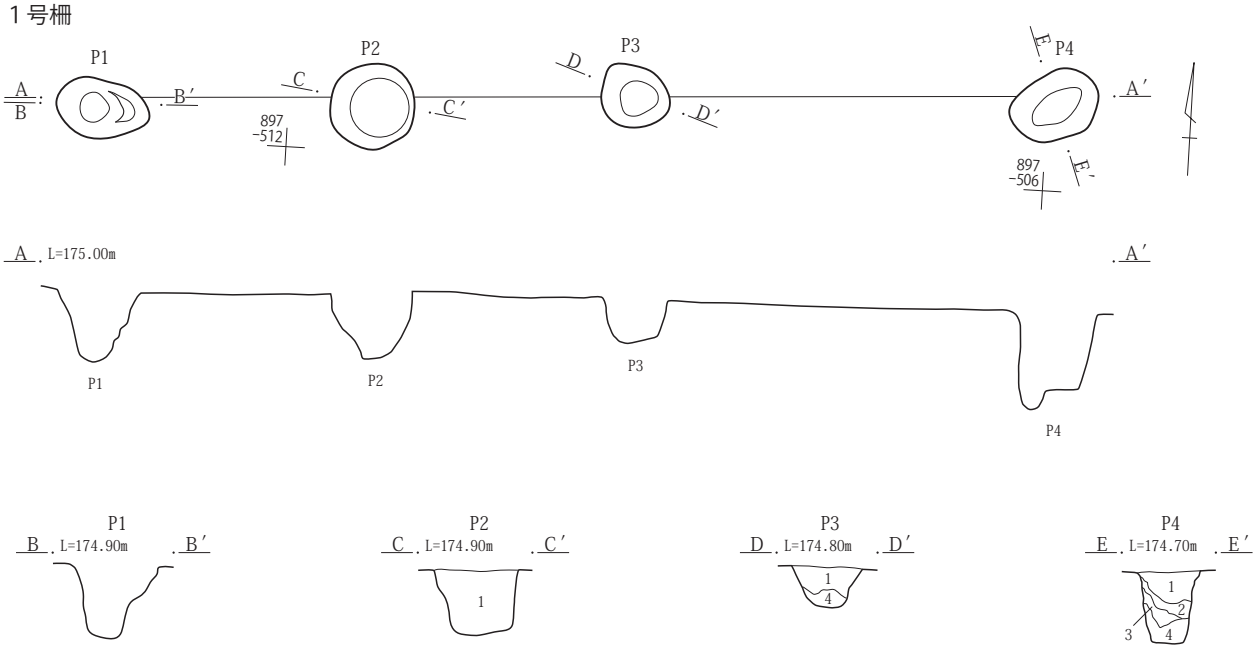
１号掘立柱建物



１号掘立柱建物
Ｐ１～Ｐ８
１．暗褐色土　As-C・黒色土塊・褐色土塊を多量含む。
２．黒褐色土　As-C・褐色土塊を少量含む。

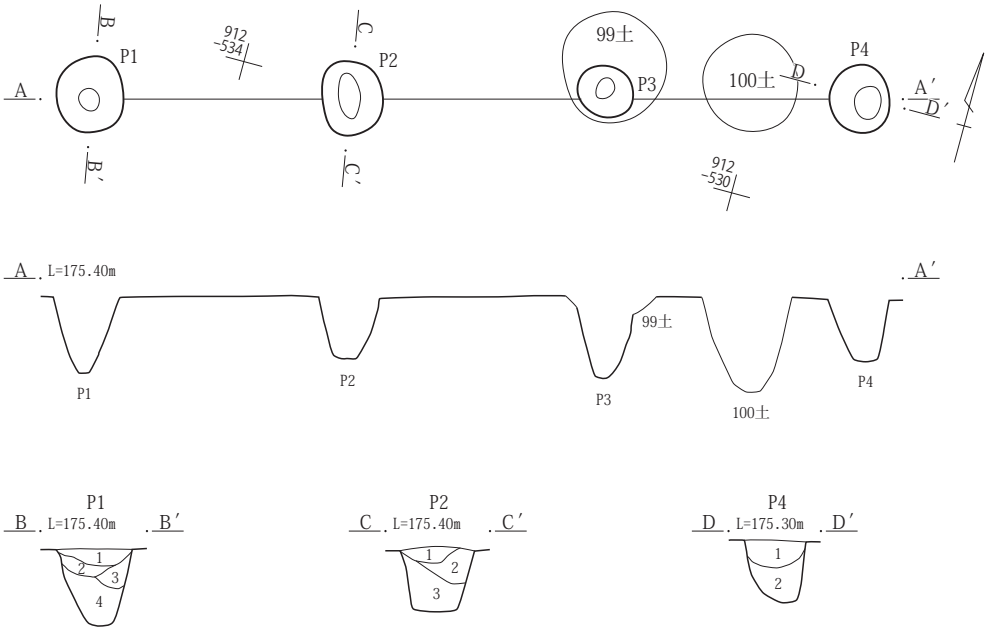
第150図　１号掘立柱建物

１号柵



１号柵
Ｐ２～Ｐ４
１．暗褐色土　黄褐色土・黒色土塊を多量、As-Cを少量含む。
２．黄褐色土　黒色土塊を含む。
３．黒色土　褐色土塊を微量含む。
４．黒褐色土　As-C・褐色土塊を少量、黄褐色土塊を微量含む。

２号柵



２号柵
Ｐ１
１．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
２．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
３．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
４．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。

Ｐ２
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
２．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
３．暗褐色土　ローム塊を少量、軽石粒を微量含む。
Ｐ４
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
２．暗褐色土　褐色土塊を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。

0　1：60　2m

第151図　１・２号柵

３．土坑

２区・２区東では65基の土坑を確認した。２区・２区東の調査区全体に分布しているが、２区の中央付近で多数検出している。２区西では検出しなかった。

65基中、円形が７基、楕円形が45基、隅丸のものも含めて長方形が６基、不整形が６基、不明のものが１基である。遺物の出土した土坑は35基で、用途が考えられるものは５基である。

２区16号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,923・47,924　Y＝-73,563・-73,564
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－36°－E
規模　長軸1.23m　短軸0.99m　深さ0.18m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区20号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,922　Y＝-73,566・-73,567
形状　円形　　**長軸方位**　N－44°－E
規模　長軸0.7m　短軸0.68m　深さ0.78m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区21号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,923・47,924　Y＝-73,566・-73,567
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－32°－W
規模　長軸1.05m　短軸0.93m　深さ0.54m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区22号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,936～47,938　Y＝-73,624～-73,626
重複遺構　34号土坑、18号溝　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－81°－W
規模　長軸1.76m　短軸1.47m　深さ0.34m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区23号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,939・47,940　Y＝-73,624・-73,625
重複遺構　11号・18号溝　　**形状**　不整形
長軸方位　N－86°－E
規模　長軸1.26m　短軸1.09m　深さ0.53m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区24号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,925・47,926　Y＝-73,566
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－60°－E
規模　長軸0.84m　短軸0.78m　深さ0.46m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

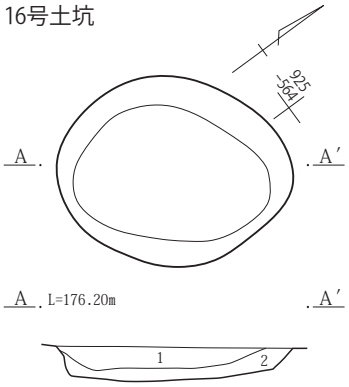
２区26号土坑(第152図、PL.34)
座標値　X＝47,924・47,925　Y＝-73,564・-73,565
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－37°－E
規模　長軸1.24m　短軸1.01m　深さ0.63m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区27号土坑(第153図、第８表、PL.34)
座標値　X＝47,937・47,938　Y＝-73,598
形状　不整形　　**長軸方位**　N－13°－E
規模　長軸0.68m　短軸0.45m　深さ0.68m
遺物　灰釉陶器の椀が１点出土し、掲載した。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。出土した遺物は10世紀前半のものである。

２区28号土坑(第153図、PL.34)
座標値　X＝47,888～47,890　Y＝-73,479・-73,480
形状　長方形　　**長軸方位**　N－22°－W
規模　長軸2.48m　短軸0.45m　深さ0.09m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

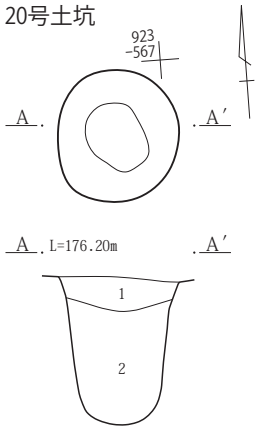
２区29号土坑(第153図、PL.34)
座標値　X＝47,918～47,920　Y＝-73,580～-73,583

16号土坑



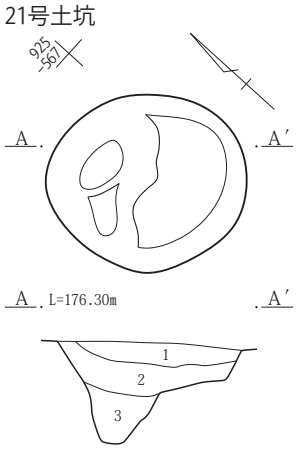
16号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。

20号土坑



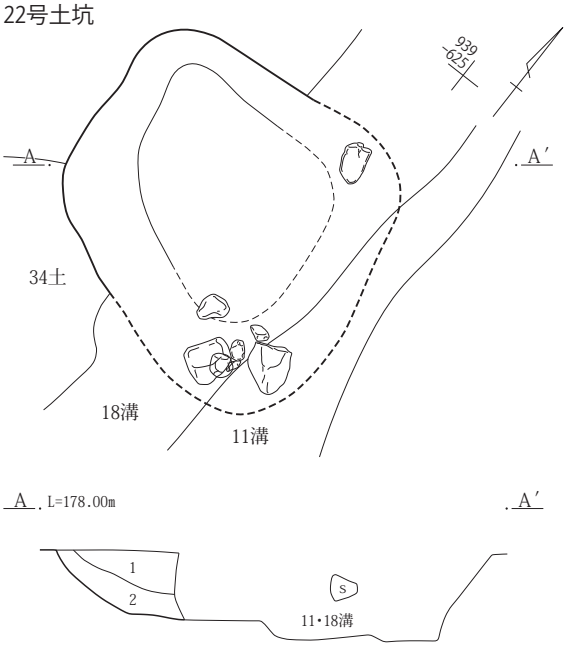
20号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を多量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を多量、ローム粒・小塊を微量含む。締りあり。

21号土坑



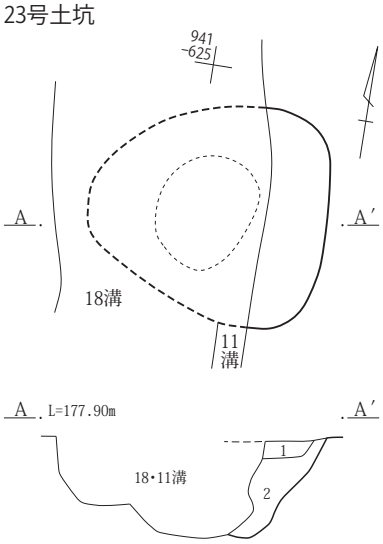
21号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土・炭化物・ローム塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、焼土・炭化物を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒・ローム塊を多量含む。締りあり。

22号土坑



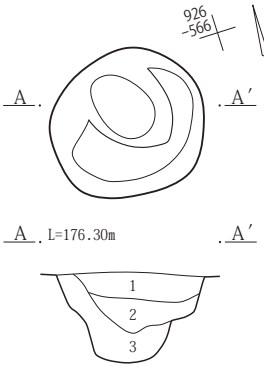
22号土坑
1．黒褐色土　As-Cを多量、にぶい黄褐色土を少量含む。締りあり。粘性弱。
2．黒褐色土　As-Cを少量含む。締りあり。粘性弱。

23号土坑



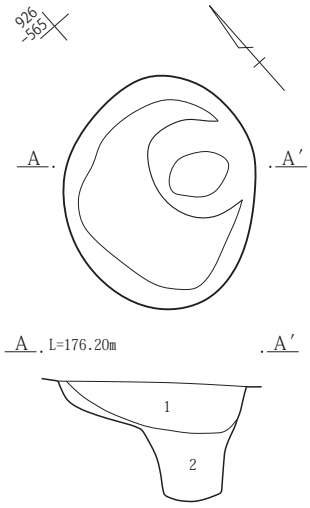
23号土坑
1．黒褐色土　As-Cを微量含む。締りあり。粘性弱。
2．黒色土　暗褐色土塊を含む。締り・粘性あり。

24号土坑



24号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、炭化物を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を少量、ローム小塊を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　ローム塊を多量含む。

26号土坑



26号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・炭化物粒・ローム塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

第152図　16・20～24・26号土坑

0　1：40　1m

形状　不整形　　**長軸方位**　Ｎ－70°－Ｗ
規模　長軸3.07ｍ　短軸(1.6)ｍ　深さ2.34ｍ
所見　遺構の形状及び中位に角礫や円礫を多量に含む土層から、中世以降の井戸の可能性がある。また、調査時に湧水を確認することはできなかったが、角礫や円礫を多量に含む層の外側の13層～15層は粘性があり、底部の外側の16層は礫を多量に含む層であることから、16層が湧水帯であった可能性がある。

２区30号土坑(第153図、PL.34)
座標値　Ｘ＝47,927・47,928　Ｙ＝-73,590～-73,592
形状　楕円形　　**長軸方位**　Ｎ－50°－Ｗ
規模　長軸1.83ｍ　短軸1.39ｍ　深さ0.18ｍ
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区31号土坑(第153図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,912　Ｙ＝-73,558
形状　楕円形　　**長軸方位**　Ｎ－71°－Ｗ
規模　長軸0.42ｍ　短軸0.35ｍ　深さ0.13ｍ
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区34号土坑(第154図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,933～47,937　Ｙ＝-73,625・-73,627
重複遺構　38号土坑、18号溝　　**形状**　不整形
長軸方位　Ｎ－20°－Ｅ
規模　長軸(3.23)ｍ　短軸(1.23)ｍ　深さ0.12ｍ
所見　上部は38号土坑と18号溝によって壊されている。埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区38号土坑(第154図)
座標値　Ｘ＝47,934・47,935　Ｙ＝-74,625・-74,626
重複遺構　34号土坑、18号溝　　**形状**　楕円形
長軸方位　Ｎ－64°－Ｅ
規模　長軸1.3ｍ　短軸1.02ｍ　深さ0.31ｍ
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区40号土坑(第154図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,923・47,924　Ｙ＝-73,579・-73,580
形状　隅丸長方形　　**長軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ
規模　長軸2.08ｍ　短軸0.97ｍ　深さ0.12ｍ
遺物　土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

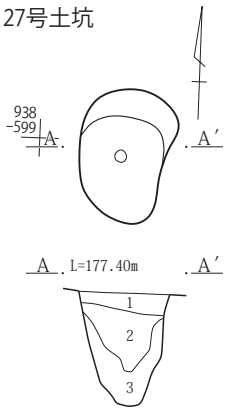
２区41号土坑(第154図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,923　Ｙ＝-73,576・-73,577
形状　楕円形　　**長軸方位**　Ｎ－14°－Ｅ
規模　長軸0.61ｍ　短軸0.42ｍ　深さ0.22ｍ
遺物　土師器、須恵器の小片が各１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区42号土坑(第154図、第８表、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,925・47,926　Ｙ＝-73,572・-73,573
形状　楕円形　　**長軸方位**　Ｎ－39°－Ｅ
規模　長軸0.91ｍ　短軸0.77ｍ　深さ0.26ｍ
遺物　土師器の杯１点を掲載した。他に土師器、須恵器の小片が多数出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。掲載した遺物は７世紀後半のものである。

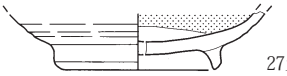
２区43号土坑(第154図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,926　Ｙ＝-73,573・-73,574
重複遺構　27号竪穴建物　　**形状**　楕円形
長軸方位　Ｎ－15°－Ｅ
規模　長軸0.59ｍ　短軸0.5ｍ　深さ0.17ｍ
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　27号竪穴建物より新しいため、時期は古代以降の可能性が高い。

２区44号土坑(第154図、PL.35)
座標値　Ｘ＝47,920　Ｙ＝-73,575
重複遺構　26号竪穴建物　　**形状**　円形
長軸方位　Ｎ－25°－Ｗ
規模　長軸0.57ｍ　短軸0.55ｍ　深さ0.32ｍ

27号土坑

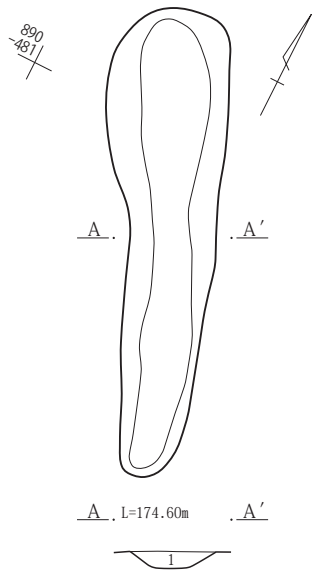


27号土坑
1．褐色土　軽石粒を少量含む。締りあり。
2．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。締りあり。
3．黄褐色土　暗褐色土を少量、軽石粒を微量含む。



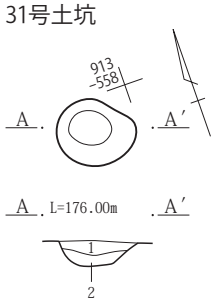
27土１

28号土坑



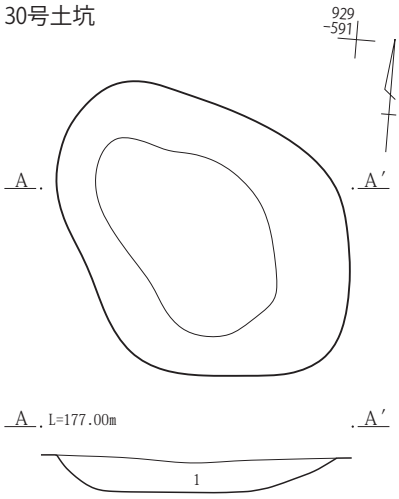
28号土坑
1．黒褐色土　ローム小塊を少量、As-Cを微量含む。締り強。粘性あり。

31号土坑



31号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

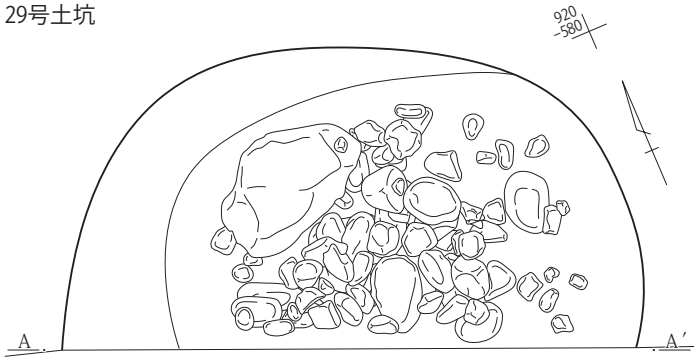
30号土坑



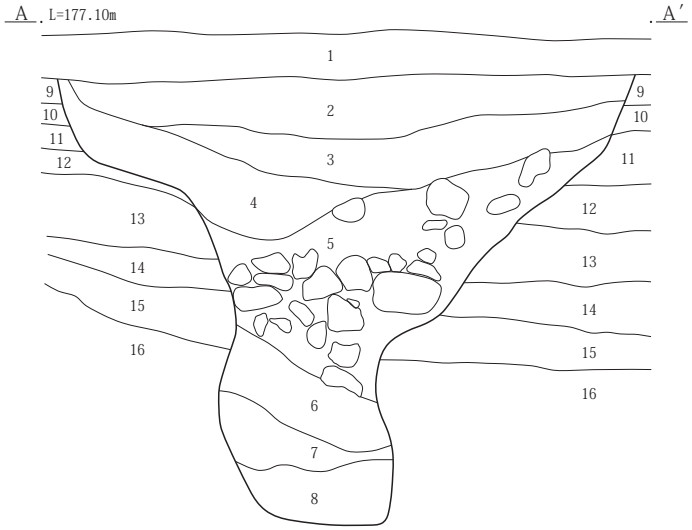
30号土坑
1．褐色土　As-C・暗褐色土塊を少量含む。締り強。粘性あり。

0　1：3　10cm

29号土坑



調査区外

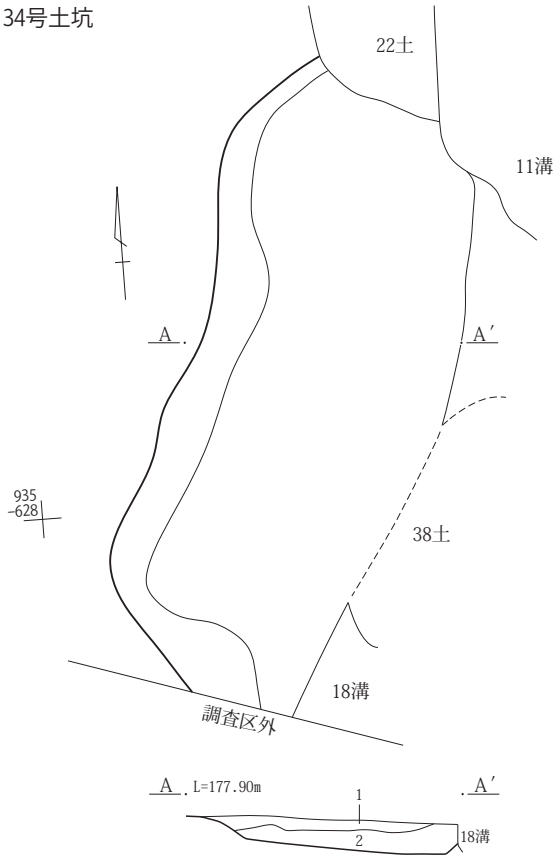


29号土坑
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム粒を微量含む。
3．暗褐色土　軽石粒・炭化物粒を微量含む。
4．暗褐色土　黄褐色土大塊を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。
5．暗褐色土　角礫や円礫を多量、軽石粒を微量含む。
6．暗褐色土　ローム粒・小塊・炭化物を微量含む。
7．明黄褐色土　角礫・円礫を多量含む。締りあり。
8．明青灰色土　礫を多量含む。締りあり。
9．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
10．黒褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
11．黒褐色土　褐色土を多量、軽石粒を微量含む。
12．黒褐色土　軽石粒を微量含む。
13．黒褐色土　浅黄橙色土を少量、ローム塊を微量含む。締り・粘性あり。
14．浅黄橙色土　黒褐色土を多量、ローム粒を微量含む。締り・粘性あり。
15．浅黄橙色土　黒褐色土を微量含む。締り・粘性あり。
16．明青灰色土　小礫～拳大の礫を多量に含む。締りあり。

0　1：40　1m

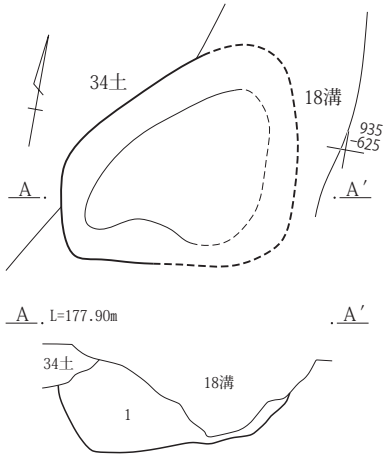
第153図　27～31号土坑

34号土坑



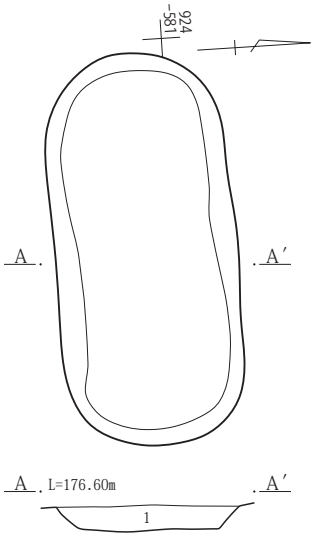
34号土坑
１．黒褐色土　As-Cを多量含む。粘性あり。
２．黒色土　As-C・暗褐色土を少量含む。締り弱。粘性あり。

38号土坑



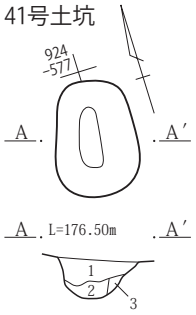
38号土坑
１．黒色土　As-Cを多量含む。締り強。粘性あり。

40号土坑



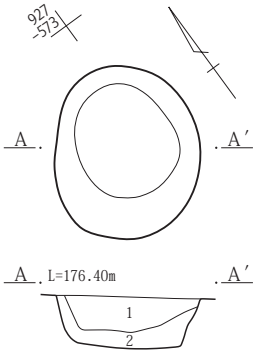
40号土坑
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

41号土坑

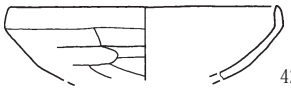


41号土坑
１．暗褐色土　軽石粒を多量含む。締りあり。
２．黒褐色土　黄褐色砂質土を含む。締り弱。
３．黄褐色土　砂質土。締りあり。

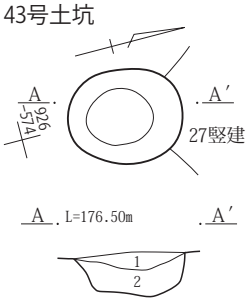
42号土坑



42号土坑
１．暗褐色土　軽石粒を少量、ローム粒を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。

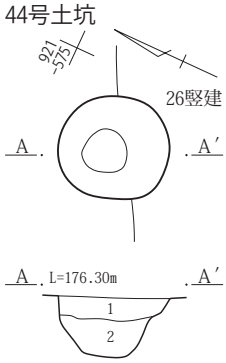


43号土坑



43号土坑
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
２．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

44号土坑



44号土坑
１．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
２．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒微量含む。

0　1：3　10cm　　0　1：40　1m

第154図　34・38・40～44号土坑

遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　26号竪穴建物より新しいため、時期は６世紀後半以降である。

２区46号土坑（第155図、PL.35）
座標値　X＝47,907・47,908　Y＝-73,543・-73,544
形状　楕円形　**長軸方位**　N－７°－W
規模　長軸0.62m　短軸0.58m　深さ0.28m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区47号土坑（第155図、第８表、PL.35）
座標値　X＝47,929～47,931　Y＝-73,613～-73,615
形状　楕円形　**長軸方位**　N－16°－E
規模　長軸(1.24)m　短軸(1.79)m　深さ0.35m
遺物　須恵器の杯１点を掲載した。他に土師器、須恵器の小片が各１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。掲載した遺物は８世紀前半のものである。

２区48号土坑（第155図、PL.35）
座標値　X＝47,932　Y＝-73,612
形状　楕円形　**長軸方位**　N－83°－W
規模　長軸0.68m　短軸0.41m　深さ0.22m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区53号土坑（第155図、PL.35）
座標値　X＝47,913・47,914　Y＝-73,558・-73,559
形状　楕円形　**長軸方位**　N－58°－E
規模　長軸0.69m　短軸0.62m　深さ0.19m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区54号土坑（第155図、PL.35）
座標値　X＝47,910・47,911　Y＝-73,557・-73,558
形状　楕円形　**長軸方位**　N－29°－E
規模　長軸0.51m　短軸0.48m　深さ0.2m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区59号土坑（第155図、PL.36）
座標値　X＝47,909・47,910　Y＝-73,544
形状　楕円形　**長軸方位**　N－５°－E
規模　長軸0.65m　短軸0.48m　深さ0.14m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

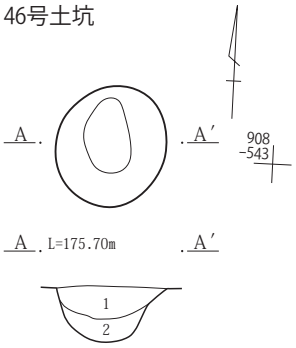
２区62号土坑（第156図、第８表、PL.36・60）
座標値　X＝47,914・47,915　Y＝-73,569～-73,571
重複遺構　11号竪穴建物　**形状**　楕円形
長軸方位　N－55°－E
規模　長軸(1.18)m　短軸1.19m　深さ1.93m
遺物　掲載したのは１：凹石、２：未成品の石臼である。他に、土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　掲載した未成品の石臼は、近世のものとみられ、埋没土の中位から出土している。遺構の下位は井筒形の形状であることから、近世以降に廃棄された井戸の可能性が高い。

２区63号土坑（第155図、PL.36）
座標値　X＝47,909　Y＝-73,545
形状　楕円形　**長軸方位**　N－71°－W
規模　長軸0.57m　短軸0.48m　深さ0.25m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区64号土坑（第155図、PL.36）
座標値　X＝47,907・47,908　Y＝-73,544・-73,545
形状　不整形　**長軸方位**　N－13°－W
規模　長軸0.53m　短軸0.44m　深さ0.17m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

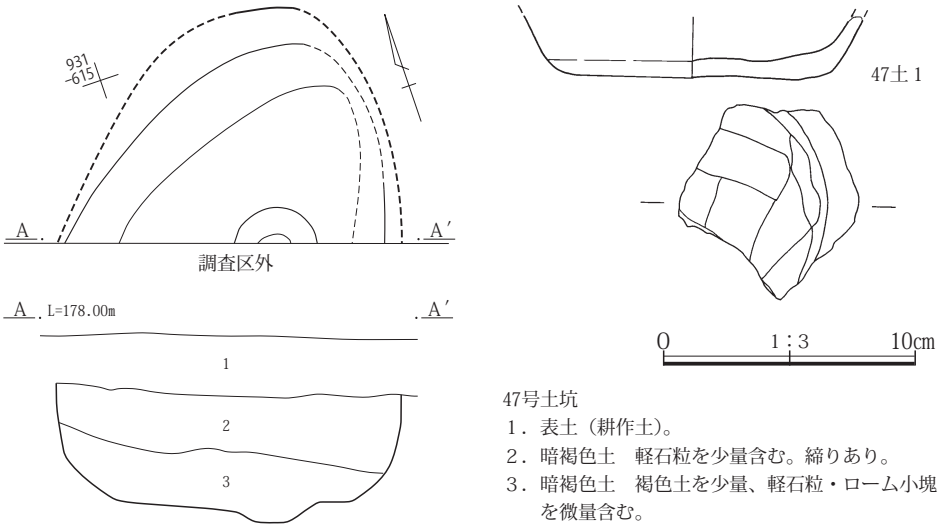
２区67号土坑（第155図、PL.36）
座標値　X＝47,908・47,909　Y＝-73,542・-73,543
形状　楕円形　**長軸方位**　N－10°－W

46号土坑



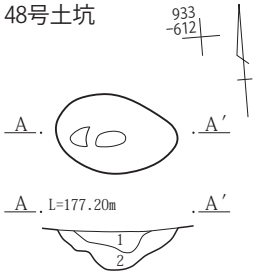
46号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、ローム小塊を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。

47号土坑



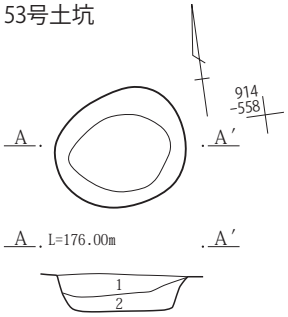
47号土坑
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　軽石粒を少量含む。締りあり。
3．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。

48号土坑



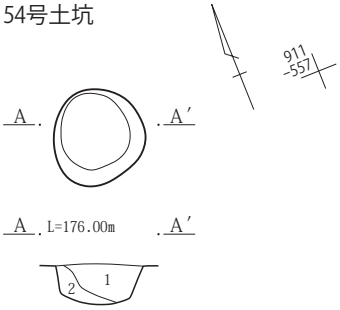
48号土坑
1．黒褐色土　軽石粒・ローム小塊を微量含む。
2．黒褐色土　ローム塊を少量、軽石粒を微量含む。

53号土坑



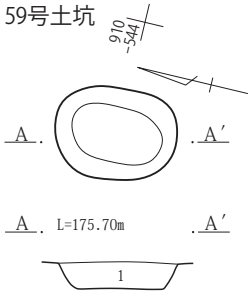
53号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

54号土坑



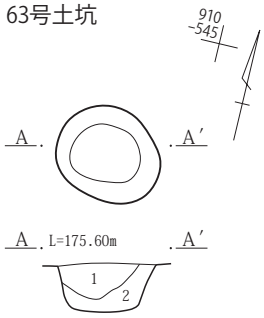
54号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
2．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

59号土坑



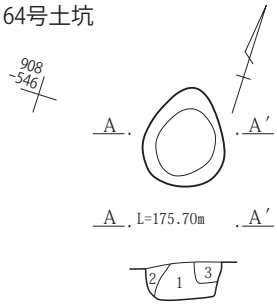
59号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、炭化物を微量含む。締りあり。

63号土坑



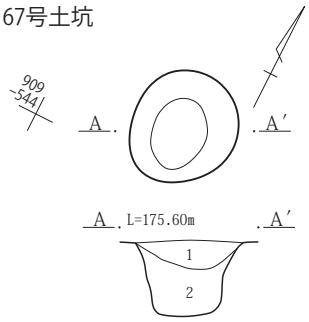
63号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を多量含む。締りあり。
2．黒褐色土　軽石粒を微量含む。

64号土坑



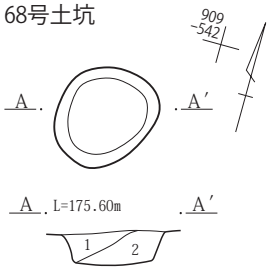
64号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、焼土・炭化物を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒を少量、ローム小塊を微量含む。締りあり。

67号土坑



67号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
2．黒褐色土　軽石粒を微量含む。

68号土坑

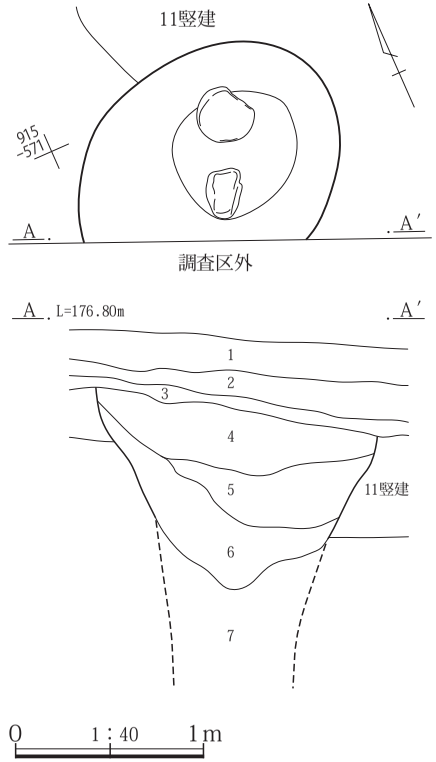


68号土坑
1．暗褐色土　ローム小塊を少量、軽石粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

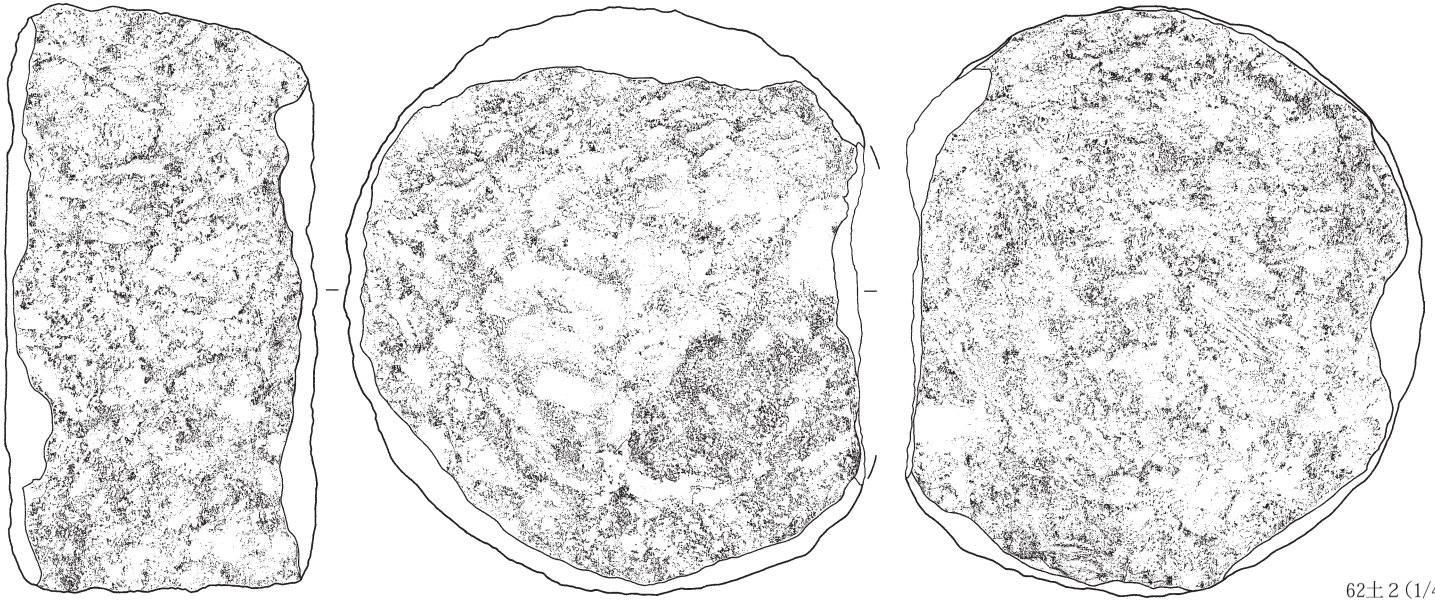
0　1：40　1m

第155図　46～48・53・54・59・63・64・67・68号土坑

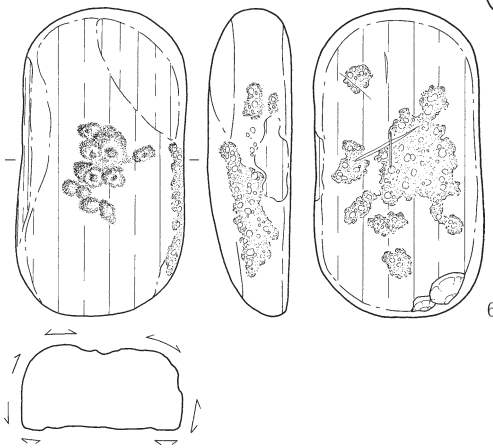
62号土坑



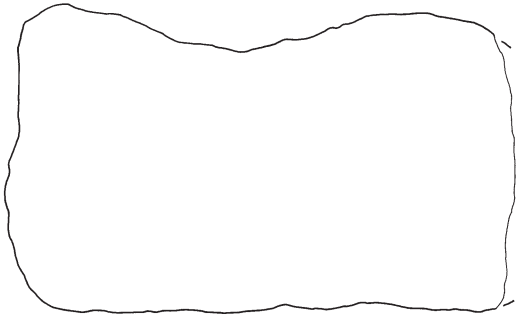
62号土坑
1．表土（耕作土）。
2．黒褐色土　灰白色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
3．灰褐色土　灰白色軽石を多量、小礫を少量含む。締り・粘性あり。
4．黒褐色土　ローム塊・灰白色軽石を少量含む。粘性あり。
5．黒褐色土　灰白色軽石・小礫を少量含む。締り弱。粘性あり。
6．にぶい黄褐色土　ローム大塊・粒を含む。締り弱。粘性あり。
7．明黄褐色土　ローム層。締り・粘性あり。



62土２(1/4)



62土１



0　1：4　10cm

0　1：3　10cm

第156図　62号土坑

規模　長軸0.61m　短軸0.56m　深さ0.39m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区68号土坑（第155図、PL.36）
座標値　X＝47,908　Y＝-73,542
形状　楕円形　**長軸方位**　N－31°－E
規模　長軸0.57m　短軸0.48m　深さ0.17m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区69号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,904・47,905　Y＝-73,541・-73,542
形状　楕円形　**長軸方位**　N－39°－W
規模　長軸0.53m　短軸0.47m　深さ0.2m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区70号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,913・47,914　Y＝-73,536・-73,537
形状　楕円形　**長軸方位**　N－20°－E
規模　長軸0.69m　短軸0.38m　深さ0.36m
遺物　土師器の小片が２点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区71号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,912・47,913　Y＝-73,537
形状　楕円形　**長軸方位**　N－61°－E
規模　長軸0.45m　短軸0.41m　深さ0.33m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区72号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,910・47,911　Y＝-73,536・-73,537
形状　楕円形　**長軸方位**　N－６°－E
規模　長軸0.56m　短軸0.47m　深さ0.13m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区73号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,908・47,909　Y＝-73,524・-73,525
形状　円形　**長軸方位**　N－37°－E
遺物　土師器の小片が多数出土している。
規模　長軸1.02m　短軸1.0m　深さ0.42m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

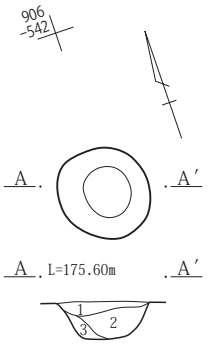
２区74号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,904・47,905　Y＝-73,525・-73,526
形状　楕円形　**長軸方位**　N－61°－W
規模　長軸0.94m　短軸0.83m　深さ0.38m
遺物　黒色土器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区75号土坑（第157図、PL.36）
座標値　X＝47,910・47,911　Y＝-73,526・-73,527
形状　隅丸長方形　**長軸方位**　N－23°－W
規模　長軸1.43m　短軸0.59m　深さ0.22m
遺物　釘などの鉄製品が３点出土し、掲載した。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区78号土坑（第157図、PL.37）
座標値　X＝47,905～47,907　Y＝-73,539～-73,541
形状　楕円形　**長軸方位**　N－17°－W
規模　長軸2.88m　短軸1.39m　深さ0.47m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　形状が箱型に近いことから、中世以降の貯蔵穴の可能性がある。

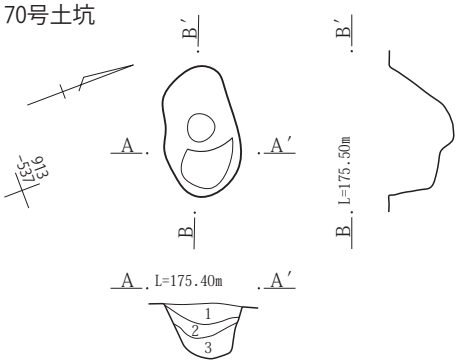
２区79号土坑（第157図、PL.37）
座標値　X＝47,908・47,909　Y＝-73,536・-73,537
形状　楕円形　**長軸方位**　N－21°－W
規模　長軸1.03m　短軸0.7m　深さ0.2m
遺物　土師器、須恵器の小片が多数出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

69号土坑



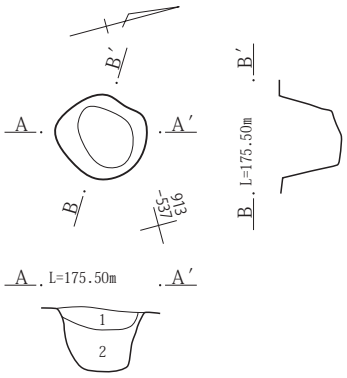
69号土坑
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　ローム塊を多量、軽石粒を微量含む。締りあり。
３．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

70号土坑



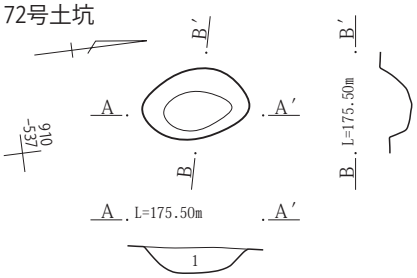
70号土坑
１．暗褐色土　軽石粒・炭化物を微量含む。
２．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
３．褐色土　暗褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

71号土坑



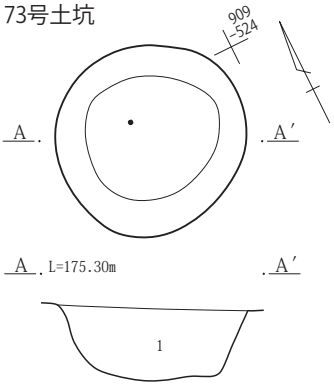
71号土坑
１．暗褐色土　軽石粒・炭化物を微量含む。
２．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、炭化物を微量含む。

72号土坑



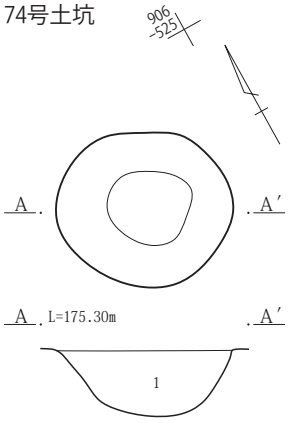
72号土坑
１．暗褐色土　軽石粒・炭化物・ローム粒を微量含む。

73号土坑



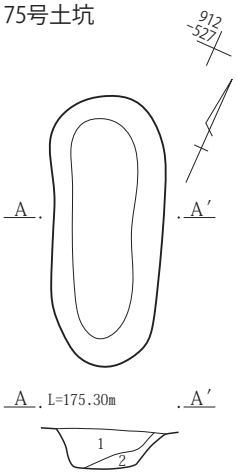
73号土坑
１．暗褐色土　As-Cを多量、焼土粒を微量含む。

74号土坑



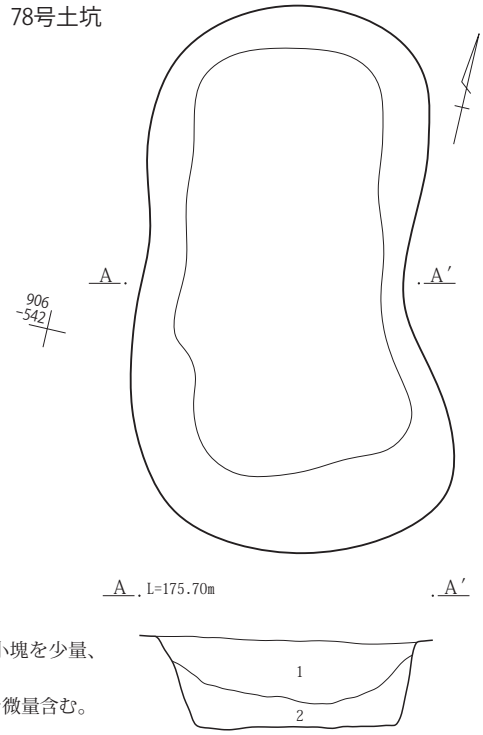
74号土坑
１．暗褐色土　As-Cを多量、焼土粒を微量含む。

75号土坑



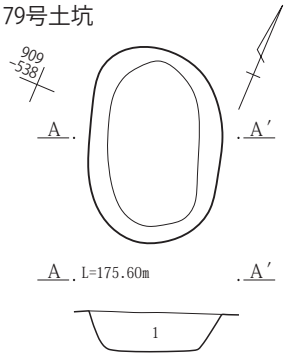
75号土坑
１．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

78号土坑



78号土坑
１．暗褐色土　軽石粒・ローム粒・小塊を少量、焼土粒を微量含む。
２．暗褐色土　軽石粒・ローム小塊を微量含む。

79号土坑



79号土坑
１．褐色土　黒褐色土塊を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。

0　1：40　1m

第157図　69～75・78・79号土坑

２区80号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,909　Y＝-73,538
形状　円形　　**長軸方位**　N－81°－W
規模　長軸0.69m　短軸0.64m　深さ0.23m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区81号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,909・47,910　Y＝-73,538
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－82°－W
規模　長軸0.53m　短軸0.43m　深さ0.2m
遺物　土師器、須恵器の小片が各１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区82号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,928・47,929　Y＝-73,569・-73,570
形状　円形　　**長軸方位**　－
規模　長軸0.85m　短軸0.82m　深さ0.17m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区83号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,927・47,928　Y＝-73,570
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－９°－E
規模　長軸1.02m　短軸0.62m　深さ0.42m
遺物　土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区84号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,925・47,926　Y＝-73,570・-73,571
重複遺構　87号土坑　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－79°－W
規模　長軸0.68m　短軸0.59m　深さ0.46m
遺物　土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区85号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,925　Y＝-73,570
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－16°－E
規模　長軸0.54m　短軸0.44m　深さ0.41m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

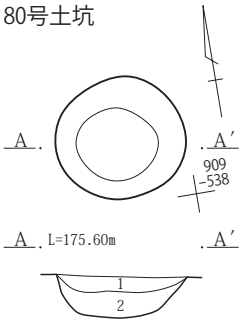
２区86号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,925・47,926　Y＝-73,568・-73,569
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－22°－W
規模　長軸1.32m　短軸1.0m　深さ0.17m
遺物　土師器、須恵器の小片が多数出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区87号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,926・47,927　Y＝-73,570
重複遺構　84号土坑　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－11°－E
規模　長軸0.61m　短軸0.57m　深さ0.4m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区88号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,920・47,921　Y＝-73,559・-73,560
形状　不明　　**長軸方位**　N－73°－W
規模　長軸1.21m　短軸(0.51)m　深さ0.18m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

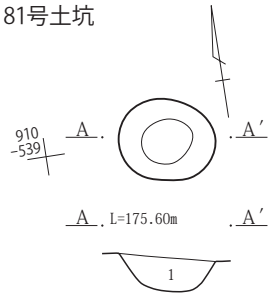
２区90号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,908・47,909　Y＝-73,538・-73,539
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－21°－W
規模　長軸1.38m　短軸0.77m　深さ0.21m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

80号土坑



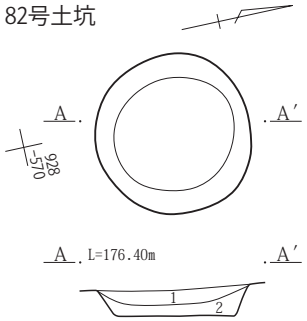
80号土坑
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を含む。

81号土坑



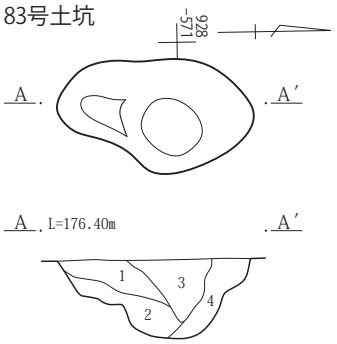
81号土坑
1．褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム小塊を微量含む。締りあり。

82号土坑



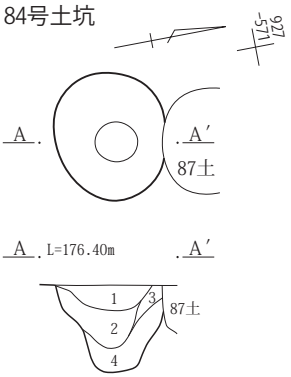
82号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土塊・軽石粒・小礫を少量含む。

83号土坑



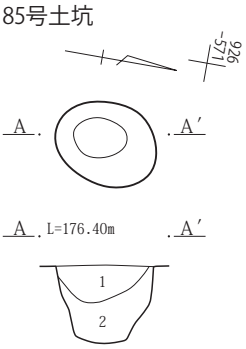
83号土坑
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　軽石粒・小礫を微量含む。
3．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
4．暗褐色土　軽石粒・小礫・ローム小塊を微量含む。

84号土坑



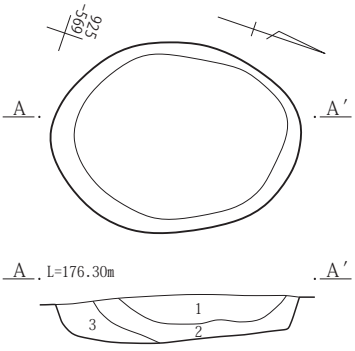
84号土坑
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・小礫を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム粒を微量含む。締りあり。
4．暗褐色土　軽石粒・ローム小塊を微量含む。

85号土坑



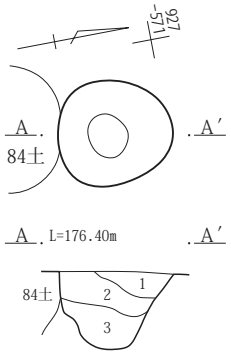
85号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土塊・軽石粒を少量、焼土・炭化物・ローム粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土塊少量、軽石粒・ローム小塊を微量含む。

86号土坑



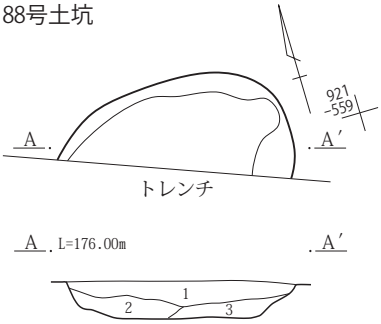
86号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、小礫を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・小礫を微量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・小礫を微量含む。締りあり。

87号土坑



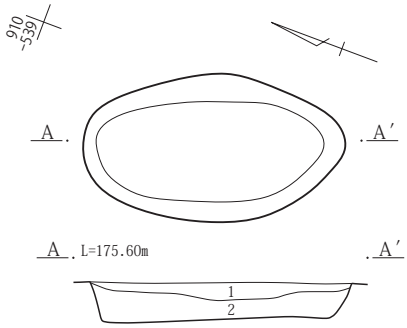
87号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、炭化物・ローム小塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム粒・小礫を微量含む。
3．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・焼土粒・ローム小塊を微量含む。

88号土坑



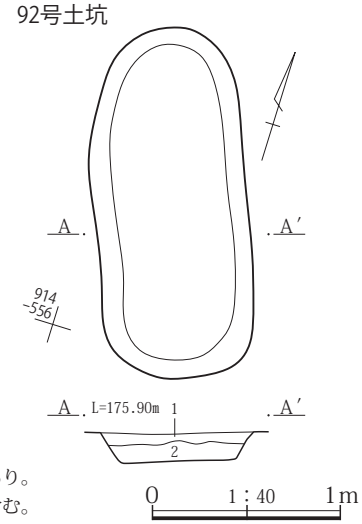
88号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土塊・軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量含む。
3．暗褐色土　黒褐色土・にぶい黄褐色土塊・焼土塊を少量、軽石粒を微量含む。

90号土坑



90号土坑
1．褐色土　黒褐色土塊・軽石粒を少量、焼土粒・ローム粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。

92号土坑



92号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量含む。

第158図　80～88・90・92号土坑

２区91号土坑(第159図、PL.37)
座標値　X＝47,913～47,917　Y＝-73,552～-73,554
重複遺構　９号竪穴建物　　**形状**　不整形
長軸方位　N－17°－W
規模　長軸(4.8)m　短軸1.39m　深さ0.28m
遺物　土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　９号竪穴建物より新しいため、時期は古代以降である可能性が高い。

２区92号土坑(第158図、PL.37)
座標値　X＝47,913～47,915　Y＝-73,554～-73,556
形状　隅丸長方形　　**長軸方位**　N－22°－W
規模　長軸1.84m　短軸0.81m　深さ0.16m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区93号土坑(第159図、PL.37)
座標値　X＝47,905・47,906　Y＝-73,512
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－10°－W
規模　長軸0.72m　短軸0.54m　深さ0.54m
遺物　土師器が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区94号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,909～47,911　Y＝-73,527・-73,528
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－23°－W
規模　長軸1.31m　短軸0.66m　深さ0.2m
遺物　土師器の小片が１点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区95号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,908～47,910　Y＝-73,528・-73,529
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－23°－W
規模　長軸2.29m　短軸0.64m　深さ0.19m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区97号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,912・47,913　Y＝-73,533・-73,534
重複遺構　52号竪穴建物　　**形状**　円形
長軸方位　N－64°－W
規模　長軸0.91m　短軸0.89m　深さ0.41m
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　52号竪穴建物より新しいため、時期は古代以降である可能性が高い。

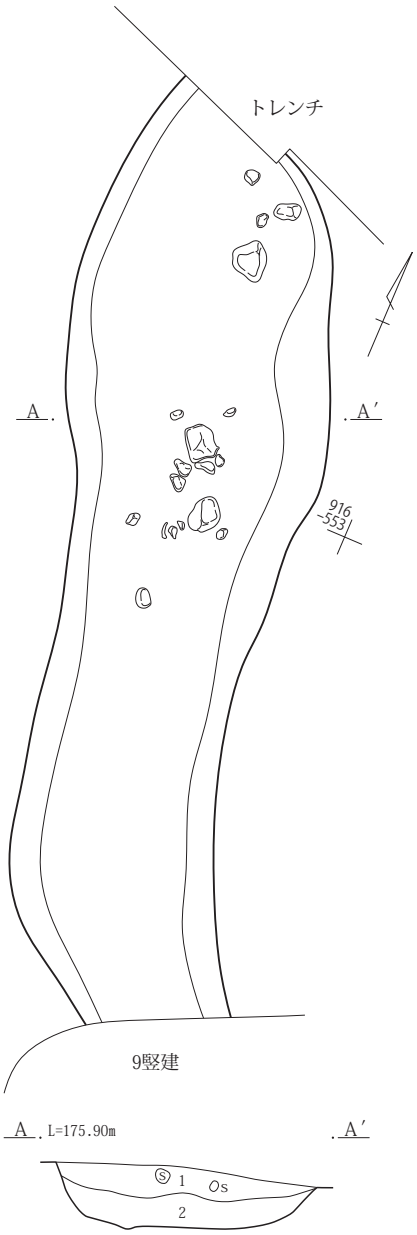
２区98号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,911　Y＝-73,531
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－85°－W
規模　長軸0.65m　短軸0.44m　深さ0.3m
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

２区99号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,912・47,913　Y＝-73,530・-73,531
重複遺構　２号柵　　**形状**　楕円形
長軸方位　N－５°－W
規模　長軸0.88m　短軸0.83m　深さ0.23m
遺物　土師器の小片が２点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似しており、２号柵より旧いことから、時期は古墳時代と考えられる。

２区100号土坑(第159図、PL.38)
座標値　X＝47,912・47,913　Y＝-73,529・-73,530
形状　円形　　**長軸方位**　N－32°－W
規模　長軸0.77m　短軸0.74m　深さ0.93m
遺物　土師器の小片が２点出土している。
所見　埋没土が周辺の竪穴建物の埋没土と類似していることから、時期は古墳時代以降と考えられる。

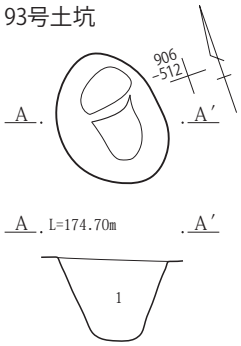
２区102号土坑(第160図、第８表、PL.38)
座標値　X＝47,961・47,962　Y＝-73,783
形状　楕円形　　**長軸方位**　N－25°－W
規模　長軸0.69m　短軸0.66m　深さ0.26m
遺物　掲載したのは１：須恵器の瓶、２：同長頸壺である。他に、土師器の小片が多数出土している。

91号土坑



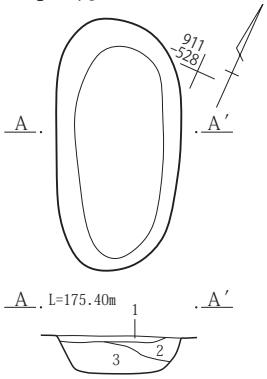
91号土坑
1．暗褐色土　軽石粒・礫を含む。
2．暗褐色土　褐色土・黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

93号土坑



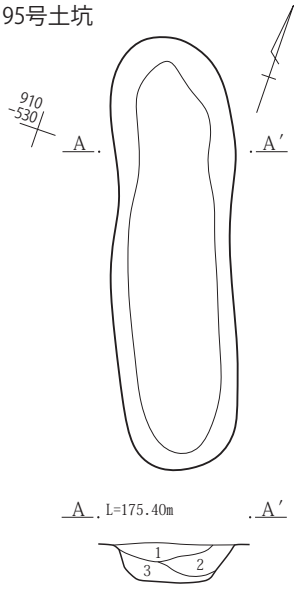
93号土坑
1．黒褐色土　As-Cを多量、黒色土塊・褐色土塊を微量含む。

94号土坑



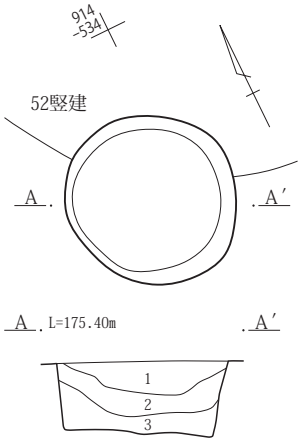
94号土坑
1．褐色土　軽石粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　軽石粒を少量含む。締りあり。
3．暗褐色土　軽石粒・ローム粒を微量含む。

95号土坑



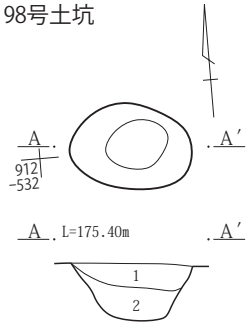
95号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。
3．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・ローム粒を微量含む。

97号土坑



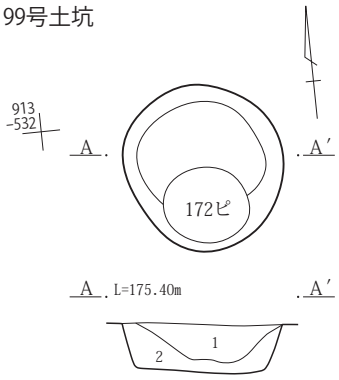
97号土坑
1．褐色土　軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2．褐色土　軽石粒・焼土粒を微量含む。
3．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

98号土坑



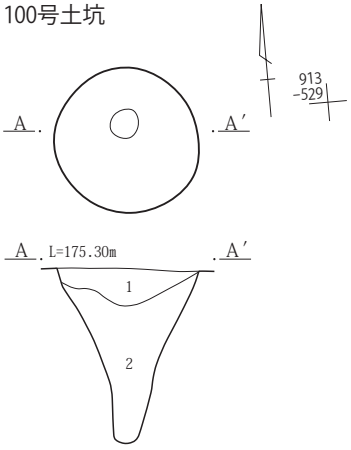
98号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　軽石粒・ローム小塊を微量含む。

99号土坑



99号土坑
1．暗褐色土　黒褐色土･軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量､軽石粒･焼土粒を微量含む。

100号土坑



100号土坑
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。
2．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

0　1：40　1m

第159図　91・93～95・97～100号土坑

所見　出土遺物から、時期は７世紀後半～８世紀前半と考える。

２区103号土坑（第161図、PL.38）

座標値　X＝47,962　Y＝-73,753・-73,754

形状　楕円形　　**長軸方位**　N－83°－W

規模　長軸1.17m　短軸(0.38)m　深さ0.3m

所見　時期の比定は難しいが、中世以降と考える。

２区104号土坑（第161図、PL.38）

座標値　X＝47,961・47,962　Y＝-73,752

形状　長方形か　　**長軸方位**　N－２°－W

規模　長軸(0.95)m　短軸0.43m　深さ0.26m

所見　形状が箱型に近いことから、中世以降の貯蔵穴の可能性がある。

２区105号土坑（第161図、PL.38）

座標値　X＝47,956・47,957　Y＝-73,752

形状　楕円形　　**長軸方位**　N－15°－E

規模　長軸0.58m　短軸0.43m　深さ0.25m

遺物　須恵器の小片が１点出土している。

所見　時期の比定は難しいが、中世以降と考える。

２区106号土坑（第161図、PL.38）

座標値　X＝47,956・47,957　Y＝-73,762・-73,763

形状　楕円形　　**長軸方位**　N－14°－E

規模　長軸1.16m　短軸1.14m　深さ0.42m

所見　時期は中世以降と考えられる。

２区107号土坑（第161図、PL.38）

座標値　X＝47,958・47,959　Y＝-73,767～-73,769

形状　楕円形　　**長軸方位**　N－75°－E

規模　長軸1.47m　短軸0.72m　深さ0.25m

所見　時期の比定は難しいが、中世以降と考える。

２区110号土坑（第161図、PL.38）

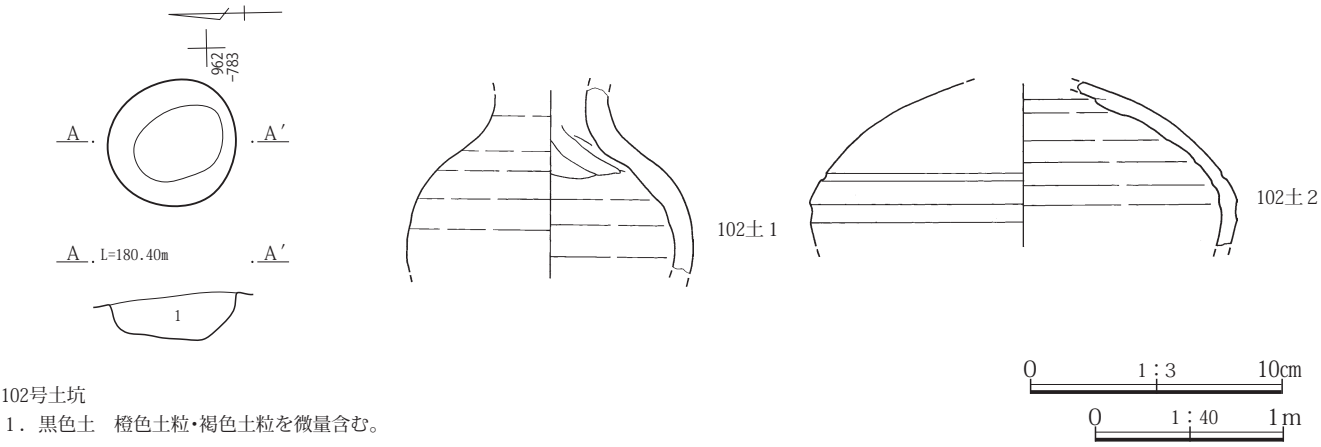
座標値　X＝47,957・47,958　Y＝-73,766・-73,767

形状　長方形　　**長軸方位**　N－87°－W

規模　長軸1.41m　短軸0.84m　深さ0.18m

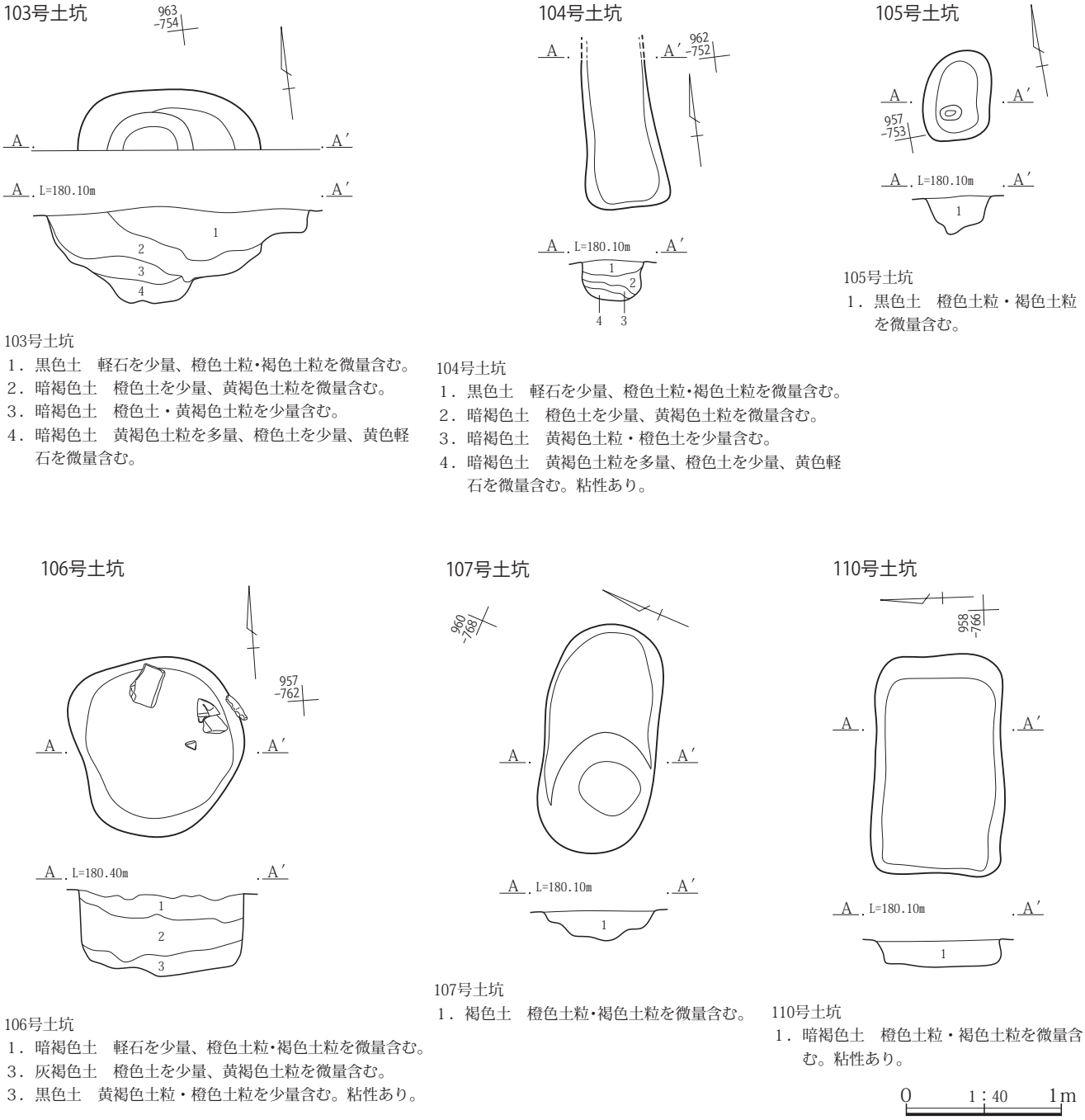
所見　形状が箱型に近いことから、中世以降の貯蔵穴の可能性がある。

102号土坑



102号土坑
１．黒色土　橙色土粒・褐色土粒を微量含む。

第160図　102号土坑



103号土坑
1．黒色土　軽石を少量、橙色土粒･褐色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　橙色土・黄褐色土粒を少量含む。
4．暗褐色土　黄褐色土粒を多量、橙色土を少量、黄色軽石を微量含む。

104号土坑
1．黒色土　軽石を少量、橙色土粒･褐色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　黄褐色土粒・橙色土を少量含む。
4．暗褐色土　黄褐色土粒を多量、橙色土を少量、黄色軽石を微量含む。粘性あり。

105号土坑
1．黒色土　橙色土粒・褐色土粒を微量含む。

106号土坑
1．暗褐色土　軽石を少量、橙色土粒･褐色土粒を微量含む。
3．灰褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。
3．黒色土　黄褐色土粒・橙色土粒を少量含む。粘性あり。

107号土坑
1．褐色土　橙色土粒･褐色土粒を微量含む。

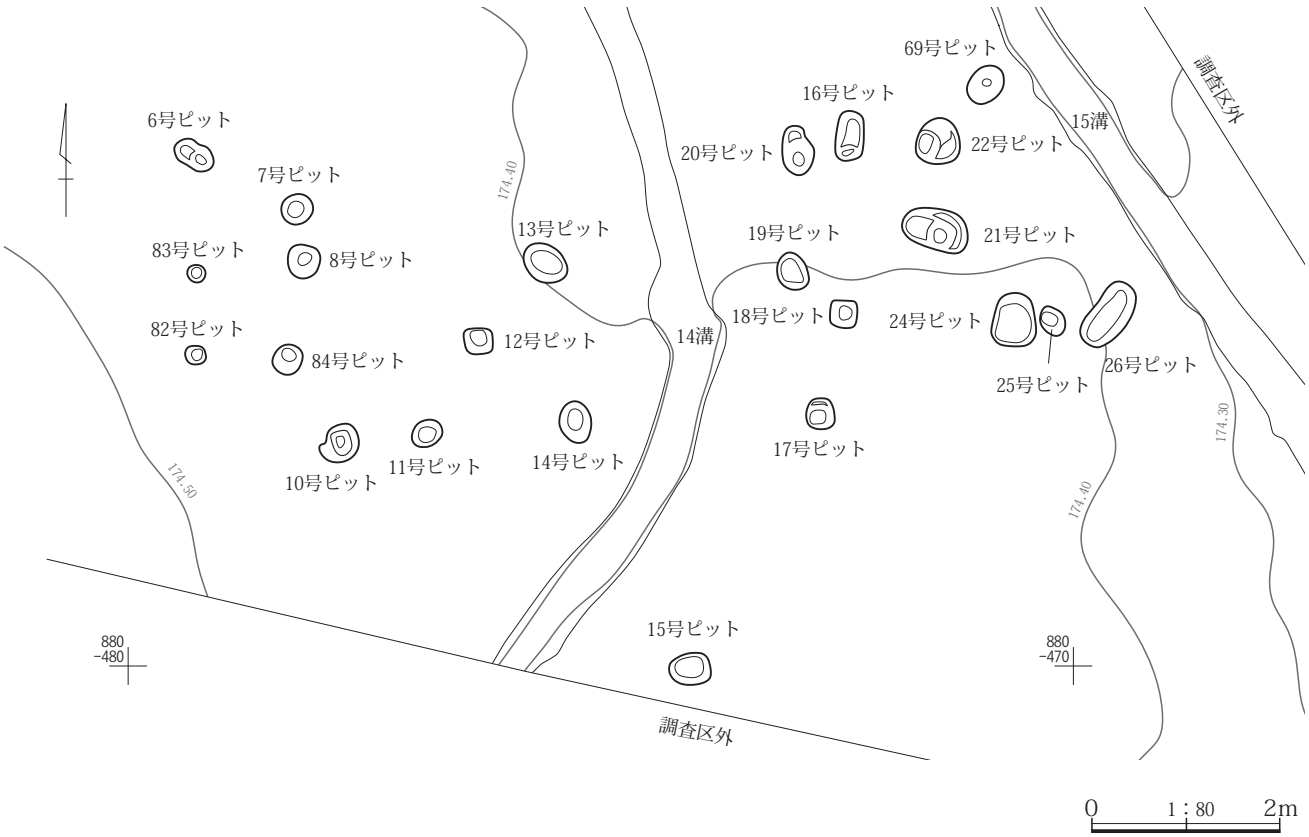
110号土坑
1．暗褐色土　橙色土粒・褐色土粒を微量含む。粘性あり。

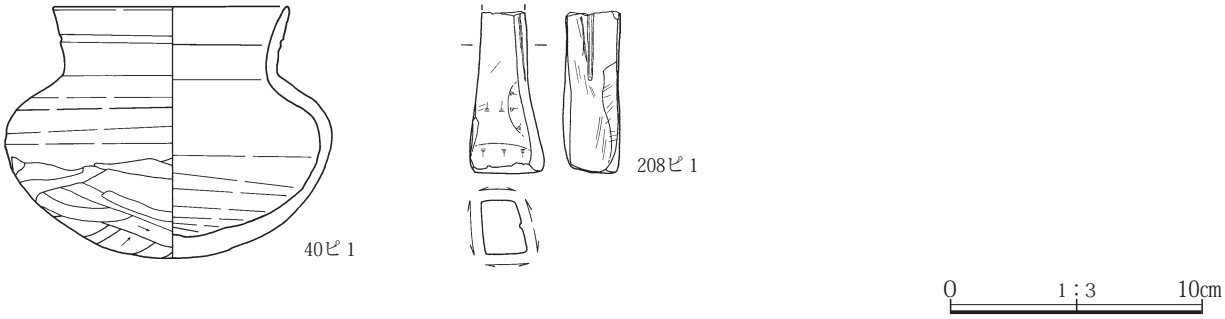
第161図　103～107・110号土坑

４．ピット

２区・２区東で検出されたピットは97基を数える。２区西では、検出していない。２区の中央付近、東端で多数検出している。（付図、第162・163図を参照）平面形状は、ほとんどが円形又は楕円形であるが、２区の東端で方形のものを２基（12号・18号ピット）検出した。径は30㎝～ 50㎝が大半である。確認面からの深さは、50㎝以上のものもあるが、大半は20㎝～40㎝である。径から古代～中世の所産と考えられる。遺物が出土したピットは21基あり、多くは土師器の小片であった。掲載した遺物は、40号ピットの底部から出土した須恵器の短頸壺（完形）と208号ピットから出土した砥石である。
（第３表　２区ピット一覧を参照）

第162図　２区ピット群（１）





第163図　２区ピット群（２）

第３表　２区ピット一覧

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
2	６号ピット	X＝47,886	Y＝-73,479	楕円形	0.45	0.27	0.23	古代～中世
2	７号ピット	X＝47,884	Y＝-73,478	円形	0.33	0.32	0.18	古代～中世
2	８号ピット	X＝47,884	Y＝-73,477・-73,478	円形	0.36	0.34	0.28	古代～中世
2	10号ピット	X＝47,882	Y＝-73,477	円形か	0.45	0.37	0.33	古代～中世
2	11号ピット	X＝47,882	Y＝-73,476	楕円形	0.34	0.27	0.17	古代～中世
2	12号ピット	X＝47,883	Y＝-73,476	方形	0.29	0.27	0.31	古代～中世
2	13号ピット	X＝47,884	Y＝-73,475	楕円形	0.49	0.38	0.14	古代～中世
2	14号ピット	X＝47,882	Y＝-73,475	楕円形	0.44	0.34	0.23	古代～中世
2	15号ピット	X＝47,879・47,880	Y＝-73,473・-73,474	楕円形	0.43	0.34	0.37	古代～中世
2	16号ピット	X＝47,885	Y＝-73,472	楕円形	0.53	0.29	0.34	古代～中世

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
2	17号ピット	X＝47,882	Y＝-73,472	楕円形	0.32	0.30	0.38	古代～中世
2	18号ピット	X＝47,883	Y＝-73,472	方形	0.29	0.28	0.30	古代～中世
2	19号ピット	X＝47,883・47,884	Y＝-73,472・-73,473	楕円形	0.41	0.32	0.27	古代～中世
2	20号ピット	X＝47,885	Y＝-73,472・-73,473	楕円形	0.53	0.34	0.29	古代～中世
2	21号ピット	X＝47,884	Y＝-73,471	楕円形	0.71	0.43	0.39	古代～中世
2	22号ピット	X＝47,884	Y＝-73,471	楕円形	0.49	0.46	0.42	古代～中世
2	23号ピット	X＝47,890・74,891	Y＝-73,480	円形	0.56	0.52	0.14	古代～中世
2	24号ピット	X＝47,883	Y＝-73,470	楕円形	0.56	0.46	0.25	古代～中世
2	25号ピット	X＝47,883	Y＝-73,470	楕円形	0.33	0.25	0.20	古代～中世
2	26号ピット	X＝47,883・47,884	Y＝-73,469	楕円形	0.75	0.38	0.19	土師器小片１点 古代～中世
2	40号ピット	X＝47,898・47,899	Y＝-73,506・-73,507	楕円形	0.79	0.54	0.59	須恵器短頸壺完形　７世紀前半
2	46号ピット	X＝47,920・47,921	Y＝-73,558・-73,559	楕円形か	(0.41)	0.39	0.12	土師器小片２点 古代～中世
2	50号ピット	X＝47,891	Y＝-73,510・-73,511	円形	0.59	0.55	0.75	古代～中世
2	51号ピット	X＝47,898・47,899	Y＝-73,504・-73,505	円形	0.62	0.57	0.63	古代～中世
2	52号ピット	X＝47,899・47,900	Y＝-73,506	円形	0.49	0.46	0.53	古代～中世
2	55号ピット	X＝47,896・47,897	Y＝-73,509	円形	0.46	0.42	0.26	古代～中世
2	56号ピット	X＝47,908	Y＝-73,538	円形	0.56	0.53	0.26	土師器小片２点 古代～中世
2	57号ピット	X＝47,907	Y＝-73,536・-73,537	円形	0.43	0.43	0.04	土師器小片３点 古代～中世
2	58号ピット	X＝47,906	Y＝-73,537・-73,538	円形	0.46	0.45	0.19	土師器小片３点 古代～中世
2	59号ピット	X＝47,904	Y＝-73,535・-73,536	円形	0.40	0.38	0.23	古代～中世
2	61号ピット	X＝47,897・47,898	Y＝-73,501	楕円形	0.41	0.38	0.38	土師器小片３点 古代～中世
2	62号ピット	X＝47,895・47,896	Y＝-73,512・-73,513	円形	0.43	0.40	0.29	古代～中世
2	65号ピット	X＝47,897	Y＝-73,527・-73,528	楕円形	0.53	0.38	0.31	古代～中世
2	66号ピット	X＝47,898・47,899	Y＝-73,527・-73,528	円形	0.39	0.37	0.44	古代～中世
2	68号ピット	X＝47,899	Y＝-73,509	円形	0.49	0.45	0.52	古代～中世
2	69号ピット	X＝47,885・47,886	Y＝-73,470・-73,471	楕円形	0.44	0.34	0.29	古代～中世
2	75号ピット	X＝47,912・47,913	Y＝-73,562	円形	0.51	0.48	0.24	古代～中世
2	76号ピット	X＝47,923・47,924	Y＝-73,560・-73,561	円形	0.48	0.48	0.45	古代～中世
2	77号ピット	X＝47,923・47,924	Y＝-73,560・-73,561	楕円形	0.59	0.53	0.43	古代～中世
2	78号ピット	X＝47,923	Y＝-73,561・-73,562	楕円形	0.56	0.43	0.39	古代～中世
2	79号ピット	X＝47,921・47,922	Y＝-73,560・-73,561	円形	0.58	0.54	0.26	古代～中世
2	80号ピット	X＝47,922	Y＝-73,559	円形	0.42	0.41	0.44	古代～中世
2	82号ピット	X＝47,883	Y＝-73,479	円形	0.22	0.19	0.13	古代～中世
2	83号ピット	X＝47,884	Y＝-73,479	円形	0.18	0.18	0.17	古代～中世
2	84号ピット	X＝47,883	Y＝-73,478	円形	0.32	0.29	0.41	古代～中世
2	85号ピット	X＝47,913・47,914	Y＝-73,560	楕円形	0.30	0.27	0.25	古代～中世
2	86号ピット	X＝47,912	Y＝-73,559	円形	0.37	0.34	0.24	古代～中世
2	87号ピット	X＝47,896・47,897	Y＝-73,513	楕円形	0.75	0.47	0.58	古代～中世
2	99号ピット	X＝47,899	Y＝-73,511	楕円形	0.49	0.39	0.19	古代～中世
2	161号ピット	X＝47,904・47,905	Y＝-73,510	円形	0.48	0.43	0.42	土師器小片２点 古代～中世

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
2	162号ピット	X＝47,903・47,904	Y＝-73,511	楕円形	0.71	0.56	0.58	土師器小片２点 古代～中世
2	163号ピット	X＝47,905・47,906	Y＝-73,514・-73,515	円形	0.47	0.43	0.51	土師器小片２点、 須恵器小片１点 古代～中世
2	164号ピット	X＝47,903・47,904	Y＝-73,514	円形	0.52	0.52	0.54	土師器小片１点 古代～中世
2	173号ピット	X＝47,908	Y＝-73,527	円形	0.47	0.43	0.57	土師器小片３点 古代～中世
2	174号ピット	X＝47,907・47,908	Y＝-73,527	楕円形	0.54	0.44	0.69	土師器小片２点 古代～中世
2	175号ピット	X＝47,907・47,908	Y＝-73,528・-73,529	楕円形	0.50	0.41	0.63	古代～中世
2	176号ピット	X＝47,909	Y＝-73,524・-73,525	円形	0.51	0.48	0.61	土師器小片１点 古代～中世
2	177号ピット	X＝47,904	Y＝-73,512	楕円形	0.47	0.42	0.52	古代～中世
2	178号ピット	X＝47,903・47,904	Y＝-73,526・-73,527	円形	0.33	0.33	0.38	古代～中世
2	179号ピット	X＝47,904	Y＝-73,527	円形	0.37	0.36	0.27	古代～中世
2	180号ピット	X＝47,904・47,905	Y＝-73,526	円形	0.36	0.33	0.36	土師器小片２点 古代～中世
2	181号ピット	X＝47,904・47,905	Y＝-73,526	円形	0.29	0.29	0.23	古代～中世
2	182号ピット	X＝47,905	Y＝-73,527	円形	0.43	0.42	0.30	土師器小片１点 古代～中世
2	183号ピット	X＝47,906	Y＝-73,528	円形	0.36	0.35	0.37	土師器小片３点 古代～中世
2	184号ピット	X＝47,906	Y＝-73,526・-73,527	円形	0.45	0.43	0.33	土師器小片２点 古代～中世
2	185号ピット	X＝47,907	Y＝-73,525	円形	0.45	0.41	0.50	土師器小片２点 古代～中世
2	186号ピット	X＝47,910・47,911	Y＝-73,526	円形	0.45	0.43	0.39	土師器小片５点 古代～中世
2	189号ピット	X＝47,964	Y＝-73,791	円形	0.26	0.25	0.16	中世以降
2	190号ピット	X＝47,961・47,962	Y＝-73,787	楕円形	0.36	0.31	0.58	中世以降
2	191号ピット	X＝47,962・47,963	Y＝-73,789・-73,790	楕円形	0.43	0.33	0.38	中世以降
2	192号ピット	X＝47,962	Y＝-73,787・-73,788	楕円形	0.38	0.29	0.35	中世以降
2	193号ピット	X＝47,962	Y＝-73,784	楕円形	0.45	0.33	0.41	中世以降
2	194号ピット	X＝47,962	Y＝-73,784	楕円形	0.40	0.29	0.13	中世以降
2	195号ピット	X＝47,960	Y＝-73,747	楕円形	0.24	0.18	0.22	中世以降
2	196号ピット	X＝47,960	Y＝-73,747	楕円形	0.24	0.21	0.18	中世以降
2	197号ピット	X＝47,960	Y＝-73,748	円形	0.34	0.32	0.16	中世以降
2	198号ピット	X＝47,960	Y＝-73,749	円形	0.25	0.24	0.05	中世以降
2	199号ピット	X＝47,960	Y＝-73,749	楕円形	0.23	0.18	0.12	中世以降
2	200号ピット	X＝47,960	Y＝-73,752	円形	0.24	0.24	0.10	中世以降
2	201号ピット	X＝47,956	Y＝-73,752・-73,753	楕円形	0.27	0.23	0.16	中世以降
2	202号ピット	X＝47,960・47,961	Y＝-73,753・-73,754	円形	0.23	0.21	0.17	中世以降
2	203号ピット	X＝47,961	Y＝-73,754	円形	0.18	0.18	0.09	中世以降
2	204号ピット	X＝47,961	Y＝-73,754	楕円形か	(0.16)	0.13	0.09	中世以降
2	205号ピット	X＝47,961・47,962	Y＝-73,754	円形	0.17	0.14	0.08	中世以降
2	206号ピット	X＝47,961	Y＝-73,755	楕円形	0.24	0.22	0.16	中世以降
2	207号ピット	X＝47,960・47,961	Y＝-73,755	円形	0.31	0.31	0.49	中世以降
2	208号ピット	X＝47,961	Y＝-73,756	円形	0.25	0.23	0.11	砥石１点　中世以降

区	遺構名	座標値		平面形状	規模（m）			時期/備考
					長軸	短軸	深さ	
2	209号ピット	X＝47,962	Y＝-73,753	円形	0.21	0.18	0.28	中世以降
2	210号ピット	X＝47,962	Y＝-73,754・-73,755	不明	0.19	(0.08)	0.29	中世以降
2	211号ピット	X＝47,964	Y＝-73,754・-73,755	楕円形	0.35	0.27	0.35	中世以降
2	212号ピット	X＝47,962・47,963	Y＝-73,750	不明	0.37	(0.17)	0.24	中世以降
2	213号ピット	X＝47,959・47,960	Y＝-73,764・-73,765	楕円形	0.24	0.21	0.16	中世以降
2	214号ピット	X＝47,960	Y＝-73,765	楕円形	0.39	0.33	0.17	中世以降
2	215号ピット	X＝47,960	Y＝-73,765・-73,766	楕円形	0.41	0.33	0.39	中世以降
2	216号ピット	X＝47,961	Y＝-73,765	円形	0.31	0.31	0.23	中世以降
2	217号ピット	X＝47,960	Y＝-73,765・-73,766	円形	0.31	0.28	0.25	中世以降
2	218号ピット	X＝47,966	Y＝-73,766	円形	0.25	0.23	0.26	中世以降

５．井戸

２区では７基の井戸を検出した。１区では４基の井戸が点在していたが、２区では７基のうち６基が２区東に集中していた。残りの１基は２区のほぼ中央にあたる56号竪穴建物と重複する位置で検出された。

２区５号井戸（第164図、第８表、PL.39・60）

座標値　X＝47,905・47,906　Y＝-73,547・-73,548

平面形状　円形

断面形状　すり鉢形で下部は井筒状に深くなる。

長軸方位　N－85°－E　　**重複**　56号竪穴建物

規模　長軸0.93m　短軸0.91m　深さ1.73m

埋没土　As-C・黒褐色土・黄褐色土塊を含む暗褐色土、黒色土小塊・ローム塊・小礫等を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　掲載したのは茶臼である。他に、土師器、須恵器の小片が多数出土している。

所見　底部より湧水を確認した。56号竪穴建物を、埋没土の更に上の層から掘り込んでおり、近世のものである可能性の高い茶臼が出土していることから、時期は近世の可能性が高い。土師器、須恵器の小片が多数出土しているが、井戸の構築時に56号竪穴建物内の遺物が混入したと考えられる。

２区６号井戸（第165図、PL.39）

座標値　X＝47,966・47,967　Y＝-73,789

平面形状　楕円形か　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－３°－E　　**重複**　なし

規模　長軸0.88m　短軸(0.50)m　深さ1.83m

埋没土　軽石・橙色土粒・褐色土粒を含む黒色土、橙色土・黄褐色土粒・石・礫を含む暗褐色土で埋没している。

所見　底部より湧水を確認した。出土遺物がないが、中世の遺物が出土した７号・８号井戸と埋没土が類似しており、中世の井戸の可能性がある。

２区７号井戸（第165図、第８表、PL.39・60）

座標値　X＝47,961・47,962　Y＝-73,747・-73,748

平面形状　楕円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－10°－E　　**重複**　なし

規模　長軸1.08m　短軸1.05m　深さ1.17m

埋没土　軽石・橙色土粒・褐色土粒を含む黒色土、橙色土・黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　内耳鍋の破片が出土し掲載した。

所見　底部より湧水を確認した。出土遺物の内耳鍋は14世紀後半の在地系土器であり、時期は室町時代である。

２区８号井戸（第166図、第８表、PL.39・60）

座標値　X＝47,957～47,959　Y＝-73,755・-73,756

平面形状　楕円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－32°－W

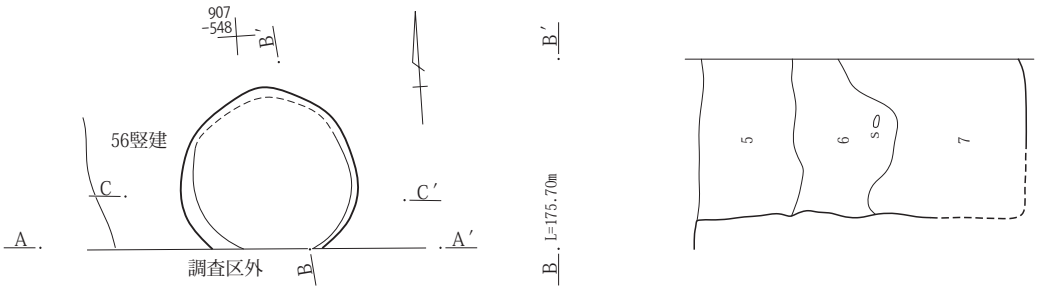
重複　９号井戸（新旧関係は本遺構が新しい。）

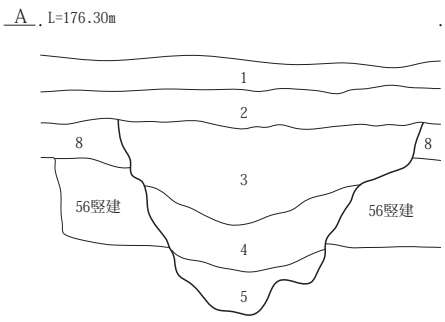
規模　長軸1.47m　短軸1.15m　深さ1.35m

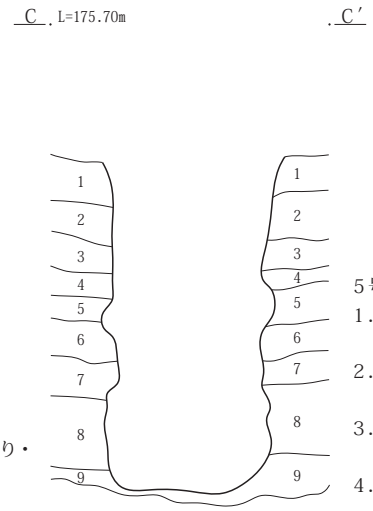
埋没土　軽石・橙色土粒・褐色土粒を含む黒色土、橙色土・黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は、１：灰釉陶器の皿、２：円盤状の須恵器、３：古瀬戸の灰釉瓶子である。他に、灰釉陶器の小片が１点出土している。

５号井戸





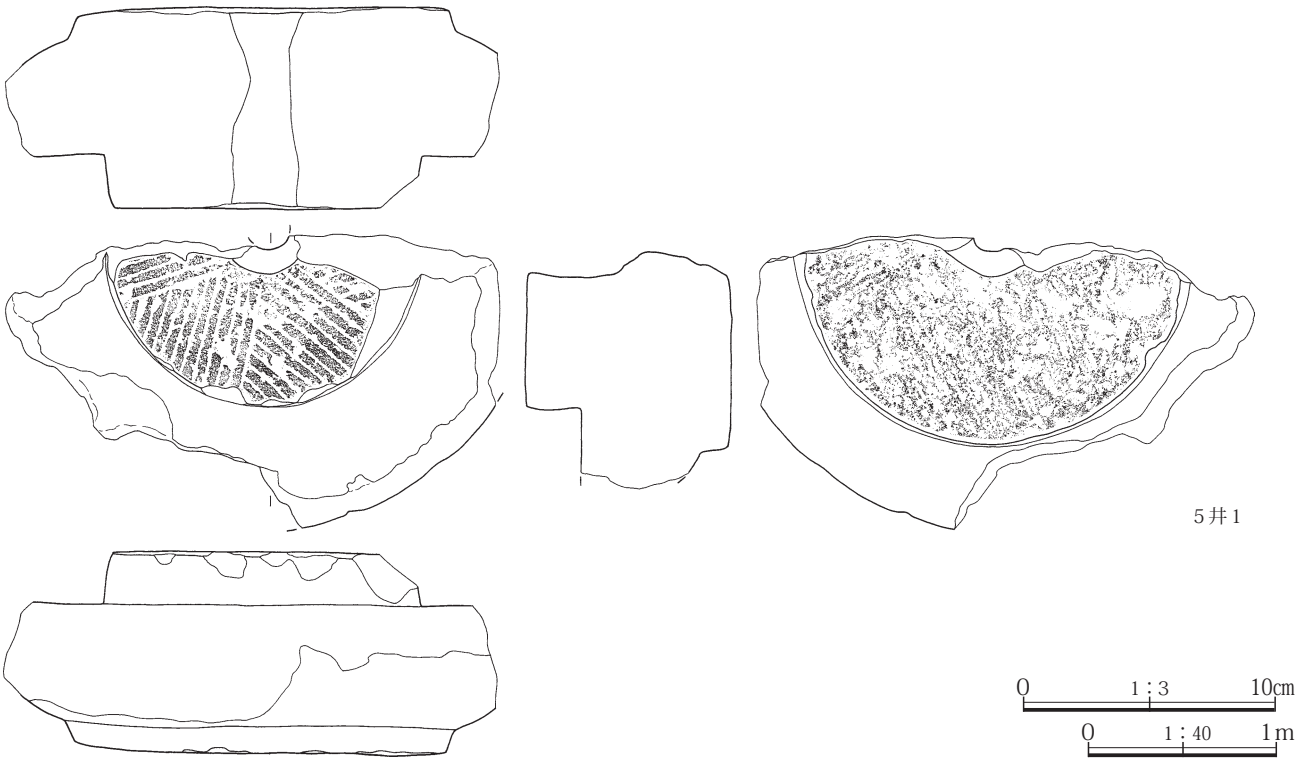


５号井戸　A-A′・B-B′

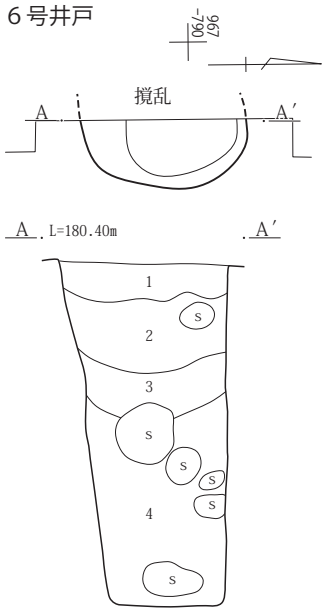
1．表土(耕作土)。
2．暗褐色土　As-Cを微量含む。締り・粘性あり。
3．暗褐色土　As-C・黒褐色土・黄褐色土小塊・小礫を含む。締り・粘性あり。
4．黒褐色土　黒色土小塊を含む。締り・粘性あり。
5．黒褐色土　ローム塊・粒・浅黄橙色軽石を少量含む。締りあり。粘性強。
6．にぶい黄褐色土　ローム粒・小礫を含む。締り・粘性強。
7．黒褐色土　ローム塊を少量含む。粘性強。
8．暗褐色土　黒褐色土・黄褐色土小塊を含む。締り・粘性あり。

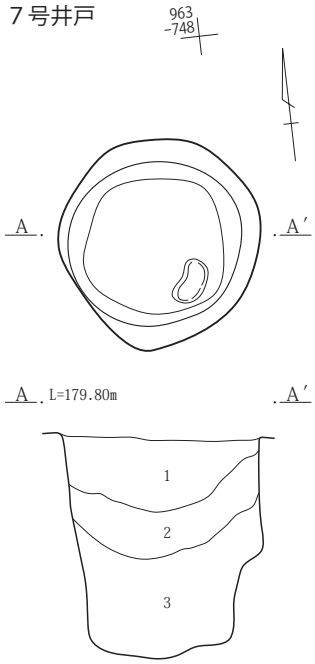
５号井戸　C-C′

1．暗褐色土　黒褐色土・にぶい黄橙色軽石を少量含む。締り・粘性あり。
2．にぶい黄褐色土　ローム漸移層。ローム塊を含む。締り・粘性あり。
3．明黄褐色土　ローム層。灰黄褐色土を含む。締り強、粘性あり。
4．黄橙色土　明褐色土を含む。締りあり。粘性弱。やや砂質土。
5．黄橙色土　軽石主体。締り・粘性弱。
6．にぶい黄橙色土　粘質土。大礫を含む。締り弱。粘性強。
7．にぶい黄褐色土　粘質土。明黄褐色土を含む。締り・粘性強。
8．にぶい黄橙色土　礫を多量含む。締り弱。粘性強。
9．にぶい黄褐色土　明緑灰色礫を多量含む。粘性弱。



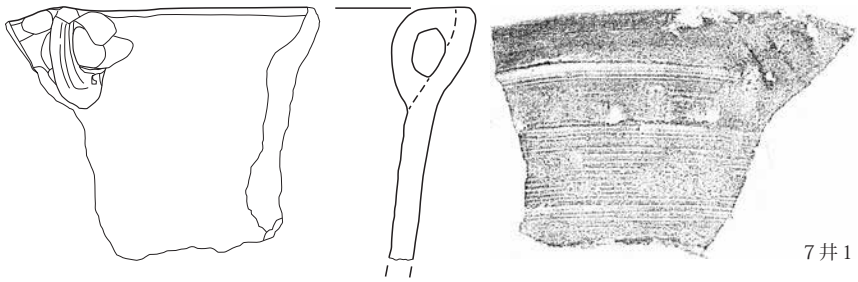
第164図　５号井戸





6号井戸
1．黒色土　軽石を少量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土･石･礫を少量、黄褐色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　黄褐色土粒・橙色土を少量含む。粘性あり。
4．暗褐色土　黄褐色土粒を多量、橙色土を少量、白色軽石･黄色軽石を微量含む。粘性あり。

7号井戸
1．黒色土　軽石を少量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　黄褐色土粒・橙色土を少量含む。粘性あり。



0　1：40　1m　　0　1：3　10cm

第165図　６・７号井戸

所見　底部より湧水を確認した。出土した古瀬戸の灰釉瓶子は13世紀の年代を示し、時期は鎌倉時代と考えられる。

２区９号井戸（第166図、PL.39）

座標値　X＝47,958・47,959　Y＝-73,754・-73,755

平面形状　楕円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　N－49°－E

重複　８号・10号井戸（新旧関係は10号井戸より新しく８号井戸より旧い。）

規模　長軸1.14m　短軸1.01m　深さ1.26m

埋没土　軽石・橙色土粒・褐色土粒を含む黒色土、橙色土・黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋没している。

所見　底部より湧水を確認した。重複する８号井戸より旧いが、埋没土が類似しており、10号井戸よりも新しいことから、時期は中世とみられる。

２区10号井戸（第167図、PL.40）

座標値　X＝47,958・47,959　Y＝-73,753・-73,754

平面形状　楕円形　　**断面形状**　井筒形

長軸方位　Ｎ－50°－Ｅ

重複　９号井戸(新旧関係は本遺構が旧い。)

規模　長軸1.22m　短軸1.11m　深さ1.11m

埋没土　As-C・黒褐色土・橙色土粒を含む暗褐色土、黄褐色土粒、橙色土を含む暗褐色土等で埋没している。

遺物　土師器、須恵器の小片が各１点出土している。

所見　底部より湧水を確認した。重複している９号井戸より旧く、小片２点であるが土師器、須恵器が出土している。埋没土が周辺の中世のものとみられる井戸とは異なっていることから、時期は古代の可能性がある。

２区11号井戸(第167図、PL.40)

座標値　Ｘ＝47,967・47,968　Ｙ＝-73,773～-73,776

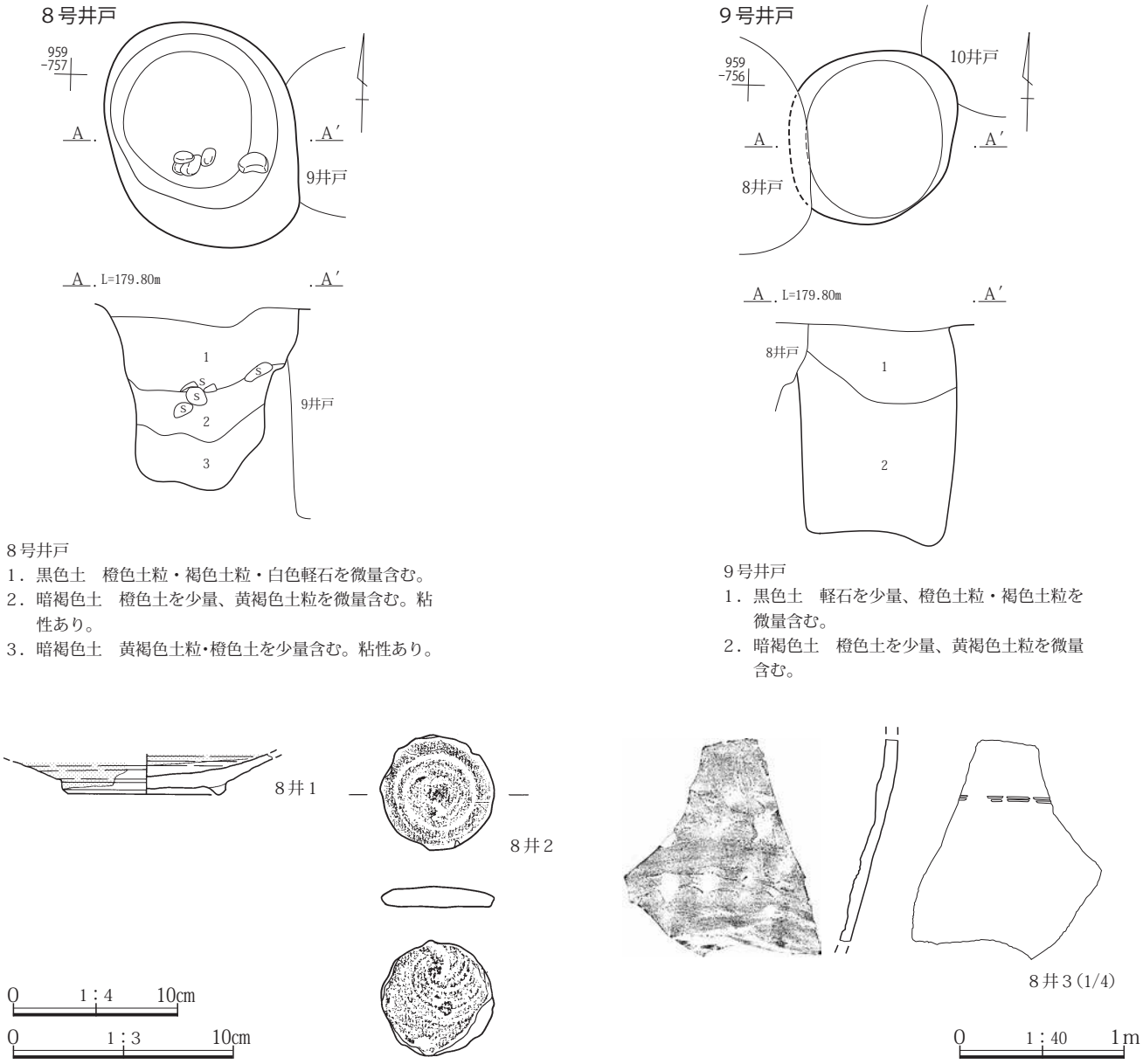
平面形状　円形か　　**断面形状**　すり鉢形

長軸方位　Ｎ－87°－Ｗ　　**重複**　なし

規模　長軸3.00m　短軸(1.51)ｍ　深さ1.69m

埋没土　軽石・橙色土粒・褐色土粒を含む黒色土で埋没している。

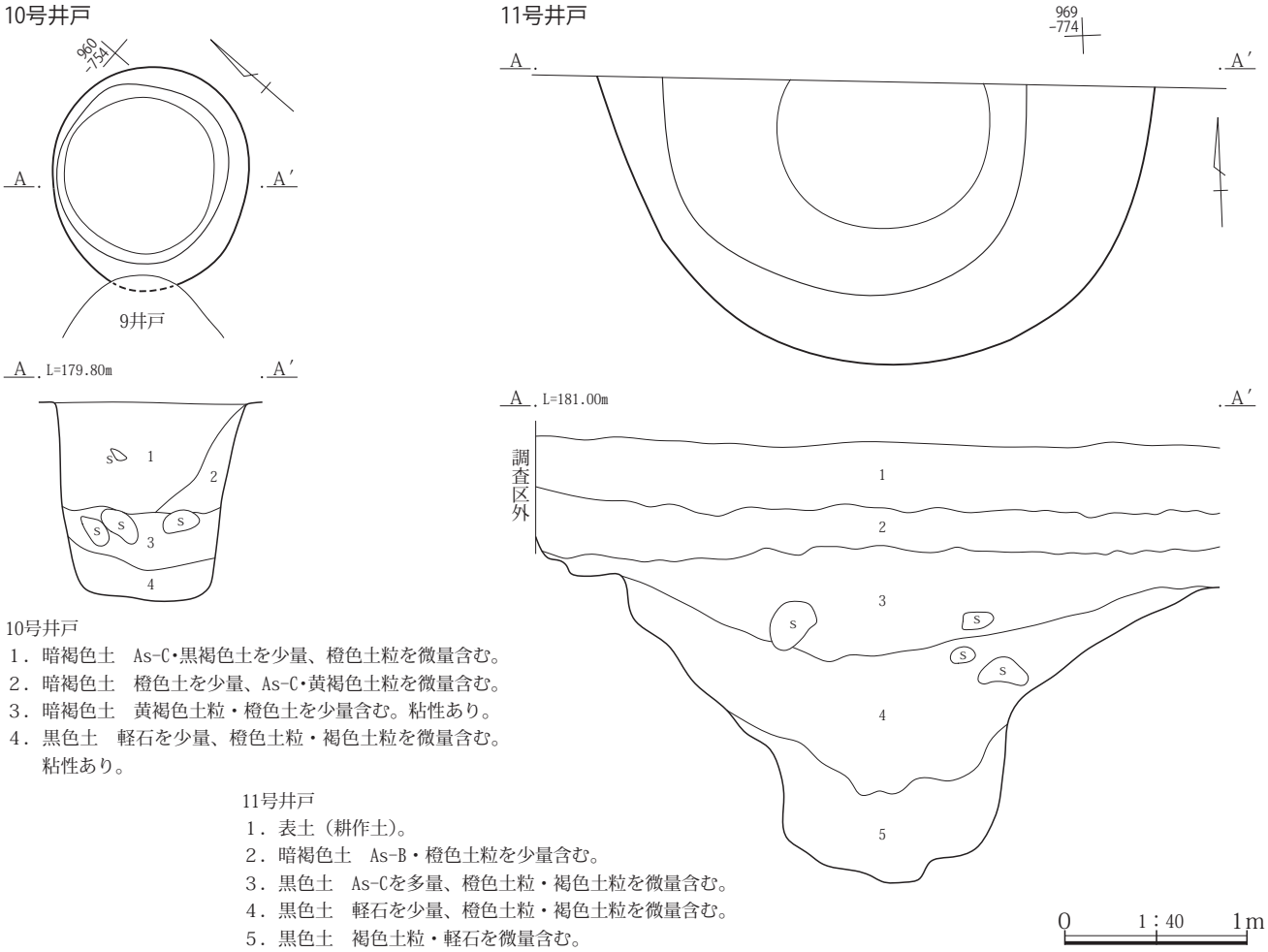
所見　湧水層は確認できなかった。出土遺物がないが、中世の遺物が出土した７号・８号井戸と埋没土が類似しており、時期は中世の可能性がある。



８号井戸
1．黒色土　橙色土粒・褐色土粒・白色軽石を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。粘性あり。
3．暗褐色土　黄褐色土粒･橙色土を少量含む。粘性あり。

９号井戸
1．黒色土　軽石を少量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、黄褐色土粒を微量含む。

第166図　８・９号井戸



10号井戸
1．暗褐色土　As-C・黒褐色土を少量、橙色土粒を微量含む。
2．暗褐色土　橙色土を少量、As-C・黄褐色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　黄褐色土粒・橙色土を少量含む。粘性あり。
4．黒色土　軽石を少量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。粘性あり。

11号井戸
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-B・橙色土粒を少量含む。
3．黒色土　As-Cを多量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。
4．黒色土　軽石を少量、橙色土粒・褐色土粒を微量含む。
5．黒色土　褐色土粒・軽石を微量含む。

第167図　10・11号井戸

６．溝

２区では、29条の溝を検出した。１区と比べ規模の小さなものが多い。出土遺物は主に土師器や須恵器である。中世の遺物がほとんど検出されていないことから、溝の多くは古代のものと考えられる。掘削目的の明確なものはほとんどないが、水成堆積のみられる水路としての機能が考えられるものや、区画溝としての性格が推定されるものがわずかにあった。

２区５号溝（第168図、PL.41）

座標値　X＝47,943～47,952　Y＝-73,634～-73,639

重複遺構　７号・10号溝と重複する。新旧関係は本遺構が最も旧い。

延伸方位　N－25°－W

規模　調査区の北壁からの長さは9.7m、幅は0.79～0.9m、深さは0.19mである。

埋没土層　As-Cを含む黒褐色土、にぶい黄褐色土塊を含む灰黄褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が２点出土している。

所見　調査区北壁の先から続いており、10号溝と重複する地点で途切れている。箱堀状掘削形態である。規模や延伸方位、埋没土、出土遺物が６号溝と類似しており、関係がある可能性もあるが、掘削目的は特定できない。時期は古代の可能性がある。

２区６号溝（第168図、PL.41）

座標値　X＝47,945～47,951　Y＝-73,631～-73,635

重複遺構　７号溝と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

延伸方位　N－27°－W

規模　調査区の北壁からの長さは6.73m、幅は0.56～0.84m、深さは0.33mである。

埋没土層　As-C・黒色土塊・黄褐色土塊・にぶい黄褐色土塊を含む黒褐色土、にぶい黄褐色土塊を含む灰黄褐色

土で埋没している。

遺物　土師器の小片が２点出土している。

所見　調査区北壁の先から続いており、10号溝の手前で途切れている。箱堀状掘削形態である。規模や延伸方位、埋没土、出土遺物が５号溝と類似しており、関係がある可能性もあるが、掘削目的は特定できない。時期は古代の可能性がある。

２区７号溝(第168図、PL.41)

座標値　X＝47,947～47,949　Y＝-73,629～-73,641

重複遺構　５号・６号溝と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。

延伸方位　N－83°－E

規模　長さは12.03m、幅は0.23～0.68m、深さは0.16mである。

埋没土層　As-Cを含む黒褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。５号溝、６号溝の上部を壊して重複しており、両遺構より新しいが、出土遺物の時期や埋没土は類似しており、時期は古代の可能性がある。

２区10号溝(第169・170図、第８表、PL.41)

座標値　X＝47,943～47,947　Y＝-73,618～-73,634

重複遺構　５号・11号溝と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。

延伸方位　N－81°－E

規模　調査区北壁からの長さは17.00m、幅は0.35～0.97m、深さは0.15mである。

埋没土層　As-C・黒褐色土塊を含む暗褐色土、As-Cを含む黒褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は須恵器の杯である。他に土師器、須恵器の小片が数点出土している。

所見　調査区北壁の先から続いており、５号溝と重複する地点で途切れている。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。掘削目的は特定できない。５号溝、11号溝の上部を壊して重複しており、両遺構より新しいが、出土遺物の時期や埋没土は類似しており、時期は古代の可能性がある。

２区11号溝(第169・170図、第８表、PL.42・61)

座標値　X＝47,934～47,949　Y＝-73,623～-73,627

重複遺構　10号・18号溝、22号・23号土坑と重複する。新旧関係は22号・23号土坑より新しく、10号・18号溝より旧い。

延伸方位　N－10°－W

規模　調査区の北壁から南壁手前の撹乱までの長さは15.15m、幅は0.92～1.6m、深さは0.29～0.47mである。

埋没土層　主にAs-Cを含む暗褐色土・黒褐色土で埋没しており、底部に水成堆積の見られる灰黄褐色土などが堆積している箇所がある。

遺物　掲載した遺物は、１～４：土師器の杯、５～７：同甕、８：須恵器の甕、９：鉄製品(刀子か)である。他に土師器、須恵器の小片が多数出土している。

所見　ほぼ南北方向に延伸している。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いており、凹凸が見られる。底部に水成堆積の見られる箇所があり、水路の可能性が高い。古墳時代～古代の遺物が多数出土しており、時期は古代と考えられる。

２区18号溝(第169図、PL.42)

座標値　X＝47,833～47,939　Y＝-73,624～-73,626

重複遺構　22号・23号・34号・38号土坑、11号溝と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。

延伸方位　N－12°－E

規模　11号溝との重複地点から調査区南壁までの長さは6.8m、幅は0.6～1.32m、深さは0.25mである。

埋没土層　As-C・黄橙色土粒を含む暗褐色土、As-C・暗褐色土塊を含む黒褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

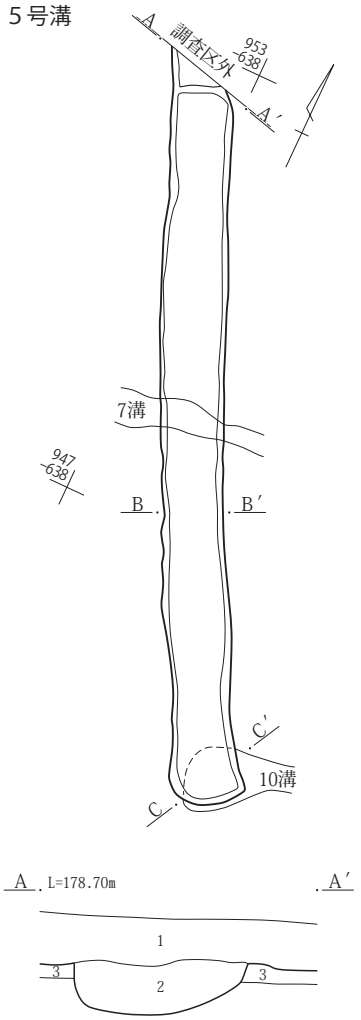
所見　23号土坑との11号溝が重複する地点から本遺構も重複しており、調査区南壁内へと続く。薬研堀状掘削形態であるが、底面がやや広く側面に凹凸が見られる。土層断面では水成堆積を確認できなかったが、凹凸が見られることから11号溝から分岐する水路であった可能性がある。時期は古代の可能性がある。

２区12号溝(第171図、PL.42)

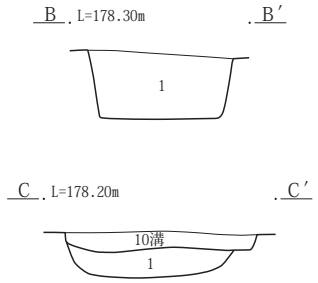
座標値　X＝47,894～47,899　Y＝-73,486～73,490

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－38°－E

５号溝

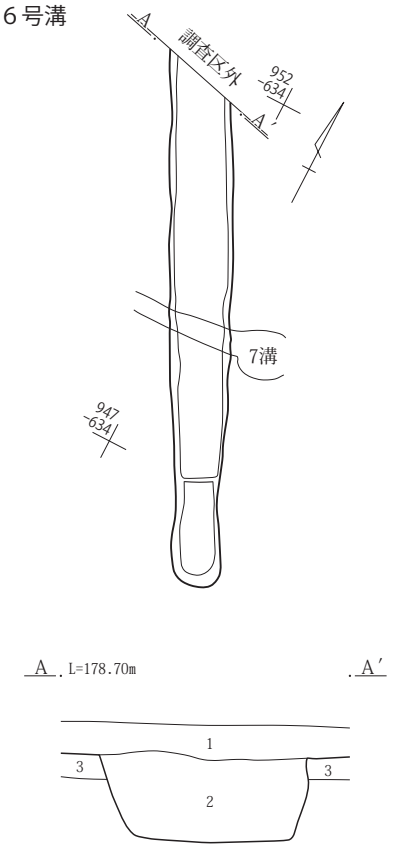


５号溝　A-A′
1．表土（耕作土）。
2．黒褐色土　As-C を少量含む。粘性弱。
3．灰黄褐色土　にぶい黄褐色土塊を含む。粘性弱。



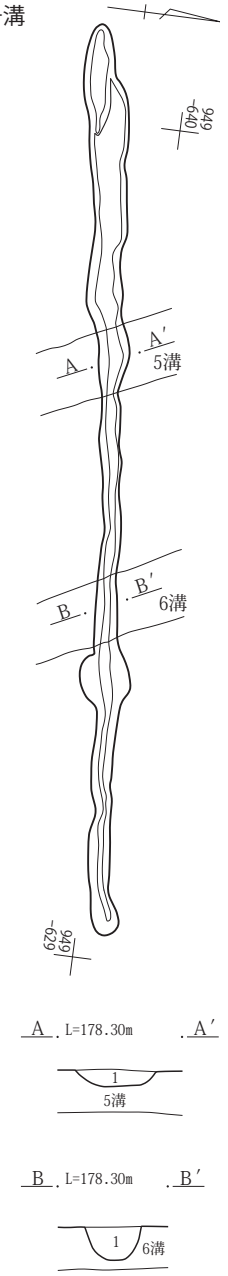
５号溝　B-B′・C-C′
1．黒褐色土　As-Cを多量、にぶい黄褐色土小塊を微量含む。締り・粘性あり。

６号溝

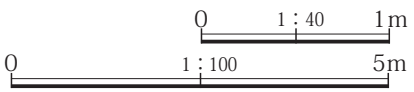


６号溝
1．表土（耕作土）。
2．黒褐色土　As-C・黒色土塊・黄褐色土塊を多量、にぶい黄褐色土小塊を微量含む。締りあり。粘性弱。
3．灰黄褐色土　にぶい黄褐色土塊を含む。粘性弱。

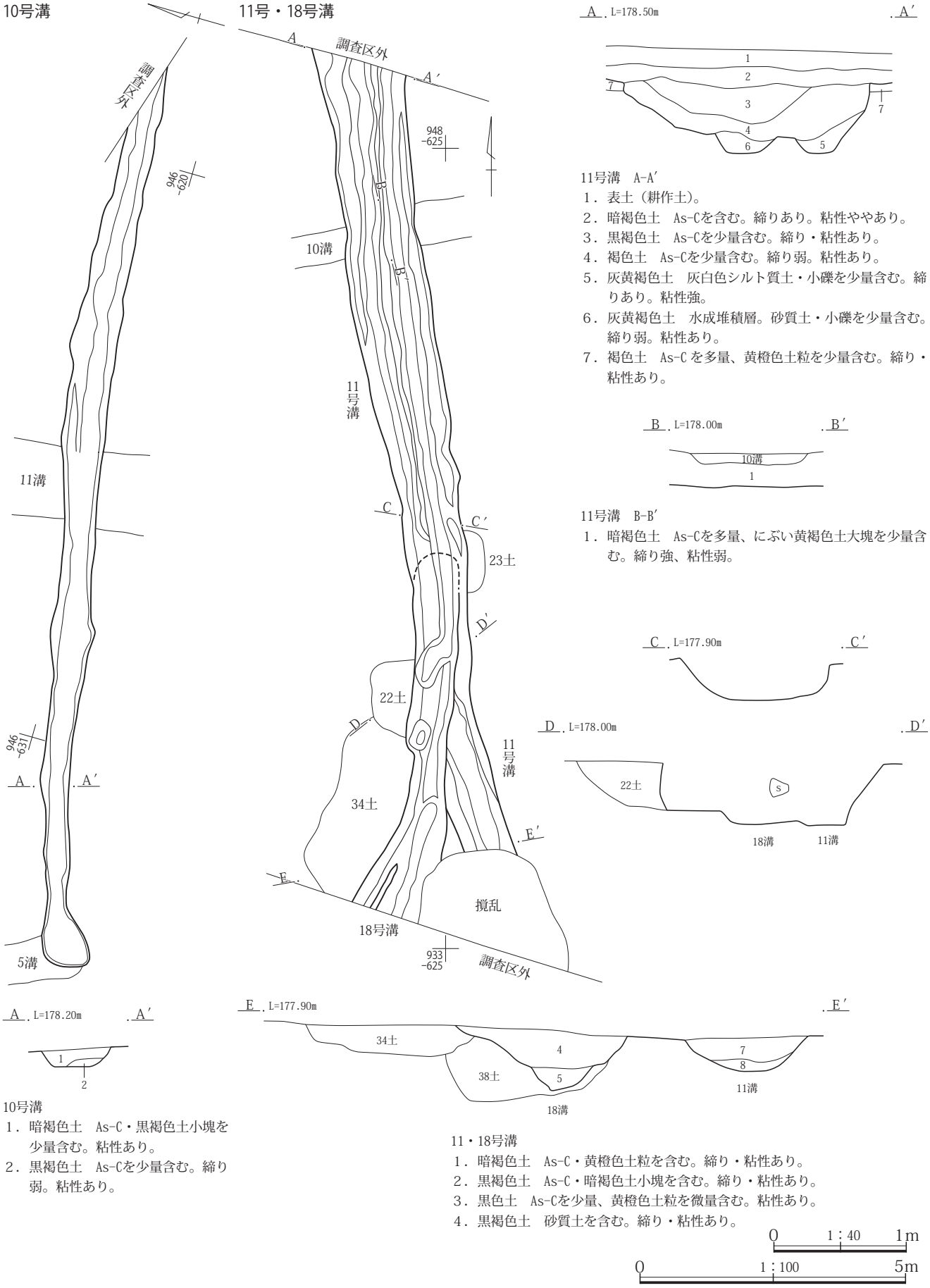
７号溝



７号溝
1．黒褐色土　As-Cを少量含む。締りあり。粘性弱。



第168図　５～７号溝



11号溝　A-A′

1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-Cを含む。締りあり。粘性ややあり。
3．黒褐色土　As-Cを少量含む。締り・粘性あり。
4．褐色土　As-Cを少量含む。締り弱。粘性あり。
5．灰黄褐色土　灰白色シルト質土・小礫を少量含む。締りあり。粘性強。
6．灰黄褐色土　水成堆積層。砂質土・小礫を少量含む。締り弱。粘性あり。
7．褐色土　As-C を多量、黄橙色土粒を少量含む。締り・粘性あり。

11号溝　B-B′

1．暗褐色土　As-Cを多量、にぶい黄褐色土大塊を少量含む。締り強、粘性弱。

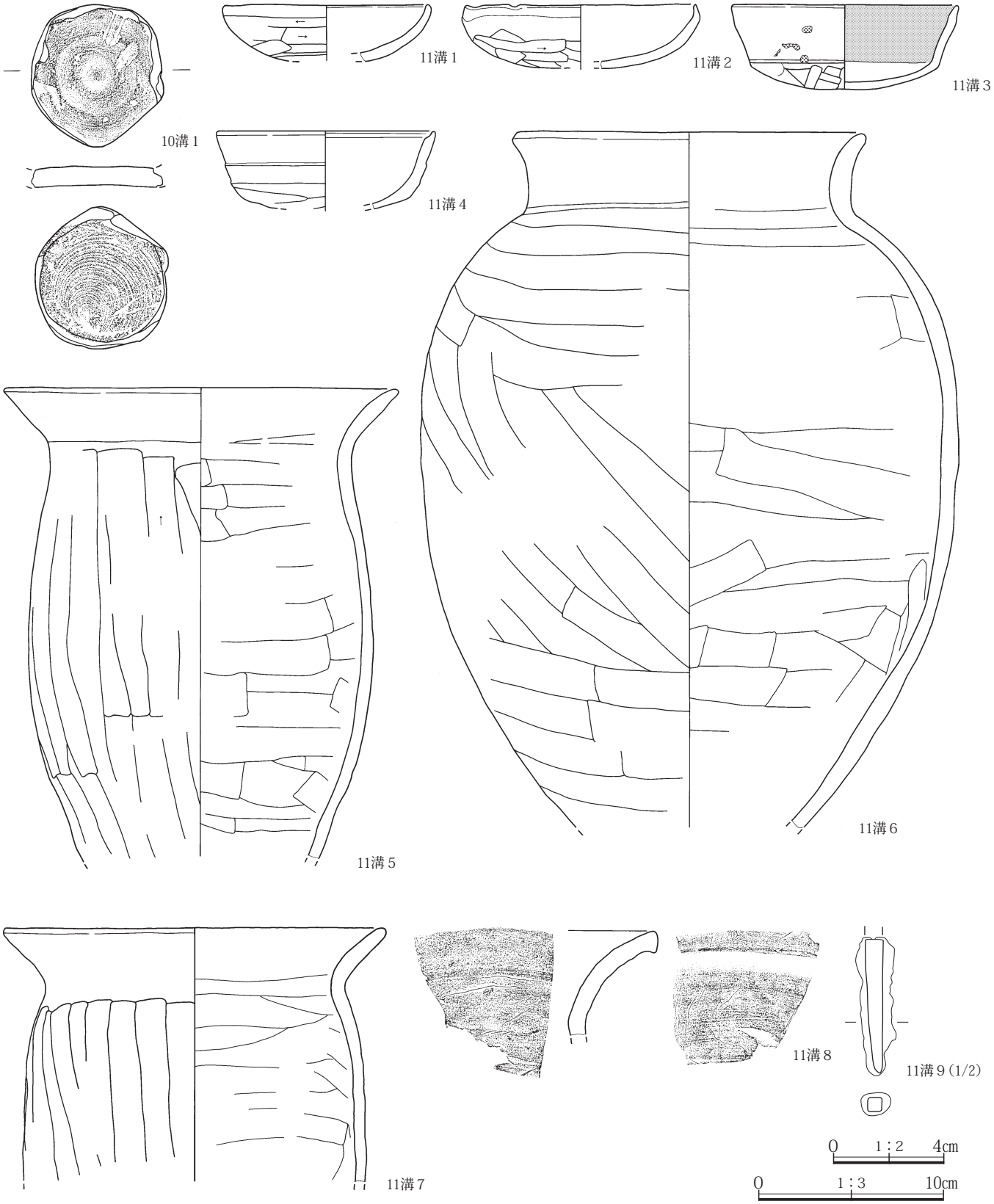
10号溝

1．暗褐色土　As-C・黒褐色土小塊を少量含む。粘性あり。
2．黒褐色土　As-Cを少量含む。締り弱。粘性あり。

11・18号溝

1．暗褐色土　As-C・黄橙色土粒を含む。締り・粘性あり。
2．黒褐色土　As-C・暗褐色土小塊を含む。締り・粘性あり。
3．黒色土　As-Cを少量、黄橙色土粒を微量含む。粘性あり。
4．黒褐色土　砂質土を含む。締り・粘性あり。

第169図　10・11・18号溝



第170図　10・11号溝

規模　調査区北壁から南西方向の調査対象外までの長さは4.94m、幅は0.56～0.84m、深さは0.33mである。
埋没土層　ローム塊・小礫を含む黒褐色土、ローム塊を含む灰黄褐色土等で埋没している。
遺物　出土遺物はない。
所見　調査区北壁から市道下の調査対象外の範囲に続いているが、市道西の調査区では確認できなかった。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。隣接する17号溝と規模や延伸方位が近いが、その関係や掘削目的は特定できない。時期は古墳時代以降と推定する。

２区17号溝（第171図、PL.42）
座標値　X＝47,897～47,899　Y＝-73,488～-73,490
重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－50°－E
規模　調査区北壁から南西方向の調査対象外までの長さは2.65m、幅は0.77～1.39m、深さは0.32mである。
埋没土層　ローム塊を含む黄褐色土、As-C・暗褐色土塊を含む黒褐色土で埋没している。
遺物　出土遺物はない。
所見　調査区北壁から市道下の調査対象外の範囲に続いているが、市道西の調査区では確認できなかった。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。隣接する11号溝と規模や延伸方位が近いが、その関係や掘削目的は特定できない。時期は古墳時代以降と推定する。

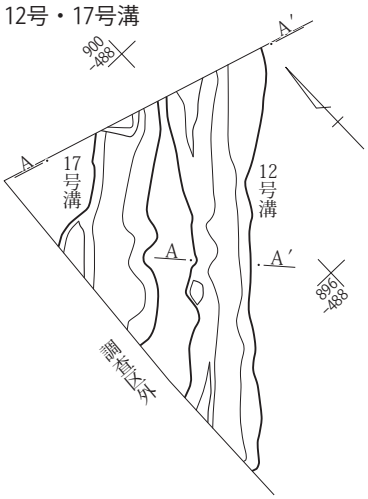
２区32号～35号溝（第171図、PL.43）
座標値　X＝47,918～47,922　Y＝-73,546～-73,552
（32溝：X＝47,921・47,922　Y＝-73,550～-73,552）
（33溝：X＝47,920・47,921　Y＝-73,549～-73,552）
（34溝：X＝47,919・47,920　Y＝-73,547～-73,551）
（35溝：X＝47,918～47,920　Y＝-73,546～-73,551）
延伸方位　32溝：N－77°－E　33溝：N－71°－E
34溝：N－72°－E　35溝：N－72°－E
重複遺構　なし
規模　長さ(6.0)m　幅3.52m
溝の間隔0.48～0.72m
（32溝：幅0.31～0.37m　深さ0.41m）
（33溝：幅0.40～0.48m　深さ0.41m）
（34溝：幅0.34～0.48m　深さ0.37m）
（35溝：幅0.36～0.60m　深さ0.41m）
埋没土層　軽石粒を含む暗褐色土・にぶい黄褐色土などで埋没している。
遺物　33号溝は出土遺物がなかったが、他の溝では、それぞれ土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　箱堀状掘削形態の４条の溝が概ね50cmの間隔で並列している。形状や延伸方位、埋没土が類似しており、一区画の畠の可能性がある。土師器や須恵器の小片が出土していることから、時期は古代と考えられる。

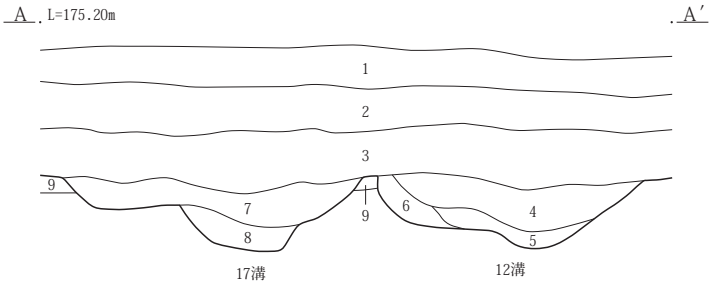
２区36号溝（第171図、第８表）
座標値　X＝47,917～47,919　Y＝-73,544～-73,551
重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－73°－E
規模　調査区北壁からの長さは6.62m、幅は0.20～0.50m、深さは0.34mである。
埋没土層　褐色土・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。
遺物　掲載した遺物は土師器の杯である。他に土師器、須恵器の小片が数点出土している。
所見　箱堀状掘削形態で底部の隅が丸みを帯びている。32号～35号・37号・38号溝と延伸方位がほぼ同じであり、一区画の畠の可能性もある。土師器や須恵器の小片が出土しており、時期は古代と考えられる。

２区37号溝（第171図、PL.44）
座標値　X＝47,917～47,919　Y＝-73,543～-73,549
重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－71°－E
規模　調査区北壁からの長さは6.35m、幅は0.12～0.45m、深さは0.11mである。
埋没土層　褐色土・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。
遺物　土師器の小片が数点出土している。
所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、ハの字状に開いている。32号～36号・38号溝と延伸方位がほぼ同じであり、一区画の畠の可能性もある。土師器や須恵器の小片が出土しており、時期は古代と考えられる。

２区38号溝（第171図、PL.44）
座標値　X＝-73,543～-73,549　Y＝-73,542～-73,548

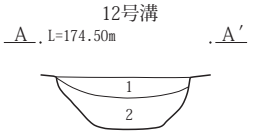
12号・17号溝





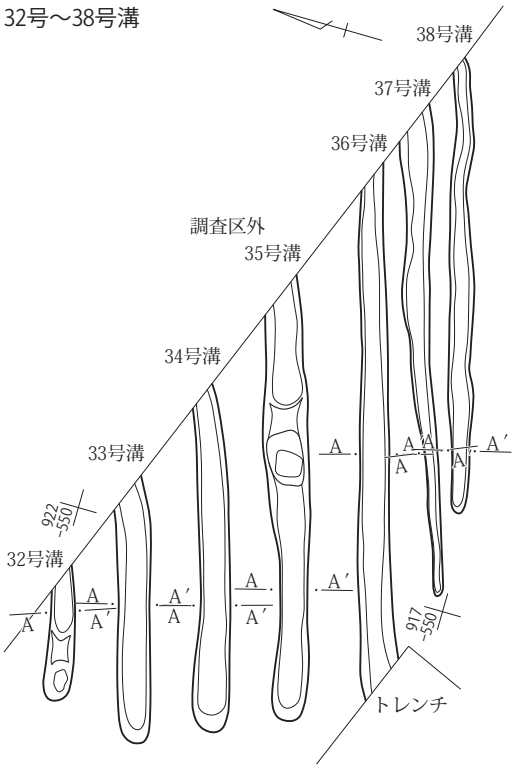
12・17号溝
1．表土（耕作土）。
2．黒褐色土　As-Cを含む。締りあり。粘性弱。
3．暗褐色土　As-C・炭化物を少量含む。締り・粘性弱。
4．にぶい黄褐色土　ローム小塊を含む。粘性あり。
5．黒褐色土　ローム塊・小礫を含む。粘性あり。
6．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り弱。粘性あり。
7．黄褐色土　ローム大塊を含む。粘性弱。
8．黒褐色土　As-C・暗褐色土塊を含む。粘性あり。
9．暗褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り弱。粘性あり。

12号溝

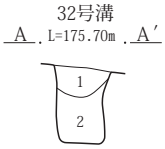


12号溝
1．黒褐色土　ローム塊・小礫を含む。粘性あり。
2．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を含む。締り弱。粘性あり。

32号～38号溝



32号溝

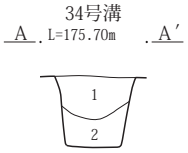


32号溝
1．暗褐色土　軽石粒・焼土粒・ローム小塊を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。締り弱。

33号溝

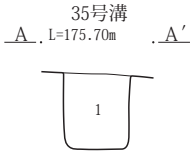
33号溝
1．にぶい黄褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
2．黒褐色土　にぶい黄褐色土・軽石粒・焼土粒を微量含む。

34号溝



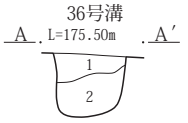
34号溝
1．にぶい黄褐色土　軽石粒を微量含む。
2．黒褐色土　にぶい黄褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

35号溝



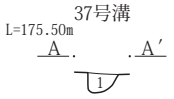
35号溝
1．にぶい黄褐色土　軽石粒を微量含む。

36号溝



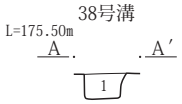
36号溝
1．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。
2．暗褐色土　褐色土を少量含む。

37号溝

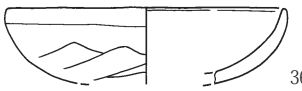


37号溝
1．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

38号溝



38号溝
1．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。



36溝１

0　1：3　10cm

0　1：40　1m

0　1：100　5m

第171図　12・17・32～38号溝

重複遺構　なし　　**延伸方位**　Ｎ－74°－Ｅ

規模　調査区北壁からの長さは5.76m、幅は0.12～0.34m、深さは0.13mである。

埋没土層　褐色土・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。32号～37号溝と延伸方位がほぼ同じであり、一区画の畠の可能性もある。土師器や須恵器の小片が出土しており、時期は古代と考えられる。

２区13号溝（第172図、PL.42）

座標値　Ｘ＝47,911～47,916　Ｙ＝-73,536～-73,549

重複遺構　９号・46号竪穴建物と重複する。新旧関係は本遺構が最も新しい。

延伸方位　Ｎ－71°－Ｅ

規模　長さは13.98m、幅は0.45～0.70m　深さは0.37～0.42mである。

埋没土層　軽石粒・ローム小塊を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。９号・46号竪穴建物の上部を壊して掘削していることから、時期は古代の可能性がある。

２区14号溝（第172図、PL.42）

座標値　Ｘ＝47,879～47,897　Ｙ＝-73,473～-73,484

重複遺構　なし

延伸方位　Ｎ－42°－Ｗ（南側は西に曲がる）

規模　北壁手前の撹乱から南壁までの長さは22.0m、幅は0.29～0.80m、深さは0.06～0.80mである。

埋没土層　As-C・ローム粒を含む黒褐色土、ローム塊を含む灰黄褐色土・褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。また、底面が丸底状になっている箇所もある。北壁側の120m程は直線的に続いているが、その先は円弧を描き、最終的にほぼ90°西側へ向きを変えながら南壁へと延伸している。掘削目的は特定できない。時期は古代の可能性がある。

２区15号溝（第173図、PL.42）

座標値　Ｘ＝47,878～47,896　Ｙ＝-73,465～73,476

重複遺構　なし　　**延伸方位**　Ｎ－33°－Ｗ

規模　調査区北壁からの長さは21.80m、幅は0.29～0.60m、深さは0.05～0.14mである。

埋没土層　As-C・ローム粒を含む黒褐色土、ローム粒を含む灰黄褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が１点出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。時期は古代の可能性がある。

２区29号溝（第173図、第８表、PL.42）

座標値　Ｘ＝47,889～47,893　Ｙ＝-73,500～-73,509

重複遺構　なし　　**延伸方位**　Ｎ－67°－Ｅ

規模　調査区南壁からの長さは9.00m、幅は0.26～0.69m、深さは0.32mである。

埋没土層　主ににぶい黄褐色土・軽石粒を含む暗褐色土、黒褐色土・軽石粒を含むにぶい黄褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は龍泉窯系青磁の碗（13ｃ-14ｃ）である。他に土師器、須恵器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。小片であるが青磁の碗が出土しており、時期は中世以降の可能性がある。

２区30号溝（第173図、PL.43）

座標値　Ｘ＝47,911～47,916　Ｙ＝-73,557～-73,559

重複遺構　37号竪穴建物と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。

延伸方位　Ｎ－20°－Ｗ

規模　長さは5.12m、幅は0.72～0.83m、深さは0.20mである。

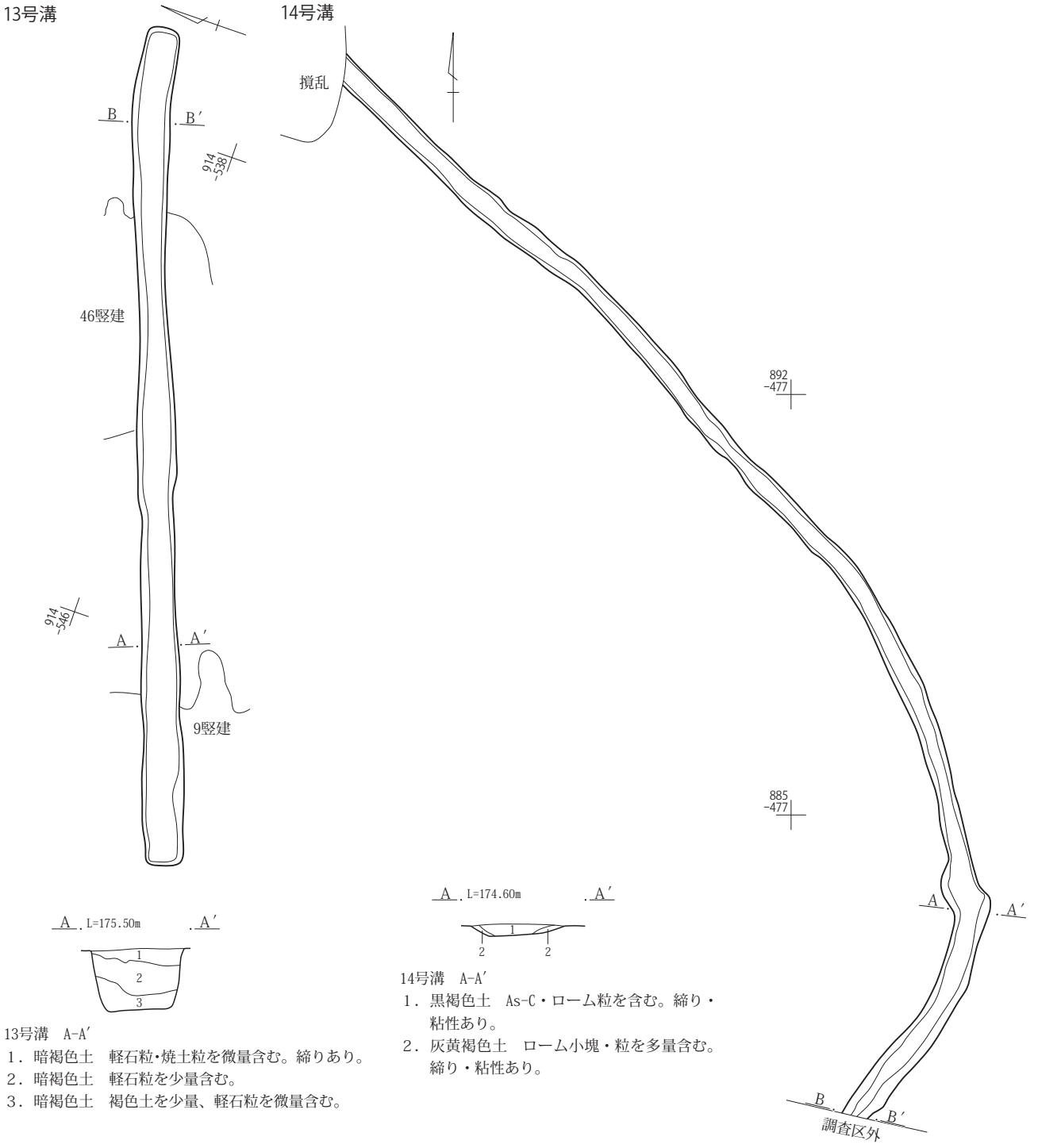
埋没土層　黒褐色土・軽石粒・ローム小塊を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が多数出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。区画溝の可能性があるが、短く、掘削目的は特定できない。土師器の小片が多数出土しており、37号竪穴建物の上部を壊して掘削していることから、

13号溝

14号溝



13号溝　A-A′
１．暗褐色土　軽石粒･焼土粒を微量含む。締りあり。
２．暗褐色土　軽石粒を少量含む。
３．暗褐色土　褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

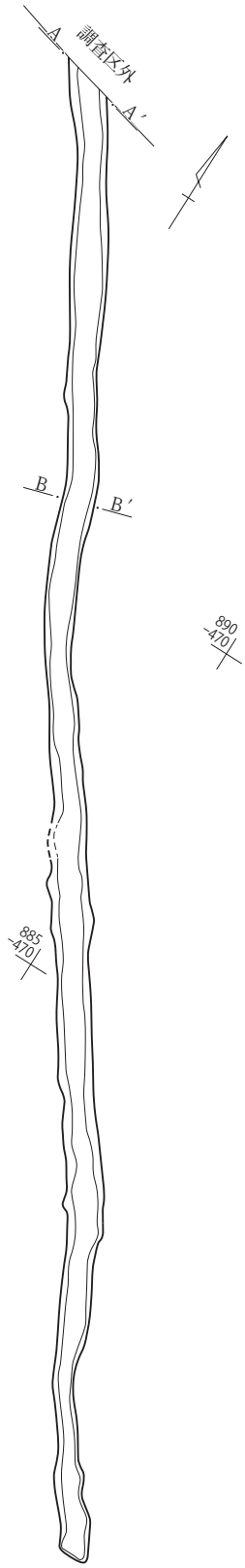
14号溝　A-A′
１．黒褐色土　As-C・ローム粒を含む。締り・粘性あり。
２．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。

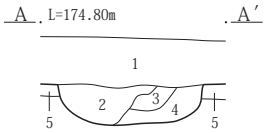
13号溝　B-B′
１．暗褐色土　ローム小塊を含む。
２．暗褐色土　ローム小塊を多量含む。

14号溝　B-B′
１．表土（耕作土）。
２．褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。粘性あり。
３．黒褐色土　As-C・ローム粒を含む。締り・粘性あり。
４．灰黄褐色土　ローム小塊・粒を多量含む。締り・粘性あり。

第172図　13・14号溝

15号溝

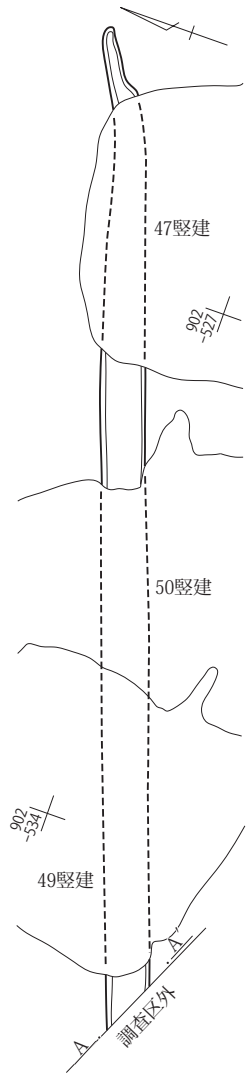




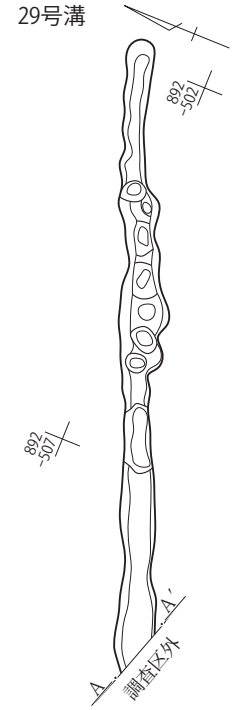
15号溝　A-A′
1．表土(耕作土)。
2．灰黄褐色土　ローム粒を含む。締り・粘性あり。
3．黒褐色土　As-C・ローム粒を含む。粘性弱。
4．黒褐色土　As-C・ローム大塊を含む。締り弱。粘性あり。
5．黒褐色土　As-C・ローム小塊・粒を含む。粘性弱。

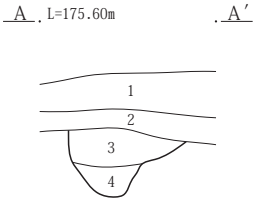
15号溝　B-B′
1．黒褐色土　As-C・ローム小塊・粒を含む。粘性あり。

40号溝

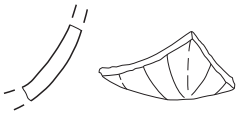


29号溝

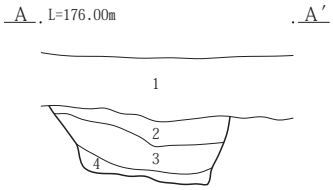




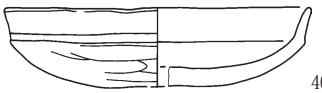
29号溝
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　にぶい黄褐色土を多量、軽石粒・焼土粒を微量含む。
3．にぶい黄褐色土　黒褐色土・軽石粒・焼土粒を微量含む。締りあり。
4．黒褐色土　にぶい黄褐色土・軽石粒を微量含む。



29 溝 1

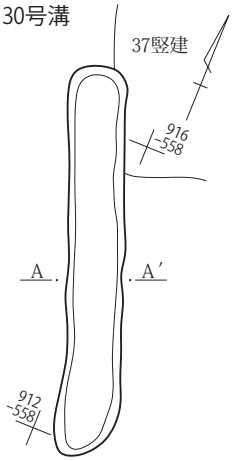


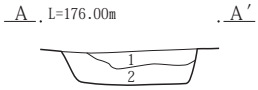
40号溝
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　As-Cを含む。締りあり。
3．にぶい黄褐色土　小礫を多量、明黄褐色土塊を少量含む。締り弱。
4．にぶい黄褐色土　明黄褐色土小塊・小礫を含む。粘性あり。



40溝 1

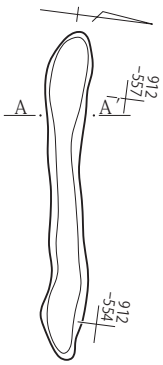
30号溝

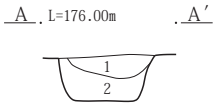




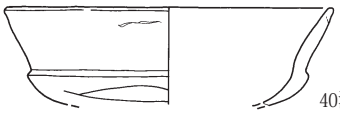
30号溝
1．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒少量、ローム小塊を微量含む。

31号溝

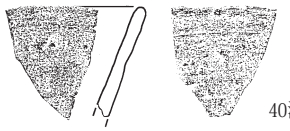




31号溝
1．暗褐色土　軽石粒を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。



40溝 2



40溝 3

0　1：40　1m

0　1：100　5m

0　1：3　10cm

第173図　15・29～31・40号溝

時期は平安時代の可能性がある。

２区31号溝(第173図、PL.43)

座標値　X＝47,909・47,910　Y＝-73,553～-73,557

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－83°－E

規模　長さは4.32m、幅は0.42～0.56m、深さは0.24mである。

埋没土層　黒褐色土・軽石粒・ローム小塊を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。区画溝の可能性があるが、短く、掘削目的は特定できない。30号溝と埋没土が類似しており、時期は平安時代の可能性がある。

２区40号溝(第173図、第８表、PL.44)

座標値　X＝47,899～47,904　Y＝-73,523～-73,536

重複遺構　47・49・50号竪穴建物と重複する。本遺構が最も新しい。

延伸方位　N－70°－E

規模　調査区南壁からの長さは12.96m、幅は0.25～0.60m、深さは0.18mである。

埋没土層　As-Cを含む暗褐色土、明黄褐色土小塊、小礫を含むにぶい黄褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は、１・２：土師器の杯、３：須恵器の椀である。他に土師器、須恵器の小片が多数出土している。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。土師器や須恵器が多数出土しており、47号・49号・50号竪穴建物の上部を壊して掘削していることから、時期は平安時代の可能性がある。

２区47号溝(第174図、PL.44)

座標値　X＝47,892～47,911　Y＝-73,516～-73,524

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－22°－W

規模　調査区北壁から調査区南壁までの長さは20.7m、幅は0.27～0.38m、深さは0.1mである。

埋没土層　黒褐色土・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　調査区の西端で溝が途切れている。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。調査区北壁・南壁の先まで延伸しているが、調査区内の70m程の範囲は見られない。後の時代に削平されたことによって失われた可能性があるが、掘削時の状態を残していると考えることもできる。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。30号溝と埋没土が類似しており、時期は平安時代の可能性がある。

２区42号溝(第174図、PL.44)

座標値　X＝47,922～47,952　Y＝-73,558～-73,560

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－70°－E

規模　調査区北壁からの長さは3.30m、幅は0.75～0.88m、深さは0.24mである。

埋没土層　軽石粒・焼土粒を含む暗褐色土、黒褐色土・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　土師器の小片が数点出土している。

所見　調査区北壁の先から続いている。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。また、底面が若干丸底状になっている。区画溝の可能性があるが、掘削目的は特定できない。30号溝と埋没土が類似しており、時期は平安時代の可能性がある。

２区48号溝(第174図、PL.44)

座標値　X＝47,906～47,910　Y＝-73,520～-73,522

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－20°－W

規模　長さ4.32m　幅0.75～0.84m、深さ0.37m

埋没土層　黒褐色土・ローム小塊・軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。土師器、須恵器の小片が多数出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。短く、掘削目的は特定できない。土師器や須恵器の小片が多数出土しており、30号溝と埋没土が類似していることから、時期は平安時代の可能性がある。

２区49号溝(第174図、PL.44)

座標値　X＝47,902・47,903　Y＝-73,536・-73,537

重複遺構　50号溝と重複する。新旧関係は本遺構が新しい。

延伸方位　N－75°－E

規模　長さは1.49m、幅は0.28～0.45m、深さは0.13mである。

埋没土層　ローム塊・小礫を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。また、底面が若干丸底状になっている。小規模な溝で、掘削目的は不明である。13号溝と埋没土が類似しており、時期は古代の可能性がある。

２区50号溝（第174図、第８表、PL.45）

座標値　X＝47,900～47,903　Y＝-73,536・-73,537

重複遺構　49号溝と重複する。新旧関係は本遺構が旧い。

延伸方位　N－17°－W

規模　長さは3.41m、幅は0.36～0.54m、深さは0.34mである。

埋没土層　ローム小塊・軽石粒・焼土粒を含む暗褐色土、黒褐色土・軽石粒・焼土粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　掲載した遺物は、１・２：土師器の杯である。他に土師器の小片が多数出土している。

所見　箱堀状掘削形態である。短く、掘削目的は特定できない。土師器が多数出土しており、30号溝と埋没土が類似していることから、時期は平安時代の可能性がある。

２区52号溝（第174図、PL.44）

座標値　X＝47,891～47,894　Y＝-73,514

重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－６°－W

規模　調査区南壁からの長さは2.9m、幅は0.19～0.40m、深さは0.12mである。

埋没土層　黒褐色土・ローム小塊・焼土粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　調査区南壁の先から続いている。箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。浅く途切れている箇所があり、後の時代に削平され、上部が失われていると考えられる。掘削目的は特定できない。時期は中世以降と考える。

２区54号溝（第174図、PL.45）

座標値　X＝47,893・47,894　Y＝-73,502～-73,512

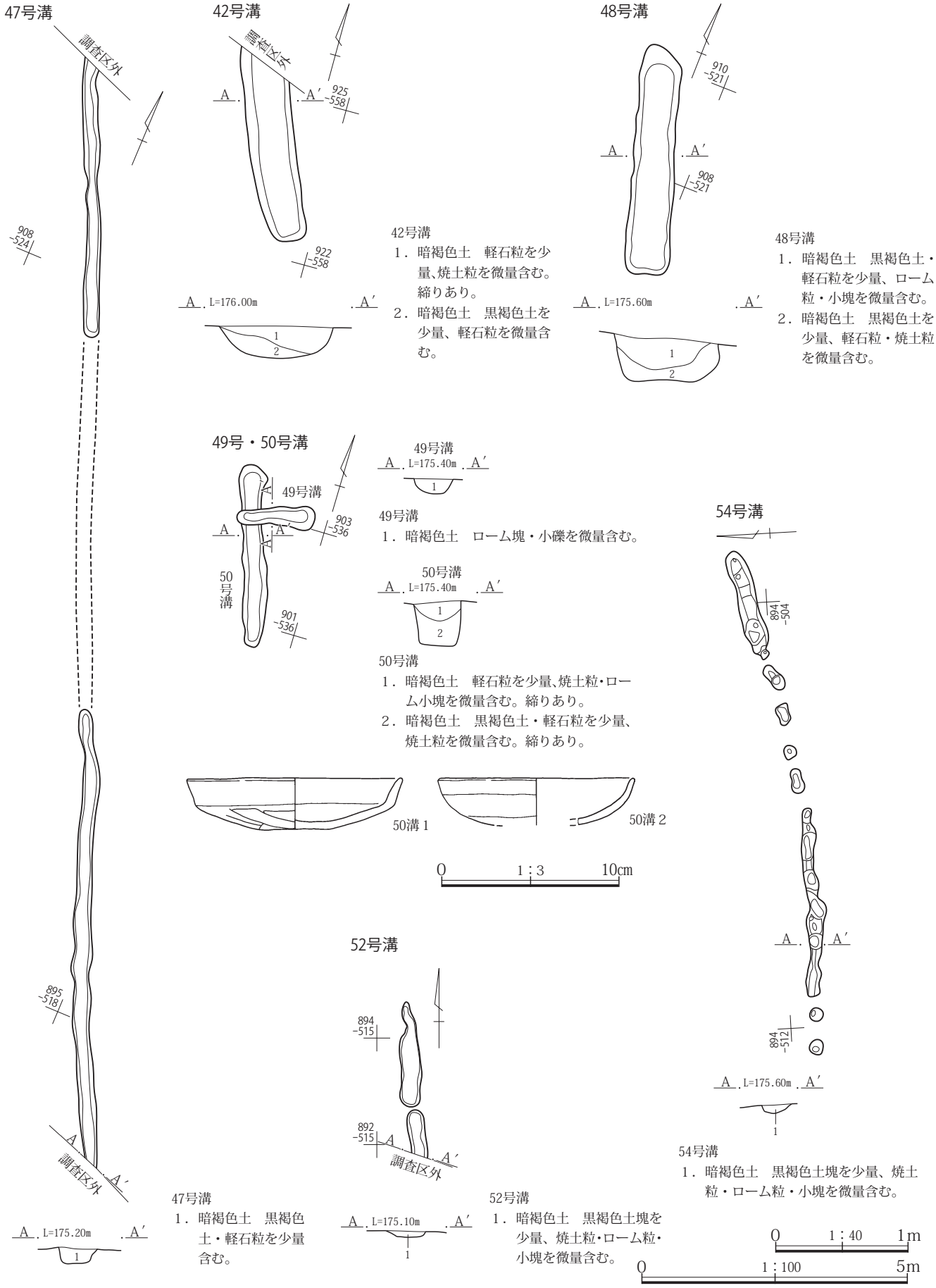
重複遺構　なし　　**延伸方位**　N－80°－E

規模　長さは9.63m、幅は0.16～0.43m、深さは0.07mである。

埋没土層　黒褐色土・ローム小塊・焼土粒を含む暗褐色土で埋没している。

遺物　出土遺物はない。

所見　箱堀状掘削形態で壁面の傾斜が緩く、壁面がハの字状に開いている。浅く、所々が途切れており、後の時代に削平され、上部が失われていると考えられる。掘削目的は特定できない。時期は中世以降と考える。



42号溝
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。

48号溝
1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、ローム粒・小塊を微量含む。
2．暗褐色土　黒褐色土を少量、軽石粒・焼土粒を微量含む。

49号溝
1．暗褐色土　ローム塊・小礫を微量含む。

50号溝
1．暗褐色土　軽石粒を少量、焼土粒・ローム小塊を微量含む。締りあり。
2．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。締りあり。

54号溝
1．暗褐色土　黒褐色土塊を少量、焼土粒・ローム粒・小塊を微量含む。

47号溝
1．暗褐色土　黒褐色土・軽石粒を少量含む。

52号溝
1．暗褐色土　黒褐色土塊を少量、焼土粒・ローム粒・小塊を微量含む。

第174図　42・47～50・52・54号溝

７．畠

本遺構で検出された畠は２区東で検出された一区画である。

２区１号畠（第175図、PL.45）

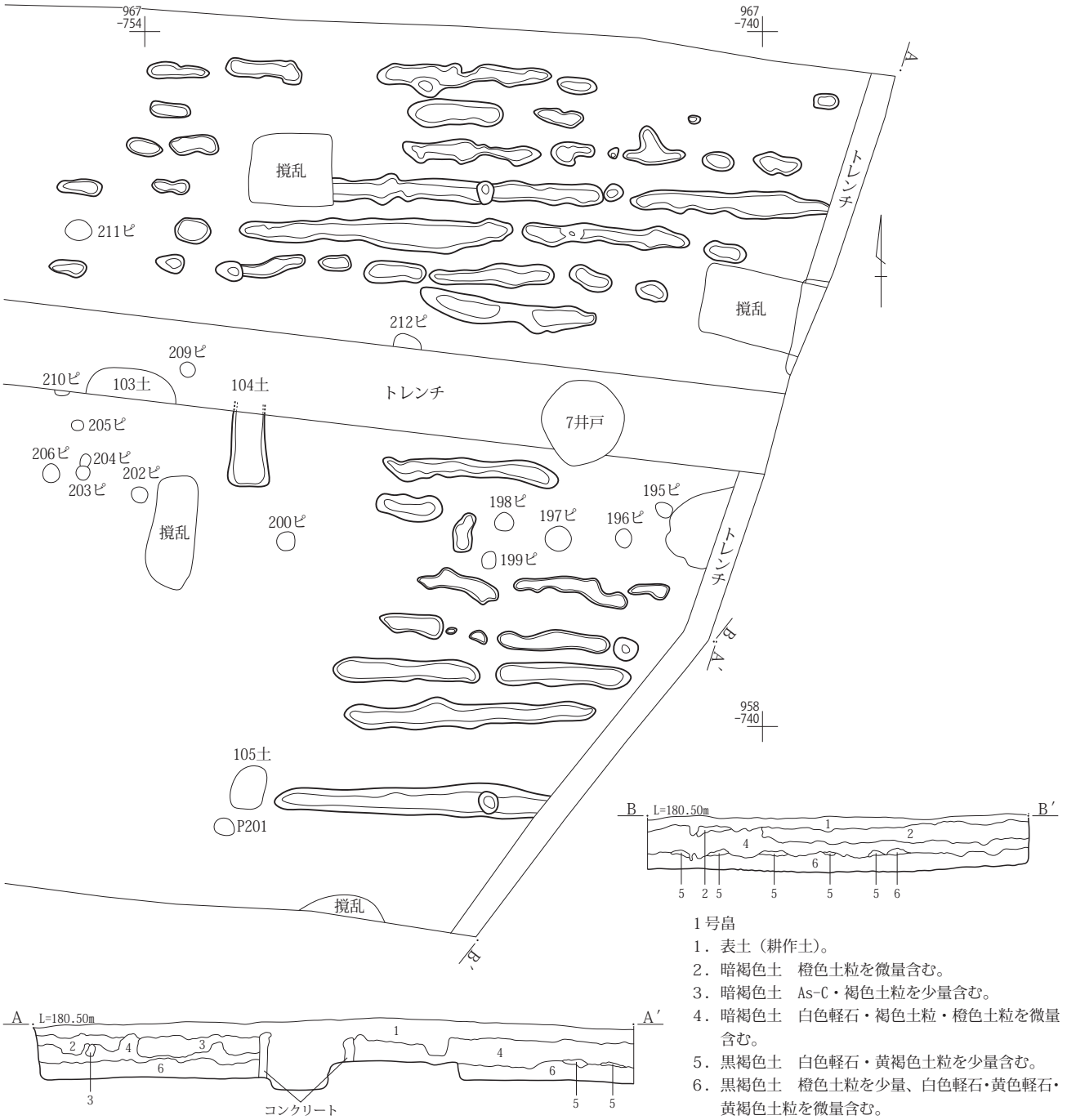
座標値　X＝47,956 ～ 47,966　Y＝-73,745～-73,755

規模　長さ10.24m　幅9.76m

方位　N－90°

所見　検出したのは畠の底面付近のため、断続的にサクが残っている状況である。サクの幅は最大0.44m、最も長く残存している部分の長さは3.56m、サク間の平均はトレンチの北側では0.52m、南側では0.58mであった。白色軽石・褐色土粒・橙色土粒を含む暗褐色土で埋没している。時期の比定は難しいが、中世以降と考える。

１号畠



１号畠
1．表土（耕作土）。
2．暗褐色土　橙色土粒を微量含む。
3．暗褐色土　As-C・褐色土粒を少量含む。
4．暗褐色土　白色軽石・褐色土粒・橙色土粒を微量含む。
5．黒褐色土　白色軽石・黄褐色土粒を少量含む。
6．黒褐色土　橙色土粒を少量、白色軽石・黄色軽石・黄褐色土粒を微量含む。

第175図　１号畠

８．集石

２区では、調査区西側の20号竪穴建物付近で南北に縦列する２基の集石を検出した。２基は同時期のものと考えられるが、１号集石は石・土器片の出土が共に少ないのに対し、２号集石からは大量の石や土器片が出土している。

２区１号集石（第176図、PL.40）

座標値　X＝47,929・47,930　Y＝-73,584・-73,585

重複遺構　なし　　長軸方位　N－５°－W

規模　長軸1.03m　短軸0.52m　深さ0.10m

遺物　須恵器の土器片が３点出土している。

所見　浅い掘り込みで、床面が緩く丸底状になっている。頭大の石４点と、拳大の石２点の外、径５㎝未満の小さな石も数点出土した。中央の２つの石が最も大きく、その周囲に他の石が置かれる配置となっており、床面直上のほぼ同じ高さに並んでいる。石の数や配置は異なるが、２号集石と同時期のものと考えられるため、本遺構の時期も６世紀後半～７世紀前半の可能性が高い。

２区２号集石（第177図、第８表、PL.40・61）

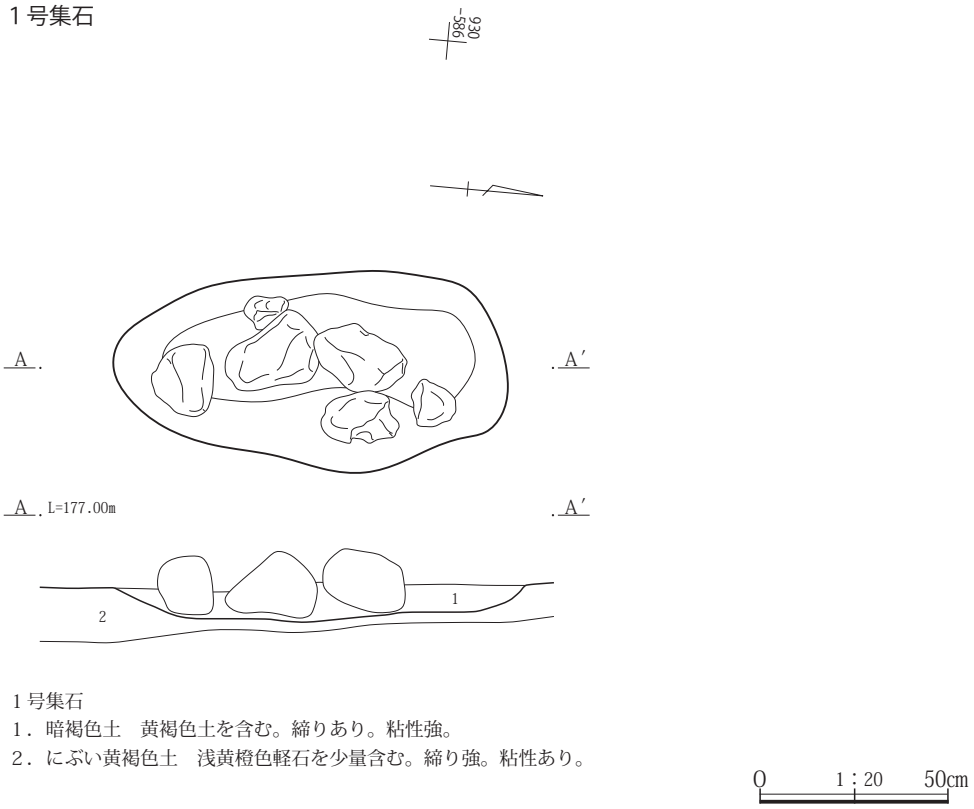
座標値　X＝47,927・47,928　Y＝-73,584・-73,585

重複遺構　なし　　長軸方位　N－11°－W

規模　長軸1.35m　短軸0.65m　深さ0.19m

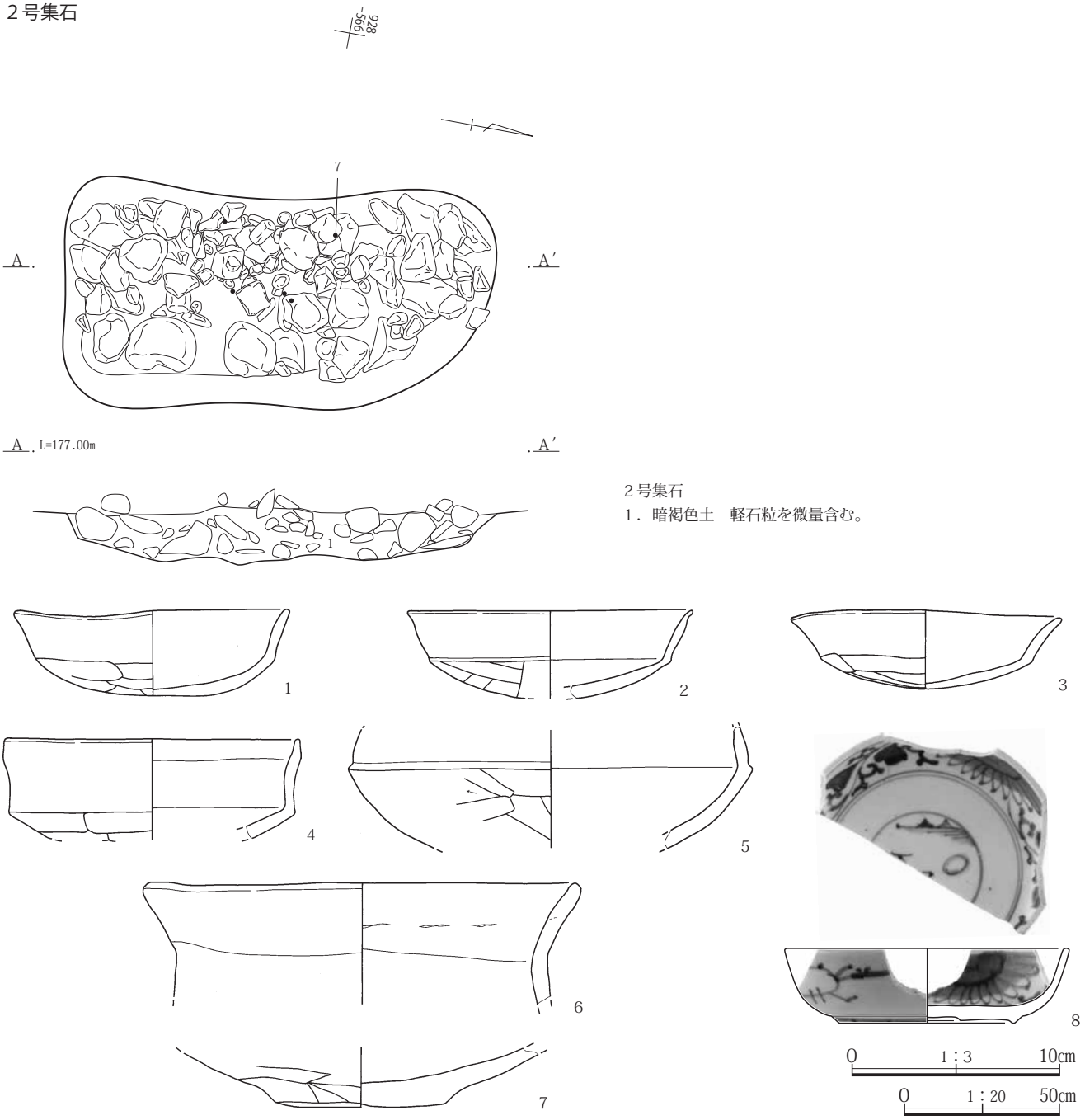
遺物　掲載した遺物は、１～５：土師器の杯、６・７：土師器の甕、８：肥前磁器の染付皿である。他に土師器の小片が281点、須恵器の小片が５点出土している。

所見　浅い掘り込みで、床面が多少起伏のある緩い丸底状になっている。大量の石が不規則に並び、高さも一定でなく、不揃いな状況で検出された。石は大小様々であるが、１号集石のものよりも幾分小さいものが多く、径が２㎝～６㎝程のものと、12㎝～18㎝程のものが目立っている。遺物の出土位置や床面からの高さも様々であった。掲載した遺物８は、埋没土中からの出土であるため、後世に混入したものと考えられる。１～７の出土遺物から、時期は６世紀後半～７世紀前半である。



第176図　１号集石

２号集石



２号集石
１．暗褐色土　軽石粒を微量含む。

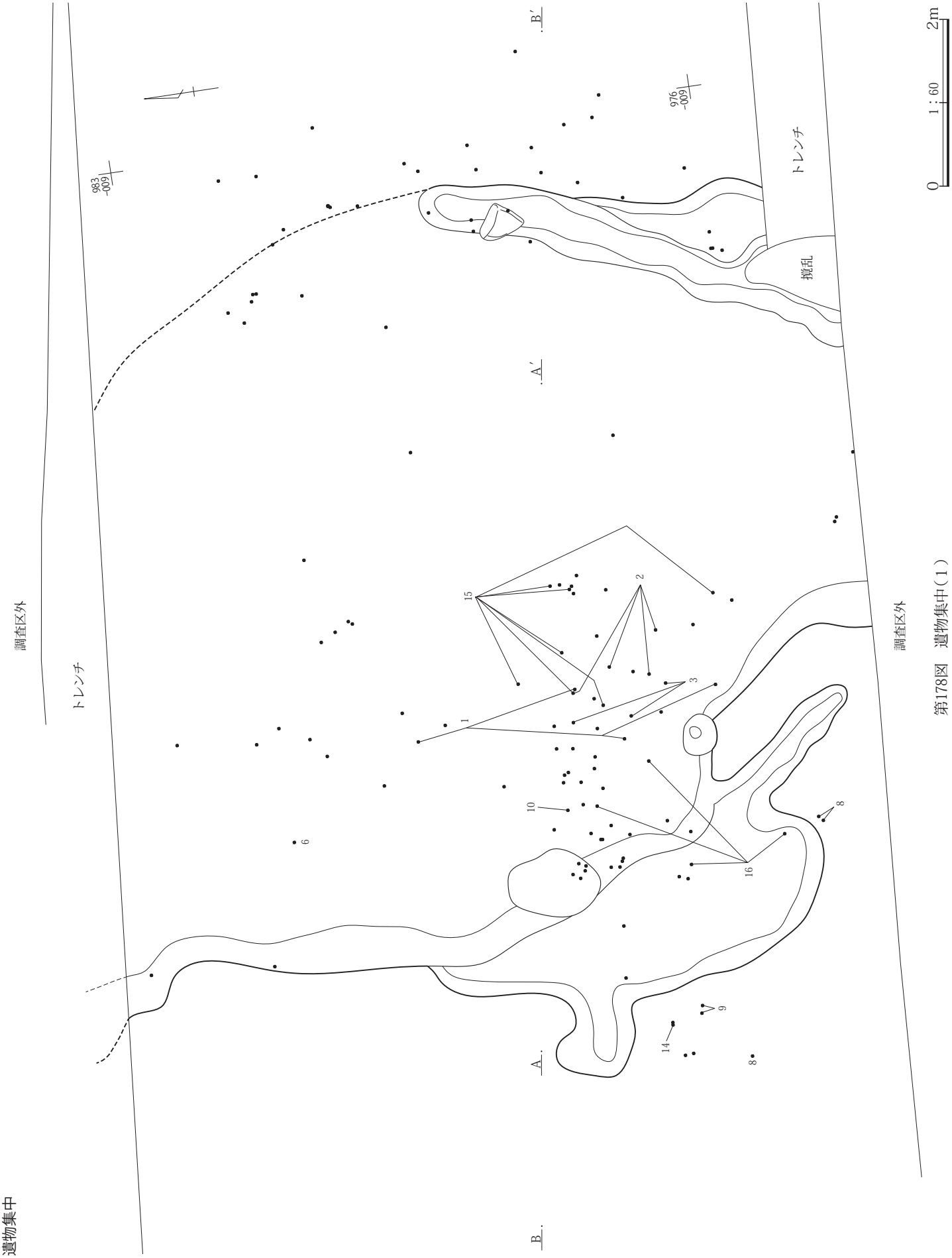
第177図　２号集石

９．遺物集中（第178～180図、第８表、PL.45・61）

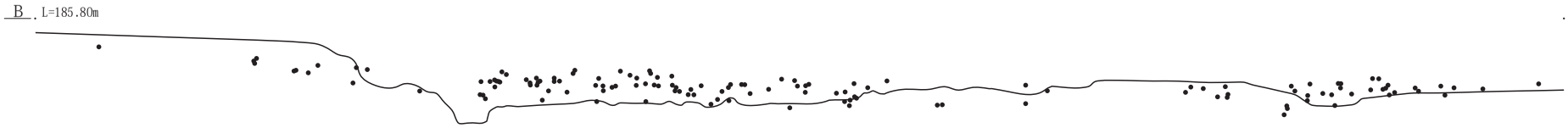
２区西の中央付近から東端付近では、古代の遺物が多数出土したが、遺構の検出には至らなかった。そのため、調査当初に遺物の出土が多く見られた中央付近を１号遺物集中、東端付近を２号遺物集中として調査を行った。最終的にはその間の範囲でも遺物の出土があったため、中央付近から東側の、遺物が出土した範囲全体を遺物集中として扱うこととする。

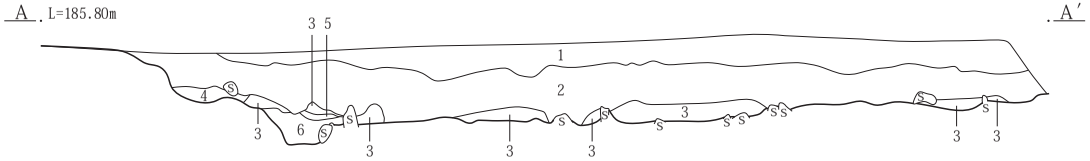
座標値　X＝47,974～47,985　Y＝-74,008～-74,021

遺物　掲載した遺物は、１～５：土師器の杯、６：須恵器の鉢、７：同長頸壺蓋、８・９：同杯、10：高台付杯、11：同椀、12：同短頸壺、13～15：同壺、16・17：土師器の甕である。他に、土師器の小片が337点、須恵器の小片が33点出土している。出土遺物は８世紀前半のものが多数見られるが、９・10世紀代のものも含まれている。

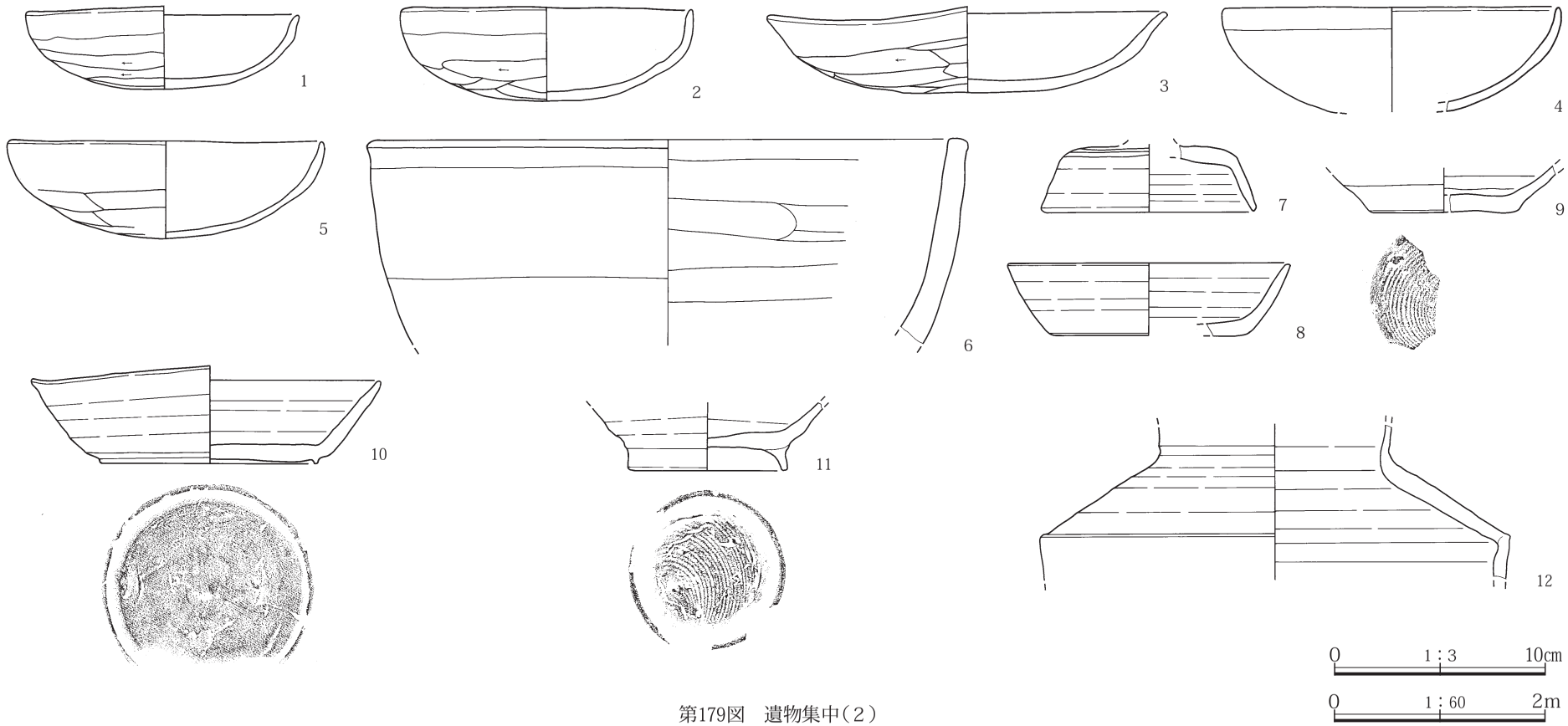

遺物集中
調査区外
トレンチ
トレンチ
撹乱
983
-009
976
-009
A
A′
B
B′
1
2
3
6
8
9
10
14
15
16
0
1：60
2m

第178図　遺物集中（１）

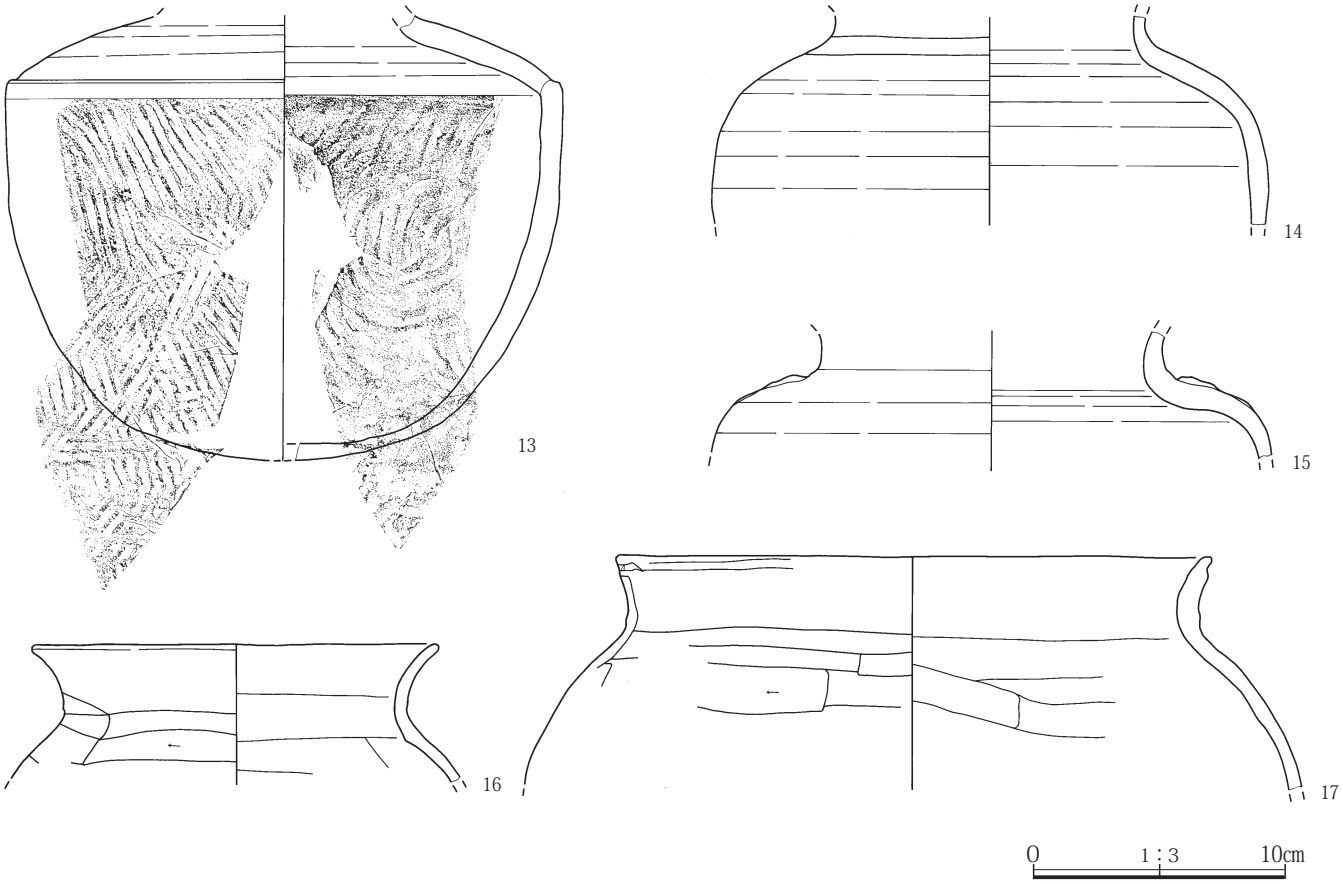




遺物集中
1．黒褐色土　白色軽石を少量含む。締りあり。
2．黒褐色土　白色軽石を多量含む。締りあり。
3．明黄褐色土　砂質土。暗褐色土・シルト粒を少量含む。締りあり。粘性なし。
4．黒褐色土　黒色土塊・シルト粒を含む。締り・粘性あり。
5．黒褐色土　シルト粒を微量含む。締りあり。粘性強。
6．暗褐色土　黒色土小塊を多量含む。締り・粘性あり。



第179図　遺物集中（2）



第180図　遺物集中（３）

10. 遺構外の遺物

１・２区で出土した縄文土器・弥生土器及び、２区の調査で出土した古墳時代以降の遺構に伴わない遺物を扱う。遺構外出土遺物には、土器類をはじめ、土製品、石製品および金属製品がある。以下､種別ごとに記載する。

（1）土器類（第181～183図、第８表、PL.62）

縄文時代の土器として１～35の35点を図示した。いずれも器種は深鉢である。型式は、１～４：有尾式、５～８：黒浜式、９～16：諸磯ａ式、17～29：諸磯ｂ式、30:中期前半、31：阿玉台式、32：加曾利E3式、33・34：加曾利E4式、35：中期後葉である。

弥生時代の土器として36～39の４点を図示した。36：樽式の甕、37～39：同壺である。

古墳時代の土器として40～42の３点を図示した。40：須恵器の杯身、41・42：土師器の杯である。

古代の土器として43～53の11点を図示した。43：土師器の杯、44：須恵器の杯蓋、45：同杯、46：同高台付杯、47：黒色土器の椀、48：須恵器の鉢、49：同平瓶、50：同無頸壺、51：同短頸壺、52：同壺、53：同甕である。

中世以降の土器として54～56の３点を図示した。54：龍泉窯系青磁の碗、55：瀬戸・美濃陶器の蓋、56：龍泉窯系青磁の香炉である。

（2）土製品（第183図、第８表、PL.62）

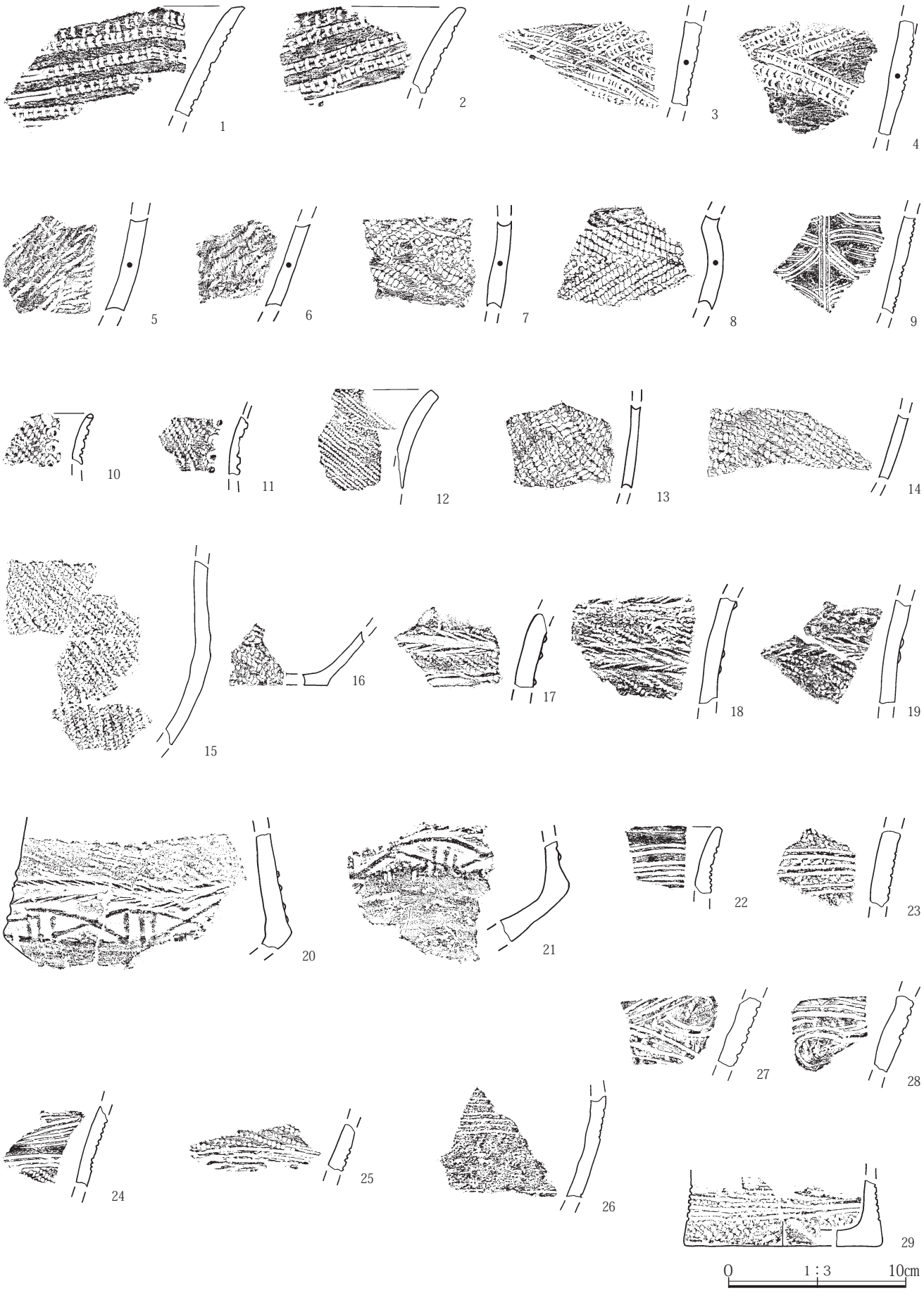
図示した土製品は、57：碁石の１点である。

（3）石製品（第183図、第８表、PL.62）

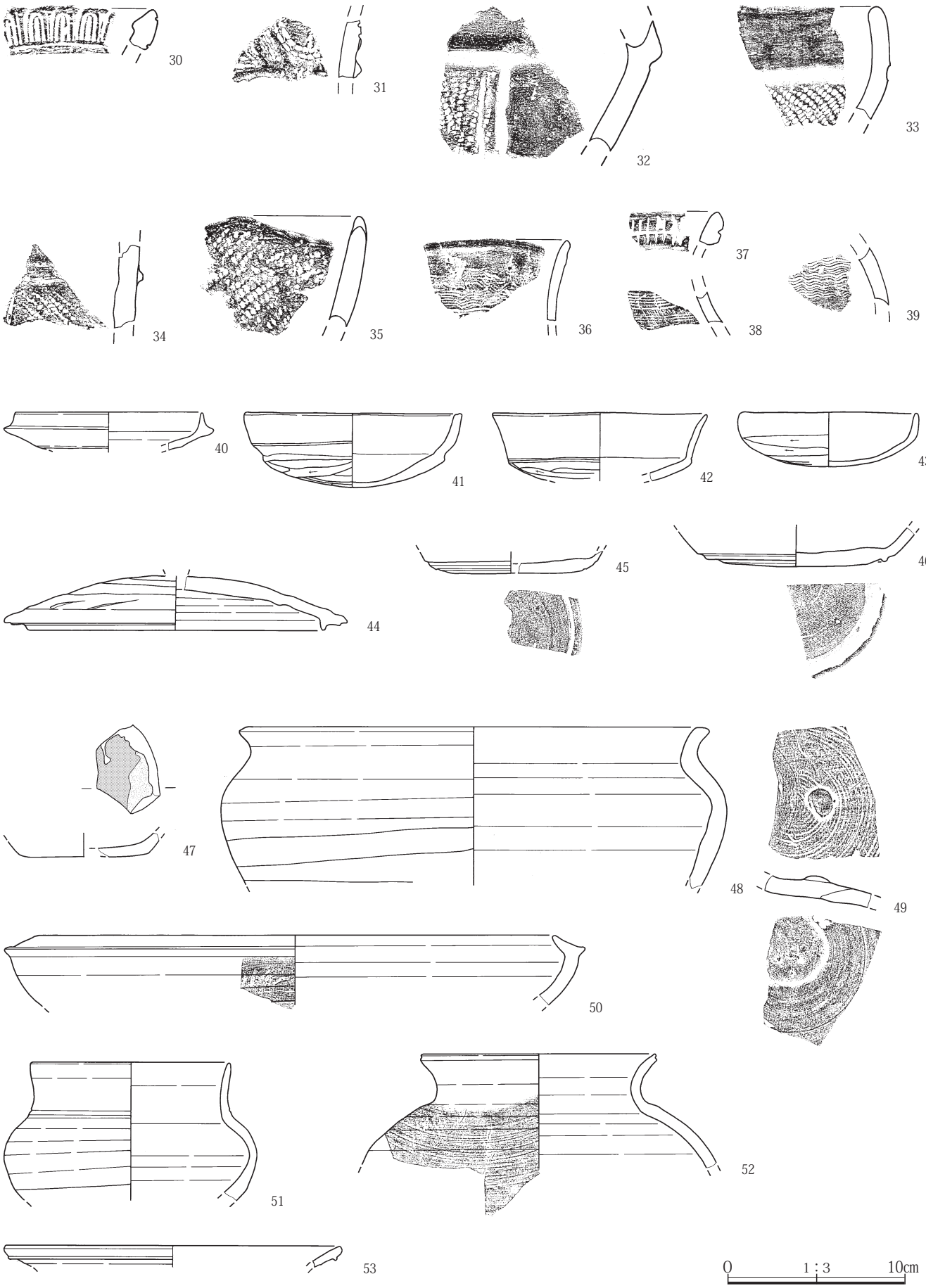
図示した石製品は、58：滑石製臼玉の１点である。

（4）金属製品（第183図、第８表、PL.62）

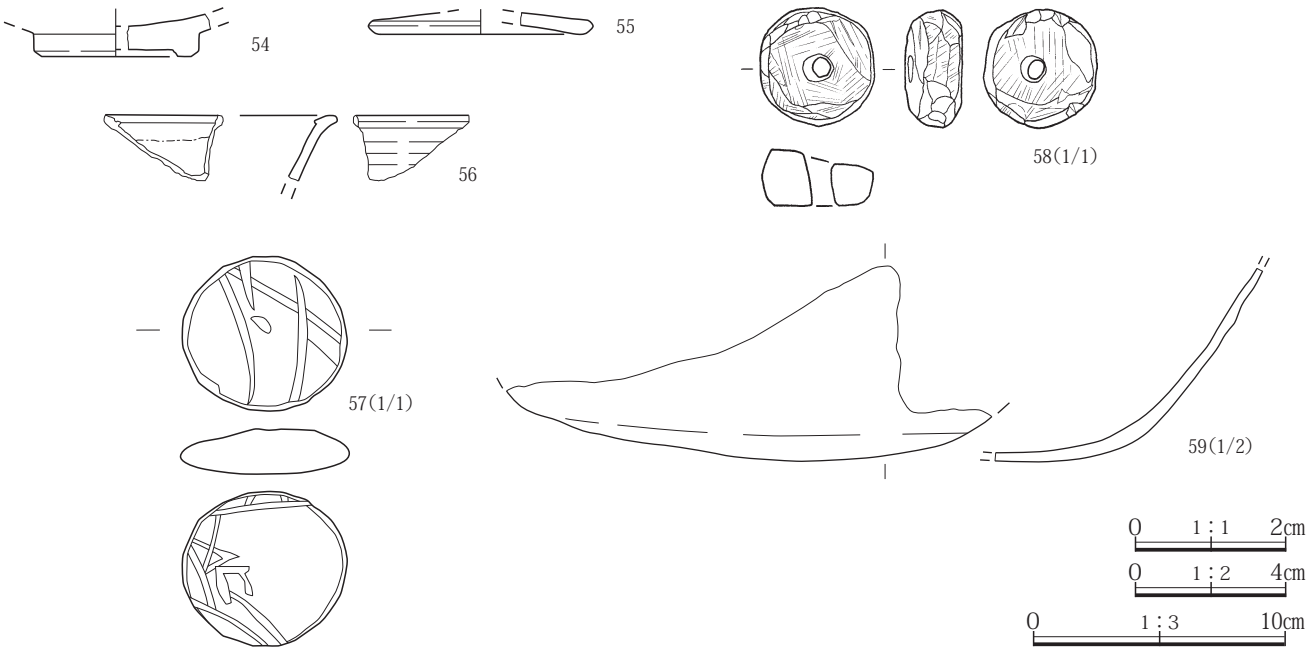
図示した金属製品は、59：鍋片の１点である。



第181図　２区遺構外出土遺物（１）



第182図　２区遺構外出土遺物（２）



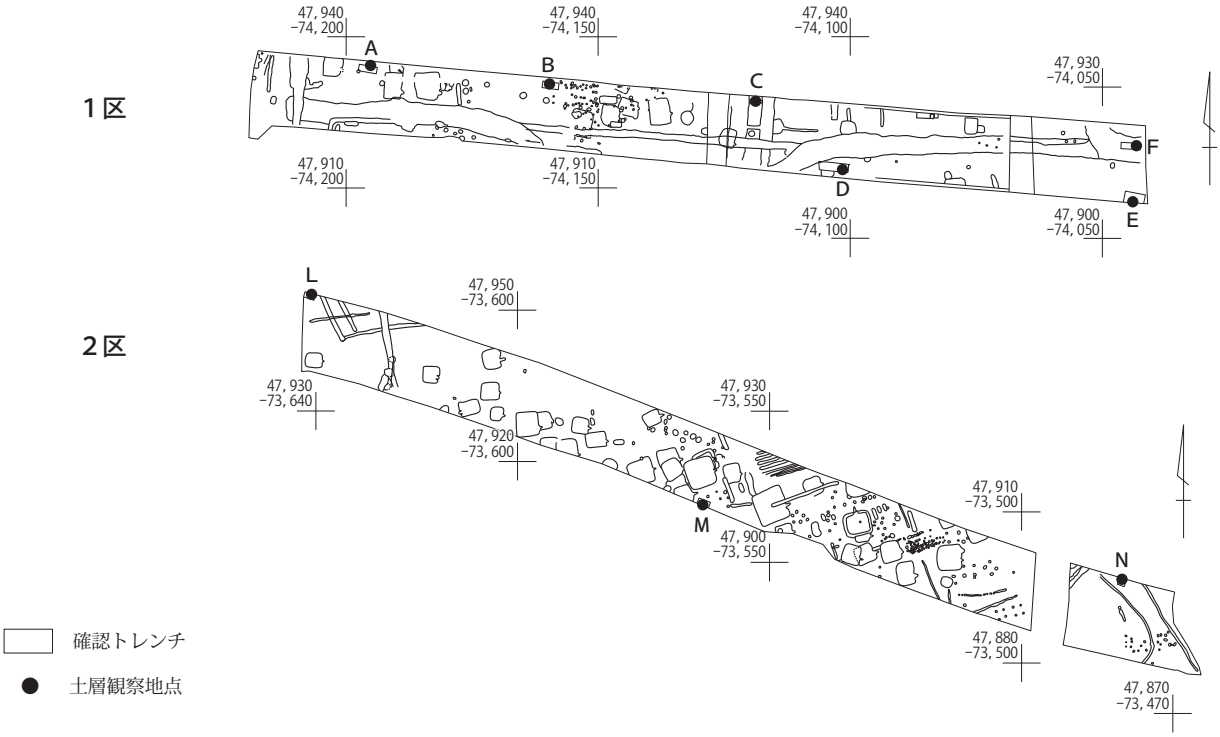
第183図　２区遺構外出土遺物（３）

第４節　旧石器時代の確認調査

１区のＡ～Ｆ、２区のＬ～Ｎの地点において、基本土層の観察と共に、古墳時代以降の遺構確認面以下について、それぞれ掘削範囲を設定し、遺構・遺物の調査を行った。

Ｍ地点では、地表から約１ｍの位置以下にローム層と考えられるAs-YPを含むにぶい黄褐色土が堆積しており、そこから30㎝～60㎝の範囲に角礫を多量に含むにぶい黄橙色土がみられた。調査はその下の灰黄褐色砂質土の範囲まで進めた。他の地点では、堆積土層が異なっているが、Ｍ地点の角礫を多量に含むにぶい黄橙色土に相当するとみられる位置までの調査を行った。

いずれの層からも旧石器時代の遺構・遺物共に検出されなかった。



第184図　旧石器時代遺構・遺物確認トレンチ設定図

第４章　自然科学分析

第１節　分析の目的と成果

前橋市0107遺跡では、分析を行うことが必要な遺物が出土した。以下、各分析の目的と得られた成果について簡単に記す。詳細なデータ・結果については第２節～第４節の分析報告を参照いただきたい。

１．赤色顔料分析

目的：赤色顔料には水銀を主成分とする朱と、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラがある。ベンガラには鉄鉱石を中心とする鉱物系のベンガラ、水田などで形成されるパイプ状の鉄細菌を焼成して作られる生物系のベンガラがあることが知られている。更に、金井東裏遺跡において120個以上の赤玉が出土し、同遺跡から出土した他の赤色顔料及び県内の関連遺跡から出土したものと共に分析・研究が行われ、赤黄色土あるいは赤土と呼ばれる堆積層土が素材となったものであることが判明した。このようにして、ベンガラには３種類あることが分かっている。これらのことを踏まえ、前橋市0107遺跡において、どのような赤色顔料が使用されていたのかを解明するため、今回の科学分析及び調査研究を行った。

分析方法：目視及び実体顕微鏡で直接観察後、赤色顔料試料を採取する。試料は杯上に乗った状態で出土した塊状のものと、杯に薄く付着する状態のものである。それぞれをブロック状に採取し、エポキシ樹脂に包埋して切断し、厚さ約30μmまで研磨したものを観察する。観察は、実体顕微鏡及び生物顕微鏡を用い、試料の色や粒子の形状を観察する。朱はルビー色の樹脂状光沢を持つ透き通った粒子であり、ベンガラは暗赤色等でパイプ状、螺旋状、不定形等の微粒子が観察される。次に主成分元素を知るために、蛍光Ｘ線分析を行う。朱はHgが、ベンガラはFeが検出される。更にＸ線回折で結晶構造を確認することにより、朱は辰砂が、ベンガラは赤鉄鉱等が同定される。

結果及び成果：２点の赤色顔料はいずれも、実体顕微鏡観察により土壌や土器器面よりも明確に赤く、生物顕微鏡観察で不定形なベンガラ粒子であることが認められた。更に、蛍光Ｘ線分析でFeを検出し、Ｘ線回折によって赤鉄鉱が同定された。これらのことから、２点の赤色顔料は、赤土が素材となったベンガラであることが分かった。これまでの県内の研究によると、弥生時代～４世紀後半まではパイプ状ベンガラの利用が多く、５世紀後半以降の県内の遺跡においては、金井東裏遺跡で出土した赤玉など、赤土素材のベンガラの使用が顕著となっている。今回、本遺跡で出土したベンガラは７世紀第３四半期・８世紀前半の杯と共に出土している。このことにより、５世紀後半以降多く使用されるようになった赤土素材のベンガラが、古代においても使用され続けていたことを示す貴重な例となった。

２．人骨の人類学的調査

目的：１区では、墓壙４基を検出した。このうちの４号墓壙では頭北面西右脇臥の状態（中世土壙墓）で人骨が出土した。その人骨及び当初時期の判断が難しかった３号墓壙から出土した人骨について、年齢・性別等を明らかにするために、今回の鑑定・分析を行った。

分析方法：各部位の肉眼観察・歯の計測により、部位の同定、残存部位からの年齢、性別の同定を行う。歯の計測は藤田(1949)に準拠し、歯の咬耗度はMolnar（1971）に基づいて分類する。尚、発掘調査時は４号墓壙出土から出土した人骨を１号人骨、３号墓壙から出土した人骨を３号人骨として調査及び取り上げが行われたため、第３節では、その名称を使用している。

結果及び成果：４号墓壙から出土した人骨（１号人骨）は、保存状態は概して不良である。細片化が著しく同定できる部位は限定される。同定できたのは、右側頭骨の外耳道部、左眼窩上縁部片、上顎骨前歯部片、下顎右臼歯部と歯である。年齢は、上下の第二大臼歯が萌出済みであること、咬耗が全てMolnarの１～２度であること、上顎左の中切歯に切縁結節が観察されることから、12歳から18歳程度と推察される。性別は、性別の推定に有効な部位が遺存していないが、大腿骨の骨幹部がきゃしゃであり、歯冠測定値が小さい傾向にあることから、女性の可

能性が高い。

３号墓壙から出土した人骨（３号人骨）は、保存状態は概して不良である。細片化が著しく同定できる部位は限定される。同定できたのは、右側頭骨の乳様突起部、後頭骨片と歯である。年齢は、推定に有効な部位が遺存していないが、上顎第２大臼歯の咬耗がMolnarの４度であることから、成人段階でも壮年期後半以降と思われる。性別は、右側頭骨乳様突起部が比較的大きく、大腿骨の骨幹部が頑強なことから、男性と思われる。

以上のことから、４号墓壙から出土した人骨（１号人骨）は、12歳から18歳程度の女性、３号墓壙から出土した人骨（３号人骨）は、壮年期後半以降の男性であることが推定された。

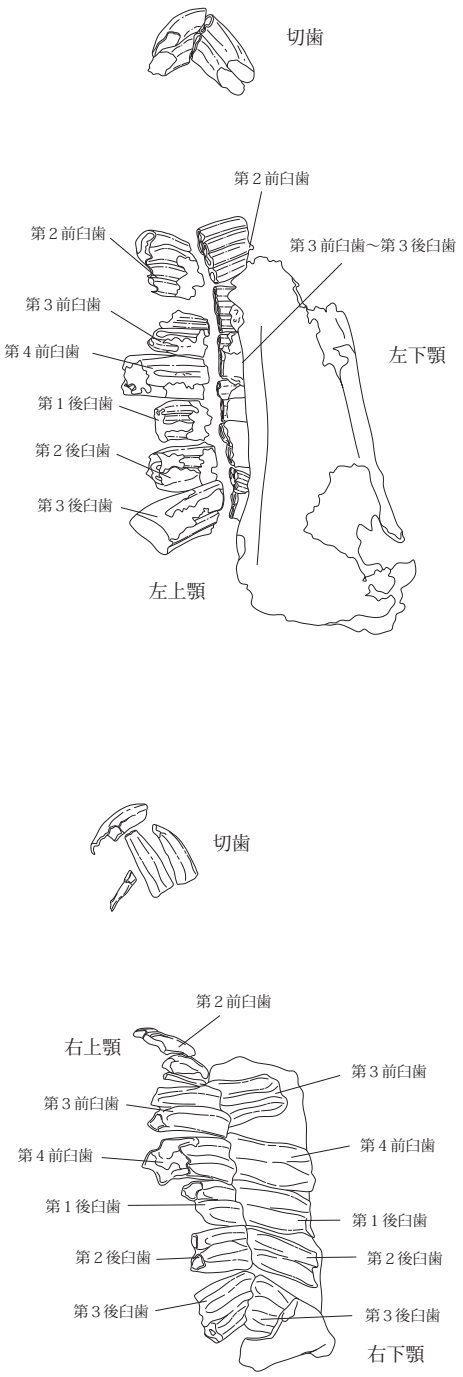
３．獣骨の形態学的調査

目的：１区27号溝では、獣骨(頭部)が出土した。この獣骨についての種、年齢等を明らかにするために、今回の鑑定・分析を行った。

分析方法：各部位の肉眼観察・臼歯歯冠の計測により、部位の同定、残存部位からの種・年齢の同定行う。臼歯歯冠の計測法はDriesch（1976)に従う。

結果及び成果：獣骨は、ウマの上顎歯と下顎骨で、残存したのは上顎の切歯と臼歯、下顎の切歯、及び臼歯が植立した下顎骨である。左下顎骨では臼歯部の下顎体が残存し、第３前臼歯から第３後臼歯までが植立していたが、右下顎骨は前臼歯周辺の歯槽が断片的に遺残するのみである。骨質の状態は総じて不良である。臼歯歯冠長の計測値が御崎馬やトカラ馬といった日本在来馬の臼歯歯冠長平均値の１標準偏差の範囲にほぼ収まっており、体高も御崎馬やトカラ馬などの日本在来馬に近かったと推測される。ウマの臼歯の歯冠高は年齢と相関するが、出土したウマの下顎第３前臼歯の歯冠高は40㎜前後であり、８～９歳と推定された古代馬の同歯種の歯冠高に近かった。したがって、少なくとも５歳以上であり、８～９歳に達していた可能性がある。

以上のことから、27号溝から出土した獣骨は、少なくとも５歳以上の御崎馬やトカラ馬などの日本在来馬に近い体高のウマであることが推定された。



第185図　27号溝出土獣骨（ウマ）

第２節　赤色顔料分析

１．はじめに

群馬県前橋市にある前橋市0107 遺跡から出土した赤色顔料について分析調査を行った。

古墳時代以前においては、赤色は祭祀や儀礼と密接に関わる色と考えられている。この赤色は、これまでの調査によって水銀を主成分とする朱(化学組成はHgS，鉱物名称は辰砂(Cinnabar))と、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラ(化学組成はα—Fe203，鉱物名は赤鉄鉱(Hematite)等)の二種類が知られている。

２．調査資料

主に７世紀後半の土器が出土する２棟の竪穴建物から出土した赤色顔料で、どちらも杯の中にあった。資料１(２区22号竪穴建物出土)は、杯内の赤色顔料を含む土壌の一部、資料２(２区52号竪穴建物出土)は、赤色顔料の付着した杯ごと提供を受けた。土器の時期は、その様相から資料１が７世紀第３四半期、資料２が８世紀前半のものと考えられている。

３．調査方法

赤色顔料か否かは、実体顕微鏡観察、生物顕微鏡観察および蛍光Ｘ線分析の結果から判断した。より詳細な調査として、その他の調査を行った。

顕微鏡観察　顕微鏡観察は赤色物の有無、付着状況、二種類の赤色顔料や遺跡土壌の混在状況、粒子形態、有機物の有無等を知るために行った。調査前に資料を自然乾燥させた。

実体顕微鏡(7-100 倍)では、白色光に近い光で資料を直接観察した。赤色顔料が塊状に遺存する場合、朱はショッキングピンク色～オレンジ色に、ベンガラは暗赤色等に見える。

生物顕微鏡(50-1000 倍)では、サンプリングを行い、合成樹脂オイキットを用いてプレパラートに封入した資料を、側射光及び透過光を用いて観察した。側射光では朱はルビー色の樹脂状光沢を持つ透き通った粒子に、ベンガラは暗赤色等の微粒子で、直径約1μmのパイプ状、螺旋状、不定形等の粒子が観察される。

偏光顕微鏡(50•100 倍)では、ブロック状に資料を採取し、エポキシ樹脂SpeciFix－40に包埋、切断し、厚さ約30μmまで研磨したものを観察した。この資料は、走査型電子顕微鏡(SEM,FEI Quanta 600,高真空,10- 30KV)でも観察した。

蛍光Ｘ線分析(XRF)　主成分元素を知るために行った。朱はHg(水銀)が、ベンガラはFe(鉄)が検出される。

測定は、土壌等の混入の少ない部分を測定したが、資料調整を行わずに測定を行ったため、特に土壌や土器に含まれるFeも検出されている可能性は否定できない。

測定には、据置型のHORIBA XGT-5200(Rh,50kv,100s,SDD,測定径約100μm,検出器付近真空,検出元素Na-U)を用いた。偏光顕微鏡観察用資料に対しては、電子顕微鏡付属の微小部蛍光X線分析装置(SEM-EDS,EDAX Genesis Octane Pro SDD,30KV,100s)による分析を行った。

Ｘ線回折(XRD)・ラマン分光(Raman)　結晶構造を知るために行った。朱は辰砂(Cinnabar,HgS)が、ベンガラは赤鉄鉱(Hematite,α-Fe203)他が同定される。

測定は、Ｘ線回折では、土壌等の混入の少ない部分を測定したが、資料調整を行わずに測定を行ったため、土壌や土器に含まれる鉱物も検出されている可能性は否定できない。ラマン分光では、偏光顕微鏡用資料を用いた。

測定には、Ｘ線回折はRIGAKU RINT Ultima Ⅲ(Cu,40kV,40mA,平行法)を、ラマン分光はBurker SENTERRA(785nm,10mW,10s)を用いた。

４．調査結果のまとめと考察

調査結果を第４表に示す。特徴的な写真とスペクトルを図版１、第186～188図に示す。

赤色顔料の種類 両資料の赤色顔料は、実体顕微鏡観察で土壌や土器器面よりも明確に赤い。生物顕微鏡観察で不定形なベンガラ粒子を認め図版１-５，８)、蛍光Ｘ線分析でFe を検出した(第186図)ため、赤色顔料の種類はベンガラと判断した。なお、Ｘ線回折ではベンガラの主要鉱物である赤鉄鉱を同定した(第187図)。

ベンガラの遺存状態 資料１のベンガラは、杯内から土壌と共に出土している。このベンガラは、土壌と混在している部分があるものの、厚さ１cm以上のほぼ混在の見られないベンガラのみの部分も認められた(図版１-１)ため、塊状のベンガラが崩れて埋没したものと考え

られる。

資料２のベンガラは、土器洗浄後の整理段階で杯内への付着が確認されたものである。ベンガラは器壁にしっかり付着しているが、分厚い部分があり、塗布したような印象を受けない（図版１－６）。ベンガラに生じたクラックに見られる黒色物はマンガンを含んでおり、埋蔵環境により地下水に含まれる鉄やマンガンが沈着する過程で、杯内にベンガラが固着した可能性が考えられる。

いずれも、ベンガラの貯蔵や保管、もしくは祭祀などに用いられたものと考えられる。

ベンガラの特徴 両資料のベンガラは、目視でやや白っぽい印象を受け、実体顕微鏡観察で赤色部分に透明・半透明鉱物を多数確認した（図版１－１，２，６，７）。この部分には、遺跡土壌である黒土の混入は見られないこと、また生物顕微鏡観察で、赤鉄鉱と透明・半透明鉱物が密着している状況が見られること（図版１－５，８）から、透明･半透明鉱物も含めてベンガラと考えられる。この鉱物は、ベンガラの母岩に由来するものであろう。偏光顕微鏡観察から、この透明・半透明鉱物は主に石英で、長細い粒子（三次元的には板状か）の一部は明礬石と考えられ、ベンガラと万遍なく混じっていた（図版１－３，４）。

蛍光Ｘ線分析では、主にベンガラに由来するFe の高いピークの他に、Si のピーク、Al,S,K,Ca,Ti,Cu,As の極低いピークも確認した(第186図)。Si が多いことから、一般的に想定されている鉄鉱石ではなく、いわゆる赤土が素材になったものと考えられる。その赤土は、S やAs の検出から、温泉地周辺での産出が予想される。

Ｘ線回折では､石英(SiO2)が主体であった。赤い割に、ベンガラの主要鉱物である赤鉄鉱(α-Fe2O3)は強度が弱いため、完全に赤鉄鉱化していない非晶質部分が多いものと考えられる。

その他､特徴的な鉱物として､明礬石(KAl3(SO4)2(OH)6)が同定された(第187図)。さらに、カオリナイト(Al4Si4O10(OH)8)、クリストバライト(SiO2)、金紅石(TiO2)、灰長石(CaAl2Si2O8)の可能性のある鉱物が同定されたが､強度が弱いため､類似の鉱物の可能性もある。

なお、偏光顕微鏡観察で確認した明礬石の可能性のある長細い透明粒子(図版１－３，４)は、ラマン分光により明礬石が同定された(第188図)。

明礬石は、主に火砕岩の酸性熱水変質作用によって生成される(吉村2014)と言われており、共存する赤鉄鉱等も含めて同様に生成されたものと考えられる。

筆者は、過去に群馬県内の古墳時代の出土ベンガラの分析調査を行い、今回検出したベンガラと同様な特徴を持つベンガラが、赤玉と呼ばれる球状ベンガラ塊の素材として、また横穴式石室への塗布散布品等として、５－６世紀に顕著に使用されていることを明らかにした。また、そのベンガラを火山地帯から産出した赤土素材のベンガラと仮称した(志賀2018,2019)。

今回の調査では、古代においてもこのベンガラが採用され続けていたことが判明した点で、貴重な研究成果となった。

〈謝辞〉

本研究は、九州国立博物館が群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼を受けた受託研究として行われました。研究を実施するにあたり、群馬県埋蔵文化財調査事業団ならびに同所属の山中 豊氏には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

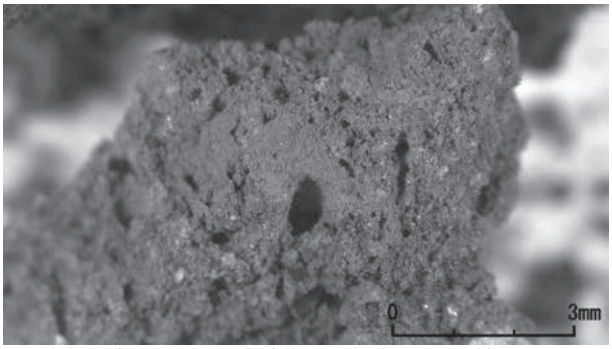
〈引用・参考文献〉

志賀智史2018「火山地帯から産出した赤土素材のベンガラ」『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会,pp.178-179

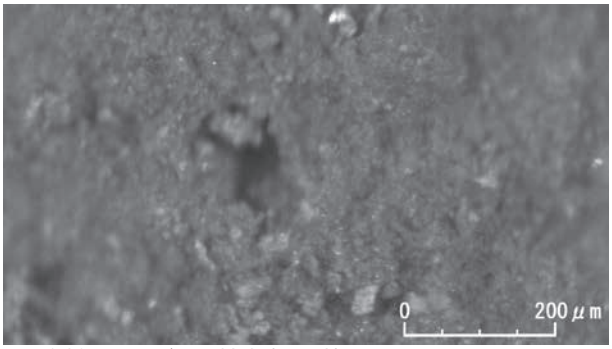
志賀智史2019「金井東裏遺跡から出土した赤色顔料について」『金井東裏遺跡《古墳時代編》理学分析編・考察編』群馬県埋蔵文化財調査事業団,pp.224-238

吉村尚久(編)2014『粘土鉱物と変質作用』地学団体研究会

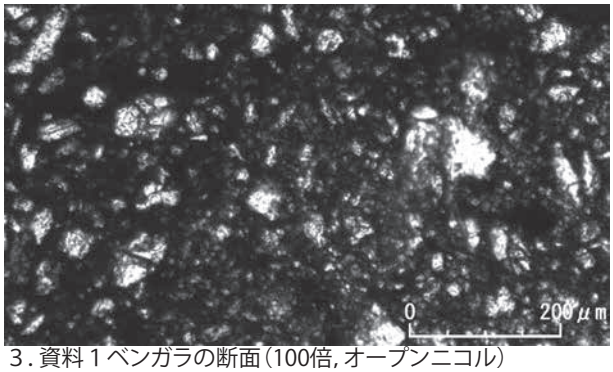
Lafuente B, Downs R T, Yang H, Stone N (2015) The power of databases: the RRUFF project. In: Highlights in Mineralogical Crystallography, T Armbruster and R M Danisi, eds. Berlin, Germany, W. De Gruyter, pp.1-30



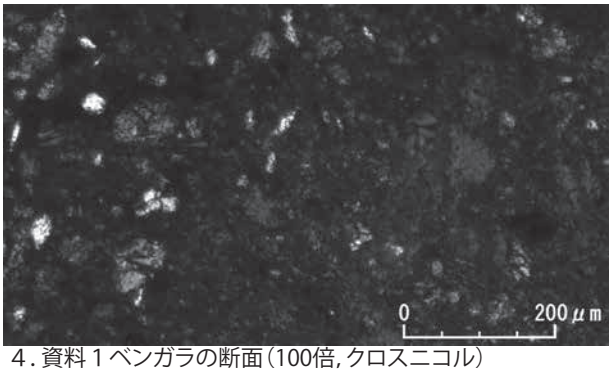
１. 資料１（２区22号竪穴建物出土杯内出土, 8倍）
土壌と混在した状態のベンガラ。杯内にあった塊状のベンガラが崩壊しながら土壌と共に埋没したものであろう。



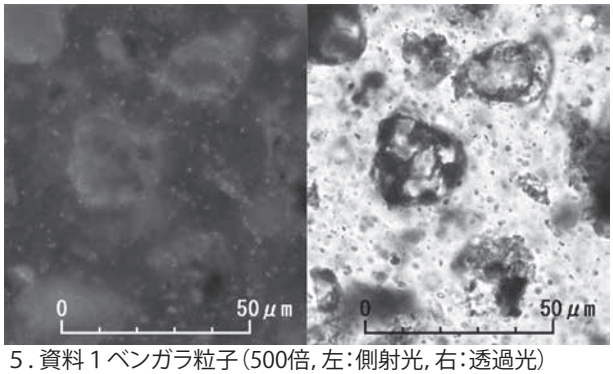
２. 資料１ベンガラの拡大（100倍）
ベンガラには、母岩に由来する透明・半透明が多く含まれており、全体として白っぽく見える。浮いた状態の粒子は混入した土壌。



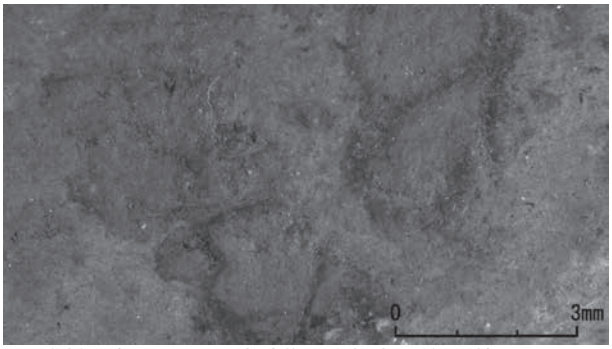
３. 資料１ベンガラの断面（100倍, オープンニコル）
ベンガラだけの部分。赤鉄鉱の中に無色透明の粒子が多数認められる。この粒子の殆どは石英で、長細い粒子（三次元的には板状か）には、明礬石もある。



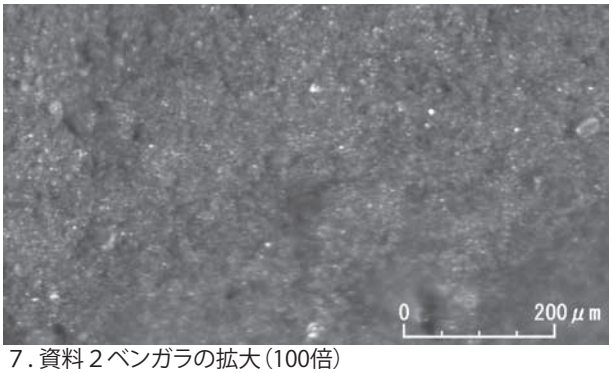
４. 資料１ベンガラの断面（100倍, クロスニコル）
石英や明礬石も含めベンガラ。



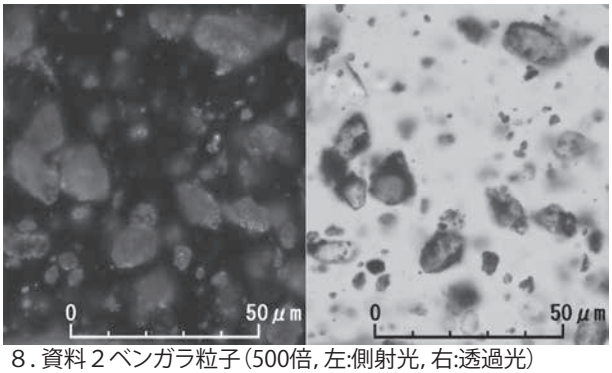
５. 資料１ベンガラ粒子（500倍, 左：側射光, 右：透過光）
不定形粒子だけで構成されたベンガラであった。



６. 資料２（２区52号竪穴建物出土杯内付着, 8倍）
ベンガラは部分的に遺存し、厚みがある。ベンガラの亀裂にある黒色物はマンガン。杯内にあった塊状のベンガラが、地下水の影響で器壁に固着したのであろう。



７. 資料２ベンガラの拡大（100倍）
ベンガラには、母岩に由来する透明・半透明が多く含まれており、全体として白っぽく見える。

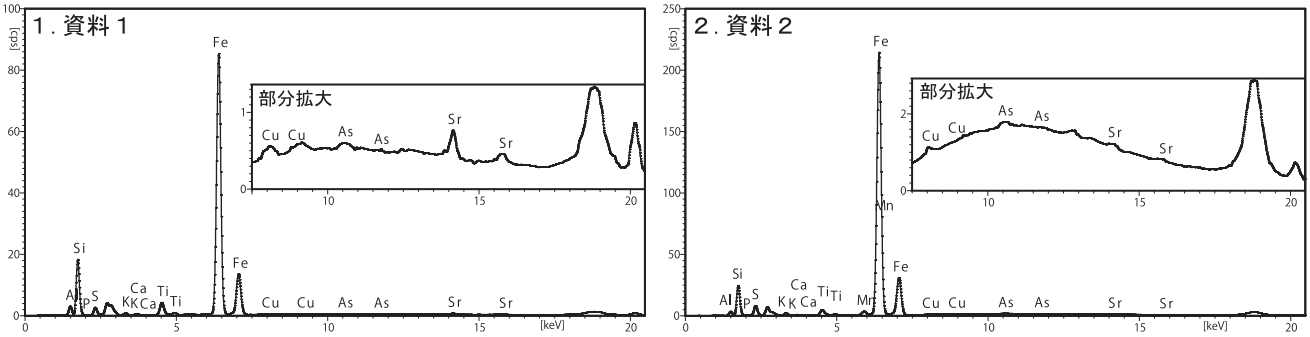


８. 資料２ベンガラ粒子（500倍, 左:側射光, 右:透過光）
透明・半透明も含めベンガラと言える。不定形粒子だけで構成されたベンガラであった。

図版１　赤色顔料の顕微鏡写真

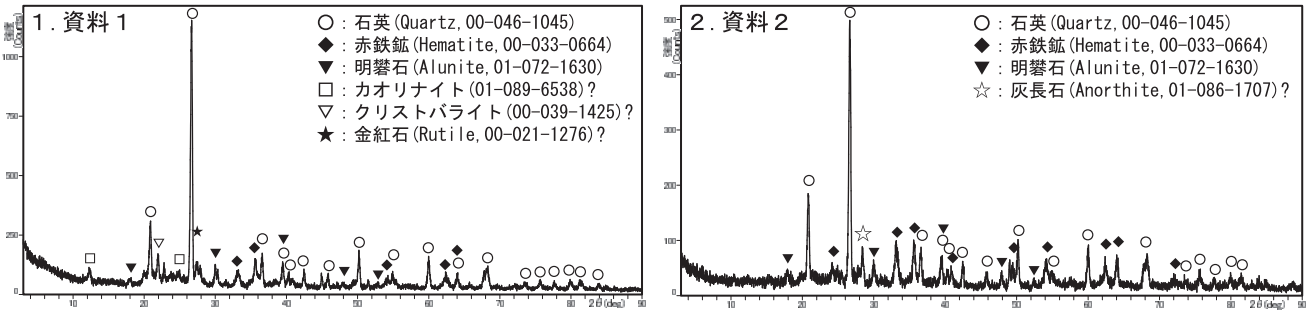
第４表　前橋市0107 遺跡出土の赤色顔料分析結果一覧

資料	挿図・整理番号等	遺構	遺物	時期	各分析結果			赤色顔料の種類	備考
					生物顕微鏡	XRF	XRD		
1	第91図１	2区22号竪穴建物	杯内	7世紀第3四半期	ベンガラ（不定形）	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ（不定形）	その他、母岩由来の透明・半透明鉱物が大量に混在する。XRFで、Al,Si,K,S,K,Ca,Ti,Cu,As等のピークが見られる。XRDやRamanで石英と明礬石等を同定。
2	第136図３	2区52号竪穴建物	杯内付着	8世紀前半	ベンガラ（不定形）	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ（不定形）	



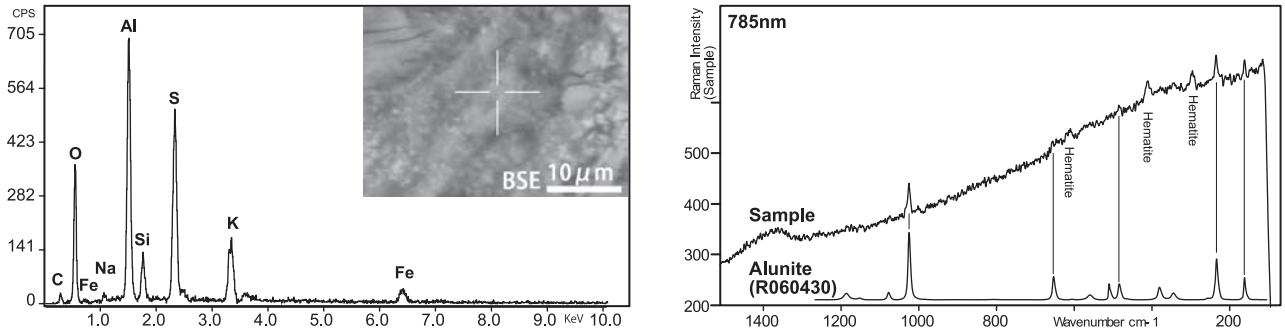
第186図　蛍光Ｘ線スペクトル図

土壌等の混入の少ない部分を測定。Fe(鉄)を中心に、Al(アルミニウム)、Si(珪素)、S(硫黄)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)のピークが見られ、Cu(銅)やAs(砒素)の極低いピークも見られる。SやAsの存在は、このベンガラが火山地帯や温泉地帯で産出したものであることを示している。



第187図　Ｘ線回析図

土壌等の混入の少ない部分を測定。未同定のピークもあるが、ベンガラに由来する赤鉄鉱以外の鉱物は全て赤鉄鉱に伴うものであろう。明礬石の存在が特徴的なように、ベンガラは、熱水により変質生成した赤鉄鉱を素材としたものと考えられる。



第188図　資料１の断面が細長い無色透明粒子のＳＥＭ－ＥＤＳ(左)とマランスペクトル図(右)

両調査結果から、この粒子は、明礬石（Alunite,$KAl_3(SO_4)_2(OH)_6$）と考えられる。Na（ナトリウム）の極低いピークも見られることから、ソーダ明礬石も含まれているかもしれない。鉄はベンガラ由来であろう。ラマン分光の比較資料は、RRUFF Project（Lafuente et al.2015）より引用。

第３節　人骨の人類学的調査

１．はじめに

2017年群馬県埋蔵文化財センターの発掘調査で前橋市0107遺跡から中世と思われる人骨が出土した。これは人類学的調査の報告である。歯の計測は藤田(1949)に準拠した。歯の咬耗度はMolnar（1971)に基づいて分類した。歯の計測値は第５表に示す。

２．１号人骨

遺存状況

保存状態は概して不良である。細片化が著しく同定できる部位は限定される。頭骨においては右側頭骨の外耳道部、左眼窩上縁部片、上顎骨前歯部片、下顎右臼歯部と歯が同定できる(図版２－１)。同定できる歯は以下の歯式に示されるとおりである。水平線は上下顎の境界を、垂直線は正中線を表し、向かって左側が個体の右を示す。記号と数字の組み合わせが記入されているものが存在を確認された歯である。

	M2	M1	P2	P1	C		I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	
	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1			P1	P2	M1	M2	

重複する歯は認められず、１個体が埋葬されたものと思われる。上顎左犬歯、右第２小臼歯、第１大臼歯、第２大臼歯の、右下顎の第１・第２大臼歯が植立した状態で確認された、その他は全て遊離歯である。咬耗度は、象牙質まで及ばず前歯部・臼歯部ともMolnarの１～２度で軽微なものである。

四肢・体幹骨では、大腿骨骨幹部片のみが同定できた(図版２－2)。

年齢

上下の第二大臼歯が萌出済みであることからおよそ12歳には達していた。咬耗が全てMolnarの1～２度であることと、上顎左の中切歯に切縁結節が観察されることから、12歳から18歳程度の若い個体と推察される。

性別

性別の推定に有効な部位が遺存していないが、大腿骨の骨幹部がきゃしゃな印象を受けることと歯冠計測値の大きさが江戸時代男性の平均値(長岡　2003)よりか小さい傾向にあるので、女性の可能性が高い。

その他特記事項

齲蝕およびエナメル質減形成は確認できなかった。

３．３号人骨

遺存状況

保存状態は概して不良である。細片化が著しく同定できる部位は限定される。頭骨においては右側頭骨の乳様突起部、後頭骨片と歯が同定できる(図版２－3)。同定できる歯は以下の歯式に示されるとおりである。

										C	P1	P2	M1	M2	

遺存する歯では重複するものは認められず、１個体が埋葬されたものと思われる。全てが遊離歯である。咬耗度は、前歯部で犬歯・小臼歯Molnarの３度、大臼歯部で４度を呈した。

四肢・体幹骨では、大腿骨骨幹部片のみが同定できた(図版２－４)。

年齢

年齢推定に有効な部位が遺存していないので大まかな推定だが、上顎第２大臼歯の咬耗がMolnarの４度であることから成人段階でも壮年期後半以降だと思われる。

性別

右側頭骨乳様突起部が比較的大きく、大腿骨の骨幹部が頑強なことから、男性と思われる。

その他特記事項

齲蝕は、上顎第２大臼歯の遠心面歯頸部に認められた。エナメル質減形成は確認できなかった。

大腿骨後面の粗線は内側唇・外側唇とも発達するが、後方に張り出す柱状大腿骨ではない。破損のため正確に計測できないが、ピラスタ示数は100程度である。

４．まとめ

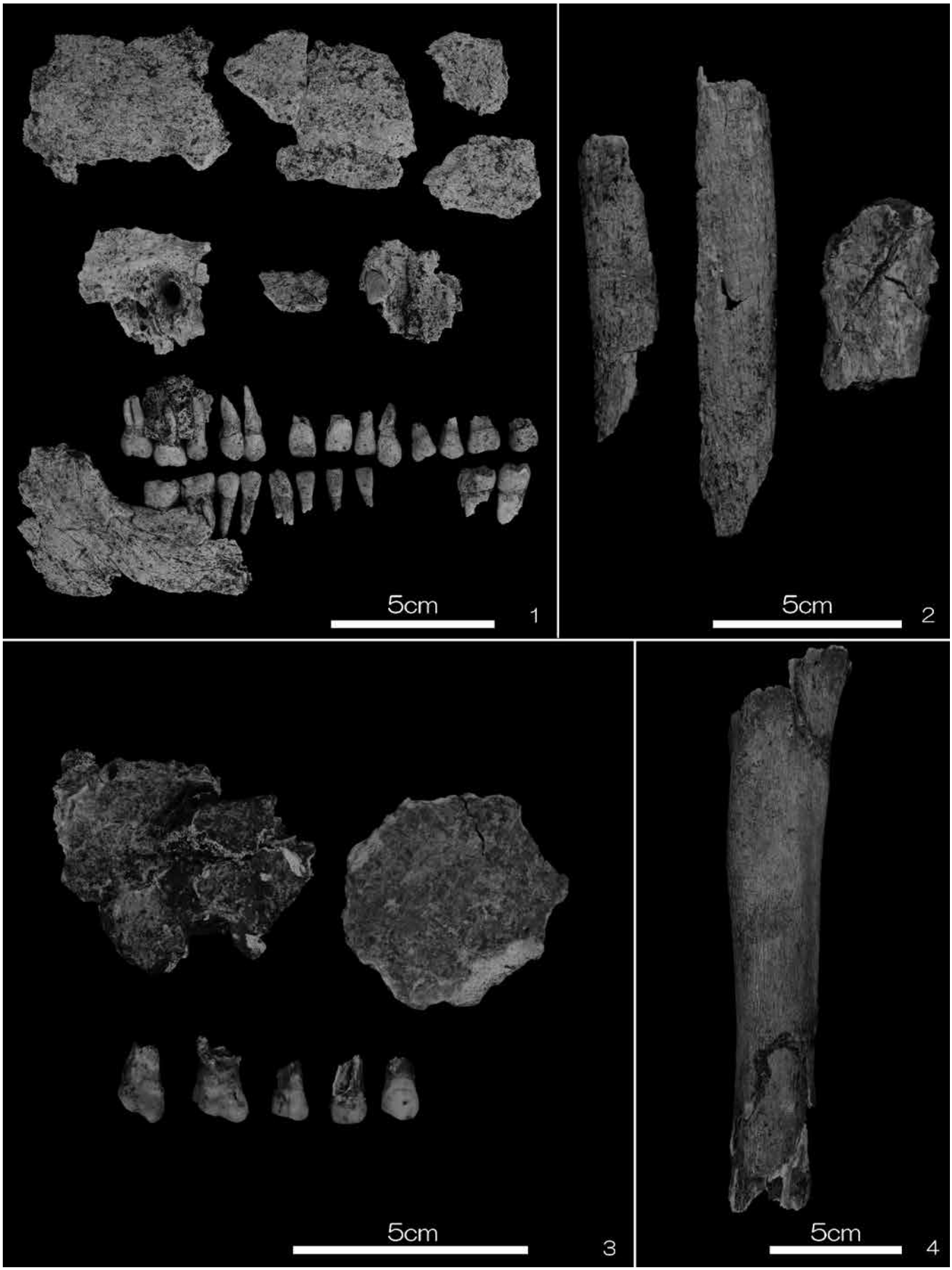
2017年の前橋市0107遺跡から出土した人骨は、成人前の若年女性と成人男性と推定される土葬人骨２体である。

〈参考文献〉
藤田恒太　1949　歯の計測基準について．人類誌 61：27-31．．
Molnar S. 1971　Human tooth wear, tooth function and cultural variability. American journal of Physical Anthropology, 34: 175-190.
長岡朋人　2003　江戸時代人の歯冠サイズの地理的変異人類學雜誌 111(２), 143-154

第５表　歯冠計測値(mm)

		1号人骨				3号人骨			
		右側		左側		右側		左側	
		近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径
上顎	中切歯	8.37	6.88	8.36	7.01	−	×	−	−
	側切歯	−	−	6.66	6.62	−	×	−	−
	犬歯	7.48	8.08	7.63	7.97	7.50	8.92	−	−
	第一小臼歯	6.69	8.86	6.80	8.88	7.43	9.40	−	−
	第二小臼歯	6.36	8.51	6.40	8.53	7.46	9.21	−	−
	第一大臼歯	10.22	−	10.25	11.17	10.31	12.18	−	−
	第二大臼歯	9.18	10.99	8.53	10.61	8.69	−	−	−
	第三大臼歯	−	−	−	−	−	−	−	−
下顎	中切歯	5.08	5.31	−	−	−	−	−	−
	側切歯	5.76	5.98	5.19	5.37	−	−	−	−
	犬歯	6.27	7.57	−	−	−	−	−	−
	第一小臼歯	6.43	7.33	−	−	−	−	−	−
	第二小臼歯	6.80	8.80	−	−	−	−	−	−
	第一大臼歯	−	10.14	10.74	10.06	−	−	−	−
	第二大臼歯	11・02	9.54	10.95	9.08	−	−	−	−
	第三大臼歯	−	−	−	−	−	−	−	−

−　：　該当歯種なし、もしくは咬耗等により計測不能



図版２　１：１号人骨頭骨、２：１号人骨大腿骨片、３：３号人骨頭骨、４：３号人骨右大腿骨骨幹部

第４節　獣骨の形態学的調査

１．はじめに

前橋市0107遺跡で実施された2020年の発掘調査において、中世の溝遺構(27号溝)からウマの上顎歯と下顎骨が出土した。上顎歯は上顎骨を伴っていなかったものの歯列を保っており、上顎歯と下顎歯の出土位置の関係は解剖学的に自然であった。おそらく、当初は１個の頭骨が埋存していたが、土中の埋存過程でほとんどの骨質部分が消失し、保存に優れる歯が主体となって出土したように思われる。頭部以外の骨は見つかっておらず、もとより頭のみだったのかどうかは判然としない。

出土ウマは発掘調査担当者によって出土状況を記録したうえで取り上げられ、新潟医療福祉大学に搬入された。本資料について、接着剤(セメダインC)と有機溶媒(アセトン)の混合剤を表面に塗布して補強処理を施した上で、形態学的観察と臼歯歯冠の計測を実施した。計測法はDriesch (1976)に従った。以下に所見を報告する。

２．残存部位

上顎の切歯と臼歯、下顎の切歯、および臼歯が植立した下顎骨が出土した。

上顎歯では、左の第１切歯(UI1)・第２切歯(UI2)・第３切歯(UI3)、および左右の第２前臼歯(UP2)・第３前臼歯(UP3)・第４前臼歯(UP4)・第１後臼歯(UM1)・第２後臼歯(UM2)・第３後臼歯(UM3)が確認された。

下顎歯では、左右の第１切歯(LI1)、左の第２切歯(LI2)・第３切歯(LI3)、左右の第２前臼歯(LP2)・第３前臼歯(LP3)・第４前臼歯(LP4)・第１後臼歯(LM1)・第２後臼歯(LM2)・第３後臼歯(LM3)が確認された。左下顎骨では臼歯部の下顎体が残存し、第３前臼歯から第３後臼歯までが植立していたが、右下顎骨は前臼歯周辺の歯槽が断片的に遺残するのみである。骨質の状態は総じて不良であった。

３．歯の形質

出土ウマの上・下顎臼歯の歯冠計測値を第６表にまとめた。出土ウマの値は、御崎馬やトカラ馬といった日本在来馬の臼歯歯冠長平均値の１標準偏差の範囲にほぼ収まっており(第７表)、これら在来馬とさほど変わりない臼歯サイズとみなしてよい。西中川らは、ウマの臼歯歯冠長と体高の間に相関があることを指摘しており(西中川ほか 2015)、出土ウマの体高も御崎馬やトカラ馬などの日本在来馬に近かったと推測される。

歯冠表面を観察したところ、前臼歯に数条の線形エナメル質減形成が出現していた。エナメル質減形成は、歯冠形成期の栄養障害や疾患などで生じるエナメル質の実質欠損で、古病理学的ストレスマーカーとして用いられる。出土ウマに複数のエナメル質減形成が認められたことから、この個体は、歯冠形成期に繰り返しストレスを受ける環境にあったことがうかがえた。

４．年齢

いずれの歯も咬耗しており、臼歯の咬合面は平坦であった。Levine (1982)によれば、ウマの臼歯の萌出年齢は、第２・３前臼歯で2.5～3.5歳、第４前臼歯で３～５歳、第１後臼歯で0.5～１歳、第２後臼歯で1.3～２歳、第３後臼歯で2.5～５歳とされる。また、ウマの臼歯の歯冠高は年齢と相関するが(西中川ほか 2015)、出土ウマの下顎第３前臼歯の歯冠高は40mm前後であり、８～９歳と推定された古代馬の同歯種の歯冠高(四条遺跡出土:40.9mm、38.7mm)に近かった(山崎 2016)。したがって、本遺跡の出土ウマは少なくとも５歳以上であり、８～９歳に達していた可能性がある。

５．まとめ

前橋市0107遺跡の中世の溝跡から、１個の頭骨に由来すると思われるウマの歯と下顎骨が出土した。出土ウマの臼歯のサイズは、御崎馬やトカラ馬など日本在来馬に近い値であった。歯の萌出状況および歯冠高から、出土ウマは少なくとも５歳以上であったと推定された。

＜文献＞
Driesch A.V.D. (1976) A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Bulletins 1, Peabody Museum Press.
Levine M.A. (1982) The use of crown height measurements and eruption-wear sequences to age horse teeth. In: Ageing and Sexing Animal Bones from Archaeological Sites. BAR 109, pp.223-250.
西中川駿・幸村真由美・吉野文彦・塗木千穂子・松元光春(2015)ウマの臼歯の計測値から体高および年齢の推定法. 動物考古学 32:1-9.
山崎　健(2016)藤原宮跡から出土した動物遺存体. 藤原宮跡出土馬の研究 奈良文化財研究所研究報告17, 奈良文化財研究所, pp.1-26.

第６表　前橋市0107遺跡出土ウマの歯冠計測値(mm)

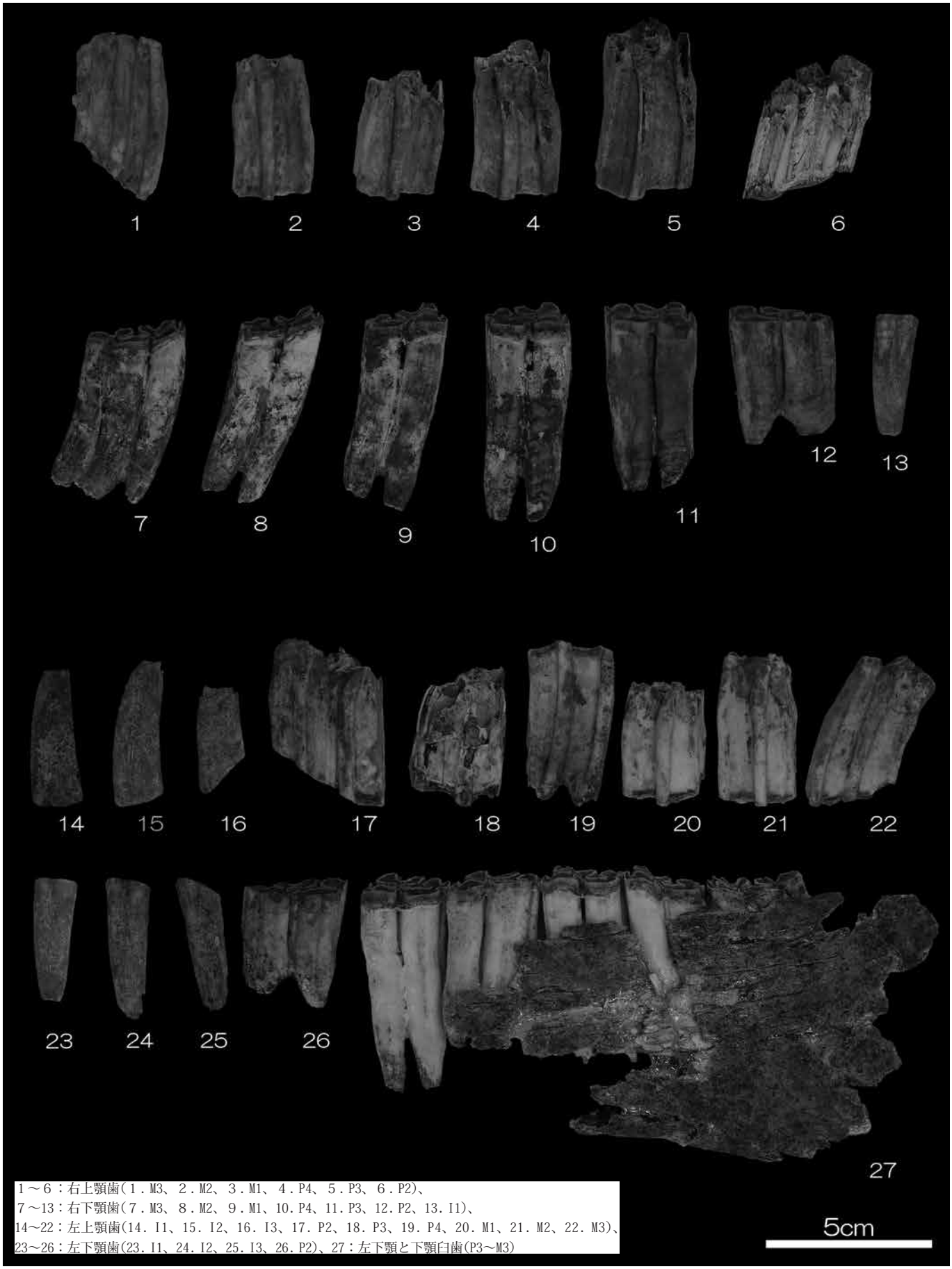
	P2：L	P2：B	P3：L	P3：B	P4：L	P4：B	M1：L	M1：B	M2：L	M2：B	M3：L	M3：B
左上顎	33.5	22.2	26.7	＊	24.5	25.6	22.4	24.8	22.7	23.9	24.7	21.9
右上顎	＊	＊	26.6	25.9	24.6	25.8	22.5	24.7	22.7	23.9	25.6	21.7
左下顎	30.4	14.1	25.9	15.1	26.1	16.3	24.3	14.2	23.4	12.5	30.5	11.7
右下顎	30.2	14.1	26.5	15.9	25.7	16.6	24.4	13.9	23.8	＊	30.1	11.7

L：歯冠長、B：歯冠幅、＊：歯冠表面剥落のため計測不可

第７表　日本在来馬の歯冠計測値(mm)

	P2	P3	P4	M1	M2	M3
御崎馬 上顎臼歯：L（n=37）	34.02±1.78	27.54±1.49	25.70±1.32	23.66±2.34	24.30±2.35	26.18±2.68
御崎馬 上顎臼歯：B（n=37）	21.82±1.45	25.10±1.24	24.85±1.91	24.70±0.95	23.62±1.35	20.55±1.92
御崎馬 下顎臼歯：L（n=37）	29.83±1.65	26.19±1.37	25.10±2.44	23.84±2.30	24.79±2.05	29.34±3.24
御崎馬 下顎臼歯：B（n=37）	13.71±0.81	14.65±1.13	14.33±1.17	13.61±0.75	13.04±1.04	12.17±1.41
トカラ馬 上顎臼歯：L（n=18）	33.84±1.46	26.88±1.77	24.25±0.96	23.15±1.70	23.38±2.38	24.95±1.46
トカラ馬 上顎臼歯：B（n=18）	22.76±1.14	25.41±2.11	24.36±1.41	23.89±0.98	22.81±1.31	20.24±1.62
トカラ馬 下顎臼歯：L（n=18）	27.56±2.10	26.04±1.26	24.29±2.57	23.91±1.67	24.60±2.00	28.42±2.69
トカラ馬 下顎臼歯：B（n=18）	13.17±1.34	14.26±1.33	13.81±1.15	13.57±1.60	12.35±1.20	11.27±1.28

L：歯冠長、B：歯冠幅、西中川ほか(2015)による



１～６：右上顎歯(１．M3、２．M2、３．M1、４．P4、５．P3、６．P2)、
７～13：右下顎歯(７．M3、８．M2、９．M1、10．P4、11．P3、12．P2、13．I1)、
14～22：左上顎歯(14．I1、15．I2、16．I3、17．P2、18．P3、19．P4、20．M1、21．M2、22．M3)、
23～26：左下顎歯(23．I1、24．I2、25．I3、26．P2)、27：左下顎と下顎臼歯(P3～M3)

図版３　27号溝出土獣骨(ウマ)

第５章　まとめ

第１節　竪穴建物の概要

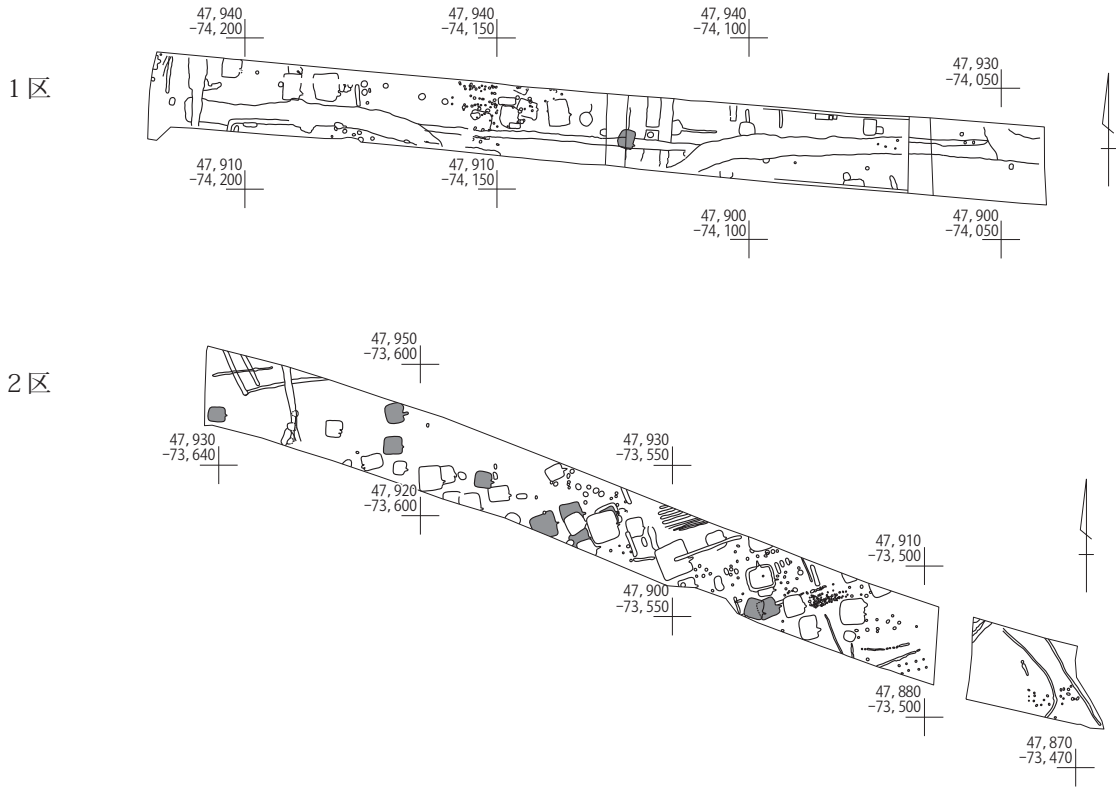
１区で調査した竪穴建物は16棟である。時期は、出土遺物及び遺物の出土状況、重複する遺構との新旧関係などから総合的に判断したが、調査範囲が限られた建物などについては、時期の比定が難しいため、可能性のある期間での表現をした。その結果、時期と棟数は、６世紀後半１棟、７世紀代４棟、古墳時代後半～平安時代初頭１棟、９世紀後半２棟、９世紀～10世紀２棟、10世紀代５棟、時期不明１棟であった。６世紀後半の１棟及び７世紀代の４棟は調査区の中央付近に位置しており、９世紀～10世紀の建物は広い範囲に分布するが、ほとんどが中央から西側の範囲に所在している。１区では重複しているものや、建物の多くが調査区外にあることによって形状を確認できないものが多いが、不整形の建物が目立つ。明らかな方形様の建物は、４号竪穴建物と32号竪穴建物で、いずれも主軸方向に対して横長の長方形である。竈の確認できた建物では、竈は全て東壁に設置しており、ほとんどが東壁の中央より南側に設けられている。出土遺物には、土師器や須恵器と共に、緑釉陶器・灰釉陶器・羽釜・黒色土器も見られる。また、調査区西端付近の10世紀前半の建物２棟から鉄滓や羽口が出土している。

２区で調査した竪穴建物は35棟である。時期は、１区と同様に判断を行った。時期と棟数は、６世紀後半８棟、６世紀末～７世紀初頭１棟、７世紀前半６棟、７世紀後半10棟、古墳時代１棟、７世紀後半～８世紀初頭２棟、８世紀前半５棟、時期不明２棟である。２区では東端部・２区東・２区西を除き、６世紀後半～８世紀前半までの建物が広い範囲に分布している。形状はほとんどが方形様と判断できるもので、正方形に近いものが最も多い。概ね６世紀後半の建物は正方形、７世紀代の建物も正方形に近い形状が多いが、主軸方向に対してはっきりとした縦長のものも２棟見られた。８世紀代の建物は数が少ないが、形状の判別できる４棟のうち２棟は、横長の長方形の形状であった。竈の確認できた建物では、１区同様、東壁の南側に設置している建物がほとんどであるが、51号竪穴建物は北壁に設置した後に東壁に作り替えている。また、７号竪穴建物は西壁の南側に設置しており、希少な例である。出土遺物は主に土師器と須恵器であったが、刀子・鎌・釘などの鉄製品や紡輪・砥石などの石製品が出土した建物が数棟あった。特殊な遺物として挙げられるのは、22号竪穴建物で杯の上に乗った状態で出土した赤色顔料で、同様の赤色顔料が52号竪穴建物から出土した土器片にもわずかに付着していた。その他、埴輪・勾玉の破片も出土している。

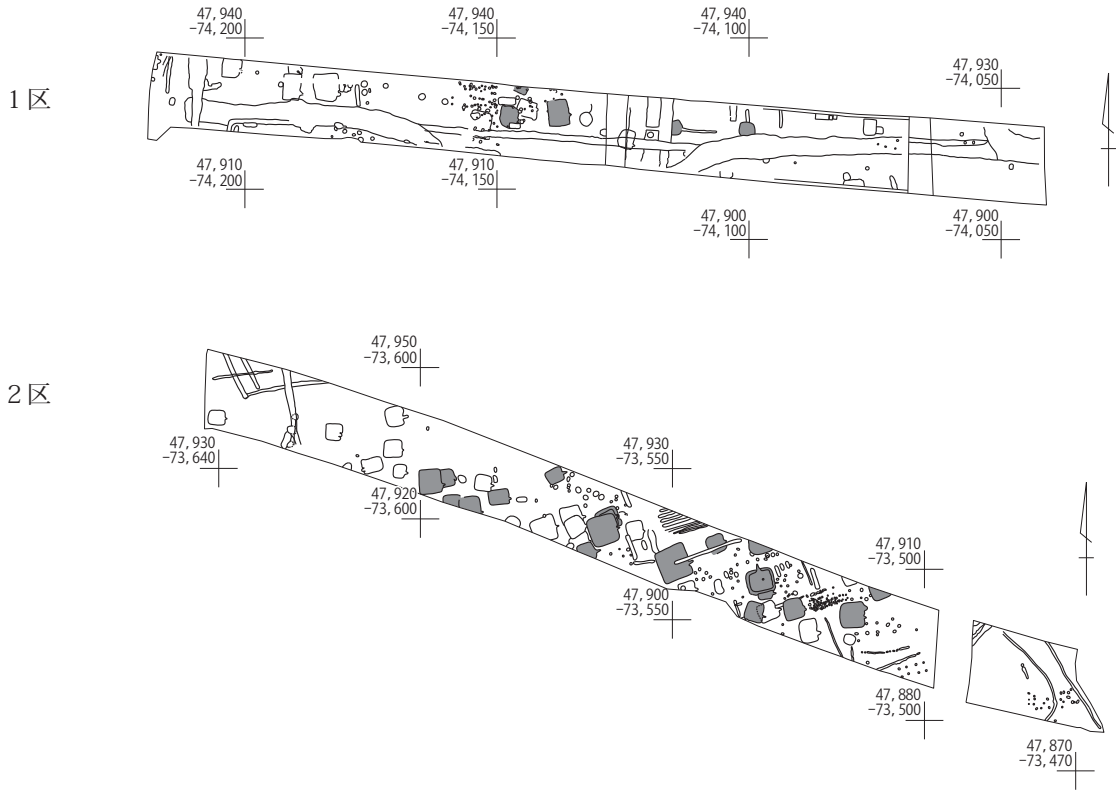
第２節　集落の変遷

本遺跡で確認した竪穴建物の時期は６世紀後半～10世紀後半であるが、１区と２区では、その様相が異なっている。１区では、６世紀後半から７世紀に数棟見られた建物が８世紀の中ごろには全く見られなくなるが、９世紀に再び出現し始め、10世紀に最も多く見られるようになる。２区では、６世紀後半から広い範囲に建物が分布し始め、７世紀台に最多となるが、８世紀になると急激に数が減り、９世紀以降は見られなくなる。つまり、古墳時代後半、２区中央部周辺に集落が栄えていたが、奈良時代から平安時代へと時代が進むにつれ、生活の場は別の場所へ移っていったと考えられる。１区では逆に９世紀から10世紀へと建物の数が増えているが、１区においても７世紀代に複数見られた建物が８世紀中頃には一旦全く見られなくなることを考えると、単純に２区から１区方面へ集落の中心が移っていたとは考えにくい。出土遺物について考えてみると、１区の建物で出土した緑釉陶器・灰釉陶器・羽釜などは、時期の異なる２区の竪穴建物内ではもちろん、他の遺構や遺構外でもほとんど見られなかった。一方、これらの土器は、１区の北西に位置する清里・陣場遺跡で多数出土しており、その関連性について考えさせられるところである。今後の周辺遺跡の調査により解明が進むことを期待したい。

６世紀後半



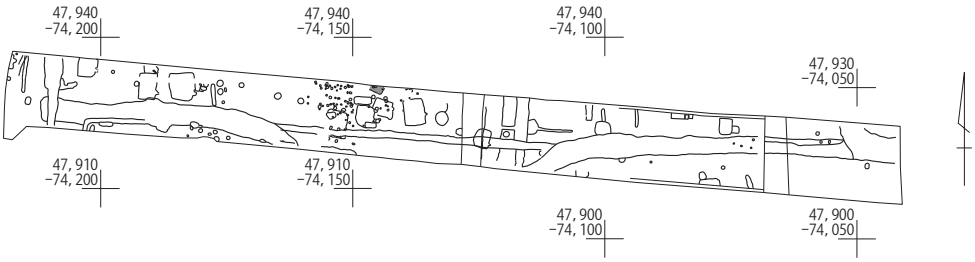
７世紀



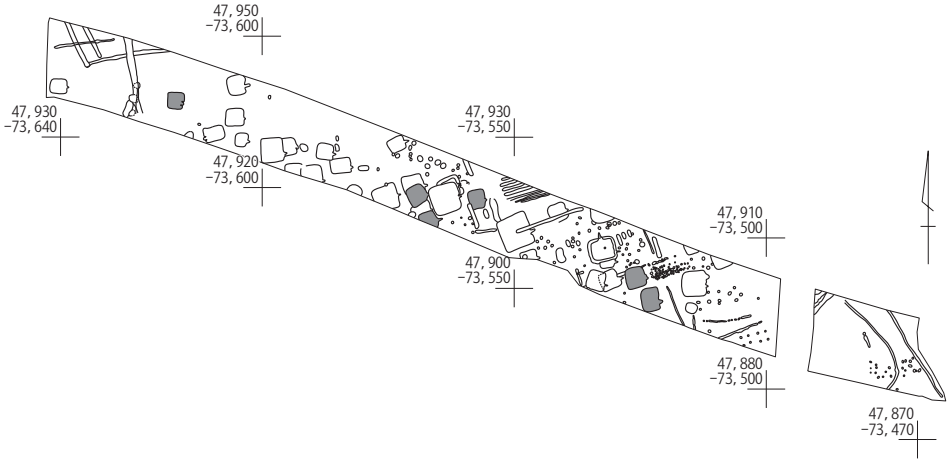
第189図　時期別竪穴建物分布図（１）

８世紀

１区

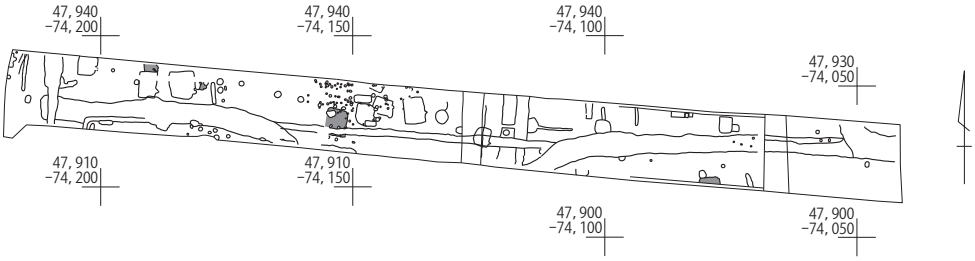


２区

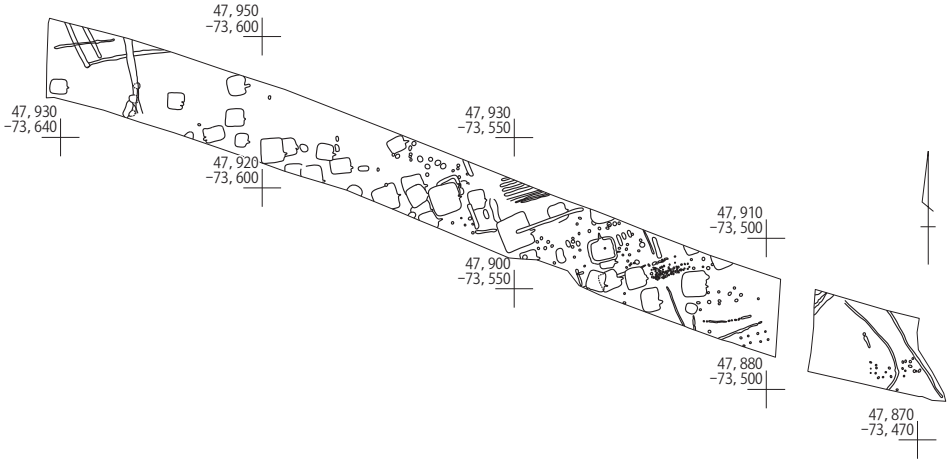


９世紀

１区

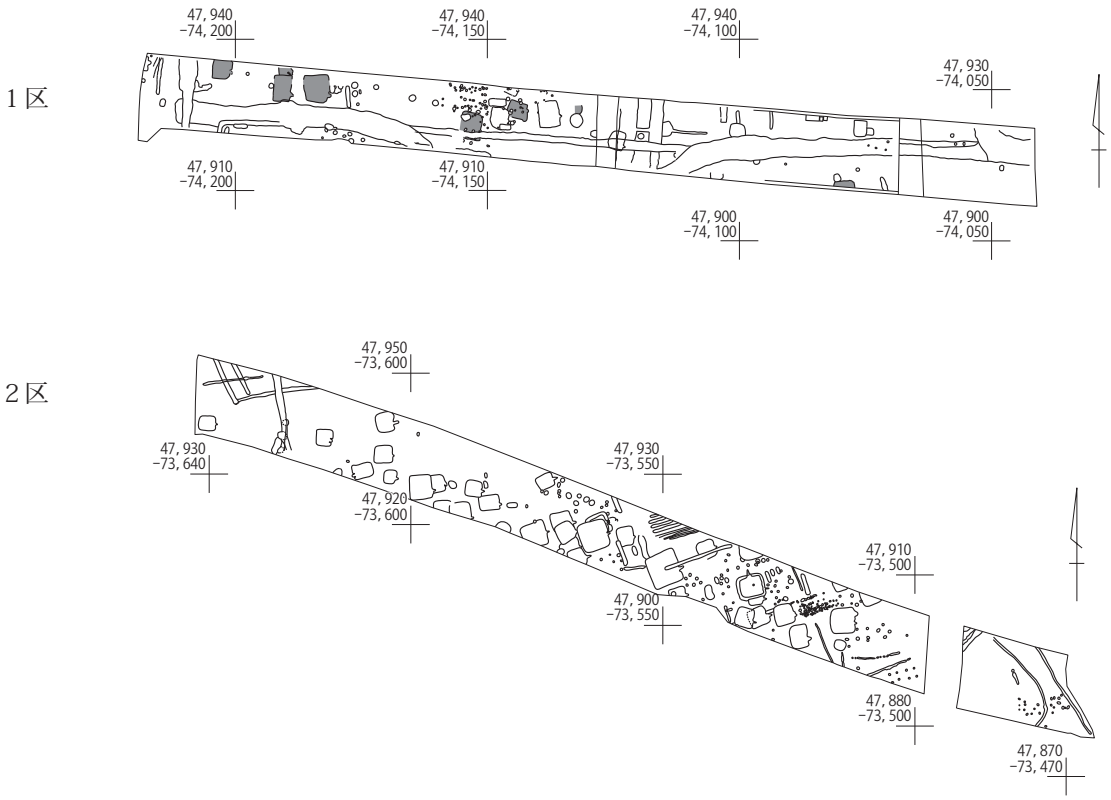


２区



第190図　時期別竪穴建物分布図（２）

10 世紀



第191図　時期別竪穴建物分布図（３）

第８表　遺物観察表

３号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図	1	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	11.1 5.4	高	3.9	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第10図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部~底部片	口 底	10.8 5	高	3.8	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第10図 PL.46	3	須恵器 椀	竈内 完形	口 底	12.8 5.8	台 高	5.6 4.6	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第10図	4	須恵器 椀	竈内 口縁部～体部片	口	13.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第10図	5	須恵器 椀	貯蔵穴直上 口縁部～体部片	口	11.2			細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第10図 PL.46	6	灰釉陶器 皿	床面直上 1/2	口 底	13.2 6.6	台 高	6.0 3.3	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第10図	7	灰釉陶器 皿	埋没土 口縁部～体部片	口	11.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	虎渓山１号窯式期
第10図	8	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	口	14.9			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第10図 PL.46	9	灰釉陶器 椀	埋没土 1/2	口 底	14.8 7.2	台 高	6.8 5.2	微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第10図	10	灰釉陶器 椀	竈内 口縁部片	口	12.2			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第10図	11	須恵器 羽釜	竈内 口縁部～胴部上半片	口 鍔	20.9 24.6			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。内外面に輪積み痕が残る。鍔は貼付。胴部は下位から中位にヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第10図	12	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上半片	口 鍔	21.0 26.6			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。鍔は貼付。	
第10図 PL.46	13	磨石	３号土坑内 完形	長 幅	10.2 10.1	厚 重	3.7 638.8	粗粒輝石安山岩	扁平円礫利用。表裏両面とも磨痕が残りかなり滑らかとなっている。周縁部には敲打痕が残る。かなり重量感のある石材。表面はほぼ全面、裏面は左側縁部に炭素が吸着し黒変している。	黒変
第10図 PL.46	14	敲石	床面上 1/2	長 幅	(11.5) 10.6	厚 重	4.9 722.0	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。重量感のある石材。敲いた衝撃で節理面より欠損したものと考えられる。周縁部には敲打痕が明瞭に残る。表裏両面とも敲打痕と磨痕が残るが、表面の敲打痕は磨りよりも後であることが明瞭。ほぼ全面炭素吸着し黒変。	黒変
第11図 PL.46	15	砥石	竈内 1/2？	長 幅	(16.2) (10.3)	厚 重	8.6 1403.9	粗粒輝石安山岩	表面及び左右側面使用面。裏面はあまり使用されていない。右側面だけは真ん中が縦に盛り上がる。研ぎ面には細い線状痕が残る。上部はやや細くなって欠損しており、全体の形は不明であるが、やや大形の長方形？鉄錆が付着し下部がやや赤みを帯びる。下半部は炭素が付着し黒変あり。	黒変あり
第11図 PL.46	16	砥石	埋没土 破片	長 幅	(8.2) (7.1)	厚 重	4.8 385.9	砥沢石	表面及び左側面使用面。研ぎ面には細い線状痕が残る。裏面には整形の際の幅約２㎝の平鑿状の工具痕が残る。上下両面及び右側面は欠損しており、全体の形は不明であるが、やや大形の長方形切石？	
第11図 PL.46	17	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	(3.6) (3.1)	厚 重	1.8 15.5		先端部の一部が残存する。先端部には溶融鉄が付着し、一部発泡している。	
第11図 PL.46	18	鉄滓	埋没土 完形か	長 辺 短 辺	4.8 3.5	厚 重	2.2 47.5		小型の椀形滓。鉄滓はやや密で炭痕跡は見られない。一部酸化土砂を含む。	
第11図 PL.46	19	鉄滓	５号土坑内 1/2	長 辺 短 辺	10.0 8.5	厚 重	5.2 457.1		中型の椀形滓。底面は酸化土砂が付着し、滓質は密。上面は一部発泡、ガラス化し、木炭痕跡が見られる。	

４号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.46	1	須恵器 椀	床面直上 完形	口 底	10.2 5.8	高	3.5	細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第13図 PL.46	2	須恵器 椀	埋没土 ほぼ完形	口 底	10.3 5.3	高	3.7	細砂粒/酸化焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	内外面の口唇部に油煙が付着。
第13図	3	須恵器 椀	床面直上 2/3	口 底	10.2 6.7	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第13図 PL.46	4	緑釉陶器 皿	床面直上 1/3	口 底	14.0 7.8	台 孔	8.0 2.1	微砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法不明。内面は全面にヘラミガキ、単位などは釉薬によって不明。柚調は濃緑色。	東海産９世紀代

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.46	5	灰釉陶器 皿	埋没土 1/2	口 底	12.6 7.2	台 高	6.6 2.3	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第13図 PL.46	6	灰釉陶器 椀	埋没土 1/4	口 底	15.0 7.4	台 台	7.0 5.0	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第13図 PL.46	7	鉄製品 釘	埋没土 2/3	長 幅	(4.3) 0.8	厚 重	0.5 4.3		端部が欠損している釘。全体が錆に覆われており、詳細不明。頭部が欠損しているとみられる。	
第13図 PL.46	8	鉄滓	埋没土 1/3	長 辺 短 辺	5.5 4.9	厚 重	5.8 127.1		酸化土砂が付着し、やや発泡が多い。一部に木炭痕跡が確認できる。	

５号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図	1	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部片	口	12.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	
第14図	2	灰釉陶器 短頸壺	埋没土 底部～胴部下位片	底	15.0			微砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	

６号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図	1	須恵器 杯	床面直上 1/2	口 底	13.4 7.2	高	4.3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第17図	2	須恵器 椀	竈内 1/3	口 底	10.5 6.2	高	4.2	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第17図	3	須恵器 椀	埋没土 底部～口縁部片	口 底	13.8 5.0	高	4.1	細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第17図 PL.46	4	灰釉陶器 椀	埋没土 ほぼ完形	口 底	13.0 6.2	台 高	6.2 4.2	微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第17図 PL.46	5	灰釉陶器 椀	床面直上 3/4	口 底	15.3 7.6	台 高	7.4 5.3	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期
第17図	6	灰釉陶器 椀	埋没土 底部～体部片	底 台	8.0 8.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面に重焼き痕が残る。施釉方法不明。	光ヶ丘１号窯式期
第17図 PL.46	7	灰釉陶器 輪花椀	埋没土 1/2	口 底	16.0 8.2	台 高	8.0 5.5	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。輪花は５カ所。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第17図	8	灰釉陶器 壺	埋没土 口縁部片	口	14.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は不明。	
第17図	9	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上位片	口 鍔	24.6 30.6			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形か。鍔は貼付。胴部は鍔の手前から下位に向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第17図 PL.46	10	敲石	埋没土 完形	長 幅	13.5 5.8	厚 重	4.1 320.0	粗粒輝石安山岩	細長円礫利用。上下及び左側縁に敲打痕が明瞭に残る。左上の剥離は敲打によるもの。表面と裏面に敲打による凹みあり。表面の凹みは約2cm×約1.5cm×深さ約0.5cm。	
第17図 PL.46	11	砥石	埋没土 1/2？	長 幅	6.8 3.5	厚 重	2.8 48.4	砥沢石	下面に刃均し痕あり。上部は欠損している。ほぼ全面研ぎ面であるが、表面の使用が顕著で抉れ込みが深い。本体が薄くなるまで使い込まれ折れたものと考えられる。断面は左右で厚みが違うが基本的に長方形を呈する。	

８号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18図 PL.46	1	須恵器 杯	床面直上 1/3	口 底	14.0 7.0	高	3.5	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第18図	2	須恵器 杯	床面直上 底部～体部片	底	6.0			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第18図 PL.46	3	鉄製品 刀子	床面直上 2/3	長 幅	(4.9) 1.3	厚 重	0.3 6.2		茎と刀身が残存する。茎の一部が断面三角形になっているが、劣化による変形と見られる。	

23号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	10.7			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図	2	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	13.4 6.1	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第19図 PL.47	3	須恵器 長頸壺	床面直上 口縁部~胴部上位	口 頸	9.4 5.4	胴	17.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部と胴部は頸部にて接合。口縁部下位、胴部上位、胴部最大径の３カ所に１～２条の凹線が巡る。	

24号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図	1	須恵器 甕	床面直上 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	内外面ともヘラナデ、内面にアテ具痕が微かに残る。	

30号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	10.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、口縁部と体部はナデ。	

32号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図 PL.47	1	土師器 杯	竈内 完形	口 最	10.0 10.4	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第25図 PL.47	2	土師器 杯	壁溝内 3/4	口 最	9.6 10.0	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第25図 PL.47	3	土師器 杯	埋没土 2/3	口 最	12.0 12.5	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にナデ部分が僅かに残る。	
第25図	4	土師器 杯	竈内 1/2	口 高	12.8 4.9			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第25図	5	黒色土器 椀	埋没土 1/3	口 底	15.0 7.0	大 高	6.7 4.9	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面は底部から口縁部にかけて花弁状暗文。	
第25図 PL.47	6	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	9.8 5.3	高	3.3	細砂粒・礫/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第25図 PL.47	7	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	10.0 6.8	高	4.4	細砂粒/還元焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	平城宮分類 杯G
第25図	8	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	10.8 8.4			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第25図	9	灰釉陶器 長頸壺か	埋没土 胴部上位片					微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。	
第25図	10	須恵器 壺	竈内 頸部～胴部上半片	頸 胴	12.8 22.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部下半には平行叩き痕が残る。内面胴部は器面剥落のため整形不明。	
第25図 PL.47	11	土師器 甕	焚口 一部欠損	口 底	21.4 4.5	高	35.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第25図 PL.47	12	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部	口	19.2			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

33号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図 PL.47	1	黒色土器 椀	床面直上 底部～体部片	底 台	7.2 7.0			細砂粒/酸化焔/にぶい褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転は右回り。底部切り離し技法不明、高台は不明。内面はヘラミガキ。	
第26図 PL.47	2	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	9.8 5.7	高	3.3	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第26図	3	須恵器 羽釜	床面直上 口縁部～胴部上位片	口 鍔	25.0 27.4			細砂粒/酸化焔/明赤褐	ロクロ整形。鍔は貼付。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

38号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図 PL.47	1	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	10.2 5.4	高	3.6	細砂粒・礫/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第27図	2	須恵器 椀	埋没土 底部～体部片	底 台	8.4 8.0			細砂粒/酸化焔/燻し/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第27図	3	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部～体部片	口	11.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	虎渓山１号窯式期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図 PL.47	4	鉄製品 釘	埋没土 一部欠損	長 幅	4.5 1.1	厚 重	(0.4) 7.2		頭部が欠損する釘。全体に多く錆ぶくれが発生し詳しい形状は不明。	
第27図 PL.47	5	鉄滓	埋没土 1/4	長 辺 短 辺	3.9 3.1	厚 重	2.3 36.2		椀形滓の破片とみられる。滓質は密で酸化土砂が付着し、酸化土砂内に一部小石が混じる。	

40号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.8 10.6	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第29図	2	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	11.1 6.8	高	3.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第29図	3	須恵器 広口壺	埋没土 口縁部片	口	15.7			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第29図	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。胴部下半には平行叩き痕が残り、上半はカキメ。内面は下半に同心円状アテ具痕が残るがほとんどナデ消されている。	
第29図	5	須恵器 甕	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/黄灰	口唇部下に波状文が巡る。	
第29図	6	土製品 紡輪	埋没土 1/4	上径 下径	5.0 3.0	厚 孔	1.6 0.7	細砂粒/良好/黒褐	上面、下面、側面とも丁寧なヘラミガキ、単位不鮮明。	

45号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第30図 PL.47	1	土師器 杯	床面直上 1/2	口 稜	11.6 10.4	高	4.3	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第30図 PL.47	2	土師器 杯	床面直上 1/2	口 稜	12.0 10.6	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。	
第30図 PL.47	3	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	11.0 5.4	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第30図 PL.47	4	須恵器 椀	埋没土 ほぼ完形	口 底	14.9 7.4	台 高	8.8 7.9	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第30図	5	緑釉陶器 椀	床面直上 口縁部片					夾雑物無/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。釉調は濃緑色を呈す。	東海産10世紀代
第30図	6	緑釉陶器 椀	埋没土 口縁部片					夾雑物無/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。釉調は濃緑色を呈す。	東海産10s世紀代
第30図	7	灰釉陶器 皿	埋没土 底部～体部下位片	底 台	8.4 8.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原２号窯式期
第30図	8	灰釉陶器 椀	埋没土 底部	底 台	7.6 7.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。施釉方法不明。	虎渓山１号窯式期
第30図	9	須恵器 壺	床面直上 底部～胴部下位片	底	9.0			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整か。	
第30図	10	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部下位片	口 胴	12.9 15.6			細砂粒/良好/にぶい褐	ロクロ整形､回転は右回りか。内面胴部に輪積み痕が残る。胴部は中位より下にヘラ削り。	
第30図	11	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/黄灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	内面は酸化焔焼成。
第30図 PL.47	12	土製品 羽口	埋没土 破片	長 外形	(7.1) 7.1	厚 重	4.3 126.8		内径2.5㎝。先端に溶融鉄が付着し、やや発泡する。羽口の胎土は砂とすさがわずかに混じる。	

1号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.48	1	鉄製品 釘	埋没土 完形	長 幅	10.7 1.5	厚 重	0.9 33.0		頭部が折り返されている釘。わずかに木質が残存し、木口面に打ち込まれていた可能性がある。脚部先端から1.3㎝で折れ曲がる。	
第33図 PL.48	2	鉄製品 釘	埋没土 一部欠損	長 幅	10.7 1.4	厚 重	0.7 29.5		脚部の一部が欠損している。頭部は折り返された後に錆が付着している。	
第33図 PL.48	3	鉄製品 不明	埋没土 一部	長 幅	3.4 6.8	厚 重	0.5 18.6		両端が欠損している。やや上下が薄くなって刃のようにも見えるが、詳細不明。表面に木質が残存している。	

15号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図	1	灰釉陶器 椀	埋没土 底部～体部片	底 台	7.4 7.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	光ヶ丘１号窯式期

19号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図	1	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部片	口	13.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は外反。施釉方法不明。	光ヶ丘１号窯式期
第34図 PL.48	2	須恵器 杯	埋没土 完形	口 底	7.3 5.4	高	2.4	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第34図 PL.48	3	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	11.2 7.3	高	3.4	細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第34図 PL.48	4	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	11.0 7.3	高	3.2	細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第34図	5	灰釉陶器 椀	埋没土 口縁部～体部片	口 台	14.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛けか。	大原２号窯式期

33号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図	1	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。胴部に閉塞痕残る、頸部は接合、内面頸部には指押さえ痕、胴部にはアテ具痕が残る。	
第35図 PL.48	2	在地系土器 片口	埋没土 口縁部破片	口径 底径		器高		夾雑物少量//暗灰	口縁端部は内面端部で尖り、外側下に肥厚する。口縁部に１か所の注ぎ口が付く。	15世紀前半
第35図 PL.48	3	石製品	埋没土 完形	長 幅	12.6 12.5	厚 重	6.3 1417.7	粗粒輝石安山岩	円礫利用。単品か組み合わせ石造物の一部か不明であるが、下面の状態からすると何かと組み合わせる可能性がある。上面が平坦で光沢を持つが、下面は平鑿状工具痕が明瞭に残る。下面も炭化物が吸着した部分は若干光沢を持つが、基本的にザラザラのままである。下面に一部新しい剥離痕あり。側面も線状工具痕が明瞭に残る。ほぼ全面炭化物が吸着しているが、上面が特に黒い。	ほぼ全面黒変
第35図 PL.48	4	古銭 政和通寶	埋没土 完形	外径 内径	2.457 2.156	厚 重	0.133 2.4		面の彫は深く、背の彫は浅い。輪が削られて細くなっているか。	

50号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第36図 PL.48	1	砥石	埋没土 1/2？	長 幅	(6.9) 3.8	厚 重	2.8 64.1	砥沢石	表面や側面に縦もしくは斜め方向の刃均し痕あり。かなり使い込まれ、細くなっている中央部分から欠損し、上部は失われていると考えられる。下面には整形面も残っているが、ほとんど使用されていない。断面は長方形を呈する。	

１号墓壙遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図 PL.48	1	肥前磁器 染付小碗	埋没土 ほぼ完形	口径 底径	7.1 3.0	器高	3.4	夾雑物なし//白	体部外面に笹を描く。内面は無文。	18世紀～19世紀前半 紅猪口か
第41図 PL.48	2	鉄製品 釘	埋没土 完形	長 幅	7.6 2.1	厚 重	1.2 7.8		頭部は板目に打ち込まれ、体部から脚部にかけて小口方向に打ち込まれている。	
第41図 PL.48	3	古銭 新寛永	埋没土 完形	外径 内径	2.418 1.948	厚 重	1.7 14.3		新寛永２枚と鉄銭１枚、銭種不明が２枚の計５枚が癒着する。そのうち１枚の新寛永は背文。	
第41図 PL.48	4	古銭 新寛永	埋没土 完形	外径 内径	2.266 1.716	厚 重	1.0 3.1		鉄銭の一部破片が癒着する。面の文字は不明瞭、背の彫も浅い。	
第41図 PL.48	5	古銭 新寛永	埋没土 完形	外径 内径	2.310 1.902	厚 重	0.1 1.7		面の彫は深く、背の彫はやや浅い。孔の角が一つ丸くなる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図	6	古銭 古寛永	埋没土 完形	外径 内径	2.452 1.963	厚 重	0.148 3.1		面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。一部鋳不足により欠けるか。	
第41図 PL.48	7	古銭 鉄銭	埋没土 完形	外径 内径	2.774	厚 重	0.601 4.3		全体が錆に厚く、詳細は不明。	
第41図 PL.48	8	古銭 鉄銭	埋没土 完形	外径 内径	2.652	厚 重	0.393 2.3		３片にかけている。全体が錆に厚く覆われており、詳細不明。	
第41図 PL.48	9	古銭 鉄銭	埋没土 完形	外径 内径	2.357 1.921	厚 重	1.181 11.7		鉄銭２枚と銭種不明が２枚癒着。鉄銭側に有機物と布痕跡が残存。	

２号墓壙遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図	1	肥前磁器 染付碗	埋没土 ほぼ完形	口径 底径	9.4 4.0	器高	5.3	夾雑物なし//白	体部外面に雪輪梅樹文。体部下位、高台境、高台に圏線。高台内に不明銘。	18世紀後半
第42図	2	古銭 古寛永	埋没土 完形	外径 内径	2.528 1.905	厚 重	3.48 5.7		２枚が癒着する。もう１枚は劣化しているが、やや小さめになっている。古寛永表面に布痕跡が残存する。	
第42図	3	古銭 鉄銭	埋没土 完形	外径 内径	2.964	厚 重	3.20 5.0		２枚の鉄銭が癒着しており、破片が付着している。錆に覆われて詳細不明。	

３号墓壙遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.48	1	瀬戸・美濃 陶器 小碗	埋没土 完形	口径 底径	7.3 3.1	器高	4.4	夾雑物微量//灰白	内面から体部外面下位まで灰釉。体部外面下位から高台は無釉。灰釉は風化による白濁化が著しい。	18世紀
第42図 PL.48	2	瀬戸・美濃 陶器 小碗	埋没土 完形	口径 底径	7.1 3.2	器高	4.2	夾雑物微量//灰白	内面から体部外面下位と高台の一部まで黄褐色飴釉。体部外面下位から高台は無釉。	18世紀

４号墓壙遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.48	1	古銭 銭種不明	埋没土 完形	外径 内径	2.511 2.044	厚 重	0.07 10.0		３枚が癒着している。１枚は面で文字が確認できるが、鋳詰まりと摩滅で銭種ははっきりとしない。寛永通寶ではないと見られる。	

１号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図	1	灰釉陶器 皿	埋没土 口縁部～体部片	口 底	17.0 6.4			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期

４号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図	1	須恵器 椀	埋没土 底部	底 台	7.2 7.8			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	

２号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図	1	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.8 7.0	高	3.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第46図	2	灰釉陶器 瓶	埋没土 胴部片					微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。外面は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	
第46図	3	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 底部～胴部片	底 台	8.8 9.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部はヘラ削り。施釉方法不明。	大原２号窯式期か
第46図	4	須恵器 甕	埋没土 底部～胴部片	底	12.1			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は左回り。底部回転糸切り無調整。胴部はナデ。	
第46図 PL.49	5	石製品 石臼	埋没土 1/2	径 幅	32.0	高 重	10.7 6100.0	粗粒輝石安山岩	粉引臼の上臼。欠損品。1/2の現存部分に４分画が確認できるので、７分画の可能性がある。分画内は主副溝合わせて４本～６本。摺り合わせ面は凹面であり、もの配りも確認できる。溝幅は広く線はやや曲がる部分もある。側面に柄を差し込んだ一辺約2.5㎝の方形の孔あり。中芯孔は径3.0㎝で貫通せず、底面の中心が少し出っ張っている。もの配りの孔推定径2.5㎝も欠け口に一部残っている。表面は研磨され非常に滑らかで、側面は研磨により整えられているが、棒状の工具痕も残る。所謂東国型。石材は大きさの割に重みがあり、近世に入ってからのもの？と考えられる。	
第46図 PL.49	6	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	(4.0) (3.0)	厚 重	2.1 26.7		先端部分がわずかに残る。先端にはガラス質が付着し、発泡は少ない。	

16号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47図	1	黒色土器 椀	埋没土 底部	底 台	8.0 9.5			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。内面黒色処理。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面は丁寧なヘラミガキ。	

27号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47図 PL.49	1	灰釉陶器 椀	埋没土 底部片	底 台	6.4 6.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	内面底部に墨書。
第47図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	27.0			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

19号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48図 PL.49	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 2/3	口径 底径	(12.1) (7.6)	器高	2.4	夾雑物微量//灰	内外面に灰釉を施し、鉄絵で内面を二本の線で４区画し、中央に植物を描く。高台は低く削り出し、高台内に３か所の重ね焼き痕。	17世紀
第48図 PL.49	2	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土 口縁部～底部 破片	口径 底径	(12.6) (8.0)	器高	2.2	夾雑物少量//灰白	内外面に長石釉、細かな貫入が入る。高台は低く削り出し、１か所の重ね焼き痕。	17世紀
第48図 PL.49	3	肥前磁器 染付碗	埋没土 高台部	底径	(3.6)			夾雑物なし//白	体部外面下位に不明文、体部下位と高台境、高台に圏線。高台内に不明銘。	18世紀～19世紀前半
第48図	4	在地系土器 すり鉢	埋没土 体部破片					夾雑物少量//橙	ロクロ成形、体部内面に５本１単位のクシ目。	15世紀
第48図 PL.49	5	砥石	埋没土 ほぼ完形	長 幅	7.2 2.9	厚 重	2.6 75.6	砥沢石	小形品。下端部及び上右角極一部欠損。上部に斜め十字の刃均し痕あり。表面及び左側面は研面として使用されている。右側面及び裏面に成形の際のやや幅広の線状痕が明瞭に残る。裏面上部の凹みは自然のものであるが、孔開け前の目印の可能性も否定できない。	
第48図 PL.49	6	砥石	埋没土 1/2?	長 幅	(5.6) 2.9	厚 重	2.4 53.2	砥沢石	小形品。下部欠損。横断面形は長方形。上部左寄りに途中で止まった貫通していない径４㎜、深さ４㎜の孔あり。刃均し痕が表面横方向に、側面縦方向に明瞭に残る。	

遺物観察表

1号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	8.0			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第50図	2	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片	底	4.0			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第50図	3	須恵器 椀	埋没土 底部～体部片	底 台	8.0 7.2			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第50図	4	灰釉陶器 広口壺	埋没土 底部片	底 台	20.0 20.0			微砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。胴部はヘラ削り、内面はヘラナデ。施釉方法不明。	10世紀代か
第50図 PL.49	5	龍泉窯系青磁 碗	埋没土 口縁部破片	口径 底径		器高		夾雑物なし//灰白	口縁端部は尖り、体部外面に片彫りの鎬連弁文。内外面に青磁釉。	13-14世紀
第50図 PL.49	6	鉄製品 釘	埋没土 ほぼ完形	長 幅	6.8 1.1	厚 重	0.5 10.2		断面四角形。頭部が錆と劣化によりはっきりとしない。脚部がわずかに欠損しているとみられる。	

3号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	在地系土器 すり鉢	埋没土 口縁部破片	口径 底径		器高		夾雑物少量//橙	口縁端部は内側に尖り、口縁端部外面は窪みが巡る。内面は摩耗している。	14世紀後半

8号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.49	1	須恵器 杯	埋没土 完形	口 底	7.2 5.6	高	2.9	細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後ヘラナデか。	

21号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.49	1	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	10.4 4.8	高	2.8	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第53図	2	須恵器 椀	埋没土 1/3	口 底	12.4 5.2	高	3.8	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/燻し/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第53図 PL.49	3	須恵器 椀	埋没土 1/2	口 底	10.8 6.0	台 高	5.5 4.8	細砂粒・粗砂粒・礫/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第53図	4	須恵器 椀	埋没土 1/2	口 底	10.8 6.0	台 高	5.6 4.6	細砂粒/酸化焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。底部に「○」の刻書。	
第53図	5	灰釉陶器 段皿	埋没土 底部～体部片	底 台	8.2 8.0			微砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原２号窯式期
第53図	6	灰釉陶器 椀	埋没土 底部～体部片	底 台	8.4 8.0			微砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	虎渓山１号窯式期
第53図 PL.49	7	緑釉陶器 椀	埋没土 底部～体部下半片	底 台	5.0 5.0			夾雑物無/還元焔/灰黄	器面内外面ともヘラミガキ、高台内面に段を作る。釉調はにぶい緑色、やや退色している。高台内面に段を作る。	近江産、10世紀代
第53図 PL.49	8	鉄製品 釘	埋没土 一部欠損	長 幅	(4.2) 1.0	厚 重	0.6 4.4		頭部が欠損している。全体が厚く錆に覆われているため、詳細は不明。脚部先端から２cmでくの字に折れる。	
第53図 PL.49	9	鉄滓	埋没土 1/2	長辺 短辺	7.2 5.3	厚 重	2.5 128.3		椀形滓。滓質は密。木炭痕跡が下面の一部に見られる。一部酸化土砂に小石が混じる。	
第53図 PL.49	10	鉄滓	埋没土 1/2	長辺 短辺	9.2 6.5	厚 重	2.3 122.5		椀形滓。酸化土砂が付着している。滓質は密で木炭痕跡はみられない。	

22号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第53図	2	須恵器 椀	埋没土 2/3	口 底	10.0 5.0	高	3.6	細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第53図	3	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部片	頸	8.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。頸部はカキメ、中位に凹線を２条巡らす。	

1区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第55図	1	須恵器 皿	表土下 2/3	口 底	12.6 6.2	高	3.1	細砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第55図	2	須恵器 杯蓋	表土下 1/4	口 摘	19.0 6.0	高	3.2	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面はカエリが作られている。	
第55図	3	須恵器 杯	表土下 2/3	口 底	14.0 7.0	高	3.8	細砂粒/細砂粒/燻し/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り、無調整。	
第55図 PL.49	4	須恵器 椀	表土下 完形	口 底	10.5 5.8	台 高	5.6 4.6	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位は回転ヘラ削り。	
第55図	5	灰釉陶器 椀	表土下 1/2	口 底	15.6 8.0	台 高	8.0 5.3	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原２号窯式期
第55図	6	灰釉陶器 椀	表土下 底部片	底 台	7.8 7.4			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原２号窯式期
第55図	7	龍泉窯系青磁 碗	表土 体部破片	口 径 底 径		器 高		夾雑物なし//灰	体部外面にクシ目状の沈線が入り、内面に沈線。	13-14世紀
第55図 PL.49	8	瀬戸・美濃陶器 卸皿	表土 底部破片	口 径 底 径	7.0	器 高		夾雑物微量//灰白	底部内面にヘラの様な工具で卸目を施す。底部は回転糸切か。内外面に灰釉。	14世紀
第55図 PL.49	9	瀬戸・美濃陶器 碗	表土 体部～高台部	口 径 底 径	(5.4)	器 高		夾雑物微量//灰白	底部内面と体部外面下位に黒褐色飴釉、体部下位から高台は錆釉を薄く施す。	18世紀
第55図 PL.49	10	瀬戸・美濃陶器 二次加工品	表土下 高台部	口 径 底 径	6.1	器 高		夾雑物微量//灰白	底部内面は銅緑釉を施し、蛇目の釉剥ぎ。高台脇と高台の一部を細かく打ち砕き、円盤状に加工。	江戸時代 碗
第55図 PL.49	11	瀬戸・美濃陶器 二次加工品	表土下 高台部	口 径 底 径	5.1	器 高		夾雑物微量//灰白	底部内面と高台端部を除く体部外面から高台は褐色飴釉を施し、高台脇と高台の一部を粗く打ち砕き、円盤状に加工。	江戸時代 碗
第55図 PL.49	12	在地系土器 すり鉢	表土下 口縁部～体部	口 径 底 径		器 高		夾雑物少量//灰	口縁端部は内側に尖り肥厚する。体部内面は摩耗する。	15世紀前半
第55図	13	常滑陶器 片口鉢	58竪建 口縁部破片	口 径 底 径		器 高		白色片を含む//赤褐	口縁端部は平坦をなし、内側に窪んで注口が付く。体部外面はヘラで削る。内面は摩耗する。	14世紀
第56図 PL.49	14	凹石	58竪建 完形	長 幅	23.7 19.5	厚 重	8.2 4151.0	粗粒輝石安山岩	楕円形礫利用。表裏両面とも磨面で敲打痕が残る。周縁部は敲打痕が巡る。表面中央に7.0cm×7.0cm×深さ1.7cmの凹みあり。一部炭化物付着し黒変。	一部黒変
第56図 PL.50	15	砥石	表土下 完形	長 幅	12.0 5.0	厚 重	4.6 404.1	砥沢石	頭部が尖る。横断面形は方形。表面は使い込まれ滑らか、裏面は多少線状痕は残るが、あまり使用されていない。下面左半はよく使い込まれているが、右半はあまり使用されていない。	
第56図 PL.50	16	鉄製品 刀子	表土下 一部欠損	長 幅	(10.7) 1.7	厚 重	0.9 23.2		全体が厚く錆に覆われている。断面形状、Ｘ線透過撮影写真より、刀子と判断できた。関もＸ線透過撮影写真により確認できた。	
第56図 PL.50	17	鉄製品 不明	確認面 一部欠損	長 幅	(8.8) 3.4	厚 重	0.6 18.6		Ｕ字状に曲げられている棒状金属製品。劣化が激しく、表面が剥離しているが、断面形状が丸く近代遺物の混入の可能性もある。	
第56図 PL.50	18	鉄製品 つる	埋没土 一部	長 幅	(14.9) 1.0	厚 重	0.6 68.9		全体が劣化し詳細不明、断面形状より鍋のつるとみられる。	
第56図 PL.50	19	鉄製品 鍋片	トレンチ 破片	長 幅	(13.6) (9.9)	厚 重	0.8 175.0		鍋の底部となるか。足、湯口などの痕跡は見られない。	

9号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図 PL.50	1	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	10.4 3.5			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.50	2	土師器 杯	竈内 3/4	口 稜	10.8 10.8	高	2.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.50	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	10.2 2.9			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	4	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	12.8 3.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図	5	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	10.8 3.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	6	土師器 杯	埋没土 1/4	口	9.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部	口	10.1			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	8	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	14.6			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	9	土師器 杯	埋没土 口縁部~体部片	口	11.0			細砂粒/良好/灰黄	内面黒色処理か。口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部から口縁部に放射状暗文。	
第61図 PL.50	10	土師器 高杯	床面直上 1/2	口 脚	15.3 6.0	高	8.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	脚部は貼付。杯部は口唇部は横ナデ、口縁部、体部から底部、脚部上半はヘラ削り。	
第61図 PL.50	11	土師器 有孔鉢	埋没土 底部片					細砂粒/良好/橙	外面はヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。残存部分には径0.3～0.4㎜の小孔が穿孔されている。	
第61図	12	須恵器 杯	埋没土 底部～体部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第61図	13	須恵器 長頸壺	埋没土 口縁部片	口	5.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部に凹線が巡る。	
第61図	14	須恵器 壺	埋没土 底部片	底	6.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第61図	15	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上半片	口	23.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第61図	16	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上半片	口	18.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第62図 PL.50	17	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部	口	21.0			細砂粒・粗砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第62図 PL.50	18	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部	口	22.8			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第62図	19	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	外面は平行叩き痕を部分的に下記面が消す、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第62図	20	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰白	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

10号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第64図 PL.51	1	土師器 杯	貯蔵穴直上 ほぼ完形	口 高	13.0 4.7			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第64図	2	土師器 杯	埋没土 口～底1/3	口	11.8			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第64図 PL.51	3	須恵器 高盤	床面上 盤身1/3	口 稜	21.6 19.4			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部から稜は回転ヘラ削り。局部貼付痕が微かに残る。	
第64図 PL.51	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片	頸 胴	14.8 21.4			細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。胴部中位は回転ヘラ削り、下位は平行叩き痕が残る。内面は胴部下位にアテ具痕が微かに残る。	
第65図	5	須恵器 壺	埋没土 胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面にはカキメ。	
第65図	6	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	8.0			細砂粒/良好/灰白	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。	ロクロ土師器
第65図 PL.51	7	土師器 甕	床面直上 ほぼ完形	口 底	21.5 5.0	高	33.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第65図 PL.51	8	鉄製品 刀子	埋没土 破片	長 幅	(4.1) 0.6	厚 重	0.3 3.2		茎部分が残存し、木質が確認できる。目釘痕跡も見られる。関は明瞭でない。	

11号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第67図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	11.2 9.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。	
第67図 PL.51	2	土師器 小型壺	床面直上 1/2	口 稜	10.4 10.6	胴 高	12.4 10.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第67図	3	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。頸部に凹線が２条巡る。	
第67図	4	須恵器 壺	埋没土 底部～胴部下位片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部から胴部下位は回転ヘラ削り。	

12号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL.51	1	土師器 杯	貯蔵穴直上 ほぼ完形	口 高	13.0 4.5			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第70図	2	土師器 台付鉢	埋没土 口縁部～脚上位片	口 底	11.6 5.0			細砂粒/良好/にぶい褐	脚部は貼付。鉢部は口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、脚部はヘラナデ。内面は鉢部の底部から体部にヘラナデ。	
第70図	3	須恵器 鉢か？	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第70図	4	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部片	口	12.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下は手持ちヘラ削り。	
第70図	5	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上位片	口	22.2			細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第70図 PL.51	6	砥石(石権？)	埋没土 破片	長 幅	(3.2) (2.3)	厚 重	(1.7) 15.1	砥沢石	全面よく研磨され、整形されている。下部が欠損。全体の形が不明なので下げ砥としたが、石権(錘)の鈕(摘まみ)の可能性も否定できない。下側が真っ直ぐに伸びれば砥石、途中で外側に膨らめば権になるかもしれない。石権であれば、重さも重要であるが、完形でないと断定できない。孔の入口６㎜、貫通部分４㎜。	

14号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第74図 PL.51	1	土師器 杯(身模倣)	床面直上 3/4	口 稜	11.3 12.5	高	4.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第74図 PL.51	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口 稜	11.2 10.2	高	3.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第74図 PL.51	3	土師器 杯	床面直上 1/2	口 稜	12.4 11.7	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第74図 PL.51	4	土師器 小型壺	床面直上 5/6	口 稜	8.6 9.8	胴 高	10.0 7.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下の胴部から底部は手持ちヘラ削り。	
第74図 PL.51	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部片	口 胴	16.4 21.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第74図	6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	15.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第74図 PL.51	7	鉄製品 鎌	床面直上 一部	長 幅	(9.6) 2.9	厚 重	0.4 20.1		柄の装着部の耳が鎌の背とほぼ垂直に折り曲げられている。有機質の付着が見られる。	

15号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図 PL.52	1	土師器 杯	掘方 2/3	口 稜	10.3 9.5	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第76図	2	土師器 杯	壁溝内 1/2	口 稜	10.8 10.3	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第76図 PL.52	3	土師器 鉢	床面直上 1/3	口 稜	15.0 14.8	最 高	15.0 10.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第76図 PL.52	4	須恵器 杯蓋	床面直上 ほぼ完形	口 高	13.8 4.6			細砂粒・粗砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。器壁が極端に厚いことから杯身の可能性もある。	
第76図 PL.52	5	土師器 小型壺	埋没土 1/3	口 稜	10.5 11.6	胴 高	12.3 8.4	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部は横ナデ、稜下の胴部から底部は手持ちヘラ削り。	
第76図	6	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	13.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	0
第76図	7	土師器 小型甕	床面直上 底部片	底	5.0			細砂粒/良好/にぶい褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第76図 PL.52	8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	19.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第76図 PL.52	9	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上半片	口 胴	19.4 25.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第76図 PL.52	10	土師器 甕	床面直上 胴部下半片					細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第76図	11	土師器 甕	床面直上 底部～胴部下位片	底	4.0			細砂粒多/良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図	12	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

16号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.52	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口 稜	13.0 10.8	高	4.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	2	土師器 杯	床面直上 1/3	口 稜	12.8 11.2	高	5.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	3	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	13.8 12.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	4	土師器 杯	床面直上 1/3	口 稜	14.3 12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図 PL.52	5	土師器 杯	床面上 1/3	口 稜	12.0 13.4			細砂粒/良好/燻/灰黄褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内外面とも燻し焼成。須恵器蓋杯の身模倣。	
第78図	6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	20.4			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ､胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデか、器面摩滅のため不鮮明。	
第79図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	19.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第79図	8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	21.2			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第79図 PL.52	9	紡輪	壁溝内 完形	径 幅	4.1	厚 重	2.2 50.0	蛇紋岩	やや白っぽい柔らかい石材。かなり全面光沢を持つ。上下両面は特に強い。側面に1.0～0.8㎝間隔でやや太めの明瞭な線が入る。下面頂部には風車状に線状痕が斜めに施される。孔径1.0㎝。孔は上から下まで綺麗に通っているので管錐を用いた片側穿孔と考えられる。	

17号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図 PL.52	1	土師器 杯(身模倣)	床面直上 ほぼ完形	口 稜	10.9 12.0	高	4.6	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第82図 PL.52	2	土師器 杯	竈内 1/2	口 稜	11.2 10.4	高	4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第82図 PL.52	3	土師器 有孔鉢	貯蔵穴直上 ほぼ完形	口 底	16.2 5.5	高	16.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラナデ。底部に径５㎜前後の小孔が６カ所あけられている。	
第82図 PL.53	4	土師器 小型壺	貯蔵穴直上 2/3	口 稜	11.6 12.7	胴 高	13.1 9.8	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下の胴部から底部は手持ちヘラ削り。	
第82図 PL.53	5	土師器 壺	床面直上 底部～胴部片	底 胴	8.0 30.4			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄	底部はヘラ削り、胴部は下位が縦方向、中位から上位は横方向のヘラミガキ。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第82図 PL.53	6	土師器 小型甕	貯蔵穴直上 口縁部～胴部上半片	口	13.2			細砂粒/良好/灰黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第82図 PL.53	7	土師器 小型甕	貯蔵穴直上 底部～頸部	頸 胴	15.0 18.5	底	5.6	細砂粒/良好/にぶい褐	頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部上半は器面摩滅のため単位不鮮明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第82図 PL.53	8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位	口	19.8			細砂粒・粗砂粒・礫/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第82図	9	土師器 甕	床面上 口縁部～胴部上位片	口	19.6			細砂粒・粗砂粒/旅行/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第82図	10	須恵器 甕	埋没土 底部～胴部下位片					細砂粒/還元焔/灰黄	外面の叩き痕はナデ消されているが、内面はアテ具痕が残る。	

18号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.53	1	土師器 杯	埋没土 2/3	口 高	10.8 3.7			細砂粒・粗砂粒・礫/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第85図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	11.4 9.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第85図 PL.53	3	須恵器 杯蓋	床面直上 2/3	口 高	11.4 3.0			細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	21.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第85図 PL.53	5	土師器 甕	床面直上 底部～胴部上位	底	4.7			細砂粒/良好/明赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第85図 PL.53	6	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位	底	5.5			細砂粒/良好/にぶい褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第85図	7	須恵器 壺	床面直上 胴部上位片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。外面はカキメ。	
第85図	8	鉄製品 釘	床面直上 2/3	長 幅	(5.9) 0.7	厚 重	0.4 3.7		頭部が欠損する釘。全体に劣化が見られ、剥離している。劣化でわかりづらいがやや小ぶりの釘か。	

20号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.54	1	土師器 杯	床面直上 一部欠損	口 稜	11.7 10.6	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段を設ける。	
第87図 PL.54	2	土師器 杯	床面上 3/4	口 稜	11.8 10.0	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第87図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.8 11.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第87図 PL.54	4	土師器 小型壺	床面直上 1/3	口 稜	10.4 12.0	胴 高	12.2 10.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、胴部は器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第87図 PL.54	5	土師器 小型壺	床面直上 口縁部～胴部 上位	口 稜	10.6 12.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第87図 PL.54	6	土師器 小型甕	竈内 2/3	口 底	17.5 5.2	高	17.2	細砂粒・粗砂粒・ 礫/良好/黒褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第87図 PL.54	7	土師器 甕	床面直上 底部～胴部下半	底	4.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰オリーブ	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第87図	8	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/良好/灰	外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第87図 PL.54	9	勾玉	埋没土 4/5	長 幅	(3.2) (1.7)	厚 重	0.9 5.4	滑石	剥片素材？かなり白っぽく軟質な石材。表面側がやや盛り上がる。形は綺麗なC字形。身幅に対して孔の径が8.5㎜と大きく割れたものと思われる。孔は両側穿孔。器面は滑らかに加工されている。製作当時はギリギリ欠けていなかった可能性もある。表面右側に新傷痕あり。	

21号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第89図 PL.54	1	土師器 杯	床面直上 2/3	口 高	11.7 3.3			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第89図	2	土師器 杯	竈内 1/4	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。	
第89図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第89図	4	土師器 盤	床面直上 1/3	口	19.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第89図	5	土師器 盤	竈掘方 口縁部～体部片	口	21.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、口縁部と体部は手持ちヘラ削り。	
第89図 PL.54	6	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	口 カ	11.0 9.2	摘 高	1.4 3.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。天井部は中程すぎまで回転ヘラ削り。	
第89図	7	須恵器 杯蓋	埋没土 1/5	口 カ	11.9 10.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付が剥落。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	平城宮分類 杯G蓋
第89図	8	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口 カ	11.9 10.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付が剥落。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	平城宮分類 杯G蓋
第89図	9	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口 カ	10.0 8.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付が剥落。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	平城宮分類 杯G蓋
第90図	10	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 高	5.8 3.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第90図	11	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	9.0 7.4			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	平城宮分類 杯G
第90図	12	須恵器 平瓶	埋没土 胴部片	胴	21.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下半に手持ちヘラ削り。胴部肩に凹線が巡る。	
第90図	13	須恵器 小型短頸壺	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口 胴	6.0 8.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図	14	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	22.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第90図	15	埴輪 円筒か	竈掘方 破片					細砂粒/良好/橙	胴部はハケメ、凸帯は貼付、凸帯の上下はナデ。	
第90図 PL.54	16	砥石	竈掘方 1/2？	長 幅	(5.3) 3.4	厚 重	2.2 56.4	砥沢石	表面や側面下部に縦方向の刃均し痕あり。かなり使い込まれ、細くなっている中央部分から欠損し、上部は失われたと考えられる。下面には整形面も残っており、欠損していないものと思われる。横断面形は拉げた長方形～菱形に近い。	

22号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第91図 PL.54	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 最	10.9 11.4	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面にベンガラが付着。	
第91図 PL.54	2	土師器 杯	埋没土 2/3	口 高	11.1 3.7			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面底部に煤が付着。	
第91図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

26号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.54	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 稜	12.1 10.6	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第94図 PL.54	2	土師器 杯	床面直上 完形	口 稜	12.8 11.8	高	4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第94図	3	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	12.8 11.2	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第94図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	14.0 13.0			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段を設けている。	
第94図 PL.54	5	土師器 甕	床面直上 2/3	口 高	17.7 (34.0)			細砂粒・粗砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、胴部下半はカマド装着時の粘土付着。内面胴部はヘラナデ。	
第94図 PL.54	6	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	19.3			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第94図	7	土師器 甕	焚口 底部～胴部下位	底	8.0			細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第94図	8	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

27号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口 稜	14.0 12.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下は手持ちヘラ削りか。	
第96図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第96図 PL.55	3	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	口 高	10.4 2.9			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り後ナデ。	
第96図 PL.55	4	砥石	埋没土 4/5	長 幅	(6.6) 2.8	厚 重	2.8 84.7	砥沢石	表面×状に、左側面下半部に縦方向に、裏面は縦及び斜め縦方向に刃均し痕あり。右側面は整形時の単位が明瞭に残り、全体としてはカーブしている。断面長方形。孔径約９㎜、きれいに通っているが、おそらく両側穿孔で、孔開けには管錐を使用したものと思われる。	鉄錆付着

28号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図	1	須恵器 小型壺	埋没土 口縁部～胴部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。器面摩滅のため詳細不明。	
第98図 PL.55	2	土師器 壺	埋没土 1/3	口 頸	9.6 9.2	胴	16.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ､胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデか、器面摩滅のため単位不明。	
第98図	3	須恵器 壺	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口 胴	10.6 15.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部は中位がヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第98図 PL.55	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 上位	口	20.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.55	5	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部 上位片	口	20.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

34号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.55	1	土師器 杯	床面上 完形	口 高	13.2 3.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第100図 PL.55	2	土師器 杯	1の直上 完形	口 高	13.5 4.0			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第100図 PL.55	3	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	12.2 3.6			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第100図	4	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	外面は平行叩き痕が微かに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

35号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第104図 PL.55	1	土師器 杯	竈内 完形	口 稜	12.4 10.8	高	4.5	細砂粒・粗砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第104図 PL.55	2	土師器 杯	埋没土 3/4	口 稜	12.2 11.0	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第104図 PL.55	3	土師器 杯	竈内 2/3	口 稜	10.8 10.6	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第104図	4	土師器 杯	床面上 口縁部～体部片	口	17.0			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ口縁部はナデ、体部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。	
第104図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	15.8			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ口縁部はナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第104図 PL.55	6	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部一部欠損	口 高	11.6 3.4			細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
第104図	7	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	17.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。内面にカエリが作られている。	
第104図	8	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部～胴部片	口	11.2			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位に凹線が巡る。	
第104図	9	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	21.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第104図	10	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口	25.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第104図 PL.55	11	須恵器 甕	埋没土 頸部～胴部上位片	頸	16.0			細砂粒/還元焔/灰	頸部は内外面ともヘラナデ、胴部は外面に平行叩き痕、内面にアテ具痕が残る。	
第104図 PL.55	12	鉄製品 刀子	埋没土 一部	長 幅	(2.15) 1.4	厚 重	0.4 4.1		先端部分のみ残存する。表面の錆で形状が残る程度で詳細不明。	

36号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	9.8 9.8	高	2.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第106図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	18.2			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から体部は手持ちヘラ削り。	
第106図	3	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位片	底	4.4			細砂粒/良好/にぶい橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第106図	4	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位片	底	6.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第106図	5	須恵器 甕	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形。口唇部下に凹線が巡る、口縁部には波状文が巡る。	
第106図	6	須恵器 甕	埋没土 底部～胴部下半片					細砂粒/還元焔/灰白	外面には平行叩き痕、内面には小円形が配置されたアテ具痕が残る。	

37号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第110図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	16.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第110図 PL.55	2	須恵器 杯蓋	竈内 ほぼ完形	口 カ	19.0 16.4	摘 高	7.3 4.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	
第110図 PL.55	3	須恵器 杯	床面上 ほぼ完形	口 底	11.0 7.2	高	3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ起こし後手持ちヘラ削り。	
第110図	4	須恵器 盤	埋没土 口縁部片	口 底	20.6 20.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第110図 PL.110	5	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部中位	口	21.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第111図 PL.56	6	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部中位	口	22.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第111図 PL.55	7	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部下位	口	22.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第111図	8	土師器 甕	焚口 底部～胴部下位	底	4.0			細砂粒/良好/にぶい橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

46号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.56	1	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	10.8 3.5			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第113図 PL.56	2	土師器 杯	床面上 2/3	口 高	12.0 3.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第113図 PL.56	3	土師器 杯	埋没土 2/3	口 稜	11.4 10.9	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第113図 PL.56	4	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	10.6 10.5	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第113図	5	須恵器 高杯	埋没土 脚部～杯底部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は貼付。	
第113図 PL.56	6	土師器 台付甕	埋没土 台部～胴部片	脚	11.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部と台部の接合状態不明。台部上半はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第113図	7	土師器 台付甕	埋没土 台部					細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部と台部は接合。台部はヘラナデ、内面はナデ。	
第113図	8	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	19.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第113図	9	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.8			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部は中位に凹線による区画、凹線下に波状文が巡る。	
第114図 PL.56	10	磨石	床面直上 完形	長 幅	14.1 12.2	厚 重	4.5 1038.9	粗粒輝石安山岩	扁平円礫利用。表面は磨面で中央に敲打痕が集中する部分あり。裏面も磨面であるが、中央部分には光沢を持つ程の滑らかな部分あり。裏面に２条の鉄の刃が当たったことによる線状痕あり。	
第114図 PL.56	11	砥石	床面直上 ほぼ完形	長 幅	11.3 4.2	厚 重	3.3 236.0	砥沢石	表面よりも左右の側面は滑らかで使い込まれている。表裏両面には縦方向及びやや斜め縦方向の刃均し痕あり。下部は一部欠損しているが、砥石として使用できないような剥落ではない。	

47号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.56	1	土師器 杯	埋没土 完形	口 高	14.0 4.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、器面やや剥離のため不鮮明。	
第116図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第116図	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	11.8 3.2			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第116図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第116図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部~体部片	口 稜	18.6 16.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第116図 PL.56	6	須恵器 杯蓋	床面直上 ほぼ完形	口 カ	19.6 15.6	摘 高	6.8 4.1	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	
第116図	7	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	10.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.56	8	須恵器 杯	埋没土 2/3	口 底	12.7 9.6	高	4.1	細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。体部に穿孔があるが、焼成後のどの段階によるものかは不明。	
第116図	9	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.4 8.6	高	3.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部と体部下位は手持ちヘラ削り。	
第116図	10	須恵器 杯	埋没土 底部片	底 台	10.4 9.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第116図 PL.56	11	須恵器 台付杯	床面上 1/3	口 底	16.8 12.0	台 高	11.0 3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第116図	12	須恵器 盤	竈掘方 底部片	底 台	16.6 14.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第116図	13	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	口	14.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第117図 PL.56	14	須恵器 壺	埋没土 口縁部～胴部上半片	口 頸	18.7 15.6	胴	29.1	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/赤褐	口縁部はロクロ整形、胴部は外面に平行叩き痕、内面に無文のアテ具痕が残る。	
第117図	15	須恵器 壺	埋没土 頸部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に断面三角形状に引き出された凸帯が巡る。	
第117図	16	須恵器 壺	埋没土 胴部～底部片	胴	20.6			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は手持ちヘラ削り、胴部下位はヘラナデ。	
第117図	17	須恵器 壺	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面には格子目状叩き痕、内面にはアテ具痕が残る。	
第117図	18	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形､回転は右回りか。口縁部下半に叩き痕が残る。内面は胴部にアテ具痕が残る。	
第117図 PL.56	19	鉄製品 釘	床面直上 ほぼ完形	長 幅	5.0 1.2	厚 重	1.0 8.1		脚部がわずかに欠損する。全体が錆に覆われているが、角釘と見られる。	

48号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	11.5 3.6			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第119図 PL.56	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	11.4 3.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下の一部にナデ部分が残る。	
第119図 PL.56	3	土師器 杯	埋没土 2/3	口 稜	18.0 14.4	高	3.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、稜下はナデ、体部下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第119図 PL.56	4	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	17.8 16.2	高	4.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第119図	5	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	19.5 19.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第120図	6	土師器 杯	床面上 1/4	口 底	16.0 10.4	高	5.3	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部に螺旋状、体部から口縁部に斜放射状暗文。	
第120図	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片					細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面体部に「×」の刻書。	
第120図	8	土師器 杯	埋没土 底部片					細砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。	内面に「×」の刻書。
第120図 PL.56	9	須恵器 杯蓋	埋没土 摘欠損	口 カ	18.6 16.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付が剥落。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第120図 PL.56	10	須恵器 杯蓋	埋没土 3/4	口 摘	17.4 5.1	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。摘は貼付。天井部は摘から1/3ほど回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	
第120図	11	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口 カ	11.6 10.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリが設けられている。	
第120図 PL.56	12	須恵器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 底	12.1 9.3	高	3.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第120図 PL.56	13	須恵器 杯	埋没土 口縁部1/5欠損	口 底	17.4 10.0	高	5.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第120図 PL.56	14	須恵器 高台付杯	埋没土 1/2	口 底	18.8 14.6	台 高	13.2 4.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第120図	15	土師器 小型壺	埋没土 口縁部～胴部片	口	9.9			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第121図 PL.57	16	土師器 甕	焚口 ほぼ完形	口 底	23.4 6.0	高	33.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第120図 PL.57	17	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部	口	19.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部上半は横ナデ、口縁部下半から胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第120図 PL.57	18	土師器 甕	焚口 口縁部～胴部上半	口	22.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第121図 PL.57	19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位	口	15.2			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第121図	20	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下半片	底	4.2			細砂粒/良好/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第121図 PL.57	21	土師器 甕	焚口 胴部下半片	胴	16.6			細砂粒/良好/にぶい褐	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第122図 PL.58	22	土師器 甕	埋没土 胴部一部欠損	口 胴	22.1 28.5	底 高	8.8 33.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第121図 PL.57	23	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位	口	21.8			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第121図 PL.57	24	須恵器 壺	埋没土 頸部～胴部片	頸 胴	19.0 33.0			細砂粒/還元焔/灰白	頸部は内外面ともヘラナデ、胴部は外面の平行叩き痕が微かに残るが、内面の同心円状アテ具痕は残る。	
第122図	25	須恵器 甕	埋没土 胴部下位片					細砂粒/還元焔/灰白	外面の叩き痕はナデ消されているが、内面には同心円状アテ具痕が残る。	

49号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図 PL.58	1	土師器 杯	掘方 3/4	口 高	11.6 3.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第125図 PL.58	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	10.4 10.2	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第125図	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	10.9 10.3	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第125図	4	土師器 杯	竈掘方 口縁部～体部片	口 稜	11.7 10.2			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段、内面口唇部に凹線が巡る。	
第125図	5	土師器 小型壺	埋没土 1/4	口 胴	8.9 10.4	高	7.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第125図	6	土師器 小型壺	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	7.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第125図	7	土師器 甕	竈掘方 口縁部～胴部上位片	口	18.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

50号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第128図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	10.6 9.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第128図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	10.9 10.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第128図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	12.2 9.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第128図 PL.58	4	須恵器 杯蓋	壁溝内 1/2	口 稜	12.7 11.6	高	3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
第128図 PL.58	5	土師器 甕	焚口 底部～胴部下位	底	4.4			細砂粒・粗砂粒(多量の片岩)/良好/にぶい褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第128図	6	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下位片	底	8.0			細砂粒/良好/灰黄褐	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

51号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第132図 PL.58	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	12.8 4.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	2	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	10.2 3.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	3	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 最	9.8 10.3	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	4	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	10.3 3.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	5	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠損	口 高	14.0 5.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第132図 PL.58	6	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	10.4 4.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	7	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	10.6 3.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	8	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	10.4 3.4			細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	9	土師器 杯	埋没土 3/4	口 高	10.3 3.9			細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	10	土師器 杯	床面直上 3/4	口 高	10.0 3.5			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	11	土師器 杯	床面上 2/3	口 高	10.6 3.7			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第132図 PL.58	12	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	10.0 3.4			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第133図	13	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	12.5 4.3			細砂粒/良好/にぶい褐	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第133図	14	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第133図	15	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	16.8			細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第133図 PL.58	16	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半は手持ちヘラ削り。内面に間隔のあいた放射状暗文。	
第133図 PL.58	17	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第133図 PL.58	18	土師器 杯	埋没土 体部片					細砂粒/良好/橙	体部外面は手持ちヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第133図 PL.58	19	土師器 杯	埋没土 底部～体部片					細砂粒/良好/橙	底部から体部外面は手持ちヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第133図 PL.58	20	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.5 10.0	高	4.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第133図 PL.58	21	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	9.8 6.6	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第133図	22	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	10.4 8.4			細砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第133図	23	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	12.0 10.0			細砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第133図	24	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	脚	12.0			細砂粒/酸化焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第133図	25	須恵器 甕か	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。胴部は回転ヘラ削り、中位と上位に凹線が巡る。内面はヘラナデ。	
第133図	26	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部上位稜線側に凹線によって区画、頸部側はカキメ、凹線による２区画に刺突文が巡る。	
第133図	27	須恵器 広口壺	床面直上 頸部～胴部上半片	頸 胴	10.4 20.2			細砂粒・礫/還元焔/灰白	頸部から胴部上位は内外面ともロクロ痕が残る、胴部中位は外面にカキメ、内面はアテグ痕が残る。	
第133図	28	須恵器 広口壺	埋没土 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。内面頸部にヘラナデ。	
第133図	29	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部下に小凸帯が巡る。	
第134図 PL.59	30	土師器 甕	床面直上 2/3	口 底	21.6 4.6	高	36.5	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第133図 PL.58	31	土師器 甕	床面上 口縁部～胴部上半	口	21.6			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第133図	32	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	18.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第133図	33	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	19.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第134図	34	土師器 甕	竈内 底部～胴部下位片	底	4.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第134図	35	須恵器 甕	竈内 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。口唇部は上下に引き出され、口縁部に平行叩き痕が残る。	
第134図 PL.59	36	石製品 臼玉	埋没土 完形	長 幅	1.4 1.4	厚 重	0.9 2.3	滑石	やや大形、厚手。左右で厚みが違う。左側が厚く、右側が薄い。側面部に研磨痕が明瞭に残る。孔の径は３㎜。両側穿孔だが、表面から2/3程凹め、裏面から入れて貫通させている。孔の周りには穿孔時の錐の当たりが認められる。	

52号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第136図 PL.59	1	土師器 杯	埋没土 完形	口 高	10.4 3.5			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第136図 PL.59	2	土師器 杯	埋没土 3/4	口 高	12.4 4.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第136図 PL.59	3	土師器 杯	埋没土 口縁部~体部片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内部にベンガラが付着。	
第136図 PL.59	4	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	10.8 3.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第136図	5	土師器 杯	埋没土 1/2	口 高	11.0 3.7			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内部にベンガラが付着。	
第136図 PL.59	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	13.2 4.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から口縁部に放射状ヘラミガキ、口縁部は器面摩滅のため単位不鮮明。口唇部下に凹線が巡る。	
第136図	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	14.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第136図 PL.59	8	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口	19.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面は体部にヘラナデ。	
第136図	9	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	14.0 11.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第136図	10	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	10.0 7.0	高	3.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第136図	11	須恵器 盤	埋没土 口縁部～底部小片	口 底	21.0 19.8			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。内面は底部にカキメ。	
第136図	12	須恵器 盤	埋没土 口縁部片	口	21.4			細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転は右回り。	
第136図	13	須恵器 盤	埋没土 底部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。内外面にカキメ。	
第136図	14	須恵器 壺	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。口縁部は凹線によって３区画に区分、中位に波状文が巡る。	
第136図	15	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	20.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

53号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第139図 PL.59	1	土師器 杯	床面直上 完形	口 高	10.3 4.3			細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラミガキ、底部と口縁部は器面摩滅のため単位不明。	
第139図 PL.59	2	土師器 杯	竈内 完形	口 稜	12.2 10.8	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図 PL.59	3	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 高	9.6 3.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図 PL.59	4	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 稜	12.1 11.2	高	4.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図 PL.59	5	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 稜	12.3 10.4	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段を設ける。	
第139図 PL.59	6	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	11.8 10.5	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図 PL.59	7	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	12.2 10.0	高	4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図 PL.59	8	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 稜	16.2 16.3	高	7.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第139図	9	土師器 杯	埋没土 3/4	口 稜	12.4 11.2	高	4.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段、内面口唇部に凹線が巡る。	
第140図 PL.59	10	土師器 杯	埋没土 2/3	口 稜	12.8 11.0	高	4.1	細砂粒/良好/燻し/黒褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段を設ける。	
第139図 PL.59	11	土師器 杯	床面直上 2/3	口 稜	12.4 11.3	高	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第140図	12	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	口	17.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。内面にカエリが設けられている。	
第140図	13	土師器 壺	竈内 口縁部～体部片	口	15.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は手持ちヘラ削り。	
第140図	14	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部片	口	10.4			細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、稜下は手持ちヘラ削り。	
第140図	15	須恵器 横瓶	埋没土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。外面はカキメ。内面はロクロ痕の下にアテ具痕が残る。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.59	16	須恵器 広口壺	床面直上 2/3	口 胴	10.0 14.2	高	11.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部から胴部下半は手持ちヘラ削り、胴部上半はカキメ。	
第140図	17	須恵器 壺	埋没土 底部～胴部下半片	底 胴	5.4 11.4			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は手持ちヘラ削り、胴部はカキメ。内面は底部から胴部下位にヘラナデ。	
第140図 PL.59	18	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部	口	22.5			細砂粒・粗砂粒(片岩)/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第140図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	16.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第140図 PL.59	20	鉄製品 鎌	埋没土 2/3	長 幅	(8.2) 3.5	厚 重	0.5 19.6		２片に破損している。背の一部で接合が確認できる。柄の装着部は耳状となる。	

54号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第141図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	12.8 4.2			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第141図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第141図	3	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部片	口	16.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	

55号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第143図 PL.60	1	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 稜	12.8 11.8	高	4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。底部の穿孔はどの段階で生じたか不明。	
第143図	2	土師器 杯	竈内 1/4	口 高	10.0 2.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第143図 PL.60	3	土師器 小型壺	床面直上 底部～頸部	頸 胴	12.0 14.6			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデか、器面摩滅のため単位不明。	
第143図	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位片	口	23.7			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

56号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第145図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	12.4 10.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のためヘラ削りの単位不明。	
第145図	2	土師器 杯	掘方 口縁部～体部片	口	20.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、口縁部と体部は手持ちヘラ削り。	
第145図	3	須恵器 高杯	埋没土 脚部					細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。脚部に三方の透孔。	
第145図	4	須恵器 壺	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰黄	外面はヘラナデ、叩き痕が微かに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第145図	5	須恵器 甕	掘方 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。口唇部下に凹線を巡らし、その下を凸帯状につくる。	

57号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図	1	須恵器 高台付杯	埋没土 口縁部～底部小片	口 底	17.4 14.4	台	12.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。底部は高台より突出する.	
第146図	2	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰黄	外面は雑なヘラナデ、格子目状叩き痕が残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

59号竪穴建物遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図	1	土師器 杯	掘方 1/4	口 稜	12.0 10.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部 小片	口 稜	11.8 11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第148図	3	土師器 杯	掘方 口縁部～体部片	口 稜	11.4 10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第148図	4	土師器 杯	掘方 口縁部～底部片	口 稜	11.8 11.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第148図	5	須恵器 高杯	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。断面は赤褐色を呈す。	
第148図 PL.60	6	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部 中位片	口	18.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第148図 PL.60	7	土師器 甕	竈内 底部～胴部下半	底	5.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	

４号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第149図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.6 11.4	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第149図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.6 10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第149図	3	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

27号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第153図	1	灰釉陶器 椀	埋没土 底部～体部下 位片	底 台	6.6 6.0			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原２号窯式期

42号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第154図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 最	10.5 11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

47号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第155図	1	須恵器 杯	埋没土 底部～体部下 位片	底	8.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	

62号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図 PL.60	1	凹石	埋没土 完形	長 幅	12.2 6.7	厚 重	3.3 374.5	粗粒輝石安山岩	隅丸長方形礫利用。表裏両面とも磨面で中央部に敲打による凹みあり。側面は敲打面で一部磨面。裏面に刃均し痕と考えられる太い線状痕あり。	
第156図 PL.60	2	石製品 石臼未製品	埋没土 一部欠損	径 幅	31.0	厚 重	16.2 20200	粗粒輝石安山岩	上面に凹みがあるので粉引臼の上臼未成品と考えられる。一部欠損したため放棄したものと思われる。上面には2.5㎝程の工具痕の痕跡が明瞭に残る。側面には剥離痕と一部成形のための同様な工具痕が残る。下面は比較的平坦であるが、工具痕が明瞭に残る。石材は大きさの割に重みがあり、近世に入ってからのもの？と考えられる。	

102号土坑遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第160図	1	須恵器 瓶	埋没土 頸部～胴部中 位片	頸 胴	4.4 11.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部から頸部は絞り込みによって成形。	
第160図	2	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部上半片	胴	17.0			細砂粒(多量)/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部上位に成形時の閉塞痕がみられる。外面は中位に凹線が２条巡る。	

40号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第163図 PL.60	1	須恵器 短頸壺	底部 完形	口 胴	9.2 12.9	高	9.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り、胴部下半はヘラナデ。口縁部中位に凹線が巡る。	

208号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第163図 PL.60	1	砥石	埋没土 1/2？	長 幅	(6.4) 2.9	厚 重	2.3 55.8	砥沢石	上部欠損。右側面に幅２㎜×深さ１㎜×長さ2.5㎝の刃均し痕あり。かなり使い込まれており、細くなった部分から割れたものと思われる。断面長方形。	

５号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第164図 PL.60	1	石製品 茶臼	埋没土 1/2弱	摺面径 外径	(15.6) (25.9)	厚 重	10.9 4066.6	粗粒輝石安山岩	茶臼下臼。欠損品。1/2の現存部分に２分画とその両脇に途中の部分が確認できるので、６分画の可能性がある。分画内は主副溝合わせて11本～12本。摺り合わせ面は平坦面である。溝幅は細く線は直線的。中芯孔は径3.5㎝で両側穿孔で貫通、工具痕が残る。表面は研磨され非常に滑らかで、側面は研磨により丁寧に整えられている。摺り合わせ面以外に炭化物付着し黒変部分あり。裏面は研磨で整形されているが、工具痕がよく残る。石材は大きさの割に重みがあり、近世に入ってからのもの？と考えられる。	黒変

７号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第165図 PL.60	1	在地系土器 内耳鍋	埋没土 口縁部～体部					夾雑物少量//赤褐	口縁端部は平坦をなし、内側に尖る。体部外面はヨコナデ、被熱を受け赤橙色に酸化する。口縁部内面に１か所耳が付着。	14世紀後半

８号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第166図 PL.60	1	灰釉陶器 皿	埋没土 底部～体部	底 台	7.2 6.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け賭けか。	大原２号窯式期
第166図	2	須恵器 円盤状	埋没土 完形	径 厚	2.4 0.6			細砂粒/酸化焔/浅黄橙	杯または椀の底部中央付近を加工して二次利用している。	
第166図 PL.60	3	古瀬戸 灰釉瓶子	埋没土 体部破片					夾雑物微量//灰	体部外面上位に二重沈線が巡る。灰釉を施し、細かな貫入が入る。体部内面は粘土紐を粗く指で撫でる。	13世紀

10号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第170図	1	須恵器 杯	埋没土 底部	底 厚	6.0 1.0			細砂粒/還元焔/灰白	口縁部・体部欠損後、底部周囲を打ち欠き、断面を擦り磨いて二次利用している。	

11号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第170図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第170図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口 高	12.2 3.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第170図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.0 10.0	高	4.5	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に放射状のミガキか、器面摩滅のため単位不明。	
第170図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	11.6 10.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部中位に段、内面口唇部に凹線を巡らす。	
第170図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部片	口	20.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第170図 PL.61	6	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部	口 胴	18.4 28.8			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第170図 PL.61	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上半片	口	20.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第170図	8	須恵器 甕	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形。口唇端部は上下に引き出されている。	
第170図 PL.61	9	鉄製品 刀子か	埋没土 一部	長 幅	(5.0) 1.4	厚 重	0.8 7.0		全体が錆に覆われ詳細不明。関は見られず、茎部分の可能性がある。	

36号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	10.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

29号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図	1	龍泉窯系青磁 碗	埋没土 体部破片					夾雑物なし//灰白	体部外面に片彫りの鎬連弁文。内外面に青磁釉。	13-14世紀

40号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.0 11.7	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第173図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口 稜	12.9 11.1			細砂粒/良好/淡黄 橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第173図	3	須恵器 椀	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	

50号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第174図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	11.9 11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第174図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

２号集石遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第177図 PL.61	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 稜	13.0 11.5	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第177図 PL.61	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	13.6 11.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第177図 PL.61	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	12.7 10.2	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第177図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口 稜	13.8 13.6			細砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部上位にヘラナデ。	
第177図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	稜	19.4			細砂粒、石英粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第177図	6	土師器 甕	埋没土 口縁部～頸部片	口	20.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐灰	口縁部から頸部は横ナデ。	
第177図	7	土師器 甕	埋没土 底部片	底	8.5			細砂粒・褐色粒/ 良好/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第177図 PL.61	8	肥前磁器 染付皿	埋没土 1/2	口 径 底 径	(13.6) (8.5)	器 高	3.6	夾雑物なし//白	体部外面に簡略化された唐草文。体部下位と高台境、高台に圏線。高台は蛇目の凹型高台。体部内面に半花と唐草を描く。見込みに二重圏線、中央に圏線と圏線内に遠山、海と船か。	18世紀後半

遺物集中遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第179図 PL.61	1	土師器 杯	3/4	口 高	12.5 3.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第179図 PL.61	2	土師器 杯	3/4	口 高	13.6 4.4			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第179図 PL.61	3	土師器 杯	1/3	口 稜	18.6 16.6	高	4.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第179図 PL.61	4	土師器 杯	1/3	口	15.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りか、器面剥落のため整形不鮮明。	
第179図	5	土師器 杯	1/4	口	14.8			細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第179図	6	須恵器 鉢	口縁部～体部片	口	27.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。内面はヘラナデ。口縁部に焼成時の歪みがみられる。	
第179図 PL.61	7	須恵器 長頸壺蓋	1/3	口	9.8			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部は回転ヘラ削り。天井部中央に摘の痕跡が残る。	
第179図	8	須恵器 杯	1/3	口 底	13.0 8.6	高	3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第179図	9	須恵器 杯	底部～体部片	底	6.8			細砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部回転糸切り無調整。	
第179図 PL.61	10	須恵器 高台付杯	1/3	口 底	16.3 11.4	台 高	10.2 4.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラ削り、高台は削り出し。焼成時の歪みが大きい。	
第179図	11	須恵器 椀	底部～体部下位	底 台	7.4 7.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第179図 PL.61	12	須恵器 短頸壺	口縁部～胴部上位片	頸 胴	11.0 22.0			細砂粒/還元焔/灰	胴部肩部で接合、口縁部から胴部上位はロクロ整形、底部から胴部中位は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残りる。	13と同一個体の可能性がある。
第180図	13	須恵器 壺	底部～胴部片	胴	22.0			細砂粒/還元焔/灰	胴部肩部で接合、胴部上位はロクロ整形、底部から胴部中位は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残りる。	12と同一個体の可能性がある。
第180図	14	須恵器 壺	頸部～胴部上半片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第180図	15	須恵器 壺	頸部～胴部上位片	頸	14.0			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回りか。外面には降灰が厚く付着。	
第180図	16	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	15.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第180図	17	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口	23.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

２区遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第181図 PL.62	1	縄文土器 深鉢	表土 口縁部破片					粗砂、白色粒、繊維/ふつう/にぶい黄橙	波状口縁。Ｃ字状爪形文を口縁に沿って多段に施す。	有尾式
第181図 PL.62	2	縄文土器 深鉢	表土 口縁部破片					粗砂、繊維/ふつう/黄橙	波状口縁。Ｃ字状爪形文を口縁に沿って多段に施す。	有尾式
第181図 PL.62	3	縄文土器 深鉢	20竪建 胴部破片					粗砂、白色粒、繊維/ふつう/黄橙	Ｃ字状爪形文を菱形状に施す。	有尾式
第181図 PL.62	4	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂、赤色粒、繊維/ふつう/にぶい黄橙	Ｃ字状爪形文を菱形状に施す。	有尾式
第181図 PL.62	5	縄文土器 深鉢	14竪建 胴部破片					粗砂、繊維/ふつう/橙	反撚りLLを横位施文する。	黒浜式
第181図 PL.62	6	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂、白色粒、繊維/ふつう/にぶい赤褐	無節Lrを横位施文する。	黒浜式
第181図 PL.62	7	縄文土器 深鉢	20竪建 胴部破片					粗粒、細礫、繊維/ふつう/にぶい橙	RL、LRを横位羽状施文する。	黒浜式
第181図 PL.62	8	縄文土器 深鉢	20竪建 胴部破片					粗砂、繊維/ふつう/にぶい橙	RL、LRを横位羽状施文する。	黒浜式
第181図 PL.62	9	縄文土器 深鉢	４竪建 胴部破片					粗砂/良好/赤褐	３本沈線による肋骨文構成。横位沈線は木葉文となり、木葉文内部にさらに横位沈線を施す。	諸磯a式

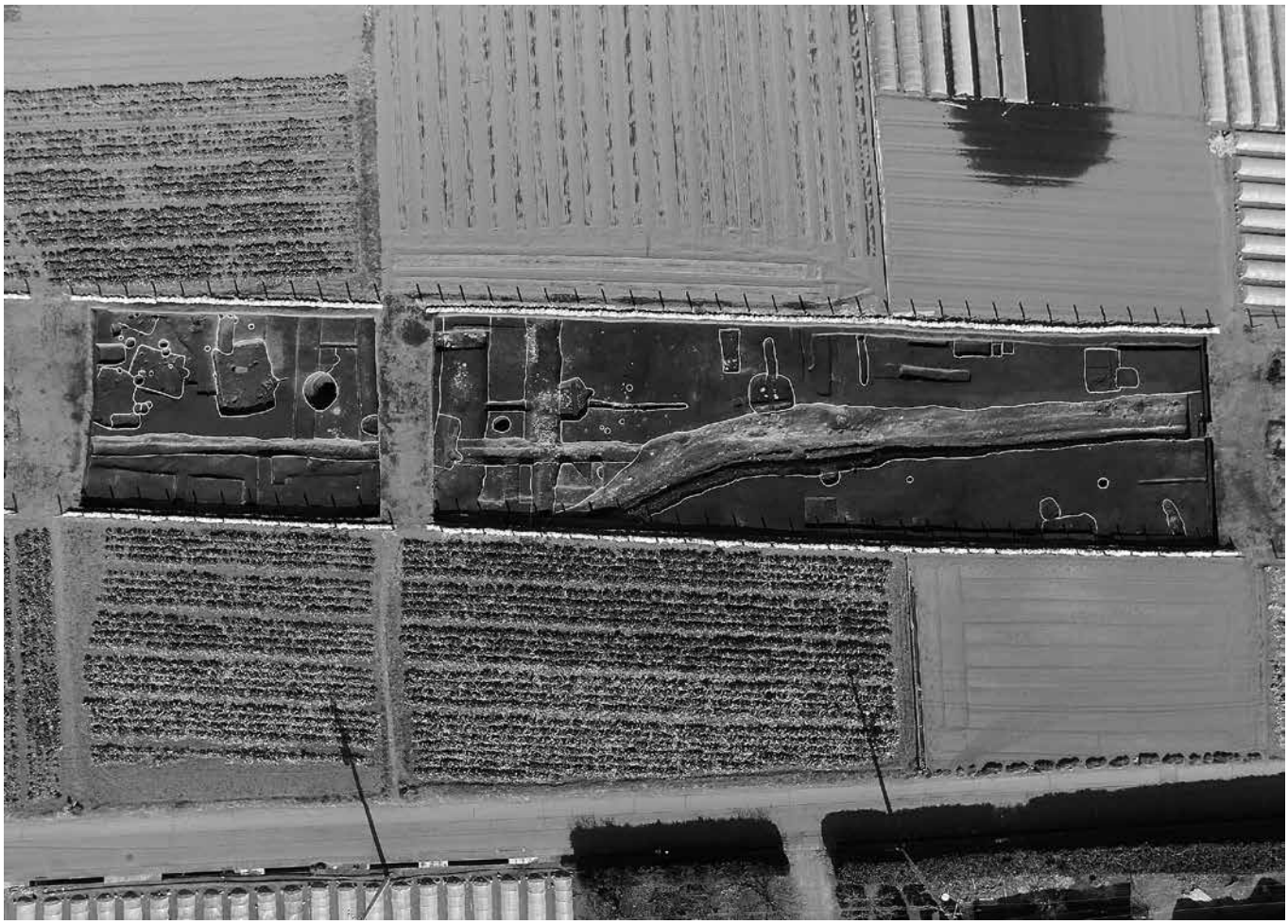
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第181図 PL.62	10	縄文土器 深鉢	48竪建 口縁部破片					細砂/良好/にぶい赤褐	波状口縁で、口縁が緩く外反する。波頂部下から円形刺突列を垂下させる。地文にRL横位施文。波頂部口唇に刻みを付す。	諸磯a式
第181図 PL.62	11	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/良好/橙	RL横位施文を地文とし、円形刺突列を垂下させる。	諸磯a式
第181図 PL.62	12	縄文土器 深鉢	遺物集中 口縁部破片					粗砂、白色粒/良好/橙	口縁が緩く外反。RLを横位施文する。	諸磯a式
第181図 PL.62	13	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/良好/明赤褐	RLを横位施文する。	諸磯a式
第181図 PL.62	14	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/良好/にぶい橙	RLを横位施文する。	諸磯a式
第181図 PL.62	15	縄文土器 深鉢	54土坑 胴部破片					粗砂/良好/橙	RLを横位施文する。	諸磯a式
第181図 PL.62	16	縄文土器 深鉢	表土 底部破片					粗砂/良好/にぶい赤褐	RLを横位施文する。	諸磯a式
第181図 PL.62	17	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/良好/にぶい橙	浮線を横位にめぐらす。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第181図 PL.62	18	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/ふつう/橙	浮線を横位にめぐらす。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第181図 PL.62	19	縄文土器 深鉢	40竪建 胴部破片						No.17と同一個体。	諸磯b式
第181図 PL.62	20	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂/ふつう/橙	胴下位で強く内屈する器形。RLを地文とし、横位浮線をめぐらす。屈曲部上位に素浮線により菱形を横位に連ねたモチーフを作出し、菱形区画内に縦位３条の浮線を貼付する。	諸磯b式
第181図 PL.62	21	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片						No.20と同一個体。	諸磯b式
第181図 PL.62	22	縄文土器 深鉢	表土 口縁部破片					粗砂、輝石/良好/にぶい赤褐	口縁が緩く外反。横位集合沈線を施す。	諸磯b式
第181図 PL.62	23	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂、白色粒/ふつう/灰黄	横位集合沈線を施す。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第181図 PL.62	24	縄文土器 深鉢	２溝 胴部破片					粗砂/良好/明赤褐	横位集合沈線を施す。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第181図 PL.62	25	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂、輝石/良好/赤褐	横位集合沈線を施す。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第181図 PL.62	26	縄文土器 深鉢	東表土 胴部破片					粗砂/良好/にぶい橙	横位集合沈線を施す。	諸磯b式
第181図 PL.62	27	縄文土器 深鉢	45竪建 胴部破片					粗砂/良好/にぶい黄橙	横位集合沈線間の文様帯の部位。集合沈線により菱形状モチーフを描き、中心にワラビ手文を配す。	諸磯b式
第181図 PL.62	28	縄文土器 深鉢	45竪建 胴部破片						No.27と同一個体。	諸磯b式
第181図 PL.62	29	縄文土器 深鉢	16・18竪建 底部破片					粗砂、白色粒、輝石/ふつう/橙	推定底径10.8cm。横位集合沈線を施す。地文にRL横位施文。	諸磯b式
第182図 PL.62	30	縄文土器 深鉢	表土 口縁部破片					細砂/良好/浅黄橙	肥厚口縁。横位平行沈線をめぐらして区画、平行沈線による重層する逆U字状モチーフを横位に連ねる。	中期前半
第182図 PL.62	31	縄文土器 深鉢	表土 胴部破片					粗砂、雲母/良好/にぶい橙	隆線を横位、斜位に施し、２条の三角押文を沿わせる。	阿玉台式
第182図 PL.62	32	縄文土器 深鉢	３竪建 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/ふつう/にぶい橙	隆線による口縁部楕円状区画、沈線による胴部懸垂文を施し、RLを充填施文する。	加曽利Ｅ３式
第182図 PL.62	33	縄文土器 深鉢	東表土 口縁部破片					粗砂、白色粒、輝石/ふつう/にぶい赤褐	口縁が緩く内湾。横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、RLを充填施文する。	加曽利Ｅ４式
第182図 PL.62	34	縄文土器 深鉢	２溝 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/ふつう/黒褐	隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、沈線による懸垂文を施し、LRを縦位充填施文する。	加曽利Ｅ４式
第182図 PL.62	35	縄文土器 深鉢	28竪建 口縁部破片					粗砂、赤色粒、繊維/ふつう/にぶい橙	波状口縁。LRを施す。	中期後葉
第182図 PL.62	36	弥生土器 甕	15溝 口縁部破片					粗砂、石英、輝石/良好/橙	横位波状文を多段にめぐらす。内面研磨。	樽式
第182図 PL.62	37	弥生土器 壺	遺物集中 口縁部破片					細砂/良好/橙	複合口縁。肥厚部に縦位沈線を充填させ、中央を切るように横位沈線をめぐらす。	樽式
第182図 PL.62	38	弥生土器 壺	表土 頸部破片					細砂/良好/にぶい橙	簾状文をめぐらす。	樽式
第182図 PL.62	39	弥生土器 壺	27溝 胴部破片					粗砂、白色粒、輝石/良好/明赤褐	横位波状文をめぐらす。波状文下は赤色塗彩。	樽式
第182図	40	須恵器 杯身	表土下 口縁部～体部片	口蓋受	11.0 11.8			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
第182図 PL.62	41	土師器 杯	表土 1/3	口稜	12.0 10.2	高	4.1	細砂粒/良好/燻し/褐灰	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。口縁部下にも稜を設ける。内面口唇部は内傾する平坦面をつくり凹線を巡らす。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図	42	土師器 杯	表土下 1/3	口 稜	11.8 10.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、稜下から底部は手持ちヘラ削り。	
第182図	43	土師器 杯	表土下 1/4	口 高	9.8 3.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第182図	44	須恵器 杯蓋	西表土下 1/3	口 カ	19.2 16.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、天井部の周縁部にヘラがあたった痕跡が残る。	
第182図	45	須恵器 杯	西トレンチ 底部片	底	8.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちヘラ削り。底部と体部の間に２条の凹線が巡る。	
第182図	46	須恵器 高台付杯	表土 底部片	底 台	11.0 9.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。底部は高台より突出する。	
第182図 PL.62	47	黒色土器 椀	表土下 底部片	底	7.2			細砂粒/酸化焔/にぶい黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。底部はヘラ削り。	内面に漆が残る。
第182図	48	須恵器 鉢	西トレンチ 口縁部～体部片	口	25.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部中位は回転ヘラ削り。	
第182図	49	須恵器 平瓶	表土 胴部天井片					細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回りか。内面に成形時の閉塞痕がみられる。外面はカキメ、ボタン状の粘土板が貼付されている。	
第182図	50	須恵器 無頸壺	表土 口縁部片	口 最	29.0 30.8			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部下に凸帯を巡らせ、その下はカキメ。	
第182図	51	須恵器 短頸壺	表土下 口縁部～胴部片	口 胴	11.0 14.0			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は回転ヘラ削り。	
第182図	52	須恵器 壺	表土 口縁部～胴部 上位片	口	15.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部はカキメ、外面には平行叩き痕、内面にはアテ具痕がかすかに残る。	
第182図	53	須恵器 甕	表土下 口縁部片	口	18.9			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転は右回りか。口唇部下に小凸帯が設けられている。	
第183図	54	龍泉窯系青磁 碗か	25竪建 高台部破片	底 径	(6.0)			夾雑物微量//灰白	高台端部と高台内を除き内外面に青磁釉。高台端部はシャープに削り出す。	13-14世紀
第183図 PL.62	55	瀬戸・美濃陶器 蓋	表土下 口縁部破片	直 径 底 径	(9.0) (8.0)			夾雑物微量//灰	口縁部端部はやや尖る。表面に灰釉、裏面は無釉。	江戸時代か
第183図 PL.62	56	龍泉窯系青磁 香炉	表土 口縁部破片					夾雑物微量//灰白	口縁端部は内側に傾き、内外に肥厚する。外面から口縁部内面に青磁釉、体部内面は無釉。	13-14世紀
第183図 PL.62	57	土製品 碁石	表土 完形	直 径	2.2			夾雑物微量//橙	表裏面に筋状の隆起がみられる、型抜き製品か。	年代不詳
第183図 PL.62	58	臼玉	表土 完形	長 幅	1.5 1.5	厚 重	0.7 2.7	滑石	やや大形。白っぽい石材。左右で厚みが違う。やや光沢を持つ。表裏両面の研磨痕は弱い。左側が厚く、右側が薄い。側面部に刀子による削り痕及び研磨痕が明瞭に残る。両側穿孔。孔の径は３㎜。孔の周りには穿孔時の道具の当たりは無い。	
第183図 PL.62	59	鉄製品 鍋片	西表土 破片	長 高	6.5 5.1	厚 重	0.2 109.8		鍋の底部から体部の一部が残存する。残存部分には足などの痕跡は見られない。	

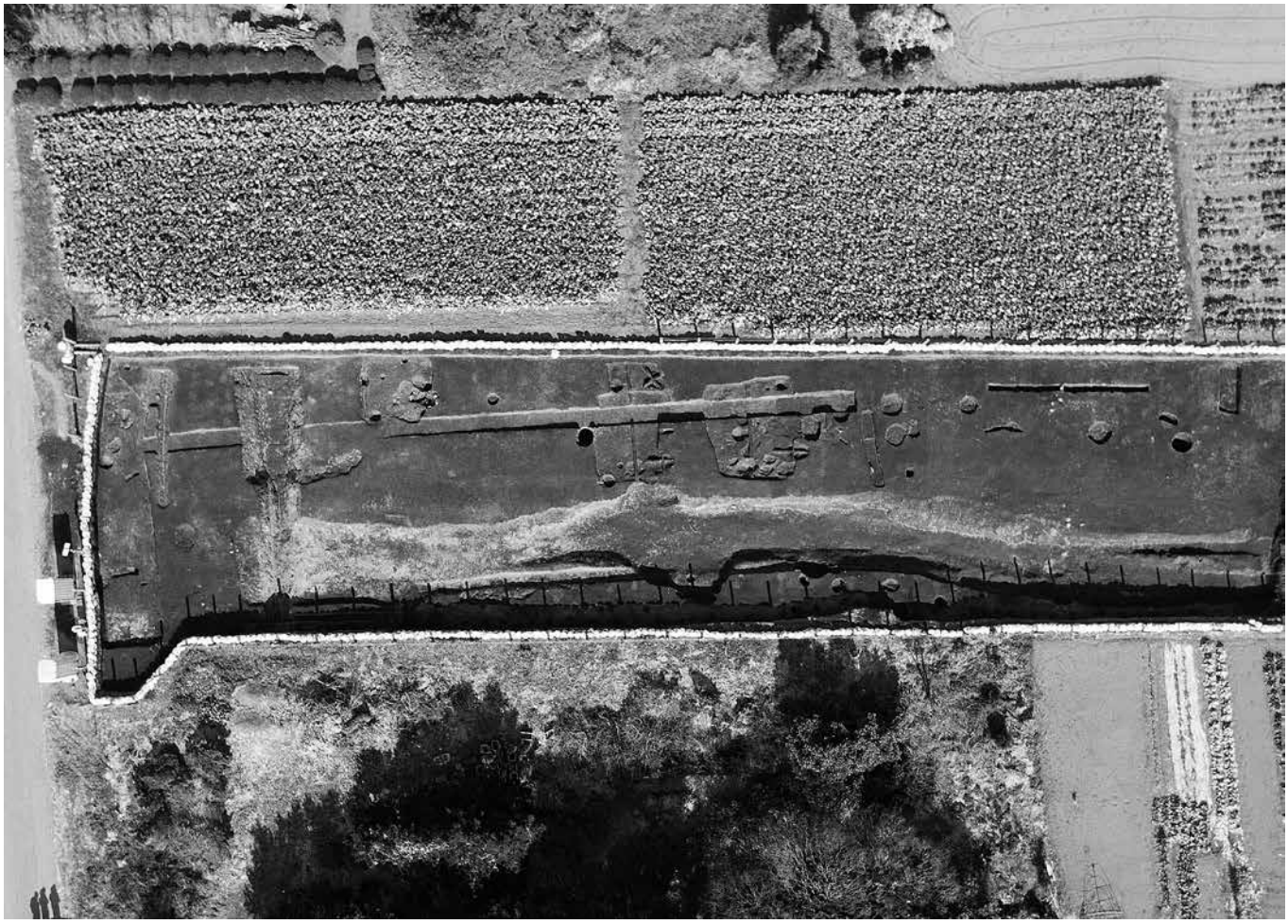
報告書抄録

書名ふりがな	まえばししぜろいちぜろなないせき
書　名	前橋市0107遺跡
副書名	(一)南新井前橋線２期工区道路改築事業(地方道・連携)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	680集
編著者名	山中　豊/志賀智史/奈良貴史/澤田純明/佐伯史子
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20210319
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえばししぜろいちぜろなないせき
遺 跡 名	前橋市0107遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししいけはたまち
遺跡所在地	群馬県前橋市池端町
市町村コード	10201
遺跡番号	0107
北緯（世界測地系）	362546
東経（世界測地系）	1390037
調査期間	20170101－20181231
調査面積	6945.22㎡
調査原因	道路建設工事
種　別	集落跡
主な時代	古墳/古代/中世以降
遺跡概要	古墳－竪穴建物36＋竪穴状遺構１＋掘立柱建物１＋柵２＋ピット１＋集石２／古墳時代以降－土坑70＋溝４／古代－竪穴建物15＋竪穴状遺構２＋土坑７＋ピット95＋井戸２＋溝27＋遺物集中１／中世以降－土坑25＋ピット91＋墓壙４＋井戸９＋溝17＋畠１
特記事項	９世紀～11世紀中頃の遺構と共に、多量の灰釉陶器や緑釉陶器が出土した清里・陣場遺跡に近接し、集落間の繋がりが想起される集落遺跡である。
要　　約	前橋市0107遺跡は、前橋台地と榛名山麓斜面との移行部に位置しており、午王頭川と八幡川にはさまれた地点に立地している集落遺跡である。縄文時代と弥生時代の遺物は出土したが、遺構は発見されず、古墳時代後期以降では竪穴建物の他、土坑、ピット、墓壙、井戸、溝、畠、集石が発見された。竪穴建物は51棟確認されたが、調査区西側の１区と東側の２区では集落の時期が異なっていた。１区は９世紀～10世紀が主体で、灰釉陶器や緑釉陶器などが多数出土したが、２区は６世紀後半～８世紀前半で、須恵器と土師器が主体的に出土した。特筆されるものとしては、竪穴建物の床面から杯に入った赤色顔料が出土したことが挙げられる。

写 真 図 版



1　1区調査区東側全景（上が北）



2　1区調査区西側全景（上が北）

1　1号竪穴建物調査状況(西から)

2　3号竪穴建物全景(西から)

3　3号竪穴建物遺物出土状況(西から)

4　3号竪穴建物竈(西から)

5　4号竪穴建物全景(西から)

6　4号竪穴建物掘方全景(西から)

7　4号竪穴建物竈(西から)

8　5号竪穴建物全景(西から)

1　５号竪穴建物竈土層断面（北西から）

2　６号竪穴建物全景（西から）

3　６号竪穴建物遺物出土状況（北西から）

4　８号竪穴建物全景（北西から）

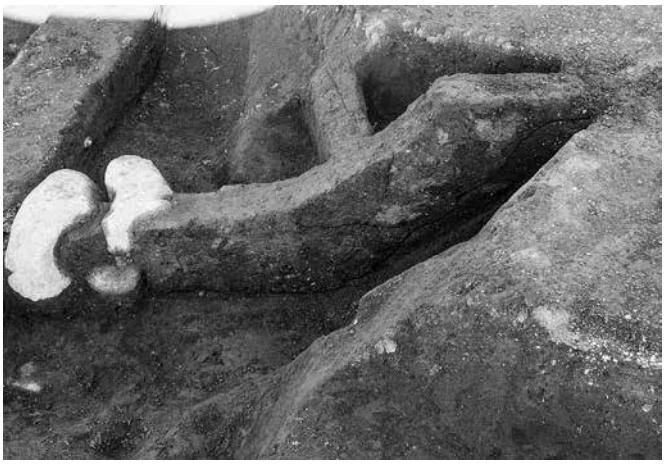
5　８号竪穴建物竈（北西から）

6　23号竪穴建物遺物出土状況（西から）

7　23号竪穴建物土層断面（西から）

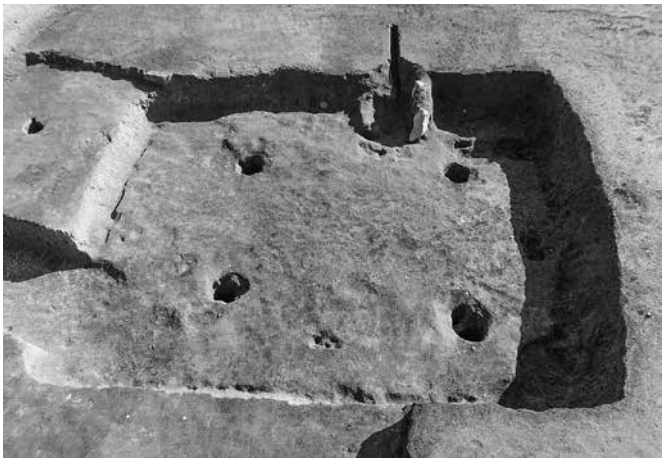
8　24号竪穴建物土層断面（東から）

1　30号竪穴建物土層断面（南から）



2　30号竪穴建物竈掘方土層断面（南から）

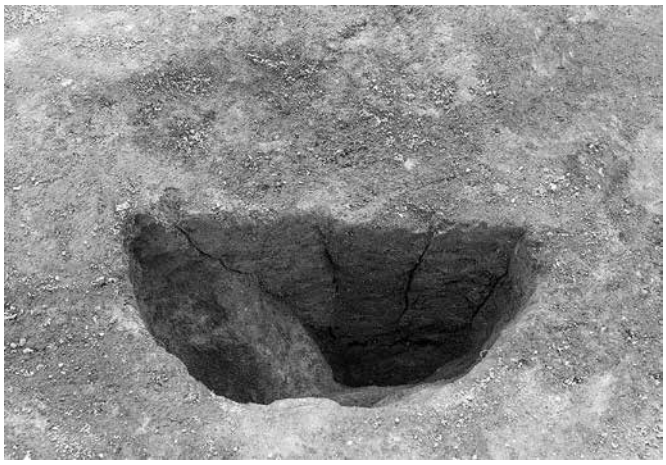
3　31号竪穴建物掘方全景（西から）



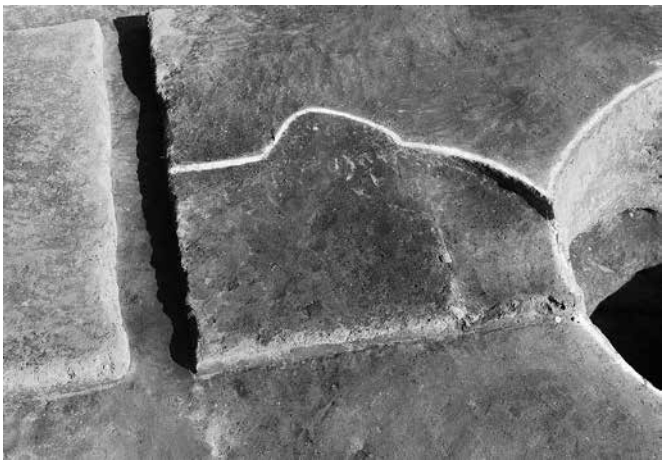
4　32号竪穴建物全景（西から）

5　32号竪穴建物掘方全景（北西から）

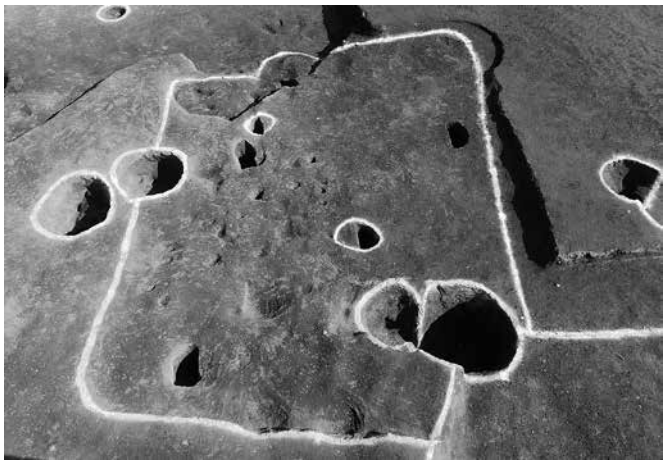
6　32号竪穴建物竈（北西から）



7　32号竪穴建物Ｐ２土層断面（北から）



8　33号竪穴建物全景（西から）



1　38号竪穴建物全景（西から）

2　38号竪穴建物掘方全景（西から）

3　40号竪穴建物検出状況（西から）

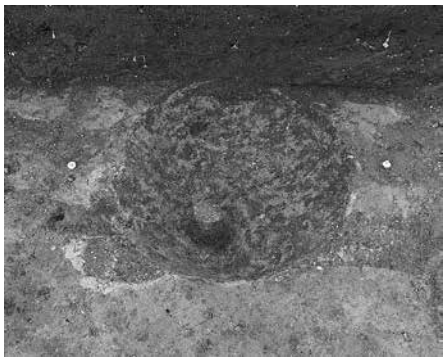
4　45号竪穴建物床面検出状況（西から）

5　45号竪穴建物竈遺物出土状況（西から）

6　58号竪穴建物掘方全景（西から）

7　２号竪穴状遺構土層断面（西から）

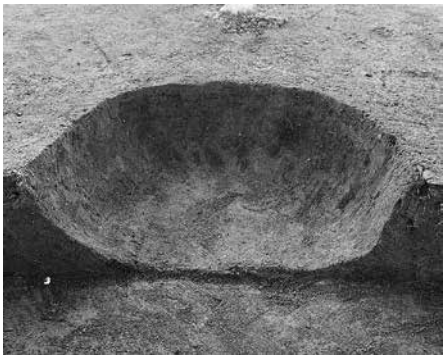
8　３号竪穴状遺構土層断面（西から）


1　１号土坑(東から)

2　３号土坑土層断面(北から)

3　４号土坑(東から)

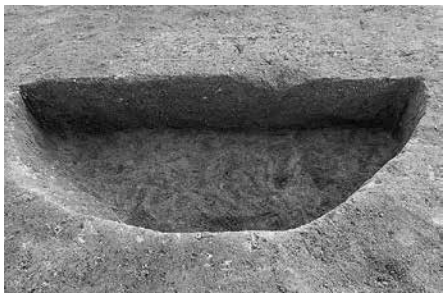
4　５号土坑(北から)


5　６号土坑(北から)

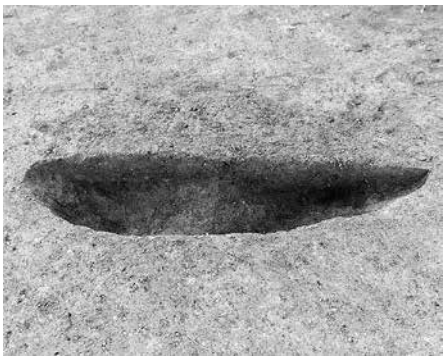
6　７号土坑(北から)

7　７号土坑土層断面(北から)

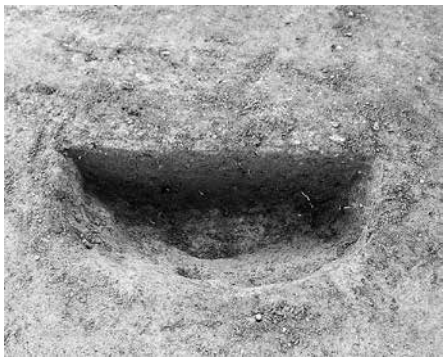
8　８号土坑(北から)


9　８号土坑土層断面(北から)

10　９号土坑(西から)


11　９号土坑土層断面(北から)

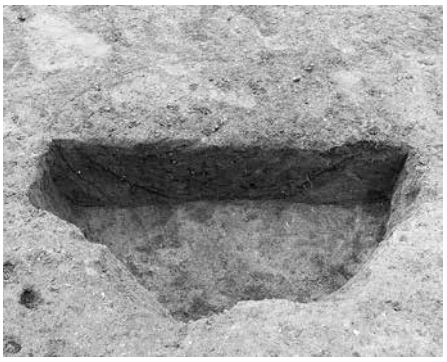
12　10号土坑(西から)

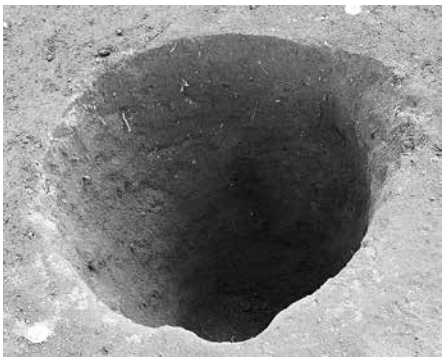

13　10号土坑土層断面(北から)

14　11号土坑(南から)

15　12号土坑(南東から)

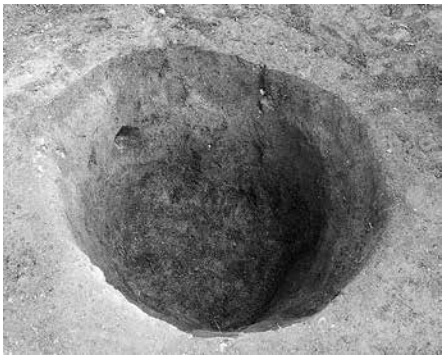
1　13号土坑(北から)


2　13号土坑土層断面(北から)


3　14号土坑(北西から)

4　15号土坑(北から)

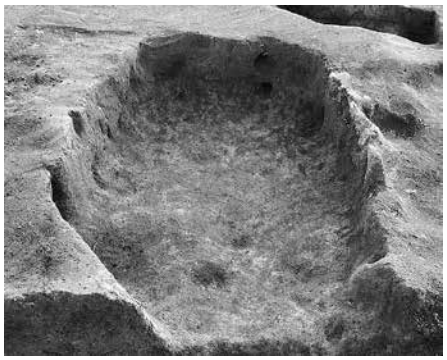
5　15号土坑土層断面(北から)

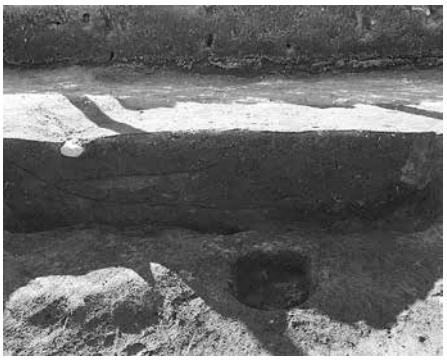

6　17号土坑(北から)

7　18号土坑(北から)

8　18号土坑土層断面(北から)

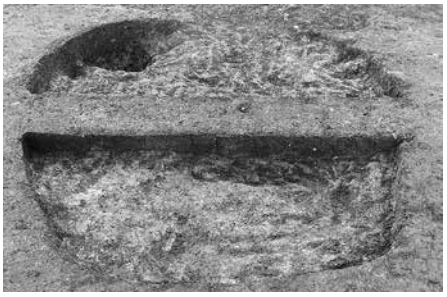
9　19号土坑出土遺物(南から)


10　25号土坑(北から)


11　32号土坑(北から)

12　33号土坑土層断面(北から)

13　33号土坑(北西から)


14　36号土坑土層断面(北から)

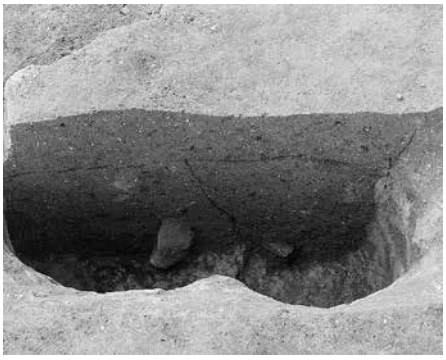
15　37号土坑土層断面(北から)

1　39号土坑土層断面(南から)

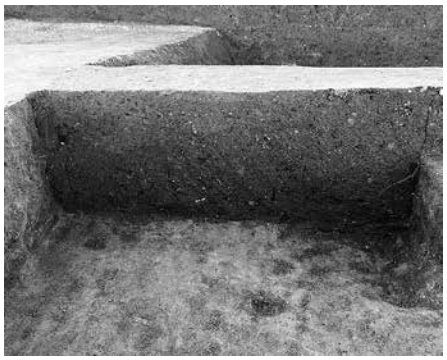
2　50号土坑(東から)

3　51号土坑土層断面(北から)

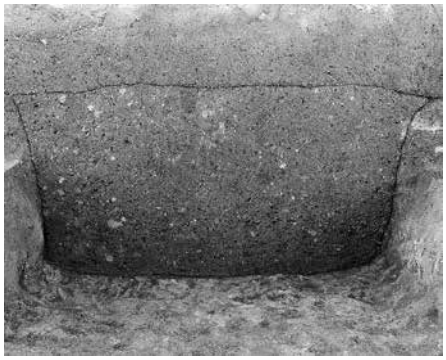
4　52号土坑土層断面(北から)


5　55・56号土坑土層断面(東から)

6　57号土坑(西から)

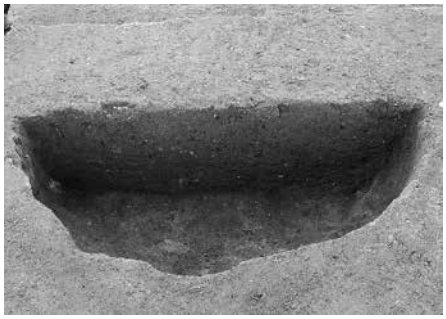

7　57号土坑土層断面(東から)

8　58号土坑(南から)


9　58号土坑土層断面(東から)

10　65号土坑土層断面(東から)

11　66号土坑、29号ピット(南東から)


12　66号土坑土層断面(東から)

13　77号土坑(北東から)

14　77号土坑土層断面(北から)

15　89号土坑(西から)

1　１号墓壙人骨出土状況（南から）

2　２号墓壙人骨出土状況（南から）

3　３号墓壙人骨出土状況（南から）

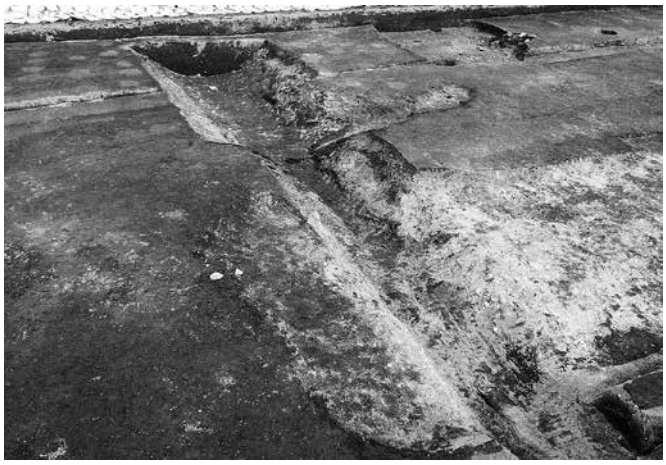
4　４号墓壙人骨出土状況（南から）

5　１号井戸（北から）

6　２号井戸（北から）

7　３号井戸土層断面（北から）

8　４号井戸（北東から）

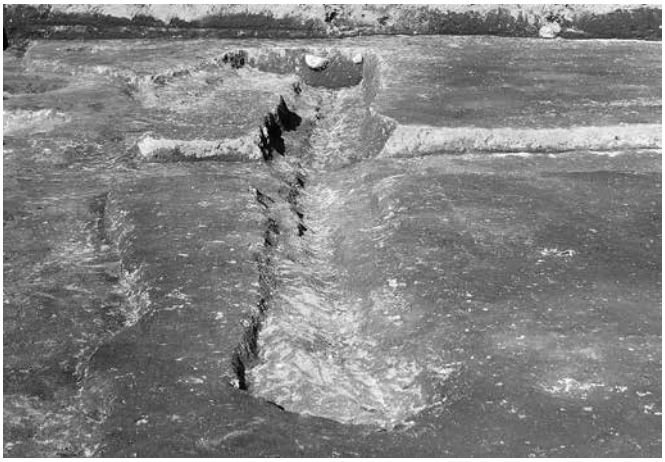


1　1号溝(南から)

2　2号溝(東から)

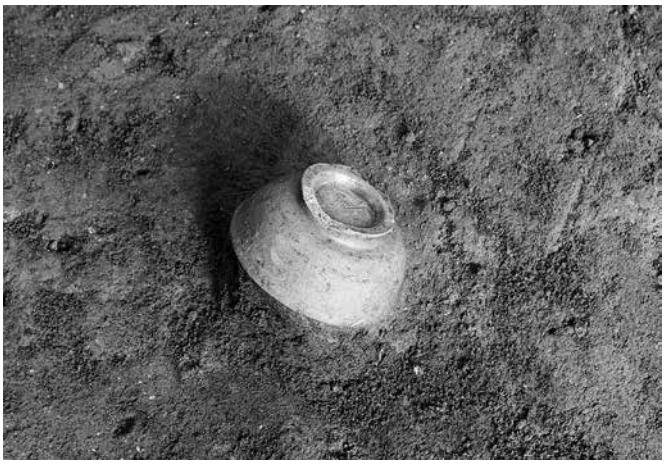
3　2号溝遺物出土状況(南から)

4　2・16号溝(西から)

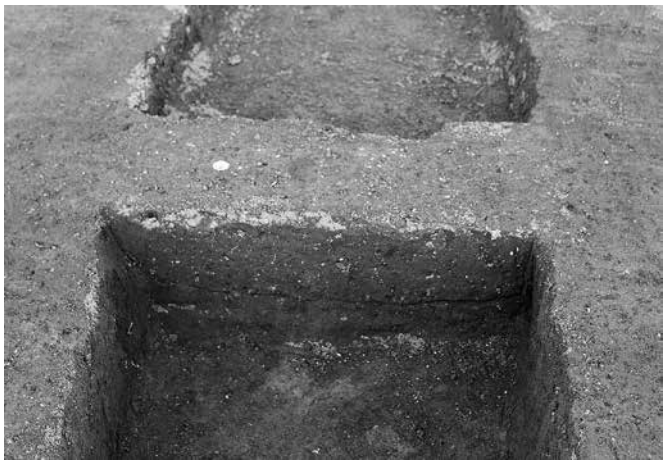


5　3・8号溝(南から)

6　4号溝土層断面(東から)



7　8号溝遺物出土状況(南から)



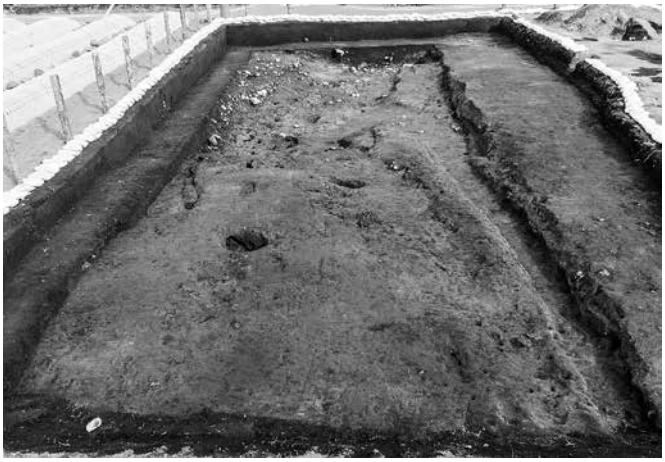
1　９号溝土層断面（南から）

2　16号溝（東から）

3　16号溝（西から）

4　16号溝土層断面（東から）

5　19号溝（東から）



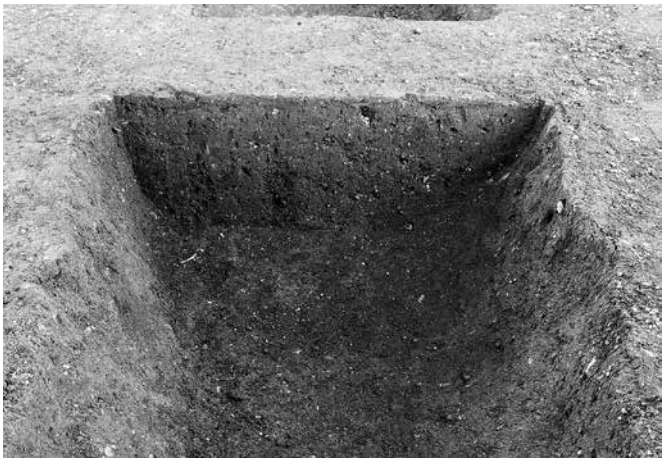
6　19・53号溝（西から）

7　20号溝土層断面（北から）

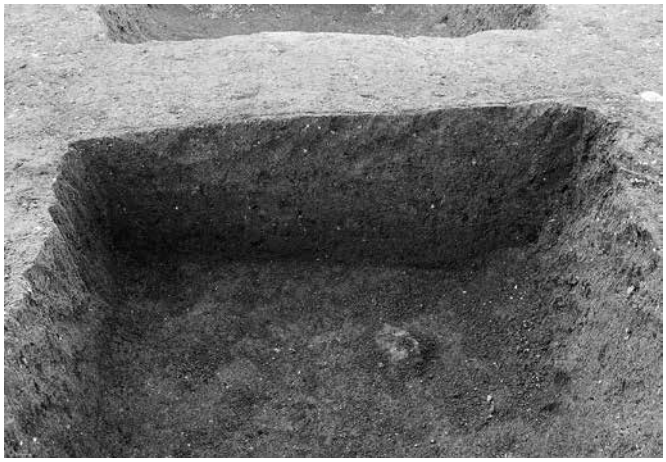
1　21号溝（南から）

2　22号溝（南から）

3　22号溝土層断面（南から）



4　23号溝土層断面（南から）



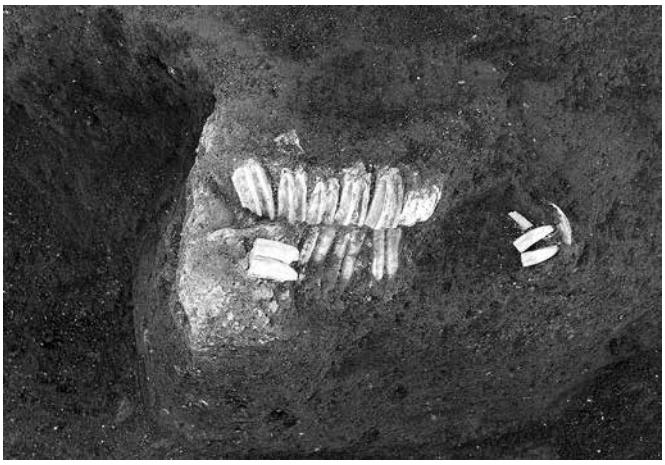
5　24号溝土層断面（南から）

6　25号溝土層断面（北から）

7　26号溝土層断面（東から）

8　27号溝土層断面（東から）

1　27号溝（西から）



2　27号溝馬骨右顎出土状況（東から）

3　27号溝馬骨左顎出土状況（東から）

4　28・26号溝（西から）

5　51号溝土層断面（東から）

6　53号溝土層断面（南から）

7　53号溝土層断面（西から）

1　２区調査区全景（上が北）

2　２区西調査区全景（東から）

3　２区東調査区東側全景（西から）

4　２区東調査区西側表土確認状況（南から）

5　２区東調査区西側遺構検出状況（西から）

1　７号竪穴建物全景（東から）

2　７号竪穴建物掘方全景（東から）

3　７号竪穴建物竈（東から）

4　７号竪穴建物貯蔵穴土層断面（西から）

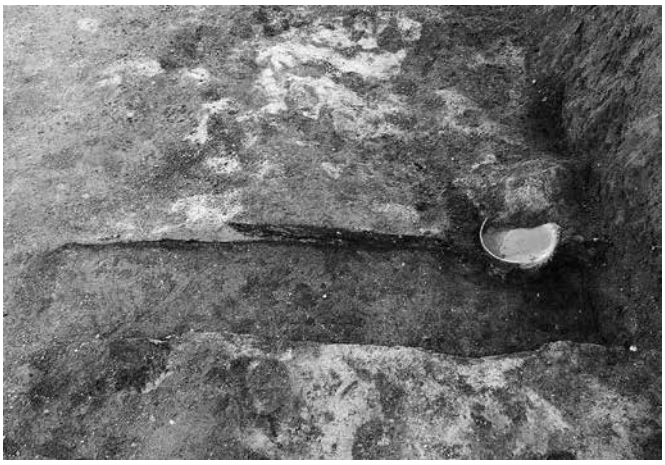
5　９号竪穴建物全景（西から）

6　９号竪穴建物２面全景（南西から）

7　９号竪穴建物焼土確認状況（西から）

8　９号竪穴建物竈（南西から）

1　９号竪穴建物竈遺物出土状況（南西から）



2　９号竪穴建物南壁付近土層断面（南西から）

3　10号竪穴建物全景（西から）

4　10号竪穴建物掘方土層断面（北西から）

5　10号竪穴建物竈（西から）

6　10号竪穴建物竈掘方土層断面（南から）

7　10号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況（西から）

8　11号竪穴建物全景（西から）

1　11号竪穴建物掘方全景(西から)

2　11号竪穴建物竈(西から)

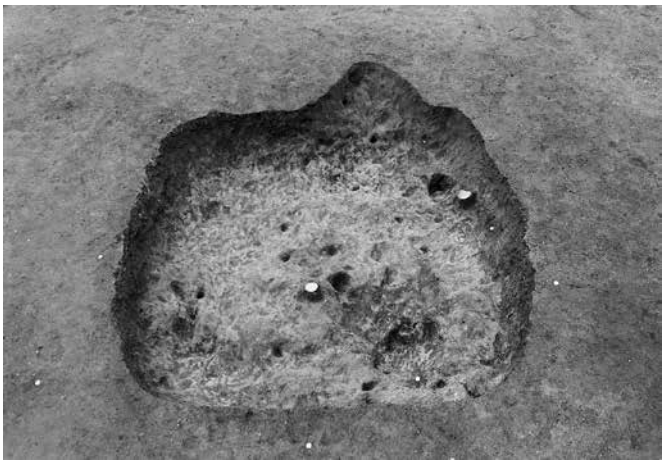
3　12号竪穴建物全景(西から)

4　12号竪穴建物掘方全景(西から)

5　12号竪穴建物竈(西から)

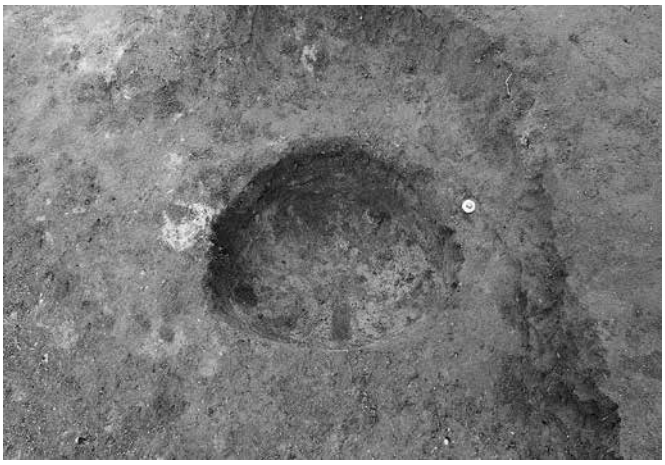
6　12号竪穴建物貯蔵穴(西から)

7　13号竪穴建物全景(西から)



8　13号竪穴建物掘方全景(西から)

1　13号竪穴建物竈(西から)



2　13号竪穴建物貯蔵穴(西から)

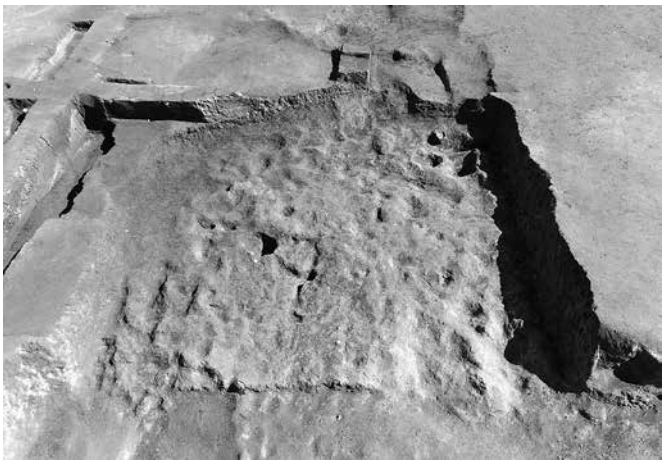
3　14号竪穴建物全景(西から)

4　14号竪穴建物掘方全景(西から)

5　14号竪穴建物遺物出土状況(西から)

6　14号竪穴建物竈(西から)

7　15号竪穴建物全景(西から)



8　15号竪穴建物掘方全景(西から)

1　15号竪穴建物遺物出土状況(西から)

2　15号竪穴建物竈全景(西から)

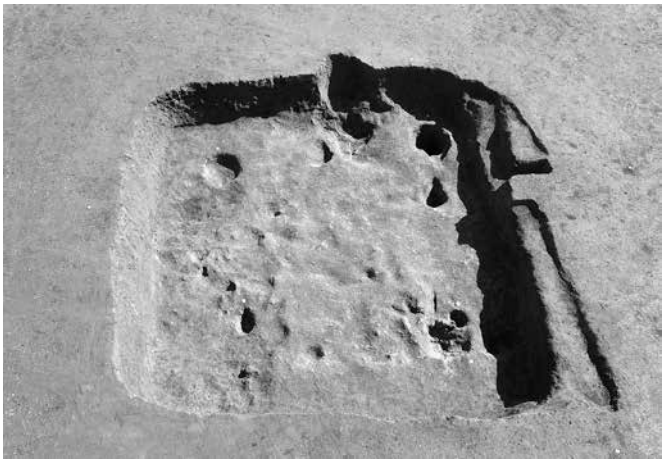
3　16号竪穴建物全景(西から)

4　16号竪穴建物掘方全景(西から)

5　16号竪穴建物竈(西から)

6　16号竪穴建物貯蔵穴(北から)

7　17号竪穴建物全景(西から)



8　17号竪穴建物掘方全景(西から)

1　17号竪穴建物遺物出土状況（西から）

2　17号竪穴建物遺物出土状況（東から）

3　17号竪穴建物竈（西から）

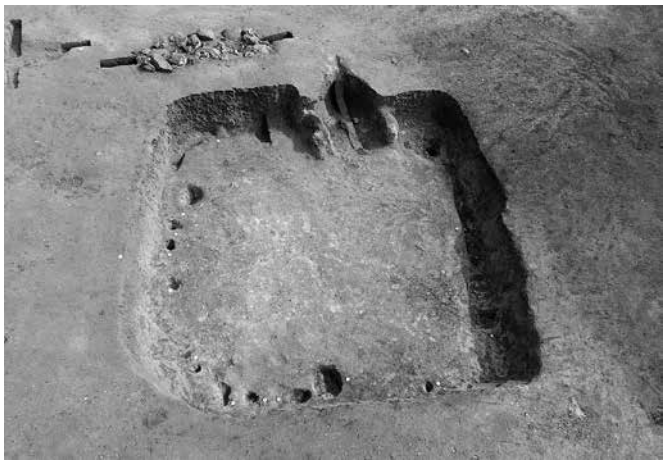
4　18号竪穴建物全景（西から）

5　18号竪穴建物掘方全景（西から）

6　18号竪穴建物遺物出土状況（西から）

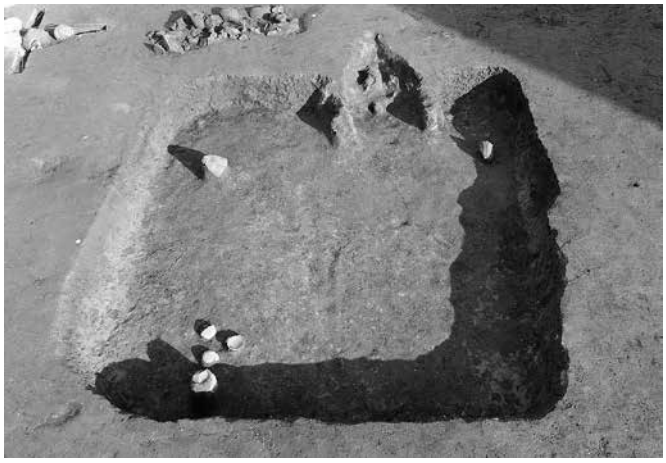
7　18号竪穴建物竈（西から）

8　18号竪穴建物貯蔵穴土層断面（西から）



1　20号竪穴建物全景（西から）

2　20号竪穴建物掘方全景（西から）



3　20号竪穴建物遺物出土状況（西から）

4　20号竪穴建物遺物出土状況（西から）

5　20号竪穴建物竈（西から）

6　20号竪穴建物貯蔵穴土層断面（西から）

7　21号竪穴建物全景（西から）

8　21号竪穴建物掘方全景（西から）

1　21号竪穴建物土層断面(北から)

2　21号竪穴建物竈(西から)

3　22号竪穴建物全景(西から)

4　22号竪穴建物土層断面(北から)

5　22号竪穴建物杯内赤色顔料出土状況(北西から)

6　22号竪穴建物出土杯内赤色顔料(北西から)

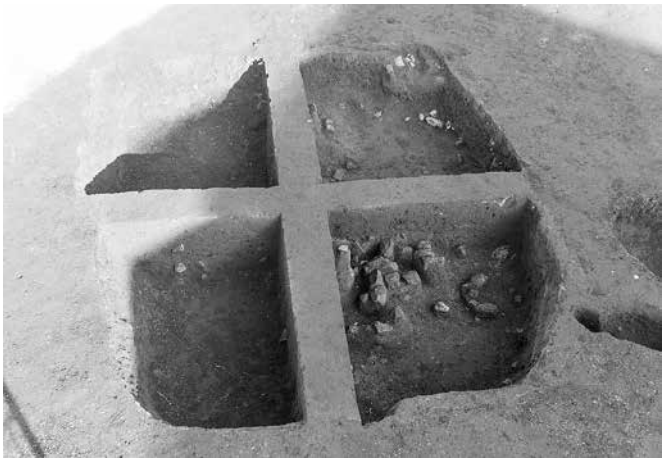
7　26号竪穴建物全景(西から)

8　26号竪穴建物掘方全景(西から)

1　26号竪穴建物竈(西から)

2　27号竪穴建物全景(南西から)

3　27号竪穴建物掘方全景(南西から)



4　27号竪穴建物礫出土状況(南西から)

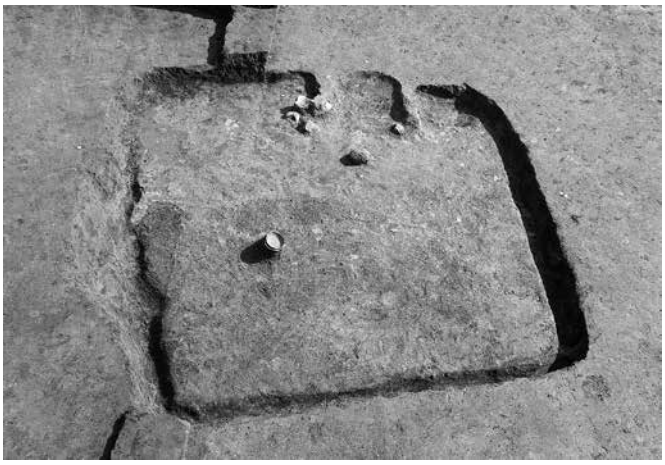
5　27号竪穴建物竈(南西から)

6　28号竪穴建物全景(西から)

7　28号竪穴建物竈(西から)

8　34号竪穴建物全景(西から)

1　34号竪穴建物掘方全景（西から）



2　34号竪穴建物遺物出土状況（西から）

3　34号竪穴建物出土遺物（西から）

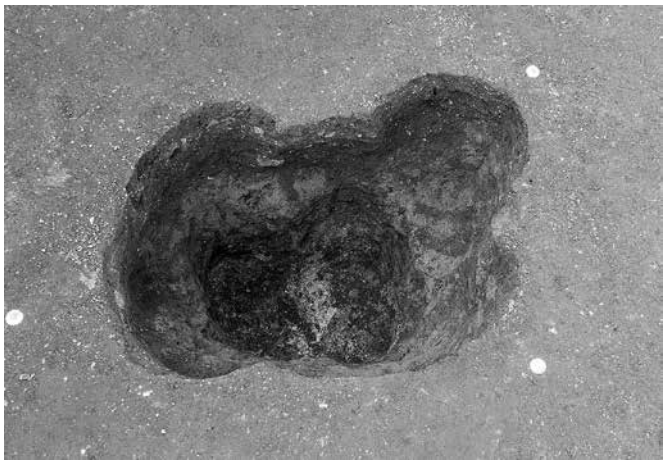
4　34号竪穴建物竈（西から）

5　35号竪穴建物全景（南西から）

6　35号竪穴建物掘方全景（南西から）

7　35号竪穴建物竈（南西から）

8　35号竪穴建物貯蔵穴（南西から）



1　35号竪穴建物Ｐ２・６・10（北東から）

2　36号竪穴建物全景（南西から）

3　36号竪穴建物ピット検出状況（南西から）

4　36号竪穴建物遺物出土状況（西から）

5　36号竪穴建物竈（南西から）

6　37号竪穴建物全景（西から）

7　37号竪穴建物掘方全景（西から）

8　37号竪穴建物遺物出土状況（西から）

1　37号竪穴建物竈(西から)

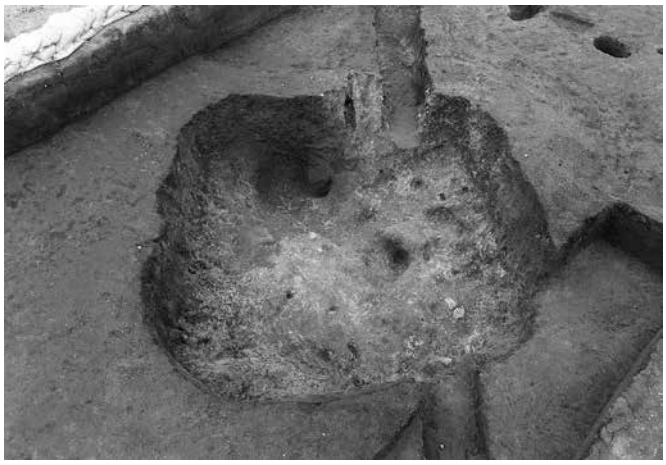
2　37号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)

3　44号竪穴建物全景(西から)

4　44号竪穴建物掘方全景(西から)

5　44号竪穴建物竈(西から)

6　46号竪穴建物全景(南西から)

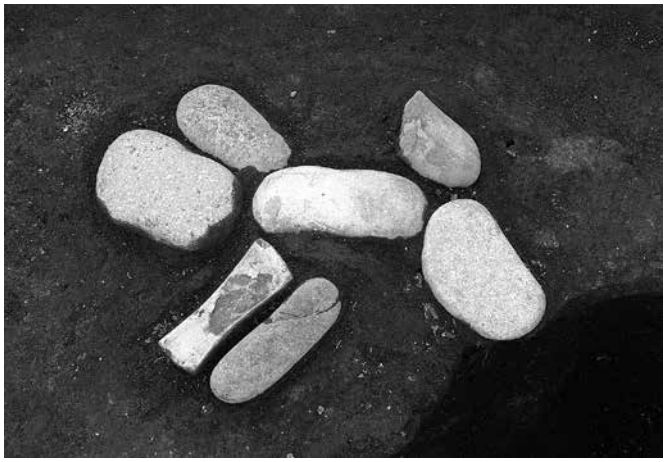


7　46号竪穴建物掘方全景(南西から)

8　46号竪穴建物竈(南西から)

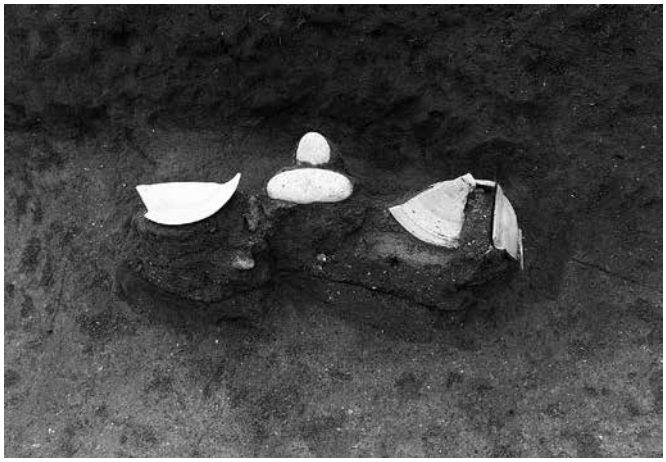
1　46号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

2　46号竪穴建物土層断面（南西から）



3　46号竪穴建物遺物出土状況（西から）

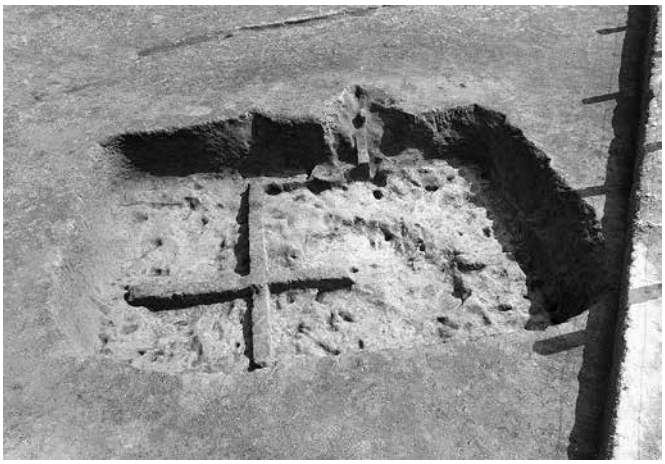
4　47号竪穴建物掘方全景（南西から）



5　47号竪穴建物遺物出土状況（北西から）

6　47号竪穴建物竈周辺遺物出土状況（西から）

7　48号竪穴建物全景（西から）



8　48号竪穴建物掘方全景（西から）

1　48号竪穴建物遺物出土状況（南西から）

2　48号竪穴建物竈（西から）

3　48号竪穴建物竈石組み状況（西から）

4　48号竪穴建物竈石組み状況（南から）

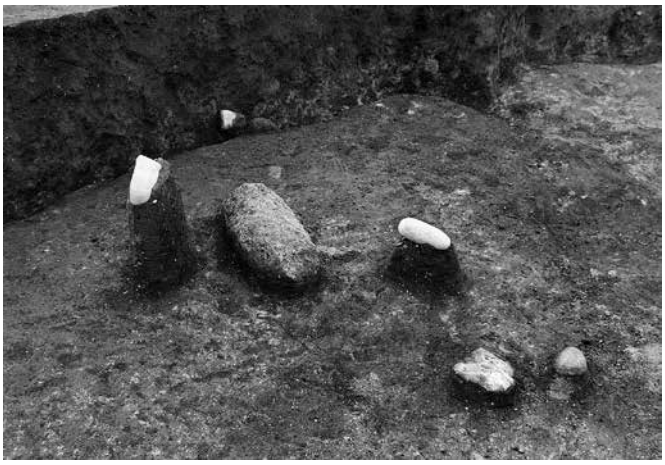
5　49号竪穴建物全景（西から）

6　49号竪穴建物掘方全景（西から）

7　49号竪穴建物竈（西から）

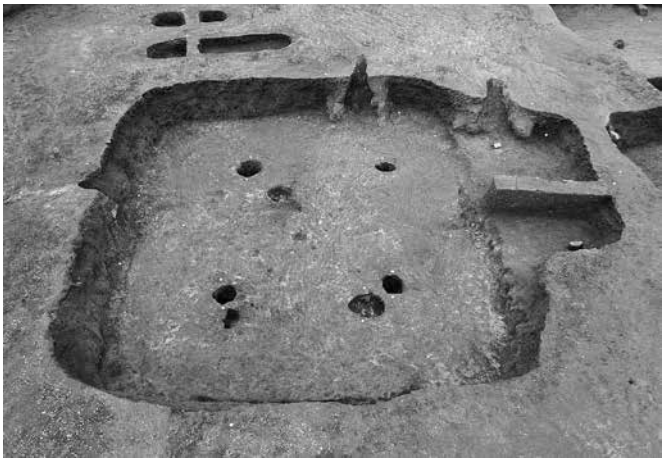
8　50号竪穴建物全景（北西から）

1　50号竪穴建物掘方全景（西から）



2　50号竪穴建物遺物出土状況（西から）

3　50号竪穴建物竈（西から）



4　51号竪穴建物全景（西から）

5　51号竪穴建物掘方全景（西から）

6　51号竪穴建物遺物出土状況（西から）

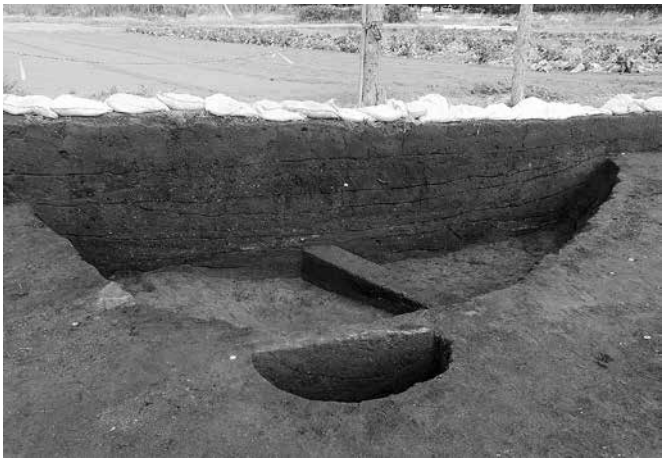
7　51号竪穴建物出土状況（北から）

8　51号竪穴建物竈（西から）

1　51号竪穴建物旧竈(南から)

2　52号竪穴建物全景(南西から)

3　52号竪穴建物掘方全景(南西から)



4　52号竪穴建物土層断面(南から)

5　52号竪穴建物竈址検出状況(南から)

6　53号竪穴建物全景(西から)

7　53号竪穴建物掘方全景(西から)

8　53号竪穴建物遺物出土状況(西から)

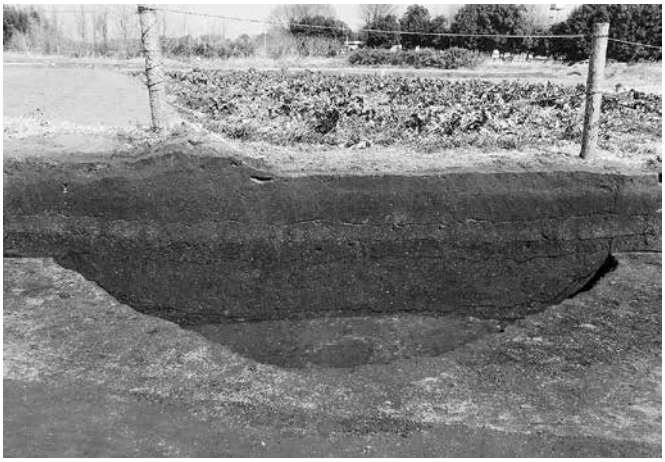
1　53号竪穴建物遺物出土状況(北西から)

2　53号竪穴建物竈(西から)

3　53号竪穴建物竈遺物出土状況(西から)

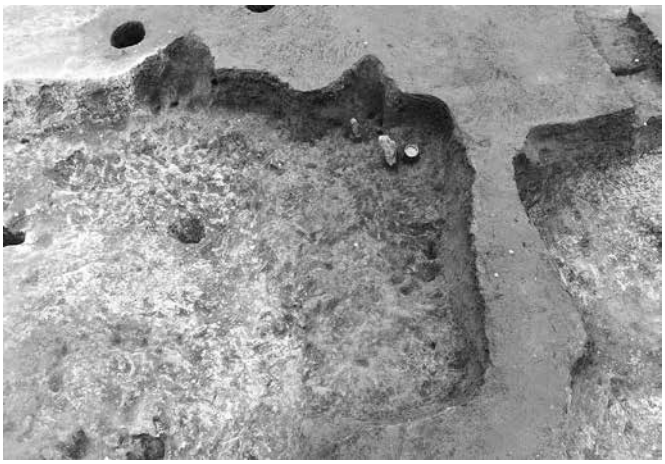
4　54号竪穴建物全景(南西から)

5　54号竪穴建物掘方全景(南東から)



6　54号竪穴建物土層断面(南から)

7　55号竪穴建物全景(西から)



8　55号竪穴建物掘方全景(西から)

1　55号竪穴建物竈掘方（西から）

2　56号竪穴建物全景（西から）

3　56号竪穴建物掘方全景（西から）

4　56号竪穴建物土層断面（北から）

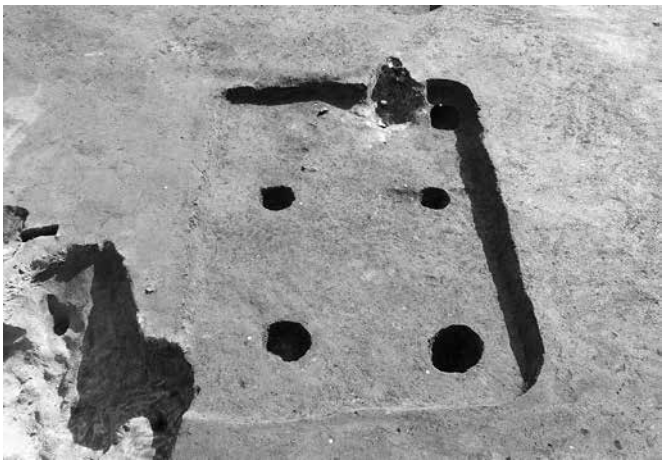
5　56号竪穴建物竈（西から）

6　57号竪穴建物全景（南西から）

7　57号竪穴建物掘方全景（南から）

8　57号竪穴建物土層断面（南から）

1　57号竪穴建物Ｐ１土層断面（南から）



2　59号竪穴建物全景（西から）

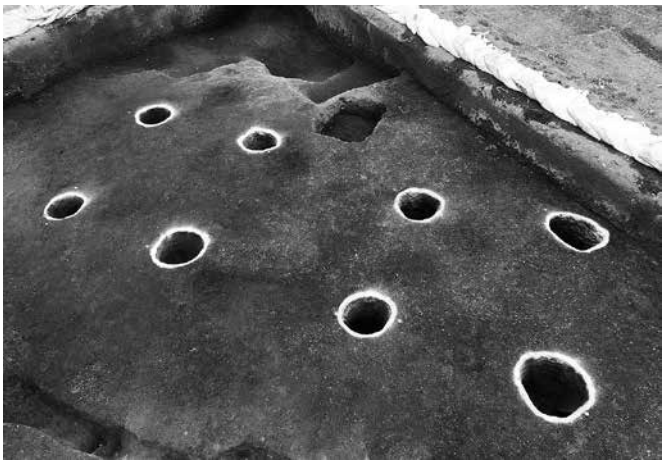
3　59号竪穴建物掘方全景（西から）

4　59号竪穴建物竈（西から）

5　59号竪穴建物竈遺物出土状況（西から）

6　４号竪穴状遺構（西から）

7　４号竪穴状遺構土層断面（西から）



8　１号掘立柱建物（西から）

1　16号土坑土層断面(南東から)

2　20号土坑(南から)

3　21号土坑(南西から)

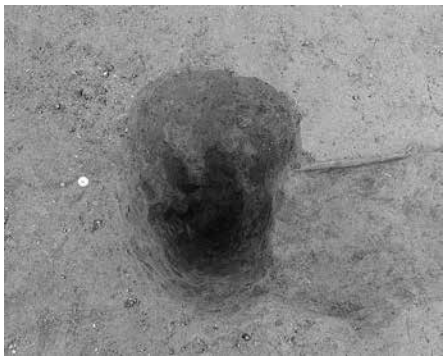
4　22号土坑(南東から)

5　23号土坑土層断面(南から)

6　24号土坑(南から)

7　26号土坑(南西から)

8　26号土坑土層断面(南西から)



9　27号土坑(南から)

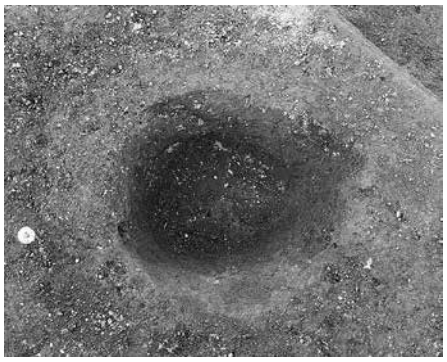
10　27号土坑土層断面(南から)

11　28号土坑(南東から)

12　29号土坑(北から)

13　29号土坑礫出土状況(北から)

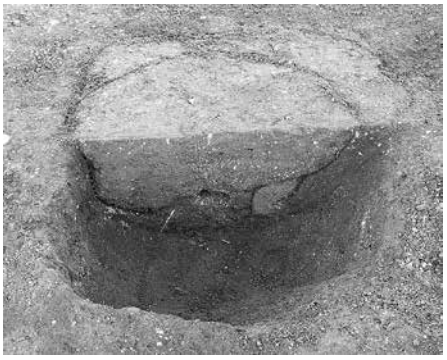
14　30号土坑(北東から)

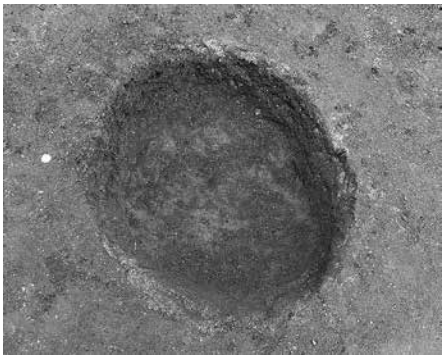

1　31号土坑(南から)

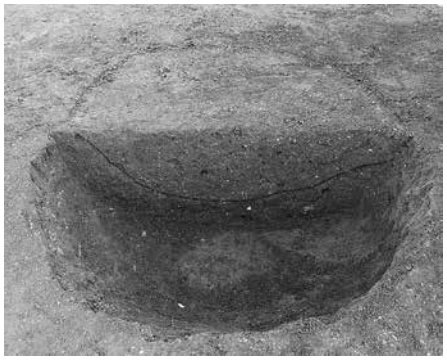
2　34号土坑土層断面(北から)

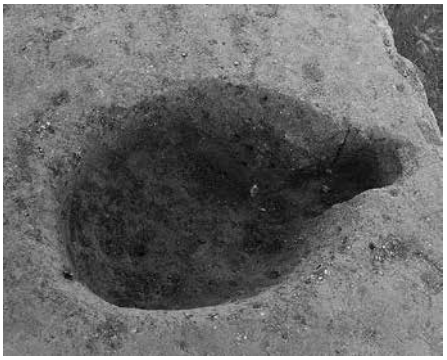
3　40号土坑(南から)

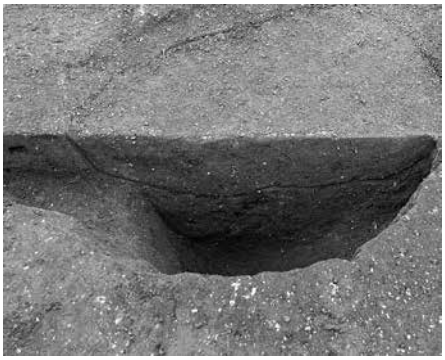
4　41号土坑(南から)

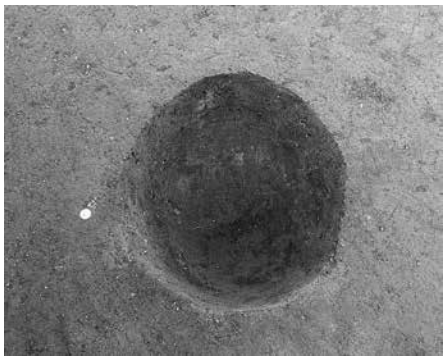

5　41号土坑土層断面(南から)


6　42号土坑(南から)


7　42号土坑土層断面(南から)


8　43号土坑(東から)


9　44号土坑土層断面(北東から)

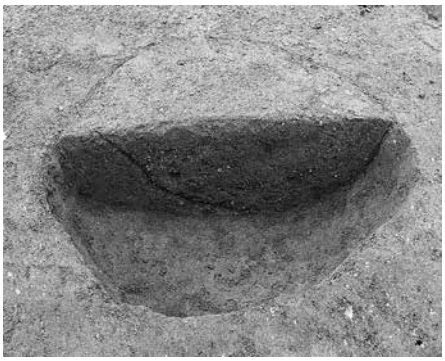

10　46号土坑(南から)

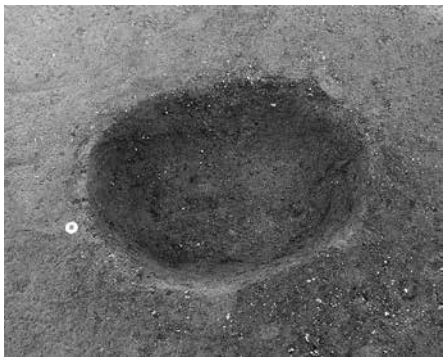
11　46号土坑土層断面(南から)

12　47号土坑土層断面(北から)

13　48号土坑(南から)

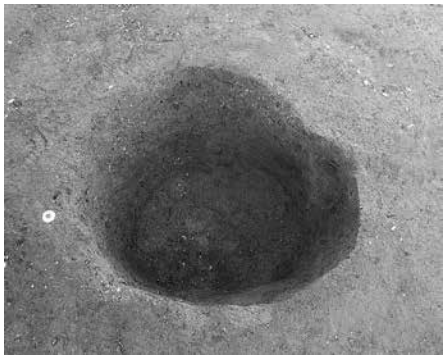
14　53号土坑土層断面(南から)


15　54号土坑土層断面(南から)

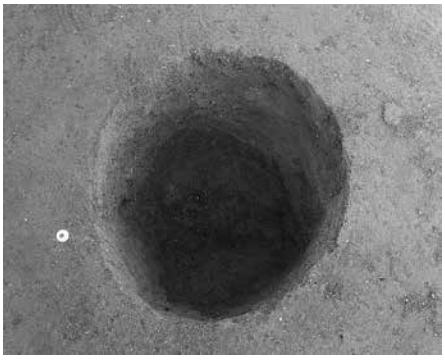

1　59号土坑(西から)

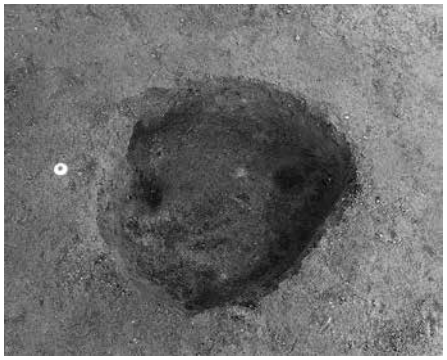
2　62号土坑(北から)

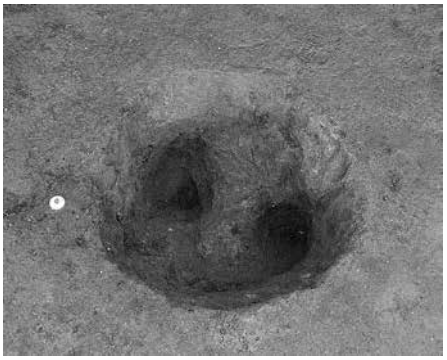
3　62号土坑遺物出土状況(南から)


4　63号土坑(南から)

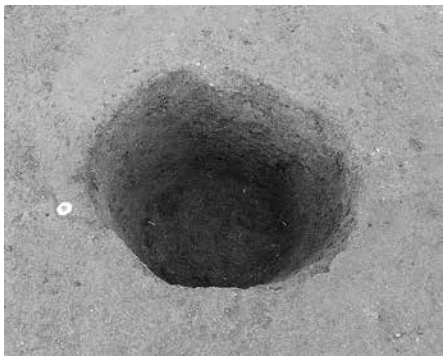
5　64号土坑(南から)


6　67号土坑(南東から)

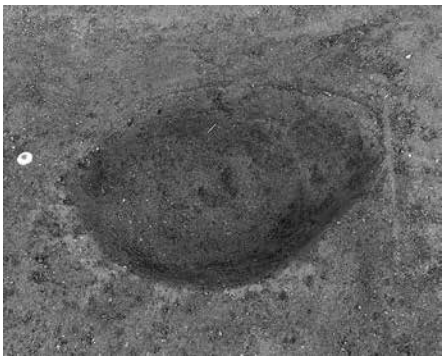

7　68号土坑(南から)

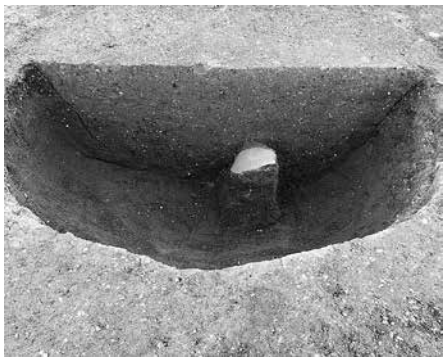

8　69号土坑(北から)

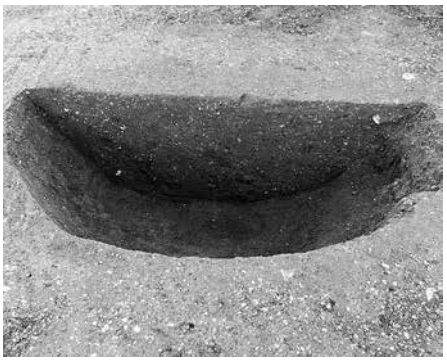
9　70号土坑(西から)


10　71号土坑(西から)

11　72号土坑土層断面(西から)

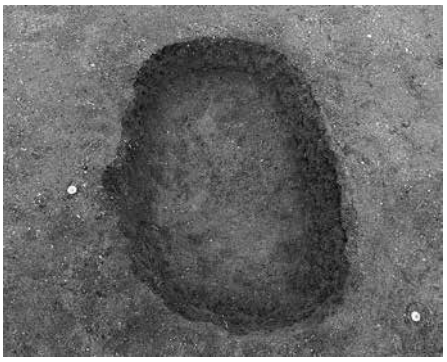

12　73号土坑(西から)

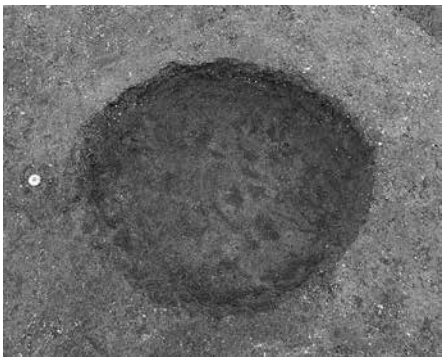

13　73号土坑土層断面(北から)

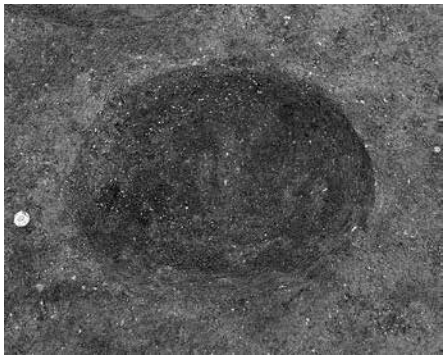

14　74号土坑土層断面(北から)

15　75号土坑(北から)

1　78号土坑(北から)

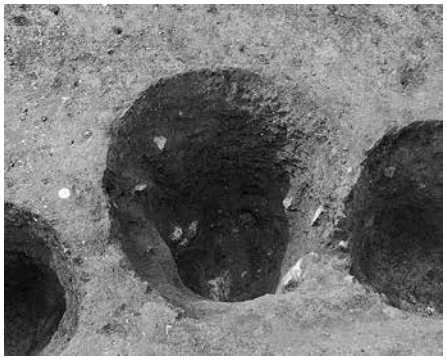

2　79号土坑(北西から)


3　80号土坑(北から)


4　81号土坑(北から)

5　82号土坑(東から)

6　83号土坑(東から)


7　84号土坑(東から)

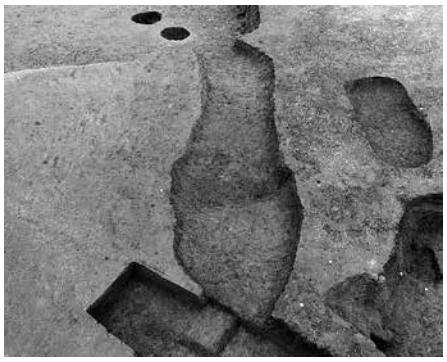
8　85号土坑(東から)

9　86号土坑(東から)

10　87号土坑(東から)

11　88号土坑(南から)

12　90号土坑(南西から)


13　91号土坑(北から)

14　92号土坑(南から)

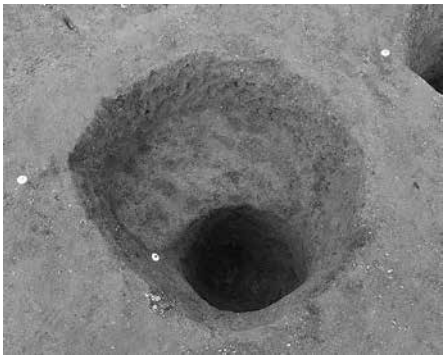
15　93号土坑土層断面(南から)

1　94号土坑(北から)

2　95号土坑(北から)

3　97号土坑(南西から)

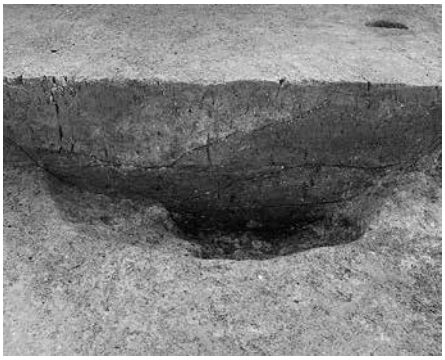
4　98号土坑(南から)

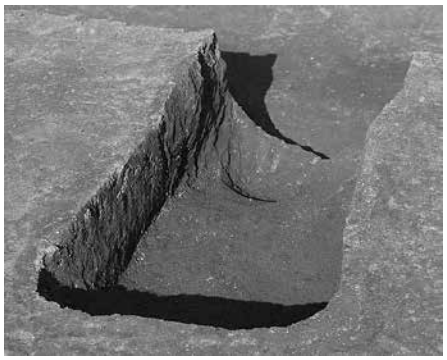

5　99号土坑(南から)

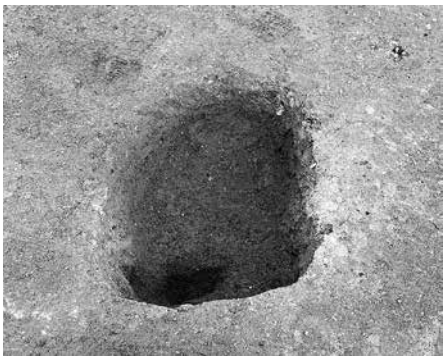
6　100号土坑(南から)

7　101号土坑(南から)

8　102号土坑(西から)


9　103号土坑(北から)

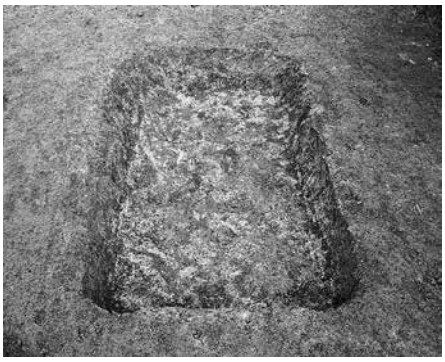

10　104号土坑(南から)


11　105号土坑(南から)

12　106号土坑(北から)

13　106号土坑土層断面(北から)

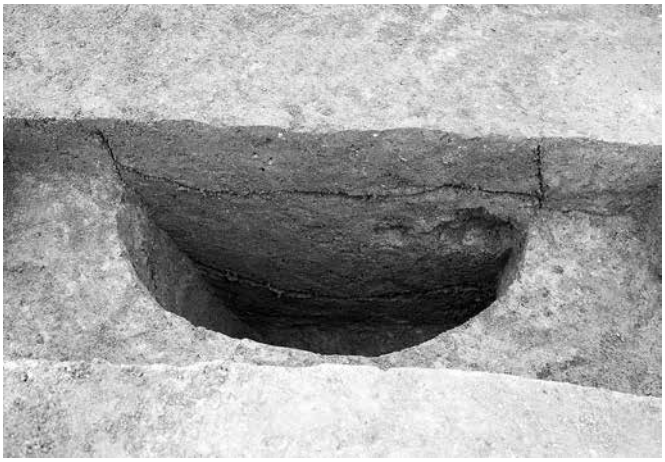
14　107号土坑(西から)


15　110号土坑(西から)

1　５号井戸（西から）

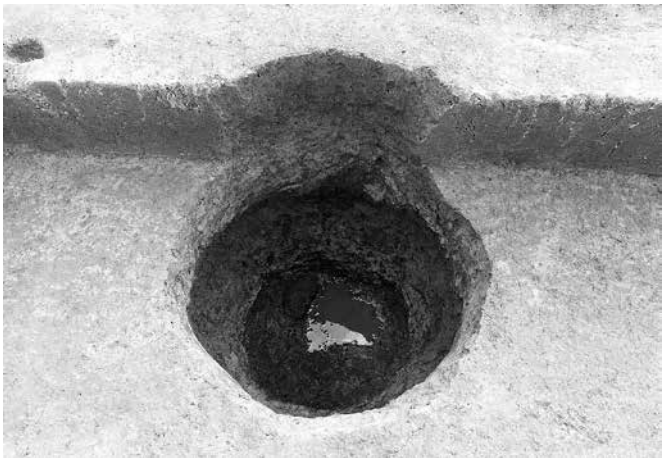
2　５号井戸断割り（北から）

3　５号井戸遺物出土状況（北から）



4　６号井戸土層断面（東から）

5　６号井戸断割り（東から）



6　７号井戸（北から）

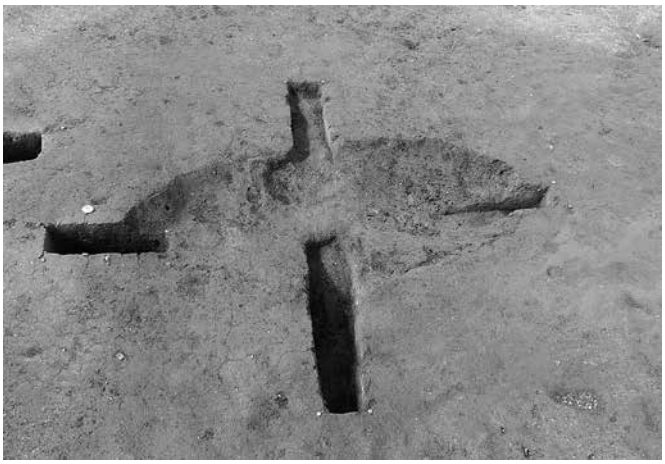
7　８号井戸（南から）

8　９号井戸（南から）

1　10号井戸（南から）

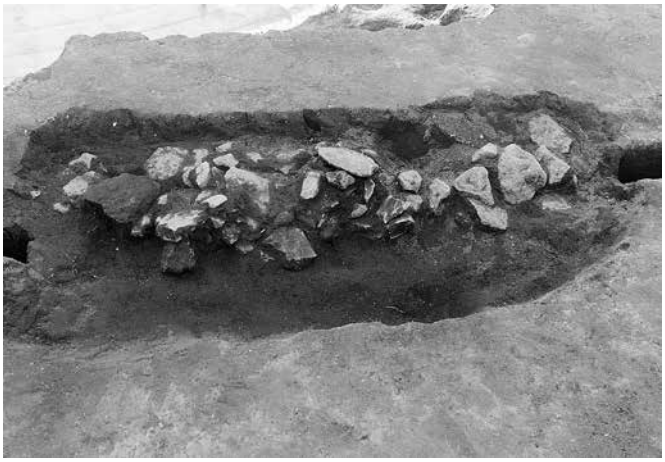
2　11号井戸土層断面（南から）

3　１号集石検出状況（東から）



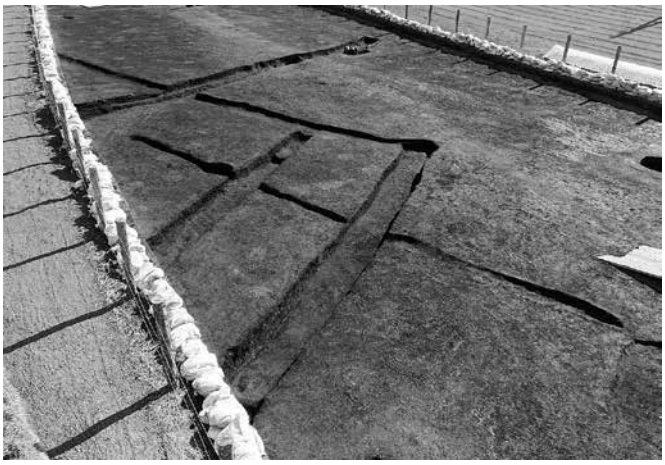
4　１号集石下土坑完掘状況（東から）

5　２号集石検出状況（東から）



6　２号集石遺物出土状況（東から）

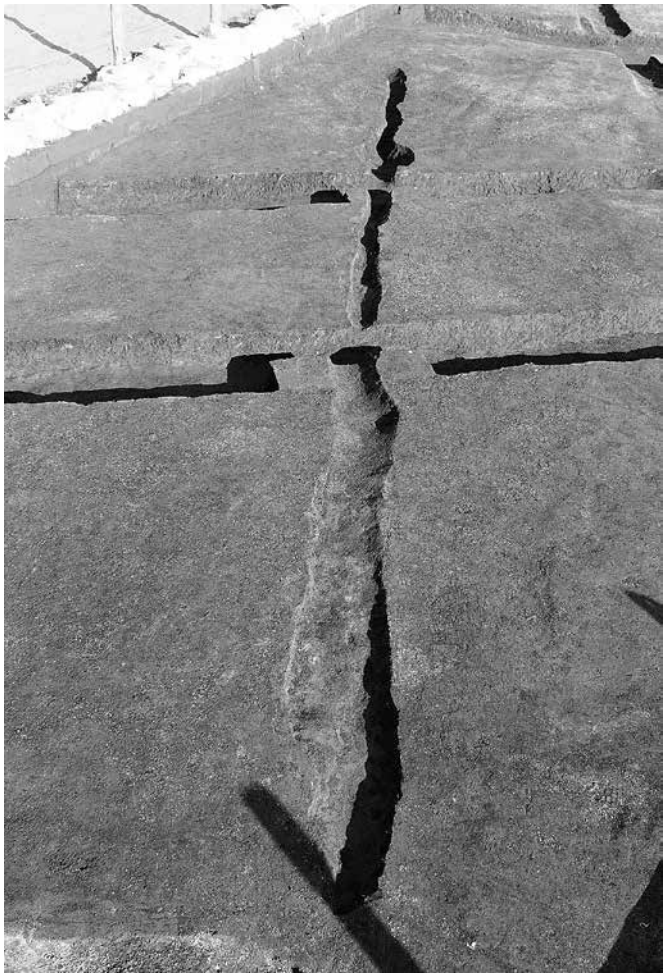
7　２号集石下土坑完掘状況（東から）



8　５～７・10・11号溝（北西から）

1　５号溝(南から)

2　６号溝(南から)



3　７号溝(西から)

4　10号溝(西から)

1　11号溝（南東から）

2　11・18号溝（南東から）

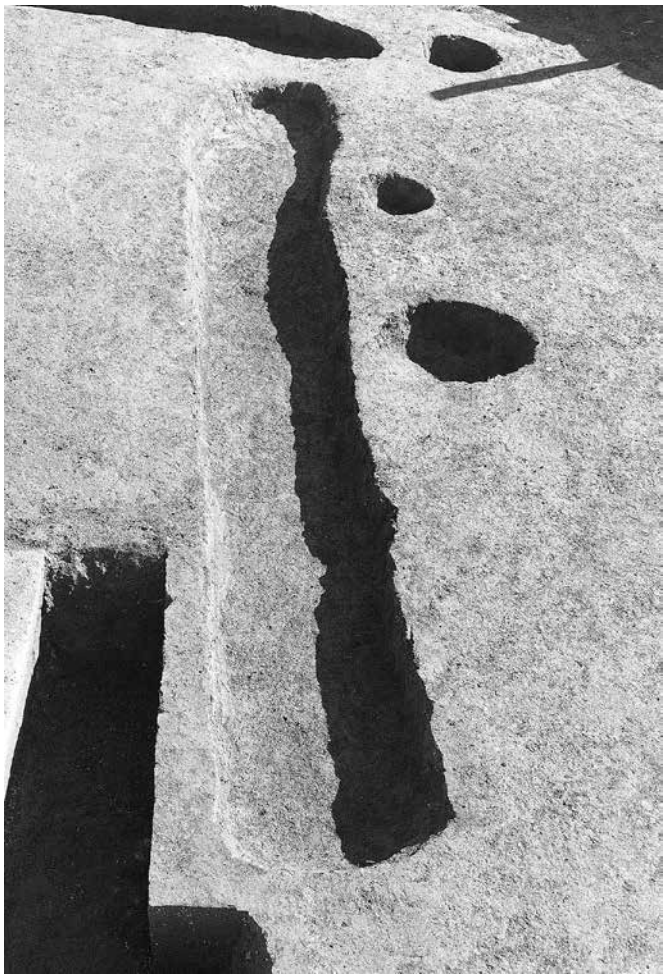
3　12・17号溝（南東から）

5　14・15号溝（北西から）

4　13号溝（南西から）

6　18号溝（北から）

7　29号溝土層断面（北から）



1　30号溝（北から）

2　31号溝（東から）

3　32 ～ 35号溝（南西から）

1　37号溝土層断面(南西から)

2　38号溝土層断面(南西から)

3　40号溝土層断面(北から)

4　42号溝(南西から)

5　47号溝土層断面(北から)

6　48号溝土層断面(北西から)

7　49号溝(東から)

8　52号溝土層断面(北から)

1　50号溝（南から）

2　54号溝土層断面（西から）

3　1号畠（西から）

4　1号畠土層断面（西から）

5　1号遺物集中（北から）

6　2号遺物集中（北から）

7　2号遺物集中遺物出土状況（北から）

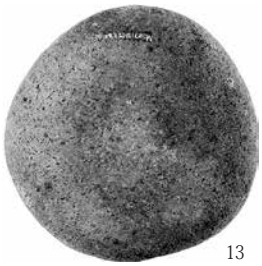
PL.46

3号竪穴建物

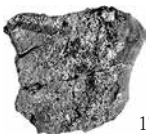
3

6

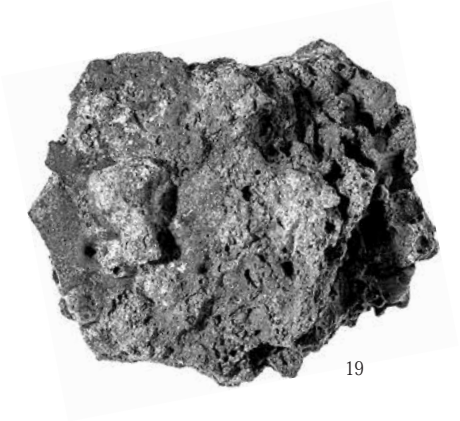
9


13

15


17

18


19

14

16

4号竪穴建物

1

2

4

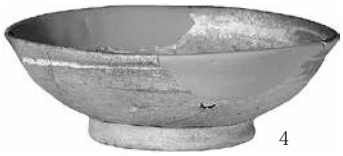
7

5

6

8

6号竪穴建物


4

5

7

10

11

8号竪穴建物

1

3

23号竪穴建物

3

12

32号竪穴建物

1

2

3

6

7

11

33号竪穴建物

1

2

38号竪穴建物

1

4

5

45号竪穴建物

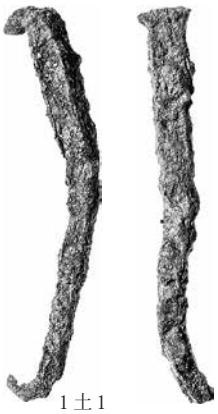
1

2

3

4

12

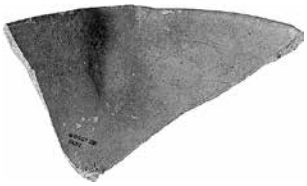

1土1

1土2

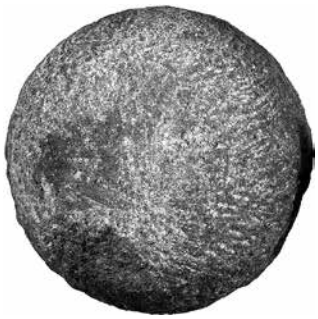
19土2

19土3

19土4



33土2



33土3

1土3

33土4

50土1

1号墓壙

1

2

3

4

5

7

8

9

3号墓壙

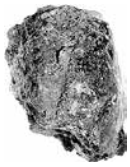
1

2

4号墓壙

1

2溝5



2溝6

27溝1

19溝1

19溝2

19溝3

1溝5

1溝6

8溝1

19溝5

19溝6

21溝1

21溝3

21溝7

21溝8

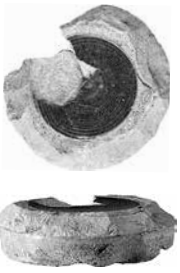
21溝9

21溝10

遺構外4

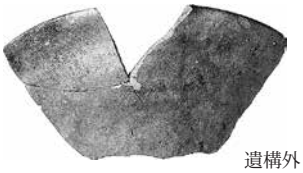
遺構外8

遺構外9



遺構外10

遺構外11



遺構外12

遺構外14

遺構外 15

遺構外 16

遺構外18

遺構外17

遺構外19

9号竪穴建物

1

2

3

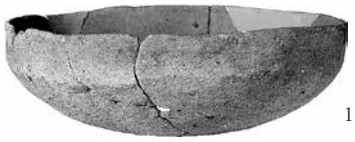
10

11

17

18

10号竪穴建物


1

3

4

8

7

11号竪穴建物

2

12号竪穴建物

1

6

14号竪穴建物

1

2

3

4

7

5

15号竪穴建物

1

3

8

4

5

10

9

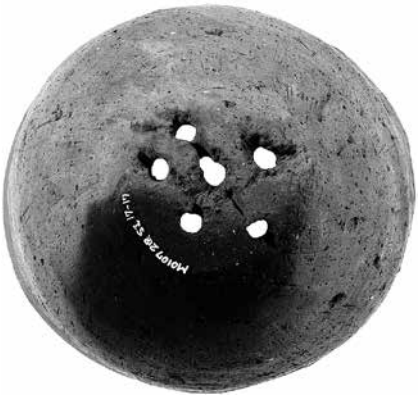
3

16号竪穴建物

1

5

9

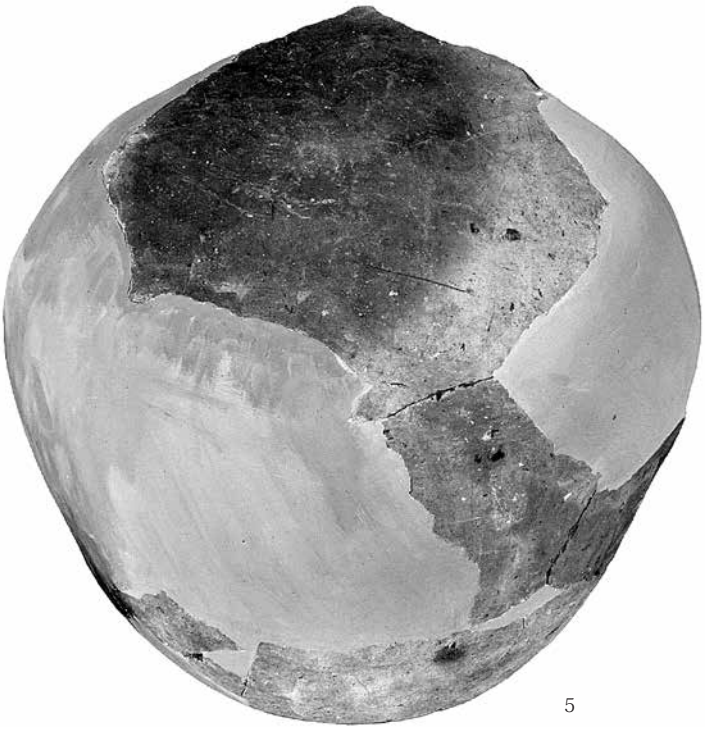


17号竪穴建物

1

2

4


5

6

7

8

18号竪穴建物

1

3

6

5

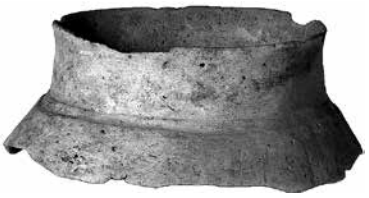
PL.54

20号竪穴建物

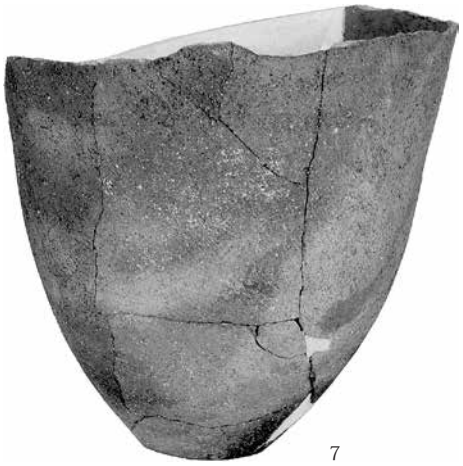
1

2

4


5

6


7

9

21号竪穴建物

1

6

16

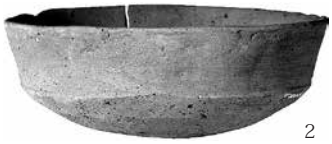
22号竪穴建物

1

2

26号竪穴建物

1


2

6

5

27号竪穴建物

3

4

4

28号竪穴建物

2

5

34号竪穴建物

1

2

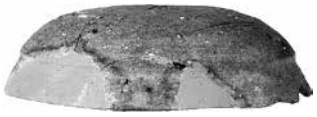
3

35号竪穴建物

1

2

3


6

11

12

37号竪穴建物

3

2

7

5

PL.56

46号竪穴建物

6

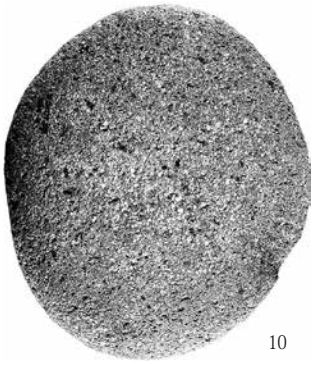
1

2

3

4

6


10

11

47号竪穴建物

1

8

6

14

11

19

48号竪穴建物

2

3

4

9

10

12

13

14

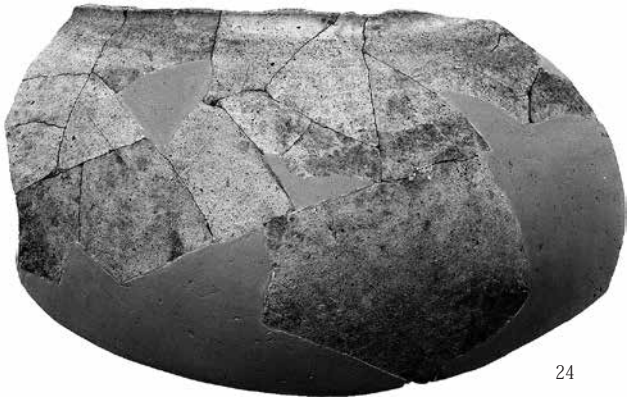
17

18

16

19

21


24

23

22

49号竪穴建物

1

2

50号竪穴建物

4

5

51号竪穴建物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

16

17

18

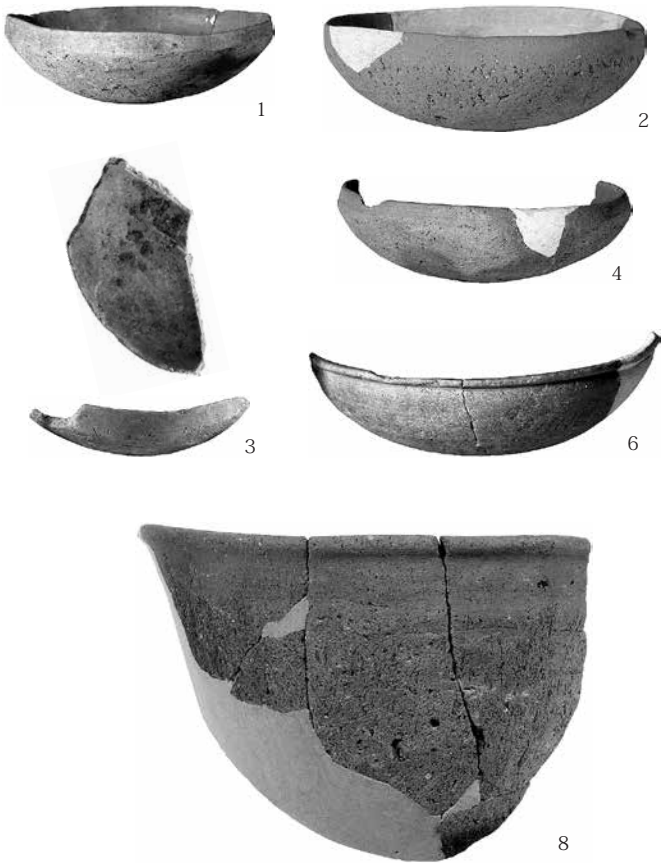
19

20

21

31

52号竪穴建物



53号竪穴建物

PL.60

55号竪穴建物

1

3

40ピ 1

59号竪穴建物

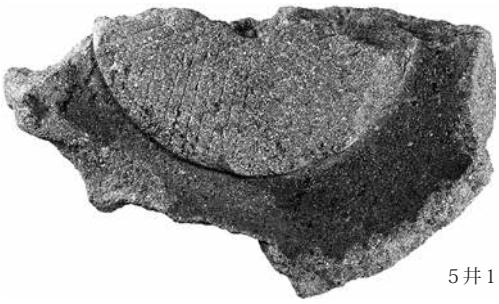
6

7

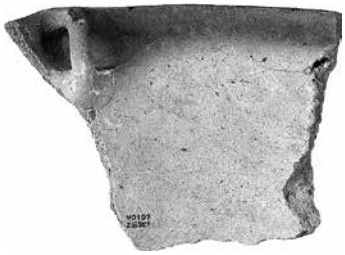
62土 1

62土 2

208ピ 1



5井 1



7井 1

8井 1

8井 3

11溝６

11溝７

11溝９

8

２号集石

1

2

3

遺物集中

1

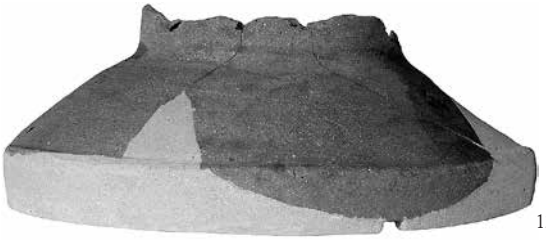
2

3

4

7

10



12

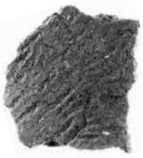
PL.62

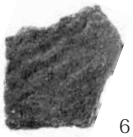
1

2

3

4


5


6

7

8

9

10

11

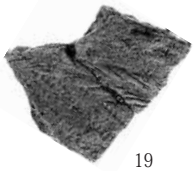
12

13

14

15

18


19

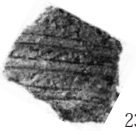
16

17

20

21

22


23

24

25

26

27

28

29

30

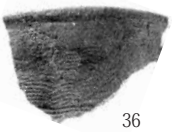
31

32

33

34

35


36

37

38

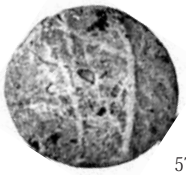
39

41

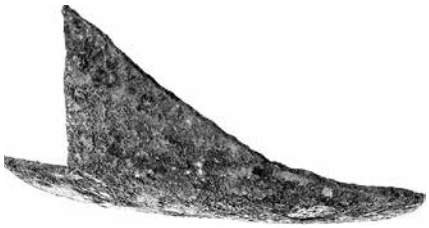
47

55

56


57

58


59

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第680集

前橋市0107遺跡

(一)南新井前橋線2期工区道路改築事業(地方道・連携)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年2月26日　印刷
令和3(2021)年3月19日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／松本印刷工業株式会社